

1 全学共通科目（教養科目）

人文科学	哲学（哲学Ⅰ）	1
	論理学	2
	宗教学	3
	心理学概論（心理学）	4
	日本近現代史	5
	アート論	6
	文学	7
	哲学の人間学	8
社会科学	社会学A	9
	社会学B	10
	法学	11
	憲法	12
	政治学（政治学Ⅰ）	13
	経済学（経済学A）	14
社会思想史	15	
自然科学	科学史	16
	生物学	17
	化学	18
	物理学	19
	統計学	20
	情報科学	21
	環境科学（環境科学A）	22
数学概論	23	
総合科目	人権論	24
	ジェンダー論（女性学）	25
	人間関係の科学	26
	現代社会と嗜癖	27
	性教育学	28
	ケアリング・サイエンス	29
	グローバル社会論	30
	入門・数字で見る日本社会	31
ライフキャリア論	32	

※入学年によって、（斜体）の科目に読替になります。

2 全学共通科目（基礎科目）

必須外国語	英語Ⅰ－（１）	33、34
	英語Ⅰ－（２）	35、36
	英語Ⅱ－（１）	37
	英語Ⅱ－（２）	38
	英語Ⅲ－（１）	39
	英語Ⅲ－（２）	40
	リーディングⅠ	41
	リーディングⅡ	42
	ライティング	43
	オーラルコミュニケーションⅠ	44
オーラルコミュニケーションⅡ	45	
オーラルコミュニケーションⅢ	46	
選択外国語	英語Ⅳ－（１）	47
	英語Ⅳ－（２）	48
	リーディングⅢ	49
	コリア語Ⅰ－（１）	50
	コリア語Ⅰ－（２）	51
	コリア語Ⅱ－（１）	52
	コリア語Ⅱ－（２）	53
	コリア語Ⅲ－（１）	54
	コリア語Ⅲ－（２）	55
	中国語Ⅰ－（１）	56
	中国語Ⅰ－（２）	57
	中国語Ⅱ－（１）	58
	中国語Ⅱ－（２）	59
	中国語Ⅲ－（１）	60
	中国語Ⅲ－（２）	61
	仏語Ⅰ－（１）	62
	仏語Ⅰ－（２）	63
	仏語Ⅱ－（１）	64
	仏語Ⅱ－（２）	65
	独語Ⅰ－（１）	66
独語Ⅰ－（２）	67	
独語Ⅱ－（１）	68	
独語Ⅱ－（２）	69	
海外語学実習事前指導	70	
海外語学実習	71	
Introduction to studying in English	72	
情報処理	情報処理の基礎と演習	73
	情報処理応用演習	74
	情報処理演習Ⅰ	75
	情報処理演習Ⅱ	76
健康科学	保健理論	77
	健康スポーツ論	78
	健康科学実習Ⅰ	79
	健康科学実習Ⅱ	80
基礎セミ	教養演習	81

発展 ゼミ	社会人基礎力演習……………	82
	Advanced English Achievement……………	83

3 全学横断型科目 (両学部で学ぶ専門的連携科目)

◇	不登校・ひきこもり援助論……………	84
	子供学習支援論……………	85
	プレ・インターンシップ……………	86
	専門職連携入門……………	87
	データベース論……………	88
	情報ネットワーク論……………	89
	問題解決演習……………	90
日本語ライティング……………	91	

4 公共社会学科 (専門教育科目)

公共社会学基礎論	社会学概論……………	92
	社会学史Ⅰ……………	93
	社会学史Ⅱ……………	94
	公共性の社会学……………	95
	社会政策論……………	96
	公共経済学……………	97
	現代社会論A (ジェンダー・世代)……………	98
	現代社会論B (情報社会論)……………	99
	現代社会論C (情報社会と法)……………	100
	家族社会学A (家族社会学Ⅰ)……………	101
	家族社会学B (家族社会学Ⅱ)……………	102
	福祉社会学……………	103
	社会病理学……………	104
	集団行動論……………	105
	仕事の経済学 (労働経済論A)……………	106
	暮らしの経済学 (労働経済論B)……………	107
	CSR (企業の社会的責任)論……………	108
社会心理学……………	109	
人格心理学……………	110	

社会調査・ 情報処理	社会調査法……………	111
	社会調査の設計……………	112
	データ分析の基礎……………	113
	社会統計学Ⅰ……………	114
	社会統計学Ⅱ……………	115
	質的調査法……………	116
	データ処理とデータ解析Ⅰ……………	117
	データ処理とデータ解析Ⅱ……………	118
	社会調査実習Ⅰ (社会調査実習)……………	119
	社会調査実習Ⅱ (社会調査実習)……………	120
	情報数学……………	121
	プログラミング概論……………	122

地域社会 ネットワーク	地域社会学A (地域社会学Ⅰ)……………	123
	地域社会学B (地域社会学Ⅱ)……………	124
	コミュニティ論……………	125
	都市社会学……………	126
	地域社会学特講……………	127
	地域社会分析法A……………	128
	地域社会分析法B……………	129
	地域社会分析法C……………	130
	地理学……………	131
	地理学概論……………	132
	地方自治論……………	133
	地域保健論……………	134
	地域計画論……………	135

アジア 国際共生	国際社会学A (国際社会学Ⅰ)……………	136
	国際社会学B (国際社会学Ⅱ)……………	137
	国際政治学……………	138
	多文化社会論……………	139
	世界地理……………	140
	東アジア関係史……………	141
	韓国の社会と文化……………	142
	中国の社会と文化……………	143
	イスラム社会論……………	144
	国際教育文化交流論……………	145
	NPO論……………	146
国際協力論……………	147	
アジア経済論……………	148	

関連科目	哲学要論……………	149
	倫理学……………	150
	日本史概論……………	151
	西洋史概論……………	152
	法律学概論Ⅰ……………	153
	法律学概論Ⅱ……………	154
	教育社会学……………	155
	社会福祉学概論Ⅰ……………	174
	地域福祉論Ⅰ……………	179
	地域福祉論Ⅱ……………	180
	教育学概論B……………	275
	生涯教育論……………	276
	社会教育論……………	372
	対人心理学……………	346
	Webデザイン演習……………	156
	情報ネットワーク論……………	89
	データベース論……………	88
	プログラミング演習……………	157
情報検索システム論……………	158	
問題解決演習……………	90	
人的資源管理論……………	159	

◆	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ……………	160~171
	卒業論文……………	172

入学年によって、(斜体)の科目に読替になります。

5 社会福祉学科（専門教育科目）

基幹科目群	社会福祉学概論Ⅰ	173
	社会福祉学概論Ⅱ	174
	社会保障論Ⅰ	175
	社会保障論Ⅱ	176
	社会福祉の歴史と思想	177
	福祉行財政と福祉計画	178
	地域福祉論Ⅰ	179
	地域福祉論Ⅱ	180
	相談援助の基盤と専門職Ⅰ	181
	相談援助の基盤と専門職Ⅱ	182
	相談援助の理論と方法A	183
	相談援助の理論と方法B	184
	相談援助の理論と方法C	185
	相談援助の理論と方法D	186
	社会福祉学演習 ※1	187～198
	社会福祉学演習 ※2	199～207
	卒業論文 ※1	208～219
卒業論文 ※2	220～227	

社会福祉専門科目群	老人福祉論	228
	介護福祉論	229
	障害者福祉論	230
	児童福祉論	231
	家族福祉論	232
	公的扶助論	233
	社会福祉調査法	234
	相談援助演習A	235、236
	相談援助演習B	237
	相談援助演習C	238
	相談援助実習指導Ⅰ	239
	相談援助実習指導Ⅱ	240
	相談援助実習指導（平成27年度以前入学）	241
	相談援助実習	242
	福祉経営論	243
	保健医療論	244
	就労支援	245
	権利擁護と成年後見制度	246
	更生保護	247
	医療ソーシャルワーク論（社会福祉特講C）	248
福祉住環境論	249	
介護技術演習	250	
医学概論	251	

精神保健福祉専門科目群	精神保健福祉論Ⅰ	252
	精神保健福祉論Ⅱ	253
	精神保健福祉論Ⅲ	254
	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）	255
	精神保健福祉援助技術各論Ⅰ	256
	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ	257
	精神科リハビリテーション学Ⅰ	258
	精神科リハビリテーション学Ⅱ	259
	精神保健福祉演習	260

精神保健福祉専門科目群	精神保健福祉援助演習 ※1	261
	精神保健福祉援助演習 ※2	262
	精神保健福祉援助実習指導	263、264
	精神保健福祉援助実習	265
	精神保健学Ⅰ	266
	精神保健学Ⅱ	267
	精神医学Ⅰ	362
	精神医学Ⅱ	363

学校ソーシャルワーク専門科目群	学校ソーシャルワーク論	268
	学校ソーシャルワーク演習 ※1	269
	学校ソーシャルワーク演習 ※2	270
	学校ソーシャルワーク実習指導 ※1	271
	学校ソーシャルワーク実習指導 ※2	272
	学校ソーシャルワーク実習	273
	発達心理学Ⅰ-A	278
	教育学概論B	275
	教育社会学	155
	教育制度論	287
教育相談	285	
生徒指導論	416	

関連科目群	倫理学	150
	地方自治論	133
	仕事の経済学（労働経済論A）	106
	暮らしの経済学（労働経済論B）	107
	現代社会論A（ジェンダー・世代）	98
	現代社会論B（情報社会論）	99
	福祉社会学	103
	地域社会学A（地域社会学Ⅰ）	123
	地域社会学B（地域社会学Ⅱ）	124
	コミュニティ論	125
	NPO論	146
	発達心理学Ⅱ	280
	老年心理学	350
	老年期医学	361
	社会病理学	104
	社会心理学	109
	データ処理とデータ解析Ⅰ	117
	データ処理とデータ解析Ⅱ	118
	家族社会学A（家族社会学Ⅰ）	101
	家族社会学B（家族社会学Ⅱ）	102
	生涯教育論	276
	社会教育論	372
	人格心理学	110
	対人心理学	346
	情報数学	121
	Webデザイン演習	156
	プログラミング概論	122
データベース論	88	
情報ネットワーク論	89	
プログラミング演習	157	
情報検索システム論	158	
問題解決演習	90	
人的資源管理論	159	

※1 平成28年度以降入学生対象

※2 平成27年度以前入学生対象

※3 入学年によって、（斜体）の科目に読替になります。

6 人間形成学科（専門教育科目）

基幹科目	教育学概論A	274
	教育学概論B	275
	生涯教育論	276
	教育史	277
	発達心理学Ⅰ-A	278
	発達心理学Ⅰ-B	279
	発達心理学Ⅱ	280
	教育心理学概論（教育・学校心理学）	281
	幼児教育心理学	282
	臨床心理学	283
	子どもの保健	284
	教育相談	285
	教育相談（幼児教育）	286

展開科目 JAMコース	教育制度論	287
	保育学	288
	保育課程論	289
	保育方法論	290
	保育者論	291
	保育内容総論	292
	保育内容演習	293
	子どもの食と栄養	294、295
	子どもの保健Ⅱ	296
	保育内容・健康Ⅰ	297
	保育内容・健康Ⅱ	298
	保育内容・人間関係Ⅰ	299
	保育内容・人間関係Ⅱ	300
	保育内容・環境Ⅰ	301
	保育内容・環境Ⅱ	302
	保育内容・言葉Ⅰ	303
	保育内容・言葉Ⅱ	304
	保育内容・表現Ⅰ	305
	保育内容・表現Ⅱ	306
	乳児保育	307
	障害児保育	308
	幼児理解の理論と方法	309
	保育相談支援	310
	音楽Ⅰ	311
	音楽Ⅱ	312
	造形Ⅰ	313
	造形Ⅱ	314
	造形Ⅱ（平成30年度以前入学）	315
	体育Ⅰ	316
	体育Ⅱ	317
	児童文学	318
	子どもと遊び	319
	家庭支援論	320
	社会的養護	321
	社会的養護内容Ⅰ	322
	社会的養護内容Ⅱ	323
	社会福祉Ⅰ	324
	社会福祉Ⅱ	325
	相談援助	326
	児童家庭福祉	327
	音楽理論とソルフェージュ	328
	保育・教職実践演習（幼稚園）	329
	幼稚園教育実習事前事後指導	330

展開科目 JAMコース	幼稚園教育実習Ⅰ	331
	幼稚園教育実習Ⅱ	332
	保育実習指導Ⅰ	333
	保育実習Ⅰ	334
	保育実習指導Ⅱ-A	335
	保育実習Ⅱ-A	336
	保育実習指導Ⅱ-B	337
	保育実習Ⅱ-B	338

展開科目 心理コース	学習心理学及び言語の習得 （学習・言語心理学）	339
	心身科学	340
	比較心理学	341
	生理心理学及び神経心理学 （神経・生理心理学）	342
	加齢基礎論	343
	知覚心理学	344
	認知心理学	345
	対人心理学	346
	社会心理学（社会・集団・家族心理学）	347
	集団心理学	348
	司法・犯罪心理学	349
	老年心理学	350
	家族心理学	351
	感情・人格心理学	352
	障害者・障害児心理学	353
	健康・医療心理学	354
	心理学的支援法	355
	心理面接演習	356
	心理アセスメント	357
	精神保健学	358
	福祉心理学	359
	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）	360
	老年期医学	361
	精神医学Ⅰ	362
	精神医学Ⅱ	363
	心理学実験Ⅰ（心理学実験演習Ⅰ、実験測定法Ⅰ）	364
	心理学実験Ⅱ（心理学実験演習Ⅱ、実験測定法Ⅱ）	365
	心理学研究法	366
	心理学統計法	367
	心理実習Ⅰ	368
	公認心理師の職責	369
	保健医療福祉行政論Ⅰ（関係行政論）	370
	人的資源管理論（関係行政論）	371
社会統計学Ⅰ	114	
データ処理とデータ解析Ⅰ	117	
データ処理とデータ解析Ⅱ	118	

関連科目

社会教育論	372
国際教育文化交流論	145
社会教育特講A	373
社会教育特講B	374
社会教育特講C	375
社会教育特講D	376
社会教育特講E	377
キャリア教育論	378
情報数学	121
Webデザイン演習	156
プログラミング概論	122
情報ネットワーク論	89
データベース論	88
プログラミング演習	157
情報検索システム論	158
問題解決演習	90

演習	379～394
卒業論文	395～410
卒業論文（平成27年度以前入学）	411

7 教職独自の専門教育科目

※教科及び教職に関する科目並びに養護及び教職に関する科目のうち、全学科専門教育科目分以外のみ記載している。各種教育職員免許状取得に必要な科目は便覧で確認すること。

教育学概論B	275
教育と社会・地域	412
発達心理学I-A	278
教育内容論	413
道徳教育	414
教育方法論	415
生徒指導論（人間社会学部）	416
生徒指導論（看護学部）	417
教育相談	285
教師論（人間社会学部）	418
教育課程論	419
社会科教育法I	420
社会科教育法II	421
公民教育法I	422
公民教育法II	423
教育心理学概論	424
中学校教育実習事前事後指導	425
中学校教育実習	426
高校教育実習事前事後指導	427
高校教育実習	429
教職実践演習（中高）	428

8 外国人留学生特別科目

日本語中級A	430
日本語中級B	431
日本語上級A	432
日本語上級B	433
日本語会話A	434
日本語会話B	435
日本事情A	436
日本事情B	437
日本語表現論I	438
日本語表現論II	439
Japanese Language	440

授業科目名	哲学（哲学Ⅰ）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	神谷英二		後期	講義	選択	2	1年	
授業の概要	<p>価値観の多様化する現代社会においては、人々は日々さまざまな価値観や利害の衝突に出会い、これらをルールに基づいて調整しなければならない。社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目として、この授業では、自由主義、パターナリズム、功利主義、義務論、共同体主義などの社会哲学的・倫理的理論を具体的な事例にもとづいて学ぶ。それによって、現代社会を動かしている規範やルールについての理解を深め、現代社会で発生する問題について学生が自ら考え、常識や先例を相対化し、自分自身の意見をつくりあげる能力を養成することをめざす。</p>							
学生の到達目標								
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	現代社会における規範の基礎的内容を理解したうえで、各自の判断に活用できる。						
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	現代社会における課題について自ら考え、常識や先例を相対化し、自分自身の意見をつくりあげる能力を身につける。						
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)								
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)					
1	ガイダンス	授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文	「哲学講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「哲学講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。(以下、15回まで同様。)					
2	自由主義と自己決定(1) 事例研究	「哲学講義資料」による講義						
3	自由主義と自己決定(2) 自由の理論	「哲学講義資料」による講義 小レポート(第1回)						
4	自由主義と自己決定(3) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義						
5	パターナリズム(1) 理論と事例研究	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						
6	パターナリズム(2) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義 小レポート(第2回)						
7	功利主義(1) 理論と事例研究	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						
8	功利主義(2) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義 小レポート(第3回)						
9	義務論(1) 理論と事例研究	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						学期末レポートの作成を開始すること。
10	義務論(2) 問題点と批判	「哲学講義資料」による講義						
11	共同体主義、寛容、共生社会	「哲学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究						
12	新しい公共とボランティアの思想	「哲学講義資料」による講義 小レポート(第4回)						
13	ソーシャルビジネスの可能性	「哲学講義資料」による講義						
14	ソーシャルデザイン／コミュニティデザイン	「哲学講義資料」による講義 小レポート(第5回)						
15	復習とまとめ	学習内容全体についての復習						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
授業内小レポート			◎	◎		30		
授業態度・授業への参加度			○	○		20		
学期末レポート			◎	◎		50		
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等	参考文献：加藤尚武『現代倫理学入門』講談社学術文庫、1997年							
履修条件	なし。							
学習相談・助言体制	・疑問があればすぐに質問すること。 ・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に回答する。					授業中の撮影		

授業科目名	論 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次				
			前期	講義	選択	2	2年				
担当教員	神谷英二										
授業の概要	<p>現代社会においては、論理的な理解能力・思考能力・表現能力が重要な職業上のスキルとして強く求められている。この授業ではこれらの論理的基礎能力を養うために、論理思考と日本語表現の論理トレーニングを行う。</p> <p>これらの学習により、現代社会における専門職業人に求められる、論理的スキルの基礎を習得することをめざす。</p>										
学生の到達目標											
思考・判断・表現	DP4:表現力	専門職業人に日常業務のなかで求められる、論理的に表現するスキルの基礎を習得する。									
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)											
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)							
1	ガイダンス	授業プランの説明 例題を使ったトレーニング		「論理学オリジナルテキスト」により授業内容を復習すること。欠席した場合は、必ずその回のトレーニングを各自行うこと。							
2	論理思考と日本語の論理	毎回、授業時に配付する「論理学オリジナルテキスト」にしたがい、重要事項の解説をした後、すぐに授業中に実践的トレーニングを行う。						小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。			
3	接続の論理(1)										
4	接続の論理(2)										
5	議論の組み立て	解説とトレーニング 小テスト(第1回)									
6	演繹と推測	解説とトレーニング									
7	質問力	解説とトレーニング									
8	クリティカルシンキング	解説とトレーニング		小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。							
9	MECE(1)	解説とトレーニング									
10	MECE(2)	小テスト(第2回)									
11	So What? /Why So?(1)	解説とトレーニング									
12	So What? /Why So?(2)	解説とトレーニング		小テストへ向けて、これまでの学習内容を復習すること。							
13	ロジックツリー(1)	解説とトレーニング 小テスト(第3回)		これまでの学習内容を復習し、疑問があれば必ず質問すること。							
14	ロジックツリー(2)	解説とトレーニング									
15	復習とまとめ	学習内容全体についての復習									
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)											
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)					
成績評価方法											
授業内小テスト			◎			25					
授業態度・授業への参加度			◎			25					
学習成果確認テスト			◎			50					
実務経験を生かした授業											
テキスト・参考文献等	テキストなし。授業時にオリジナルの教材を配付する。										
履修条件	なし。										
学習相談・助言体制						授業中の撮影					

授業科目名	宗 教 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	田 中 哲 也		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	<p>宗教(的思考・現象)という視点から、わたしたち自身の思考法や日常生活から世界の出来事に与えているその影響を理解することを通して、社会人・職業人として求められる人間や社会についての理解の視点や知識を身につけることを目的とします。</p> <p>世界の大多数の人々は特定の宗教を信じ、その教えを生きる上での規範として行動しています。それらの国々では無信仰者とは「守るべき道徳をもたない人間」と理解されます。宗教に関しては「日本の常識は世界の非常識」なのです。</p> <p>しかし、本当に日本人の多くは宗教(的思考・現象)とは無縁なのでしょうか。授業では、まず、宗教的思考や現象とは何かを整理・理解することを通して、血液型性格判断から死生観にいたるまで、私たち自身の思考法や行動について考えます。その上で、仏教やキリスト教、イスラーム教などの宗教が人々の思考法・行動に与えている影響、そしてメディアの報道ではわからない、それらが世界の出来事に与えている影響について明らかにします。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	科学的合理性だけでは説明できない宗教的価値観について理解する。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	社会における価値観の問題について理解する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	「宗教学」とはなにか	毎回、パワーポイントを使用して講義を行います。授業ごとにレジュメを資料として配付します。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。第8回目にそれまでの要約と中間テストを行う。	適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行っておく。				
2	「宗教」とはなにか						
3	「宗教」についての3つの考え方						
4	呪術・宗教・科学						
5	集合表象としての宗教						
6	価値の源泉としての宗教(死生観)						
7	「信」の構造:人はなぜ信じ続けるか						
8	中間要約・確認	第1～7回講義の要約					
9	世俗化論(1)さまざまな世俗化の理解	毎回、パワーポイントを使用して講義を行います。レジュメを資料として配付します。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。	適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行っておく。				
10	世俗化論(2)世界は世俗化したのか						
11	日本宗教事情 I						
12	日本宗教事情 II						
13	世界宗教事情:キリスト教世界						
14	世界宗教事情:イスラーム教世界						
15	授業全体のまとめと確認						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				40	
宿題・授業外レポート			○	○			
授業態度・授業への参加度				◎		60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業ごとに資料を配付する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	コメント・質問用紙、オフィスアワー、メールでの質問に回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	心理学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	上野行良						
授業の概要	福祉社会を支える人材として必要な人の心についての知識を身につけるための科目です。この授業では心理学の基礎的な知識を「心理的支援」を中心軸として授業を行います。講義と課題を通して、人を心理学的に理解し、支援するために必要な心理学的知識を身につけてください。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	人間の心理を理解するために必要な知識をもっている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	心理学とは何か	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
2	心と体1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
3	心と体2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
4	心と脳1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
5	心と脳2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
6	認知の誤り	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
7	復習	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
8	欲求と感情1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
9	欲求と感情2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
10	欲求と感情3	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
11	記憶	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
12	自己形成	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
13	受容1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
14	受容2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
15	復習	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
提出課題		◎				100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	日本近現代史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	有谷 三樹彦		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	戦後70年を経た現在においても、従軍慰安婦問題、空襲被災者による訴訟、靖国問題など、先の戦争についての諸問題が噴出し、またアジアの人々からの日本の戦争責任・戦後責任を問う声も鳴り止みません。果たして戦後の日本人は戦争について深く考え議論し総括する努力をしてきたといえるのでしょうか。あらためて日本人の歴史認識と日本の戦争責任・戦後責任が問われているといえます。本講義では、日本戦後史を歴史認識と戦争責任・戦後責任の観点から捉えなおすことにより、戦後の経済発展の影にかくれて忘れ去られていった過去を検証します。この科目は、社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目です。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	日本近現代史の学習を通じて、知的好奇心や学問的探求姿勢を身につける。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	日本と国際社会との関わり、歴史認識と戦争責任・戦後責任の問題について、ある程度理解し説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	講義内容の様々なテーマについて考え、的確に講義内容を要約し自己の意見を文章化することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)	
1	ガイダンス	歴史認識とは何か	講義内容について説明する。受講生は授業終了時に講義内容説明文を書く。	同	同	下記の参考文献等を使って、人物や事件など基礎的な事項を調べておく。	
2	歴史認識	どのように形成されるのか	同	同	同	同	
3	戦争責任	戦後責任とは何か	同	同	同	同	
4	大東亜戦争	肯定論	同	同	同	同	
5	十五年戦争	とファシズム	同	同	同	同	
6	植民地	支配	同	同	同	同	
7	太平洋戦争	史観	同	同	同	同	
8	東京裁判		同	同	同	同	
9	昭和天皇		同	同	同	同	
10	東京裁判	の問題点	同	同	同	同	
11	補償	問題	同	同	同	同	
12	日韓	関係	同	同	同	同	
13	靖国	問題	同	同	同	同	
14	特攻	隊	同	同	同	同	
15	日本人の	歴史認識と戦争責任・戦後責任	同	同	同	同	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	◎			90	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
講義内容説明文		○	◎			プラス評価	
補足事項	無断遅刻・無断欠席が多い学生にはレポートの課題が追加されます。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献：大沼保昭『「歴史認識」とは何か』中公新書、2015年。東郷和彦・波多野澄雄編『歴史問題ハンドブック』岩波現代全書、2015年。荒井信一『戦争責任論』岩波現代文庫、2005年。吉田裕『日本人の戦争観』岩波現代文庫、2005年。波多野澄雄『国家と歴史』中公新書、2011年。栗原俊雄『戦後補償裁判 民間人たちの終らない「戦争」』NHK出版新書、2016年。日暮吉延『東京裁判』講談社現代新書、2008年。若宮啓文『戦後70年保守のアジア観』朝日選書、2014年。林房雄『大東亜戦争肯定論』中公文庫、2014年。山崎雅弘『日本会議 戦前帰国への情念』集英社新書、2016年。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前の時間であれば非常勤講師室に居ますので、喜んで学生の質問相談に応じます。					授業中の撮影	

授業科目名	ア ー ト 論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	鮎 川 真由美		前期集中	講義	選択	2
授業の概要	<p>「何が身体を動かすのか？」という問いを、アート・美学の領域で考察します。授業は、欧州を中心とした多様な写真・映像・音楽（作品であるものもそうでないものも）を視聴しながら行います。そして西洋芸術史（あるいは美学史）のなかで、とくに身体表現や身心問題に焦点をあてて作品・理論を検討し、最終的には、生きる身体の可能性を、現代のアートから広く生活実践のなかに見いだしてゆきます。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	人間を自然的かつ文化的存在として捉える教養・知識を、社会生活において活用することができる。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	アートを広く身体文化のなかで捉えることで、人間の身体の幅広い可能性を認識し、実践できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	アートの領域における身体（ひいては人間の生の）表現とその論理性を、アクチュアルな社会生活や健康問題、看護実践のなかで活用することができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)			
1	イントロダクション (1) : 自然か、人為か?-身体における-						
2	イントロダクション (2) : 身体とアート (技術)						
3	イントロダクション (3) : 美と身体 -ルネサンスまでの-						
4	身体と舞踊						
5	身体と衣装						
6	身体と絵画						
7	身体と機械						
8	身体と建築						
9	芸術と貨幣						
10	身体と音楽						
11	身体と写真						
12	身体と記憶						
13	身体と映像						
14	身体と旅行						
15	まとめ -生きる術としてのアート-						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	◎			50	
授業態度・授業への参加度		○	◎			50	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しませんが、講義補足資料や文献リストを適宜配布します。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受け付け、授業時間のなかで回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	文 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	村上 義明						
授業の概要	日本古典文学の講義である。その中でも、おもに江戸時代の文献を扱う。諸作品を読み、その内容と文化的な事柄を理解するとともに、くずし字・和本・書肆に関する知識の習得を目指す。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	日本古典文学と、その受容について説明できる。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	本と文化をとりまく事柄について説明できる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	研究に関する資料を収集・考察し、結論を出す過程を理解する。					
	DP4:表現力	テキストを読み、自身の考えを表現することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	導入 日本古典文学作品と江戸時代		講義		指定するテキストを読んでおくこと(以下同)。		
2	日本古典文学作品の江戸時代における受容①		講義				
3	日本古典文学作品の江戸時代における受容②		講義				
4	出版文化と書肆①		講義				
5	出版文化と書肆②		講義				
6	くずし字で読む日本古典文学①		講義				
7	くずし字で読む日本古典文学②		講義				
8	江戸時代の文学作品を読む①		講義				
9	江戸時代の文学作品を読む②		講義				
10	`雑書`の世界①		講義				
11	`雑書`の世界②		講義				
12	日本文学研究① 注釈書の研究		講義				
13	日本文学研究② 伝記研究		講義				
14	日本文学研究③ 古典文学の受容史研究		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		◎	◎			70	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	配布資料を用いる。参考文献については適宜指示する。						
履 修 条 件	日本文化や日本古典文学に興味を持っていることが望ましい。						
学習相談・助言体制	各時間の授業終了後に受け付ける。毎回課すコメントカードに記入してもよい。					授業中 の撮影	

授業科目名	哲学的人間学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	樋渡 河・重松順二						
授業の概要	<p>「人間とは何か？」と改めて問われてみれば、誰もが答えに窮してしまう。本講義では、人間を主に、身体と人格の両面から取り上げる。身体は、自然および人工の環境に独自の仕方でもって適応しており、我われ自身よりも我われをよく知っている。また、保健福祉分野での人格の尊厳は切実な問題であり、人格への哲学的基礎論からのアプローチが重要な寄与をなす。本学での専門教育のための基礎科目として、現代社会において「人」にたずさわるための、哲学的基礎教養を学習する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	教養として、人間学、哲学、倫理学についての知識を幅広く身につけている。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	環境における人間の身体と社会における人格の尊厳についての知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	「人間とは何か」という問いを、自分の問題として哲学的に捉えて、他者に説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)	担当			
1	哲学的人間学への導入	「講義資料」による講義	参考文献②	樋渡			
2	こころとももの 人間のいない世界と人間しかいない世界	「講義資料」による講義	講義資料の復習	樋渡			
3	存在論 存在するものには存在仕方の違いがある	「講義資料」による講義	講義資料の復習	樋渡			
4	感覚の世界 音を味わい、色を聴く	「講義資料」による講義	参考文献①	樋渡			
5	身体と言葉 からだとことばが勝手に動く 小レポート	「講義資料」による講義	参考文献①	樋渡			
6	人間学 人間は働き、作り、活動し、遊ぶ	「講義資料」による講義	参考文献③	樋渡			
7	前半のまとめ	「講義資料」による講義		樋渡			
8	哲学的思考と科学的思考	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
9	理論哲学における「私」(1)・デカルトのコギト	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
10	理論哲学における「私」(2)・カントの理論哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
11	理論哲学における「私」(3)・カントの理論哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
12	実践哲学における「私」(1)・カントの実践哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
13	実践哲学における「私」(2)・カントの実践哲学	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
14	カントにおける人格とパーソン論における人格	「講義資料」による講義	講義資料の復習	重松			
15	全体のまとめ	授業全体の総括		重松			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎				
宿題・授業外レポート		◎	◎				
授業態度・授業への参加度		○	○				
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキストはとくに設けない。参考文献を挙げておく。①メルロ=ポンティ『知覚の現象学1・2』(みすず書房) ②カッシーラー『人間』(岩波文庫) ③アーレント『人間の条件』(ちくま学芸文庫)</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業後に受け付ける。「講義資料」にメールアドレスを記載し、メールでも受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	社会学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択 公共社会学 科は必修	2	1年
担当教員	三田知実						
授業の概要	<p>社会学とは、社会現象を客観的に把握する学術である。この授業では、以下の(1)～(4)の議論をもとにした授業である。(1)それがなぜ発生したのか(2)発生した社会現象は、どのような過程を経て進行したのか(3)発生した社会現象は逸脱的なものか。それとも創造的なものか。(4)逸脱的な社会現象を抑制すれば、社会はより良いものとなるのか。それとも創造的な社会現象を活かしながら、社会を成長させることができるのか。以上(1)～(4)の議論をもとに、テキストとの比較を行いながら、講義を展開してゆく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	社会への参与が、逸脱的行動や病的性格を防ぐという社会学的考えを、具体的に修得でき、教養を深めることができる。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	社会学の基礎知識を、主にグローバリゼーション、都市成長/地域再生や、消費文化の観点から修得することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	現代の社会現象における因果関係を判断し、なぜ社会的流行や、社会問題が起きたのかという問いに対する答えを論理的に思考し、具体的に表現できるスキルを修得できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	序論—社会学とはどのような学術か	講義(社会現象の因果関係)	資料を読んでください				
2	近代化とは何か	講義(近代化の議論)	レジュメ『第1講近代化の帰結』とテキスト「第I部 都市化とコミュニティの変容—都市はなにを生み出すか」を比較してみてください。とくに「近代化」「都市の成長」に注目してください。				
3	近代化は、何をもたらしたのか	講義(労働者と使用者の二極化を議論)					
4	近代化がもたらした逸脱・犯罪・病的性格	講義(失業に関する議論を通じて)					
5	近代化と社会分業—機械的の連帯から有機的の連帯	エミール・デュルケム『社会分業論』の議論					
6	近代化と自殺	エミール・デュルケム『自殺論』の議論					
7	ひとびとは、なぜ職業に就くのか	マックス・ウェバー『プロ倫』の紹介(1)					
8	近代化と官僚制	マックス・ウェバーの紹介(2)と議論					
9	近代化と支配の諸類型	マックス・ウェバーの紹介(3)と議論					
10	方法論的集団主義と方法論的個人主義	ウェバーとデュルケムの研究スタンス					
11	現代の社会変動—グローバリゼーション	通信技術革新と旅客交通網の拡大	レジュメ『第3講 グローバリゼーションが都市にもたらした帰結』・『第4章 衰退した都市再成長の要件』には、テキスト「第II部 都市の危機と再編」「第III部 時間と空間のなかの都市」と共通する箇所があるように思える。その部分を見つけ考えを深めましょう。				
12	グローバリゼーションが大都市に何をもたらしたのか	工場の海外移転・都心の空洞化					
13	衰退した都市の再成長—芸術・ファッション	シャロン・ズーキンのレビューを行う					
14	九州諸都市の衰退要因と再成長の要件は何か	鉱業の衰退/レジヤラント化は失敗?					
15	近代遺産・自然遺産・レジヤラントが都市の再成長を促すか。	荒尾万田坑・有明海・荒尾グリーント					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			80	
小テスト・授業内レポート		○	○			15	
授業態度・授業への参加度		○	○			5	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト 松本康編著『都市社会学入門』有斐閣、2,160円(税込) ISBN=13:978-4641-22015-7</p>						
履修条件	公共社会学科:必修/社会福祉学科:社会福祉士国家試験受験資格の指定科目。						
学習相談・助言体制	<p>(1)質問やご意見はお気軽にお問い合わせください。 (2)メールでのコメント類の提出を希望される方には、講義内で担当教員のメールアドレスをお知らせします。</p>						授業中の撮影

授業科目名	社会学B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択 公共社会学科は必修	2	1年
担当教員	三田知実						
授業の概要	前期に続いて、社会学の基礎知識を、身近な事例を交えながら、概要的に説明してゆき、理解を深めてゆく講義とする。おもに脱工業化、グローバリゼーションや格差問題について議論を行う。グローバリゼーションが賃金格差や紛争をなぜ起こすのか。こうした問いにたいする答えを見出し、考察を深め講義を展開してゆく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	社会学を学び、社会の最新動向を見定める力を養うことができる。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	現代社会の動向を見定めるだけでなく、それが、どの領域の社会学で、議論が展開されているのかについて、理解し、社会学の知識を深めることができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	日常生活の変化を徐々に体験することにより、大きな社会変動が起きていることを理解でき、論理的に思考し、表現できるようにする。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	後期の序論——事例と理論を結びつける	講義(身近な事例と概念を結ぶ)	資料を読んでください。				
2	現代の社会学(1)——高度経済成長期から現代社会まで	講義(社会学的議論/文献の紹介)	レジュメ『第1講 現代社会学——高度経済成長期から現在までの社会の変化を捉える』と、テキスト「第6章 都市圏の発展段階」を、予習・復習に使用してください。				
3	現代の社会学(2)——脱工業化による都市の空間再編	講義(ゾーキングの議論などを紹介)					
4	現代の社会学(3)——グローバリゼーション/国際化	講義(グローバル化と国際化の違い)					
5	現代の社会学(4)——グローバル化による都市空間再編	講義(グローバル都市を学習する)					
6	メガ・イベントによる空間再編(1) オリンピックと東京	講義(引き続きグローバル都市を学習する)					
7	メガ・イベントによる空間再編(2) —2025年万博と大阪	講義(メガ・イベントの研究を紹介)	レジュメ『第1講 メガ・イベントに関連する社会学研究——グローバル都市・都市レジームの観点から』と、テキスト「第12章 アジアの都市再編と市民」「第10章 都市再生と創造都市」を予習・復習に役立ててください。				
8	行政主導の巨大空間再編——天神ビッグバン	講義(メガ・イベントの研究を紹介)					
9	天神ビッグバンを促す高島市政と支持者・支持団体	講義(都市レジームを学習する)					
10	現代の社会学(5)——消費社会	講義(消費社会論を学習する)	レジュメ『第2講 消費社会とグローバリゼーション——身近なエリアから学ぶ』と、テキスト「第11章 文化生産とまちづくり」「第5章 都市と社会的ネットワーク」を予習・復習に役立ててください。				
11	現代の社会学(6)——消費文化	講義(消費文化を学習する)					
12	消費社会・消費文化を天神エリアから学ぶ	講義(天神エリアの消費社会論)					
13	グローバリゼーションと消費文化	講義(グローバル消費文化論)					
14	グローバリゼーションとクリエイティブ・クラス	講義(知識生産階級の議論を行う)					
15	グローバリゼーションがもたらす深刻な格差問題	講義(格差の社会学を学ぶ)	レジュメ『第3講 グローバリゼーションがもたらす新たな階級と社会問題』とテキスト「第7章 情報化・グローバル化と都市再編」を事前事後学習にご使用ください。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎		—	80	
小テスト・授業内レポート		○	○		—	15	
授業態度・授業への参加度		○	○		—	5	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	(1) 松本康編著『都市社会学入門』有斐閣。ISBN:13: 978-4641-22015-7 2,160円(税込) ※必ず購入してください。前期に購入された方は、引き続き学習に使用してください。						
履修条件	公共社会学科: 必修/社会福祉学科: 社会福祉士国家試験受験資格の指定科目。						
学習相談・助言体制	(1) 質問やご意見はお気軽にお問い合わせください。 (2) メールでのコメント類の提出を希望される方には、講義内で担当教員のメールアドレスをお知らせします。						授業中の撮影

授業科目名	法 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	森 脇 敦 史		前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>本講義では、民法や刑法、労働法、行政法、憲法、国際法といった様々な法分野の議論を検討し、その共通点と相違点を対比することで、社会生活に必要な法的知識を習得し、また社会問題を専門的に学ぶ基礎を形成することを目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	社会生活の基盤となっている法制度の内容とその意義を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	社会生活に内在する法的視点を自ら探索することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容			授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)	
1	ガイダンス……法律(学)が社会で果たす役割			講義		1章(6-17頁)	
2	契約法(1)……契約自由の原則、契約の成立と効果			講義		2章(18-26頁)	
3	契約法(2)……契約の取消、行為能力の制限			講義		2章(26-29頁)	
4	消費者保護……契約自由の原則の修正、クーリングオフ、取消権			講義		2章(29-30頁)5章(62-66頁)	
5	不法行為法(1)……不法行為の成立要件			講義		3章(32-41頁)	
6	不法行為法(2)……阻却事由、効果			講義		3章(41-45頁)	
7	労働法……労働契約、労働組合、多様な働き方			講義		5章(67-75頁)	
8	家族法(1)……婚姻			講義		4章(46-54頁)	
9	家族法(2)……親子、離婚			講義		4章(54-61頁)	
10	刑事法……刑罰の目的、罪刑法定主義、刑事手続			講義		6章(76-87頁)	
11	交通事故と法……故意犯と過失犯、危険運転			講義		7章(88-99頁)	
12	憲法……選挙権、統治機構			講義		8章(100-113頁)	
13	情報社会の法と行政……個人情報、プライバシー			講義		9章(114-125頁)	
14	国際社会の法(1)……条約、国際機関、国際環境法、国際私法			講義		10章(126-135頁)	
15	国際社会の法(2)……国籍、国際人権法			講義		11章(136-145頁)	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト:池田真朗編『プレステップ法学 第3版』弘文堂、2016年(改版された場合は最新版による)						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。					授業中の撮影	

授業科目名	憲 法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	森 脇 敦 史						
授業の概要	<p>憲法は、国家権力を制限する法であるのと同時に、国家権力を可能とする法でもある。本講義では、国民主権、基本的人権、平和主義といった憲法の基礎概念を、具体的な事案と照らし合わせて解説することで、社会問題をより深く学ぶ基礎を作り、社会に生きる市民として必要な知識及び推論方法を習得することを目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	市民社会の基盤である憲法（特に日本国憲法）の内容とその意義を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	対立する当事者の主張を権利義務の視点からとらえることができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス、憲法総論		講義		教科書の該当部分を読んでおくこと。		
2	人権総論①……人権の概念と主体		講義				
3	人権総論②……制約原理、適用範囲		講義				
4	幸福追求権		講義				
5	平等権		講義				
6	思想・良心の自由、信教の自由		講義				
7	表現の自由①……総説、特別のルール		講義				
8	表現の自由②……内容規制と内容中立規制		講義				
9	経済的自由……職業選択の自由、財産権		講義				
10	社会権①……生存権、教育を受ける権利		講義				
11	社会権②……教育を受ける権利、労働者の権利		講義				
12	参政権		講義				
13	統治機構論……権力分立、日本の政治制度		講義				
14	平和主義①……憲法9条と自衛権、自衛隊・日米安全保障条約		講義				
15	平和主義②……冷戦終結後の安全保障		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：君塚正臣編『ベーシックテキスト憲法（第3版）』（法律文化社・2017年）						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。					授業中の撮影	

授業科目名	政治学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	岡本雅享		前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>政治は利害調整のしくみであり、仲間内から全世界まで、人集まれば生じる。政治が身近で、誰でも関わっていることを理解した上で、国家とは、政府とは、自治とは何か、冷戦と崩壊の中で変化した右派・左派（保守・リベラル）など政治思想と政党、メディアや市民活動の働きなどのトピックから、日本を主とした政治状況を捉えていく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	現代日本政治を理解する基礎をみにつける。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	政治に深い関心をもち、主体的に学習できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	権力とは何か(講義の概要)	講義		配付資料、課題を読む。			
2	二つの政治体制—中央政府と地方政府	講義		同上			
3	自治体とは?—日米「自治体」の比較	講義		同上			
4	保守とリベラル:護憲を唱えるのは保守?	講義		同上			
5	右派と左派:富の配分をめぐる競争と平等	講義		同上			
6	冷戦と現代①55年体制と保革対立	講義		同上			
7	冷戦と現代②冷戦の終結と連立政権の始まり	講義		同上			
8	メディアと政治①民主主義とジャーナリズム	講義		同上			
9	メディアと政治②メディアと世論と政治の関係	講義		同上			
10	国会と官庁のしくみ	講義		同上			
11	政治家と有権者	講義		同上			
12	民主主義と選挙:ポピュリズムを考える	講義		同上			
13	財政をめぐる中央—地方関係	講義		同上			
14	市町村合併と自治	講義		同上			
15	市民がつくる政治	講義		同上			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
各回講義時の意見や考察		○	○	○		45	
学期内レポート課題		○	○	○		20	
期末レポート		○	○	○		35	
補足事項	<p>授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。</p>						
実務経験を生かした授業	<p>NGO職員として国会議員、外務省や法務省、文部科学省や厚生労働省の担当者と協議、交渉してきた経験から、国会議員や中央省庁の職員と協同してきた実情を含めながら、日本の政治の現状を解説する。</p>						
テキスト・参考文献等	<p>村上弘『新版日本政治ガイドブック』法律文化社、石川真澄『戦後政治史』第3版、岩波新書ほか</p>						
履修条件	<p>講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。</p>						
学習相談・助言体制	<p>質問票の配付と回答(次回講義時)他。</p>					授業中の撮影	

授業科目名	経済学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	<p>限定された資源を効率よく活用し、人々の物質的な満足度を高める方法を探求するのが「経済学」という学問の世界である。したがって経済学は、限られた経済的資源を活用する最善の方法を選択することと関係している。本講義では、最も合理的な選択をするための理論的なアプローチ、「インセンティブ」の力とその反応、選択による「機会費用」の発生、そして満足度の高い選択のための「効用極大化原理」を講義する。そして、限られた資源を効率よく活用し生産性を高めるといふ企業側の選択を「利潤極大化原理」を用いて説明し、効率的な配分と公正な配分について講義する。最後に「不確実性」というリスクの中での選択問題を説明した後、「リスク」に対する態度、それによって生じる異なる波及効果を講義する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	経済学の諸理論を理解する。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	国際経済: 国際貿易による各国の利益を理解し、交易条件の決定や国際資本移動を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	市場における経済合理性: 競争市場と独占市場のメカニズム・違いを理解し、市場の効率性の観点から両市場を評価できる。					
	DP4: 表現力	経済合理性による行動原理: 消費者行動と生産者行動について経済学諸理論を用いながら合理的な選択を説明・提示できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	希少性と経済の基本問題		講義	テキスト第1章を予習			
2	消費者行動の理論、1: 効用関数、効用最大化、限界代替率		講義	テキスト第4章を予習			
3	消費者行動の理論、2: 所得変化、価格変化が消費者行動に及ぼす影響		講義	テキスト第4章を予習			
4	生産者行動の理論、1: 利潤最大化のための生産方法、収入と費用		講義	テキスト第5章を予習			
5	生産者行動の理論、2: 最適生産の決定		講義	テキスト第5章を予習			
6	競争市場均衡、1: 過不足のない売り買い		講義	テキスト第6章を予習			
7	競争市場均衡、2: 余剰、安定分析		講義	テキスト第6章を予習			
8	競争市場均衡、3: 蜘蛛の巣の調整過程、与件の変化と均衡		講義	テキスト第6章を予習			
9	独占市場、1: 独占企業の利潤最大化		講義	テキスト第7章を予習			
10	独占市場、2: 独占市場とゲーム理論、参入阻止行動		講義	テキスト第7章を予習			
11	市場機構の効率性とその限界、1: パレート効率、厚生経済学の基本定理		講義	テキスト第8章を予習			
12	市場機構の効率性とその限界、2: 市場の失敗、コア、余剰分析と経済厚生		講義	テキスト第8章を予習			
13	国際貿易と資本移動、1: 比較優位と貿易の利益、交易条件の決定		講義	テキスト第9章を予習			
14	国際貿易と資本移動、2: 関税と貿易政策、自由貿易・保護貿易		講義	テキスト第9章を予習			
15	国際貿易と資本移動、3: 国際資本移動、限界生産力の相違と資本移動		講義	テキスト第9章を予習			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		◎	○			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	塩澤修平『経済学・入門』有斐閣アルマ						
履修条件	特に無し。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	社会思想史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	朝倉拓郎		前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	<p>現在、私たちの社会は多くの困難な問題に直面しています。これらの問題を解決し、よりよい社会を作り上げていくためには、私たちが生きている社会の特徴を深く理解する必要があります。このために本講義では、思想と歴史という観点からアプローチします。具体的には、現在の社会の形成に大きな影響を与えた思想家を取り上げ、彼らの著作（いわゆる古典）を通じてその思想を理解していきます。その際に、たんに結論を紹介するのではなく、彼らがどのような問題に直面し、それに対してどのように答えようとしたのかというプロセスに重点を置いて説明します。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	社会について考察し議論する上で、基礎的な概念や語彙を理解する。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	上記の概念や語彙を用いて、現在の社会のあり方について批判的に検討できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会のあり方に関する多様で対立する価値観が存在することを認識した上で、他者の意見を傾聴し、また自らの意見を他者に対して論理的、説得的に展開することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	イントロダクション：受講上の注意、「思想」を学ぶということ						興味を持った古典を読む。
2	古代ギリシャの社会思想(1)：社会思想の誕生						〃
3	古代ギリシャの社会思想(2)：アリストテレスの社会思想						〃
4	中世の社会思想(1)：キリスト教の社会思想						〃
5	中世の社会思想(2)：宗教改革と近代社会思想の誕生						〃
6	ホッブズの社会思想(1)：人間論						〃
7	ホッブズの社会思想(2)：社会契約による国家の設立						〃
8	ロックの社会思想(1)：所有権に基づく政治社会論						〃
9	ロックの社会思想(2)：政教分離と寛容の思想						〃
10	ルソーの社会思想(1)：文明社会批判						〃
11	ルソーの社会思想(2)：一般意志に基づく社会構想						〃
12	19世紀の社会思想(1)：民主化の時代における自由						〃
13	19世紀の社会思想(2)：マルクスの社会思想						〃
14	現代の社会思想：ロールズの社会正義論						〃
15	まとめ						〃
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			80	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
補足事項	授業への参加度は、毎回配布する「コメントカード」への記入内容によって評価する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキストは指定しない。資料を配付する。</p> <p>参考文献：村松茂美ほか編『はじめて学ぶ西洋思想—思想家たちとの対話—』(ミネルヴァ書房、2005年)</p> <p>その他の参考文献は、講義の中で適宜紹介する。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	本講義に関する質問は、授業の前後に受け付ける。また、メールによる質問も受け付ける。 (メールアドレス：tasa1009@gmail.com)					授業中の撮影	

授業科目名	科学史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	菊地原 洋平						
授業の概要	<p>科学は日々発達している。それゆえ、かつては正しいとみなされた科学知識や理論が訂正され、現在ではとうに忘れ去られたものも数多くある。しかしながら、当時それらが正しいとみなされたのには、それなりの根拠があった。この授業では、そうした過去の間違った科学知識や理論を、それぞれの時代の知的・社会的背景とともに考察していくことで、科学の歴史を見直していきたい。(社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目)</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	科学の歴史の基礎的な知識を身につける。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	政治、社会、経済、思想、文化などとの関連性を理解する。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	歴史にもとづく広い視野と多様なものの考え方や見方を学ぶ。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容					授 業 方 法	
1	はじめに：授業紹介など					講義	
2	火星の運河：天文学の歴史、あるいは宇宙人と地動説					講義	
3	ノアの洪水を目撃した人：地質学の歴史、あるいは化石とキリスト教					講義	
4	南方大陸：地理学の歴史、あるいは探検航海と植民地政策					講義	
5	性体系：分類学の歴史、あるいは科学知識とジェンダー					講義	
6	固定空気：化学の歴史、あるいは錬金術と言語空間					講義	
7	四体液：医学の歴史、あるいは性格診断と占星術					講義	
8	ガルヴァーニズム：電気学の歴史、あるいは身体観と生命の本質					講義	
9	ヴァルカン：惑星科学の歴史、あるいは神話的思考と数学的思考					講義	
10	定向進化説：生物学の歴史、あるいは生物の進化と多様性					講義	
11	大海蛇：動物学の歴史、あるいは怪物と未確認動物 (UMA)					講義	
12	N 線：物理学の歴史、あるいは放射線と心霊・オカルトブーム					講義	
13	ピルトダウン人：古人類学の歴史、あるいは化石人類と捏造事件					講義	
14	オリザニン：栄養学の歴史、あるいは料理と脚気					講義	
15	地球空洞説：地球科学の歴史、あるいは地下世界と SF 小説					講義	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
定期試験		◎	◎			85	
小テスト・授業内レポート		○	○			5	
宿題・授業外レポート		○	○			5	
授業態度・授業への参加度		○	○			5	
補足事項		出席回数が授業回数の 2/3 以下の学生は試験を受けることはできない。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		<p>プリントを配布する。 資料：下坂英「さいえんす死語事典」『サイアス』(1999年1月号-2000年12月号)。</p>					
履 修 条 件		理系の知識はとくに必要なし。					
学習相談・助言体制						授業前 (あるいは授業後)	授業中の撮影

授業科目名	生 物 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	芋 川 浩	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>生命の基本単位である細胞に関する基本的な知識を学び、さまざまな生命現象や生体反応のしくみを理解することで、社会人・職業人として身につけるべき生物学的な教養を学ぶことを主たる目的とする科目である。また、生命とは何か、生物はどのようにして生まれ、生きているのかを、最新の医学・生命科学の話題もまじえながら、概説する。本講義では、最新の遺伝子工学技術や医療技術についての理解を深めることも目標に掲げている。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	生命の基本単位である細胞の構造や機能、多細胞生物の成立過程を理解・説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	からだの神秘やその総合的な機能メカニズムについて理解・説明できるとともに、最新のバイオテクノロジーについても知識を深め、応用できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション (講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介)		講義		理解度に応じ、指導する。		
2	生命とは		講義		理解度に応じ、指導する。		
3	細胞とは①		講義		理解度に応じ、指導する。		
4	細胞とは②		講義		理解度に応じ、指導する。		
5	多細胞生物への道①(細胞分裂など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
6	多細胞生物への道②(減数分裂など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
7	多細胞生物への道③(生命誕生の神秘など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
8	多細胞生物への道④(受精のメカニズムなど)		講義		理解度に応じ、指導する。		
9	多細胞生物への道⑤(初期発生のメカニズムなど)		講義		理解度に応じ、指導する。		
10	多細胞生物への道⑥(形態形成のメカニズムなど)		講義		理解度に応じ、指導する。		
11	からだの神秘①(ホメオボックスなど)		講義		理解度に応じ、指導する。		
12	からだの神秘②(昆虫と哺乳類の違い)		講義		理解度に応じ、指導する。		
13	生命の総合的メカニズム①(生命体の不思議など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
14	生命の総合的メカニズム②(生命科学・医学の最先端トピックス)		講義		理解度に応じ、指導する。		
15	まとめ		講義		理解度に応じ、指導する。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			15	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：ライフサイエンス 生命の神秘(芋川浩著、木星舎) 参考文献：細胞の分子生物学 第6版(Garland Science)、開講時に複数の参考文献を紹介する。</p>						
履修条件	<p>講義への参加度などを重視するため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校で生物学を学んでいた方がよいが、学んでいなくても問題はない。</p>						
学習相談・助言体制	<p>質問は随時受付ける(教員室訪問・メールなど)。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。</p>					授業中の撮影	

授業科目名	化 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	芋 川 浩						
授業の概要	我々は多くの物質を手に取り、食べたり、利用して生活している。本講義では、主に我々のからだ(人体)を構成する生体物質について 化学の観点から理解できることで、社会人・職業人として身につけるべき教養を学ぶことを主たる目的とする科目である。また、生命を構成している物質や、我々の身の周りの物質を理解し、我々の周りには多くの化学があり、それを必要・応用していることを理解し考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	有機化学の簡単な概要について理解・説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	生体(人体)を構成している物質である、糖質、タンパク質、脂質、核酸に関し、その構造や機能を理解し、応用できる。また、我々の生活に身近な化学についても幅広い知識を習得し、応用できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション (講義内容・評価方法の提示、参考文献の紹介)		講義		理解度に応じ、指導する。		
2	化学とは(無機化学と有機化学の理解を含む)		講義		理解度に応じ、指導する。		
3	有機化合物① (生命の誕生と炭化水素など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
4	有機化合物② (酸素、窒素などを含む化合物)		講義		理解度に応じ、指導する。		
5	有機化合物③ (カルボン酸と中性脂肪)		講義		理解度に応じ、指導する。		
6	有機化合物④ (芳香族化合物など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
7	生体の化合物① (糖質)		講義		理解度に応じ、指導する。		
8	生体の化合物② (脂質)		講義		理解度に応じ、指導する。		
9	生体の化合物③ (美しくなるために)		講義		理解度に応じ、指導する。		
10	生体の化合物④ (アミノ酸とタンパク質)		講義		理解度に応じ、指導する。		
11	生体の化合物⑤ (核酸や遺伝情報など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
12	身の周りの化学① (バイオテクノロジーなど)		講義		理解度に応じ、指導する。		
13	身の周りの化学② (衣・食など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
14	身の周りの化学③ (人体・宇宙など)		講義		理解度に応じ、指導する。		
15	まとめ		講義		理解度に応じ、指導する。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			15	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト:なし 参考文献:系統看護学講座 化学基礎2(第6版)(杉田良樹著、医学書院)など参考文献を開講時に複数紹介する。						
履修条件	講義への参加度などを重視するため、携帯電話等で出席や質問などをとることがあるので、携帯電話等を持っていること。高等学校で化学を学んでいた方がよいが、学んでいなくてもよい。						
学習相談・助言体制	質問は随時受付ける(教員室訪問・メールなど)。回答方法はその内容等によって教員が随時指導助言する。					授業中の撮影	

授業科目名	物理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 大坪 慎一		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	物理学は「物の運動」を探求する側面と、「物は何でできているか」を明らかにする側面の2つの方向で、自然を数学的に捉えて客観的な法則化を行い、原理的理解を目指すという方法論を確立しながら発展してきた。この授業では、現代的な世界観の基盤を理解する教養科目として、膨張宇宙といった内容を取り入れ、17世紀後半から現在まで進展してきた物理学の基礎的事項と考え方を概観する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	物理学を背景とする現代的な世界観を基に、豊かな人間性や幅広い視野を修得する。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	生命科学を理解する基礎である物理学の基本的知識を修得する。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自然科学・技術の根幹をなす物理的な自然認識の考え方を修得する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	単位と物質の階層構造:基本単位と組立単位,物質の成り立ち	講義と演習			配布プリントの復習		
2	力と運動:ニュートンの運動の法則	講義と演習			配布プリントの復習		
3	エネルギー:仕事、力学的エネルギー	講義と演習			配布プリントの復習		
4	剛体の運動:剛体の回転、力のモーメント	講義と演習			配布プリントの復習		
5	弾性体と流体:弾性と塑性、ひずみと応力、流体	講義と演習			配布プリントの復習		
6	温度と熱量:温度とは何か、熱力学第1法則	講義と演習			配布プリントの復習		
7	エントロピー:熱機関の効率。エントロピー増大の法則	講義と演習			配布プリントの復習		
8	波動現象 I:重ね合わせの原理、反射、屈折、回折、干渉	講義と演習			配布プリントの復習		
9	波動現象 II:共鳴、ドップラー効果、散乱	講義と演習			配布プリントの復習		
10	電磁気学 I:電場と磁場、電流と電気抵抗	講義と演習			配布プリントの復習		
11	電磁気学 II:電流の作る磁場、電磁誘導、電磁波	講義と演習			配布プリントの復習		
12	量子の世界:光の粒子性、電子の波動性、放射線	講義と演習			配布プリントの復習		
13	レーザーと核磁気共鳴:レーザーの原理、NMRの原理	講義と演習			配布プリントの復習		
14	宇宙の進化:原子核の性質、核分裂と核融合、星の進化	講義と演習			配布プリントの復習		
15	まとめ	講義と演習			配布プリントの復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			10	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度				○		10	
演習		◎	◎			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	毎回、授業内容をまとめたプリントを配布。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後に受付、回答。					授業中の撮影	

授業科目名	統計学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	坂無 淳						
授業の概要	統計学の基本的事項を理解することを目的に、統計学の考え方、記述統計学や推測統計学の基礎を学ぶ。また統計学が現実社会や研究にどのように活用されているのかについても解説する。(専門的教育の基礎を主たる目的とする科目)						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	データの要約や解釈を行うための統計学の基本的な知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	統計学の基本的な知識に基づいて論理的に思考・判断することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	ガイダンス						レジュメの確認・復習
2	統計について学ぶための基礎知識						レジュメの確認・復習
3	統計の種類と具体例						既存統計の入手
4	度数分布、代表値と散布度①						レジュメの確認・復習
5	代表値と散布度②、標準化						レジュメの確認・復習
6	正規分布、図表の種類と効果的な表現方法						レジュメの確認・復習
7	相関係数						レジュメの確認・復習
8	回帰分析 確認小テスト①						第1～8回までの復習
9	クロス集計①						レジュメの確認・復習
10	クロス集計②						レジュメの確認・復習
11	記述統計学と推測統計学						レジュメの確認・復習
12	統計的推定						レジュメの確認・復習
13	統計的検定						レジュメの確認・復習
14	確認小テスト②						第9～14回までの復習
15	まとめ						授業全体の復習
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○		○	60	
授業態度・授業への参加度・授業内課題		○		○		40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：講義資料(レジュメ)を配布する。参考文献：栗原伸一・丸山敦史『統計学図鑑』オーム社、2017。廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010ほか授業内で適宜指示する。						
履修条件	電卓を用意すること(初回に指示する)。高校で学習した統計に関する知識と重なる部分もあるので復習しておくこと。						
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。リアクション・ペーパーを配布するので質問は記入すること。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。						授業中の撮影

授業科目名	情報科学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	石崎 龍 二		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>近年急速に発展している情報技術を理解して、大学での学習や研究に情報機器を活用する上で基礎となる知識を習得する。具体的には、コンピュータ内部では、種々の情報がどのように表現されているのか、インターネットでは、どのような方法で情報通信が行われているのかなどについて学ぶ。</p> <p>情報技術が発展する一方で、情報漏洩、不正アクセス、コンピュータウイルスなどのサイバー犯罪が社会問題になってきた。こうした高度情報化社会におけるさまざまな問題について考察する。さらに情報のセキュリティ対策について学ぶ。</p> <p>本科目は本大学の専門教育の基礎を主たる目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	<p>情報量、情報のデジタル表現について理解している。 コンピュータネットワークの仕組みを理解している。 サイバー犯罪及びその対策について理解している。 情報セキュリティ対策について理解している。</p>					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	<p>社会の諸問題に対し、情報科学の観点から考察することができる。</p>					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	コンピュータの歴史-ENIAC から PC の出現まで	講義	今後、新聞の経済欄やインターネットなどで最新のコンピュータ関連の動向をチェックする。				
2	コンピュータの基本構成	講義	コンピュータの 5 大装置について復習				
3	情報のデジタル表現①-アナログとデジタル、2進数とその計算方法について	講義	2進数について復習				
4	情報のデジタル表現②-アナログとデジタル、2進数、16進数	講義					
5	情報のデジタル表現③-数字、文字のデジタル化	講義	JIS コードと ASCII コードの違いを復習。普段扱っている文書ファイルの情報量と音声や画像データの情報量とを比較する。				
6	情報のデジタル表現④-音、画像のデジタル化	講義					
7	2進法の演算と論理演算	講義	2進法の加減乗除と論理演算について復習				
8	コンピュータネットワークの歴史-ARPANET から Internet までの発展	講義	集中処理方式と分散処理方式の違いを復習				
9	情報通信ネットワークのしくみ①-パケット通信、通信プロトコル、IP アドレス	講義	パケット交換方式や通信プロトコルの意味を復習				
10	情報通信ネットワークのしくみ②-DNS、WWW、電子メールのしくみ	講義	講義終了時にレポート課題提示				
11	サイバー犯罪	講義	インターネットで、サイバー犯罪の統計情報を確認				
12	情報セキュリティ対策①-暗号化技術	講義	暗号化方式について復習				
13	情報セキュリティ対策②-コンピュータウイルス対策ソフト、ファイアウォール	講義	コンピュータウイルス対策ソフトとファイアウォールの働きを復習				
14	情報社会とメディア	講義	メディアが伝える情報の構成を復習				
15	まとめ	講義	この講義の到達目標を読んで、目標に達していない部分について復習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
授業外レポート		○	○			20	
授業への参加度		○	○			30	
補足事項	試験はテキスト、ノート、配付資料を持ち込み可とする。講義ノートや配付資料を整理しておくこと。レポート課題 1 回						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：独自のテキストを配付する。</p> <p>参考文献：①駒谷 昇一編著、『情報と社会』、オーム社、2004年、(2,625円) ②ICT基礎教育研究会著、『ネットワーク社会における情報の活用と技術』、実況出版、2003年、(2,100円)</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	環境科学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
			前期	講義	選択	2	1年					
担当教員	久永 明											
授業の概要	人間を取り巻く自然・社会環境とそれから発生する複雑な環境問題について、環境成立の過程、公害、その他の環境問題や健康影響を概括する中で、事象の正確な把握に努める。さらに、有限な地球の包容力や資源・エネルギー問題、都市環境問題について、バランスの取れたものの見方、環境保全に向けての地道な努力、自然との共生等を理解し、環境や健康にやさしいライフスタイルの実践をめざす。											
学生の到達目標												
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	高度福祉社会に貢献するための教養として、自然科学・学際的な知識を幅広く身につけている。										
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	人を取り巻く環境課題を中心に深い関心を持ち、主体的に環境学習・活動をすることができる。										
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)												
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)							
1	環境問題とは		環境課題を学ぶ「意義」と「地球環境(大気)の成立」について解説する。		各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。							
2	地球の誕生と歴史											
3	公害概論(1) 公害の歴史とグローバル化											
4	公害概論(2) 環境基準からみた環境問題											
5	地球の自然と人間活動		配布資料とビデオにより、我が国の「公害」全般について学習する。		課題レポート(1)を提示する。							
6	大気汚染と汚染物質											
7	酸性雨											
8	水質汚濁と汚染物質											
9	地球の温暖化											
10	有機塩素系化合物による汚染											
11	オゾン層の破壊											
12	資源と環境(1) エネルギー資源							配布資料、パワーポイント、ビデオなどを用い、「環境問題」の各論について解説していく。		各回の授業内容について、参考書などで予習・復習しておく。		
13	資源と環境(2) 水資源、食料資源											
14	都市の環境保全ーヒートアイランドー											
15	まとめ											
		環境問題の根底に横たわる「資源と環境」「都市環境」との関わりについて、一緒に考えていく。		試験用課題を提示する。								
		1～14の復習を兼ね、まとめと意見交換をする。		予習・復習と共に、試験用課題に早めに取り組む。								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)												
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)						
定期試験		◎				60						
宿題・授業外レポート		○				20						
授業態度・授業への参加度				○		20						
実務経験を生かした授業												
テキスト・参考文献等	テキスト: プリント等を使用する。 参考書: 山口勝三、他『環境の科学ーわれらの地球、未来の地球ー』培風館、2008年(1980E)											
履修条件	特になし。											
学習相談・助言体制	質問・相談は基本的に授業時間前後に受け付ける。					授業中の撮影						

授業科目名	数学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択	2	1年	
担当教員	石崎龍二							
授業の概要	<p>本講義では、自然現象や社会現象を数学的に記述・分析するための基礎的な数学を学習する。具体的には、問題に対して帰納的、類推的、演繹的、体系的、抽象的に考える力を養う「集合・論理」、現象が数や関数で表現された場合に極限操作によって調べる「微分積分」、統計学での多変量解析の基礎となる「線形代数」などを中心に学習する。</p>							
学生の到達目標								
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	「集合・論理」「微分積分」「線形代数」に関する知識を有している。						
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自然や社会の現象を抽象化、単純化、記号化して考えることができる。 数・形・集合などに関する記号を使って論理的に展開できる。 集合演算、初等関数の微分・積分ができる。 行列が正則かどうかを判定し、正則行列の逆行列を求めることができる。 連立1次方程式を、行列を使って解くことができる。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)					
1	数の基礎－自然数、整数、有理数、実数、複素数	講義	(事前学習) 次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、内容を把握しておく。 (事後学習) 講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理					
2	集合と集合の演算	講義						
3	命題と論理	講義						
4	関数－集合と写像、1次関数、2次関数	講義						
5	関数－指数関数、対数関数、三角関数	講義						
6	微分－関数の極限	講義						
7	微分－微分係数	講義						講義終了時に課題提示
8	微分－導関数	講義	(事前学習) 次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、内容を把握しておく。 (事後学習) 講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理					
9	積分－不定積分	講義						
10	積分－置換積分、部分積分	講義						
11	積分－定積分	講義						
12	線形代数－ベクトル、行列	講義						
13	線形代数－行列式	講義						講義終了時に課題提示
14	線形代数－行列式の展開と逆行列	講義						
15	まとめ	講義	(事前学習) 次回の講義内容について、テキストや配布資料を読んで、内容を把握しておく。 (事後学習) 講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験		◎	◎			50		
授業外レポート		○	◎			20		
授業への参加度		○	○			30		
補足事項	レポート課題2回							
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等	テキスト：独自のテキストを配付する。 参考文献：開講時に紹介する。							
履修条件	特になし。							
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。					授業中の撮影		

授業科目名	人 権 論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	1年
担当教員	松 下 一 世						
授業の概要	<p>本授業では、部落問題をはじめとして、現代社会におけるさまざまな人権問題について概説する。その際に、理論的な側面の学びだけでなく、人権感覚を高めるために、映像教材を鑑賞したり、ディスカッションやロールプレイの手法を用いる。人権が尊重される社会に向けて、思考力と行動力を高めるための学びをしたい。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	人権に関する主な条約や法令の基礎的知識を知る。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	権利を獲得するために闘ってきた歴史的事実を知る。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	人権とは		講義内容をノートに整理しておくこと。				
2	世界人権宣言		DVDの概要と感想を整理しておくこと。				
3	人権に関する国際条約		講義内容をノートに整理しておくこと。				
4	女性の権利		DVDの概要と感想をまとめておくこと。				
5	ハラスメントとデートDV		講義内容をノートに整理しておくこと。				
6	セクシュアルマイノリティ		DVDの概要と感想をまとめておくこと。				
7	部落問題とは		講義内容をノートに整理しておくこと。				
8	水平社宣言の意義		DVDの概要と感想をまとめておくこと。				
9	公平な採用		資料をノートに整理しておくこと。				
10	現代の部落差別		DVDの概要と感想をまとめておくこと。				
11	在日外国人問題とは		DVDの概要と感想をまとめておくこと。				
12	ヘイトスピーチの問題		講義内容をノートに整理しておくこと。				
13	障害者問題とは		資料をノートに整理しておくこと。				
14	平等と差別		講義内容をノートに整理しておくこと。				
15	インターネットと人権		DVDの概要と感想をまとめておくこと。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート			◎				90
授業態度・授業への参加度			○				10
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト 『総合的な学習でめざす国際標準の学力一すく使える“新時代の人権教材”7つのテーマ』明治図書						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業が終わった時点での質問に応じる。また小レポートに質問も書いてもらい、全体指導に生かす。						授業中の撮影

授業科目名	ジェンダー論 (女性学)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	坂 無 淳		前期	講義	選択	2	人社3年 看護4年
授業の概要	現代社会をジェンダーの観点から読み解くための基本的な知識を学ぶ。女性学、男性学などのジェンダー研究、またジェンダーの社会学などの知見を中心に取り上げる。知識にくわえて、現代社会や個人の生活をとりまく諸問題をジェンダーの観点から捉え直す視点を得ることを目標とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	ジェンダーに関する基本的な知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	現代社会の諸問題に関してジェンダーの観点から論理的に思考・判断することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス、ジェンダーとは		講義・授業内課題		テキストの予習		
2	社会化とジェンダー		講義・授業内課題		1章・2章ほか		
3	性の多様性		講義・授業内課題		1章・2章ほか		
4	教育とジェンダー		講義・授業内課題		3章ほか		
5	恋愛とジェンダー		講義・授業内課題		4章ほか		
6	ブレイク：国家と結婚（他国の例）		講義・授業内課題		これまでの復習		
7	労働とジェンダー① 男女格差、性別職域分離ほか		講義・授業内課題		5章ほか		
8	労働とジェンダー② ハラスメント、WLBほか		講義・授業内課題		5章ほか		
9	家族とジェンダー① 性別役割分業、再生産労働ほか		講義・授業内課題		6章・7章ほか		
10	家族とジェンダー② 家族の多様化ほか		講義・授業内課題		6章・7章ほか		
11	家族とジェンダー③ 育児と社会化ほか		講義・授業内課題		6章・7章ほか		
12	国際化とジェンダー		講義・授業内課題		8章ほか		
13	政治とジェンダー		講義・授業内課題		9章ほか		
14	政策とジェンダー		講義・授業内課題		9章ほか		
15	まとめ		講義・授業内レポート		全体の復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内課題・授業態度・授業への参加度		○	○	◎		60	
宿題・授業内レポート		○	◎		○	40	
実務経験を生かした授業	高等教育機関の男女共同参画推進室のコーディネーターとして、男女共同参画とワーク・ライフ・バランス支援を行なった経験を持つ教員が、現代日本のジェンダーを取り巻く現状や課題について解説する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：伊藤公雄ほか『女性学・男性学（改訂版）—ジェンダー論入門』有斐閣、2011年、1900円（テキストの3版がである可能性があるが改訂版を使用予定、詳しくは授業で確認すること）。参考文献：千田有紀ほか『ジェンダー論をつかむ』有斐閣、2013。加藤秀一『はじめてのジェンダー論』有斐閣、2017。加藤秀一ほか『ジェンダー』ナツメ社、2005ほか授業内で紹介するので参考にする。						
履修条件	ワークショップなどを行う際には議論に正解はないので、積極的に参加してください。						
学習相談・助言体制	質問はレスポンスカード等で授業内に、また授業前後に受け付ける。また、受講生の状況に応じて講義内容に変更を加える場合がある。					授業中の撮影	

授業科目名	人間関係の科学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3・4年
担当教員	上野行良						
授業の概要	福祉社会を支えるために人間関係について学び、人間について深い理解をもつことは不可欠です。一方、現代社会においては人間関係の問題が多く指摘されています。そこで本授業では人間関係のトラブルを減らすために必要な知識を説明します。「理解すること、説明すること、解決すること」を中心に、現代社会における人間関係に関わる諸問題、人間関係をこじらせてしまう心理を講義します。社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目です。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	人間関係のトラブルを減らすための知識をもっている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	人間関係を振り返る	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
2	人間関係を分析しよう	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
3	変わってほしい	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
4	話を聞いていますか?	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
5	自分の要求を説明する	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
6	現代の人間関係の特徴1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
7	現代の人間関係の特徴2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
8	復習課題	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
9	聞いて説明する	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
10	学校しか知らない	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
11	肯定的なメッセージを伝える	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
12	課題志向のコミュニケーション1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
13	課題志向のコミュニケーション2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
14	青少年が抱える問題と人間関係	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
15	復習課題	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
提出課題		◎				100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	現代社会と嗜癖		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	四戸智昭		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>嗜癖（アディクション）はあらゆる人間に見受けられるものである。多くの場合は「癖」などと呼ばれ、その人らしさを醸し出すものであるが、癖がその人の社会生活に多大な影響を与えてしまう場合もある。なぜその人が嗜癖行動を取らなければならないのかについて、家族関係や我々を取り巻く現代社会にも目を向け、嗜癖行動と社会システムについて考察を深めることが本講義の目的である。なお、本科目は実社会で役に立つ教養科目として位置付けられている。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	嗜癖に関する基礎的な知識を得る。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	現代の嗜癖問題やその根底にある家族の諸問題について興味関心を持つことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション	講義					
2・3	嗜癖とは何か	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
4	嗜癖と環境適応について	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
5・6	人はなぜ嗜癖するのか	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
7	嗜癖する人々の声	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
8	嗜癖と機能不全家族について	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
9	嗜癖と心理的防衛について	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
10	嗜癖とアダルトチルドレンについて	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
11	嗜癖と診断基準について	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
12・13	嗜癖と共依存について	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
14	嗜癖と自助グループについて	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
15	嗜癖と面前DVについて・まとめ	Q&A への返答及び講義			次回までに宿題に取り組む。 ノート作成をする。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○				40	
小テスト・授業内レポート		◎				20	
宿題・授業外レポート				◎		40	
補足事項	授業内レポートとは、授業内で記入する授業コメントのことであり、これを評価対象とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	教科書：斎藤学『依存症と家族』（学陽書房）。参考文献：授業時に紹介する。授業資料は、e-learning システムから配信するので、毎回各自ダウンロードして講義に参加すること。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎回の授業の最後に講義に関するコメント（意見や質問等）を書いてもらう。次回の授業時の最初に、それらの質問に回答する。なお、この学生とのQ&Aも講義内容となるので、ノートをとること。					授業中の撮影	

授業科目名	性教育学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		前期	講義	選択	2	人社3年 看護3・4年
授業の概要	人間はこの性というシステムの流れの中で、どのように生きているか、そしてその性をどのように子どもたちに教えうるのか、そのスタンスはどのようなものが望ましいのか、そのあたりの題材に受講した学生と「考える」というプロセスの中で取り組んでいく。(社会人・職業人として身につけるべき教養を主たる目的とする科目)						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	Science (近代学問) の視点から、性をとらえることのその道筋について述べるができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	最先端の知識を習得し、自分なりに性について考え述べるができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	性を知る (性と何か)	講義	テキストⅡ-4を読みキーワードを5つあげておく。				
2	性を知る (性差・性別)	講義	テキストⅡ-5を読みキーワードを5つあげておく。				
3	性をふりかえる (性の民族/性と文学)	講義	テキストⅠ-8を読みキーワードを5つあげておく。				
4	性をふりかえる (性教育の歴史)	講義	テキストⅠ-1を読みキーワードを5つあげておく。				
5	性を知る (男性の身体・女性の身体)	講義	テキストⅡ-6~7を読みキーワードを5つあげておく。				
6	性を知る (妊娠・出産と避妊)	講義	テキストⅡ-8を読みキーワードを5つあげておく。				
7	性を知る (STD/STI)	講義	テキストⅡ-9を読みキーワードを5つあげておく。				
8	性を知る (障害者の性について考える)	講義	テキストⅤ-16を読みキーワードを5つあげておく。				
9	性を共有する (性と人間関係)	講義	テキストⅣ-13を読みキーワードを5つあげておく。				
10	デートDV	講義・演習	テキストⅤ-15を読みキーワードを5つあげておく。				
11	性を表現する (性行動と身体/性行動と環境)	講義	テキストⅢ-10~11を読みキーワードを5つあげておく。				
12	LGBTについて学ぶ	講義	テキストⅤ-18、Ⅲ-12を読みキーワードを5つあげておく。				
13	性を支える (性犯罪・性被害)	講義	テキストⅤ-15を読みキーワードを5つあげておく。				
14	性犯罪被害とたたかうということ	講義	テキストⅤ-15を読みキーワードを5つあげておく。				
15	性を支える (性と社会)	講義	テキストⅣ-14を読みキーワードを5つあげておく。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				100	
補足事項	教科書該当箇所の予習・復習を行うこと。 評価方法: 筆記試験 (100%)						
実務経験を生かした授業	性被害の当事者でもあり、かつ性犯罪被害者の支援に携わられてある方を特別講師として招聘し、性犯罪被害の実際とその支援について学習する。 LGBTの当事者でもあり、かつ性的マイノリティの支援に携わられてある方を特別講師として招聘し、性的マイノリティに関する知識と支援の実際について学習する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 朝倉書店「性教育学」						
履修条件	履修該当学年以上の履修を認める。						
学習相談・助言体制	レスポンスカード、オフィスアワー時に受け付ける。メールによる相談も可。					授業中の撮影	○

授業科目名	ケアリング・サイエンス		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	人社3年 看護4年
担当教員	石田智恵美・清水夏子・清原智佳子						
授業の概要	本講義では、教育・福祉・看護で用いられる「ケアリング」・「ケア」についていくつかの考え方を紹介し、「ケアリング」が行われる中でどのようなことが起きているのかを探求する。また、「ケアリング」に携わるものに求められる事柄について考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	ケアリング、ケアの考え方について理解できる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	講義で学んだ事柄と、自らが受けてきたケアリングとを結び付け、意味づけすることができる。					
	DP4:表現力	ケアリング、ケアについて自己の考えを述べることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	コースオリエンテーション ケアリングの概念について		講義		事後：自己紹介文を作成する		
2	ケアリングにおけるコミュニケーション 自己紹介		講義				
3	ケアリングの心						
4	メイヤロフ ケアの主な8つの要素 知識 リズムを変えること 忍耐 正直 信頼 謙遜 希望 勇気		講義 ディスカッション		ケアの要素について整理する		
5							
6	ノディングス ケアリング ケアするひと ケアされるひと		講義 ディスカッション		事前にテキストを読んでおく		
7							
8							
9							
10							
11							
12	実践の中のケアリング		講義 ディスカッション				
13	ケアリングの倫理1		講義 ディスカッション				
14	ケアリングの倫理2		講義 ディスカッション				
15	まとめ		講義		レポート課題		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート ※			○			20	
授業態度・授業への参加度			○			10	
受講者の発表(プレゼン)		○	○			20	
その他(課題レポート)		○	◎			50	
補足事項	※毎回の授業内容について自己の考えをまとめる。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：ネル・ノディングス著 ケアリング 晃洋書房 1997 参考書：ミルトン・メイヤロフ著 ケアの本質 ゆみる出版 2000						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業以外の時間での質問はE-メールで受け付ける。 石田：emishida@fukuoka-pu.ac.jp					授業中の撮影	

授業科目名	グローバル社会論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	小池 祐子 (代表) 他						
授業の概要	<p>「グローバリゼーション」の定義や評価は論者の立場により様々であり、その及ぼす影響も領域により異なる。本講義では、「グローバリゼーション」の基底にある、情報、経済領域の変化を理解した上で、様々な領域や国、専門分野からみたグローバル化現象とその影響を学ぶことを通して、「グローバリゼーション」を多角的に理解する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	「グローバリゼーション」についての基礎的知識を学ぶことができる。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	多角的な観点から「グローバリゼーション」を理解することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
授 業 内 容			授 業 担 当		事前・事後学習(学習課題)		
<p>各担当教員が様々な観点から「グローバリゼーション」についての講義を行う。受講者は、様々な領域や国、専門分野からみたグローバル化現象とその影響を学ぶことができる。また、多様な角度から「グローバリゼーション」を学んでいくため、「グローバリゼーション」についてより立体的に学ぶことができる。</p> <p>※受講者の皆さんへ： 毎回の授業を通して、世界で「グローバリゼーション」がどのような意味を持つのかを学ぶだけでなく、個々人、受講者自身にとって「グローバリゼーション」はどのような意味を持つのかについて、主体的に考え、自分なりの答え・結論を見出せるよう努めてください。 自身の日常生活に直結する身近な現象として「グローバリゼーション」を受け入れることで、「グローバリゼーション」への理解がより深まると思います。</p>			<p>小池祐子 芋川 浩 柴田雅博 スチュアート・ゲイル 中村晋介 許 棟翰 陸 麗君 他</p>		<p>各担当教員の授業でテスト・レポート等が課される。</p>		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・レポート		◎	○			80	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業ごとに資料を配布する。参考文献については、授業の中で必要に応じて紹介する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業の前後、オフィスアワー、またはメールで対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	入門・数字で見る日本社会		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	森脇敦史・神谷英二		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>日本社会は、少子高齢化という内的要因と、グローバル化の進展という外的要因により、変化の時代を迎えている。望ましい社会のあり方を主体的に考え、自ら社会的協働に加わるには、日本社会の現状を定量的に理解することが不可欠である。本講義では、日本社会の現状（人口、経済、医療・福祉、財政など）を種々の統計データ等によって明らかにすることで、大学で学ぶ基礎知識として必要となる日本社会の現状理解を目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	日本社会について学ぶ基礎知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	日本社会を定量的に理解する視点を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	ガイダンス		講義			配付資料の復習	
2	日本の人口と世帯の変化		講義				
3	日本経済の現状		講義				
4	労働(1)		講義				
5	労働(2)		講義				
6	家計の状況(1)		講義				
7	家計の状況(2)		講義・小テスト				
8	企業の活動(1)		講義				
9	企業の活動(2)		講義				
10	金融資本市場		講義				
11	医療・福祉(1)		講義				
12	医療・福祉(2)		講義・小テスト				
13	人々の日常生活		講義				
14	日本の財政(1)		講義				
15	日本の財政(2)		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			40	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			30	
宿題・授業外レポート						30	
授業態度・授業への参加度				○			
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし。必要な資料は配布する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	講義の後または研究室で応じる。メール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp, kamiya@fukuoka-pu.ac.jp)による相談も受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	ライフキャリア論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
			前期	講義	選択	2	1年			
担当教員	井上 奈美子									
授業の概要	人々の働き方や生き方の価値観が多様化する現代社会に置いて、私達は、働くことを取り巻く環境や働き方の大きな変化・多様化について理解する必要がある。この授業では、まず、現実の状況を正しく理解することを旨とし、人が生涯を通して行う社会的役割である仕事に関連した活動と、諸活動によって得られる人間の成長や自己実現を目標とした個人の生き方に関する考えを深める。これらによって創造的な職業人生を送るための能力を育む。									
学生の到達目標										
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	キャリア理論の知識を用いて社会状況を検証し、自らの現状を分析し、いかに生きるかを検討するための基礎知識を得る								
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	人生と職業生活に関する諸問題を主体的意欲的に探求することができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)					
1	ガイダンス									
2	働く意味を考える(職業社会の仕組み他)		講義・アクティブラーニング		資料とテキストの予習 グループワークと発表は 毎週行います。					
3	仕事経験の連続性、ワークライフバランス		講義・アクティブラーニング							
4	多様な働き方、育児・介護と仕事、両立支援		講義・アクティブラーニング							
5	男女雇用機会均等法、女性活躍推進		講義・アクティブラーニング							
6	就職率と進学率、若年者雇用問題		講義・アクティブラーニング							
7	経済環境と労働市場の関係		講義・アクティブラーニング							
8	生涯キャリア発達理論		講義・アクティブラーニング							
9	働く環境分析		講義・アクティブラーニング							
10	給与、税金の種別、税金の意義		講義・アクティブラーニング							
11	雇用形態の種別(契約、派遣、正規)と評価制度		講義・アクティブラーニング							
12	ホランドの職業興味六角モデル		講義・アクティブラーニング							
13	日本標準産業分類		講義・アクティブラーニング							
14	キャリア移行トランジション理論		講義・アクティブラーニング							
15	プレゼンテーション学習発表会		実技・プレゼンテーション					課題パワーポイント作成		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)				
定期試験		○				30				
小テスト・授業内レポート		○				30				
授業態度・授業への参加度				◎		40				
実務経験を活かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサル、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、職業選択の手法、ライフキャリア、人的マネジメントについて講義する。									
テキスト・参考文献等	キャリア基礎講座テキスト 自分のキャリアは自分で創る 荒井 明(著)、玄田 有史(監修)テキストは第2回目の講義までに必ず購入し、毎回持参してください。									
履修条件	テキスト持参、アクティブラーニングのディスカッションのために予習をすることが条件になります。毎回グループ発表を行います。									
学習相談・助言体制	講義の前後またはメールで応じる。					授業中の撮影	○			

授業科目名	英語 I - (1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening). Students will participate in group discussions, debates, interview-simulations and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly group homework assignment (e.g. compiling a short presentation, scripting a role-play, etc.).						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to make group presentations in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Class 1 : Introduction		Lecture				
2	Class 2 Topic : Crime		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Mobile phones		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic : Smoking		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Junk food		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Marriage		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Topic : Sport		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Driving and road safety		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : Bullying		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Attitudes to homosexuality		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : Sexism and gender roles		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : The art of sleeping		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : Japan's population crisis		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Parasite singles		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Exam preparation		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		○	33	
宿題・授業外レポート			◎		○	33	
授業態度・授業への参加度			◎		○	34	
実務経験を生かした授業	The class will be taught by a native speaker in English and with an emphasis on cultural differences between Japan and the UK.						
テキスト・参考文献等	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara 『Provoke a Response』 Nan' un-do, 2016, 1,900円						
履修条件	This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.					授業中の撮影	

授業科目名	英語 I-(1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	演習	必修	1	1年	
担当教員	Dominic Marini							
授業の概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening). Students will participate in pair work and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly homework assignment.							
学生の到達目標								
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to complete various communicative tasks in English.						
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容			授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Class 1 : Introduction			Lecture				
2	Class 2 Topic : World travel			Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Polite requests			Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic : Answering questions			Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Talking about your family			Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Asking how to do something			Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Ordering food at a restaurant			Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Learning vocabulary and review			Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : Mid-term exam			Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Asking for directions in the street			Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : Using a bank			Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : Getting a hotel room			Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : Using a pharmacy			Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Learning vocabulary			Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Exam preparation			Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
成績評価方法			◎		◎	50		
Mid-term exam			◎		◎	50		
Final exam			◎		◎	50		
補足事項		This course will prioritize students' active learning and ability to communicate.						
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等		Passport 1 (Second Edition) by A. Buckingham and L. Lansford ISBN978-0-19-471816-5						
履修条件		This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制		Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.					授業中の撮影	

授業科目名	英語 I - (2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		後期	演習	必修	1	1年
授業の概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening). Students will participate in group discussions, debates, interview-simulations and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly group homework assignment (e.g. compiling a short presentation, scripting a role-play, etc.).						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to make group presentations in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Class 1 : Introduction		Lecture				
2	Class 2 Topic : Crime		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Mobile phones		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic : Smoking		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Junk food		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Marriage		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Topic : Sport		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Driving and road safety		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : Bullying		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Attitudes to homosexuality		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : Sexism and gender roles		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : The art of sleeping		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : Japan's population crisis		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Parasite singles		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Exam preparation		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		○	33	
宿題・授業外レポート			◎		○	33	
授業態度・授業への参加度			◎		○	34	
実務経験を生かした授業	The class will be taught by a native speaker in English and with an emphasis on cultural differences between Japan and the UK.						
テキスト・参考文献等	Stuart Gale and Shunpei Fukuhara 『Provoke a Response』 Nan' un-do, 2016, 1,900円						
履修条件	This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.					授業中の撮影	

授業科目名	英語 I - (2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	1	1年
担当教員	Dominic Marini						
授業の概要	The aim of this class is to develop communicative competence with regards to oral fluency (speaking and listening). Students will participate in pair work and a variety of task-based communicative activities. There will also be a weekly homework assignment.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to complete various communicative tasks in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Class 1 : Introduction		Lecture				
2	Class 2 Topic : World travel		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic : Polite requests		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic : Answering questions		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic : Talking about your family		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic : Asking how to do something		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Ordering food at a restaurant		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic : Learning vocabulary and review		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic : Mid-term exam		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic : Asking for directions in the street		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic : Using a bank		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic : Getting a hotel room		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic : Using a pharmacy		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic : Learning vocabulary		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic : Exam preparation		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
Mid-term exam			◎		◎	50	
Final exam			◎		◎	50	
補足事項	This course will prioritize students' active learning and ability to communicate.						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Passport 1 (Second Edition) by A. Buckingham and L. Lansford ISBN978-0-19-471816-5						
履修条件	This is a compulsory course for all 1st-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.					授業中の撮影	

授業科目名	英語Ⅱ-(1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	河本 恵美		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	アジアの経済は現在急速な発展を遂げ、全世界に大きな影響を与えています。この授業では、多様性に富む歴史、言語、習慣や伝統を持つアジアの国々に焦点を当て、あらゆる角度から理解を深めるとともに、英語を総合的に理解し、楽しみながら英語によるコミュニケーション能力を向上させることを目標とします。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	テキスト内の会話やReadingの語句・表現・文法知識を活かし、アジアの国々について表現することができるようになる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	テキスト内の英会話やReading Sectionの語句・表現・文法知識を活かし、自分の考えを相手に伝えることができるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	Introduction、Unit 1 China	各 Unit の冒頭 Getting Familiar で、本文で取り上げるトピックとかかわる会話の練習をします。Masa's Itinerary では、各国の情報が日本語で書かれていますので、基礎知識として参考にしてください。Asian Crossways は各 Unit の中心となる新聞記事形式の英文ですので、しっかりと内容を把握します。最後は読解、語句の問題に挑戦し、本文の理解度を確認します。 ※授業内容は授業進度により変更になることがあります。	Asian Crossways は予習範囲です。語句を調べ、内容を把握して授業に臨んでください。小テスト、課題については授業内で随時、指示します。				
2	Unit 1 China—紫禁城を歩く						
3	Unit 2 Indonesia—トラジャの生と死						
4	Unit 3 Thailand—バンコクの病院事情						
5	Unit 4 Korea—韓国の代表食キムチ						
6	Unit 5 Hong Kong—買い物天国の香港						
7	Unit 6 Taiwan—台北の歴史的宝物						
8	Unit 7 The Philippines—余生をセブ島で暮らす						
9	Unit 8 Brunei—リッチな小国ブルネイ						
10	Unit 9 Malaysia—サバの豊かな自然						
11	Unit 10 Singapore—歴史の証人ラッフルズホテル						
12	Unit 11 Cambodia—アンコールワットを探る						
13	Unit 12 Vietnam—壮大な列車の旅						
14	Unit 13 Laos—スローライフの国ラオス						
15	前期総まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	60	
小テスト、課題提出および学習意欲の高さ等の平常点			◎		◎	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	教科書: Asian Crossways アジアの光と風 染矢 正一 他 金聖堂 2017年 ISBN 978-4-7647-3923-9 C1082						
履修条件	1ユニットの内容が豊富なため、準備をして授業に参加してください。						
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	英語Ⅱ-(2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	河本恵美	後期	演習	必修	1	1年
授業の概要	授業で使用するテキストReaders' Forum 1 HOW-TO ENGLISHには、学習者が英字新聞、雑誌、物語を読む際に必要な情報や語句、内容が含まれています。より良い日常生活を送るためのアドバイスが書かれたエッセイを読み、毎日の生活をもう一度考えていき、ヒントにして欲しいと思います。各章の語句や練習問題に取り組むことで、内容を再確認し、リーディングおよびリスニングといった英語の総合運用能力を習得します。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	重要語句・表現・エッセイで学習した知識を活かし、自分を表現することができるようになる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	重要語句・表現・エッセイの表現を暗記し、自分の考えを相手に伝えることができるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	Introduction: 授業内容と受講の注意 Lesson 1	各レッスンの Key Words と Reading Section は予習範囲です。語句の意味を調べて、授業に臨んでください。また、練習問題を解答し、本文の内容を把握、確認します。最後に重要表現を暗記します。	各レッスンの vocabulary と Reading Section を事前にやっておくこと。事後学習としては、授業中解説した重要表現をしっかりと復習し、本文の内容を確認する。小テスト、課題については授業内で随時、指示します。				
2	Lesson 1 How to develop good Study Skills and Habits						
3	Lesson 2 How to Stop Procrastinating						
4	Lesson 3 How to Be a Responsible Traveler						
5	Lesson 4 How to overcome your Fear of Flying						
6	Lesson 6 How to Learn a Language Online						
7	Lesson 8 How to deal with Difficult People						
8	Lesson 9 How to Keep People Awake in Meetings						
9	Lesson 11 How to Avoid Being Tricked by Ads						
10	G-TELP テスト						
11	Lesson 12 How to be a Millionaire						
12	Lesson 13 How to find Mr. Or Ms. Right						
13	Lesson 14 How to be More Charismatic and Cultured						
14	Lesson 15 How to Do the Right Thing						
15	後期総まとめ						
※ 授業進度により変更になることがあります。							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	60	
小テスト、G-TELP テスト、課題提出および学習意欲の高さ等の平常点			◎		◎	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	教科書: Readers' Forum 1 HOW-TO ENGLISH Advice for a Better Life Jim Knudsen 著 南雲堂 2016年						
履修条件	事前準備をしっかりと取り組み、積極的に授業に参加してください。						
学習相談・助言体制							授業中の撮影

授業科目名	英語Ⅲ-(1) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期	演習	必修	1	2年
授業の概要	This course will improve the students' general writing ability while focusing on a range of social issues. Every week, the students will examine data on a given topic in small groups and prepare written reports/presentations/posters, etc. These assignments will be completed for homework in accordance with the syllabus below.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to give feedback in groups in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Class 1 Topic: J-pop (part 1)		Lecture				
2	Class 2 Topic: J-pop (part 2)		Lecture		Homework 1		
3	Class 3 Topic: Cosmetic surgery (part 1)		Lecture		Homework 2		
4	Class 4 Topic: Cosmetic surgery (part 2)		Lecture		Homework 3		
5	Class 5 Topic: Laughter and comedy		Lecture		Homework 4		
6	Class 6 Topic: Whaling		Lecture		Homework 5		
7	Class 7 Topic: International relations		Lecture		Homework 6		
8	Class 8 Topic: Internationalization		Lecture		Homework 7		
9	Class 9 Topic: Protecting the environment		Lecture		Homework 8		
10	Class 10 Topic: Pregnancy, abortion, and the birth rate		Lecture		Homework 9		
11	Class 11 Topic: Divorce		Lecture		Homework 10		
12	Class 12 Topic: Crime syndicates		Lecture		Homework 11		
13	Class 13 Topic: Television		Lecture		Homework 12		
14	Class 14 Topic: Advertising		Lecture		Homework 13		
15	Class 15 Topic: Working part-time		Lecture		Exam preparation		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		○	33	
宿題・授業外レポート			◎		○	33	
授業態度・授業への参加度			◎		○	34	
実務経験を生かした授業	The class will be taught by a native speaker in English and with an emphasis on cultural differences between Japan and the UK.						
テキスト・参考文献等	(1)S. Gale and S. Fukuhara 『Provoke a Response』 Nan' un-do, 2016, 1,900円. (2) 『Language Note』 290円.						
履修条件	This is a required course for all 2nd-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.					授業中の撮影	

授業科目名	英語Ⅲ-(2) (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	1	2年
担当教員	Stuart Gale						
授業の概要	This course will continue to improve the students' general writing ability while focusing on a range of social issues. Every week, the students will examine data on a given topic in small groups and prepare a short written report/presentation/poster, etc. These assignments will be completed for homework in accordance with the syllabus below. As an additional component, the G-TELP test will be administered in class 13.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to give feedback in groups in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	Class 1 Topic : Crime		Lecture				
2	Class 2 Topic : Mobile phones		Lecture			Homework 1	
3	Class 3 Topic : Smoking		Lecture			Homework 2	
4	Class 4 Topic : Junk food		Lecture			Homework 3	
5	Class 5 Topic : Marriage		Lecture			Homework 4	
6	Class 6 Topic : Sport		Lecture			Homework 5	
7	Class 7 Topic : Driving and road safety		Lecture			Homework 6	
8	Class 8 Topic : Bullying		Lecture			Homework 7	
9	Class 9 Topic : Attitudes to homosexuality		Lecture			Homework 8	
10	Class 10 Topic : Sexism and gender roles		Lecture			Homework 9	
11	Class 11 Topic : The art of sleeping		Lecture			Homework 10	
12	Class 12 Topic : The art of test-taking		Lecture			Homework 11	
13	Class 13 Topic : G-TELP test		Lecture			Homework 12	
14	Class 14 Topic : Japan's population crisis		Lecture			Homework 13	
15	Class 15 Topic : Parasite singles		Lecture			Exam preparation	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		○	30	
宿題・授業外レポート			◎		○	20	
授業態度・授業への参加度			◎		○	30	
その他(G-TELP)					◎	20	
実務経験を生かした授業	The class will be taught by a native speaker in English and with an emphasis on cultural differences between Japan and the UK.						
テキスト・参考文献等	(1)S. Gale and S. Fukuhara 『Provoke a Response』 Nan' un-do, 2016, 1,900円. (2) 『Language Note』 290円.						
履修条件	This is a required course for all second-year students in the Faculty of Integrated Human Studies and Social Sciences.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate, to proactively seek knowledge and take responsibility for their own personal development.					授業中の撮影	

授業科目名	リーディング I (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 小池 祐子		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	英文を読むための基本的なリーディングスキルを段階的に学び、英文読解の基礎となる語彙力、文法力を向上させる。また、多読学習として図書館の英語の本を読みレポートを書く宿題が課せられ、授業でその本の紹介と話し合いを行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	読んだものに関してその内容や自分の考えが適切に表現できる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	ペア/グループワークによるスキルの学習や本に関する話し合いにより、コミュニケーション力を高める。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		事前・事後学習(学習課題)				
1	Course introduction						
2	G-TLP (General Tests of English Language Proficiency)		*Prepare for every class.				
3	CALL (Computer Assisted Language Learning) orientation, Reading skills (Pre-Reading Activities), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
4	Reading skills (Identifying the Main Ideas <1>), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading & Book report				
5	Book discussion, Reading skills (Identifying the Main Ideas <1>), Vocabulary, Grammar		Book Report (due date), Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading,				
6	Reading skills (Identifying the Main Ideas <2>), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
7	Reading skills (Identifying the Main Ideas <2>), Vocabulary, Grammar		CALL check (5 hours), Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading				
8	Reading skills (Understanding Supporting Details), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
9	Reading skills (Understanding Supporting Details), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
10	Reading skills (Using Signal Words to Predict Ideas), Vocabulary, Grammar		Book Report (due date), Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
11	Reading skills (Using Signal Words to Predict Ideas), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
12	Reading skills (Using Reference Words to Follow Ideas), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
13	Reading skills (Using Reference Words to Follow Ideas), Vocabulary, Grammar		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
14	Reading skills (Paragraph Organization), Vocabulary, Grammar		CALL check (5 hours), Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, Extensive reading & Book report				
15	Book discussion, Reading skills (Paragraph Organization), Vocabulary, Grammar		Book Report (due date), Final Exam preparation				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	○		○	50	
小テスト		○			○	25	
宿題・授業外レポート		○	○	○	○	25	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Textbooks : ①Yuji Ushiro 他 『Reader's Ark Basic』、Kinseido, 2015年, ¥1,900 ②Seiji Hayakawa 他 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』, Nan' un-do, 2016年, ¥1,900						
履修条件							
学習相談・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment					授業中の撮影	

授業科目名	リーディングⅡ (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	2年
担当教員	小池 祐子						
授業の概要	英文を読むためのリーディングスキルを段階的に学び、応用力を向上させる訓練を行う。また、英文読解の基礎となる語彙力、文法力を強化する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	リーディングスキルを正しく使い英文を読み取り、それに対し自分の考えが適切に表現できる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	ペア/グループワークによるスキルの学習やディスカッションによりコミュニケーション力を向上させる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		事前・事後学習(学習課題)				
1	Course Introduction		*Prepare for every class.				
2	Unit 1: Sense of Taste and Eating Habits (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
3	Unit 1: Sense of Taste and Eating Habits; Unit 2: Lose Weight and Stay Active (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
4	Unit 2: Lose Weight and Stay Active (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
5	Unit 3: Dangers of Internet Addiction (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
6	Unit 3: Dangers of Internet Addiction; Unit 6: Global Cooperation to Prevent Dementia (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		CALL check (5 hours), Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
7	Unit 6: Global Cooperation to Prevent Dementia (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Book Report (due date), Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
8	Unit 7: Battle against the Ebola Virus (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
9	Unit 7: Battle against the Ebola Virus; Unit 8: Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
10	Unit 8: Need for Disaster Medicine: DMAT and JMAT (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
11	Unit 9: Angelina's Decision (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
12	Unit 9: Angelina's Decision; Unit 10: Ethical Implications of Prenatal Testing (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
13	Unit 10: Ethical Implications of Prenatal Testing (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		CALL check (5 hours), Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading				
14	Unit 11: ES Cells and iPS Cells (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Book Report (due date) Reading homework, Vocabulary quiz preparation, Grammar test preparation, CALL, Extensive reading,				
15	Unit 11: ES Cells and iPS Cells (Reading skills, Vocabulary, Grammar)		Final exam preparation				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	○		○	50	
小テスト		○			○	25	
宿題・授業外レポート		○	○	○	○	25	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Textbook : ①Yasuko Onjohji 他 『Mindfulness』, Nan' un-do, 2016年, ¥1,900 ② Seiji Hayakawa 他 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』, Nan' un-do, 2016年, ¥1,900 *②は一年次に使用したものと同じで引き続き使用します。						
履修条件							
学習相談・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment					授業中の撮影	

授業科目名	ライティング (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	小池 祐子		後期	演習	必修	1	1年
授業の概要	英文ライティングを正しい構成でプロセスに沿って書き進めていく方法について学ぶ。また、センテンスレベルにおいて正確な文章が書けるように、語彙力、文法力を強化する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	正しい語彙・文法で、基本的な英語のパラグラフを書くことができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	ライティングによる内容伝達力を向上させる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			事前・事後学習(学習課題)			
1	Course introduction, Unit 1: Pre-writing Activity			*Prepare for every class.			
2	Unit 2: Writing a Draft, Unit 3: Revising & Editing, Grammar			Writing, Grammar quiz preparation, CALL			
3	Writing test 1, Unit 5: Paragraph writing (Illustration), Grammar			Writing, Grammar quiz preparation, CALL			
4	Grammar quiz 1, Unit 5: Paragraph writing (Illustration), Grammar			Grammar Homework (due date), Writing, CALL			
5	Unit 5: Paragraph writing (Illustration), Grammar			CALL check (5 hours), Writing, Grammar quiz preparation			
6	Grammar quiz 2, Unit 5: Paragraph writing (Illustration), Grammar			Grammar Homework (due date), Writing, CALL			
7	Writing test 2, Unit 12: Paragraph writing (Opinion), Grammar			Writing, Grammar quiz preparation, CALL			
8	Unit 12: Paragraph writing (Opinion), Grammar			Writing, Grammar quiz preparation, CALL			
9	Grammar quiz 3, Unit 12: Paragraph writing (Opinion), Grammar			Grammar Homework (due date), Writing, CALL			
10	Unit 12: Paragraph writing (Opinion), Grammar			CALL check (5 hours), Writing, Grammar quiz preparation			
11	Writing test 3, Unit 6: Paragraph writing (Time Order), Paragraph vs. Essay, Grammar			Writing, Grammar quiz preparation, CALL			
12	Grammar quiz 4, Unit 14: Basics of Essay Writing, Unit 15: Writing Your Essay, Grammar			Grammar Homework (due date), Writing, CALL			
13	Unit 14: Basics of Essay Writing, Unit 15: Writing Your Essay, Grammar			Writing, Grammar quiz preparation, CALL			
14	G-TELP (General Tests of English Language Proficiency)			CALL check (5 hours), Preparation for Grammar test & Writing test			
15	Review, Grammar test, Writing test 4			Preparation for Grammar test & Writing test			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト		○	○		○	30	
宿題・授業外レポート		○	◎		○	50	
外部試験		○	○		○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Textbook : ①Yoshihiro Sugita & Richard R. Caraker 『Primary Course on Paragraph Writing』, Seibido, 2008年, ¥1,900 ②Seiji Hayakawa 他 『Straight Paths: Essentials of English Grammar and Writing』, Nan' un-do, 2016年, ¥1,900 (前期のReading Iで使用した教科書と同じです。)						
履修条件							
学習相談・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment					授業中の撮影	

授業科目名	オーラルコミュニケーション I (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	1年
担当教員	Duncan Wotley						
授業の概要	This course aims to help nursing trainees develop their English speaking and listening skills so that they will be able to communicate effectively as nurses and professionals in a global world.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students can explain their own thoughts to others appropriately					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students have ability in English so that they can cope with globalized society of today					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Introduction to course requirements and student responsibilities.		Lecture & students give self-introductions		Make name and information cards		
2	Unit 1 Meeting Patients (1)		Speaking and Listening		Diary and discussion		
3	Unit 1 Meeting Patients (2)		Speaking and Listening		Diary and discussion		
4	Unit 2 Taking a Medical History (1)		Speaking and Listening		Diary and discussion		
5	Unit 2 Taking a Medical History (2)		Speaking and Listening		Diary and discussion		
6	Unit 3 Assessing Patient's Symptoms (1)		Speaking and Listening		Diary and discussion		
7	Unit 3 Assessing Patient's Symptoms (2)		Speaking and Listening		Diary and discussion		
8	Review of Units 1-3		Speaking and Listening		Diary and discussion		
9	Unit 4 Taking Vital Signs (1)		Discussion and Listening		Diary and discussion		
10	Unit 4 Taking Vital Signs (2)		Discussion and Listening		Diary and Report		
11	Unit 5 Taking a Specimen (1)		Discussion and Listening		Diary and Report		
12	Unit 5 Taking a Specimen (2)		Discussion and Listening		Diary and Report		
13	Unit 6 Conducting Medical Examinations (1)		Discussion and Listening		Diary and Report		
14	Unit 6 Conducting Medical Examinations (2)		Discussion and Listening		Diary and Report		
15	Review of Units 4-6		Discussing Diary		Diary Speaking Test		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			○			30	
小テスト・授業内レポート			○			20	
宿題・授業外レポート					○	20	
受講者の発表(プレゼン)					○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Caring for People Michiko Mayuzumi/ Tamiko Miyatsu/ Philip Hinder ISBN 978-4-86312-256-7						
履修条件							
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	オーラルコミュニケーションⅡ (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	1	1年
担当教員	Duncan Wotley						
授業の概要	This course aims to help nursing trainees develop their English speaking and listening skills so that they will be able to communicate effectively as nurses and professionals in a global world.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students can explain their own thoughts to others appropriately					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students have ability to make basic communication in English so that they can cope with globalized society of today					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	Introduction. Unit 7 Assessing Pain (1)		Lecture & students give self-introductions				
2	Weekly Discussion, Unit 7 Assessing Pain (2)		Speaking and Listening			Text Homework	
3	Weekly Discussion, Unit 8 Advising about Medication (1)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
4	Weekly Discussion, Unit 8 Advising about Medication (2)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
5	Weekly Discussion, Unit 9 Improving Patients Mobility (1)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
6	Weekly Discussion, Unit 9 Improving Patients Mobility (2)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
7	Weekly Discussion, Review of Units 7-9		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
8	Weekly Discussion, Unit 10 Maintaining a Good Diet (1)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
9	Weekly Discussion, Unit 10 Maintaining a Good Diet (2)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
10	Weekly Discussion, Unit 11 Caring for Inpatients (1)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
11	Weekly Discussion, Unit 11 Caring for Inpatients (2)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
12	Weekly Discussion, Unit 12 Coping with Emergencies (1)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
13	Weekly Discussion, Unit 12 Coping with Emergencies (2)		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
14	Weekly Discussion, What You Should Do in an Emergency		Research, Speaking and Listening			Text Homework	
15	Review and Test Preparation		Presenting Folio			Text Homework	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			○			30	
小テスト・授業内レポート			○			20	
宿題・授業外レポート					○	20	
受講者の発表(プレゼン)					○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストはオーラルコミュニケーションⅠ[前期]と同じです。						
履修条件							
学習相談・助言体制	メール: dwotley@hotmail.com					授業中の撮影	

授業科目名	オーラルコミュニケーションⅢ (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	小池 祐子	後期	演習	必修	1	2年
授業の概要	リスニング・スピーキングに重点を置いた英語力向上のための訓練を行う。また、自然に通じる発音の習得を目指すトレーニングを行い、オーラルコミュニケーション能力を更に強化する。そして、学習後に受ける小テストにより、リスニング力、語彙力の向上を図る。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	基本的な会話表現ができ、自分の考えや意見を明確に述べることができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	聴く力、話す力のバランス良い向上を通してコミュニケーション力を強化する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容			事前・事後学習(学習課題)			
1	Course Introduction			*Prepare for every class.			
2	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice,			
3	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
4	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
5	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
6	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice, Preparation for Speech 1			
7	Speech 1 (Show & Tell)			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
8	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
9	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
10	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
11	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice, Speech 2 preparation (group work)			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
12	Listening, Speaking, Vocabulary, Pronunciation practice, Speech 2 preparation (group work)			Listening homework, Vocabulary quiz preparation, Pronunciation practice			
13	G-TLP (General Tests of English Language Proficiency)			Preparation for Speech 2			
14	Listening, Speaking, Speech 2 preparation (group work)			Preparation for Speech 2			
15	Speech 2 (Group presentation)			Final exam preparation			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	40	
小テスト			○		○	10	
宿題			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	20	
外部試験			○		○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	未定						
履修条件							
学習相談・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment					授業中の撮影	

授業科目名	英語Ⅳ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	河本 恵美		前期	演習	選択	1	3年
授業の概要	この授業では、毎回違ったテーマを取り上げ、読みのサイクルを通して英文に何度も触れることで、読んだ内容を再構成して自分の言葉で誰かに伝えたり、自分の意見を述べる段階までステップアップします。様々な英語に触れることで、英語力の向上を図り、同時に日常生活にも役立つ英語表現を身に付けることを目標とします。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	豊富な文脈の中で基本的な語句や表現に何度も触れ、日常会話で応用ができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	グループレッスンを通じて、実践力を身に付けることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	Introduction 授業の進め方や、内容を説明 Unit 1 語句	語句・表現・背景知識	Reading の語句、表現の予習				
2	Unit 1: Truths and Falsehoods About Colds	英文を読み、内容を把握し、対話形式で復習	次回学習する語句・表現を調べる				
3	Unit 2: How Are Hurricanes Named?	Reading 内容を把握し、練習問題で再確認する	復習と練習問題				
4	Unit 3: Does Having More Money Make You less Kind?	英文読解、練習問題、対話練習	対話を暗記し、次週発表する				
5	Unit 4: 3,000 Friends and All Alone; The Loneliness of Social Media	グループワーク	Reading の復習と練習問題				
6	Unit 6: "Fake it Till You Make It": The New Psychology of Body Language	英文読解、練習問題、要約	Unit 6 練習問題と次週の予習				
7	Unit 7: CD Baby: Selling Independent Music Online	表現の解説と暗記	次週の予習(Reading)				
8	Unit 8 :Egg Temperature, Reptile Sex and the Dinosaurs	英文読解、練習問題、簡単な会話練習	授業中に指示をした個所の下調べ				
9	Unit 9: Online Privacy and Identity Theft	Reading 内容の把握、練習問題	授業中出来なかった個所を課題とする				
10	Unit 10: Robot Suit HAL	Step1 から Step 7 までを効果的に取り入れ、内容を把握する	授業中に指示をした個所の下調べ				
11	Unit 12: Slenderman:: A Ghost Story for the Internet Age	Reading 内容の把握・練習問題・簡単な会話練習	次週の予習(語句・Reading)				
12	Unit 13: Where Are You From? DNA Testing Can Trace Your Ancestors Back 1,000 Years	グループワーク	授業中に出来なかった個所を課題とする				
13	Unit 14: The Monty Hall Problem: Math Over Common Sense	英文読解・練習問題・対話練習	復習と練習問題				
14	心肺蘇生	マネキンを使った実践演習	定期試験準備				
15	前期の総復習と定期試験対策	授業の総復習	定期試験準備				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			60	
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎		10	
演習				◎	◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト:Reading Cycle 循環型で学ぶ英語リーディング演習 金聖堂 2018年 著者:卯城 祐司他 1,900円(税別)						
履修条件	1ユニットの内容が豊富であるため、自宅学習を充実し、しっかりと準備をして授業に取り組んでください。						
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	英語Ⅳ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	河本 恵美						
授業の概要	この授業では、幅広い分野の英文記事（文化・環境・技術・経済・社会・教育・医療・観光）を取り上げ、英語を学ぶだけでなく、視野を広げられるよう、国内外の様々なトピックの記事を学習します。学生が積極的に授業参加しながら読解力を身に付けると同時に、必要な情報の拾い読みをし、速読訓練や英文記事を読むために必要な文法の基礎知識・表現ルールを学びます。また個々の学生が英字新聞やインターネットのニュース記事を抵抗感なく読めることを目標とします。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	全パートを通じて語句・重要表現・読解力を身に付け、同時に日常生活に役立つフレーズを覚えて、英語で自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	テキストの重要表現を身に付け、国際化する現代社会に対応できるように、外国語を用いて基礎的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Introduction 授業の進め方や、内容を説明。「英字新聞を知ろう！」 Chapter1: Let's Look at Study Abroad Statistics		基本語句・表現を解説		課題: Background Knowledge, Reading		
2	Chapter1: Let's Look at Study Abroad Statistics (教育)		内容の解説、練習問題		課題:練習問題、Reading の下調べ		
3	Chapter2: "Unmeltable" Ice Cream (経済・科学)		英文読解、重要表現暗記		課題: Reading の予習		
4	Chapter4: Therapeutic Yoga! (健康・国際)		グループワーク:記事を読んで、まとめる		課題:Reading と語句の予習		
5	Chapter5: Say Goodbye to Sleepless Nights (社会・健康)		英文読解、練習問題の解答と解説		課題: 次週の内容の予習		
6	Chapter6: Hot and Humid (環境・国際)		語句・英文読解・練習問題		課題: 練習問題と Reading の下調べ		
7	Chapter7: Power of Art Helps Catch Criminals (社会・芸術)		英文読解、文法説明		課題: 練習問題と次週内容の予習		
8	Chapter8: Korean Wave for the SNS Generation (経済)		グループワーク:内容を把握し、発表。		課題: 練習問題と Reading の下調べ		
9	Chapter9: War on Food Waste (社会)		語句・英文読解・練習問題		課題: 練習問題と次週の記事の予習		
10	Chapter10: Lupin the Third Never Ages (文化)		トピックスに関する内容をグループで話し合い、まとめる。		課題: 練習問題と Reading の下調べ		
11	Chapter12: A Lucky Charm for Couples (観光・文化)		語句・英文読解・練習問題		課題: 練習問題と予習		
12	Chapter16: AI Driving Requires New Traffic Laws (技術・法律)		語句・英文読解・練習問題		課題: 練習問題と予習		
13	グループワーク		1つの記事をグループで内容を把握		重要表現の復習と発表の準備		
14	プレゼンテーション		各グループの発表		後期内容の復習		
15	後期授業内容の総復習と試験対策		後期試験内容の確認と復習		後期試験準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	60	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	10	
演習・課題			◎		◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト: Insights 2019 世界を読むメディア英語入門 金聖堂 著者: 村尾純子他 1900円(税別)						
履修条件	1レッスンの内容が豊富であるため、しっかりと課題や準備をして授業に参加してください。						
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	リーディングⅢ (看護学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	4年
担当教員	小池 祐子						
授業の概要	大学院入試を予定している学生や英語の読解力を強化したい学生を対象として、医療・健康に関する記事を読んでいく。同時に、英文読解に不可欠な語彙力、文法力を強化する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	記事を正確に読解し、適切な語彙表現を使って自分の考えや意見が表現できるようになる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	クラスメートとのディスカッションを通して、コミュニケーション力を向上させる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			事前・事後学習(学習課題)			
1	Course introduction, Unit 1 Summer Weight Gain (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
2	Unit 1 Summer Weight Gain (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
3	Unit 2 Sugar in Danger (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
4	Unit 2 Sugar in Danger (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
5	Unit 3 Adult Diapers Outsell Baby Diapers (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
6	Unit 3 Adult Diapers Outsell Baby Diapers (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
7	Unit 4 Medical Robots (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
8	Unit 4 Medical Robots (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
9	Unit 5 Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
10	Unit 5 Coffee Drinking Tied to Lower Risk of Suicide (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
11	Unit 7 Keep Your Heart Moving (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
12	Unit 7 Keep Your Heart Moving (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
13	Unit 8 Teens Light Up E-Cigarettes (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
14	Unit 8 Teens Light Up E-Cigarettes (reading skills & vocabulary)			Reading homework, Reading & Vocabulary test preparation			
15	Review			Final Exam preparation			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○			○	40	
小テスト		○			○	30	
宿題・授業外レポート		○			○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Textbook: Susumu Kondo, Gerald R. Gordon & Minori Yoshioka 『Caregiver』 New Edition, Asahi Press, 2015年, ¥1,900						
履修条件							
学習相談・助言体制	Office hours (announced in class) or by appointment					授業中の撮影	

授業科目名	コリア語Ⅰ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	1年
担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)						
授業の概要	<p>初めて韓国語を学ぶ者を対象として、文字と発音から始める。暗号のように見えたハングルが文字に見えてきた時の喜びを味わう。日本語以外のことば、日本から最も近い国、隣国韓国のことばで、自分を表現すること、他者を理解することの楽しさは、新たな体験となる。</p> <p>また、映画やドラマなどの映像を利用して韓国の文化についても触れる。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・韓国の文字(ハングル)が習得できる。 ・基本的な文法と語彙が習得できる。 ・自己紹介や、基本的な挨拶などよく使う韓国語が表現できるようになる。 <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。 ・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。 ・よく使う表現を覚えることで、韓国語の基本的な文法も自然な形で学べる。 <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。 ・事前・事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			○		○	10	
補足事項	出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト: 金恩愛(2013)『はじめて学ぶ韓国語入門会話』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						授業中の撮影

授業科目名	コリア語Ⅰ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	金 恩 愛(キム・ウネ)		後期	演習	選択	1	1年
授業の概要	コリア語Ⅰ-(1)の単位取得者を対象として、Ⅰ-(2)では簡単な日常会話を学びながら基本的な文法事項を学習する。授業で学ぶ語句・表現を暗記すれば、簡単なコミュニケーションがとれるようになる。また、韓国事情・文化学習として、韓国の映画やドラマ、歌などについても触れる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・発音の変化に慣れ、正しくすらすら読めるようになる。 ・基本的な用言の活用について学習し、会話の中で使いこなせるようになる。 ・よく使う韓国語を中心に簡単な日常会話ができるようになる。 <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。 ・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。 ・よく使う表現を覚えることで、韓国語の基本的な文法も自然な形で学べる。 <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。 ・事前・事後学習としては、毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：金恩愛(2013)『はじめて学ぶ韓国語入門会話』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。					授業中の撮影	

授業科目名	コリア語Ⅱ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)						
授業の概要	コリア語Ⅰ-(2)の単位取得者を対象とし、Ⅱ-(1)では日常会話などに役立つ単語の習得を目標とする。例文を通してたくさんの単語を自分のものにしていく過程で、おのずと文法事項への理解も深まる。また、映画やドラマなどを通して、韓国文化についても学ぶ。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・頻度の高い単語の習得により、様々な場面において韓国語で対応できるようになる。 ・基本的な発音のルールを理解し、瞬時に発音できるようになる。 ・基本的な用言の活用を習得し、会話の中で使いこなせるようになる。 ・ハングル入力とハングルでの資料の検索ができるようになる。 <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。 ・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。 ・自然な韓国語のリズムを身につけてもらうため、徹底した読みの練習を行う。 ・学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。 <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。 ・事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト: 金恩愛(2015)『テーマで学ぶ韓国語初級会話(改訂版)』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						授業中の撮影

授業科目名	コリア語Ⅱ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	金 恩 愛(キム・ウネ)		後期	演習	選択	1	2年
授業の概要	コリア語Ⅱ-(1)の単位取得者を対象とし、Ⅱ-(2)では前期に引き続き、例文を通じた韓国語の習得を目指す。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々な場面で使われる単語の習得により、韓国語の表現が広がる。 身近なテーマについて、自分の考えや気持ちを易しいことばで表現できる。 韓国語検定試験などを検討することにより、自分のレベルを客観的に確認できる。 <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。 課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。 自然な韓国語のリズムを身につけてもらうため、徹底した読みの練習を行う。 学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。 <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。 事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト:金恩愛(2015)『テーマで学ぶ韓国語初級会話(改訂版)』ことばの森						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。					授業中の撮影	

授業科目名	コリア語Ⅲ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	金 恩 愛 (キム・ウネ)						
授業の概要	コリア語Ⅱ-(2)の単位取得者を対象として、日常会話を中心としながら、韓国語で書かれた様々なジャンルの文章を読むことにより読解力を養う。また、韓国語検定試験の問題などを解いてみることで、客観的に自分の韓国語のレベルを確認する。さらに、映画鑑賞などを通して、映画の中の韓国語の表現についても学ぶ。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々なジャンルの読物を楽しむ(詩、童話、小説、エッセイなど)。 ・様々なテーマで会話を楽しむ(自己紹介、趣味、故郷、料理、誕生日、食事作法、日常生活、仕事など)。 ・読み物や会話などを通して韓国語を学びながら、自然な形で韓国の社会と文化についても学べる。 ・韓国語検定試験を解いてみる(発音のルール、語句・表現、文法事項などを確認する)。 <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。 ・課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対応を講じる。 ・学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。 <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。 ・事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：初回の授業にて提示する。 参考文献：油谷幸利・金恩愛(2007)『間違いやすい韓国語表現 100(初級編)』白帝社						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。 授業の前後の時間もぜひ利用してください。						授業中の撮影

授業科目名	コリア語Ⅲ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	金 恩 愛(キム・ウネ)		後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	コリア語Ⅲ-(1)の単位取得者を対象とし、日常会話を中心としながら、韓国語で書かれた様々なジャンルの文章を読むことにより読解力を養う。また、韓国語検定試験の問題などを解いてみることで、客観的に自分の韓国語のレベルを確認する。さらに、映画鑑賞などを通して、映画の中の韓国語の表現についても学ぶ。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	韓国語を用いて基本的なコミュニケーションを行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 様々なジャンルの読み物を楽しむ(詩、童話、小説、エッセイなど)。 様々なテーマで会話を楽しむ(自己紹介、趣味、故郷、料理、誕生日、食事作法、日常生活、仕事など)。 読み物や会話などを通して韓国語を学びながら、自然な形で韓国の社会と文化についても学べる。 韓国語検定試験を解いてみる(発音のルール、語句・表現、文法事項などを確認する)。 <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 毎回の授業では、教師の説明は、必要最低限に止め、学生自らが主体的に学習できる授業運営を目指す。 課題や小テストなどを通して、一人ひとりの学習者の理解度をより具体的に把握し、個別に対策を講じる。 学習者が習った韓国語で表現する楽しさを主体的に体験できる授業運営を目指す。 <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的には、授業時間に集中して主体的に学習すること。 事前・事後学習としては毎回の授業で学んだ重要単語やフレーズを必ず次の授業まで覚えてくること。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	50	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	20	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
授業態度・授業への参加度			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			○		○	10	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：初回の授業にて提示する。 参考文献：油谷幸利・金恩愛(2007)『間違いやすい韓国語表現 100(初級編)』白帝社						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。					授業中の撮影	

授業科目名	中国語Ⅰ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	1年
担当教員	陸麗君						
授業の概要	<p>発音と会話を中心に中国語の基礎知識を身につけるようにする。学生の能動性を引き出すように会話を中心に授業をすすめる。まず、中国語のローマ字表記法のピンインを十分に理解し、かつ正確に発音できるように、正しい発音を聴き、繰り返し練習する。次に文法の基本を学習し、その上で自己紹介・簡単なあいさつ・日常会話などの表現を学習し、中国語で初歩的なコミュニケーションができるようになる。</p> <p>また、中国の社会や文化に関する知識なども適宜に紹介する。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	1、中国語のローマ字表記と発音、2、テキスト（第1～3課まで）の基本文法と会話の習得。					
技能	DP7:コミュニケーション力	1、簡単なあいさつができること、2、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1、1回目～4回目の授業で中国語の発音の規則、ローマ字表記法、アクセントなどを教え、練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：ローマ字表記のピンインの書き方、発音の習得、ピンインを見て発音ができること。 ・方法：中国語の発音の規則とローマ字表記の綴りを教え、練習させる。アクセントを含む発音の総合練習 <p>2、5回目～13回目までの授業では、テキストにある基礎文法を教えた上で、会話を中心に練習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：中国語のbe動詞の使い方、副詞の使い方、疑問詞疑問文、指示代名詞、形容詞述語文、年月日と曜日の表し方、時刻の表し方など。 ・方法：1、文法の説明 2、会話練習の重視 3、朗読の練習など <p>3、14回目はこれまでのおさらい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：いままで習ったものを復習し、練習させる。 ・方法：模擬テストあるいはドリルの形で総復習を行い、問題点を見つける。 <p>4、15回目はみんなの質問に答え、模擬テスト・ドリルの問題を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：模擬テストやドリルの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。 ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、定着を図る。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	70	
授業態度・授業への参加度			○			15	
演習			○		○	15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『好きです♥中国語(文法編)』一汉语，我爱你！— 靳衛衛・中村俊弘・王峰 朝日出版社						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。					授業中の撮影	

授業科目名	中国語 I-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	陸麗君		後期	演習	選択	1	1年
授業の概要	主旨は前期と基本的に同じであるが、会話と文章への理解を中心に、中国語能力をさらに向上させていく。そして、中国に関する知識なども適宜に紹介する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	1、中国語のローマ字表記と発音、2、テキスト（凡そ第4～6課まで）の基本文法の習得					
技能	DP7:コミュニケーション力	1、日常のあいさつができること、2、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1、第1回目～第4回目は第4課の内容をマスターする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：指示代名詞、所有や存在を表す文、短縮疑問文、副詞「有点儿」の使い方をマスターすること。 ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習。ロールプレイで会話練習。 <p>2、第5回目～第8回目は第5課の内容をマスターする</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：選択疑問文、動作の実現を表す「了」、反復疑問文、動詞「喜欢」の使い方 ・方法：繰り返しの練習を行う中で、改めて説明し、問題点を分析する。 <p>3、9回目～13回目は第6課の内容をマスターする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：変化を表す「了」、年齢の言い方などの表現の学習 ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習。ロールプレイで会話練習。 <p>4、14回目はこれまでの復習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：いままで習ったものを復習し、練習させる。 ・方法：模擬テストあるいはドリルの形で総復習を行い、問題点を見つける。 <p>5、15回目はみんなの質問に答え、模擬テスト・ドリルの問題を説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：模擬テストやドリルの練習でわかった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的導する。 ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、定着を図る。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	70	
授業態度・授業への参加度			○		○	15	
演習			○		○	15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『好きです♥中国語(文法編)』一汉语，我爱你！— 靳衛衛・中村俊弘・王峰 朝日出版社						
履修条件	1. 中国語 I の(1)をすでに履修したこと。2. 毎回の授業前に必ず予習、授業後は復習すること。 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。					授業中の撮影	

授業科目名	中国語Ⅱ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	陸 麗 君						
授業の概要	2年次は1年次の基礎の上に、会話と読解を中心に、さらなる会話能力と読解能力の向上を目指す。授業では中国語の基本的な構文方法、名詞、形容詞、動詞の使い方、慣用語などを繰り返し練習することによって学生にマスターしてもらう。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	1、中国語のローマ字表記と発音、2、テキスト（凡そ第7～9課まで）基本文法の習得					
技能	DP7:コミュニケーション力	1、日常のあいさつができること、2、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1、1回目～4回目は第7課の基礎文法を教え、会話練習を通して定着させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：「几、多少」、助動詞「想」、動詞が複数ある文、方法を尋ねる「怎么」の学習 ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習、質問技法やロールプレイなどで会話練習 <p>2、第5回目～8回目は第8課の基礎文法を教え、会話練習を通して定着させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：助動詞「能」「会」(1)の使い方、主述述語文、動作の進行を表す文を学習する ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習、質問技法やロールプレイなどで会話練習 <p>3、第9回目～12回目は第9課の基礎文法を教え、会話練習を通して定着させる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：「请」を使った依頼表現、助動詞「会」(2)、「是…的」、「一下」の使い方を学習する ・方法：中文日訳、日文中訳の形で教えた内容の活用練習。質問技法やロールプレイなどで会話練習。 <p>4、13回目はこれまでの内容の復習と教授範囲の言葉で会話練習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：いままで習った内容を総まとめし、練習させる ・方法：1) グループ分けして、会話練習を行う。2) プリントの練習と模擬テストを行い、問題点を見つける <p>5、15回目は模擬テストとその結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違いやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	70	
授業態度・授業への参加度			○			15	
演習			○			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『好きです♥中国語(文法編)』一汉语，我爱你！— 靳衛衛・中村俊弘・王峰 朝日出版社						
履修条件	1. 中国語Ⅰの(1)、Ⅰの(2)をすでに履修したこと。2. 毎回の授業前に必ず予習、授業後は復習すること。3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。					授業中の撮影	

授業科目名	中国語Ⅱ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	陸 麗 君						
授業の概要	<p>2年次後期は前期の基礎の上に、会話と読解を中心に、会話能力と読解能力のさらなる向上を目指す。中国語の基本的な構文方法、名詞、形容詞、動詞の使い方、慣用語などを繰り返し練習する。初級から中級へのステップとして中国語の慣用語の表現をさらにいろいろ練習する。中国文化と社会に関する知識も増やす。授業内容は授業の進み具合によって調整することがある。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	1、中国語のローマ字表記と発音、2、テキスト（凡そ第10～12課まで）基本文法の習得					
技能	DP7:コミュニケーション力	1、日常のあいさつができること、2、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1、1回目～4回目はテキスト第10課の学習 ・授業内容：1、禁止の表現、経験を表す「过」、原因・理由を尋ねる「怎么」、介詞の使い方 2、本文内容の理解と活用 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習。ロールプレイで会話練習</p> <p>2、5回目～8回目はテキスト第11課の学習 ・授業内容：1、介詞「对」、「离」、動詞の重ね型、目的語を2つとる動詞 2、本文内容の理解と活用 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習。ロールプレイで会話練習</p> <p>3、9回目～12回目はテキスト第12課の学習 ・授業内容：1、比較を表す文、助動詞「可以」と「要」、程度、数量、2、本文内容の理解と活用 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習。ロールプレイで会話練習</p> <p>4、13回目 中国文化と社会に関する文章を読む ・授業内容：中国語の文章を読むことで、語学だけでなく中国の社会事情にも触れる ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習と文章への理解</p> <p>・授業内容：1、いままで習ったものを総復習する。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す ・方法：会話練習やドリルの形で総合復習を行い、問題点を見つける</p> <p>5、14回目 総合復習と模擬テスト ・授業内容：今学期で学んだ内容を総合的に復習する ・方法： 模擬テストを行い、問題点を洗い出す。</p> <p>6、15回目は模擬テストの結果分析 ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える。 ・方法：総合練習を通して今まで習った知識を復習し、印象を深める。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	70	
授業態度・授業への参加度			○			15	
演習			○			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『好きです♥中国語(文法編)』一汉语，我爱你！— 靳衛衛・中村俊弘・王峰 朝日出版社						
履修条件	1. 中国語Ⅰの(1)、Ⅰの(2)をすでに履修したこと。2. 毎回の授業前に必ず予習、授業後は復習すること。3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。					授業中の撮影	

授業科目名	中国語Ⅲ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	陸麗君						
授業の概要	2年生まで習った中国語をベースに、初級レベルから中級レベルへのステップとして中国語の文法、慣用語の表現をさらに学習していく。中国文化と社会に関する知識も増やす。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	1、中国語のローマ字表記と発音、2、テキスト（第13課から15課まで）基本文法の習得と会話への応用。					
技能	DP7:コミュニケーション力	1、日常のあいさつができること、2、教授範囲の言葉で中国語で表現できること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1、1回目～4回目はテキスト第13課の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：1、使役文、因果関係、接続詞、介詞の使い方の理解と活用、2、本文内容の理解と活用 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習、会話練習。 <p>2、5回目～8回目はテキスト第14課学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：1、結果補語、様態補語、逆説を表す構文などの理解と活用、2、本文内容の理解と活用 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習、会話練習。 <p>3、9回目～12回目はテキスト第15課の学習</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：1、状態の持続を表す「着」、可能性を表す「可能」否定疑問文、副詞「就」の理解と活用、2、本文内容の理解と活用 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習、会話練習。 <p>4、13回目 中国語で書かれた中国社会関連の文章を読む</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：1、これまで習った文法、慣用語などの復習。2. 新聞記事、語学の勉強だけではなく、中国の社会事情についても学ぶ ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習 <p>5、14回目は模擬テストの結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：1、いままで習ったものをプリントにまとめ、練習させる ・方法：模擬テストの形で総合復習を行い、問題点を見つける <p>6、15回目は模擬テストの結果分析</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	70	
授業態度・授業への参加度			○			15	
演習			○			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『好きです♥中国語(文法編)』一汉语, 我爱你! — 靳衛衛・中村俊弘・王峰 朝日出版社						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。					授業中の撮影	

授業科目名	中国語Ⅲ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	陸麗君		後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	<p>1. 3年生春学期まで習った中国語をベースに、中国語の文法、慣用語の表現をさらに学習していき、中級。 2. 適宜に中国の社会問題に関する中国語の文章を紹介し、読解力の向上及び現代中国に対する理解を深める。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	1、中国語のローマ字表記と発音、2、テキスト（第16から第18課まで）基本文法の習得					
技能	DP7:コミュニケーション力	1、日常のあいさつができること、2、教授範囲の言葉で日常のことを簡単に表現できること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1、1回目～4回目はテキスト第16課の学習 ・授業内容：方向補語、存現文、仮定を表す構文(1)、介詞の使い方 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習。会話練習</p> <p>2、5回目～8回目はテキスト第17課の学習 ・授業内容：処置式文、除外・補充を表す構文、越～越…の構文、副詞「才」の「使い方」 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習、会話練習</p> <p>3、9回目～12回目はテキスト第18課の学習 ・授業内容：可能補語、仮定を表す構文(2)、又～又…の構文、動詞「祝」の使い方 ・方法：中文日訳、日文中訳の形による活用練習、会話練習</p> <p>4、13回目は中国関連の報道や新聞記事を読む ・授業内容：1.新聞記事を読むことで、語学の勉強だけではなく、中国の社会事情についても学ぶ</p> <p>5、14回目は総復習 ・授業内容：1、いままで習ったものをおさらいし、練習する。 2、授業で発表し、表現力の向上を目指す ・方法：模擬テストの形で総合復習を行い、問題点を見つける</p> <p>6、15回目は模擬テストの結果分析 ・授業内容：1、プリントの練習で分かった学生の間違えやすい問題をまとめ、重点的に指導する。2、質問に答える ・方法：総合練習を通していままで習った知識を復習し、印象を深める</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		◎	70	
授業態度・授業への参加度			○			15	
演習			○			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『好きです♥中国語(文法編)』一汉语，我爱你！— 靳衛衛・中村俊弘・王峰 朝日出版社						
履修条件	1. 必ず辞書を持つこと、 2. 毎回の授業前に必ず予習しておくこと、 3. 積極的に授業での練習に参加すること。						
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。					授業中の撮影	

授業科目名	仏語 I - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	田中真理		前期	演習	選択	1	1年
授業の概要	初級文法の学習を第一の目標とするが、同時に視聴覚教材を活用し、実践的に読む・聞く・話す・文を書く、それぞれの力をバランスよく養っていく。また、日本とフランス両国の比較などを通して、文化や社会の理解に努める。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	教科書に収録されている文や単語は正しく発音でき、意味も分かる、というレベルまで練習する。					
技能	DP7:コミュニケーション力	既習の文を使って教室の中で実践的に相手に質問したり、質問に答えたりできることを目指す。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	0課	フランス語・フランス文化を知る：発音など	単語を発音するなど		付属CDを聞く。予習復習は必ず行う。		
2	1課	国籍を言う	文法学習(練習問題を含む) 会話文の理解・発音練習		同上		
3	2課	名前・職業を言う	同上		同上		
4	0-2課の補足		同上		同上		
5	3課	持ち物を尋ねる	同上		同上		
6	4課	趣味を語る	同上		同上		
7	1-4課の総復習		同上		必ず予め問題を解き予習しておく		
8	5課	誰なのか尋ねる	同上		付属CDを聞く。予習復習は必ず行う。		
9	6課	したいことを尋ねる	同上		同上		
10	5-6課 補足		同上		同上		
11	7課	住んでいる所を言う	同上		同上		
12	8課	何をしているのか尋ねる	同上		同上		
13	5-8課の総復習		同上		必ず予め問題を解き予習しておく		
14	9課	家族を語る	同上		同上		
15	1-9課の総復習		同上		理解できないことを残さない努力		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎			50	
小テスト・宿題					◎	30	
授業への参加度						20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：藤田祐二 著 Pascal au Japon 白水社 必携書：日仏辞書						
履修条件	3分の1以上欠席(公欠は除く)の場合は、原則として失格とし成績判定の対象外とする。						
学習相談・助言体制	授業の内容に関して：授業中はその場で質問、または授業後教室内で質問に来るか名前を明記したメモなど(メモには後日回答)						授業中の撮影

授業科目名	仏語 I - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	田中真理		後期	演習	選択	1	1年	
授業の概要	前期と同じ。							
学生の到達目標								
思考・判断・表現	DP4:表現力	CDを活用するなどして、聞き取りや発音の能力を強化する。文を、意味を理解しつつ暗唱することを通して、自然に構文が身につくレベルまで努力する。						
技能	DP7:コミュニケーション力	既習の文をベースに簡単な作文や会話ができることを目指す。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	10課	年齢を言う	仏語 I - (1)と同じ。以下すべて同様。		仏語 I - (1)と同じ			
2	11課	時刻を言う						
3	9-11課の総復習							
4	12課	紹介する						
5	13課	日常生活の表現						
6	12-13課 補足							
7	14課	量を表す						
8	15課	天候を言う						
9	12-15課の総復習							
10	16課	比較する						
11	17課	過去のことを言う						
12	17課	続き						
13	18課	未来のことを言う						
14	16-18課の総復習							
15	後期学習範囲の復習			まとめ		自分で予め復習して臨む。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験			◎			50		
小テスト・宿題					◎	30		
授業への参加度						20		
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等	テキスト: 仏語 I - (1) のテキストを引き続き使用する			日仏辞書は必携				
履修条件	仏語 I - (1) と同じ							
学習相談・助言体制	仏語 I - (1) と同じ					授業中の撮影		

授業科目名	仏語Ⅱ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	山本和道						
授業の概要	<p>プリントを使って、フランス語基礎文法の学習を続ける。それが終わったら、現代フランスを説明している文章『時事フランス語』を講読する。練習問題にも取り組み、フランス語の仕組みを習得する。なお、一年次に学習したことの復習も行うので、一年次に使用した教科書も持参すること。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	仏語を組み立てている法則の概要を修得すること。読み、書き、聞き、話すという、フランス語の総合的運用能力を可能にする、基礎的なフランス語の力を身に付けること。					
技能	DP7:コミュニケーション力	現代フランスについて語っている文章を講読して、仏語の文章を読む力を付けるとともに、現代フランス社会の諸相を知る者となること。フランスと比較して、日本、日本文化について語るができること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	フランス語基礎文法(1)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
2	フランス語基礎文法(2)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
3	フランス語基礎文法(3)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
4	フランス語基礎文法(4)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
5	フランス語基礎文法(5)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
6	フランス語基礎文法(6)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
7	エマニュエル・マクロン 前進!(1)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
8	エマニュエル・マクロン 前進!(2)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
9	エマニュエル・マクロン 前進!(3)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
10	フランス極右勢力の后退(1)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
11	フランス極右勢力の后退(2)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
12	フランス極右勢力の后退(3)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
13	EU都市ストラスブール(1)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
14	EU都市ストラスブール(2)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
15	EU都市ストラスブール(3)		練習問題、講読		辞書を引く・暗記する。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		○	80	
小テスト・授業内レポート			◎		○	10	
授業態度・授業への参加度			◎		○	10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『時事フランス語 2019年版』、加藤晴久他、朝日出版社						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	分からないことがあったら、授業中でも良いし授業後でも良いので、質問をすること。					授業中の撮影	

授業科目名	仏語Ⅱ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	山本和道		後期	演習	選択	1	2年
授業の概要	現代フランスを説明している文章『時事フランス語』を講読する。練習問題にも取り組み、フランス語の仕組みを習得する。なお、一年次に学習したことの復習も行うので、一年次に使用した教科書も持参すること。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	仏語を組み立てている法則の概要を修得すること。読み、書き、聞き、話すという、フランス語の総合的運用能力を可能にする、基礎的なフランス語の力を身に付けること。					
技能	DP7:コミュニケーション力	現代フランスについて語っている文章を講読して、仏語の文章を読む力を付けるとともに、現代フランス社会の諸相を知る者となること。フランスと比較して、日本、日本文化について語ることができること。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	シモーヌ・ヴェーユ(1)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
2	シモーヌ・ヴェーユ(2)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
3	シモーヌ・ヴェーユ(3)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
4	ロラン・ギャロス(1)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
5	ロラン・ギャロス(2)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
6	ロラン・ギャロス(3)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
7	サッカー女子ワールドカップ(1)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
8	サッカー女子ワールドカップ(2)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
9	サッカー女子ワールドカップ(3)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
10	食事のちゃりんこ宅配(1)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
11	食事のちゃりんこ宅配(2)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
12	食事のちゃりんこ宅配(3)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
13	社会貢献(1)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
14	社会貢献(2)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
15	社会貢献(3)		練習問題、講読			辞書を引く・暗記する。	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎		○	80	
小テスト・授業内レポート			◎		○	10	
授業態度・授業への参加度			◎		○	10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『時事フランス語 2019年版』、加藤晴久他、朝日出版社						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	分からないことがあったら、授業中でも良いし授業後でも良いので、質問をすること。					授業中の撮影	

授業科目名	独語 I - (1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	演習	選択	1	1年	
担当教員	古賀正之							
授業の概要	現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。							
学生の到達目標								
思考・判断・表現	DP4:表現力	自分の意思を伝えるために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。						
技能	DP7:コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)			
1	ドイツ語で挨拶ができるようになる。		パートナー練習と役割演技		基本単語・基本表現の暗記			
2	ドイツ語で自己紹介ができるようになる。		学生発表への助言と指導		基本文法確認レポート提出			
3	他人の情報(名前、出身、年齢)を尋ねることができるようになる。		提出課題の添削と評価		以下同様			
4	主語に合わせて動詞の語尾を正しく変化できるようになる。		以下同様					
5	du と Sie の違いを理解する。							
6	不規則変化動詞の変化を覚える。							
7	自分の趣味について語るができるようになる。							
8	趣味について尋ねることができるようになる。							
9	補足疑問文と決定疑問文の違いを理解する。							
10	否定疑問文に答えられるようになる。							
11	分離動詞の成り立ちと使い方を理解する。							
12	一日の予定を表現できるようになる。							
13	一週間の予定を表現できるようになる。							
14	時刻・日付表現を覚える。							
15	人に何かを頼む表現・助言する表現を覚える。							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験				◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート							5	
宿題・授業外レポート						○	10	
授業態度・授業への参加度							5	
受講者の発表(プレゼン)				◎		◎	40	
補足事項		上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して平常点(60%)として評価されます。						
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等		佐藤修子・下田恭子・岡崎朝美「新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」三修社 2017年 (教科書は必要、辞書や参考書は不要)						
履修条件		特になし。						
学習相談・助言体制		授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。					授業中の撮影	

授業科目名	独語 I - (2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	古賀正之		後期	演習	選択	1	1年	
授業の概要	<p>現代のドイツはEU（ヨーロッパ連合）の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。</p>							
学生の到達目標								
思考・判断・表現	DP4:表現力	自分の意思を伝えるために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。						
技能	DP7:コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容			授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	名詞に性の区別があることを理解する。			パートナー練習と役割演技		基本単語・基本表現の暗記		
2	名詞の性に応じた冠詞(1・4格)をつけて表現できるようになる。			学生発表への助言と指導		基本文法確認レポート提出		
3	人称代名詞の性による使い分けを理解する。			提出課題の添削と評価		以下同様		
4	大きさや重さなどの形容詞を覚える。			以下同様				
5	複数形の種類と作り方を覚える。							
6	話法の助動詞の変化と使い方を理解する。							
7	話法の助動詞を使って、可能・禁止などを表現できるようになる。							
8	店で簡単な買い物(値段を聞く、要望を伝える)ができるようになる。							
9	定冠詞類「どの」(welcher)や「この」(dieser)が使えるようになる。							
10	指示代名詞の変化と使い方を理解する。							
11	不定代名詞 man の用法を覚える。							
12	形式上の主語 es を含む表現を覚える。							
13	家族用語を覚える。							
14	職業名を覚える。							
15	性格や体形等を表現する形容詞を覚える。							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
成績評価方法								
定期試験			◎		◎	40		
小テスト・授業内レポート						5		
宿題・授業外レポート					○	10		
授業態度・授業への参加度						5		
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	40		
補足事項		上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して平常点(60%)として評価されます。						
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等		佐藤修子・下田恭子・岡崎朝美「新・スツェーネン1 場面で学ぶドイツ語」三修社 2017年 (教科書は必要、辞書や参考書は不要)						
履修条件		特になし。						
学習相談・助言体制		授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。					授業中の撮影	

授業科目名	独語Ⅱ-(1)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	演習	選択	1	2年	
担当教員	古賀正之							
授業の概要	現代のドイツはEU(ヨーロッパ連合)の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。							
学生の到達目標								
思考・判断・表現	DP4:表現力	自分の意思を伝達するために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。独語Ⅰの復習・定着に加え、一層の表現力を習得。						
技能	DP7:コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	所有冠詞の1格、3格、4格の形と使い方を覚える。		パートナー練習と役割演技		基本単語・基本表現の暗記			
2	人称代名詞の3格の形と使い方を覚える。		学生発表への助言と指導		基本文法確認レポート提出			
3	否定詞 nicht と否定冠詞 kein の区別ができるようになる。		提出課題の添削と評価		以下同様			
4	性格や体型等を表現する形容詞を覚える。		以下同様					
5	主文・副文の用法を理解する。							
6	従属接続詞と接続詞的副詞の使い方を覚える。							
7	前置詞の格支配について理解する。							
8	3格・4格支配の前置詞の使い分けを覚える。							
9	行き先・場所による前置詞の使い分けを学習する。							
10	動詞の3基本形について理解する。							
11	過去のことを表現できるようになる。							
12	現在完了形の作り方と用法を覚える(1)。							
13	現在完了形の作り方と用法を覚える(2)。							
14	完了の助動詞 sein と組み合わせる動詞を覚える。							
15	今学期の授業の総まとめ。							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験				◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート							5	
宿題・授業外レポート						○	10	
授業態度・授業への参加度							5	
受講者の発表(プレゼン)				◎		◎	40	
補足事項		上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して平常点(60%)として評価されます。						
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等		昨年度の独語Ⅰの教科書を継続使用します。						
履修条件		特になし。						
学習相談・助言体制		授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。					授業中の撮影	

授業科目名	独語Ⅱ-(2)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	古賀正之		後期	演習	選択	1	2年
授業の概要	現代のドイツはEU(ヨーロッパ連合)の中心として、政治、経済及び文化・スポーツなど様々な分野において重要な役割を果たしています。ヨーロッパで最も多くの人々が日常的に使用しているドイツ語を学ぶことを通じて、ドイツ語圏をはじめ、ヨーロッパの人々の言葉と文化に関心と理解を深めていきます。また、必要に応じて、映像によってドイツ語圏の人々の生活を紹介します。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	自分の意思を伝えるために、ドイツ語の日常的な表現や簡単な言い回しを用いて会話することができる。ドイツ語の短い語句や文を書くことができる。独語Ⅰの復習・定着に加え、一層の表現力を習得。					
技能	DP7:コミュニケーション力	自分や相手の個人的な情報や日常的な出来事について、ゆっくりとしたスピードであれば、聞き取ったり、答えたり、説明したりすることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	過去のことを表現できるようになる。(前学期の復習)	パートナー練習と役割演技	基本単語・基本表現の暗記				
2	現在完了形の作り方と用法を覚える。(前学期の復習)	学生発表への助言と指導	基本文法確認レポート提出				
3	過去形の作り方と用法を覚える。	提出課題の添削と評価	以下同様				
4	過去形と現在完了形の用法を区別できるようになる。	以下同様					
5	sein/haben/話法の助動詞の過去形を覚える。						
6	旅行先を表現する際に用いる前置詞を覚える。						
7	ホテルの部屋を予約できるようになる。						
8	駅で切符を買うことができるようになる。						
9	天気表現を覚える。						
10	受動態の作り方と用法を覚える。						
11	形容詞の比較級の作り方と用法を覚える。						
12	形容詞の最上級の作り方と用法を覚える。						
13	形容詞の付加語的用法について理解する。						
14	店で品物の色、サイズ、価格などを比較できるようになる。						
15	今学期の授業の総まとめ。						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
定期試験			◎		◎	40	
小テスト・授業内レポート						5	
宿題・授業外レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度						5	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	40	
補足事項	上記「定期試験」(40%)以外の項目は、合計して平常点(60%)として評価されます。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	昨年度の独語Ⅰの教科書を継続使用します。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間内及び休み時間に学生が個別に相談し、助言を受ける時間を設定しています。					授業中の撮影	

授業科目名	海外語学実習事前指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期集中	演習	選択	1	人社1~4年 看護1~4年
授業の概要	<p>This is an intensive preparation course for all students participating in the UK Study Programme (海外語学実習). Objectives: To prepare students for (1) living with a UK homestay family, (2) studying English at Bath College, (3) interacting with the local community in the City of Bath. This course is compulsory for all students participating in 海外語学実習. Any student absent from 海外語学実習事前指導 will not receive a credit for 海外語学実習 or a share of any funds awarded to the UK Study Programme. (欠席した場合、海外語学実習の単位も修得できません。また、プログラムへの補助の配分もありません。)</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to give feedback in groups in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	Topic: Doing a homestay	Lecture		Review			
2	Topic: Advice on interacting with British people	Lecture		Review			
3	Assignment 1: Compiling conversation topics	Assignment		Homework 1			
4	Topic: Restaurants and shopping	Lecture		Review			
5	Topic: Budgeting in the UK	Lecture		Review			
6	Assignment 2: Compiling conversation questions	Assignment		Homework 2			
7	Topic: Critical thinking in the classroom, part 1	Lecture		Review			
8	Topic: Critical thinking in the classroom, part 2	Lecture		Review			
9	Assignment 3: Making a personal history portfolio	Assignment		Homework 3			
10	Topic: Talking about Japan/the UK	Lecture		Review			
11	Topic: Personal safety while in the UK	Lecture		Review			
12	Assignment 4: Teaching an aspect of Japanese culture	Assignment		Homework 4			
13	Topic: Final travel preparations	Lecture		Review			
14	Topic: Dealing with health issues/other problems	Lecture		Review			
15	Assignment 5: Keeping a daily diary	Assignment		Homework 5			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート			◎		○	50	
授業態度・授業への参加度			◎		○	50	
実務経験を生かした授業	The teacher will utilize his experience as a study-tour leader.						
テキスト・参考文献等	All materials will be the teacher's own (no textbook is necessary).						
履修条件	海外語学実習の参加者数の上限は12名とします。 海外語学実習を履修する学生は必修です。						
学習相談・助言体制	Advice from the teacher will be accessible via email. Appointments may be made to speak with the teacher in his office (building 1, 3rd floor).					授業中の撮影	

授業科目名	海外語学実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期	演習	選択	1	人社1~4年 看護1~4年
授業の概要	<p>The accredited UK Study Programme runs every year in the summer. In 2019, FPU students will stay in Bath in homestay accommodation for a total of 14 nights. Participating students will receive a total of 30 hours of English language instruction at Bath College, plus 5 hours of additional study with Gale. The classes will (1) focus on the four skills of speaking, listening, reading and writing; (2) feature pair work and group work, and (3) encourage the asking and answering of questions and the expressing of opinions. The classes will also prepare students for the day trips to places of cultural interest they will undertake on each of the Saturdays they are in the UK. Students will be expected to keep a daily diary in English and to participate in a group presentation after returning to Japan. The general course objective is to facilitate the development of the students into global citizens. Before going to the UK, students will take a 22.5-hour preparation course (海外語学実習事前指導), attendance for which is compulsory for all students participating in the UK Study Programme.</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students are required to participate in a group presentation in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students are expected to show improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	Depart Fukuoka. Arrive LHR airport. Enter Bath homestay.	<p>All lessons will be conducted at Bath College. Classes will focus on the four skills of speaking, listening, reading and writing as well as grammar, vocabulary, pronunciation, and preparation for day trips (to places of cultural interest such as Oxford, Stonehenge and Lacock*). On the day trips, the students will be expected to ask questions to the course teacher acting as guide and chaperone. Students will also be expected to interact with the local community and with their homestay families in Bath.</p>	<p>Before arriving in the UK, all students will take a 22.5-hour preparation course (海外語学実習事前指導). While in the UK, each student will be expected to (1) prepare in advance for the following day's activities (by completing any homework assignments set by the Bath College tutor), and (2) keep a daily diary that will be assessed post-course. For further assessment purposes, each student will also participate in a group presentation after returning to Japan.</p>				
2	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
3	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
4	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
5	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
6	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
7	Day trip (destination to be decided*).						
8	Free time in Bath.						
9	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
10	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
11	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
12	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
13	Lesson at Bath College. Evening with homestay family.						
14	Day trip (destination to be decided*).						
15	Depart Bath. Depart UK via LHR airport.						
16	Arrive Fukuoka.						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート(diary)			◎		○	50	
受講者の発表(プレゼン)			◎		○	50	
実務経験を生かした授業	The teacher will utilize his experience as a study-tour leader.						
テキスト・参考文献等	All study materials will be provided by the course teacher and Bath College tutor.						
履修条件	海外語学実習の参加者数の上限は12名とします。海外語学実習事前指導を履修していること。						
学習相談・助言体制	While in the UK, the teacher will provide all necessary support to participating students. Prior to departure, advice from the teacher will be accessible via email. Appointments may be made to speak with the teacher in his office (building 1, 3rd floor).					授業中の撮影	○

授業科目名	Introduction to studying in English		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		前期	演習	選択	1	1年
授業の概要	This an elective course for students interested in developing the skills and study techniques necessary for effective participation in university tutorials conducted in English. These skills and study techniques will be transferable to university tutorials in the student's own language or indeed any other language. The course will approximate an English-language immersed learning environment.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	Students will be required to make a group presentation in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in terms of their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	Choosing and applying for a university course	Tutorial (seminar)		Homework 1			
2	Personal Development Planning (PDP)	Tutorial (seminar)		Homework 2			
3	Time-management and goal-setting	Tutorial (seminar)		Homework 3			
4	Taking lecture notes (1)	Tutorial (seminar)		Homework 4			
5	Taking lecture notes (2)	Tutorial (seminar)		Homework 5			
6	Finding information and doing research	Tutorial (seminar)		Homework 6			
7	Reading, writing and thinking critically	Tutorial (seminar)		Homework 7			
8	Essay/report planning and writing	Tutorial (seminar)		Homework 8			
9	Essay/report planning and writing	Tutorial (seminar)		Homework 9			
10	Essay/report planning and writing	Tutorial (seminar)		Homework 10			
11	Plagiarism and referencing	Tutorial (seminar)		Homework 11			
12	Taking seminars and expressing one's opinion orally	Tutorial (seminar)		Homework 12			
13	Strategies for exam revision and exam taking	Tutorial (seminar)		Homework 13			
14	Making an oral presentation (using PowerPoint (1))	Tutorial (seminar)		Homework 14			
15	Making an oral presentation (using PowerPoint (2))	Tutorial (seminar)		Review			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート			◎			33	
授業態度・授業への参加度					○	33	
受講者の発表(プレゼン)					◎	34	
実務経験を生かした授業	The teacher will create a study environment similar to that he experienced as an undergraduate in the UK.						
テキスト・参考文献等	All study materials will be provided by the teacher. No textbook is necessary.						
履修条件	This course is an elective course.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate and take responsibility for their own development.					授業中の撮影	

授業科目名	情報処理の基礎と演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	2	1年
担当教員	柴田雅博						
授業の概要	<p>本学専門教育を受ける際に必修となる情報基礎スキルの習得を目的とする。 レポート作成や課題発表に必要な基礎知識として、パソコンの基本操作、Word を使った文書作成、Excel を使った表計算・グラフ作成、PowerPoint を使った発表資料の作成を学習する。また、インターネットを利用し効率的に情報検索を行う方法を学習する。そのほか、ICT 機器やインターネットの利用に対する基礎的なセキュリティ知識を学習する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	ICT 機器および一般的なソフトウェアに関する基礎知識を身に付ける。ICT 機器を安全に活用するための基礎的なセキュリティ知識を身に付ける。					
技能	DP8:情報リテラシー	パソコンの基本操作・印刷が問題なく行える。Word, Excel, PowerPoint を自由に使いこなすことができる。インターネットなどを使って効率的に情報を検索することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション: Windows の基本操作、電子メール、e-learning、印刷	オリエンテーション 学内情報システム利用演習	次週までに学内ネットワークサービスの設定を実施				
2	インターネットの利用: 電子メールの書き方、インターネットの概要、Web 検索、その他ネットワークサービスの利用	講義とメール作成演習	事前に教科書の該当箇所を予習しておくこと。 ほとんどの時間で課題を設ける。課題は締め切り(基本的に次週の授業の前日)までに完成させ提出すること。				
3	情報セキュリティ: 情報機器利用に対するトラブル、情報セキュリティ対策、ネットリテラシー、著作権など	講義と教材動画の閲覧					
4	Word を使った文書作成: 文字入力、文字修飾、印刷、保存	Word での文書作成演習					
5	Word を使った文書作成: 書式設定、文書の体裁(1)	Word での文書作成演習					
6	Word を使った文書作成: 文書の体裁(2)	Word での文書作成演習					
7	Word を使った文書作成: 表と図の挿入	Word での文書作成演習					
8	PowerPoint を使った発表資料の作成: 基本的なスライドの作成	PowerPoint での資料作成演習					
9	PowerPoint を使った発表資料の作成: 図表の挿入、図形の挿入	PowerPoint での資料作成演習					
10	PowerPoint を使った発表資料の作成: アニメーション	PowerPoint での資料作成演習					
11	PowerPoint を使った発表資料の作成: 写真の編集、飾り文字	PowerPoint によるポスター作成演習 ※ポスター作成に使用するため事前に写真を準備					
12	Excel を使った表計算: 表の作成	Excel を使った表の作成演習					
13	Excel を使った表計算: 関数	Excel の関数の演習					
14	Excel を使った表計算: グラフ	Excel を用いたグラフ作成演習					
15	Excel を使った表計算: データベースとしての利用	Excel のデータベース利用演習					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度		○		◎	○	40	
その他		○		○	◎	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト:『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』矢野文彦(オーム社)						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	○

授業科目名	情報処理応用演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	1年
担当教員	柴田雅博						
授業の概要	<p>「情報処理の基礎と演習」では、Microsoft Office を中心に本学専門教育を受けるのに必要な基礎技能を身に付けた。本演習では、より専門性を深めて Office ソフトを利用する技能を身に付ける。Word, Excel の使い方についてさらに掘り下げ、またデータベースソフトである Access の使用法を学習する。また、VBA マクロの基本についても学習する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	調査データをどのように分析し、また分析データをどのように表現するか、その方法を修得している。 データベースの基礎知識およびデータベース構築・検索に関する基本操作について理解している。					
技能	DP8: 情報リテラシー	Word で目次等、論文の体裁を整えることができる。 Excel を用いたデータ分析、データ可視化を実践できる。 Access を用いてデータベース構築を実践できる。 マクロを使って作業の効率化を図ることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	Word: アウトラインと目次		Word による文書作成演習		<p>事前に教科書の該当箇所を予習しておくこと。 ほとんどの時間で課題を設ける。課題は締め切り(基本的に次週の授業の前日)までに完成させ提出すること</p>		
2	Word: セクションと書式設定		Word による文書作成演習				
3	Word: 相互参照、文献目録		Word による文書作成演習				
4	Excel: グラフ応用、印刷設定		Excel で、分析ツールを用いた統計分析とグラフ作成演習				
5	Excel: 関数応用		より高度な関数を利用した Excel の表計算演習				
6	Excel: ピボットテーブル		Excel のピボットテーブル作成演習				
7	Excel: マクロの作成と実行		Excel マクロの作成演習				
8	Excel: VBA マクロ(1)		Excel VBA によるプログラミング演習				
9	Excel: VBA マクロ(2)		Excel VBA によるプログラミング演習				
10	Excel: VBA マクロ(3)		Excel VBA によるプログラミング演習				
11	Access: データベースの作成		Access によるデータベース操作演習				
12	Access: 複数のテーブルの取り扱い		Access によるデータベース操作演習				
13	Access: クエリの作成		Access によるデータベース操作演習				
14	Access: フォームの利用		Access によるデータベース操作演習				
15	Access: 検索結果の出力		Access によるデータベース操作演習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
授業態度・授業への参加度			○		◎	○	40
演習			○		○	◎	60
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト: 矢野文彦, 『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』, オーム社, 2013 参考図書: 川上恭子, 『Excel VBA でデータ分析』, マイナビ, 2015、 元木洋子, 『ひと目でわかる Access2013』, 日経 BP, 2013</p>						
履修条件	「情報処理の基礎と演習」を受講していること						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。						授業中の撮影

授業科目名	情報処理演習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	必修	1	1年
担当教員	原田直樹・四戸智昭						
授業の概要	パソコンを用いて、レポート作成やプレゼンテーション時に必要なソフトウェアにおける基本的な操作方法を習得するとともに、インターネットに代表される情報通信技術やその利用方法を学ぶ。加えて、それら情報に対するメディアリテラシーを身に付ける。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	パソコンを活用して、情報をわかりやすくまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	各自の関心事について、主体的に調べ、まとめ、プレゼンテーションすることができる。					
技能	DP8:情報リテラシー	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション-大学 Web メール、eラーニング、周辺機器の取扱	講義・演習	【事前】アカウント情報 (ID やパスワード) を確認しておく。テキスト 1~34 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
2	ワープロソフト (Word) ①-書式設定	講義・演習	【事前】テキスト 35~65 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
3	ワープロソフト (Word) ②-チラシを作ってみよう	講義・演習	【事前】テキスト 66~103 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
4	表計算ソフト (Excel) ①-簡単な数値演算	講義・演習	【事前】テキスト 105~112 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
5	表計算ソフト (Excel) ②-関数の活用	講義・演習	【事前】テキスト 113~155 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
6	プレゼンテーションソフト (Power Point) ①-アニメーションの設定	講義・演習	【事前】テキスト 179~192 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
7	プレゼンテーションソフト (Power Point) ②-効果的なスライドの作成	講義・演習	【事前】テキスト 193~236 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
8	インターネット概論	講義・演習	【事前】テキスト 251~271 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
9	メディアリテラシー	講義・演習	【事前】テキスト 272~291 ページを読んでおく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
10	情報検索と集約①	講義・演習	【事前】政府統計の総合窓口 (e-Stat) にアクセスし、どのような統計データがあるのか見ておく。 【事後】eラーニングで授業中に提示された課題提出をおこなう。				
11	情報検索と集約②	演習・レポート	【事前】e-Stat 等を活用して、関心のある保健福祉に関するテーマで情報を収集する。 【事後】上記テーマでプレゼンテーションスライドを作成し、提出する。				
12	プレゼンテーション発表	演習・課題発表	【事前】テキスト 237~250 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。プレゼンテーション課題は事前に提出しておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。				
13	プレゼンテーション発表	演習・課題発表	【事前】テキスト 237~250 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。				
14	プレゼンテーション発表	演習・課題発表	【事前】テキスト 237~250 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。				
15	プレゼンテーション発表・まとめ	演習・課題発表	【事前】テキスト 237~250 ページを読んでおく。発表資料の準備をしておく。 【事後】自身や他者の発表を振り返り、プレゼンテーション技術の向上についてまとめておく。授業全体を振り返り、学んだ技術を今後の大学での学習に生かせるようにしておく。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート			○		◎	20	
授業態度・授業への参加度			○	◎		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎	○	○	20	
演習				◎	○	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル (noa 出版)						
履修条件							
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。					授業中の撮影	○

授業科目名	情報処理演習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	1年
担当教員	原 田 直 樹						
授業の概要	パソコンを用いて、Windows とともに、レポート作成やプレゼンテーション時に必要な代表的なアプリケーションソフトの基本的な操作方法を学ぶ。具体的には Word を使った文書作成、Excel を使った表計算及びグラフの作成、PowerPoint を使ったプレゼンテーション資料の作成方法等を修得する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	Word や Excel、PowerPoint 等のアプリケーションを活用して、情報をわかりやすくまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	与えられた課題について、主体的に取り組むことができる。					
技能	DP8:情報リテラシー	目的に適合するように情報収集するとともに、得た情報を使用することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	オリエンテーション 基本的な PC 操作	講義・演習	【事前】アカウント情報 (ID やパスワード) を確認しておく。テキスト 1~34 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
2	ワープロソフト (Word) ①-入力、印刷、保存	講義・演習	【事前】テキスト 35~65 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
3	ワープロソフト (Word) ②-書式設定	講義・演習	【事前】テキスト 66~103 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
4	表計算ソフト (Excel) ①-入力、簡単な計算表の作成	講義・演習	【事前】テキスト 105~112 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
5	表計算ソフト (Excel) ②-グラフの作成	講義・演習	【事前】テキスト 113~155 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
6	プレゼンテーションソフト (Power Point) ①-入力、スライドの作成	講義・演習	【事前】テキスト 179~192 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
7	プレゼンテーションソフト (Power Point) ②-オブジェクトの取扱	講義・演習	【事前】テキスト 193~236 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
8	インターネットの利用①-セキュリティと情報モラル	講義・演習	【事前】テキスト 251~291 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
9	インターネットの利用②-Web ページ検索の方法、メディアリテラシー	講義・演習	【事前】関心のある保健福祉に関するテーマで Web ページを閲覧し、情報を収集する 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
10	インターネットの利用③-統計データ検索と加工	講義・演習	【事前】政府統計の総合窓口 (e-Stat) にアクセスし、どのような統計データがあるのか見ておく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
11	レポート作成のルールと必要な技術①-著作権とワードでの文献リストの作成	講義・演習	【事前】テキスト 96~103 ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
12	レポート作成のルールと必要な技術②-エクセルの活用	講義・演習	【事前】テキスト 88~95 ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
13	プレゼンテーション技術①-動画作成	講義・演習	【事前】動画作成に使用する写真 (jpeg) や音楽 (mp3) を準備する。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
14	プレゼンテーション技術②-伝えるための発表の技術	講義・演習	【事前】テキスト 237~250 ページを読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。				
15	まとめ-新聞の作成	講義・演習	【事前】テキスト 35~155 ページを再度読んでおく。 【事後】授業中に提示された課題を e ラーニングで提出する。授業全体を振り返り、学んだ技術を今後の大学での学習に生かせるようにしておく。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
宿題・授業外レポート			○		◎	20	
授業態度・授業への参加度			○	◎		20	
演習				◎	○	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	イチからしっかり学ぶ!Office 基礎と情報モラル (noa 出版)						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。					授業中の撮影	○

授業科目名	保 健 理 論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	山 口 裕 嗣		前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	健康的な生活を実現するための知識や態度を身につけることを目的として、運動・栄養・休養などの観点から、健康に関する話題を提供し、現代社会の様々な健康問題やその対策について概説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	生涯にわたって健康を維持・増進するための知識を身につける。					
技能	DP9:健康スキル	健康に関わる科学的知識を収集・整理・活用できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	オリエンテーション	授業内容について解説する。			シラバスを確認する。		
2	運動と健康① (運動がもたらす健康効果)	配布資料に基づいて解説する。			配布資料の要点をまとめる。		
3	運動と健康② (健康づくりのための運動)	同上			同上		
4	運動による身体の変化① (循環器系)	同上			同上		
5	運動による身体の変化② (呼吸器系)	同上			同上		
6	運動による身体の変化③ (エネルギー供給系)	同上			同上		
7	筋肉と健康	同上			同上		
8	健康と食習慣	同上			同上		
9	休養と健康	同上			同上		
10	飲酒・喫煙と健康	同上			同上		
11	視覚と健康	同上			同上		
12	脳と健康① (脳のはたらき)	同上			同上		
13	脳と健康② (脳の不思議)	同上			同上		
14	脳と健康③ (脳の疾病)	同上			同上		
15	障がい者福祉とスポーツ	同上			同上		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎			◎	80	
授業態度・授業への参加度					○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	必要に応じて資料を配布する。 参考文献: 公益財団法人日本スポーツ協会 編「公認スポーツ指導者養成テキスト」						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答する。					授業中 の撮影	

授業科目名	健康スポーツ論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	中原 雄一						
授業の概要	<p>現代社会では、心身ともに健康上の問題を抱える人が増えつつある。本講義では、「健康とは何か」という根本的なことから、多くの人が直面している健康上の様々な問題について概説すると同時に、運動やスポーツが健康へもたらす効果やその具体的方法について解説する。また、スポーツそのものについても着目し、日本におけるスポーツの現状について解説を加える。本講義を通して健康や運動・スポーツに関して理解を深め、社会人・職業人として必要な教養を身に付けることを目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	運動・スポーツが健康に及ぼす効果について様々な観点から理解するとともに、健康や運動・スポーツに関して幅広い知識を身に付ける。					
技能	DP9: 健康スキル	自らの健康について興味・関心を持ち、健康の維持・改善を図るための技能を身に付ける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション/スポーツの概念		授業の概要説明		シラバスの確認		
2	スポーツに関する施策		パワーポイントを使用して講義を行い、資料(プリント)を配布する。 また、毎回講義内容に対するコメントを記入し、自身の意見を述べる機会を設ける。		e-learning を利用して講義内容の復習を行う。また、講義内容に照らし合わせて、自身の日々の生活(特に身体活動)について考える。		
3	地域におけるスポーツ環境の整備とスポーツ振興の財源						
4	スポーツ国際競技大会(オリンピックを中心に)						
5	競技スポーツにおける日本の現状と国際競技力向上						
6	健康の概念と日本における健康問題の変化						
7	健康づくりに関する施策						
8	生活習慣と身体活動						
9	生活習慣病と運動・スポーツ①						
10	生活習慣病と運動・スポーツ②						
11	精神的健康と運動・スポーツ						
12	健康と体力						
13	健康維持・改善のための運動トレーニング①						
14	健康維持・改善のための運動トレーニング②						
15	講義のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎			○	70	
授業態度・授業への参加度		◎			○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト: 特になし(プリントを随時配布) 参考文献: 東京大学身体運動科学研究室編「教養としての身体運動・健康科学」東京大学出版						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	研究室への来室、もしくは必要に応じて随時対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	健康科学実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	必修	1	1年
担当教員	中原雄一・池田孝博						
授業の概要	<p>健康でいきいきとした大学生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。健康科学実習 I では、健康の維持・増進と関係の深い身体機能および運動能力に関する正しい知識を学習し、健康的な生活を営むための態度を身につける。</p> <p>本実習では、フライングディスクやボールゲーム、水泳・水中運動などのスポーツ種目を実践し、自らが生涯にわたって行うことができるスポーツ種目を体験する。</p> <p>本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	<p>身体の構造および機能について理解し、科学的根拠に基づいて、自らの健康の維持・増進を図ることができる。</p>					
技能	DP9: 健康スキル	<p>(1) 基本的な運動技能およびスポーツ活動を実施する上でのマナーを修得し、生涯にわたってスポーツに親しんでいくことができる。</p> <p>(2) 各種のスポーツ活動への参加によって、人間関係の改善・向上を図ることができる。</p>					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス		授業の概要および成績評価の方法などについて説明する。		<p>体調管理をしっかり行う。</p> <p>実習中心で授業を進める。</p> <p>体力テストの結果の解析および考察を行う。</p> <p>体調管理をしっかり行う。</p> <p>レポートを提出する。</p>		
2	体力テスト						
3							
4							
5	屋外種目：フライングディスク など						
6							
7							
8	※ 体育館の可動や受講人数、天候、グラウンドなどの状況によって、種目は変更の可能性あり。						
9							
10							
11	健康科学でのデータ解析の基礎						
12							
13							
14							
15	水泳・水中運動						
16	まとめ		授業の振り返りを行う。		レポートを提出する。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎				30	
授業態度・授業への参加度				○	◎	70	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	実習の内容に応じて、プリントを配布する。						
履修条件	<p>運動のできる服装、体育館シューズ、屋外用のスポーツシューズを用意すること。</p> <p>夏季(11回~14回)には、水泳・水中運動を実施するので、水着と水泳用キャップを用意すること。</p>						
学習相談・助言体制	必要に応じて、随時対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	健康科学実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	実習	必修	1	1年
担当教員	中原雄一・池田孝博						
授業の概要	<p>健康でいきいきとした大学生活や社会生活を営むために、身体活動やスポーツの果たす役割は大きなものとなっている。</p> <p>健康科学実習Ⅱでは、ニュースポーツ（アルティメット、インディアカ）やネット型ラケットスポーツ（硬式テニス、バドミントン）などを実施し、それらのスポーツ種目の特性および心身の健康に及ぼす影響について理解する。また、対抗戦を実施することで、各スポーツ種目での技術の向上を図るとともに、メンタルヘルスやコミュニケーション能力の向上を目指す。</p> <p>本科目は、社会人・職業人として身につける教養を主たる目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	スポーツ活動への参加による自らの体力の変化を、客観的に評価することができる。					
技能	DP9:健康スキル	(1) 基本的な運動技能やスポーツ活動を実施する上でのマナーを修得し、生涯にわたってスポーツに親しんでいくことができる。 (2) 種々のスポーツ活動への参加によって、人間関係の改善・向上を図ることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス		授業の概要および成績評価の方法などについて説明する。		体調管理をしっかり行う。		
2							
3							
4							
5							
6	屋外種目：アルティメット/硬式テニス など		実習中心で授業を進める。				
7	屋内種目：インディアカ/バドミントン など						
8	※ 体育館の可動や受講人数、天候、グラウンドなどの状況によって、種目は変更の可能性あり。						
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15	体カテスト				レポートを提出する。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎				30	
授業態度・授業への参加度				○	◎	70	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	実習の内容に応じて、プリントを配布する。						
履修条件	健康科学実習Ⅰを履修していること。 運動のできる服装（特に防寒対策）、体育館シューズ、屋外用のスポーツシューズを用意すること。						
学習相談・助言体制	必要に応じて、随時対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	教養演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	人間社会学部教員・看護学部教員		前期	演習	必修	1	1年
授業の概要	<p>教えられたことを記憶するのとは異なる、主体的に思考し、行動し、判断し、表現する大学教育の基本となる学習法の基礎を学びます。授業は10名程度で行います。自分たちの研究テーマを決め、資料を探し、答えを考え、レポートを作成し、プレゼンテーションを行います。そのプロセスの中で、情報収集や情報の見分け方、レポート作成やプレゼン方法についての知識を学んでいきます。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	妥当な情報に基づいて論理的に考察するための方法を知っている。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	妥当な資料やデータを選び、それに基づいて考察することができる。					
	DP4:表現力	論理的に記述し、発表することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>【授業内容】 1. オリエンテーション 2. 研究テーマの設定 3. 情報収集 (図書館ガイダンスを含む) 4. 考察 5. レポートの作成 6. プレゼンテーション 以上の内容を進捗状況に合わせて進めてゆきます。</p> <p>【授業方法】 自分たちで研究テーマを考え、自分たちで資料を集め、論理的な展開を考えます。 教員はそのための知識を教え、指導します。 数名のグループごとにレポートを一つ作成し、そのレポートに基づきパワーポイントを使用してプレゼンテーションを行います。</p> <p>【事前・事後学習】 資料の収集、グループの打ち合わせ、レポートやプレゼンテーション資料の作成など、教員の指示に従うほか、スケジュールの進捗具合から自ら判断して行ってください。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度		◎				75	
レポートの提出と修正			○			15	
プレゼンテーションの実施			○			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	本学出版「レポートの書き方入門」						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業中に積極的に質問し、助言を求めてください。					授業中の撮影	

授業科目名	社会人基礎力演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	神谷英二・森脇敦史・井上奈美子						
授業の概要	大学から職業社会への移行準備として、働くうえで基礎となる知識やスキルを身につける。本講義はアクティブラーニング型講義を行うため、積極的な発言やグループワークへの能動的な取り組みが必要になる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	課題に対して、自身又は他者が取るべき行動を発見し、可視化する基礎的能力が身についている。					
	DP4:表現力	職業生活において、他者に情報を伝達する基礎的能力が身についている。					
技能	DP10:専門分野のスキル	職業生活において必要となる情報の収集、分析に関する基礎的能力が身についている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション						振り返りコメントの作成(毎回)。 事前課題については、適宜指示します。
2	私達を取り巻く職業社会の移り変わり						
3	社会人マナー(携帯電話やメールのマナー、正しい敬語など)						
4	タイムマネジメント、スケジュールマネジメント						
5	仕事の見える化						
6	ビジネスリーディング、ライティングスキル						
7	課題発見能力						
8	論理的、批判的思考能力						
9	ビジネス倫理						
10	コミュニケーション対話力						
11	リーダーシップ、フォロワーシップ						
12	グループディスカッション実践						
13	プレゼンテーション技法						
14	プレゼンテーション実践						
15	まとめ～本講義で学んだことについてスピーチ実践～						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業への参加度			◎			40	
提出課題		○	◎		○	40	
プレゼンテーション		○	◎		◎	20	
実務経験を生かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、採用側への雇用と人材育成の助言、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、職業選択の手法、ライフキャリア、人的マネジメントについて講義する。						
テキスト・参考文献等	必要な資料・文献等は授業中に配付、または指示する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	各教員の研究室、または電子メールでも対応します。						授業中の撮影

授業科目名	Advanced English Achievement		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	Stuart Gale		後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	This an elective course for students interested in developing the advanced English-language skills and study techniques necessary when applying for or participating in university courses in English-speaking countries. The course will focus on improving the students' skills in 3 main areas: critical thinking, academic writing, and test taking.						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	Students will develop critical thinking skills.					
	DP4:表現力	Students will be required to make a presentation in English.					
技能	DP7:コミュニケーション力	Students will be expected to exhibit improvement in their communicative abilities.					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	Strategies for exam taking (IELTS)	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 1				
2	Strategies for critical thinking and critical writing	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 2				
3	Critical thinking practice: Topic#1	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 3				
4	Critical thinking practice: Topic#2	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 4				
5	Critical thinking practice: Topic#3	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 5				
6	Critical thinking practice: Topic#4	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 6				
7	Critical thinking practice: Topic#5	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 7				
8	Critical thinking practice: Topic#6	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 8				
9	Critical thinking practice: Topic#7	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 9				
10	Critical thinking practice: Topic#8	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 10				
11	Critical thinking practice: Topic#9	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 11				
12	Critical thinking practice: Topic#10	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 12				
13	Strategies for making an oral presentation	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 13				
14	Making an oral presentation (using PowerPoint [1])	Discussion-based tutorial (seminar)	Homework 14				
15	Making an oral presentation (using PowerPoint [2])	Discussion-based tutorial (seminar)	Review				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート			◎			33	
授業態度・授業への参加度					○	33	
受講者の発表(プレゼン)					◎	34	
実務経験を生かした授業	The teacher will apply his experience as an IELTS instructor and postgraduate student at a British university.						
テキスト・参考文献等	All study materials will be provided by the teacher. No textbook is necessary.						
履修条件	This course is an elective course.						
学習相談・助言体制	Students are encouraged to participate and take responsibility for their own development.					授業中の撮影	

授業科目名	不登校・ひきこもり援助論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	松浦賢長・小嶋秀幹・四戸智昭・奥村賢一・原田直樹・増満 誠・小山憲一郎・梶原由紀子	前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	不登校・ひきこもりに関する基礎的な知識とその援助方法について学ぶ。とりわけ県大子どもサポーターとして、学生のボランティア活動における支援のあり方や意義について学び、ボランティアとしての自主性や社会性・公共性、問題意識等を醸成し、将来の不登校・ひきこもりへの援助者としての主体性を高めるために必要な知識を習得することを目標とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	不登校・ひきこもりの子どもたちの課題について知る。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	不登校・ひきこもりの子どもたちへの様々な支援方法について知る。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	不登校・ひきこもりの問題解決に必要な支援について、文章にまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	不登校・ひきこもりの問題解決に向けて、意欲的に取り組むことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	オリエンテーション	講義	【事前】自身の不登校児童生徒のイメージをまとめておく。 【事後】自身のイメージと講義の事例中の不登校児童生徒との違いを整理しておく。				
2	不登校・ひきこもりに関する問題と課題(総論)	講義	【事前】文部科学省のホームページ等から不登校の定義、動向等を調べておく。 【事後】不登校支援に係る課題を整理しておく。				
3	不登校・ひきこもりの援助	講義	【事前】不登校支援にはどのようなものがあるかを調べておく。 【事後】講義で紹介された支援の方法を整理しておく。				
4	不登校・ひきこもりの子どもの心理と関わり方—具体的対応方法について—	講義	【事前】文部科学省のホームページ等からスクールカウンセラー等活用事業の概要について調べておく。 【事後】不登校支援におけるカウンセラーの役割や、具体的対応方法を整理しておく。				
5	福岡県の不登校・ひきこもりの動向と支援の制度	講義	【事前】福岡県のホームページ等から、県教育庁の不登校支援施策を調べておく。 【事後】教育現場における不登校対応の方策等を整理しておく。				
6	子どもにとっての「遊び」を考える	講義・演習	【事前】子どもの遊びの要素について調べておく。 【事後】講義で紹介された遊びの要素や注意点を整理しておく。				
7	ボランティア活動ルールとマナー—県大子どもサポーターへの参加について—	講義	【事前】これまでの資料や見学から不登校支援のボランティア活動のイメージを整理しておく。 【事後】ボランティアが不登校支援に果たす意義を考える。				
8	不登校解消に向けた校内外連携によるシステムづくり—スクールソーシャルワーカーの役割を中心に—	講義	【事前】文部科学省のホームページ等から学校ソーシャルワーカー活用事業の概要について調べておく。 【事後】不登校支援におけるスクールソーシャルワーカーの役割を整理しておく。				
9	不登校の子どもと学校内の居場所づくり—保健室登校を中心に—	講義	【事前】保健室登校とはどのようなものかを調べておく。 【事後】保健室登校で果たす養護教諭の役割や居場所確保の重要性を整理しておく。				
10	遊び・非行の子どもと不登校	講義	【事前】少年非行や遊び・非行型不登校について調べておく。 【事後】少年サポートセンターによる非行少年支援の方策等を整理しておく。				
11	フリースクールにおける不登校の子どもへの支援	講義	【事前】複数のフリースクールのホームページ等から、活動内容を調べておく。 【事後】紹介されたフリースクールの活動内容と不登校支援におけるフリースクールの意義を整理しておく。				
12	不登校・ひきこもりと精神医学	講義	【事前】子どもの精神疾患について調べておく。 【事後】不登校と精神疾患との関連や支援方法について整理しておく。				
13	不登校の子どもを抱える家族とその支援	講義	【事前】書籍やインターネットから、不登校の子どもを抱える家族の思いを調べておく。 【事後】家族支援の意義や方法を整理しておく。				
14	不登校の子どもから見た、求められる支援のあり方	講義	【事前】書籍やインターネットから、不登校の子ども自身の思いを調べておく。 【事後】子どもの状態に合わせた支援の方法について整理しておく。				
15	発達障害の子どもと不登校授業のまとめ	講義	【事前】発達障害にはどのようなものがあるかを調べておく。 【事後】発達障害と不登校の関連について整理しておく。また、本授業全体を振り返り、今後の不登校支援への参加に役立てることができようようにしておく。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎				100	
実務経験を生かした授業	福岡県の不登校支援の施策等を行ってきた福岡県教育庁の指導主事を特別講師として招聘し、学生に対して学校教育における支援とは何かということを実践的な視点で解説いただく。						
テキスト・参考文献等	参考文献:授業の中で適宜紹介する。						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時、不登校・ひきこもりサポートセンターでは随時受け付ける。					授業中の撮影	○

授業科目名	子供学習支援論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	松浦賢長・奥村賢一・原田直樹・小山憲一郎・梶原由紀子		後期	講義	選択	1	1年
授業の概要	<p>子供にとっての学習の意義や学力低下の状況、学習支援の具体的方法等について学ぶ。受講にあわせ、実際に子供への学習支援を体験することを前提とし、これにより机上の学びと実践を取り結び、経済的困窮や養育環境等、子供をめぐる社会的環境に潜む問題点や課題点について学ぶ。本講義は、将来の子供を支援する実践者としての主体形成に必要な、問題意識醸成につながる基礎的知識を習得することを目的とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	学習の意義や学力低下の状況、学習支援の具体的方法等を理解する。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	経済的困窮や養育環境等、子供をめぐる社会的環境に潜む問題点や課題点を理解する。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	実際に子供への学習支援を体験することを前提とし、これにより机上の学びと実践を取り結ぶことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション～筑豊の子供と学習支援の必要性～	講義	学習支援にはどのようなものがあるかについて、3つキーワードを調べておく。				
2	学力テストから見た子供求められる「能力」とは	講義	PISAについて調べ、日本の子供たちの学力の現状に関する要点をまとめておく				
3	学習支援のノウハウ～子供の特性と支援の方法～	講義	仙台市のホームページの「学習意欲の科学研究に関するプロジェクト」を参照し、自分なりに要点をまとめておく				
4	子供の発達とモチベーション喚起	講義	講義内容を振り返り、次回の講義までに要点を整理する				
5	福岡県の学力の状況と学力向上施策	講義	全国学力・学習状況調査 福岡県学力調査 調査結果報告書等を参照し、福岡県の学力の状況についてまとめておく。				
6	SSW から見た子供の学力低下の要因とその対応	講義	学力低下の要因について、自分なりに要点をまとめておく				
7	子供の命を守る心肺蘇生法	講義	厚生労働省「救急蘇生法の指針2015」Ⅱ・Ⅲをよんでおく				
8	対話的で主体的で深い学びとは	演習	文部科学省「学習指導要領等に向けたこれまでの審議のまとめについて(報告)」をよみ、キーワードを3つ調べておく。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法		◎		○		80	
小テスト・授業内レポート		○		○		20	
授業態度・授業への参加度							
実務経験を生かした授業	福岡県の学力の現状や学力向上に向けての施策等を行ってきた福岡県教育庁の指導主事を特別講師として招聘し、学生に対して学校教育における支援とは何かということを実践的な視点で解説いただく。						
テキスト・参考文献等	参考文献：授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に相談助言を行う。					授業中の撮影	○

授業科目名	プレ・インターンシップ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	1	1年
担当教員	井上奈美子・中村晋介・松岡佐智						
授業の概要	<p>医療・福祉施設、企業、教育機関、自治体、NPOなどでの就業体験を通して、働くことの意義について理解を深める。就業体験を通して、多様な価値観を持った社会人と出会い、コミュニケーションの重要性に気づき、自己理解や他者理解を深める。</p> <p>事業所への派遣に向けては事前・事後学習を行う。事後学習では体験の振り返りを行うことで、学生自身がさらなる成長を目指した学習計画の立案に取り組む。尚、事前事後学習と体験発表会への出席は単位履修の必須要件となる。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	コミュニケーションの重要性に気づき、その向上にむけての自己の課題を把握できる。キャリア形成における自己の課題に気づき、今後の学習計画を立てることができる。					
	DP4:表現力	就業体験を通して働くことの意義について理解し、説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保健・福祉はじめ各業界の増進に寄与するために主体的・意欲的に活動することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1) 事前学習(集合研修型)</p> <ul style="list-style-type: none"> マナーやコミュニケーションの重要性について学ぶ。 就業体験先の情報をリサーチする方法を学ぶ。 就業体験計画書の作成方法について学び、実際に作成する。 就業体験の目的を明確にする。 <p>2) 体験期間及び体験先</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験期間 夏期長期休業期間中で合計5日間を原則とする。お盆期間中も含まれる。 体験先 医療・福祉施設、企業、教育機関、自治体、NPO等から希望に応じて体験先を選択する。(必ずしも希望の事業所に派遣されるとは限らない) <p>3) 事後学習(集合研修型、発表会に向けた企画推進の自主活動)</p> <ul style="list-style-type: none"> 体験記録をまとめ、就業力を構成する8つの力について自己評価を行う。 体験を通して学んだことや就業観について学生同士で振り返る。 体験で気づいた自己の課題に対して、今後の学習計画を立てる。 体験報告会を行う。(企画、推進、プレゼン発表) 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
事前学習の参加度				○		30	
体験の参加状況及び体験先からの評価			○	○		30	
事後学習の成果(体験記録、自己評価、今後の学習計画、体験報告会)			◎	○		40	
補足事項	単に就業体験のみではなく、その後の体験報告会の主体的運営と発表までが単位認定の要件となる。						
実務経験を生かした授業	大学や福祉業界でインターンシップの指導派遣を行い、企業・団体や施設の人事担当者との交流を重ねてきた教員が諸経験を活かし、就業力向上に必要な能力を育成する。						
テキスト・参考文献等	必要な資料等は、その都度配付する。						
履修条件	プレ・インターンシップに参加することにより、「必修科目、選択必修科目、その他卒業、資格・免許取得に関わる科目」の授業や実習、試験が受けられない場合、その補講や追実習、追試験は実施されない。インターンシップを理由に講義を欠席することは認められない。						
学習相談・助言体制	担当教員と就業力向上支援室が随時相談を受け助言する。					授業中の撮影	○

授業科目名	専門職連携入門		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	1年
担当教員	石崎龍二・吉岡和子・江上千代美・その他						
授業の概要	<p>児童虐待、いじめ、ひきこもり、不登校などの子どもに関する課題、障がい者支援、高齢者介護分野での地域包括ケアシステムの構築など様々な領域で専門職連携が求められている。 保健・医療・福祉の現場の専門職の活動と相互の連携を理解するために必要な基礎的な知識を学ぶ。 人間社会学部及び看護学部両学部で養成する様々な専門職種の実践活動と連携の実際を知ることで、他職種への理解を深め、多職種間の連携の重要性を理解するとともに、専門職をめざして学習する動機づけとする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	他職種の専門性と多職種間の連携の必要性について理解している。					
関心・意欲 ・態度	DP5: 挑戦力	専門職業人となることをイメージして、主体的に学習できる。					
	DP6: 社会貢献力	問題解決のため他の専門職と連携して仕事に取り組む意欲がある。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション・人間社会学部の関連職種の実践活動と多職種連携①	講義(外部講師)	毎回の授業について的小レポート(感想、学んだこと等)を、次の授業で提出する。				
2	看護職の実践活動と多職種連携①	講義(外部講師)					
3	人間社会学部の関連職種の実践活動と多職種連携②	講義(外部講師)					
4	看護職の実践活動と多職種連携②	講義(外部講師)					
5	人間社会学部の関連職種の実践活動と多職種連携③	講義(外部講師)					
6	看護職の実践活動と多職種連携③	講義(外部講師)					
7	人間社会学部の関連職種の実践活動と多職種連携④	講義(外部講師)					
8	まとめとディスカッション	講義・ディスカッション					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業に関する小レポート		○		◎		60	
授業態度・授業への参加度				◎		40	
実務経験を生かした授業	保健・医療・福祉の現場の専門職者が、各専門職の実践活動と他の専門職との連携について講義する。						
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しない。参考文献は、適宜、紹介する。						
履 修 条 件	なし。						
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	データベース論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	柴田雅博						
授業の概要	世の中にある多くの情報システムにおいてデータベースはデータ管理の中核となっている。本講義では、情報システム設計の基本となるデータベースについて、役割と仕組み、構築とデータ管理について学習する。また、Microsoft Access を利用して実際にデータベースの構築を行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	情報システムにおけるデータベースの役割・機能について理解している。 データベースの仕組みに関する基礎知識を修得している。 SQL の記法を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	現実事象を適切にモデル化することができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	データベースの設計・構築を行うことができる。 SQL を使ってデータベースから必要な情報を抽出することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	データベースとは		講義		事前に配布資料を確認、予習しておくこと。 適宜課題を設ける。課題は締め切りまでに完成させ提出すること		
2	データベース管理システム		講義				
3	関係データベース(1)		講義と Access の基本操作演習				
4	関係データベース(2)		講義と Access の基本操作演習				
5	関係代数		講義				
6	Access の操作演習		Access による DB 検索演習				
7	SQL(1)		講義と SQL による DB 操作演習				
8	SQL(2)		講義と SQL による DB 操作演習				
9	SQL(3)		講義と SQL による DB 操作演習				
10	データベースの設計(1) 三層スキーマ		講義				
11	データベースの設計(2) E-R モデル		講義				
12	データベースの設計(3) 正規化1		講義				
13	データベースの設計(4) 正規化2		講義				
14	データベース設計演習(1)		データベースの設計構築演習				
15	データベース設計演習(2)		データベースの設計構築演習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			40	
授業態度・授業への参加度		○		◎		20	
演習		○	○		◎	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	e-ラーニングで資料配布します。 Access の操作については、『情報リテラシー教科書 Windows8/Office2013+Access 対応版』矢野文彦(オーム社)を使用						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	情報ネットワーク論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	柴田 雅博		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	<p>現在の情報システムはネットワークと切り離して話すことができない。パソコンやスマートフォンで日常的に利用しているネットワークがどのように構成され、どのような技術が用いられているのかを知っておくのは重要である。 本講義では、インターネットやLANなどのネットワークシステムの構成、周辺技術について学習する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	ネットワークシステムの構成について理解している。 ネットワーク技術に関する専門用語や基礎知識を理解している。 ネットワークセキュリティの基礎知識を修得している。					
技能	DP8: 情報リテラシー	セキュリティを考慮しながらネットワーク利用ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	コンピュータネットワークの基礎	講義	<p>事前に配布資料を確認、予習しておくこと。 適宜、宿題を出す。宿題は次週の授業で提出すること。</p>				
2	インターネットの技術	講義					
3	OSI 基本参照モデルと TCP/IP モデル	講義					
4	プロトコル技術	講義					
5	LAN システムの構成	講義					
6	IP アドレス	講義					
7	サーバー (1)	講義					
8	サーバー (2)	講義					
9	ルーター	講義					
10	スイッチと VLAN	講義					
11	ファイアーウォール	講義					
12	ネットワーク攻撃とセキュリティ	講義					
13	暗号化、ユーザ認証	講義					
14	無線 LAN	講義					
15	音声、動画の通信	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			60	
宿題・授業外レポート		◎	○		○	20	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	e-ラーニングで資料を配布します。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	問題解決演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	神谷英二・森脇敦史・井上奈美子						
授業の概要	<p>現代社会では、個人の能力を発揮することによって、地域社会が発展することが重要視されています。授業では、地域社会で生まれる様々な問題に対して、課題を抽出し、解決案を策定し、最終的に他者へ提示する体験をします。</p> <p>授業の中では、具体的な社会課題を考えるため可能な限り身近な課題を扱う予定です。授業時間には限りがあるため、授業内容を身近な課題に引き寄せて自己学習を行う能動的学習態度、チームでの協同作業への主体的な取り組みが求められます。なお、授業の連続性が高く学外の方との協同作業も含まれるため、毎回の授業出席は重要になります。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	チームの内部及び外部の者に対して、問題の設定や解決に関する情報を的確に伝達できる。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	地域社会に存在する問題を発見し、自らその解決に向けて具体的に活動することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	問題の発見、解決に必要な情報の収集、分析を適切に行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p><授業スケジュール></p> <p>1回目 オリエンテーション：講義の進め方、課題設定の話合い</p> <p>2回目 多様な地域課題の背景と課題間の関係性について考える</p> <p>3回目 関連事業所への訪問準備、訪問の礼儀作法について</p> <p>4回目 地域課題の抽出、チームビジョンの共有、チームリーダー決定</p> <p>5～10回目 課題解決案策定、地域課題解決を目指した活動</p> <p>11～12回目 チーム活動報告書作成、発表準備（パワーポイント）</p> <p>13回目 課題解決案の発表会の準備</p> <p>14回目 プレゼンテーション</p> <p>15回目 振り返り</p> <p>(課題の内容や活動の状況によっては、予定を変更することがある。)</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法	授業態度・授業への参加度			◎		50	
	チーム活動報告書		◎		◎	20	
	プレゼンテーション(中間・最終)		◎		◎	30	
実務経験を生かした授業	<p>大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、採用側への雇用と人材育成の助言、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、職業選択の手法、ライフキャリア、人的マネジメントについて講義する。</p> <p>また、企業経営者やビジネスコンサルタントなどがゲスト講師として、マネジメント、マーケティングについて講義する。</p>						
テキスト・参考文献等	必要な資料・文献等は授業中に配付、または指示する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	各教員の研究室、または電子メールでも対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	日本語ライティング		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	神谷英二		後期	演習	選択	1	2年
授業の概要	読者と目的を明確に設定し、適切な語彙と表現を選択して、筋道を立てて、「見えるように」、簡潔に日本語を書くための基礎スキルを身につける。そのために、ビジネス・ライティングに必須の要約、論理的構造化、キーワード設定のスキルを訓練する。また、就職試験のエントリーシートやビジネス現場の電子メールなどを書く実践的なトレーニングも行う。民間企業、行政機関、医療機関などで実際に使われている文書や、新聞、雑誌などのニュース記事を教材として使用する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	読者と目的を明確に設定し、筋道立てて、「見えるように」、簡潔に日本語を書くための基礎スキルが身についている。					
技能	DP10:専門分野のスキル	各自の専門分野において、説得力のある文章を書くための基礎スキルが身についている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容					事前・事後学習(学習課題)	
1	ガイダンス						
2	要約力を鍛える(1)					「要約力」事前課題	
3	要約力を鍛える(2)					「要約力」事前課題	
4	読者と目的で書き分ける(1)					「読者と目的」事前課題	
5	読者と目的で書き分ける(2)					「読者と目的」事前課題	
6	読者と目的で書き分ける(3)					「読者と目的」事前課題	
7	「見えるように」書く(1)					「見えない文章」分析課題	
8	「見えるように」書く(2)					「見えない文章」分析課題	
9	「見えるように」書く(3)					「見えない文章」分析課題	
10	シンプルに書く(1)					「複雑な文章」分析課題	
11	シンプルに書く(2)					「複雑な文章」分析課題	
12	論理的に書く(1)					「ロジカル・ライティング」事前課題	
13	論理的に書く(2)					「ロジカル・ライティング」事前課題	
14	添削力を鍛える					「添削力」事前課題	
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	40	
宿題・授業外レポート			◎		◎	40	
授業態度・授業への参加度			○		○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト:オリジナル教材を授業時に配付 参考文献:照屋華子『ロジカル・ライティング—論理的にわかりやすく書くスキル—』東洋経済新報社、2006年						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎授業後、相談に応じる。メール(kamiya@fukuoka-pu.ac.jp)による相談も常時受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	社会学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	佐野麻由子						
授業の概要	本講義では、社会学が登場した時代背景、先駆者の学問的関心、社会学の方法を学んだ上で、階級、ジェンダー、エスニシティの不平等といった身近な社会問題の分析を通して社会学の基礎知識を修得する。また、国際協力といった実践の場面で社会学の知識がどのように援用されているかを学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	現代社会の特徴や社会的課題の解決に向けての社会的な論考について基礎知識を修得し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	現代社会の問題について、論理的な解説ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス	・講義 ・講義後のリアクションペーパーの提出					
2	社会学ってどのような学問?: 近代化と社会学の成り立ち						
3	社会学の先駆者とその関心 1: 自殺論						
4	社会学の先駆者とその関心 2: プロテスタンティズムと資本主義						
5	社会学の成り立ちと比較の視点				テキストの予習復習		
6	近年の国際比較研究 1				テキストの予習復習		
7	近年の国際比較研究 2				テキストの予習復習		
8	書をもって町に出よう: フィールドワークの重要性 1				授業内レポートの作成		
9	書をもって町に出よう: フィールドワークの重要性 2						
10	豊かな社会の不平等: 階級				テキストの予習復習		
11	豊かな社会の不平等: ジェンダー				テキストの予習復習		
12	豊かな社会の不平等: エスニシティ				テキストの予習復習		
13	社会計画と社会運動の社会学 (1): 社会的課題の解決にむけて				授業内レポートの作成		
14	社会計画と社会運動の社会学 (2): 国際協力の現場への援用						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			40	
小テスト・授業内レポート			◎			40	
授業への参加度(資料へのコメントを含む)		◎				20	
補足事項	授業内レポートを提出すること。授業内レポートについては第1回授業のときに説明する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト: 山田真茂留編著 2018 『グローバル現代社会論』文眞堂。 参考文献: 佐藤寛・浜本篤史・佐野麻由子・滝村卓司編 2015 『開発社会学を学ぶための60冊: 援助と発展を根本から考えよう』明石書店。 小川(西秋)葉子・川崎賢一・佐野麻由子編 2010 『〈グローバル化〉の社会学: 循環するメディアと生命』恒星社厚生閣。 官島喬・杉原名穂子・本田量久編 2012 『公正な社会とは——教育、ジェンダー、エスニシティの視点から』人文書院。						
履修条件							
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	社会学史 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	2年
担当教員	中村晋介						
授業の概要	<p>「社会学とは何か」のイメージを与えた上で、「社会学」の歴史について講義する。「社会学」は、19世紀中頃からのヨーロッパの情勢を背景に生み出された。「社会学の歴史」を理解するためには、「資本主義」、「国民国家」、「マルクス＝レーニン主義」、「国家＝社会主義」といった発想の盛衰を踏まえる必要がある。ヨーロッパの近代史（政治史、経済史）を押さえながら、「社会学の歴史」の前半部（20世紀初頭まで）を講義していく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	19世紀末～現代にいたる世界史・日本史の大まかな流れを習得する。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	「マルクス＝レーニン主義」「国家＝社会主義」との対比において、「社会学」の歴史を理解する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	講義ガイダンス——大学での学び方						
2	19世紀ヨーロッパの政治と経済①——「市民」と「資本主義」						
3	19世紀ヨーロッパの政治と経済②——格差の拡大と第1次世界大戦						
4	マルクス＝レーニン主義①——「ニセの福音」の登場						
5	マルクス＝レーニン主義②——後継者たちの暴走/「社会学」の誕生		それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)などに基づいて講義する。		講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを配布する。 受講生は高等学校で使用した教科書などを用いて、19世紀末～20世紀の西欧史について学習しておくこと。		
6	国家＝社会主義/全体主義①——もう1つの「ニセの福音」						
7	国家＝社会主義/全体主義②——「枢軸」の誕生と崩壊		適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進める。		高等学校で「世界史」は必修科目である。高校時代の教科書などを使用して、各自で知識と流れを思い出しておくこと。高等学校の「世界史」の同レベルの学習を要請する。		
8	社会学の視線①——ウェーバー、デュルケーム、ジンメル						
9	社会学の視線②——ウェーバー、デュルケーム、ジンメル		理解が困難な場合は、積極的に質問に来ること。質問に来た学生に対しては、個別指導を十分に行う。				
10	社会学の遂行——「理念型」論						
11	ヨーロッパからアメリカへ①——シカゴ学派						
12	ヨーロッパからアメリカへ②——コロンビア学派						
13	ヨーロッパからアメリカへ③——パーソンズ社会学(序)						
14	3賢者以降のヨーロッパ社会学						
15	日本における社会学の展開						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			◎		○		80
授業態度・授業への参加度			○		◎		20
補足事項		定期試験：筆記試験(持ち込み不可)、中間レポートを課す可能性もある。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		参考文献：受講生が高等学校時代に使用した「世界史」「日本史」の教科書、または該当科目の参考書。これらを使って、19世紀以後の西洋史、明治維新後の日本史を復習しておくこと。					
履修条件		公共社会学科：必修					
学習相談・助言体制		オフィスアワーで質問や意見を受け付ける。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。理解が困難な場合は、積極的に質問に来てください。					授業中の撮影

授業科目名	社会学史Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	中村晋介		後期	講義	必修	2	2年	
授業の概要	<p>「社会学史Ⅰ」では、主に形成期の巨匠たちを中心に、社会学の歩みを論じた。本講義は、その後の理論社会学の主要な学説を追いながら、「社会的な問題意識」がどう変化したのか(あるいは変化していないのか)を順次紹介・検討する。受講生は、この行程を通して、1)社会学の特徴と意義の系譜学的な理解、2)現在、社会学に求められている課題、の2点を考えることになる。</p>							
学生の到達目標								
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	・社会的な発想、社会学の存在意義について認識する。						
	DP2:専門・隣接領域の知識	・社会学の歴史について、大学で社会学を専攻した者にふさわしい知識を持つ。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)					
1	「社会学史Ⅰ」の復習	<p>それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)に基づいて講義する。適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進める。他の講義と内容が重複する場合は、当該講義の担当者と協議の上、講義内容が重複しないように配慮する。</p>	<p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はレジュメとテキストの該当箇所(各回の講義内で指示)を用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p>					
2	パーソンズ社会学①——秩序はいかにして成立するのか							
3	パーソンズ社会学②——社会システム論							
4	パーソンズ社会学③——グランド・セオリーであることの問題点							
5	現象学的社会学①——「意味」への注目							
6	現象学的社会学②——現象学の援用							
7	現象学的社会学③——その衰退と復興							
8	エスノメソドロジー①——「妥当さ」の形成							
9	エスノメソドロジー②——会話が作り出すもの							
10	シンボリック・インタラクショナリズム/ラベリング論——主我と客我							
11	ドラマトゥルギー論①——行為と演技							
12	ドラマトゥルギー論②——相互行為儀礼							
13	プラクティス理論①——バイオ権力、パノプティコン化した社会							
14	プラクティス理論②——再帰性、親密性の変容							
15	プラクティス理論②——ハビトゥス、象徴権力							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
成績評価方法		◎		○		80		
定期試験		○		◎		20		
授業態度・授業への参加度		定期試験：筆記試験(持ち込み不可)、中間レポートを課す可能性もある。						
補足事項								
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等	講義担当者が作成したオリジナルの講義資料を配付し、それに記入する形で授業を進めます。参考文献は資料中に紹介します。							
履修条件	社会学史Ⅰを履修しておくこと。							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。					授業中の撮影		

授業科目名	公共性の社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	阪井 裕一郎						
授業の概要	<p>公共社会学科で学ぶうえでの基礎となる「公共」というテーマを社会学の視点から考えていく講義である。長い歴史を有する社会学において、近年大きな注目を集めたのが公共社会学の提唱である。公共社会学は、さまざまな社会事象の現場に関わっている人々と交流・対話することを通して、合意形成の現状と課題を明らかにするという研究方針に特徴がある。本講義では、「公共」や「公共性」に関わる国内外の概念を習得し、そのうえで、多文化共生や格差、家族問題、リスク社会といった具体的なテーマを取り上げて、公共性の観点から課題解決について検討していく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	公共性の特徴と目標、主要テーマについて理解し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	公共性に関わる概念を習得し方法に基づき地域社会の課題を整理し、解説することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	イントロダクション	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。			毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。		
2	公共性をめぐる諸概念 (1) 公共性とは何か						
3	公共性をめぐる諸概念 (2) 自由とは何か						
4	多文化共生社会 (1) 多文化主義						
5	多文化共生社会 (2) マイノリティと差別						
6	格差社会と公共性 (1) グローバル化と格差社会						
7	格差社会と公共性 (2) 社会保障を考える						
8	親密圏と公共圏 (1) ケアの公共性						
9	親密圏と公共圏 (2) 家族の多様化						
10	リスク社会 (1) リスク社会とは何か						
11	リスク社会 (2) 具体例で考える						
12	消費社会・個人主義・公共性						
13	民主主義と公共性						
14	「新しい公共」の時代						
15	まとめ：公共性の社会学						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート			○			30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>毎回プリントを配布する。 参考文献：斎藤純一『公共性』岩波書店、2000年／盛山和夫・上野千鶴子・武川正吾編『公共社会学 1～3』東京大学出版会、2012年／塩原良和『共に生きる』弘文堂、2012年</p>						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	社会政策論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			後期	講義	選択	2	1年	
担当教員	坂本毅啓							
授業の概要	<p>「社会政策論」の講義では、社会保障や労働政策などが中心的に取り上げられることが一般的ですが、本講義では、イギリス型のソーシャルポリシー論の枠組みから、特に社会サービスについて、その基本的概念の理解から、具体的なサービス内容の紹介、今後の課題と展望について扱わせていただきます。労働政策の具体的な内容などについては、労働経済論等を受講されることをお勧めします。具体的には、ソーシャルポリシー論、社会問題とニーズ、社会サービスのメニュー（社会保障、社会福祉、居住福祉、教育福祉等）について、考えていきます。</p>							
学生の到達目標								
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会サービスの基本的なしくみや社会での役割を理解している。						
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	多種多様で数多くの情報を選別・整理し、地域（社会）の課題についての確にとらえることができる。						
	DP4:表現力	社会問題の解決に向けた方策について、自らの考えを説明することができる。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授業内容					事前・事後学習(学習課題)		
1	イントロダクション：講義内容の説明					参考文献の予習 配付資料の復習		
2	社会政策の定義：ソーシャルポリシー、制度、政策					参考文献の予習 配付資料の復習		
3	社会問題とニーズ①：構築主義、社会的必要					参考文献の予習 配付資料の復習		
4	社会問題とニーズ②：貧困、社会的排除					参考文献の予習 配付資料の復習		
5	社会政策と社会保障：社会保障、社会保険、社会扶助					参考文献の予習 配付資料の復習		
6	社会保障制度①：医療保険					参考文献の予習 配付資料の復習		
7	社会保障制度②：年金保険					参考文献の予習 配付資料の復習		
8	社会保障制度③：介護保険					参考文献の予習 配付資料の復習		
9	社会保障制度④：雇用保険					参考文献の予習 配付資料の復習		
10	社会保障制度⑤：労働者災害補償保険					参考文献の予習 配付資料の復習		
11	社会保障制度⑥：公的扶助、生活保護、社会手当					参考文献の予習 配付資料の復習		
12	社会福祉制度①：社会福祉、子ども家庭福祉、障害者総合支援制度					参考文献の予習 配付資料の復習		
13	社会福祉制度②：生活困窮者自立支援制度、居住福祉					参考文献の予習 配付資料の復習		
14	社会福祉制度③：教育福祉、スクールソーシャルワーク					参考文献の予習 配付資料の復習		
15	まとめ					配布済み資料の予習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験		◎	◎			60		
小テスト・授業内レポート		○	◎			25		
宿題・授業外レポート		○	◎			15		
補足事項		定期試験については、講義時に具体的に指示をします。						
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等		<p>テキスト：毎回、資料を配布します。</p> <p>参考文献：児島亜紀子・伊藤文人・坂本毅啓共編『現代社会と福祉』東山書房、2015年。川村匡由編『社会保障』建帛社、2018年。その他、適宜、資料を紹介させていただきます。</p>						
履修条件		中学・高校時代の現代社会等で学んだ社会保障や社会福祉に関する内容について、あらかじめふりかえっておきましょう。また、日々のニュースなどに関心を持ち、社会問題や生活問題について調べるようにしましょう。						
学習相談・助言体制		講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義時に相談にのります。					授業中の撮影	

授業科目名	公共経済学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	<p>本講義では、「公共部門はどのような分野でどのような形で活動を行っており、その根拠は何か」という素朴な疑問に対して経済学の諸理論を用いて概説する。すなわち「政府活動の経済合理性」についての講義である。政府活動は、民間企業などと異なり、政策決定過程を通じて決まり、官僚組織を通じて実施される。公共部門の経済学は、経済学のみならず政治学や行政学の分野も考慮に入れた幅広い学問である。例えば、公共財や医療、国防、社会保障、教育など公共部門における経済合理性を講義する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	公共部門の活動を理解し、その経済合理性について経済学理論を用いて説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	今の公共政策の問題を指摘し、より効率的な改善策が提示できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	効率と公平のバランスを考慮したより良い福祉計画が提案できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	公共経済学の考え方: 政府の経済的役割		講義	テキスト第1章を予習			
2	公共部門の経済分析: 政府失敗の原因、政府の3つの経済的機能		講義	テキスト第1章を予習			
3	市場の効率性、1: 厚生経済学とパレート効率		講義	テキスト第3章を予習			
4	市場の効率性、2: パレート効率性の基本条件		講義	テキスト第3章を予習			
5	市場の失敗、1: 所有権と契約の実施、市場の失敗の原因		講義	テキスト第4章を予習			
6	市場の失敗、2: 所得再分配とメ리트財、政府の役割についての分析		講義	テキスト第4章を予習			
7	効率と公平、1: 効率と公平のトレードオフ		講義	テキスト第5章を予習			
8	効率と公平、2: 功利主義、ロールズ主義、社会選択の実際		講義	テキスト第5章を予習			
9	効率と公平、3: 消費者余剰と死重損失、貧困線の引き方、社会選択の3つのアプローチ		講義	テキスト第5章を予習			
10	公共財と公的に供給される私的財、1: 公共財に対する支払い、フリーライダー問題		講義	テキスト第6章を予習			
11	公共財と公的に供給される私的財、2: 公共財のための効率性の条件		講義	テキスト第6章を予習			
12	公共選択、1: 資源配分の公的メカニズム		講義	テキスト第7章を予習			
13	公共選択、2: 公共財水準を決定する代替的機構、リンダール均衡		講義	テキスト第7章を予習			
14	公共選択、3: 政治学と経済学		講義	テキスト第7章を予習			
15	福祉計画と所得再分配: 政府による福祉計画の理論的根拠		講義	テキスト第15章を予習			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	J・E・スティグリッツ(著)、藪下史郎(訳)『公共経済学、第2版』東洋経済新報社。						
履修条件	経済学を履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	現代社会論A (ジェンダー・世代)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	中村晋介	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	1) 伝統的な性別役割分業体制や性差別的な社会慣行が再生産されていく過程の分析、2) 世代間による文化や規範意識のギャップについての分析など、社会学におけるジェンダー論、世代論に関係する分野から具体的なトピックを適宜取り上げて紹介する。これを通して「社会学的なものの見方や考え方」を習得させ、3年次以降の専門教育に向けての土台作りをする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	世代間ギャップやジェンダー・バイアスが再生産されていく過程についての知識を修得する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	イントロダクション——本講義の位置づけ		講義内容の概説		講義期間中に、講義に関係した課題(学生自身の体験に関する報告、学生自身が考える問題解決策、講義担当者が提示した解決策に対する意見・批評)を求め、後日提出させることがある。		
2	「男女共同参画社会」の虚実①——日本における男女格差		「男女共同参画」「ジェンダー・フリー」概念の成り立ちと、さまざまな立場からの見解を提示するとともに、受講生に自らの立場や見解の確立をうながす。				
3	「男女共同参画社会」の虚実②——「ジェンダー」とは何か						
4	「男女共同参画社会」の虚実③——男女格差と「装置」						
5	「男女共同参画社会」の虚実④——「装置」との戦い・諸国の対応						
6	「男女共同参画社会」の虚実⑤——「装置」との戦い・日本の対応						
7	「男女共同参画社会」の虚実⑥——「バックラッシュ」現象						
8	「男女共同参画社会」の虚実⑦——男女間の公共性						
9	世代をめぐる物語①——戦後日本に存在してきた「世代」				戦後の日本では、どのようなメンタリティを持った「世代」が生まれ、どのように変質していったのかを講義することで、今後の世代間共生のあり方を検討する。		講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はこれを用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。
10	世代をめぐる物語②——「焼け跡世代」「団塊の世代」						
11	世代をめぐる物語③——「学生運動」の季節						
12	世代をめぐる物語④——「新人類世代/団塊ジュニア世代」						
13	世代をめぐる物語⑤——「新・新人類」の登場						
14	世代をめぐる物語⑥——ゼロ年代以降の若者たち						
15	世代をめぐる物語⑦——「反=若者論」との対峙						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			◎				80
授業態度・授業への参加度			○				20
補足事項		期末試験: レポート					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	講義担当者が作成したオリジナルの講義資料を配付し、それに記入する形で授業を進めます。参考文献は資料中に紹介する。						
履修条件	初回の講義で受講上の注意を詳しく述べるので、可能な限り出席すること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	現代社会論B (情報社会論)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	三 隅 讓 二	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	<p>情報社会論は、社会制度や社会変化などの「社会構造の変化」を促す要因は、人々が使用するメディアやマスメディアの変化に由来するという社会変動史観から社会変動を記述分類して説明する。本講義では、前半で社会変動論とマスコミの概念を学び、後半で文学や芸術のなかでの情報化の進展に関する理論を読み解いていく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	情報革命を中心とする情報社会論とともに社会変動論としての情報社会論の特徴を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	情報社会論の理論や分析方法を用いて、日常生活のコンビニや言語等の事象を論じることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)			
1	社会変動論としての情報社会論		講義				
2	社会学の社会変動論① (H. スペンサー、A. コント、梅棹忠夫)		講義				
3	社会学の社会変動論② (E. デュルケーム、K. マルクス)		講義				
4	マスコミの意義と機能		講義				
5	マスコミとは何か?		講義				
6	マスコミの活動		講義				
7	マスコミの効果 (マスコミの「強力効果論」)		講義				
8	マスコミの「皮下注射論」(ラガースフェルド等)		講義				
9	マスコミの「弾丸理論」		講義				
10	マスコミの「限定効果論」(議題設定効果論、二段階の流れ、オピニオンリーダーの存在)		講義				
11	絵画芸術、文学における情報転換		講義				
12	マクルーハンの文字と文化の歴史		講義				
13	マクルーハンの文字と言語の歴史		講義				
14	普遍言語論争とコンピュータの誕生		講義				
15	教場試験		講義と小テスト	全体の復習			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎				70	
宿題・授業外レポート			◎			15	
授業への参加度(資料へのコメントを含む)		◎				15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	レジュメを配布する。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーで対応する。					授業中 の撮影	

人間社会学部
公共社会学科
(専門教育科目)

授業科目名	現代社会論C (情報社会と法)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 森 脇 敦 史		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	現代が情報化社会と言われて久しいが、特に近年では、インターネットの発達を契機として情報が持つインパクトが巨大化している。さらに、ビッグデータやAIの利用は、社会・経済秩序の構造そのものに大きな影響を与える一方、プライバシー等の個別的な権利理解だけでなく、法解釈や個人の在り方そのものを変える可能性／危険を有している。本講義では、社会の情報化によって生じる法の変化および、法によって変化する情報社会のあり方を検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	情報社会の進展と、法の変化との相互作用について理解できる。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	ガイダンス……メディアの現状、表現の自由概論	講義	授業で配布するレジメで、次回までの学習課題を指定することがあります。				
2	メディア法①……取材活動の自由	講義					
3	メディア法②……名誉毀損	講義					
4	メディア法③……ヘイトスピーチ	講義					
5	メディア法④……プライバシー	講義					
6	メディア法⑤……わいせつ、児童ポルノ、青少年保護条例	講義					
7	メディア法⑥……放送制度	講義					
8	個人情報保護①……個人情報保護法制の全体像、「個人情報」	講義					
9	個人情報保護②……「個人データ」	講義					
10	個人情報保護③……「保有個人データ」、「匿名加工情報」	講義					
11	情報公開……情報公開制度の必要性、開示対象と手続、不開示情報	講義					
12	著作権	講義					
13	インターネットと法①……インターネット上の権利侵害	講義					
14	インターネットと法②……プロバイダー、検索エンジンの責任	講義					
15	情報社会の未来と法解釈……ビッグデータ、AI	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度				○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献：鈴木秀美・山田健太編著『よくわかるメディア法』ミネルヴァ書房(2011年) 曾我部真裕ほか著『情報法概説』弘文堂(2015年)						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。						授業中の撮影

授業科目名	家族社会学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	阪井 裕一郎						
授業の概要	<p>本科目では、家族や結婚をめぐるさまざまな具体的な事象について家族社会学の視点から学んでいく。家族社会学の理論や概念を知ること、家族や結婚の歴史の変遷を知ること、そして、さまざまな国や文化における家族のありかたを比較することによって、われわれが「自明」とみなしている家族を相対化し、さまざまな問題に気づくことができる。こうした視点から、これからの家族や家族以外の人間関係がどう変化していくのか、さらには、どのような法制度・政策が必要とされるのかを考えていく。講義で得た知識・考えを使って、自分自身や自分の身の回りについて考えることを重視する(毎回リアクションペーパーを提出する)。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会学の家族研究における基礎的な理論を説明することができる。家族社会学の基礎的用語を社会構造の問題として理解する。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのか、そして、われわれが日々どのように生きていくべきなのかを考える力を身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	イントロダクション: 家族を疑う	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。			毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。		
2	家族と世帯: 家族変動をとらえる視点と理論						
3	結婚と家族 (1) 見合い結婚と恋愛結婚						
4	結婚と家族 (2) 離婚と再婚						
5	結婚と家族 (3) 多様化するパートナーシップ						
6	少子高齢社会 (1) 少子化の原因と対策						
7	少子高齢社会 (2) 福祉政策の歴史と国際比較						
8	少子高齢社会 (3) 介護問題をめぐる課題と対策						
9	家族と暴力 (1) 児童虐待を考える						
10	家族と暴力 (2) ドメスティック・バイオレンスを考える						
11	家族と階層再生産: 家庭教育と貧困を考える						
12	血縁を疑う: 養子縁組と里親制度						
13	「住まい」から問う家族 (1) 家族と住宅の歴史						
14	「住まい」から問う家族 (2) 現代の課題と新たな展開						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度			○	○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト: 永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年、2484円。毎回、講義用プリントも配布する。 参考文献: 森岡清美・望月嵩『新しい家族社会学【四訂版】』培風館、1997年/落合恵美子『21世紀家族【第三版】』有斐閣、2004年/清水浩昭ほか編『家族革命』弘文堂、2004年/岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年/比較家族史学会編『現代家族ベディア』弘文堂、2015年。</p>						
履修条件	なし。ただし、家族社会学 B も併せて履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	家族社会学B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	阪井 裕一郎						
授業の概要	<p>本科目では、家族や結婚をめぐるさまざまな具体的な事象について家族社会学の視点から学んでいく。家族社会学の理論や概念を知ること、家族や結婚の歴史的変遷を知ること、そして、さまざまな国や文化における家族のありかたを比較することによって、われわれが「自明」とみなしている家族を相対化し、さまざまな問題に気づくことができる。特に、LGBTや事実婚、国際結婚といった新たに登場してきた多様な家族に焦点をあてる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	現代家族の状況をあらわす用語である近代家族、家族の多様化、ジェンダー、LGBTなどを社会構造の問題として理解する。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	現代の家族が直面しているさまざまな問題とその背景を多角的な視点から理解し、どのような解決策が必要なのか、そして、われわれが日々どのように生きていくべきなのかを考える力を身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	イントロダクション	講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。			毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。		
2	家族主義の問題						
3	ワーク・ライフ・バランス (1) 国際比較を中心に						
4	ワーク・ライフ・バランス (2) 男性の育児参加を中心に						
5	LGBTと家族 (1) セクシュアリティとは何か						
6	LGBTと家族 (2) 同性婚を考える						
7	事実婚と同棲						
8	戸籍と夫婦別姓 (1) 戸籍の歴史						
9	戸籍と夫婦別姓 (2) 別姓問題とは何か						
10	生殖補助医療 (1) 人工妊娠中絶/不妊問題/出生前診断						
11	生殖補助医療 (2) 代理母出産/AID など						
12	グローバル化と家族 (1) 国際結婚の歴史と現在						
13	グローバル化と家族 (2) ケア労働者/結婚移住者						
14	近代家族/家族の多様化を再考する						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			◎	◎			70
授業態度・授業への参加度				◎	○		30
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		<p>毎回、講義資料を配布する。 参考文献：永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／清水浩昭ほか編『家族革命』弘文堂、2004年／岩間暁子ほか『問いからはじめる家族社会学』有斐閣、2015年／比較家族史学会編『現代家族ベディア』弘文堂、2015年／森山至貴『LGBTを読み解く』ちくま新書、2017年</p>					
履修条件		なし。ただし、家族社会学Aを履修していることが望ましい。					
学習相談・助言体制		講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。					授業中の撮影

授業科目名		福祉社会学			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		吉 武 由 彩			前期	講義	選択必修	2	3年	
授業の概要		本講義では、高齢者をめぐる状況、生きがいや生きづらさ、ボランティアと福祉社会などについて学ぶ。福祉社会学の知識を習得し、現代社会における福祉領域をめぐる状況について考察する力を養うことを目的とする。								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	福祉社会学における基礎的知識を理解している。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	現代社会における福祉領域をめぐる状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容			授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)			
1	授業概要説明			講義						
2	福祉、福祉社会学			講義			福祉、福祉社会学			
3	生きづらさ			講義			生きづらさ			
4	生きがい			講義			生きがい			
5	高齢化の状況			講義			高齢化			
6	高齢者と社会関係			講義			高齢者、社会関係			
7	高齢者とケア			講義			高齢者、ケア			
8	福祉コミュニティの形成			講義			福祉コミュニティ			
9	子どもの貧困(ゲスト講師による講義)			講義			子ども、貧困			
10	ボランティアの研究			講義			ボランティアの研究			
11	献血の現状(ゲスト講師による講義)			講義			献血の現状			
12	献血の研究			講義			献血の研究			
13	災害と困難、支援			講義			災害、困難、支援			
14	福祉社会と想像力			講義			福祉社会、想像力			
15	まとめ			講義						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
宿題・授業外レポート			○	◎			70			
授業態度・授業への参加度			○	○	○		30			
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義としてボランティアの行為に関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回に変更することがある。									
テキスト・参考文献等	テキスト：資料を講義時に配布する。参考文献：①福祉社会学会編、2013、『福祉社会学ハンドブック』中央法規出版。②直井道子・中野いく子・和気純子編、2014、『補訂版 高齢者福祉の世界』有斐閣。									
履修条件	なし									
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。							授業中の撮影	○	

授業科目名	社会病理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	<p>本講義では、逸脱・犯罪・社会問題等を読み解く上で有用な、社会的なものを見方を学ぶ（採り上げる具体的な社会現象については授業計画を参照）。逸脱・犯罪・社会問題をどのように読み解くかは、「私たち」の立場やものの考え方に大きく影響されるものである。社会病理学の研究蓄積は、この問題を克服しようとしてきた歴史とも言える。社会学（もしくは「私たち」）が社会的諸事象をどのように捉えてきたか、そして「私たち」がこれから社会問題・逸脱・犯罪を語るならば、それへのいかなる接近が「可能」なのかを理解することを目指す。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会病理学に関する基礎的な知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	犯罪・非行や社会問題を批判的な視点から理解し、説明することができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	ガイダンス — 「社会病理」という用語について	講義	社会病理				
2	社会病理学の誕生／社会病理学への批判的視座	講義	近代化、社会有機体説				
3	社会解体論(1) シカゴ学派の社会調査、同心円地帯仮説	講義	同心円地帯仮説				
4	社会解体論(2) 犯罪・非行の地域的顕在	講義	社会解体、同化				
5	逸脱行動論序説 — ものの見方としての「逸脱」	講義	逸脱				
6	逸脱は学習される — マリファナ使用者	講義	学習理論				
7	企業活動と逸脱	講義	ホワイトカラー犯罪				
8	逸脱と社会構造 — 拝金主義	講義	緊張理論				
9	つながりの欠如が逸脱をもたらす — 非行、いじめ	講義	統制理論				
10	「レッテル貼り」が逸脱をもたらす — 冤罪	講義	ラベリング論、暗数問題				
11	社会問題はつくられる	講義	構築主義、レポート課題				
12	社会問題への社会的検討	講義	構築主義				
13	「少年非行」の動向	講義	犯罪統計				
14	まとめと課題	課題	課題で論理的な文章が書けるよう 予め準備をしておく。				
15	課題解説と総括	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			70	
宿題・授業外レポート		○	○			30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：資料・プリントを講義時に配布する。また適宜、映像資料等を活用する。 参考文献：①仲村祥一編『社会病理学を学ぶ人のために』世界思想社 1986年。②ハワード・S・ベッカー『完訳アウトサイダーズ』現代人文社 2011年。③岡邊健編『犯罪・非行の社会学 — 常識をとらえなおす視座』有斐閣 2014年。他、講義中に指示する。</p>						
履修条件	社会学A・Bを履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	講義内容に関する質問は、講義後もしくは研究室にて応じる。講義の最後にコミュニケーションカードを課すので、講義の感想のみならず、疑問点等を積極的に記してください。また、受講生の状況に応じて、講義内容に変更を加える。						授業中の撮影

授業科目名	集合行動論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
			後期	講義	選択	2	3年			
担当教員	三 隅 讓 二									
授業の概要	未組織集団論としての集合行動論は、地域社会の中でも具体的に観察できる流行、噂から大きな社会変動を促す社会運動や社会革命に至るまでを対象とする、一種の社会変動論であると言える。地域を学ぶうえで大変重要となる集合行動論の考え方を身につける。									
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> 集合行動論の基礎論である群集心理学、創発規範論、付加価値理論などの学説を理解している。 特に噂に関する集合行動論の考え方を身につける。 								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> 流行や噂といった身近な集合行動現象について、理論をもとに分析することができる。 								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)					
1	はじめに(集合行動論とはなにか?)		講義と質疑		ノートとプリントの復習					
2	ル・ボンとタルドの群集心理学									
3	ル・ボンの群衆論、タルドの模倣論と公衆論									
4	パークとブルーマーの集合行動論									
5	ターナーとキリアンの集合行動論									
6	スメルサーの集合行動論									
7	小テストと中間のまとめ		質疑とテスト		ノートとテストの復習					
8	うわさの社会学1		講義と質疑		ノートとプリントの復習					
9	うわさの社会学2									
10	うわさの社会学3									
11	うわさの社会学4									
12	小テストと中間のまとめ							ノートとテストの復習		
13	流行の社会学1							ノートとプリントの復習		
14	流行の社会学2									
15	まとめと課題		質疑とテスト		ノートとテストの復習					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)				
小テスト・授業内レポート		◎	◎			30				
宿題・授業外レポート		◎	◎			60				
授業態度・授業への参加度		○	○			10				
補足事項	出席は3分の2以上、テスト・授業態度4割、レポート6割で採点予定です。講義の最初に前回の内容をどの程度覚えているかのミニテストをやる予定です。									
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等	テキストは最初の講義の時に、G. A. ミラー「Introduction to Collective Behavior」の該当箇所を配布します。佐藤達哉編『別冊現代のエスプリ 流言、うわさ、そして情報』至文堂1999、など。									
履修条件	テキストとして英語の文献を使用しますので、毎回辞書(携帯用の電子辞書可)とテキストを持参してください。									
学習相談・助言体制	オフィスアワーでも、講義の前後でも自由に質疑を受け付けます。またそれ以外に研究室に来てもらっても結構です。					授業中の撮影				

授業科目名	仕事の経済学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	人生の中で「仕事」は大きな部分を占めている。人々は「仕事」を通じて経済プロセスに参加し、他人と交流することもできる。本講義では、「仕事」の経済合理性について「働く側」(労働供給)と「雇う側」(労働需要)に分けて分析する。「雇う側(労働需要)の分析」では、与えられた条件のもとで「何人雇えばいいのか」という、企業にとっての最適雇用の決定メカニズムを中心に検討する。「働く側(労働供給)の分析」では、「働くか働かないか」、「働くとしたらどのくらい働くか」といった個人・家計の最適就業決定メカニズムについて検討する。本講義では、満足度の高い「仕事」、自分にとってより良い「仕事」を考察し、満足度の高い働き方を考えてみたい。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	「仕事の経済合理性」について労働需要側と労働供給側から検討し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	労働環境の変化に対応した「仕事のあり方」、企業の人事諸制度が提案できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	国民の満足度を高める労働政策が提案できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容			授業方法	事前・事後学習(学習課題)		
1	「仕事」を考える: 経済プロセスの中での位置づけ(仕事の変遷、良い仕事とは、仕事の保障、..)			講義	テキスト第1章を予習		
2	人が「働く」という意味: 人は、何のために働くのか			講義	テキスト第1章を予習		
3	「働き方」について: 雇用者、自営業者など			講義	テキスト第1章を予習		
4	働く側(労働供給)の分析: 効用最大化、最適労働時間			講義	テキスト第2章を予習		
5	雇う側(労働需要)の分析: 利潤最大化、賃金上昇の波及効果			講義	テキスト第2章を予習		
6	働く人の規模分析: 労働力人口と非労働力人口、労働力率と失業率、労働力のフロー分析			講義	テキスト第3章を予習		
7	働く時間: 法定労働時間と所定内労働時間、残業時間と規制、賃金水準と生活水準			講義	テキスト第3章を予習		
8	「仕事」の魅力度、その価値分析: 限界生産性価値説、補償賃金格差説、均等差異説			講義	テキスト第4章を予習		
9	「仕事」の地域間分布: 地域間賃金格差と労働移動の可能性			講義	テキスト第4章を予習		
10	多様な「仕事」と賃金: 企業規模間・産業間の賃金格差、効率賃金仮説			講義	テキスト第4章を予習		
11	「学び」と「訓練」: 教育の経済合理性			講義	テキスト第5章を予習		
12	学歴間賃金格差はなぜ生じるか: 人的資本理論、シグナリング論、適正発見理論			講義	テキスト第5章を予習		
13	企業による訓練: 企業特殊的技能の分析、その効果			講義	テキスト第5章を予習		
14	賃金プロファイル分析: 訓練費用の回収期間、内部労働市場と長期雇用、内部昇進制			講義	テキスト第5章を予習		
15	総括: 成果主義を検証する			講義			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	太田聡一・橋木俊詔『労働経済学入門』有斐閣。						
履修条件	特にないが、経済学を履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	暮らしの経済学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	人生の中でたくさんの選択問題に直面する。人生とは、「毎日行う選択の積み重ねである」と言っても過言ではない。本講義では、満足度の高い選択と「暮らし」について考察する。良い選択のために、「仕事の経済学」で学んだ理論・仮説を使って、現実の労働市場で起きている様々な「暮らし」と関係する諸問題を検討する。例えば、高齢社会への進展など人口構造の変化、人々のライフスタイルや消費パターンの変化、そしてそれらの影響を受けた産業構造や経済構造の変容、働き方の多様化など、外部環境が変化するなか、人々の「暮らし」はどのように変わるのだろうか。本講義では、労働環境の変化のなか、満足の高い「暮らし」を模索する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	環境変化による働き方の変容を診断し、今後の雇用形態が展望できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	満足度の高い「暮らし」のための条件として、企業の人事諸制度が提案できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	少子高齢化が進展する状況での最善の労働政策が提案できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容			授業方法	事前・事後学習(学習課題)		
1	より良い「暮らし」のために: 人生の中での選択問題、満足度の高い選択と暮らし			講義	テキスト第5章を予習		
2	成果主義の導入によって転職しやすくなるのか: 内部昇進制の役割と成果主義			講義	テキスト第5章を予習		
3	会社を辞めるということ: 離職・転職のメカニズム			講義	テキスト第5章を予習		
4	成功する転職と労働市場の変化			講義	テキスト第5章を予習		
5	失業発生のメカニズム: 古典派経済学とケインズ経済学の見解			講義	テキスト第6章を予習		
6	失業と「暮らし」: 失業とインフレとの関係、フィリップス曲線による分析			講義	テキスト第6章を予習		
7	雇用のミスマッチ: 構造的失業と摩擦的失業			講義	テキスト第7章を予習		
8	失業率を下げるための政策: 積極的雇用政策の効果分析			講義	テキスト第7章を予習		
9	特定求職者雇用開発助成金の波及効果			講義	テキスト第7章を予習		
10	女性労働の問題: 家事・結婚・育児の問題			講義	テキスト第8章を予習		
11	女性を働くやすくする: ダグラス・有澤法則、男女間賃金格差問題			講義	テキスト第8章を予習		
12	若年労働問題を考える: 若年失業問題、ニート、フリーター、離職率			講義	テキスト第9章を予習		
13	就職氷河期世代の問題から若年雇用問題を考える: 世代効果、若年実業がもたらすもの			講義	テキスト第9章を予習		
14	高齢者雇用問題を考える: 定年制と雇用延長、公的年金の影響			講義	テキスト第10章を予習		
15	総括: 公的年金制度と暮らしのあり方を考える			講義			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	太田聡一・橋木俊詔『労働経済学入門』有斐閣。						
履修条件	特にないが、仕事の経済学と経済学を履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	CSR（企業の社会的責任）論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	小谷典子	前期集中	講義	選択	2	3年
授業の概要	現代社会におけるCSR（企業の社会的責任）や社会貢献活動の実態を、その背景にある企業の経営理念との関連を明らかにし、官民の協働による新しい公共の可能性について考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会的事象の現状と課題の多様性を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	はじめに：企業と地域社会のかかわり	講義	田川市と筑豊地域				
2	CSRとは何か	講義	企業組織と公共性				
3	日本経済団体連合会の企業行動憲章	講義	企業市民性				
4	企業の社会貢献活動の現状	講義	社会貢献活動実績調査、CSR評価調査				
5	企業の経営倫理の原点	講義	近江商人と三方よし				
6	日本の近代化と企業家の社会的責任	講義	渋沢栄一・大原孫三郎				
7	北九州地域企業のCSR活動	講義	安川電機・TOTO				
8	ダイバーシティ経営 その1	講義	女性の雇用				
9	ダイバーシティ経営 その2	講義	障がい者、外国人雇用				
10	持続可能な地球環境への貢献	講義	環境問題への取り組み				
11	市民活動への支援 その1	講義	環境団体NPOへの支援				
12	芸術文化活動への貢献：企業メセナ	講義	メセナ活動の実態				
13	市民活動への支援 その2	講義	芸術文化団体NPOへの支援				
14	CSRとソーシャルビジネス	講義	社会的課題の解決に向けて				
15	まとめ：CSRとSDGs	講義	持続可能な社会に向けて				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	○			40	
宿題・授業外レポート		○	○			20	
授業態度・授業への参加度		◎	○			40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	三浦典子『企業の社会貢献と現代アートのまちづくり』溪水社、2010年 三浦典子『企業の社会貢献とコミュニティ』ミネルヴァ書房、2004年						
履修条件							
学習相談・助言体制	学習相談は最終時間終了時に受け付ける。質問は小レポートで受け、次の日の授業で回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	社会心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	上野行良		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>社会心理学とは、自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学である。この講義では社会心理学の主要なテーマを紹介する。本講義は、テキストを読むことを中心とした授業を行う。社会心理学のテキストを共に読み、内容をまとめ、わからないところを質問する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	他者及び自己に対する意識と対人行動についての知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	対人意識や対人行動の問題について主体的に考えることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>【授業内容】</p> <p>1～5.ステレオタイプ 6. 基本的な帰属の誤り 7. 中心ルート・周辺ルート 8. 復習課題Ⅰ 9. 社会的抑制と社会的促進 10. 傍観者効果 11. 少数の影響 12. 制度規範 13. 集団極性化現象 14. 集団思考 15. 復習課題Ⅱ</p> <p>【授業方法と事前・事後学習】</p> <p>毎回異なるメンバーとグループを作る。 ①前回までの内容に関するチェックテストと採点（事前・事後学習としてテストの準備をすること） ②グループでテキストの輪読をしたあと、各自でテキストをまとめる ④内容の概説 ⑤前回の質問に対する回答 ⑥各自でまとめたものを、グループで見せ合い評価する ⑦与えられたテーマでコメントを書く ⑧グループでコメントを共有する ⑨授業内容についてのコメントと質問を書く</p> <p>毎回、前回までのテキストを持って来ること。 復習課題のときは、事前に課題を説明するので、準備をして来ること。これは事後学習となる。また、ダウンロードした提示資料を持参すること。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
提出課題		◎		◎		100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	人格心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	上野行良						
授業の概要	福祉社会を支えるためにひとりひとりの人間に対して深い理解をもつことは不可欠です。他者を「嫌な性格」ですまし、自己の問題を「性格を直す」ですますような浅く無意味な対処は知識のなさや誤ったスキーマ処理に起因する態度です。本授業では個人を理解するために必要な心理学的な知識を説明します。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	人格と概念と形成について心理学的な知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自己や他者のパーソナリティについて客観的に考えようとする事ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	人格心理学・感情心理学とは何か	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
2	感情と行動と思考	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
3	人格とは何か	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
4	人格の形成	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
5	環境1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
6	環境2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
7	行動療法	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
8	復習	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
9	行動を変える1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
10	行動を変える2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
11	行動を変える3	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
12	行動を変える4	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
13	環境と遺伝と進化	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
14	現代社会と人格	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
15	復習	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
提出課題		◎		◎		100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	社会調査法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	中村晋介		後期	講義	必修	2	1年
授業の概要	<p>本学で開講される社会調査関連科目の出発点として、社会調査の意義と諸類型に関する基本的な事項について講義する。具体的には、社会調査の種類と方法、社会調査の諸段階、国勢調査等の活用、社会調査結果の読み方、社会調査の倫理などについて概論的に取り上げる。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	問題意識に応じて、適切な社会調査の方法を選択し、遂行できる能力を修得する。					
	DP4:表現力	調査で得られたデータを適切に整理し、報告書やエスノグラフィーを作成できる能力を修得する。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	社会調査において、自らの問題意識や研究設問を適切に設定する能力を修得する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	イントロダクション——基本用語の解説	<p>それぞれ、「授業内容」の副題に記した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)に基づいて講義します。</p> <p>適宜、コメントカードや質問用紙を配布して、学生の理解度を確認しながら授業を進めます。</p>	<p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はレジュメとテキストの該当箇所(各回の講義内で指示)を用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p>				
2	社会調査の目的と必要性①——歴史上の社会調査						
3	社会調査の目的と必要性②——社会福祉学、アメリカ社会学と社会調査						
4	社会調査の目的と必要性③——「社会調査」へのリテラシー						
5	社会調査の事前準備①——量的調査と質的調査、2次分析とメタ分析						
6	社会調査の事前準備②——先行研究の探し方						
7	社会調査の事前準備③——心構えと調査倫理						
8	量的調査の方法①——サンプリングから配票まで						
9	量的調査の方法②——調査票・質問文の作り方						
10	量的調査の方法③——量的調査の分析方法						
11	質的調査の方法①——全体的な進め方						
12	質的調査の方法②——面接の方法						
13	質的調査の方法③——フィールドノーツと構造化						
14	質的調査の方法④——エスノグラフィーの書き方						
15	社会調査の倫理						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法	定期試験		○	○		80	
	授業態度・授業への参加度		◎	◎		20	
補足事項	期末試験：筆記試験(持ち込み不可)						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献：玉野和志『実践社会調査入門』(世界思想社)、その他の参考文献は配布資料内で紹介。						
履修条件	特になし。社会調査士A科目。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	社会調査の設計		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	吉 武 由 彩						
授業の概要	本講義では、社会調査の設計を学ぶ。具体的には、社会調査の目的、方法、企画と設計、仮説構成、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法などを学ぶ。講義は「社会調査法」を履修していることを前提にして進める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会調査の諸段階を理解している。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会調査を企画することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	授業概要説明		講義				
2	調査目的：テーマ設定と文献収集		講義 テキスト2章		調査目的		
3	調査方法と調査方法の決め方：社会調査の種類		講義 テキスト1章		調査方法、調査の種類		
4	調査企画と設計(1)		講義 テキスト6章		調査企画、設計		
5	調査企画と設計(2)		講義 テキスト6章		調査企画、設計		
6	仮説構成		講義 テキスト3章		仮説		
7	対象者の選定とサンプリング(1)		講義 テキスト5章		対象者の選定、サンプリング		
8	対象者の選定とサンプリング(2) 小テスト1(持ち込みなし)		講義 テキスト5章		対象者の選定、サンプリング		
9	質問文・調査票の作成(1)		講義 テキスト4章		質問文作成		
10	質問文・調査票の作成(2)		講義 テキスト4章		質問文作成		
11	調査実施方法とデータの整理		講義 テキスト6章		調査実施、データの整理		
12	質的調査の諸技法と留意点		講義 テキスト8章		質的調査の諸技法		
13	質的調査の手順(1)		講義 テキスト9章		質的調査の手順		
14	質的調査の手順(2)		講義 テキスト9章		質的調査の手順		
15	まとめ 小テスト2(持ち込みなし)		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎				70	
授業態度・授業への参加度		◎		○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：大谷信介・木下栄二・後藤範章・小松洋編, 2013, 『新・社会調査へのアプローチ』 ミネルヴァ書房.						
履修条件	本講義は社会調査士資格B科目に相当する。「社会調査法」を履修していることを前提に授業を進める。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	データ分析の基礎		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	<p>受講生がデータ分析の基礎的な方法を身につけることを目標とする。現代社会の状況把握や問題解決など目的に応じたデータを入手して内容を読み取り、データ分析を行なって他者との効果的な議論を行うための基本的な方法を学ぶ。各種の公的統計や調査報告書の入手方法とその適切な読み方、データを数値や図表で表現する方法、その他の基礎的なデータ分析について講義する。受講生自身が基礎的なデータ分析を行って、データを活用（理解・分析・提示など）する方法を学ぶ。また、中学社会・高等学校公民科の教員免許状取得のための科目でもあるため、科目指導の基礎的スキルについてもふれる（授業計画の*）。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会学で使われるデータ分析の基本的な知識を身につけている。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象に関するデータをもとに論理的な考察と判断ができる。					
	DP4: 表現力	データ分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	ガイダンス：データを土台とした議論の重要性						<p>毎回、テキストと授業資料の予習と復習を行うこと。各回の授業の終わりに次回のテキストの該当箇所を指示する。</p> <p>授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくること。</p> <p>積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。</p>
2	データを活用するための基礎知識（*統計やデータ分析に関する社会科・公民科のカリキュラム構成と教材開発）						
3	統計の種類と役割						
4	既存統計資料や調査報告書の収集と読み方（具体例と活用方法）（*統計資料をもとに社会的課題について議論する方法）						
5	1つの質的変数を記述する：単純集計						
6	1つの量的変数を記述する：基本統計量（代表値、散布度ほか）						
7	異なる尺度上の値を比較する：標準化ほか						
8	データを視覚化する：グラフの読み方・作り方（*さまざまな統計資料・調査報告書を教材として活用する方法と留意点、教材研究）						
9	2つの量的変数の関連をみる：相関係数						
10	2つの量的変数の関連をみる：回帰分析（因果関係と相関関係）						
11	3つの量的変数の関連をみる：偏相関係数（疑似相関）						
12	2つの質的変数の関連をみる：クロス集計						
13	2つの質的変数の関連をみる：クロス集計の相関係数						
14	3つの質的変数の関連をみる：3重クロス集計（*さまざまな分析手法を教材として活用する方法と留意点、教材研究）						
15	まとめ：推測統計学と多変量解析の基礎（*データを提示して議論する方法と教材の活用法）						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業内課題・授業態度・授業への参加度		◎	◎	○	○	60	
宿題・授業外レポート		◎	◎		○	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010、2600円</p> <p>参考文献：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎—JGSSデータとオンライン集計の活用』有斐閣、2007ほか</p>						
履修条件	特になし。高校で学習した統計に関する知識と重なる部分もあるので復習しておくこと。						
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。						授業中の撮影

授業科目名	社会統計学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	<p>社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の基礎について学ぶ。記述統計学・推測統計学の基本的な知識と分析手法を中心に、統計的データを適切に読み、まとめ、分析するための方法を学ぶ。そのことを通じて現代社会について様々な角度から適切な分析と議論ができるようになることを目指す。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会統計学に関する基本的な知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会的事象に関するデータについて社会統計学の知識をもとに論理的な考察と判断ができる。					
	DP4:表現力	社会統計学の手法を使って分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	ガイダンス、調査データとは何か						<p>毎回、テキストと授業資料の予習と復習を行うこと。各回の授業のおわりに次回のテキストの該当箇所を指示する。</p> <p>授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくること。</p> <p>積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。</p>
2	社会調査の手順の概要						
3	多様な分析の方向性						
4	既存統計資料やデータの収集と活用の方法						
5	度数分布表						
6	グラフ						
7	代表値とばらつき						
8	標準化、複数回答の扱い方						
9	2変数のクロス集計表						
10	クロス集計表の関連を表す統計量						
11	3変数のクロス集計表						
12	相関係数、偏相関係数						
13	相関と因果、回帰分析の基礎						
14	確率論と推測統計学の基礎						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内課題・授業態度・授業への参加度		◎	◎	○	○	60	
宿題・授業外レポート		◎	◎		○	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎—JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣、2007、2800円</p> <p>参考文献：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010ほか</p>						
履修条件	「データ分析の基礎」を履修していることが望ましい(履修している学生は復習をしておき、履修していない学生は各自各自テキスト等で自習しておくこと)。						
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。					授業中の撮影	

授業科目名	社会統計学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	<p>社会調査の結果や統計データをまとめ、分析するために必要な社会統計学の基礎について学ぶ。記述統計学に加えて統計的推定や統計的検定などの推測統計学を学ぶ。また、多変量解析からいくつかの基本的な分析手法を取り上げる。そのことを通じて現代社会について様々な角度から適切な分析と議論ができるようになることを目指す。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会統計学に関する基本的なを身につけている。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象に関するデータについて社会統計学の知識をもとに論理的な考察と判断ができる。					
	DP4: 表現力	社会統計学の手法を使って分析の結果を適切かつ効果的に表現することができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	ガイダンス、記述統計学と推測統計学						<p>毎回、テキストと授業資料の予習と復習を行うこと。各回の授業のおわりに次の回のテキストの該当箇所を指示する。</p> <p>授業内で行う作業・課題やレポート作成は、履修学生の知識、パソコン操作技術などによって、ある程度進み具合が異なることが予想される。授業内でも標準的な時間をとるが、時間内に作業が終わらなかった回は各自必ず復習し、次回までに理解してくること。</p> <p>積み重ねが重要なので、疑問点は質問をし、早期の解決を図ること。</p>
2	統計的推定の考え方①（無作為抽出、点推定、区間推定ほか）						
3	統計的推定の考え方②（無作為抽出、点推定、区間推定ほか）						
4	統計的検定の考え方（帰無仮説と対立仮説、検定の手続きほか）						
5	クロス集計表①（クロス集計表、3重クロス集計表、独立性の検定ほか）						
6	クロス集計表②（クロス集計表、3重クロス集計表、独立性の検定ほか）						
7	クロス集計表③（クロス集計表、3重クロス集計表、独立性の検定ほか）						
8	平均値に関する推定と検定①（平均値の推定ほか）						
9	平均値に関する推定と検定②（t検定ほか）						
10	平均値に関する推定と検定③（分散分析ほか）						
11	相関係数、偏相関係数と検定						
12	回帰分析①（回帰分析の基礎ほか）						
13	回帰分析②（重回帰分析ほか）						
14	回帰分析③（回帰分析の応用ほか）						
15	まとめ その他の統計分析						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法	授業内課題・授業態度・授業への参加度	◎	◎	○	○	60	
	宿題・授業外レポート	◎	◎		○	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：岩井紀子・保田時男『調査データ分析の基礎—JGSS データとオンライン集計の活用』有斐閣、2007、2800円</p> <p>参考文献：廣瀬毅士・寺島拓幸『社会調査のための統計データ分析』オーム社、2010ほか</p>						
履修条件	「社会統計学Ⅰ」から連続する授業なので合わせて履修すること。						
学習相談・助言体制	質問は授業内・授業前後に随時受け付ける。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。					授業中の撮影	

授業科目名	質的調査法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	中村晋介						
授業の概要	<p>社会調査は、大規模なアンケート調査に代表される量的調査と、インタビューや参与観察、あるいは文書資料の解説といった技法を用いる質的調査の2通りに分類される。講義では、このうち質的調査の方法を学ぶ。また、これを通して、受講生は「社会学」的な考え方／問題設定とはどのようなものかを、より深く理解することになる。なお、人類学など、関連する領域における質的調査についても言及する。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	問題意識に応じて、適切な質的調査法を企画・遂行する能力を習得する。					
	DP4:表現力	収集されたデータを的確に整理し、倫理面に配慮したエスノグラフィーを作成する能力を習得する。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	社会問題に対して、科学的な問題意識と研究設問を立てる能力を習得する。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	イントロダクション——「科学的」な社会調査とは		<p>それぞれ、「授業内容」に即した内容を、教科書・配布資料プリント・ボード(黒板)に基づいて講義する。</p> <p>受講生の理解度を確保するために、しばしばミニレポート形式の課題を出す。</p>		<p>講義に関する資料・講義内容・参考文献をまとめたレジュメを適宜配布する。受講生はレジュメとテキストの該当箇所(各回の講義内で指示)を用いて受講前後に予習・復習をおこなうこと。</p> <p>講義内容と関連した課題(ミニレポート形式)を講義期間中に複数回出題する。</p>		
2	質的調査とは何か①——質的調査と量的調査						
3	質的調査とは何か②——質的調査の諸技法(1)						
4	質的調査とは何か③——質的調査の諸技法(2)						
5	文化人類学／社会人類学における質的調査						
6	質的調査の科学性①——質的調査の長所と短所						
7	質的調査の科学性②——「科学的」であることの意味						
8	フィールドワークと問題意識①——仮説と研究設問の作り方						
9	フィールドワークと問題意識②——グラウンデッド・セオリー・アプローチ						
10	フィールドに立つ①——サンプリングの方法						
11	フィールドに立つ②——「観察する／される」ことの影響、臨床社会学						
12	フィールドノーツの作成①——作成の方法、インタビューの諸技法						
13	フィールドノーツの作成②——コーディングと構造化						
14	エスノグラフィーの作成①——エスノグラフィーの書き方						
15	エスノグラフィーの作成②——倫理と客観性						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
定期試験			○	○		70	
宿題・授業外レポート			◎	○		20	
授業態度・授業への参加度			○	◎		10	
補足事項		期末試験：筆記試験(持ち込み不可)					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		講義担当者が作成したオリジナルの講義資料を配付し、それに記入する形で授業を進めます。参考文献は資料中で紹介。					
履修条件		「社会調査法」を受講していることが望ましい。社会調査士F科目。					
学習相談・助言体制		オフィスアワーで質問や意見を受け付けます。事前にアポイントをとった場合は、それ以外の時間でも可能な限り対応します。					授業中の撮影

授業科目名	データ処理とデータ解析 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択 (公共社会学科は必修)	1	3年
担当教員	石崎 龍 二						
授業の概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要統計解析の基礎とその応用を、コンピュータで統計処理を行う演習を通して学習する。具体的には、基本統計量や度数分布などの記述統計、母平均・母比率・母分散に関する区間推定、検定などの推測統計のデータ処理と分析の方法を学習する。つぎに変数間の関係の分析方法や回帰分析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会調査や心理学研究等で必要となる量的・質的データの基礎的な集計・分析方法を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	調査データや実験データを、適切に集計・分析するなどの思考・判断力を身につけている。					
	DP4: 表現力	調査データや実験データを、集計・分析した結果を、適切に報告書にまとめることができる。(社会福祉学科は DP4 該当なし)					
技能	DP10: 専門分野のスキル	<p>データの単純集計・クロス集計ができる。</p> <p>量的データの分布の代表値、散布度の計算、母平均・母比率・母分散の区間推定・検定、2群の検定ができる。</p> <p>量的データ・質的データの2変数間の関係を分析できる。</p> <p>回帰分析ができる。</p>					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	記述統計と推測統計について概説		演習(左記の内容を演習用テキストに沿ってコンピュータの演習を進める)	データの尺度について復習			
2	記述統計-単純集計表、度数分布表			度数分布の階級数・階級幅について復習			
3	記述統計-分布の代表値、散布度			平均値、最頻値、中央値、分散、標準偏差など復習			
4	記述統計から推測統計へ-標準得点と偏差値、正規分布			データの標準化、正規分布などを復習			
5	推測統計-母平均、母比率、母分散の点推定・区間推定			標準誤差について復習			
6	推測統計-母平均、母比率、母分散の検定			帰無仮説、有意確率などの意味、Z検定、t検定、カイ二乗検定について復習			
7	推測統計-2群の検定			対応のない2群と対応のある2群の検定について復習			
8	質的変数における2変数間の関連-クロス集計、カイ二乗検定			カイ二乗検定・クラメルの連関係数などを復習			
9	量的変数における2変数間の関係-相関分析(相関係数、偏相関係数)			相関係数・偏相関係数などを復習			
10	分散分析-3つ以上のグループの標本平均の比較検定			レポート課題提示			
11	調査データの解析①-調査内容について話し合い		グループワーク	作成した質問紙の集計・分析方法の確認			
12	調査データの解析②-質問項目の作成・ミニ調査実施			入力データのチェック			
13	調査データの解析③-調査データの集計(単純集計・クロス集計)			調査データの分析結果のチェック			
14	調査データの解析④-調査データの分析(仮説の検定・変数間の関係)			調査データの分析結果のチェック			
15	調査データの解析⑤-調査報告書作成(結果及び考察・対策を含む)			調査データの報告書のチェック			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業外レポート		◎	◎		◎	40	
授業態度・授業への参加度		○	○		○	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>独自の演習用テキストを配付する。</p> <p>参考文献:①白砂堤津耶「例題で学ぶ初歩からの統計学」第2版、日本評論社、2015年、②大谷信介他「社会調査へのアプローチ」第2版、ミネルヴァ書房、2005年、③青木繁伸「Rによる統計解析」オーム社、2009年。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	データ処理とデータ解析Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	石崎 龍 二						
授業の概要	<p>社会学・心理学・教育学等に必要となる統計解析の基礎とその応用について、コンピュータでの統計処理演習を通して学習する。「データ処理とデータ解析Ⅰ」で学習した記述統計、推測統計、2変数間の相関分析、分散分析を基礎として、量的データ及び質的データの多変量解析を学ぶ。</p> <p>以上のデータ処理と解析法を学んだ後、グループ単位でミニ調査を実施し、統計解析を行い、報告書を作成する。こうした演習を通して、卒業論文等の課題研究における主張や仮説を検証するデータの処理と解析方法、統計解析を基礎にした議論の展開を身につける。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会調査や心理学研究等で必要となる量的・質的データの多変量解析の方法を理解している。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	調査データや実験データを適切に集計・分析するなどの思考・判断力を身につけている。					
	DP4: 表現力	調査データや実験データに関する多変量解析を行った結果を、適切に報告書にまとめることができる。 (社会福祉学科はDP4 該当なし)					
技能	DP10: 専門分野のスキル	判別分析・主成分分析・因子分析ができる。 数量化理論第Ⅰ類・Ⅱ類・Ⅲ類の分析ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	多変量解析－重回帰分析、ロジスティック回帰分析		演習(左記の内容を演習用テキストに沿ってコンピュータの演習を進める)	偏重回帰係数、決定係数について復習。			
2	多変量解析－判別分析			相関比、判別関数を復習			
3	多変量解析－主成分分析			固有値、主成分負荷量、主成分得点を復習			
4	多変量解析－因子分析			因子数の決定基準、因子寄与、因子寄与率、因子名の決定方法を復習			
5	数量化理論第Ⅰ類(予測、要因分析のための数量化)の解析①			説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数を復習			
6	数量化理論第Ⅰ類による解析②			レンジ、偏相関係数、重相関係数を復習			
7	数量化理論第Ⅱ類(判別、予測、要因分析のための数量化)の解析①			説明アイテムの選択基準、アイテム・カテゴリー数を復習			
8	数量化理論第Ⅱ類による解析②			レンジ、偏相関係数、相関比、判別区分点、判別の中率の復習			
9	数量化理論第Ⅲ類(分類、要因、データ構造分析のための数量化)の解析①			アイテム・カテゴリー数及び散布図、サンプル数の散布図の復習			
10	数量化理論第Ⅲ類による解析②(自由記述データの解析)			自由記述データの加工手順を復習。演習終了時に課題提示			
11	調査データの解析①－調査内容について話し合い		グループワーク	作成した質問紙の集計・分析方法の確認			
12	調査データの解析②－ミニ調査実施			入力データのチェック			
13	調査データの解析③－調査データの集計			調査データの集計結果のチェック			
14	調査データの解析④－調査データの解析			調査データの解析結果のチェック			
15	調査データの解析⑤－調査データの報告書作成			調査データの報告書のチェック			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業外レポート		◎	◎		◎	40	
授業態度・授業への参加度		○	○		○	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト: 独自の演習用テキストを配付する。</p> <p>参考文献: ①駒沢勉・橋口捷久、石崎龍二著、赤池弘次監修、『新版 パソコン数量化分析』、朝倉書店、1998年(6,264円)、②石村貞夫著、『すぐわかる多変量解析』、東京図書、1992年(2,160円)、③菅民郎著、『多変量解析の実践 下』、現代数学社、1993年(2,916円) 新版</p>						
履修条件	「データ処理とデータ解析Ⅰ」を履修していること。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	社会調査実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	2	2年
担当教員	阪井裕一郎・佐野麻由子・堤 圭史郎						
授業の概要	調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する実習。社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルを修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。 社会的課題を公共性の観点から整理できる。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。					
	DP4: 表現力	自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。					
関心・意欲 ・態度	DP5: 挑戦力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。					
	DP6: 社会貢献力	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1 5 30	第1回：オリエンテーション 第2回：社会調査の意義、方法、スケジューリング、実施上の留意事項の確認 第3回：調査企画（テーマの設定、調査対象/フィールドの検討） 第4回：調査テーマに関する文献講読 第5回：調査対象に関する文献やデータの収集 第6回：調査テーマに関する既存研究成果の整理 第7回：仮説の検討（仮説を構成する変数の検討） 第8回：仮説導出 第9回：調査票作成（質問項目・質問文作成） 第10回：調査票作成（調査票の全体構成を検討） 第11回：調査票作成（ワーディングをチェック） 第12回：サンプリングの種類と方法の確認 第13回：調査対象/フィールドの現地調査 第14回：調査対象/フィールドの関係者からのヒアリング 第15回：サンプリング実施（サンプリング作業とノウハウ） 第16回：サンプリング実施 第17回：調査対象者の名簿入力 第18回：調査実施プロセスの確認、プリテスト 第19回：プリテストの実施 第20回：プリテストの結果についての討論 第21回：調査票の再検討 第22回：調査票の確定、実査マニュアルの作成 第23回：実査の準備（郵送用封筒等の準備） 第24回：実査の準備（調査票の封入と郵送） 第25回：実査（問い合わせ対応） 第26回：実査（回収調査票のナンバリングとチェック） 第27回：実査（回収調査票のナンバリングとチェック） 第28回：エディティング準備 第29回：入力シートの作成 第30回：実査までのプロセスに対するレポート作成	テーマにより調査グループを編成 左の内容について概略を講義する 調査グループに分かれて作業 場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う	調査原案の作成 調査企画 調査企画・仮説の作成 調査票作成 対象者選定 サンプリング、実査				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
実習		○	○	○	○	100	
補足事項	調査設計・調査内容：30%、分析水準・報告書の内容：40%、出席・参加度：30%。なお、参加アスピレーションにより加点することがある。						
実務経験を生かした授業	行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。						
テキスト・参考文献等	調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。 各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。						
履修条件	①1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること ②2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること						
学習相談・助言体制	授業内・前後での回答とオフィスアワーを中心とする。緊急の指示や助言が必要となる場合は電話やメールで対応する。					授業中の撮影	○

授業科目名	社会調査実習Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	実習	選択	2	2年
担当教員	阪井裕一郎・佐野麻由子・堤 圭史郎						
授業の概要	調査の企画から報告書の作成まで社会調査の全過程を、体験的・学生主体的な形で学習する実習。社会調査の企画（仮説の立案、対象者選出など）、サンプリング、プリテスト、実査、データ入力、集計・分析、報告書の作成といった社会調査に必須の過程を経験し、社会調査士・社会人として必要な実践的知識やスキルを修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。 社会的課題を公共性の観点から整理できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会的課題が生じるメカニズムについて調査の知見に基づいて論理的に説明し、対応を提示できる。					
	DP4:表現力	自ら調査テーマを設定し、主体的に調査の設計、実施に携わることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に発信することができる。					
	DP6:社会貢献力	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	社会調査の設計、実施に関わる専門知識を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1 5 30	第1回：調査プロセス、分析方法、報告書執筆についての確認		場合によっては講義時間以外の空き時間（土日含む）を使う 各種の分析手法によりデータ分析を行う データ分析結果の中間発表会。 全員で分析過程や結果を検討し、さらに分析を進める 報告書を執筆する 全員で報告会を行う。今回の調査で得られた反省点を討議する		データセット作成 データ分析 報告書の構想を検討 報告書執筆 調査の全過程を点検		
	第2回：データエディティング						
	第3回：回収調査票の最終チェック						
	第4回：コーディング表の作成、入力作業のノウハウ						
	第5回：コーディング						
	第6回：データ入力作業						
	第7回：データ入力作業						
	第8回：データクリーニング						
	第9回：データセット確認						
	第10回：データの読み取りと集計・分析ソフトの使い方に関するディスカッション						
	第11回：データ集計（単純集計）						
	第12回：データ分析（単純集計結果の分析）						
	第13回：データ集計（属性と他項目のクロス集計）						
	第14回：データ分析（属性と他項目のクロス集計結果の分析）						
	第15回：データ集計（主要項目間のクロス集計）						
	第16回：データ分析（主要項目間のクロス集計の分析）						
	第17回：データ分析から得られた知見のまとめ						
	第18回：中間発表会のプレゼンテーションの準備						
	第19回：中間発表会						
	第20回：中間発表会						
	第21回：報告書の構案作成、執筆分担決定						
	第22回：報告書原稿執筆（調査実施概要）						
	第23回：報告書原稿執筆（単純集計の図表作成と分析）						
	第24回：報告書原稿執筆（属性と他項目のクロス集計の図表作成と分析）						
	第25回：報告書原稿執筆（主要項目間のクロス集計の図表作成と分析）						
	第26回：仮説の検証と考察						
	第27回：報告書原稿執筆（仮説検証結果の説明）						
	第28回：報告書原稿に関する検討会						
	第29回：検討会での意見を踏まえて報告書原稿修正						
	第30回：報告書原稿完成、公開（プレゼンテーション）						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
実習		○	○	○	○	100	
補足事項	調査設計・調査内容：30%、分析水準・報告書の内容：40%、出席・参加度：30%。なお、参加アスピレーションにより加点することがある。						
実務経験を生かした授業	行政・NPO等からの委託調査及び学術調査研究の経験がある教員が、実際に学生とともに社会調査プロジェクトを企画運営し、報告書作成に至るまでの社会調査の一連の過程について実践的に指導する。						
テキスト・参考文献等	調査テーマに関連したテキストを、4月の説明会において担当者から説明する。 各回の内容は調査を行うという授業の性格上、進行具合によって予定を変更する場合がある。						
履修条件	①1年次までに「社会調査法」「データ分析の基礎」を履修していること ②2年次に「社会調査の設計」「社会統計学Ⅰ・Ⅱ」を必ず履修すること						
学習相談・助言体制	授業内・前後での回答とオフィスアワーを中心とする。緊急の指示や助言が必要となる場合は電話やメールで対応する。					授業中の撮影	○

授業科目名	情報数学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	石崎 龍 二						
授業の概要	<p>コンピュータや通信技術の技術革新により、社会における情報化が急速に進んでいる。コンピュータを使って数値計算や統計解析を行ったり、信号や画像の処理といった数値処理を行ったりするためには、基礎的な数学の知識と理論的な思考が必要である。</p> <p>本講義では、情報通信技術（ICT）の数学的な観点からの理解を深めることを目的として、情報の2進数への変換や情報量を扱う符号理論、論理回路の設計に必要な命題論理・述語論理、計算機の数学的モデルであるオートマトン理論、ネットワークに関するグラフ理論などを解説する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	「符号理論」「命題論理・述語論理」「オートマトン理論」「グラフ理論」に関する知識を有している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<p>自然や社会の現象を抽象化、単純化、記号化して考えることができる。</p> <p>数・形・集合などに関する記号を使って論理的に展開できる。</p> <p>文字、音、画像等の情報の2元符号化、情報量の計算、論理演算ができる。</p> <p>論理回路の入出力関係を真理値表及び論理式で表すことができる。</p>					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	2元符号化理論－進数変換	講義	<p>(事前学習)</p> <p>次回の講義内容について、テキストを読んで、内容を把握しておく。</p> <p>(事後学習)</p> <p>講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理。</p>				
2	2元符号化理論－負数の符号化	講義					
3	情報源符号化理論－情報量	講義					
4	情報源符号化理論－平均情報量	講義					
5	情報源符号化理論－記憶情報源	講義					
6	通信路符号化理論－通信速度、通信容量	講義					
7	通信路符号化理論－誤り訂正の符号化	講義					
8	命題論理－論理代数	講義	<p>(事前学習)</p> <p>次回の講義内容について、テキストを読んで、内容を把握しておく。</p> <p>(事後学習)</p> <p>講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理。</p>				
9	命題論理－論理代数と論理回路	講義					
10	述語論理	講義					
11	オートマトン理論の基礎	講義					
12	オートマトン理論の応用	講義					
13	チューリングマシンとコンピュータ	講義	講義終了時に課題提示				
14	グラフ理論の基礎	講義	<p>(事前学習)</p> <p>次回の講義内容について、テキストを読んで、内容を把握しておく。</p> <p>(事後学習)</p> <p>講義の中で解けなかった問題は、復習し、ノートを整理。</p>				
15	グラフ理論と行列	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業外レポート		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	○			30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：独自のテキストを配付する。</p> <p>参考文献：開講時に紹介する。</p>						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	プログラミング概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	石崎 龍二	後期	講義	選択 (公共社会学科は選択必修)	2	2年
授業の概要	<p>コンピュータプログラミングの基本的な技法を習得する。 代表的なプログラミング言語（C言語やJavaScript等）を例にして、プログラミングの基本的な概念（データ型、入出力、演算子、分岐、反復、関数、配列、ポインタなど）やアルゴリズムを解説する。コンピュータを使った演習を取り入れながら進めることで、プログラミングの手法を身につける。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<p>プログラミングの基本的な考え方（順次、条件分岐、繰り返し）を理解している。 変数、配列などを用いた情報の表現を理解している。 分岐、繰り返しなどを用いたアルゴリズムを理解している。</p>					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<p>問題を解決する手段の1つとして、プログラミングの基本的な考え方（順次、条件分岐、繰り返し）を適切に活用できる論理的思考力を身につけている。 プログラミングにおいて、適切な数値型変数、文字型変数、配列変数の宣言、入出力関数を使って、データの読み込み及び出力ができる。 文字列の加工、数値計算、分岐、繰り返し、関数を使ったプログラミングができる。</p>					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	プログラミングの概要	講義・演習	(事前学習)				
2	基本的なデータ表現	講義・演習	<p>次回の講義内容について、テキストを読んで、ある程度内容を把握しておくこと。</p>				
3	簡単なデータの入出力	講義・演習	(事後学習)				
4	数値データの入力・計算・出力	講義・演習	<p>講義の中で理解できなかった項目は、復習し、ノートを整理すること。また、演習で作成したサンプルプログラムを、各自で少し変更して新しいプログラムを作ってみること。</p>				
5	プログラムの選択処理①－分岐	講義・演習					
6	プログラムの選択処理②－分岐、繰り返し	講義・演習					
7	プログラムの選択処理③－繰り返し	講義・演習	<p>講義終了時に、第1回から第7回までの内容に関する課題を提示する。</p>				
8	1次元配列	講義・演習	(事前学習)				
9	2次元配列	講義・演習	<p>次回の講義内容について、テキストを読んで、ある程度内容を把握しておくこと。</p>				
10	関数の作り方①	講義・演習	(事後学習)				
11	関数の作り方②－配列	講義・演習	<p>講義の中で理解できなかった項目は、復習し、ノートを整理すること。また、演習で作成したサンプルプログラムを、各自で少し変更して新しいプログラムを作ってみること。</p>				
12	構造体	講義・演習					
13	ファイル処理	講義・演習	<p>講義終了時に、第8回から第13回までの内容に関する課題を提示する。</p>				
14	JavaScript－データの入出力	講義・演習	(事前学習)				
15	JavaScript－プログラムの選択処理	講義・演習	<p>次回の講義内容について、テキストを読んで、ある程度内容を把握しておくこと。 (事後学習) 講義の中で理解できなかった項目は、復習し、ノートを整理すること。また、演習で作成したサンプルプログラムを、各自で少し変更して新しいプログラムを作ってみること。</p>				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎			60	
授業への参加度		◎	○			40	
補足事項	レポート課題2回						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：独自のテキストを配付する 参考文献：開講時に紹介する。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業時間以外の質問は、オフィスアワーで回答する。また、メールでも受け付け、回答する。						授業中の撮影

授業科目名	地域社会学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択必修	2	1年
担当教員	吉 武 由 彩						
授業の概要	産業化、都市化とともに大きく変化してきた地域について幅広く理解する必要がある。本講義では、農村社会学、都市社会学における基礎的知識を習得し、地域社会における課題について考察する力を養うことを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	農村社会学、都市社会学における基礎的知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	地域社会を取り巻く状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	地域社会における課題やその対策について意見を言うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	授業概要説明		講義				
2	地域とは		講義 テキスト1章		地域		
3	都市と農村、地方		講義 テキストはじめに、1章		都市、農村、地方		
4	農村社会の構造(1): 家の論理		講義 テキスト3章		家		
5	農村社会の構造(2): 村の仕組み		講義 補足資料		村		
6	都市化・産業化と過疎問題		講義 テキスト2章		都市化、産業化、過疎		
7	現代農村の現状分析		講義 テキスト3,4章		現代農村		
8	少子高齢化と地域社会		講義 テキスト5,6章		少子高齢化、地域社会		
9	地域社会とコミュニティ(ゲスト講師による講義)		講義 テキスト6章		地域社会、コミュニティ		
10	コミュニティの分析視角(1): コミュニティモラル、ノルム		講義 補足資料		コミュニティモラル		
11	コミュニティの分析視角(2): ソーシャルキャピタル		講義 補足資料		ソーシャルキャピタル		
12	期待される地域社会		講義 テキスト6章		地域社会、地域活動		
13	住民主体の地域福祉活動の事例		講義 テキスト6章		地域福祉活動		
14	地域活動の担い手		講義 補足資料		地域活動の担い手		
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		30	
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義として地域社会とコミュニティに関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回は変更することがある。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 山本努編, 2019, 『地域社会学入門——現代的課題との関わりで』学文社。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	○

授業科目名	地域社会学B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	吉 武 由 彩						
授業の概要	本講義では、現代農村を取り巻く状況および農村における人々の生活実態や意識について学ぶ。農村社会学の知識を習得し、現代農村をめぐる状況について、批判的に考察する力を養うことを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	農村社会学における基礎的知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	現代農村をめぐる状況を批判的な視点から理解し、説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	地域社会における課題やその対策について意見を言うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	授業概要説明	講義					
2	人口変動	講義			人口変動		
3	過疎地域における人口動態	講義			過疎地域、人口動態		
4	農村における生活	講義			農村、生活		
5	限界集落と地方消滅	講義			限界集落、地方消滅		
6	農村における地域意識と社会参加活動	講義			地域意識、社会参加活動		
7	農村における他出子の存在	講義			他出子		
8	農村高齢者の生活を支える要件	講義			農村、高齢者		
9	市町村合併と地方分権	講義			市町村合併、地方合併		
10	農村における交通	講義			農村、交通		
11	農村における子育て	講義			農村、子育て		
12	現代農村の現状分析 (ゲスト講師による講義)	講義			農村、現状分析		
13	過疎地域と人口還流	講義			過疎地域、人口還流		
14	地域再生	講義			地域再生		
15	まとめ	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		○	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		30	
実務経験を生かした授業	授業では、ゲスト講師講義としてまちづくりに関する実務経験者による講義を一部予定している。ただし、ゲスト講師の講義の実施予定回に変更することがある。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 資料を講義時に配布する。参考文献: ①徳野貞雄, 2014, 『T型集落点検とライフヒストリーでみえる 家族・集落・女性の底力: 限界集落論を超えて』農山漁村文化協会。②山本努, 2017, 『人口還流(Uターン)と過疎農山村の社会学-増補版』学文社。						
履 修 条 件	地域社会学Aを履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。					授業中 の撮影	

授業科目名	コミュニティ論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	阪井 裕一郎		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	<p>現代社会における基礎的な社会単位であるコミュニティについて理解することは、地域づくりや生活者として役割を果たすうえできわめて重要である。本科目では、「コミュニティ」（より幅広く共同性や協働、公共性、連帯といった概念を含めて）の理論や歴史、政策を学んでいく。具体的には以下3つのテーマを扱う。第一に、コミュニティという概念に関する社会学や政治哲学の理論を学ぶ。第二に、犯罪や教育といった具体的な社会事象と関連づけながらコミュニティについての理解を深めていく。第三に「ケア」に焦点をあててコミュニティ政策の実践とその課題について学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	一市民として必要な知識として「コミュニティ」の概念が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	多様な地域性をもつコミュニティには、さまざまな課題があることが分かる。					
	DP4: 表現力	「コミュニティ」とは何か、説明する文章が書け、また口頭で説明できる。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	地域の諸問題について、行政や住民の果たす役割が多面的に存在することが分かる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション	<p>講義形式。適宜 DVD 等映像資料の視聴やグループ・ディスカッションの時間を設ける。</p>			<p>毎回配布する事前・事後学習用の資料を熟読する。</p>		
2	コミュニティとは何か：その概念と歴史						
3	共同体と個人：社会学理論を学ぶ						
4	ソーシャル・キャピタル						
5	ナショナリズムとコミュニティ						
6	犯罪とコミュニティ						
7	メディアとコミュニティ						
8	教育とコミュニティ						
9	ジェンダーとコミュニティ						
10	ケアとコミュニティ（1）子育て支援						
11	ケアとコミュニティ（2）貧困問題						
12	ケアとコミュニティ（3）福祉国家						
13	日本の共同体（1）村落共同体・家制度						
14	日本の共同体（2）企業社会・個人化社会						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度			○	○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>毎回プリントを配布する。 参考文献：野沢慎司監修『リーディングス ネットワーク論——家族・コミュニティ・社会関係資本』勁草書房、2006年／地域社会学会編『新版 キーワード地域社会学』ハーベスト社、2011年／斎藤純一『不平等を考える——政治理論入門』ちくま新書、2017年</p>						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	都市社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			後期	講義	選択	2	2年		
担当教員	陸麗君								
授業の概要	<p>都市社会学は、「都市」という具体的な空間的範囲内で人々が営まれている社会生活のありようを研究対象とする分野である。都市は、人間が形成する集落の二つの形態の一つであり、村落と対比されてきた。しかし社会全体の都市化が進み、都市と村落の境目があいまいになってきた。またグローバル化に伴い、越境した人々が都市に住むようになり、都市住民の多様化も目立つようになった。そのため、都市社会学の対象も多様化し、具体的な都市域を越えた都市社会全体の問題に対応する理論的方法が模索されている。全体社会の変化の中で、問い直されている都市生活・コミュニティの諸問題への対応という観点から総合的に考察する。</p> <p>授業の進み具合と受講生の関心によっては若干内容調整を行うこともある。</p>								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	都市社会についての基礎的な考え方がわかる。							
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	都市社会問題に関するデータや資料を論理的に整理し、まとめることができる。							
	DP4: 表現力	都市社会の具体的な問題を論理的な文章または口頭で説明できる。							
関心・意欲 ・態度	DP5: 挑戦力	都市社会の具体的な課題を考察し、質問したり意見を述べたりできる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)				
1	都市、地域、コミュニティについて		講義形式、適宜ビデオ等の教材を利用する。		プリント資料				
2	都市的生活様式とは何か?								
3	都市の社会—空間構造に関する理論								
4	都市化に伴う家族と親族の変容								
5	実証研究：シカゴ学派都市社会学							シカゴ学派	
6	日本における都市研究(1)				都市と農村の人口変化				
7	日本における都市研究(2)				鈴木広・倉沢進・奥田				
8	「世界都市化」とグローバル経済				町村敬志他				
9	事例研究の紹介(1)				文献				
10	事例研究の紹介(2)				文献				
11	都市居住をめぐる諸問題の考察(1)				現地考察				
12	都市居住をめぐる諸問題の考察(2)								
13	都市社会における共同				講義・意見交換		考察・意見をまとめる		
14	討論—地域社会の課題				意見発表・質疑				
15	総括				講義と質疑		まとめ		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
定期試験		○	◎			70			
授業態度・授業への参加度			○	○		10			
受講者の発表(プレゼン)			○	○		20			
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等	参考文献は多数なため、毎回の配布資料を参照。								
履修条件	都市問題に関心があり、現地での考察に積極的に参加できる。								
学習相談・助言体制	質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。						授業中の撮影		

授業科目名	地域社会学特講		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	三田知実	前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	この科目では、コミュニティやまちづくりに関する社会学的研究をレビューし、考えを深める科目である。具体的には、衰退した商店街や団地が発生した要因、過程、そして現在を把握し、何が要因で、地域は現在の状況になったのか？という問いを追求してゆく科目である。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	地域社会学の観点から、地域社会の問題の本質を見極め、地域の社会問題を改善する方法を論理的に思考し、言語で表現できるスキルを養う。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	コミュニティ研究やまちづくり研究の現在を把握し、自発的に地域社会貢献の手段と方法を考え、実践する力を養うことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	地域社会学の研究手法（たとえばインタビューやアクションリサーチ等）を修得し、地域社会の長所と弱点を実践的に見出すスキルを養うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	序論—本授業の目的	講義(都市社会学との違いを説明)	資料を読んでください				
2	高度経済成長期における郊外化の急速な進行	講義(郊外ニュータウン研究)	レジュメ『第1講 高度経済成長期と都心—郊外の形成』と、テキスト「第6章 地域がなぜ大切か」を事前事後学習に活かしてください。				
3	性別分業意識—「男は外・女は家」の支配	講義(性別分業意識に関する研究)					
4	宝塚に歌劇と高級郊外/梅田に高級百貨店—阪急の戦略	講義(阪神間モダニズムの研究)					
5	阪急の模倣—東急電鉄 渋谷を起点とした郊外開発	講義(五島氏に関わる研究を紹介)					
6	京王帝都と小田急による相模原方面の開拓	講義(開拓の代償)					
7	郊外ベッドタウンにおける主婦コミュニティの形成	講義(郊外主婦コミュニティの研究)	レジュメ『第2講—郊外の危機』とテキスト「第5章 地域が歴史を創り出す 歴史が地域を造り出す」を予習・復習に役立ててください。				
8	郊外団地住宅の特性—失われた場所のアイデンティティ	講義(郊外に内在する問題の研究)					
9	高齢化と郊外の老朽化(1) 住民の高齢化とモビリティ	講義(郊外の研究動向を紹介)					
10	高齢化と郊外の老朽化(2) 店舗の閉鎖	講義(郊外の研究動向を紹介)	レジュメ『第3講 郊外からまちづくり・コミュニティへ』とテキスト第2部全体を、予習・復習に役立ててください。				
11	高齢化と郊外の老朽化(3) 取り壊しと住民	講義(郊外の研究動向を紹介)					
12	「都心—郊外」関係の変化—衛星都市におけるコミュニティ	講義(武蔵野市吉祥寺の事例)					
13	コミュニティセンターの存在意義(東京都)	講義(武蔵野市吉祥寺の事例)	レジュメ『第4講 コミュニティの理論とまちづくり概論』とテキスト「第1章 〈地域〉へのアプローチ」「第2章 地域社会とは何だろう」を事前事後学習に活用してください。				
14	概念としてのコミュニティとまちづくり(1)	講義(地域社会学の基礎強化)					
15	概念としてのコミュニティとまちづくり(2)	講義(地域社会学の基礎強化)					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験			◎	◎		80	
小テスト・授業内レポート			○	○		15	
授業態度・授業への参加度			○	○		5	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	(1) テキスト 森岡清志編『地域の社会学』有斐閣アルマ. ¥2,052 ISBN-13:978-4641122710						
履修条件							
学習相談・助言体制	(1) 質問やご意見はお気軽にお問い合わせください。 (2) メールでのコメント類の提出を希望される方には、講義内で担当教員のメールアドレスをお知らせします。					授業中の撮影	

授業科目名	地域社会分析法 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	阪井 裕一郎						
授業の概要	<p>本科目では、地域社会の基盤となる家族生活にかかわる問題に社会学と法律学の二つの分野から接近していく。家族生活と地域社会に関連した統計データや政策、法律を学び、受講生が実際に作業やディスカッションを行いながら、分析技法を身につけることを目標とする。具体的には、1) 少子高齢社会の現状と課題の分析、2) 家族や結婚に関連した国内外の法律や制度の分析、3) 住宅問題に対する政策の分析、4) グループワークの実施、レポート作成・報告、という4つの内容で構成される。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	生活・家族問題に関する理論と分析方法を理解し、テーマに即して活用することができる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	現在の生活・家族問題の特徴や背景を地域社会の変動と関連させて分析することができる。					
	DP4:表現力	現在の生活・家族問題の特徴を、データ分析をもとに図や表を使って分かりやすく説明できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	生活・家族問題に関するデータを収集し、分析することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	「生活」を捉える		講義				
2	人口減少を考える (1) データで現状を把握する		講義				
3	人口減少を考える (2) 政策を分析する		データ分析・ディスカッション		(事後学習) データ整理		
4	子育てと地域政策 (1) 地域社会の取り組み		講義・ディスカッション		(事後学習) データ整理		
5	子育てと地域政策 (2) 男性の育児参加		データ分析・ディスカッション		(事後学習) データ整理		
6	家族と法律 (1) 戸籍・事実婚・夫婦別姓		講義・ディスカッション		(事後学習) データ整理		
7	家族と法律 (2) 親子関係		講義・データ分析		(事後学習) データ整理		
8	家族と法律 (3) 同性婚		講義・データ分析		(事後学習) データ整理		
9	家族と法律 (4) 生殖補助医療		講義・データ分析		(事後学習) データ整理		
10	住宅問題と地域社会 (1) 各国の住宅政策		講義・データ分析		(事後学習) データ整理		
11	住宅問題と地域社会 (2) 「空き家」問題		講義・データ分析		(事後学習) データ整理		
12	グループワーク (1) テーマ選定と文献・資料収集		講義		(事後学習) データ整理		
13	グループワーク (2) ディスカッションとレポート作成		グループワーク				
14	グループワーク (3) ディスカッションとレポート作成		グループワーク				
15	レポート報告		レポート報告				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	50	
授業態度・授業への参加度		◎	◎			50	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>必要な資料は授業中に配布する。参考文献：湯沢雅彦・宮本みち子『新版 データで読む家族問題』(NHK 出版、2008年) / 地域社会学会編『新版 キーワード地域社会学』(ハーベスト社、2011年) / 岩上真珠『ライフコースとジェンダーで読む家族 第3版』(有斐閣、2013) / 岩間暁子・大和礼子・田間素子『問いからはじめる家族社会学』(有斐閣、2015年) / 比較家族史学会編『現代家族ベディア』(弘文堂、2015年)</p>						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	講義に関する質問・相談は講義終了後もしくは研究室にて受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	地域社会分析法B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	宋 珉 鎬						
授業の概要	<p>持続可能な社会構築において、住民による参加は欠かせない。住民は、住民運動によって、住民参加によって、さらに自らが実働すること（ボランティア・NPO）によって、自らの意思を表明する。本講義は、持続可能な社会や住民参加について、必要な知識などを整理すると共に、持続可能な社会の構築に向けて活発な活動を行ってきている諸事例を紹介しながらその現状、課題などについて考える、参加型の授業である。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	持続可能な社会と住民参加についての基礎的な概念と諸理論を学習する。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	持続可能な社会と住民参加についての知識を整理すると共に、その現状や課題について考えることによって、課題解決型の思考方法を身につける。					
	DP4:表現力	課題発表の時は、発表の内容や方法について各自工夫し、討論には積極的に参加する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション						
2	自治と(熟議)民主主義		講義				
3	市民参加の基礎概念						
4	市民参加の基礎概念						
5	住民運動と市民参加		講義(講義内で討議を行う)				
6	政策形成段階における市民参加						
7	復習		2～6回の復習のための課題を行う。				
8	持続可能な社会と市民参加?		講義および課題発表・討論				
9	持続可能な開発のための教育とは?		講義				
10	市民参加事例分析 インジェ RCE①						
11	市民参加事例分析 インジェ RCE②						
12	市民参加事例分析 トンヨン RCE①						
13	市民参加事例分析 トンヨン RCE②						
14	市民参加事例分析 RCE 北九州③						
15	復習・課題		5～14回の復習のための課題を行う。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				50	
小テスト・授業内レポート		○				10	
宿題・授業外レポート			○			10	
授業態度・授業への参加度		◎				20	
受講者の発表(プレゼン)			○			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>授業中にプリントを配布し、参考文献・資料を紹介する。 [参考図書] 高橋秀行・佐藤徹『新設 市民参加(改訂版)』公人社、2013年</p>						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	授業に関するご質問・ご相談は、授業後またはメールで随時受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	地域社会分析法 C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	美谷 薫						
授業の概要	「地域社会」を分析するツールの1つとして、人文地理学で用いられる質的・量的分析の手法について取り上げ、受講生が実際に作業を行うことで、それらを身につけていくことを目的とします。また、その前段としての統計資料の収集方法や、分析結果の表現方法としての地図化の手法などについても紹介していきます。可能な範囲でGIS（地理情報システム）についても学習する機会を設けます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	人文地理学で活用される質的・量的な分析手法を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	さまざまな研究のテーマにふさわしい調査・分析手法を選択し、適切にデータを収集・分析して、その結果を的確に説明できる。					
	DP4: 表現力						
技能	DP10: 専門分野のスキル	主題図を中心とした地図表現の基礎やGIS等の活用方法を習得し、それらを活用して自らの研究・分析結果をわかりやすく視覚化できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	イントロダクション：講義内容の説明	<p>テーマによって多少の相違は出ますが、講義の当初に分析の手法などの解説を行い、その後、提示した課題について作業を行い、結果を提出するという形で進めます。</p> <p>※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み合わせる場合があります。</p>	<p>適宜、講義内容等の復習を行ってください。</p> <p>作業のボリュームが多く、講義時間中に作業が完了しないことも多いため、必要に応じて、課外の時間に各自で作業を進めてもらう形になります。</p>				
2	地域統計と地図表現（1）：さまざまな地図						
3	地域統計と地図表現（2）：地域統計の種類と収集方法						
4	地域統計と地図表現（3）：主題図の種類と表現方法						
5	質的データの収集方法（1）：アンケート調査と聞き取り調査						
6	質的データの収集方法（2）：土地利用調査の準備						
7	質的データの収集方法（3）：土地利用調査の実施						
8	質的データの収集方法（4）：土地利用調査のまとめ						
9	統計分析の手法（1）：特化係数						
10	統計分析の手法（2）：修正ウィーバー法						
11	統計分析の手法（3）：回帰分析と相関係数						
12	パソコンでの地図作成（1）：既存デジタル地図の加工						
13	パソコンでの地図作成（2）：階級区分図の作成						
14	パソコンでの地図作成（3）：分布図の作成						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	◎		◎	40	
授業中の課題・作業レポート		○	◎		◎	50	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
補足事項	定期試験については、レポートの形を採用する予定です。						
実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の経験のある教員が、政策形成への応用を念頭に置き、学生の分析実習を含めながら、地域課題に関する量的・質的分析手法や結果の表現手法について解説します。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。</p> <p>参考文献：講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。</p> <p>野間晴雄ほか編 2012.『ジオ・パルNEO 地理学・地域調査便利帖』海青社。</p> <p>半澤誠司ほか編 2015.『地域分析ハンドブック Excelによる図表づくりの道具箱』ナカニシヤ出版。</p> <p>梶田 真・仁平尊明・加藤政洋編 2007.『地域調査ことはじめ あるく・みる・かく』ナカニシヤ出版。</p>						
履修条件	履修条件は特にありませんが、実習的な位置づけの科目であり、作業量が相当多いので、その点はあらかじめご承知おきください。						
	半期でかなり幅広い内容を取り上げますので、特に統計分析について丁寧に学びたい方は、「データ処理とデータ解析 I・II」などの科目も受講するようにしてください。						
	また、指示があった場合には、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。学期の中盤では、屋外での実習を行うことがありますので、その際には服装等に注意してください（事前に連絡します）。						
学習相談・助言体制	講義内容などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。					授業中の撮影	○

授業科目名	地 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	美 谷 薫						
授業の概要	<p>大学の「地理学」の内容を紹介する際に、よく「高等学校までの地理とは違う」というようなことが言われます。それは、中学校や高等学校における「地理」が「さまざまな地理的知識を身につける」ことを重視しているのに対して、大学においては、さまざまなツールを使って、地表上の多様な現象の地域差がどのようなもので、それらがなぜ生み出されるのかといったことを、自ら解明することが求められるという点に起因しているようです。本講義では、中学・高等学校の「地理」から大学の「地理学」への橋渡しをする意味で、地理学で広く共通して用いられる「地域」・「景観」・「環境」などの基礎概念を紹介するとともに、身近な地域の事例としての筑豊地方や福岡県、また、日本の諸地域を取り上げ、地域の特徴を明らかにするための地理学的手法を習得することを目標とします。</p> <p>※教職との関連では、中学校社会の地理的分野の「C 日本の様々な地域」における各項目を教授するのに必要な知識や技能を得ることを目的とします。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	地域（社会）を見るツールとしての、地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法、地域の特徴を表すのに必要な考え方について理解している。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	地図の解析や統計資料の分析を通じて、さまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取ることができる。また、それらが生じる要因を考察し、的確に表現できる。					
	DP4:表現力						
技能	DP10:専門分野のスキル	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し、活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	イントロダクション：講義内容の説明、地理学とは	<p>毎回、講義内容と図表等をまとめた資料を配布し、板書と配布資料の説明により講義を進めます。また、各回の講義の後半では、統計資料の分析や研究論文の中で示された図表の読み取りといった作業課題を実施します。</p> <p>※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み替える場合があります。</p>	<p>適宜、講義内容等の復習を行ってください。</p> <p>また、学期中に作業レポートを課しますので、課題提示後に作成の準備を進めてください。</p>				
2	地理学の基礎概念（1）：地域①						
3	地理学の基礎概念（2）：景観						
4	地理学の基礎概念（3）：地域②						
5	地理学の基礎概念（4）：環境						
6	地理学の基礎概念（5）：分布と伝播、スケール						
7	身近な地域の見方（1）：筑豊地方と福岡県の自然環境						
8	身近な地域の見方（2）：筑豊地方と福岡県の歴史・文化環境						
9	身近な地域の見方（3）：筑豊地方と福岡県の社会・経済環境						
10	日本の諸地域（1）：九州・沖縄地方						
11	日本の諸地域（2）：中国・四国地方						
12	日本の諸地域（3）：近畿地方						
13	日本の諸地域（4）：中部地方						
14	日本の諸地域（5）：関東地方						
15	日本の諸地域（6）：東北・北海道地方						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎		○	40	
作業レポート		◎	◎		○	20	
授業中の課題		◎	◎		○	40	
補足事項	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。</p> <p>参考文献：講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の5点を挙げておきます。</p> <p>浮田典良編 2004.『最新地理学用語辞典改訂版』原書房。</p> <p>菊池俊夫編 2011.『世界地誌シリーズ1 日本』朝倉書店。</p> <p>中村和郎・手塚 章・石井英也 1991.『地理学講座4 地域と景観』古今書院。</p> <p>矢ヶ崎典隆・加賀美雅弘・古田悦造編 2007.『地理学基礎シリーズ3 地誌学概論』朝倉書店。</p> <p>山本正三・谷内 達・菅野峰明・田林 明・奥野隆史編 2006.『日本の地誌2 日本総論Ⅱ（人文・社会編）』朝倉書店。ほか『日本の地誌』シリーズ</p>						
履修条件	<p>履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。高校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。</p> <p>ほぼ毎回の講義で、簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を実施しますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。</p>						
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。					授業中の撮影	

人間社会学部
 公共社会学科
 専門教育科目

授業科目名	地理学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	美谷 薫						
授業の概要	<p>地理学とは、地表上のさまざまな自然・人文現象を、特に地域的差異という視点から明らかにしようとする学問分野ですが、そのような定義からすると、研究の対象が極めて広範に及ぶことから、科学というよりは「ものの見方」に近いものであるとも言えるかもしれません。本講義では、地理学（系統地理学）の諸分野における基礎概念や研究事例を取り上げ、地域社会を見る「ツール」としての「地理学的なものの見方や考え方」を習得することを目的とします。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	地域（社会）を見るツールとしての、地理学で用いられる基礎的な概念や分析手法について理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	地図の解析や統計資料の分析を通じて、さまざまな自然・人文現象の地域的差異を読み取ることができる。また、それらが生じる要因を考察し、的確に表現できる。					
	DP4: 表現力						
技能	DP10: 専門分野のスキル	主題図を中心とした地図表現の基礎を習得し、活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習（学習課題）		
1	イントロダクション：講義内容の説明、地理学とは	<p>毎回、講義内容と図表等をまとめた資料を配布し、板書と配布資料の説明により講義を進めます。</p> <p>また、各回の講義の後半では、統計資料の分析や研究論文の中で示された図表の読み取りといった作業課題を実施します。</p> <p>※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み替える場合があります。</p>			<p>適宜、講義内容等の復習を行ってください。</p> <p>また、学期中に2本程度の作業レポートを課しますので、課題提示後に作成の準備を進めてください。</p>		
2	地理学の歴史と基礎概念						
3	自然環境の地理学（1）：地形①						
4	自然環境の地理学（2）：地形②						
5	自然環境の地理学（3）：気候						
6	自然環境の地理学（4）：水循環						
7	自然環境の地理学（5）：自然環境と人々の暮らし						
8	人間と社会の地理学（1）：人口						
9	人間と社会の地理学（2）：村落						
10	人間と社会の地理学（3）：都市①						
11	人間と社会の地理学（4）：都市②						
12	産業と経済の地理学（1）：農業						
13	産業と経済の地理学（2）：工業						
14	産業と経済の地理学（3）：商業						
15	産業と経済の地理学（4）：流通・交通						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎		○	40	
作業レポート		◎	◎		○	20	
授業中の課題		◎	◎		○	40	
補足事項	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しませんが、地図帳（中学・高校で使用したもので構いません）があると理解が深まると思います。</p> <p>参考文献：講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の2点を挙げておきます。</p> <p>上野和彦・椿真智子・中村康子編 2007.『地理学基礎シリーズ1 地理学概論』 朝倉書店。</p> <p>浮田典良編 2004.『最新地理学用語辞典改訂版』 原書房。</p>						
履修条件	<p>履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。高校で地理系の科目を履修されなかった方も歓迎します。</p> <p>ほぼ毎回の講義で、簡単な統計資料の分析や図表の読み取りなどの作業を実施しますので、出席に際しては、色鉛筆（12色程度）、定規、電卓（スマートフォンのアプリレベルで構いません）を用意してください。</p>						
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	地方自治論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	美谷 薫						
授業の概要	<p>地方分権の進展や国・地方双方の財政悪化などを背景に、これまで「官」が多くを独占していた「公共」の領域が、住民や地域団体、NPOや民間企業に広く開かれつつあります。行政が縮小を続けるなかでは、住民が身近な地域を「自ら治める」必要性も高まっており、私たち自身が地方自治に関する知識を蓄えていくことが求められています。本講義では、地方自治の理念や歴史、しくみ、担い手など、地方自治に関わる基本的な概念や考え方について、身近な地域の事例なども取り上げながら解説していきます。講義形式ではありますが、グループでのディスカッションや小課題・作業レポートなどを通じて、受講生とともにあるべき地方自治や地域の姿について考えていきたいと思ひます。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	地方自治に係る基礎的な概念やしくみについて理解している。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	地方自治を取り巻くさまざまな動向に関心を持ち、情報を収集するとともに、それらについて自らの考えを説明できるようになる。					
	DP4:表現力						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	イントロダクション：講義内容の説明	<p>毎回、講義内容と図表等をまとめた資料を配布し、板書と配布資料の説明により講義を進めます。</p> <p>また、各回の講義の終盤では、取り上げたテーマについての自治体間での比較などの作業や、簡単なグループワークを取り入れていく予定です。</p> <p>※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を組み合わせる場合があります。</p>	<p>適宜、講義内容等の復習を行ってください。</p> <p>また、学期中に作業レポートを課しますので、課題提示後に作成の準備を進めてください。</p>				
2	地方自治の意義と必要性						
3	地方自治のしくみ(1)：近代的地方自治制度の導入						
4	地方自治のしくみ(2)：戦後改革と地方自治制度の変容						
5	地方自治のしくみ(3)：地方分権改革と現代の地方自治						
6	地方自治のしくみ(4)：都道府県と市区町村						
7	地方自治のしくみ(5)：大都市制度と広域行政						
8	地方自治の担い手(1)：市民・住民①(住民の機能・住民組織)						
9	地方自治の担い手(2)：議会						
10	地方自治の担い手(3)：首長と執行機関						
11	地方自治の担い手(4)：市民・住民②(選挙・参加)						
12	地方自治の担い手(5)：NPMと「新しい公共」						
13	地方自治体の経営(1)：地方財政と予算						
14	地方自治体の経営(2)：地方公務員制度						
15	地方自治体の経営(3)：組織と機構管理						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			40	
作業レポート		◎	◎		○	20	
授業中の課題		◎	◎		○	40	
補足事項	定期試験については、レポートの形を採用することもあります。						
実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の実験のある教員が、現場での実態を踏まえながら、地方自治に係る制度や自治の担い手について解説します。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。</p> <p>なお、本講義は下記の柴田・松井編(2012)をベースに組み立てています。</p> <p>参考文献：講義中に適宜紹介しますが、主なものとして以下の3点を挙げておきます。</p> <p>阿部 齊ほか 2005.『地方自治の現代用語<第二次改訂版>』学陽書房。</p> <p>磯崎初仁・金井利之・伊藤正次 2007.『ホーンブック地方自治』北樹出版。</p> <p>柴田直子・松井 望編 2012.『地方自治論入門』ミネルヴァ書房。</p>						
履修条件	<p>履修条件は特にありません。また、予備知識も必要としませんが、講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。</p> <p>本講義では地方自治の基本的なしくみなどの「制度」に関する内容を中心としますので、地方自治体の具体的な「政策」に関心のある方は、「地域計画論」などの他の講義も受講するようにしてください。</p> <p>なお、平成28・29年度開講の「社会政策論」と一部内容が重複しますので、受講に際してはその点をあらかじめご承知おきください。</p>						
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。					授業中の撮影	

人間社会学部
 公共社会学科
 (専門教育科目)

授業科目名	地域保健論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	樋口善之						
授業の概要	<p>少子高齢化やライフスタイルの変化に伴い、わが国の死因や疾病構造、健康課題も変化している。疾病の予防および健康の保持増進のためには、その適切な現状把握・評価と課題解決に向けたアプローチが必要である。この授業では、地域の健康を守り、増進させるための公衆保健・地域保健活動について解説し、集団における疾病予防の原理と健康増進のための環境及び社会の在り方について学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<p>社会学を中心とする社会科学の専門知識を身につけている。 異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。 社会的事象の歴史的背景や現状の多様性を理解できる。 社会福祉学、心理学、教育学等、人間と社会に関連する幅広い諸科学の知識を身につけている。</p>					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	<p>公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。</p>					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	健康課題の歴史と現状		講義		テキスト第Ⅰ部の1 (A)		
2	疫学概論Ⅰ -過去の事例から疫学を学ぶ-		講義		テキスト第Ⅰ部の3		
3	疫学概論Ⅱ -因果関係の考え方-		講義		テキスト第Ⅰ部の3		
4	疫学概論Ⅲ-疫学的研究方法-		講義		テキスト第Ⅰ部の3		
5	国民衛生の動向Ⅰ 人口動態統計		講義		テキスト第Ⅰ部の2		
6	国民衛生の動向Ⅱ 疾病の動向		講義		テキスト第Ⅰ部の1 (B)		
7	国民健康づくり運動の歴史と健康日本21		講義		テキスト第Ⅲ部の9 (B)		
8	医療計画、二次医療圏、地域包括ケア		講義		テキスト第Ⅲ部の9 (D)		
9	地域保健活動と関係法規		講義		テキスト第Ⅲ部の9 (A)		
10	食品保健		講義		テキスト第Ⅱ部の6		
11	環境保健		講義		テキスト第Ⅱ部の5		
12	産業保健		講義		テキスト第Ⅲ部の13		
13	学校保健		講義		テキスト第Ⅲ部の12		
14	健康の社会的決定要因		講義		テキスト第Ⅰ部の1 (C)		
15	まとめ		講義および討論		1~14回目までの配付資料		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎		○		60	
授業態度・授業への参加度		○		◎		30	
受講者の発表(プレゼン)		○		◎		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：松浦賢長ほか『コンパクト 公衆衛生学』第5版，朝倉書店，2013，2900円 参考文献：厚生労働統計協会『国民衛生の動向 2015・2016』，厚生労働統計協会，2015，2500円</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	質問・相談は授業前後に受け付ける。また、メール(yhiguchi@fukuoka-edu.ac.jp)でも可。					授業中の撮影	

授業科目名	地域計画論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	美谷 薫						
授業の概要	現代日本の地方行政は、「総合計画」と呼ばれるさまざまな政策を盛り込んだ包括的なプランを頂点に、分野ごとの計画が策定され、これらの計画群をPDCAサイクルで実現に移していく、「計画行政」と呼ばれるしくみで進められることが一般的です。本講義では、地方自治体の計画行政のしくみについて概説するとともに、具体的な市町村などの計画を題材にして、現在の地方行政における主要な課題と政策や施策・事業を取り上げ、その現状について検討していきます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	地方自治体における計画行政のしくみや、そこで展開される政策や施策・事業についての知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力 DP4: 表現力	地域社会の現状と課題について自ら考え、それらの解決手法としての計画や政策のあり方についての的確に説明できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	イントロダクション：講義内容の説明	「地方自治体の総合計画の比較分析」(第5～9回)では、受講生各自の作業とその発表を中心に進めます。それ以外の回については、原則として、オーディオボックスな講義形式で進めますが、各回の講義の後半部分では、作業課題に取り組む時間を設けたいと考えています。 ※受講生の関心や理解度に応じて、取り上げるテーマや順番を組み替える場合があります。	適宜、講義内容等の復習を行ってください。 また、学期中に作業レポートを課しますので、課題提示後に作成の準備を進めてください。				
2	計画行政のしくみ(1)：計画行政の役割と歴史						
3	計画行政のしくみ(2)：計画と政策						
4	計画行政のしくみ(3)：地方自治体の計画体系						
5							
6	地方自治体の総合計画の比較分析						
7	・ 地域課題の認識と目指すべき地域像						
8	・ 主要コンセプトと施策体系						
9	・ 重点施策と戦略プロジェクト						
10	・ 策定手法と進行管理						
10	計画行政と分野別政策(1)：福祉・保健分野						
11	計画行政と分野別政策(2)：生活環境・地域自治分野						
12	計画行政と分野別政策(3)：産業・経済分野						
13	計画行政と分野別政策(4)：都市基盤分野						
14	計画行政と分野別政策(5)：教育分野						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
定期試験		◎	◎			40	
作業レポート		◎	◎			20	
授業中の作業課題・授業への参加度		◎	◎	○		40	
補足事項		定期試験については、レポートの形を採用することもあります。					
実務経験を生かした授業	地方公共団体職員の経験のある教員が、さまざまな市町村などの総合計画を題材に、学生の分析実習を含めながら、計画行政のしくみや政策形成の実態について解説します。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しません。毎回、資料を配布します。</p> <p>参考文献：講義中に適宜紹介しますが、講義全般に関連するものとして、以下のものを挙げておきます。</p> <p>阿部 齊ほか 2005.『地方自治の現代用語 第2次改訂版』学陽書房。</p> <p>金井利之 2010.『実践自治体行政学 自治基本条例・総合計画・行政改革・行政評価』第一法規。</p> <p>柴田直子・松井 望編 2012.『地方自治論入門』ミネルヴァ書房。</p> <p>増田 正ほか編 2011.『地域政策学事典』勁草書房。</p>						
履修条件	履修条件は特にありませんが、全体として作業量が多い講義ですので、その点はあらかじめご承知おきください。特に、中盤では受講生による発表が主となりますので、積極的に作業に取り組むようにしてください。また、予備知識も必要としませんが、講義内容と関連するようなニュースなどに日々注意を払うようにしてください。なお、本講義では地方行政の具体的な「中身」に関する内容を中心としますので、地方行政の基本的なしくみなどの「制度」に関心のある方は、「地方自治論」などの講義も受講するようにしてください。						
学習相談・助言体制	講義内容やレポートの作成方法などに関する質問は、講義後を中心に、随時受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	国際社会学 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	佐野 麻由子						
授業の概要	グローバル化の進展によって引き起こされる各種の問題について取り上げ、事象を読み解く分析枠組みとしての社会学理論を学ぶ。具体的には、世界規模の格差、国際意識・地球市民意識の醸成といった事象を取り上げる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	国際社会学を中心とする社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	グローバル化に関わる諸現象の背景を論理的に説明し、対応策を提示できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	グローバル化に伴って生じる社会的課題についての先行研究、各種の資料を適切に収集できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・講義後のリアクションペーパーの提出 			<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料の復習をする。 ・新聞記事を読む。 		
2	国際化とグローバル化の違い						
3	日本で最も国際化が進んでいると思われる地域はどこ？						
4	フェアトレードは途上国を救うのか？						
5	データにみるグローバルな不平等：資料収集・分析						
6	「途上国」はいつ誕生したの？						
7	「途上国」を生み出す要因は？世界システム論からの課題分析						
8	事例分析：“汗と涙とツナ缶”						
9	世界貿易システムの不都合な真実						
10	私たち地球市民？						
11	国境はいつひかれたの？						
12	“日本人”という自己同定の起源						
13	地球市民意識の醸成						
14	コスモポリタンな人が多い国はどこ？						
15	前期のまとめ：プレゼンテーション						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	○		○	60	
小テスト・授業内レポート		○	○		○	40	
補足事項	講義への参加度/リアクションペーパーの提出(40%)と最終試験(60%)で評価する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：宮島喬・佐藤成基・小ヶ谷千穂 2015『国際社会学』有斐閣。 参考文献：小川(西秋)葉子・川崎賢一・佐野麻由子編 2010『〈グローバル化〉の社会学：循環するメディアと生命』恒星社厚生閣。						
履修条件	グローバル化、国際社会の動向に関心があること。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	国際社会学 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	佐野麻由子						
授業の概要	本講義では、グローバル化の進展によって引き起こされる各種の問題について取り上げ、事象を読み解く分析枠組みとしての社会学理論を学ぶ。具体的なテーマとしては、環境破壊とリスク、ポピュラー文化、人の移動を取り上げる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	国際社会学を中心とする社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	グローバル化に関わる諸現象の背景を論理的に説明し、対応策を提示できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	グローバル化に伴って生じる社会的課題についての先行研究、各種の資料を適切に収集できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	ガイダンス	講義 講義後のリアクションペーパーの提出	配布資料の復習をする。 新聞記事を読む。				
2	社会学の視点(前期の復習) ・国際社会学の視点とはどのようなものか? ・国際社会学における研究テーマは?						
3~6	食糧の輸入量が増えると温暖化が進む?! ・国境を超えた社会関係の深まりとリスク ・パーム油増産が熱帯雨林を蝕む ・世界規模のリスクに対する協働 ・里山資本主義、ローカライゼーション						
7~10	“おたく”はもはや世界共通語?! ・国境を超えるポピュラー文化 ・クールジャパン、世界の文化政策 ・マクドナルドは文化的支配の象徴なのか? ・混合文化						
11~14	ネパールからの留学生が増えたのはなぜ? ・人の移動の今日の特徴 ・人の移動の促進要因 ・多文化共生: 移民先進国から学ぶこと ・映像資料を用いた事例分析						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	○	○	○	60	
小テスト・授業内レポート		○	○	○	○	40	
補足事項	講義への参加度/リアクションペーパーの提出(40%)と最終試験(60%)で評価する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	宮島喬他編、2015、『国際社会学』有斐閣。						
履修条件	国際社会学 A を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	国際政治学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択必修	2	1年
担当教員	岡本雅享						
授業の概要	国際政治は国家と国家の駆け引きのように思われがちだが、この講義では一般の、特に世界システムの中で弱い立場に置かれた人々の視点から国際政治をみていく。定期的にBBC World Newsなどを見て、進行中の国際問題に関心を持ち、日本のメディアの報道との違い等から、多角的な視点を培う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	現代国際政治を理解する基礎をみにつける。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	国際政治に深い関心をもち、主体的に学習できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	平和学と人間の安全保障(講義の概要)		講義		配付資料、課題を読む		
2	グローバリゼーションと相互依存		講義		同上		
3	南北問題と構造的暴力		講義		同上		
4	消極的平和と積極的平和		講義		同上		
5	東西冷戦一米ソ二極対立の時代		講義		同上		
6	冷戦の終結と国際関係の変容		講義		同上		
7	グローバルガバナンスーポスト冷戦後の世界会議		講義		同上		
8	国際平和と人権一国連の活動とNGO		講義		同上		
9	国際政治と難民問題		講義		同上		
10	難民問題とUNHCR		講義		同上		
11	イスラエル・パレスチナ問題		講義		同上		
12	9.11後の世界と日本		講義		同上		
13	戦後国際経済体制と債務国問題		講義		同上		
14	経済のグローバリズムと政治		講義		同上		
15	国際政治とNGOの役割		講義		同上		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	40	
期末レポート		○	○	○	○	15	
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。						
実務経験を生かした授業	国連(ECOSOC)NGOのスタッフなどを務めた経験から、国連会議への参加経験などを含めながら、国際連合等におけるグローバルガバナンスについて解説する						
テキスト・参考文献等	長有紀枝『入門人間の安全保障』中公新書						
履修条件	講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答(次回講義時)他。					授業中の撮影	

授業科目名	多文化社会論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	岡本雅享						
授業の概要	前半は、同質だと思われがちな日本人内部の多様性について、民族概念の発生や文化、言語、宗教の観点から考え、後半は近代国家形成以降、日本に加わった琉球、アイヌ、在日コリアンと1980年代以降増加した難民、移民の観点から、日本の多民族社会化を考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心を持ち、主体的に学習できる					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	多文化社会と多文化主義(講義の概要)		講義		配付資料、課題を読む		
2	言語の多様性: ドラマ「国語元年」が問いかけるもの		講義		同上		
3	日本人の民族宗教とは: ウタキと神社はどう違うか		講義		同上		
4	列島文化の多様性—日本は閉鎖的な島国か?		講義		同上		
5	われわれ意識は容易に変わる?: 混合から単一民族論へ		講義		同上		
6	戦後の企業社会が創り上げた同質意識: 協調的で没個性		講義		同上		
7	東北のアテルイ復権運動		講義		同上		
8	南九州のクマソ復権運動		講義		同上		
9	欧米の多文化主義		講義		同上		
10	中国の多民族政策		講義		同上		
11	アイヌ民族の承認と文化振興法		講義		同上		
12	在日コリアン—4世、5世の外国人と invisible minority		講義		同上		
13	難民と移民の到来と多文化共生の提唱		講義		同上		
14	ゼノフォビアと歪んだ人種主義: ヘイトスピーチの拡散		講義		同上		
15	多文化社会・日本: 1人1人の個性が大切にされる社会へ		講義		同上		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	20	
期末レポート		○	○	○	○	35	
補足事項		授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。					
実務経験を生かした授業	移住者・難民問題にかかわる全国組織のNGOスタッフ、役員を務めた経験から、日本各地で暮らす在外外国人や難民、各自治体が行う多文化共生などを、現場の状況を含めながら解説する						
テキスト・参考文献等	岡本雅享『民族の創出』岩波書店、『なぜ今、移民問題か』藤原書店、『マイノリティの権利とは—日本における多文化社会の実現にむけて』解放出版社、他						
履修条件	講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答(次回講義時)他。					授業中の撮影	

授業科目名	世界地理		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	中里亜夫						
授業の概要	<p>本講義では、世界の中のアジア諸国を対象にした世界地理（動態的地誌）の講義である。21世紀は「アジアの世紀」となると考えるからである。講義では、アジアを5つの地理区分に従い、研究書や新聞記事、インターネット等を利用し、できるだけ現在のダイナミックなアジアを講義する。東南アジアでは、主にマレーシアとフィリピン、南アジアでは、授業者の研究対象国インドを中心に都市・農村関係を軸に講義することで、動態地誌の有効性を示し、それとの関連でパキスタンを扱う。中近東諸国は、アラブ首長国連邦とトルコ及び産油国を扱う。そしてアジアでは中国と韓国、そして最後にグローバル化するアジアと日本のテーマで締めくくる。なお、授業にはPowerPoint用の『アジア地誌資料集』を利用する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	国際共生にかかわる基礎的な素養を身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	講義					
2	グローバル化と第三世界	講義	配付した『アジア地誌資料集』を読む。				
3	アジアの自然環境 モンスーンアジアと乾燥アジア	講義	『アジア地誌資料集』の東南アジア及びインターネットで場所・地形などの確認				
4	東南アジア 1) マレーシアとシンガポール	講義					
5	2) インドネシアとフィリピン	講義と討論					
6	南アジア	講義	『アジア地誌資料集』の南アジア及びインターネットで場所・地形などの確認				
7	1) 北インド	講義					
8	2) 南インド 3) パキスタンとバングラデシュ	講義と討論					
9	西アジア及び中央アジア	講義	『アジア地誌資料集』の西アジア及びインターネットで場所・地形などの確認				
10	1) アラブ首長国連邦(主にドバイ)	講義と討論					
11	2) トルコ 3) カザフスタン	講義					
12	東アジア	講義	『アジア地誌資料集』の東アジア及びインターネットで場所・地形などの確認				
13	1) 沿岸部中国	講義と討論					
14	2) 内陸部中国 3) 韓国	講義と討論					
15	まとめーグローバル化するアジア	講義と討論	レポート作成				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
本試験		◎				50	
ミニテスト・質疑応答		◎				20	
講義への参加度		○				30	
補足事項	本試験(50点)、ミニテスト・質疑応答(20点)そして講義への参加度(30点)とする。評価は90点以上をA、80点台はB、70点台はC、60点台はDとする。そして60点に満たない場合は不可とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは、中里作成の『アジア地誌資料集』を使用する。その他には、参考文献として、熊谷・西川編(2000):『第三世界を描く地誌』古今書院、パーンウエル著・古賀正則監訳(1996):『第三世界の人口移動』古今書院の他、新聞やインターネットなどを利用する。その他は、適宜指示する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	東アジア関係史		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	岡本雅享		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	東アジアは古代から密接な交流をもち、中日韓3国だけで世界の中核になり得る政治経済力がありながら、歴史認識のギャップが国際関係における大きな問題となっている。太古からの深い交わりを見ながら、近現代の東アジア関係を中心に、歴史認識問題を生み出している背景をひも解いていく。その際、琉球、満州、モンゴル、在日コリアンなど、主要な3国以外の視点からみた東アジア関係史像も見ていきたい。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会的事象の歴史的背景や現状の多様性を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	自らの考えを適切に他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	東アジアとは？（講義の概要）		講義		配付資料、課題を読む		
2	日本と朝鮮半島—古代の交流		講義		同上		
3	中世、近世の日朝関係—壬申倭乱と朝鮮通信使		講義		同上		
4	東アジアの伝統的国際秩序—琉球の視点		講義		同上		
5	韓国併合：武装の平和（伊藤博文）と東洋平和論（安重根）		講義		同上		
6	清朝崩壊と中華民国の誕生—孫文を支持した日本人たち		講義		同上		
7	満洲・モンゴルからみた近代東アジア		講義		同上		
8	中国の国共対立と抗日戦争		講義		同上		
9	日本の台湾・朝鮮植民地支配とアジア太平洋戦争		講義		同上		
10	第二次大戦の終結と冷戦—在日コリアンの視点から		講義		同上		
11	戦後の朝鮮半島と日本—20年後の日韓講和・国交樹立		講義		同上		
12	沖縄返還（72年）にみる1960-70年代の東アジア		講義		同上		
13	中台・台日・日中関係：日華条約と日中平和友好条約		講義		同上		
14	中国の改革開放と韓国・台湾の民主化		講義		同上		
15	ポスト冷戦時代の東アジア（中韓国交樹立）と人々の交わり		講義		同上		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
各回講義時の意見や考察		○	○	○	○	45	
学期内レポート課題		○	○	○	○	36	
期末レポート		○	○	○	○	19	
補足事項	授業態度については、講義中①講義に無関係な私語を続ける、②ゲームをしたり漫画を読んでいる、③机に伏して睡眠している受講生がいた場合は、当該学生につき20%を限度とする減点する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	川上真・服部龍二編『東アジア国際政治史』名古屋大学出版会						
履修条件	講義中問いかけたら答え、自分の意見が表明できること。						
学習相談・助言体制	質問票の配付と回答（次回講義時）他。					授業中の撮影	

授業科目名	韓国の社会と文化		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	金 恩 愛(キム・ウネ)						
授業の概要	韓国の映画やドキュメンタリーなどの映像資料を交えながら、韓国の社会と文化を概観する。隣の国、韓国の人々は、歴史の流れの中で「今日」という時間をどのように生きているのかを共に考える授業を目指す。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	韓国の社会と文化に関する基本的な知識を学ぶことができる。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会の諸問題に対し、資料を収集・考察し、結論を見出すことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>◆授業内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国の社会と文化を学ぶ過程の中で、日本を見つめ直す機会を得られる。 隣の国、韓国に関する知識や理解を深めることができる。 様々な観点から自己と他者、また自己と他者との関係を考える視点を身につけられる。 <p>◆授業方法</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国の映画やドキュメンタリー番組などの映像資料を視聴し、それについて、一緒に考える時間を設ける。 授業中配布する資料を通して韓国に関する基礎知識や理解を深める。 (内容は以下の通りである：世宗大王とハングル、韓国料理、食事作法、住宅事情、誕生日と記念行事、伝統スポーツ、伝統衣装の韓服、韓国の結婚式、韓国人の感情表現、祝日と記念日、韓国の物価、韓国の交通、韓国人の姓、宗教と信仰生活、韓国人の生活、教育制度、兵役の義務など) 授業中は、伝統衣装(韓服)の試着、伝統遊びの体験など韓国の文化を直に体験できる。 <p>◆事前・事後学習</p> <ul style="list-style-type: none"> 韓国に関する映像や配布資料を参考に、議論する時は、常に日本との共通点・相違点を意識する中で、自分なりの結論を出せるよう努める。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
期末レポート		◎	◎			50	
毎回の授業でのコメント		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎			20	
補足事項	※出席は、2/3以上の受講を原則とする。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：初回の授業にて提示する。						
履修条件	主体的かつ積極的に授業に参加すること。						
学習相談・助言体制	気軽に、積極的に相談に来てください。相談日時は、個別に対応します。授業の前後の時間もぜひ利用してください。						授業中の撮影

授業科目名		中国の社会と文化			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		陸麗君			前期	講義	選択	2	1・2年
授業の概要		<p>本講義の目的は近現代における中国の社会、文化及びその変化を勉強することによって、社会人として欠かせない国際的感覚と国際共生の意識を養うことに貢献するものである。それは異なる文化伝統をもつ諸社会が互いに理解を深め、共生していく契機ともなりうるものです。このような認識のもとに、中国の社会と文化の授業を進めていきたいと思ひます。また、中国の社会と文化をより良く理解するために、映像（ビデオとDVD）の使用による講義も行う。</p> <p>講義の進み具合や講生の関心を見て、内容を調整する場合があります。</p>							
学生の到達目標									
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	中国の地理や歴史、文化などの概況を知る。							
	DP2:専門・隣接領域の知識	中国の政治制度と改革開放後の社会問題（経済格差、環境悪化、人口爆発、教育格差等）を考える。							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	中国を理解することにより、日本としては、どのように中国と共生していくのかを考える。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション 中国の概況				講義		資料の配布と説明		
2	中国の国家体制①概況 人口、民族、言語、風習等の紹介(1)				同上		同上		
3	中国の国家体制①概況 人口、民族、言語、風習等の紹介(2)				同上		同上		
4	中国の国家体制② 政治体制と国家制度				同上		同上		
5	改革開放後の中国社会の概略				同上		同上		
6	建国以来の人口問題と対応策				同上		同上		
7	中国の戸籍制度				同上		同上		
8	農民工問題				同上		同上		
9	留守児童の問題				同上		同上		
10	教育問題				同上		同上		
11	社会保障の問題 社会保障の歩みと改革の現状				同上		同上		
12	農民工、留守児童などのテーマに関する映像				同上		同上		
13	女性問題を中心に歴史の歩みの中での女性観と政策の変化				同上		同上		
14	環境問題 高度成長に伴う環境問題の深刻化とその対応				同上		同上		
15	まとめ				同上		同上		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）		
定期試験			◎	◎			60		
授業内レポート・発表				○			20		
授業態度・授業への参加度			○				20		
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		随時プリントと必要資料を配布。							
履修条件		中国の社会と文化に関心をもつこと。							
学習相談・助言体制		質問があれば、授業の時とオフィス・アワーで回答。気軽に質問してください。							授業中の撮影

授業科目名	イスラム社会論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	田中哲也		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	中東、アフリカから南、東南、中央アジアの理解にとり不可欠な宗教であるイスラム教について、その誕生と確立、原理と教義における特徴、歴史的展開を解説しながら、「宗教」としてのイスラムの性格・特徴について論じた上で、近現代におけるイスラム社会の諸問題とイスラム復興とその影響について包括的に解説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	非西洋的文化や価値観とその影響について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	イスラム教に基づく思考と行動原理について理解する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	イスラム社会への招待		授業ごとに資料を配布し、パワーポイントを使用して講義を行う。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。		適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行って置く。		
2	一神教の世界						
3	イスラムの出現						
4	イスラム世界の拡大						
5	イスラムの体系化						
6	イスラムの中世						
7	イスラム社会の異人						
8	中間要約		第1-7回講義の要約		第1-7回講義の復習		
9	イスラム社会と西洋の衝撃		授業ごとに資料を配布し、パワーポイントを使用して講義を行う。適時、コメント・質問用紙を配布・回収し、学生の質問・疑問等に対応します。		適時、確認テストを行うので、授業ごとに事後学習を行って置く。		
10	植民地主義下のイスラム社会						
11	民族主義と国民国家						
12	中東問題						
13	イスラム復興運動						
14	グローバリゼーション下のイスラム社会						
15	最終要約		第9-14回講義の要約		第9-14回講義の復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○	◎				
宿題・授業外レポート			○			40	
授業態度・授業への参加度				◎		60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	毎回資料を配付する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	コメント・質問用紙、オフィスアワー、メールにより行う。					授業中の撮影	

授業科目名	国際教育文化交流論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			前期	講義	選択	2	3年	
担当教員	高 仁 淑							
授業の概要	「国際教育文化交流論」では、東アジアを中心とした地域社会と教育の現状について理解を深めるとともに、その課題と論点について国際・比較教育文化交流学的な視点から事例を紹介します。そして海外調査から国際化・国際協力のあり方を考えます。							
学生の到達目標								
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	国際化の多義的な概念理解やグローバル化の国際教育文化交流を体系的に学べます。						
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	国際共存問題、国際協力のあり方や真の国際交流について考察するようになります。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)					
1	国際教育文化交流とは何か	講義	資料配布しますので、読んでおくことをおすすめします。					
2	国際化と教育	講義及び対話型	〃					
3	東アジアの交流の現状	講義及び対話型	〃					
4	日韓文化論の概要	講義及び対話型	〃					
5	グローバル化と国際交流	講義及び対話型	〃					
6	グローバル化と留学生	講義及び対話型	〃					
7	グローバル化と教育移民	講義及び対話型	〃					
8	OECD 参加国の少子・高齢化の問題	講義及び対話型	〃					
9	子育て支援：保育・幼児教育の現状と政策（OECD 比較検討）	講義及び対話型	〃					
10	世界学力調査と教育改革の動向	講義及び対話型	〃					
11	民族共生と国際教育	講義及び対話型	〃					
12	ライフスタイルの変化と家族の国際化	講義及び対話型	〃					
13	国際結婚と多文化家族	講義及び対話型	〃					
14	地域社会における国際交流	講義及び対話型	〃					
15	総まとめ	講義及び対話型	〃					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)								
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
宿題・授業外レポート		◎	◎			70		
その他		○	○			30		
補足事項		文献検討とフィールドワークしたものをもとに、パワーポイントなどのメディアも用いて進めていきます。						
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等		初回に適宜紹介し、資料を配布します。						
履 修 条 件		特になし。						
学習相談・助言体制		その都度対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	N P O 論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 佐野 麻由子		前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	<p>営利組織（企業）、政府組織との比較を通して非営利かつ非政府の立場で公共性の高い活動を行う NPO の歴史的展開や活動の特徴を学び、三者の協働の可能性と課題について考える。授業では、文献の他に、新聞や映像資料を用いて具体的な活動例を把握する。受講生には討論や対話、発表等への積極的な参加を求める。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	NPO、市民社会についての幅広い知識を身につけている。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	市民組織（NPO/NGO）の組織形態、資源動員形態に影響を与える要因について、学んだ理論に依拠して説明できる。					
	DP4: 表現力	NPOの資源動員、官民市民の連携における課題の背景を論理的に説明し、それへの対応を提示できる。					
関心・意欲 ・態度	DP5: 挑戦力	日本だけでなく、世界の NPO の活動、市民社会のあり方に深い関心を持ち主体的に学習できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	NPO、市民社会についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス：NPO 論で学ぶこと	<ul style="list-style-type: none"> ・講義 ・講義後のリアクションペーパーの提出 	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料、参考書の復習をする。 ・新聞記事を読む。 ・レポート執筆のための書籍、事例を収集する。 				
2	NPO とは？NPO の定義						
3	NPO の歴史的展開：世界で一番古い NPO						
4	NPO と公共性、市民との関係は？：対抗的相補性						
5	NPO/NGO の現状を知る（世界編）：NPO が多い地域と少ない地域の違いは？						
6	NPO/NGO の国際比較からみえるもの：NPO/NGO の組織形態を決める要因						
7	事例：巨大 NPO バングラデシュの BRAC						
8	NPO/NGO の現状を知る（日本編）：NPO が多い地域と少ない地域の違いは？						
9	地域間比較からみえるもの：日本の NPO 活動（役割）、経営状況、人材						
10	新しい NPO のかたち：社会的事業						
11	新しい NPO のかたち：社会的企業						
12	新しい NPO のかたち：CSR、BOP ビジネス						
13	新しい NPO のかたち：今日の官、民、市民の協働						
14	ゲスト講師による講話：討論・報告のまとめ方・発信						
15	まとめ：プレゼンテーション						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
成績評価方法		○	○	○	○	40	
定期試験		○	○	○	○	60	
小テスト・授業内レポート		講義への参加度/リアクションペーパーの提出(40%)と最終レポート(60%)で評価する。					
補足事項							
実務経験を生かした授業	参考文献：原田・藤井・松井編、2010、『NPO 再構築への道』勁草書房。						
テキスト・参考文献等	積極的に学ぶ姿勢があることを前提条件とする。						
履 修 条 件	適宜受け付ける。						
学習相談・助言体制	参考文献：原田・藤井・松井編、2010、『NPO 再構築への道』勁草書房。					授業中の撮影	

授業科目名	国際協力論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	佐野麻由子						
授業の概要	国家間の格差、国内の格差が生じるメカニズムについての社会科学のアプローチを学んだ上で、国際協力に関わる官、民、市民の取り組み、今日の国際協力の可能性と課題を理解する。講義内では、国際協力に携わる実務者（JICAやNGO等）を招聘し、受講生との対話を通して開発課題への対応策を検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	開発社会学、開発経済学を中心とする社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	開発の課題を論理的に説明し、対応策（よりよい開発援助プロジェクト）を提案できる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	先進国、途上国双方の問題に深い関心をもち主体的に学習できる。					
	DP6:社会貢献力	開発課題を解決する能力を高め、社会にはたらきかけることができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	開発社会学、開発経済学についての先行研究、世界規模の格差のマクロデータ、国際協力に関する各種の資料を適切に収集できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			授業方法	事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス、この授業のねらい、複合科目の意義、本授業の内容と構成 〈a〉 発展とは何か 〈b〉 実務者との対話のコーディネート、実務者との対話の指導方法としての意義			<ul style="list-style-type: none"> 講義 アクティブ・ラーニング 講義後のリアクションペーパーの提出 	<ul style="list-style-type: none"> テキストを読む。 テキストの復習をする。 カリキュラム構成、教材作成・開発のための書籍、事例を収集する。 		
2	〈a〉 国際協力とは誰が何のために何をすることなのか？						
3	〈a〉 国際協力で対峙する課題：シャンバングラスのような世界 〈b〉 国際協力に関する社会科・公民科のカリキュラム構成と教材作成・開発						
4	〈a〉 途上国はなぜ途上国なのか？不公正な貿易制						
5	〈a〉 貧しい者・差別される者が生まれるのはなぜか						
6	〈a〉 開発援助の正負の影響は何か						
7	〈a〉 よりよい国際協力を実現させるために（1）：持続可能な開発						
8	〈a〉 よりよい国際協力を実現させるために（2）：参加型開発						
9	〈a〉 見えない資源の活用：社会関係資本の重要性						
10	〈a〉 先進国・途上国を元気にするフェアトレード・地産地消						
11	〈a〉 貧困層、企業のWinWinの関係？：BOPビジネスの挑戦 〈b〉 国際協力に関するさまざまな教材とその活用方法						
12	〈a〉 地域を元気にする国際協力 〈b〉 系統学習と課題解決学習：その特徴と学習効果						
13	〈a〉 よりよい国際協力を考える～実務者との対話（1）：報告のまとめ方・発信の仕方 〈b〉 教育方法としてのアクティブ・ラーニングの実践と指導計画						
14	〈a〉 よりよい国際協力を考える～実務者との対話（2）：報告のまとめ方・対応策の検討 〈b〉 アクティブ・ラーニングの活用方法と留意点						
15	まとめ 〈a〉 国際協力の可能性と課題に関するプレゼンテーション 〈b〉 国際協力に関する教材と指導法に関するプレゼンテーション						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内レポート		○	○	○	○	40	
授業外レポート		○	○	○	○	60	
補足事項	講義への参加度/リアクションペーパーの提出（40%）と最終試験（60%）で評価する。						
実務経験を生かした授業	国際協力現場での実務経験者（二国間援助機関、NGO、民間コンサルタント等の実務経験者）を特別講師として招聘し、学生と講師との対話を交えた授業を行うことにより、よりよい国際協力のあり方を学ぶ。						
テキスト・参考文献等	テキスト：佐藤・浜本・佐野・滝村編、2015、『開発社会学を学ぶための60冊：援助と発展を根本から考えよう』明石書店 参考書・参考資料等：佐野麻由子・田代英美 2017 「教育実践報告：公共社会学におけるアクティブ・ラーニングの実践2016」『福岡県立大学人間社会学部紀要』第24巻第2号。 中学校学習指導要領（平成29年3月告示、文部科学省）、高等学校学習指導要領（平成30年3月告示、文部科学省）						
履修条件	国内外の社会的問題や国際協力に関心をもち、積極的に学ぶ姿勢があることを前提条件とする。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	アジア経済論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)						
授業の概要	<p>本講義では、アジア地域の経済圏を欧米の西洋経済圏と比較しながら、その違いや特徴を「アジア型経済システム」として捉えて説明する。社会主義から市場主義経済に移行した中国・東南アジア大陸部における豊富な低賃金労働力の存在や豊かな自然資源、また韓国やASEAN 設立に結集した国々における自由貿易協定の効果について診断し、新しい経済圏の構築と経済協力の可能性を展望する。最後に経済のグローバル化が進む中、アジア経済圏における日本の役割、日本のアジアへのかかわり方について分析し、講義する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	グローバル化とアジア経済：経済のグローバル化を理解し、アジア経済圏へのグローバル化の可能性を展望する。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	アジア型経済システム：アジアの価値観・思想の特徴を理解し、中国や韓国、東南アジアの経済システムが効果的に機能するための新しい協力手段を提案する。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	アジアの中の日本：アジア経済圏での日本の役割・影響力の現状を診断し、これからの日本のアジアへのかかわり方を提案する。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	アジア型経済システム(1): アジアの価値観・思想、アジア経済史		講義				
2	アジア型経済システム(2): 中国経済史の構造と循環、中国の市場経済		講義				
3	アジア型経済システム(3): 華人ネットワーク		講義				
4	アジア型経済システム(4): 韓国経済の構造改革		講義				
5	アジア型経済システム(5): アジア経済危機とIMF		講義				
6	アジア型経済システム(6): 東南アジア経済の変化、社会主義から資本主義へ		講義				
7	アジア型経済システム(7): ASEAN、新しい経済圏の構築		講義				
8	グローバル化とアジア経済(1): グローバル化と国際化		講義				
9	グローバル化とアジア経済(2): 第2次グローバル経済とその要因		講義				
10	グローバル化とアジア経済(3): セミグローバル化		講義				
11	グローバル化とアジア経済(4): グローバル化を阻止する要因		講義				
12	グローバル化とアジア経済(5): 第4次産業革命と今後の展望		講義				
13	アジアの中の日本(1): 日本のアジアへのかかわり方		講義				
14	アジアの中の日本(2): 超スマート社会のアジアへの発信		講義				
15	総括: アジア経済の行方		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		◎	○			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	(テキスト) 遠藤環、他『現代アジア経済論』有斐閣。(参考書) 原洋之介『アジア型経済システム』中央公論新社。						
履修条件	特に無し。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	哲学要論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	神谷英二						
授業の概要	<p>社会の仕組みや価値観が急速に変化し、これまでの先例や常識だけに頼ってはいは、充実した豊かな社会生活を送ることも、職場において質の高い専門的な業務をすることも難しくなりつつある。現代社会の仕組みや価値観を当然と考えず、異なった視点から見るためには、現代とは異なった社会の仕組みや価値観を知ることが重要である。この授業では、ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』をテキストとし、西洋哲学史のうち古代ギリシア、中世、近代の始まりを取り上げ、学生による報告や討論を交えつつ講義を展開する。これにより、社会学に関連する基礎知識として西洋哲学史の基礎を学び、それとともに学生が先例や常識だけに頼ることなく、自分自身で現代社会における問題を発見・探究・解決するための基礎的能力を養うことをめざす。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	西洋哲学史における思考法に関する基礎知識を獲得する。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	先例や常識だけに頼らず、自分自身で現代社会における問題を発見・探究・解決するための基礎的能力を身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文				
2	ギリシアの自然哲学者(1) 神話的思考と合理的思考		『ソフィーの世界』を丁寧に読む。担当者が報告(テキストのまとめ)を行い、その内容についての討論を行う。		テキスト p. 33-79 を予習		
3	ギリシアの自然哲学者(2) ミレトスの人々						
4	ギリシアの自然哲学者(3) 存在と変化		小レポート(第1回)				
5	アテナイの3人の知恵と学(1) ソクラテス				テキスト p. 80-106 を予習		
6	アテナイの3人の知恵と学(1) ソクラテス		小レポート(第2回)				
7	アテナイの3人の知恵と学(2) プラトン				テキスト p. 107-126 を予習		
8	アテナイの3人の知恵と学(2) プラトン						
9	アテナイの3人の知恵と学(3) アリストテレス				テキスト p. 139-160 を予習		
10	アテナイの3人の知恵と学(3) アリストテレス		小レポート(第3回)		学期末レポートの作成を開始すること。		
11	2つの文化圏				テキスト p. 194-212 を予習		
12	中世の哲学と大学		小レポート(第4回)		テキスト p. 213-241 を予習		
13	近代のはじまり(1) ルネサンス				テキスト p. 242-275 を予習		
14	近代のはじまり(2) デカルト		小レポート(第5回)		テキスト p. 297-312 を予習		
15	復習とまとめ: AI は cogito ergo sum. と言えるか		学習内容全体についての復習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内小レポート		○	◎	◎		20	
受講者の報告			◎	○		20	
授業態度・授業への参加度				○		20	
学期末レポート		◎	◎	◎		40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト: ヨースタイン・ゴルデル『ソフィーの世界』日本放送出版協会、1995年、2,621円						
履修条件	なし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・疑問があればすぐに質問すること。 ・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内に対応する。 					授業中の撮影	

授業科目名	倫 理 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	公共3年 福祉2年
担当教員	神 谷 英 二						
授業の概要	<p>現代医学は人間の誕生・生存・死亡のあらゆる局面に高度な技術をともなって関わり、多くの倫理上の課題を生み出し、現代社会に生きる限り誰もがこれらの倫理問題と無関係ではいられない。また、生命倫理の問題に対処することは、福祉社会において活躍する専門的職業人にとっては必要不可欠の能力である。この授業では、生命倫理学の基礎を習得し、それをもとに具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を養うことをめざす。内容としては、インフォームド・コンセント、パーソン論、安楽死と尊厳死などを中心に授業を展開する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	生命倫理学の基礎を習得する。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	具体的な倫理問題を自分自身の問題としてとらえ、考える能力を身につけることにより、実際に仕事や日常生活の中で生命倫理の問題に直面した際に、自分自身で判断し、対処できるようになる。					
	DP4: 表現力	根拠を明示して、自分の考えをわかりやすく伝える力を身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス：多死社会へ向けて		授業プランの説明 学習ニーズ確認のための作文		「倫理学講義資料」を毎回、授業後に復習すること。欠席した場合は、「倫理学講義資料」によって学習した上で、必ず小レポートを各自書いて、提出すること。(以下、15回まで同様。)		
2	生命倫理の歴史		「倫理学講義資料」による講義				
3	生命倫理の4原則		「倫理学講義資料」による講義				
4	インフォームド・コンセントと患者の権利(1) 定義と法理		「倫理学講義資料」による講義 小レポート(第1回)				
5	インフォームド・コンセントと患者の権利(2) 代諾者		「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
6	インフォームド・コンセントと患者の権利(3) 小児、未成年		「倫理学講義資料」による講義 小レポート(第2回)				
7	インフォームド・コンセントと患者の権利(4) 日本独自の工夫		「倫理学講義資料」による講義				
8	パーソン論と生命の線引き(1) 人工妊娠中絶と出生前診断		「倫理学講義資料」による講義				
9	パーソン論と生命の線引き(2) トゥーリーの理論		「倫理学講義資料」による講義 小レポート(第3回)				
10	パーソン論と生命の線引き(3) エンゲルハートの理論		「倫理学講義資料」による講義		学期末レポートの作成を開始すること。		
11	安楽死と尊厳死(1) 定義と事例研究		「倫理学講義資料」による講義 小レポート(第4回)				
12	安楽死と尊厳死(2) 死の自己決定		「倫理学講義資料」による講義 新聞記事による事例研究				
13	終末期医療の現状と将来(1) 緩和ケアとナラティブアプローチ		「倫理学講義資料」による講義				
14	終末期医療の現状と将来(2) セデーションの是非		「倫理学講義資料」による講義 小レポート(第5回)				
15	復習とまとめ		学期全体の学習内容を復習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
授業内小レポート			◎	◎			30
授業態度・授業への参加度				○			20
学期末レポート			◎	◎			50
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		参考文献：今井道夫・香川知晶編『バイオエシックス入門』第3版、東信堂、2001年					
履修条件		なし。					
学習相談・助言体制		<ul style="list-style-type: none"> ・疑問があればすぐに質問すること。 ・電子メールによる質問も常時受け付ける。電子メールによる質問には原則として24時間以内で回答する。 					授業中の撮影

授業科目名	日本史概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	有谷三樹彦						
授業の概要	現代を理解するためには歴史を学ぶ必要があります。本講義では、天皇制とナショナリズムの観点から日本史を捉えなおすことにより、日本の歴史的特性を浮かび上がらせ、世界の中の日本の位置づけを考えます。具体的には、前半で古代から近世までの日本について、後半で主に幕末維新时期以降の日本について講義することになります。その際日本のみを対象とする一国史観に陥らないように、同時代の世界史の動向との比較を常に心がけます。さらに国民形成を主目的とする日本の歴史教育の問題にも迫りたいと思います。歴史・政治・思想をトータルに考察する本講義は実社会でも役立つ実用的な教養科目であるといえます。中学校教員免許状（社会）取得希望者は必修です。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	日本史の学習を通じて、歴史学と歴史教育、天皇制、ナショナリズムについて、ある程度理解し説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義内容の様々なテーマについて考え、的確に講義内容を要約し自己の意見を文章化することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	ガイダンス 歴史教育とは何か	講義内容について説明する。受講生は授業終了時に講義内容説明文を書く。	下記の参考文献等を使って、人物や事件など基礎的な事項を調べておく。				
2	近代日本の教育	同	同				
3	古代	同	同				
4	中世	同	同				
5	一揆	同	同				
6	織豊政権	同	同				
7	近世	同	同				
8	ブルジョア革命	同	同				
9	幕末維新の胎動	同	同				
10	吉田松陰の思想と行動	同	同				
11	ナショナリズムの発生	同	同				
12	幕末維新の展開	同	同				
13	明治維新の特徴	同	同				
14	士族反乱	同	同				
15	自由民権運動	同	同				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
成績評価方法							
定期試験	○	◎			90		
授業態度・授業への参加度	○	○			10		
講義内容説明文	○	◎			プラス評価		
補足事項	無断遅刻・無断欠席が多い学生にはレポートの課題が追加されます。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献：小田中直樹『歴史学ってなんだ?』PHP新書、2004年。山本博文『歴史をつかむ技法』新潮新書、2013年。近藤孝弘『歴史教育と教科書』岩波ブックレット、2001年。山住正巳『日本教育小史』岩波新書、1987年。井上清『天皇・天皇制の歴史』明石書店、1986年。今谷明『武家と天皇』岩波新書、1993年。奈良本辰也『吉田松陰』岩波新書、1951年。井上勲『王政復古』中公新書、1991年。岩波ジュニア新書<シリーズ日本の歴史>全9冊。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	授業前の時間であれば非常勤講師室に居ますので、喜んで学生の質問相談に応じます。					授業中の撮影	

授業科目名	西洋史概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	水 井 万里子						
授業の概要	大航海時代以降、異文化の世界と出会った西洋の近代化を、その前提となる古代、中世の時代を基礎としながら、現代まで時代ごとに概観する。特に後半では世界史のなかの西洋という観点から、帝国と植民地の関係性を中心に人の移動や交流、世界市場形成を通じて、越境・グローバル化する西洋のあり方を確認する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	西洋史における各時代の重要なテーマについて、内容を理解し説明できる。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	社会科教員として歴史を教える際の要点を理解できる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	近代世界の歩や現在の世界を西洋史の理解を基礎として考察できる					
	DP4:表現力	自由課題である授業内の論述テスト、レポートの作成を通し歴史叙述表現ができる。					
関心・意欲 ・態度	DP5:挑戦力	自由課題として授業範囲外の関心のある課題を自ら選定することができる。					
	DP6:社会貢献力	現代のグローバル社会の構造に西洋の歴史からアプローチし、南北問題などグローバルな社会の問題解決に貢献する基礎の力が持てる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	歴史を教える教員として時事問題と関連付けて説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	ヨーロッパとは何か：歴史、民族、言語、宗教、文化、地域		講 義		配布された資料を事後学習として読み理解する。		
2	地中海世界とローマ帝国		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
3	キリスト教世界の誕生		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
4	都市と農村		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
5	ルネッサンスと文化		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
6	主権国家体制の成立		講 義・授業内小テスト		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
7	宗教改革・国家・議会		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
8	大航海時代：世界と遭遇するヨーロッパ		講 義・授業内ミニレポート		世界の近代について期末レポートのテーマを各自考えてくる。		
9	ヨーロッパの国際商業		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
10	工業化の進展		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
11	啓蒙と人権のヨーロッパ		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
12	革命と社会		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
13	帝国主義と植民地		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
14	世界恐慌とファシズムの台頭		講 義		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
15	戦争と人の移動		講 義・授業内小テスト・期末レポート提出		事前学習として与えられた資料を読み授業に備える。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内ミニレポート		○	◎	○		10	
授業内小テスト		◎	○	○		40	
期末レポート		○	◎	○	○	50	
補足事項	授業内テストは持ち込み可						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは使用しないが、毎回配布するプリントに沿って講義を進める。 参考書・参考資料等 図説テューダー朝の歴史(河出書房新社)、ヨーロッパの歴史—欧州共通教科書(東京書籍)の該当部分を適宜参照する。						
履 修 条 件	中学校教諭一種免許状(社会)取得希望者は必修である。						
学習相談・助言体制	質問のある受講者には適宜講師のメールアドレスを伝え、相談に対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	法律学概論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	森 脇 敦 史						
授業の概要	<p>本講義では、行政法を素材として、法律学が社会で果たしている役割を学ぶ。私たちの日常生活は、行政活動抜きには考えられない。そして、現在の行政活動は何らかの形で法律上の根拠に基づいて行われる。従って、行政活動を理解するためには、どのような目的で現在の法が定められ、解釈されているのかを知ることが不可欠である。法律学概論 I では、行政組織法・行政作用法の領域を検討する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	法がどのような形で行政活動を規律しているのかを理解できる。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス……「行政法」の意味		講義		テキストの該当部分(授業で指示します)を読んでおくこと。		
2	行政は誰が行うか(1)……行政主体、行政機関、公務員		講義				
3	行政は誰が行うか(2)……行政機関の分類、裁判と行政機関		講義				
4	行政法の基本的な考え方……法治主義、法律の留保		講義				
5	行政の透明性確保……法律・手続によるコントロール		講義				
6	情報公開、個人情報保護制度		講義				
7	行政の行為形式(1)……行政処分の定義		講義				
8	行政の行為形式(2)……行政処分の分類		講義				
9	行政の行為形式(3)……行政処分の効力		講義				
10	行政の行為形式(4)……行政処分の手続		講義				
11	行政指導……定義、有効性と限界、争う手段		講義				
12	行政立法、行政契約		講義				
13	行政の実効性確保(1)……義務の内容		講義				
14	行政の実効性確保(2)……間接強制、直接強制、即時強制		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
成績評価方法			◎	◎			70
定期試験			◎	◎			70
授業態度・授業への参加度					○		30
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：石川敏行ほか『はじめての行政法』第3版補訂版(有斐閣、2015年) 少なくともコンパクトサイズの六法(どの出版社のものでも良い)。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<p>授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。</p>						授業中の撮影

授業科目名	法律学概論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	森 脇 敦 史						
授業の概要	<p>本講義では、行政法を素材として、法律学が社会で果たしている役割を学ぶ。私たちの日常生活は、行政活動抜きには考えられない。そして、現在の行政活動は何らかの形で法律上の根拠に基づいて行われる。従って、行政活動を理解するためには、どのような目的で現在の法が定められ、解釈されているのかを知ることが不可欠である。法律学概論Ⅱでは、行政救済法の領域を検討する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	行政をめぐる紛争につき、現行法が定める手続とその社会的役割を理解できる。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	結論に至る理由付けを順序立てて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	現代社会で生じている問題を自ら探索することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	行政救済法概論……行政争訟法と国家補償法、民事争訟との違い		講義		テキストの該当部分(授業で指示します)を読んでおくこと。		
2	行政不服審査(1)……制度の意義と種類		講義				
3	行政不服審査(2)……審査手続、裁決・決定の効力		講義				
4	行政事件訴訟(1)……行政訴訟の歴史、訴訟類型		講義				
5	行政事件訴訟(2)……抗告訴訟の類型		講義				
6	取消訴訟(1)……訴訟要件(処分性、原告適格)		講義				
7	取消訴訟(2)……訴訟要件(訴えの利益、被告適格)		講義				
8	取消訴訟(3)……仮の救済		講義				
9	取消訴訟(4)……訴訟手続、判決		講義				
10	客観訴訟……民衆訴訟、機関訴訟		講義				
11	国家賠償(1)……国賠法1条(公権力の行使、公務員)		講義				
12	国家賠償(2)……国賠法1条(職務遂行、故意過失・違法性、責任)		講義				
13	国家賠償(3)……国賠法2条(営造物責任)		講義				
14	損失補償……憲法との関係、補償の内容、国家賠償との関係		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			◎	◎			70
授業態度・授業への参加度					○		30
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：石川敏行ほか『はじめての行政法』第3版補訂版(有斐閣、2015年) 少なくともコンパクトサイズの六法(どの出版社のものでも良い)。</p>						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<p>授業前後の時間やオフィスアワーなど。その他の時間帯については、事前にメール(moriwaki@fukuoka-pu.ac.jp)で確認してください。メールでの質問も受け付けますが、回答は原則として講義の中で行います。</p>						授業中の撮影

授業科目名	教育社会学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	3年
担当教員	白坂正太						
授業の概要	現代社会が抱える教育課題を捉えるために、学校教育の社会的・制度的事項を社会学的視点から検討していく。各学校段階の文化的背景を読み解きながら、学校をめぐる諸課題を構造的に明らかにしていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1: 教養・健康に関する知識	教育の社会的位置づけを説明できる。					
	DP2: 専門・隣接領域の知識	教育を社会学的捉えることの意義を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	多角的に教育に関する事象を捉えることができる。					
	DP4: 表現力	自身の考えの根拠を社会学的視点から説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	教育に関する事象の社会学的課題点を見いだすことができる。					
	DP6: 社会貢献力	より良い社会のための教育の在り方を考えることができる。					
技能	DP7: コミュニケーション力	社会学的視点を根拠に他者と議論ができる。					
	DP8: 情報リテラシー	様々な社会の在り方を読み解くことができる。					
	DP9: 健康スキル	社会学的視点から学校安全のための環境づくりを考えることができる。					
	DP10: 専門分野のスキル	現代教育の構造的課題を社会学的視点から見いだすことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義・WS(ワークショップ)		シラバスの熟読		
2	社会の中で生きるとは—学校制度と社会化—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
3	家族と社会化—家庭教育の構造と役割—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
4	学校の成立背景と社会的意義—公教育の理念と法規を中心に—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
5	子どもの遊び環境の変容—遊び場の安全と学校・地域の連携—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
6	社会的存在としての子ども—幼保一元化の政策動向をふまえて—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
7	学級構造の課題—学級における教師の役割—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
8	学校のリスクマネジメント—学校の社会的な位置づけと責任—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
9	中等教育の二面性—制度的側面からみる統合と分化—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
10	高等教育の機能分化—職業教育の多様化に着目して—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
11	学校教育とジェンダー—教育制度からみる社会的性差—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
12	教育行政と学校の機能—地域振興に着目して—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
13	情報化社会と教育—学校の危機管理—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
14	学修成果における質保証—諸外国の取り組み—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
15	【総論】教育の社会学的検討—学校の社会的役割の再考—		講義・WS(ワークショップ)		前回の復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
	小テスト・授業内レポート		◎		○	30	
	宿題・授業外レポート		◎		○	50	
	授業態度・授業への参加度		○			20	
実務経験を生かした授業	なし						
テキスト・参考文献等	必要に応じて資料を配布する。						
履修条件	グループワークやディスカッションを行うので、積極的に議論ができること。						
学習相談・助言体制	授業後もしくは、電子メールにて受け付けます。shouta.shirasaka@gmail.com まで また、授業後のレポートの中での質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	Web デザイン演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	柴田 雅博						
授業の概要	インターネットでは様々な Web サイトが運営されている。Web ページがどのように作られているのか、Web ページを構成する代表的な技術 (HTML, CSS, JavaScript) について学び、自ら情報発信を行える技能を身に付ける。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	Web サイトの構成について理解している。 HTML, CSS, JavaScript といった Web 関連技術に関する知識を修得している。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	アクセシビリティ、ユーザビリティを考慮して Web ページをデザインすることができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	HTML を使って Web ページの開発を行うことができる。 HTML と CSS を組み合わせて Web ページの構成デザインを行うことができる。 JavaScript を使ったプログラミングを実施できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	Web サイトの構成 (システム構成、Web サーバ)	講義	事前に教科書の該当箇所を予習しておくこと。 適宜課題を設ける。課題は締め切りまでに完成させ提出すること				
2	Web サイトの設計。アクセシビリティ、ユーザビリティ	講義					
3	Web サイト制作の設計計画	Web サイト制作のための作成計画演習					
4	HTML (1): タグ、属性、Web ページの基本構造	講義と Web ページ作成演習					
5	HTML (2): 文章記述、修飾	講義と Web ページ作成演習					
6	HTML (3): 画像表示とリンク	講義と Web ページ作成演習					
7	HTML (4): リストと表	講義と Web ページ作成演習					
8	HTML (5): HTML でのトップページの完成	Web ページ作成演習					
9	CSS (1): CSS の役割。HTML への CSS の適用。	講義と CSS によるデザイン演習					
10	CSS (2): セレクタと画像	講義と CSS によるデザイン演習					
11	CSS (3): ボックスモデル	講義と CSS によるデザイン演習					
12	CSS (4): レスポンシブルデザイン	講義と CSS によるデザイン演習					
13	JavaScript (1)	講義と JavaScript プログラム演習					
14	JavaScript (2)	講義と JavaScript プログラム演習					
15	Web サイトの仕上げ	Web サイト制作演習					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度		○		◎	○	40	
演習		○		○	◎	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト: こもりまさあき・赤間公太郎、『Web デザインの新しい教科書 (改訂新版)』, エムディーエヌコーポレーション, 2016						
履 修 条 件	なし						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	プログラミング演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	柴田 雅博						
授業の概要	<p>問題解決を図るためには論理的思考が必要である。プログラミングは論理的思考能力を身に付けるのに非常に有効である。</p> <p>「プログラミング概論」で身に付けたプログラミング手法を応用し、具体的な目的を達成するためのアプリケーション開発を行う。そのために必要なモデル化、モジュール化の知識を修得し、実践に活かす力を身につける。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	オブジェクト指向型プログラミングの概念を理解している。論理的思考を行うための前提知識を身につける。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	現実問題をモデル化することができる。大問題を小問題の群として再構成し、問題解決方法を模索できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	目的を達成するために、アルゴリズムを設計し、プログラム開発を行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	講義とプログラミング演習	<p>事前に配布資料確認、予習しておくこと。</p> <p>ほとんどの時間で課題を設ける。課題は締め切り(基本的に次週の授業の前日)までに完成させ提出すること</p>				
2	C言語の復習	講義とプログラミング演習					
3	アルゴリズムの基礎(1)	講義とプログラミング演習					
4	アルゴリズムの基礎(2)	講義とプログラミング演習					
5	オブジェクト指向型プログラミング: 基礎	講義とプログラミング演習					
6	オブジェクト指向型プログラミング: カプセル化	講義とプログラミング演習					
7	オブジェクト指向型プログラミング: 継承とポリモーフィズム	講義とプログラミング演習					
8	Windows アプリケーションの作成基礎	講義とプログラミング演習					
9	イベント駆動型プログラミング	講義とプログラミング演習					
10	問題のモデル化	講義とプログラミング演習					
11	アプリケーション設計とアルゴリズム作成	講義とアプリケーション設計演習					
12	アプリケーション設計とアルゴリズム作成	講義とアプリケーション設計演習					
13	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習					
14	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習					
15	中規模アプリケーションの開発	講義とアプリケーション開発演習					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度		○		◎	○	40	
演習		○	○		◎	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	eラーニングシステムで提供する。						
履修条件	「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	情報検索システム論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	柴田雅博						
授業の概要	インターネットや情報システムの中には膨大なデータが蓄積されており、今もなお増加している。我々はその膨大なデータの中から必要な情報を検索・抽出しなければならない。本講義では Web 検索エンジンを例にテキスト検索を中心に、情報検索がどのように行われているのか、その仕組みについて学習する。また一般に判別技術についても学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	Web 検索エンジンの仕組みについて理解している。 検索関連技術について理解している。 機械学習手法の基礎を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	情報判別手法の基本を理解し、問題解決に応用できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	機械学習（教師あり学習）を実践に応用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	情報検索とは	講義	事前に配布資料を確認、予習しておくこと。 適宜、宿題を出す。宿題は次週の授業で提出すること				
2	テキスト検索：文書の表現	講義					
3	検索エンジンの構成、クロウリング	講義					
4	形態素解析：単語の抽出	講義					
5	索引付け	講義					
6	辞書	講義					
7	検索の評価値（1）：PageRank	講義					
8	検索の評価値（2）：その他（tf/idf、コサイン類似度、PMI、シンソーラス類似度）	講義					
9	画像の検索	講義					
10	情報検索システムの評価：適合率、再現率、F 値	講義					
11	情報検索システムの評価テスト：機械学習、クロスバリデーション	講義					
12	検索質問の拡張：対話型検索、自然言語検索、QA	講義					
13	情報検索技術の応用：自動要約、文書分類、情報推薦	講義					
14	情報検索技術の応用：セマンティックウェブ、対話システム	講義					
15	情報検索技術の応用：判別技術・手書き文字認識	機械学習に関する演習					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	◎			50	
宿題・授業外レポート		◎	◎			20	
授業態度・授業への参加度		◎	◎		○	20	
演習		○	◎		◎	10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	e-ラーニングで資料配布します。						
履修条件	特にないが、「プログラミング概論」を受講していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	人的資源管理論（関係行政論）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次				
担当教員	井上 奈美子		後期	講義	選択	2	2年				
授業の概要	<p>人的資源管理論とは労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すための学問である。この領域は、社会的影響を受けつつも、私達の働き方や生活様式の変化に影響を与える。講義では、人的資源管理が誕生する以前の人事管理と比較しながら米国で誕生し発展した人的資源管理の特徴、そして日本への影響などを概説する。続いて、日本企業における具体的な人的資源管理の内容について議論する。グローバル競争が激化する経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響についても検討していく。更に、企業や団体が取り組む人の採用と育成について実際のケースを扱い理論と実践について展望する。</p>										
学生の到達目標											
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	人的資源管理論の領域を多面的に捉え、企業や団体が取り組む人的管理から自己の進路選択の判断力を高める									
技能	DP10:専門分野のスキル	良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すためのスキルを身に付ける									
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）											
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）								
1	ガイダンス（グループづくり、学習到達目標の確認）										
2	人的資源論（HRM）とは	講義・アクティブラーニング	専門的な労働に関する知識を学ぶため、アクティブラーニング（学生同士の相互学習）を行い、理解を促進する手立てとします。								
3	HRMと経営戦略	講義・アクティブラーニング									
4	労務管理	講義・アクティブラーニング									
5	採用マネジメントと倫理憲章問題	講義・アクティブラーニング									
6	ダイバーシティ推進	講義・アクティブラーニング									
7	人的資源管理としての女性活躍推進	講義・アクティブラーニング									
8	リーダーシップ	講義・アクティブラーニング									
9	主体的能動的自己啓発	講義・アクティブラーニング									
10	組織の発展、学習する組織	講義・アクティブラーニング									
11	企業における人事部の役割	講義・アクティブラーニング									
12	HRMとグローバル化	講義・アクティブラーニング									
13	企業の人的資源管理ケース①	講義・アクティブラーニング									
14	企業の人的資源管理ケース②	講義・アクティブラーニング									
15	プレゼンテーション学習発表会	実技・プレゼンテーション						課題パワーポイント作成			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）											
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）					
定期試験					○	20					
小テスト・授業内レポート			○		○	30					
授業態度・授業への参加度			◎			50					
実務経験を生かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサルタント、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、企業や団体が取り組む人の採用と育成について実際のケースを扱い、理論と実践について指導する。										
テキスト・参考文献等	資料は教員が作成したものを提供します。その他人的資源に関する親書を購入する必要があります。「優しい労務管理の手引き」厚生労働省労働基準局監督課(各自ダウンロードし持参) http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/dl/roumukanri.pdf										
履修条件	事前に資料印刷して各自持参、アクティブラーニングのディスカッションのためにグループワークに積極的に参加することが望まれ、欠席4回以上は単位が認められませんので注意してください。										
学習相談・助言体制	講義の前後またはメールで応じる。					授業中の撮影	○				

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	石崎龍二						
授業の概要	<p>本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	社会の諸問題に深い関心をもち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。					
	DP6: 社会貢献力	課題解決に向けて探求し続けることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	オリエンテーション (ゼミの進め方)	演習	次回の資料について予習				
2~7	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱに関する図書や参考資料の輪読	演習	各自、輪読する資料について予習・復習				
8	各自の(仮)研究テーマの設定	演習	研究テーマの設定				
9, 10	各自の(仮)研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集				
11, 12	各自の(仮)研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意				
13, 14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集				
15	公共社会学研究Ⅰ(前期)のまとめと公共社会学研究Ⅱ(後期)に向けての計画	演習	資料・問題整理				
16	各自の研究テーマについて中間報告(後期はじめ)	演習	全員、報告資料を用意				
17~25	収集した文献、データ等の整理、 各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意、資料収集				
26~30	報告書の作成	演習	報告書の作成				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	50	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		30	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	演習の中での話し合いで決定する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。						授業中の撮影

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	三 隅 讓 二		前期・後期	演習	必修	各 1	3 年
授業の概要	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱでは、ゼミ形式で共通の文献を読み、卒論につながる発表を行う。その課程で、仮説の立て方やモデルの構築法、資料や文献の処理方法を学ぶ。テーマは広く現代社会、情報社会に関連のあるものとする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	日常的な文化や規範等について、具体例を挙げながら総合的に説明出来る。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	様々な現象に関する問題を社会的な公共性の観点から整理出来る。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	従来の常識や理論のみに縛られないで、自分の興味がある問題を自分の観点から独創的にまとめるように挑戦し続ける。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根差した問題解決を考える。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	資料収集とともに、対象とする現象を社会的観点と共に自らの観点から分析出来るようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			
1	ガイダンス						
2~7	文献講読			該当者はレジュメの事前作成			
8	中間のまとめ・各自のテーマ発表						
9~15	各自のテーマ発表と質疑			該当者はレジュメの事前作成			
16	中間のまとめ・各自のテーマ発表						
17~24	各自のテーマ発表と質疑			該当者はレジュメの事前作成			
25	中間のまとめ・各自のテーマ発表						
26~29	各自のテーマ発表と質疑			該当者はレジュメの事前作成			
30	全体のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	40	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		30	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	演習の中での話し合いで決定する。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	オフィスアワーでも、講義の前後でも自由に質疑を受け付けます。またそれ以外に研究室に来てもらっても結構です。y					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	許 棟 翰 (ホ ドンハン)		前期・後期	演習	必修	各 1	3 年
授業の概要	<p>本講義は、「効率と公平のトレードオフ」を念頭に置いて、経済学諸理論の発展を探ることから始まる。古典派経済学からケインズ派経済学、そして行動経済学に至るまでの経済学の過去と現在、未来を旅する。家族のあり方の変化や貧富の差、貧困問題、国際紛争などなど現代社会が抱えている問題・現象について経済学諸理論を用いて分析し、解決策を提示する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	古典派経済学からケインズ派経済学までの経済理論の展開について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	政府政策について「パレート最適」を用いて評価できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	国際学術シンポジウムに参加し、外国人学生と協同で分析、討論、発表ができる。					
	DP6: 社会貢献力	国際学術交流を通じて、国際市民としての生き方や役割が理解できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	日本社会の問題点について「効率と公平のトレードオフ」の観点から解決策が提示できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1. 授業方法 テキストを輪読する。順番で発表、ディスカッションする。 順番によって発表、討論する。</p> <p>2. 課外活動 夏休み期間中の 8 月には、「日韓大学生の学術シンポジウム」に参加し、発表・討論する。 The 21st Japan-Korea Youth Forum : Conference of Business and Social Association - 日程: 8 月 19 日(月)~23 日(金)、4 泊 5 日 - 場所: 韓国釜山市 - 参加大学: (韓国)明知大学、漢陽大学、淑明女子大学、釜慶大学、(日本)福岡県立大学、慶應義塾大学、関西学院大学、山口大学、小樽商科大学 - 主催: BSOAP(Business & Social Organization for Asia and Pacific)</p> <p>3. 事前・事後学習 授業の前に必ず文献を読んでくること。担当部分については発表の準備をすること。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度		○	○	◎		20	
受講者の発表(プレゼン)		○	○	○	◎	50	
演習		○	○	○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	瀧澤弘和『現代経済学』中央公論新社、他。						
履修条件	経済学、仕事の経済学、暮らしの経済学を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	オフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	<p>これまでの学習の成果を展開し、各自の分析能力と記述力、表現力を高める。受講生のこれまでの体験や関心をもとに問題意識を他者に伝えることを体験する。基本文献を選定・輪読して討論を交えながら理解を深め、社会現象の分析方法を習得する。そののちに受講生各自のテーマを設定して論文作成の全過程をひととおり経験し、卒業論文作成の基礎を養うことを目標とする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	現在の教育課題を、その背景を含めて理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	教育の現状や課題を資料に基づき論理的に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	教育の課題について深い関心を持ち、問題意識を深めて主体的に学習することができる。					
	DP6: 社会貢献力	教育の課題解決策を検討するとともに、自らの関わりについても考察することができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	テーマに適切な資料収集とデータ収集を行い、分析するとともに、課題をまとめることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	講義	シラバスの精読				
2~9	受講生各自の関心や問題意識の発表	演習	レジュメなどの準備				
10~15	先行研究、参考文献等を収集、輪読する。分担してレジュメを作成し、それをもとに討論を行う。	演習	(事前課題) 各自、担当部分についてレジュメを作成する。 (事後課題) 討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。				
16	まとめの討論	演習					
17~20	前期レポートの作成と報告	演習	レポートなどの準備				
22~28	各自のテーマに基づく文献やデータの収集と整理を行う。順番を決めて報告し、それをもとに討論を行う。	演習	(事前課題) 各自、担当部分についてレジュメを作成する。 (事後課題) 討論で出た質問や意見に対して考察を進め、その結果を次回報告する。				
29~30	研究レポートの作成。		(事後課題) 後期レポートを作成し、提出する。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)		○			○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Ekberg Peter『おおきく考えよう』晶文社、B・シュワルツ『なぜ働くのか』朝日出版社						
履修条件							
学習相談・助言体制	メールで日時を調整。					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	岡本雅享		前期・後期	演習	必修	各1	3年
授業の概要	担当教員の担当講義である多文化社会論、東アジア関係史、国際政治学、政治学、及び教員の研究テーマに興味のある学生でゼミを構成するが、具体的なテーマや輪読する文献などは、ゼミ生と相談して決める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	異なる文化や価値観に対して、客観的に理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を、公共性の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	異なる文化・価値観に深い関心をもち、主体的に学習できる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1~30	<p>①研究テーマ・計画の設定・検討と調査・報告、 ②文献輪読、 ③資料の探し方、まとめ方、 ④グループ研究 等の中から、ゼミ生の希望に応じて組み合わせていく。 調査・研究計画の立て方、資料の集め方(大学内外の図書館、インターネットでの検索・閲覧)、レジメの作り方、プレゼンや議論の仕方、文献読解と要約、論文の書き方などのノウハウも身に付けられるようにしていく。</p> <p>《教員の研究・担当講義分野と地域》 ・政治社会学：近現代日本政治、国家形成史(Nation Building)、国連、国際機関、NGOなど ・民俗社会学：民間信仰・伝承、神祭りなど ・歴史社会学：地域・郷土史、中国・台湾史など ・民族学(Ethnic Studies)：北米、日本、欧州のマイノリティ、移民、難民、多文化主義など ・地域：東アジア(日本、中国、台湾、韓国など)、北米・ハワイ、欧州など</p>		演習。文献輪読、個人報告では、報告者(発表者)の他に、司会、コメントータを割り当てるなど、全員参加型を心がける。		各人の担当を事前準備する		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
調査・発表		○	◎	◎	○	50	
ディスカッション		○	◎	◎	◎	50	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	ゼミ生と協議して決める。						
履修条件	具体的な問題関心、調査・研究したいテーマを持っていることが受講の前提。ただし研究を進める中でテーマが変化するのは構わない。						
学習相談・助言体制	授業終了後または個別研究室訪問で対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	佐野麻由子		前期・後期	演習	必修	各1	3年
授業の概要	<p>本授業では、卒業論文の執筆に必要な基礎的な知識および技能を学ぶ。前期授業では、“世界を通して日本を知る、日本を通して世界を知る”をテーマに国際比較の視点をもって文化変容、不平等に関連した社会学的文献を読み、議論に参加することが求められる。後期授業では、卒業論文の執筆に向けて各自研究テーマや調査・研究方法、研究計画を設定しその進捗を報告する。毎回、レジュメ報告担当者を設定し、報告者の出した論点、話題をもとにディスカッションを行う。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会学、社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	国際比較の視点、社会学の知識や方法を用いて各種の事象を説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	社会の問題に深い関心をもち、自ら問いを設定しその解を求めるために主体的に学習できる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根差した問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	文化変容、不平等についての先行研究や各種の資料を適切に収集できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1							
2							
3							
4							
5							
6							
7	前期						
8	後期						
9		・研究テーマ、方法、研究計画の決定 ・研究発表	演習		・アカデミックな論文執筆のルールを確認する。		
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		○	○	○	○	60	
演習		○	○	○	○	40	
補足事項	報告や討論を含む授業への参加態度（60%）、最終レポート（40%）を総合的に判断したうえで評価を行う。研究テーマによっては学外にフィールドワークに出ることがある。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：山田真茂留編著 2018 『グローバル現代社会論』文真堂。 前期に講読するその他の文献については、初回授業時に相談して決めたい。						
履修条件	具体的な問題関心や研究したいテーマを持っていることを前提条件とする。 遅刻や無断欠席をしないこと。						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	堤 圭史郎						
授業の概要	<p>本演習では、貧困・社会的排除・差別、種々の逸脱現象、都市問題への社会的アプローチを学ぶとともに、メンバー各自の問題意識を明確にしていく。前期はこれらの領域に関連する文献輪読を行う。後期は各自の関心領域に基づいて研究報告を行う。参考文献を収集・通読し、関連するデータを集め、重要な事項についてノートをとる。これらをふまえて問題意識を洗練させ、フィールドワークにとりかかる。また、論理的な文章を書くトレーニングを積み、卒業論文作成の基礎を養う。メンバーのニーズに応じて、授業期間中に学外へエクスカージョンに出かけるなど、課外活動を企画する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	研究に係る基礎的な形式・技法に関する知識を身につけている。各自の関心領域に関する基礎知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	貧困・社会的排除・差別及び種々の逸脱現象、都市問題について、公共性等の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自らの関心領域に興味関心をもち、自ら調べ、考えることができる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会的課題を取り扱う際に、社会科学的方法的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	ガイダンス。輪読する文献の紹介。報告する分担を決める		演習	各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。			
2	メンバー各自の関心や問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。		演習				
3~12	文献輪読。各自は担当部分について参考文献も参照しながらレジメを準備する。その報告に基づいて全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理の仕方、パソコン操作、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。また、メンバーのニーズに応じてエクスカージョンを行う。		演習	担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジメにまとめる。エクスカージョンの前には当該地域の予習をし、フィールドノートを作成する。			
13, 14	各自の現時点での関心や問題意識について報告し合い、共有する。		演習	各自、自分の関心や問題意識に基づいて、文献を読む。夏期休暇中は、後期の研究報告に備え課題に取り組む。			
15	前期の学習についてのまとめ、後期の学習に向けた議論をする。夏期休暇中の課題を提示する。		演習				
16	ガイダンス。報告の順番を決める。報告は各自2~3回できるように計画する。		演習	各自のテーマについて文献・資料を収集し、ノートを取り、フィールドワークの下準備を行う。			
17~27	メンバー各々の研究テーマを設定し、報告する。その際には研究課題の達成に向けて計画を立て、毎回それも報告する。その報告に基づいて全員で議論する。		演習				
28, 29	4年生の卒論演習に向け、就職活動と卒業研究を両立させるために、計画を立てる。また、各自の現時点での研究テーマについて報告し合い、共有する。		演習				
30	後期のまとめをし、4年生以降の研究に向け議論をする。		演習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	30	
授業態度・授業への参加度			○	◎		30	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎	◎	◎	40	
テキスト・参考文献等	テキストは受講生のニーズをふまえて指定する。必ず購入すること。他、参考文献は適宜指示する。						
履修条件	欠席の際は必ずその旨を連絡すること。貧困・社会的排除・差別及び種々の逸脱現象、都市問題に関心があり、それらについて今よりも理解を深めたいと思っている人。フィールドワーク、生活史調査をしたい人。						
学習相談・助言体制	演習の時間に行うが、適宜個別に時間を決めて面談を行う。一人ひとりの状況に応じて、課題の達成目標を設定する。					授業中の撮影	○

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	美谷 薫		前期・後期	演習	必修	各1	3年
授業の概要	<p>担当教員の専門分野である人文地理学（地方行政論・地域政策論も含む）の分野での研究手法を学び、卒業論文に取り組む際に必要となる知識や分析手法の習得を目指します。具体的には、①地域課題や地域問題に関するテキストを輪読し、基本的な知識を習得する、②幅広い研究対象とさまざまなアプローチの人文地理学の研究論文を輪読して、人文地理学の分析手法や論文の書き方を学ぶ、③受講生の関心のあるテーマについて文献や統計資料を収集・整理し、卒業論文の作成準備をする、④巡検（エクスカージョン）の企画と実施を通じて、景観観察や地域調査の手法を学ぶ、という4つの内容で進めたいと考えています。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	地域（社会）を見るツールとしての、人文地理学に関する基礎知識や分析手法について理解している。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自らが関心のあるテーマについての情報を収集・整理・分析し、それらを的確に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	地域（社会）の現状と課題に関心を寄せ、積極的に調査や分析、考察を行うことができる。					
	DP6:社会貢献力	地域（社会）の課題解決に向けた方法を、自らの関わりを含めて提示することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	人文地理学の分析手法や地図表現の基礎を習得し、活用することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	ガイダンス：演習の内容と進め方について	演習（野外実習を含む）					
2-14	文献の輪読と内容に関する議論 県内巡検の企画・コース設定と情報収集等の実施準備、巡検の実施		<p>（事前） 文献の担当する箇所についての内容をまとめたレジюме作成と発表の準備、発表者以外は疑問点などをまとめたメモの作成 巡検の担当テーマに関する情報収集やレジюме作成・現地での発表準備</p> <p>（事後） 議論のなかで残された疑問点などについての情報収集・考察 巡検で学んだ内容に関するレポート作成</p>				
15	前期のまとめ、夏季休業中の課題設定		<p>（事後） 夏季休業中の課題への取り組み</p>				
16	夏季休業中の取り組み結果の報告、各自の研究テーマの設定		<p>（事前） 取り組みたい研究テーマの検討</p>				
17-29	研究論文の輪読と内容に関する議論 各自の研究テーマに関する報告とその内容に関する議論 県外巡検の企画・コース設定と情報収集等の実施準備、巡検の実施		<p>（事前・事後） 設定した研究テーマに関する文献・資料の収集や整理・データ分析、レジюме作成と発表の準備</p> <p>（事前） 担当する文献についての内容をまとめたレジюмеの作成と発表の準備 巡検の担当テーマに関する情報収集、レジюме作成・現地での発表準備</p> <p>（事後） 議論のなかで残された疑問点などについての情報収集・考察 巡検で学んだ内容に関するレポート作成</p>				
30	1年間のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○	◎	40	
授業態度・授業への参加度			◎	◎		40	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○	○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：（前期）受講生と事前に相談の上決定します。 （後期）輪読する論文のコピーを配布します。 参考文献：適宜紹介していきます。</p>						
履修条件	<p>特に予備知識などは必要としませんが、前期で並行して「地域社会分析法C」を履修することを原則とします。また、対象とするテーマが何であれ、現地調査に基づいてその地域がどのような特徴を持っているのかを明らかにすることが、伝統的な地理学の目指すところであり、そのような手法に関心のあることを履修条件とします。地域政策論や地方行政論の研究を希望する場合、多少アプローチは変わってきますが、基本的には上記のようなスケジュールで対応が可能であると考えています。</p> <p>なお、前期に県内で1日程度の、後期に県外で2泊3日程度の巡検（エクスカージョン）を実施する予定です。担当教員と受講生とで日程調整の上実施しますが、原則、この2回の巡検参加を必須としますので、参加費用の準備などをお願いします。</p>						
学習相談・助言体制	質問は演習の時間のほか、随時受け付けます。可能な限り丁寧に対応したいと考えていますので、不明な点は早めに質問するようにしてください。					授業中の撮影	○

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	阪井 裕一郎						
授業の概要	<p>本科目はゼミ形式でおこなわれ、卒業論文執筆のために必要となる基礎的な知識および技能を学ぶ。前期は、担当教員の専門である「家族社会学」に関連した文献（受講生の関心も考慮する）の輪読をおこなう。後期は、家族研究の社会調査やデータの分析に関する文献の輪読や受講生各自の研究報告をおこなう。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会学、社会科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	家族をめぐる歴史的変化や現代の課題を社会学の知識や方法を用いて説明することができる。自らが関心のあるテーマについての情報を収集・整理・分析し、それらを的確に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	地域や家族の現状と課題に関心を寄せ、積極的に調査や分析、考察を行うことができる。					
	DP6:社会貢献力	地域や家族についての問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	家族社会学の調査手法や分析手法の基礎を習得し、活用することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	前期ゼミの概要、自己紹介、文献報告分担決めなど						
2-14	文献(家族社会学)の輪読と内容に関するディスカッション	演習 ※受講生の関心や理解度に応じて、内容や順番を入れ替えることがある。			(事前) 担当する文献についての内容の要約とコメントをレジュメとして作成すること。 (事後) ディスカッションで残された課題について調べること。また、担当教員や他の受講生に紹介された文献・資料にアクセスすること。		
15	前期のまとめと夏季休暇中の課題設定						
16	後期ゼミの概要、報告の分担・日程の決定など						
17-22	文献(調査・分析方法)の輪読と内容に関するディスカッション						
23-29	各自の研究報告と内容に関するディスカッション						
30	1年間のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		○	○	◎	○	40	
演習		○	○	◎	○	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>前期に輪読する文献については、初回授業時に受講生と相談しながら決定する。後期の文献については、講義のなかで指示する。 参考文献：永田夏来・松木洋人編『入門 家族社会学』新泉社、2017年／比較家族史学会編『現代家族ペディア』弘文堂、2015年</p>						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	適宜受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	吉 武 由 彩		前期・後期	演習	必修	各1	3年
授業の概要	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱでは、社会学の文献輪読、グループワーク、各自の研究テーマに基づく資料の収集、調査計画の立案などを行う。これらの作業を通して、社会的な論文執筆の方法を学び、卒業論文作成の基礎力を養うことを目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会学の知識を身に付けている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	関心があるテーマについて、社会学の知識や方法を用いて説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	関心があるテーマについて、自ら問いを設定し、学習することができる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	テーマに沿って適切に資料収集、調査、分析ができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容					事前・事後学習（学習課題）	
1	授業概要説明					各自の関心や問題意識について話せるよう準備する。	
2	受講生各自の関心や問題意識の共有（この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。）						
3～4	輪読する文献の紹介、ゼミ発表の方法を学ぶ					担当部分について文献を読み、レジュメにまとめる。	
5～12	文献輪読						
13～14	福祉社会学あるいは地域社会学に関する外部講師講義					福祉社会学あるいは地域社会学の近年の研究に触れる。	
15～22	グループワーク（グループに分かれて、テーマの決定、テーマに関する資料・先行研究の収集、調査計画の立案、調査実施、発表を行う。）					グループに分かれて、テーマの設定、資料収集、調査を行う。	
23～30	各自の研究テーマを設定し、テーマに基づく資料・先行研究の収集、調査計画の立案などを行う。進捗状況を報告し、全員で議論する。 （※受講生の関心や理解度、進捗状況に応じて、内容や順番を組み替える場合があります。）					各自のテーマについて、資料収集、調査計画立案を行う。	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
受講者の発表		○	○	○	○	50	
授業への参加度		○	○	○	○	50	
補足事項	ゼミにおける討論などに積極的に参加・貢献している場合に、授業への参加度を高く評価する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献は適宜指示する。						
履修条件	福祉社会学あるいは地域社会学に興味があること。						
学習相談・助言体制	授業中、授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期・後期	演習	必修	各1	3年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	本演習では卒業論文に取り組む際に必要となる基本的な研究方法の習得を目指す。前期は文献輪読やワークショップなどを行いながら、各自の問題意識と採用する研究方法について明確にしていく。後期は各自のテーマについて研究と研究報告を行うことが中心となる。先行研究・文献を収集し、関連するデータをまとめて分析し、レポートを書くという一連の流れを体験し、卒業論文作成の基礎を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	研究に関する基本的な技法や自らの問題関心に関する基本的な知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自らの問題意識を持ち、自ら調べ、考えることができる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に提言することや働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会的事象に関する問題について、社会学の手法を使って調べ、分析することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	ガイダンス						各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
2	ゼミメンバー各自の問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。						
3	輪読する文献の決定。報告する分担を決める。						担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
4~12	文献輪読。基本は担当部分についてレジュメを準備・報告し、全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理やレジュメ作成の方法、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。各自の研究テーマについて、研究の準備を始める。						
13, 14	各自の研究テーマと研究方法について、研究計画や途中経過を報告し合い、アドバイスをを行う。						
15	前期のまとめ。夏休み中の研究の進め方や後期の計画について相談する。						
16	ガイダンス						前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
17~22	各自の研究テーマについて、資料やデータの収集と分析を行い、口頭や文章で研究報告を行う。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でアドバイスをしあう。						後期は、データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
23~29	各自の研究テーマについて、アカデミックな論文の形式に従ったレポートを執筆する。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でコメントをしあい、レポートの完成度を高める。						
30	まとめ。4年生の卒論演習に向けて相談し計画を立てる。						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法	授業外レポート	◎	◎	◎	◎	40	
	演習		◎	◎		60	
補足事項	演習では積極的に議論や取り組みに参加・貢献している者を評価する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは授業内で相談の上決定する。参考文献は適宜指示する。						
履修条件	遅刻、欠席の場合は事前に連絡すること。統計の手法を使って社会的な分析を行いたい、あるいはジェンダーの観点から社会的な分析を行いたい人を念頭におくが、それ以外のテーマや手法でも相談してほしい。						
学習相談・助言体制	演習の時間での相談・助言を基本とするが、必要な場合は適宜個別に時間を決めて相談を行う。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。						授業中の撮影

授業科目名	公共社会学研究 I・II		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	柴田雅博		前期・後期	演習	必修	各1	3年
授業の概要	<p>本演習では、卒業研究に向けて、その基礎となる論理的思考能力の修得や情報科学的な基礎知識の学修を行う。前半では関連文献を読み解き輪読形式で発表を行う。後半以降は、各自研究テーマを定めて、資料整理、データ分析、プログラミング等を用いて、研究、発表を行う。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会の中で ICT がどう活用されているのか理解する。またそれを議論するに足るだけの情報科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会現象をモデル化し、小問題に切り分けながら解決することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。					
	DP6:社会貢献力	情報科学知識を社会問題の解決に活かすことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	必要な資料を収集し、他人の知見を自分の研究に活かすことができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みるることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	演習	ゼミを円滑に進めるために、自分の関心あるものを考えておく。				
2,3	輪読用の文献決め。分担		担当部分について、レジュメを作成、討議できるよう準備しておく。また、討議で出てきた話題について、自分なりの回答を出す。				
4~12	関連文献の収集と文献の輪読。レジュメの作成、討議を含む。		研究テーマについて、事前にある程度候補を挙げておくこと。				
13,14	後半に向けての研究テーマ決め		後期からの研究を進めるにあたり、計画・スケジュールを練っておく。				
15	中間のまとめ・後期の研究計画		各自のテーマについて、空いた時間を見つけて、関連資料の収集や PC での作業を進めておくこと。				
16	今後の研究方法を検討		討議の内容について、回答を出す。				
17~24	研究テーマに従って、資料収集、データ分析等の研究に取り組む。		各自テーマについて、研究レポートを作成する。				
25~27	研究報告会。プレゼンテーションおよび討議						
28,29	研究レポートの作成						
30	後期のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		30	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎			30	
演習		○	◎	◎	◎	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	ゼミの中で協議の上決める。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	公共社会学研究Ⅰ・Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	柴田雅博		前期・後期	演習	必修	各1	3年
授業の概要	本演習では、卒業研究に向けて、その基礎となる論理的思考能力の修得や情報科学的な基礎知識の学修を行う。前半では関連文献を読み解き輪読形式で発表を行う。後半以降は、各自研究テーマを定めて、資料整理、データ分析、プログラミング等を用いて、研究、発表を行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会の中でICTがどう活用されているのか理解する。またそれを議論するに足るだけの情報科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会現象をモデル化し、小問題に切り分けながら解決することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。					
	DP6:社会貢献力	情報科学知識を社会問題の解決に活かすことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	必要な資料を収集し、他人の知見を自分の研究に活かすことができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みるることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	演習	ゼミを円滑に進めるために、自分の関心あるものを考えておく。 担当部分について、レジュメを作成、討議できるよう準備しておく。また、討議で出てきた話題について、自分なりの回答を出す。 研究テーマについて、事前にある程度候補を挙げておくこと。 後期からの研究を進めるにあたり、計画・スケジュールを練っておく。 各自のテーマについて、空いた時間を見つけて、関連資料の収集やPCでの作業を進めておくこと。 討議の内容について、回答を出す。 各自テーマについて、研究レポートを作成する。				
2,3	輪読用の文献決め。分担						
4~12	関連文献の収集と文献の輪読。レジュメの作成、討議を含む。						
13,14	後半に向けての研究テーマ決め						
15	中間のまとめ・後期の研究計画						
16	今後の研究方法を検討						
17~24	研究テーマに従って、資料収集、データ分析等の研究に取り組む。						
25~27	研究報告会。プレゼンテーションおよび討議						
28,29	研究レポートの作成						
30	後期のまとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		30	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎			30	
演習		○	◎	◎	◎	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	ゼミの中で協議の上決める。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	石崎龍二・岡本雅享・許棟翰・三隅讓二・藤澤健一・佐野麻由子・堤圭史郎・美谷薫・阪井裕一郎・坂無淳・吉武由彩・柴田雅博		通年	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	人間と社会に関連する社会科学の専門知識を、社会学を中心として身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会的現象やその問題を資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。					
	DP4:表現力	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自ら問いを立て、研究に主体的に取り組むことができる。					
	DP6:社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	先行研究や各種資料を適切に収集し、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション		演習				
2-5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。		演習、個別指導		各自問題意識と研究テーマを確認する。		
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。		演習、個別指導		必要な文献やデータを収集する。		
10-15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。		演習、個別指導		各自の研究の進捗状況をまとめる。		
16	草稿の提出				卒業論文全体の草稿を準備する。		
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。		演習、個別指導		草稿の修正、補充を進める。		
25	ゼミでの発表会		演習		卒業論文を完成させる。		
26-27	完成原稿の最終確認、提出。		演習、個別指導				
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。		演習、個別指導		卒業論文の要旨をまとめる。		
30	卒業論文発表会の準備。		演習、個別指導		発表会の準備をする。		
	卒業論文発表会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文		◎	◎	◎	◎	75	
卒業論文要旨			◎	◎		15	
卒業論文発表会			◎	◎		10	
補足事項	福岡県立大学学部履修規則第4章、および「公共社会学科 卒業論文に関する規則」「公共社会学科 卒業論文に関する細則」を必ず確認すること。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テーマに応じて適宜紹介する。						
履修条件	卒業論文の着手要件は、3年次までに卒業必要単位のうち80単位以上を修得していることとなっている。ただし、編入学生についてはこの限りではない(福岡県立大学学部履修規則第4章第20条)。						
学習相談・助言体制	オフィスアワー等に対応するが、状況に応じて適宜個別指導を行う。					授業中の撮影	○

授業科目名	社会福祉学概論Ⅰ (社会福祉学科必修、公共社会学科、人間形成学科は選択)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 細井 勇		前期	講義	左記参照	2	1年
授業の概要	社会福祉とは何かを歴史的な形成として、同時に自由、正義、公正等との関係で捉えることを学ぶ。展開としては、欧米、とくにイギリスを中心に、社会福祉の歴史的な形成を学ぶ。次に、イギリスの社会福祉政策(ソーシャル・ポリシー)について学び、社会的正義論として、ロールズやセンの正義論を学ぶ。その上で、日本の近代化過程と日本的福祉国家形成の歩みを学ぶ。最後に戦後日本の代表的社会福祉理論を理解する。社会福祉士の国家資格との関係では「現代社会と福祉」の前半に該当する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会福祉を中心に人間・社会に関する専門的知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	社会福祉(学)とは何か	講義		テキストの前半に目を通す			
2	福祉国家のルーツと古典的自由主義思想の形成	講義		配布資料に目を通しておく			
3	社会問題の顕在化とキリスト教慈善事業の形成	講義		同上			
4	1920年前後の社会改良と福祉国家の形成	講義		同上			
5	英国におけるソーシャル・ポリシー	講義		同上			
6	ポランニーとアンデルセンの福祉レジーム論	講義		同上			
7	功利か自由か、ロールズの正義論	講義		同上			
8	アリストテレスとセンの正義論	講義		同上			
9	日本の近代化過程とその特徴について	講義		同上			
10	明治20年代のキリスト教慈善事業について	講義		同上			
11	明治末期の感化救済事業と大正期における社会事業	講義		同上			
12	戦後日本と日本的福祉国家形成	講義		同上			
13	日本の代表的な社会福祉理論について 補充論	講義		同上			
14	日本の代表的な社会福祉理論について 岡村理論	講義		同上			
15	全体のまとめ	講義		同上			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			70	
宿題・授業外レポート			◎			20	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	《テキスト》社会福祉士養成講座編集委員会編集 『新・社会福祉士養成講座4 現在社会と福祉』中央法規 第4版 2014年						
履修条件							
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学概論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	河野高志		後期	講義	必修	2	1年
授業の概要	本講義は、社会福祉士と精神保健福祉士の国家資格受験資格取得に必要な指定科目である「現代社会と福祉」に該当する。したがって、社会福祉学概論Ⅰの内容とあわせて、社会福祉学の基本的枠組みを解説していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	日本と諸外国の福祉政策や福祉の枠組みについて理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	福祉政策の課題と展望について自らの意見を整理することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	少子高齢化時代の福祉政策①		講義		テキスト第6章を読む		
2	少子高齢化時代の福祉政策②		質疑応答、講義		テキスト第6章を読む		
3	福祉政策における必要と資源①		質疑応答、講義		テキスト第7章を読む		
4	福祉政策における必要と資源②		質疑応答、講義		テキスト第7章を読む		
5	福祉政策の理念・主体・手法①		質疑応答、講義、小テスト		テキスト第8章を読む		
6	福祉政策の理念・主体・手法②		質疑応答、講義		テキスト第8章を読む		
7	福祉政策の関連領域①		質疑応答、講義		テキスト第9章を読む		
8	福祉政策の関連領域②		質疑応答、講義		テキスト第9章を読む		
9	社会福祉制度の体系①		質疑応答、講義		テキスト第10章を読む		
10	社会福祉制度の体系②		質疑応答、講義		テキスト第10章を読む		
11	福祉サービスの提供		質疑応答、講義、小テスト		テキスト第11章を読む		
12	福祉サービスと援助活動		質疑応答、講義		テキスト第12章を読む		
13	福祉政策の国際比較①		質疑応答、講義		テキスト第13章を読む		
14	福祉政策の国際比較②		質疑応答、講義		テキスト第13章を読む		
15	福祉政策の課題と展望		質疑応答、講義		テキスト第14章を読む		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座4 現代社会と福祉(第4版)』中央法規2014年(ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する) 【その他】授業中に適宜レジュメや資料を配布する						
履修条件	「社会福祉学概論Ⅰ」を履修済みであること						
学習相談・助言体制	1. 出席カードに各回の質問や感想を書いてください 2. 適宜、研究室(1号館2階)にて質問などを受けつけます					授業中の撮影	

授業科目名	社会保障論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	廣田 久美子		前期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。本講では、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス—現代社会における社会保障制度の課題、社会保障の概念や対象、理念についての理解、社会保障制度の体系、医療保険制度の具体的内容等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会保障を理解し、社会保険と民間保険との違いを説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	社会保障制度の概要	講義	テキスト序章を予習				
2	社会保障の体系と役割	講義	テキスト序章を予習				
3	社会保障の機能	講義	テキスト第8章を予習				
4	社会保険総論	講義	テキスト第7章を予習				
5	社会保障と民間保険	講義	テキスト第7章を予習				
6	医療保険制度①	講義	テキスト第1章を予習				
7	医療保険制度②	講義	テキスト第1章を予習				
8	医療保険制度③	講義	テキスト第1章を予習				
9	医療保険制度④	講義	テキスト第1章を予習				
10	介護保険制度①	講義	テキスト第3章を予習				
11	介護保険制度②	講義	テキスト第3章を予習				
12	介護保険制度③	講義	テキスト第3章を予習				
13	社会手当	講義	テキスト第2章を予習				
14	現代社会における社会保障制度の課題①(少子高齢化と社会保障制度)	講義	テキスト第8章を予習				
15	現代社会における社会保障制度の課題②(労働環境の変化と社会保障制度)	講義	テキスト第8章を予習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			80	
小テスト・授業内レポート		○	◎			10	
授業態度・授業への参加度		◎	○			10	
補足事項	成績評価方法については、別途講義時間内において告知を行う。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	椋野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障(第16版)』有斐閣 2019年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	出席カードへの記入による質問を受け付ける他、必要に応じて研究室で個別に対応をします。					授業中の撮影	

授業科目名	社会保障論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	廣田久美子						
授業の概要	<p>社会保障とは、国民の生活の安定が損なわれた場合に、国民に健やかで安心できる生活を保障することを目的として、公的責任で生活を支える給付を行うものである。本講では、社会福祉士国家試験受験資格取得のためのシラバス一年金保険制度の具体的内容、社会保障の歴史的展開、諸外国における社会保障制度の概要等に基づいて構成されている。国家試験合格のための基本を押さえつつ、国家責任に基づく普遍的ナショナルミニマム達成のための社会保障制度を望ましい姿として、種々の社会保障の学説を紹介し検討をしていく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会保障を理解し、年金保険、雇用保険と労働者災害補償保険について、何をどのような仕組みで給付しているのか、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	日本の社会保障をよくするための制度的改善策が提示できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	年金保険制度①		講義		テキスト第4章を予習		
2	年金保険制度②		講義		テキスト第4章を予習		
3	年金保険制度③		講義		テキスト第4章を予習		
4	年金保険制度④		講義		テキスト第4章を予習		
5	雇用保険制度①		講義		テキスト第5章を予習		
6	雇用保険制度②		講義		テキスト第5章を予習		
7	雇用保険制度③		講義		テキスト第5章を予習		
8	求職者支援制度		講義		テキスト第5章を予習		
9	労働者災害補償保険制度①		講義		テキスト第6章を予習		
10	労働者災害補償保険制度②		講義		テキスト第6章を予習		
11	労働者災害補償保険制度③		講義		テキスト第6章を予習		
12	世界の社会保障の歴史		講義		テキスト第8章を予習		
13	日本の社会保障の歩み		講義		テキスト第8章を予習		
14	社会保障の財政		講義		テキスト第8章を予習		
15	諸外国の社会保障		講義		テキスト第8章を予習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			80	
小テスト・授業内レポート		○	◎			10	
授業態度・授業への参加度		◎	○			10	
補足事項		成績評価方法については、別途講義時間内において告知を行う。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		棕野美智子、田中耕太郎著『はじめての社会保障(第16版)』有斐閣 2019年					
履修条件		社会保障論Ⅰを履修済みであること。					
学習相談・助言体制						授業中の撮影	
出席カードへの記入による質問を受け付ける他、必要に応じて研究室で個別に対応をします。							

授業科目名	社会福祉の歴史と思想		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	4年
担当教員	細井 勇						
授業の概要	社会福祉の専門教育課程の纏めとして、社会福祉の歴史と思想を学ぶ。1年次の社会福祉学概論Ⅰで一部学んだが、歴史的な理解のためには、全体的な理解が必要になるので、1年次の段階では容易には理解できなかったであろう。4年次という種々学んできた段階で、これまでの纏めとして本講義がある。制度から考えるのではなく、人物を通じて、その具体的な実践と思想、その社会的背景を理解していく、という親しみやすい方法で学ぶことにする。その場合、国際的な影響や交流に注目することにしたい。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会福祉を中心に人間・社会に関する専門的知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	社会福祉に関係する人物の紹介(90人)	講義			配布資料に目を通す		
2	ヴィヘルンとミュラー	講義			配布資料に目を通しておく		
3	ミュラーとバーナードと石井十次	講義			同上		
4	ヴィッヘルンと留岡幸助	講義			同上		
5	救世軍ブースと山室軍平	講義			同上		
6	映画 「オレンジと太陽」(海外児童移民問題)	映画			同上		
7	原胤昭	講義			同上		
8	安部磯雄	講義			同上		
9	賀川豊彦	講義			同上		
10	井深八重と阿部志郎	講義			同上		
11	ブルンナーと嶋田啓一郎	講義			同上		
12	筑豊から日本の近代化過程を捉える	講義			同上		
13	筑豊における実践と思想: 服部団次郎と犬養光博	講義			同上		
14	ソーシャルワークとソーシャルペタゴジーの関係	講義			同上		
15	社会福祉とは何か 歴史と思想から改めて考える	講義			同上		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎			80	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	《参考文献》室田保夫編『人物でよむ近代日本社会福祉の歩み』ミネルヴァ書房、2006年。						
履修条件							
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	福祉行財政と福祉計画		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	村山 浩一郎						
授業の概要	わが国では、特に1990年代以降、市町村を中心とした福祉サービスの提供システムが構築され、住民や民間事業者等の参加を得て市町村が策定する各種の「福祉計画」によって、サービスの基盤整備が進められている。そこで、この授業では、市町村を中心とする福祉行財政の仕組みと市町村等が策定する福祉計画の意義と実際について理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	地方自治体（特に市町村）における福祉行財政の仕組みと、その実際について説明できる。福祉計画の意義・目的、種類・内容、方法等について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	福祉行政財と福祉計画の課題と、今後のあり方について考察できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション - 福祉行財政と福祉計画を学ぶ意義について -						
2	福祉行政とは - 福祉行政の定義とその範囲 -						参考文献の第2章を読む
3	福祉行政の歴史と法制度 - 戦後の福祉行政の展開と社会福祉法 -						参考文献の第1章第2節と第2章を読む
4	福祉行政の実施体制(1) - 地方分権改革と福祉行政 -						参考文献の第1章第2節と第2章を読む
5	福祉行政の実施体制(2) - 福祉行政の組織・機関と専門職 -						参考文献の第4章を読む
6	福祉財政(1) - 福祉財政のしくみ -						参考文献の第3章を読む
7	福祉財政(2) - 福祉財政の動向 -						参考文献の第3章を読む
8	福祉計画とは何か - 福祉計画の目的と意義 -						参考文献の第5章を読む
9	福祉計画の実際(1) - 高齢者福祉における計画 -						参考文献の第7章第2節を読む
10	福祉計画の実際(2) - 障害者福祉における計画 -						参考文献の第7章第3節を読む
11	福祉計画の実際(3) - 児童福祉・少子化対策における計画 -						参考文献の第7章第4節を読む
12	福祉計画の実際(4) - 地域福祉における計画 -						参考文献の第7章第5節を読む
13	福祉計画の理論と技法(1) - 福祉計画の策定・実施・評価の過程と技法 -						参考文献の第6章を読む
14	福祉計画の理論と技法(2) - 福祉計画における住民参加 -						参考文献の第6章を読む
15	福祉行財政と福祉計画のこれから						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
試験		◎	○			85	
授業態度・授業への参加度		○				15	
実務経験を生かした授業	複数の地方自治体で地域福祉計画等の策定委員会委員長を務めた経験がある教員が、その経験を活かして、福祉計画の実際について実践的な視点から講義を行う。						
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しないが、以下を参考文献とする。その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。 社会福祉士養成講座編集委員会(編)『新・社会福祉士養成講座10 福祉行財政と福祉計画 第5版』, 中央法規出版, 2017年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等により随時質問を受け付ける。						授業中の撮影

授業科目名	地域福祉論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	村山 浩一郎						
授業の概要	地域福祉は児童福祉や高齢者福祉などの対象者別の福祉分野に並置されるものではなく、地域を基盤とした新しい社会福祉の形態や方法を意味している。地域福祉論 I では、地域福祉の基本的な考え方について学ぶとともに、地域福祉の主体と対象、地域福祉の推進のための仕組みや方法などについて理解を深めていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	地域福祉の基本的な考え方、地域福祉に係る各主体の役割と実際、コミュニティワークを中心とした地域福祉の推進方法について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	地域における様々な福祉課題の解決方法について、地域福祉の観点から考察できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容					事前・事後学習(学習課題)	
1	イントロダクション 授業の進め方と地域福祉を学ぶ意義						
2	地域福祉とは何か(1) 多様な地域生活課題と地域福祉					・参考文献①の第1章、第2章、参考文献②の第I部を読む	
3	地域福祉とは何か(2) 地域福祉の基本的考え方と発展過程						
4	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(1) 民生委員・児童委員の役割と実際						
5	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(2) 小地域福祉活動と社会福祉協議会					・参考文献①の第3章、参考文献②の第III部の該当部分を読む ・社会福祉法、民生委員法、特定非営利活動促進法などの関連法規を参照する	
6	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(3) 社会福祉協議会の組織と事業						
7	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(4) ボランティア活動と福祉教育						
8	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(5) 地域福祉の財源と共同募金						
9	地域福祉に係る組織、団体及び専門職や地域住民(6) 地域福祉に係るその他の組織・団体等の役割と実際(特に、特定非営利活動法人と社会福祉法人)						
10	地域福祉の推進方法(1) コミュニティワーク(コミュニティオーガニゼーション)論					・参考文献①の第4章、参考文献②の第5章を読む	
11	地域福祉の推進方法(2) 地域における福祉ニーズの把握と地域診断						
12	地域福祉の推進方法(3) コミュニティワークにおけるネットワーキング						
13	地域福祉の推進方法(4) 社会資源の活用・調整・開発						
14	地域福祉の推進方法(5) 地域における福祉サービスの評価と質の確保 第三者評価事業を中心とした福祉サービス評価の方法						
15	授業のまとめ 地域福祉推進の課題とこれからの地域福祉のあり方					授業で配布したレジュメ・資料を参照する	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
試験		◎	○			85	
授業態度・授業への参加度		○				15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しないが、以下の2点を参考文献とする。その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。 ① 「社会福祉学習双書」編集委員会『社会福祉学習双書 2018 地域福祉論』, 全国社会福祉協議会, 2018年 ② 川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎『しっかり学べる社会福祉3 地域福祉論』, ミネルヴァ書房, 2017年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等でも質問を随時受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	地域福祉論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	村山 浩一郎						
授業の概要	地域福祉論Ⅰの内容を前提に、地域福祉の推進方法についてさらに理解を深める。具体的には、「個と地域の一体的支援」を展開する「地域を基盤としたソーシャルワーク」の理論と方法を学ぶ。また、地域福祉計画を中心に、「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	「地域を基盤としたソーシャルワーク」と「地域福祉の基盤づくり」の理論と方法について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の生活課題に対する援助内容を「地域を基盤としたソーシャルワーク」の観点から考察できる。 ・「地域福祉の基盤づくり」の課題と今後の在り方について考察できる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	イントロダクション 授業のテーマの概要と授業の進め方						
2	地域福祉をめぐる新たな動向① ～地域包括ケアシステムの構築と地域福祉～						
3	地域福祉をめぐる新たな動向② ～生活困窮者自立支援と地域福祉～						参考文献②をインターネット等で入手し、読む
4	地域福祉をめぐる新たな動向③ ～地域共生社会の実現と地域福祉①～						
5	地域福祉をめぐる新たな動向④ ～地域共生社会の実現と地域福祉②～						
6	地域福祉援助の体系 ～地域を基盤としたソーシャルワークと地域福祉の基盤づくり～						参考文献①の序章を読む
7	地域を基盤としたソーシャルワークの理論と方法①						参考文献①の第3章、第4章を読む
8	地域を基盤としたソーシャルワークの理論と方法②						
9	地域を基盤としたソーシャルワークの実際① ～社会福祉協議会における実践～						
10	地域を基盤としたソーシャルワークの実際② ～地域包括支援センターにおける実践～						
11	地域福祉を基盤としたソーシャルワークの実際③ ～生活困窮者自立支援における実践～						
12	地域福祉の基盤づくりの理論と方法						<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献①の第6章、第7章を読む ・自分の住んでいる地域の地域福祉計画を調べる
13	地域福祉の基盤づくりと地域福祉計画①						
14	地域福祉の基盤づくりと地域福祉計画②						
15	授業のまとめ 地域福祉推進の課題とこれからの地域福祉のあり方						授業で配布したレジュメ・資料を参照する
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
試験		◎	○			85	
授業態度・授業への参加度		○				15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキストは特に指定しないが、以下の2点を参考文献とする。その他の参考文献は適宜、授業の中で紹介する。</p> <p>①川島ゆり子・永田祐・榊原美樹・川本健太郎『しっかり学べる社会福祉3 地域福祉論』, ミネルヴァ書房, 2017年</p> <p>②地域力強化検討会「中間とりまとめ ～従来の福祉の地平を超えた、次のステージへ～」, 厚生労働省, 2016年</p>						
履修条件	地域福祉論Ⅰを履修していること。						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーに相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	必修	2	1年
担当教員	松岡佐智						
授業の概要	社会福祉士及び精神保健福祉士の指定科目「相談援助の基盤と専門職」の中でも、①相談援助の定義と構成要素、②相談援助の形成過程、③相談援助の理念について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	相談援助の定義、構成要素、形成過程及び理念について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	相談援助の理念について、事例を通して考察できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション 授業の進め方と現代社会における福祉問題		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを中心に講義を行う。 ・必要に応じて資料等の配布や視聴覚教材を用いる予定。 				
2	社会福祉士の意義と役割①						
3	社会福祉士の意義と役割②						
4	相談援助の定義と構成要素①						
5	相談援助の定義と構成要素②						
6	相談援助の形成過程Ⅰ-①						
7	相談援助の形成過程Ⅰ-②						
8	中間のまとめ：確認小テストと解説		2回から7回までのまとめと小テスト・解説				
9	相談援助の形成過程Ⅱ-①		<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを中心に講義を行う。 ・必要に応じて資料等の配布や視聴覚教材を用いる予定。 		テキスト第4章を読むこと		
10	相談援助の形成過程Ⅱ-②				テキスト第4章を読むこと		
11	相談援助の理念Ⅰ-①				テキスト第5章を読むこと		
12	相談援助の理念Ⅰ-②				テキスト第5章を読むこと		
13	相談援助の理念Ⅱ-①				テキスト第6章を読むこと		
14	相談援助の理念Ⅱ-②				テキスト第6章を読むこと		
15	全体のまとめ：確認小テストと解説				全体のまとめと確認小テスト・解説		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	○			90	
授業態度・授業への参加度		○				10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座6 相談援助の基盤と専門職 第3版』中央法規						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーにて質問や相談を受け付ける。また、出席カードやメール等でも質問を随時受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	相談援助の基盤と専門職Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修	2	1年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	本講義では「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」の学習内容を基礎とし、①専門職倫理とディレンマ、②総合的・包括的な相談援助の全体像と基本理論、③相談援助にかかる専門職の概念と範囲、④総合的・包括的な相談援助の専門的機能を軸に授業を展開する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	地域を基盤としたソーシャルワーク、社会・精神保健福祉士の職域・役割等を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	ソーシャルワーカーが抱えやすい倫理的ディレンマとその解決案を考えることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	・オリエンテーション ・社会・精神保健福祉士の役割の確認、相談援助と近年の福祉問題1		基本的には指定教科書の第7章～第11章までの範囲に沿って授業を行うが、配布プリントも積極的に活用する。授業全体の後半では、各授業の終わりに社会・精神保健福祉士等が行う相談援助やその対象者・問題に関するDVDを視聴し、実際の相談援助活動や扱うべき問題について各自がイメージしていく。		初回については授業終了時に指示するが、その他の回は、前回の復習をしておくこと。なお、最終回で20分程度実施予定の小問題（直後に解説予定）については、正答率60%以上を求めます。		
2	・相談援助と近年の福祉問題2、専門職倫理と倫理的ディレンマ1						
3	・専門職倫理と倫理的ディレンマ2						
4	・専門職倫理と倫理的ディレンマ3						
5	・専門職倫理と倫理的ディレンマ4						
6	・総合的・包括的な相談援助の全体像1						
7	・総合的・包括的な相談援助の全体像2						
8	・総合的・包括的な相談援助を支える理論						
9	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲1						
10	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲2						
11	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲3						
12	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲4						
13	・相談援助にかかる専門職の概念と範囲5						
14	・社会福祉に関する各種資格の概要（国家資格・公的資格・民間資格等）						
15	・確認小問題と解説、質疑応答、国家試験の過去問題等の概観						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート							
授業態度・授業への参加度							
補足事項							
実務経験を生かした授業	社会福祉士としての勤務経験を活かし、具体的な事例を用いて説明したい。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書は前期科目の「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」と同じものを使用する。 ・九州社会福祉研究会編、『21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社（※「相談援助の理論と方法B」等でも使用予定） 						
履修条件	「相談援助の基盤と専門職Ⅰ」を履修しておくこと。全回数の1/3以上欠席した者は単位を与えない。						
学習相談・助言体制	講義終了間際に質問時間を取りたいと思いますが、講義終了後やオフィスアワーでも質問に対応します。					授業中の撮影	—

授業科目名	相談援助の理論と方法 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	河野高志						
授業の概要	<p>社会福祉士国家試験の受験資格取得のための指定科目「相談援助の理論と方法」のなかでも、①相談援助における対象の理解、②ケアマネジメント、③実践モデルとアプローチ、④事例研究・事例分析、⑤相談援助の実際、について解説していく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	ソーシャルワークの対象や、実践モデル、アプローチの特徴を理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	相談援助の展開方法や実際の例を理解し、自分なりの意見を整理することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	相談援助における対象の理解①		講義		テキスト第1章を読む		
2	相談援助における対象の理解②		質疑応答、講義		テキスト第1章を読む		
3	相談援助における対象の理解③		質疑応答、講義		テキスト第1章を読む		
4	実践モデルとアプローチ①		質疑応答、講義、小テスト		テキスト第6章を読む		
5	実践モデルとアプローチ②		質疑応答、講義		テキスト第6章を読む		
6	実践モデルとアプローチ③		質疑応答、講義		テキスト第7章を読む		
7	実践モデルとアプローチ④		質疑応答、講義		テキスト第7章を読む		
8	実践モデルとアプローチ⑤		質疑応答、講義		テキスト第8章を読む		
9	実践モデルとアプローチ⑥		質疑応答、講義		テキスト第8章を読む		
10	ケアマネジメント①		質疑応答、講義、小テスト		テキスト第2章を読む		
11	ケアマネジメント②		質疑応答、講義		テキスト第2章を読む		
12	事例研究・事例分析①		質疑応答、講義		テキスト第13章を読む		
13	事例研究・事例分析②		質疑応答、講義		テキスト第13章を読む		
14	相談援助の実際①		質疑応答、講義		テキスト第14章を読む		
15	相談援助の実際②		質疑応答、講義		テキスト第14章を読む		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			30	
受講者の発表(プレゼン)			◎			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法II 第3版』中央法規 2015年(ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する)</p> <p>【その他】適宜、レジメや資料を配付する。</p>						
履修条件	内容を理解する上で、他の社会福祉士指定科目を同時履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	<p>1. 出席カードに質問や感想などを書いてください。</p> <p>2. 研究室(1号館2階)で質問や相談を受けつけます。</p>					授業中の撮影	

授業科目名	相談援助の理論と方法B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	本講義では、①社会福祉援助における相談援助のとらえ方、②援助者の基本姿勢と援助関係、③相談援助の構造と基本的プロセス、④相談援助における面接と記録の基本について学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2：専門・隣接領域の知識	福祉相談における基本姿勢、援助関係、基本的な進め方、面接・記録の概要について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	福祉相談における個別的な利用者理解の重要性を考えることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	・オリエンテーション、「相談援助の基盤と専門職」の振り返り		・基本事項の確認			講義終了時に指示する。	
2	・相談援助とは（ソーシャルワークと社会福祉相談援助と関連技術）		教科書の第1章（相談援助とは）、第2章（相談援助の構造と機能）、第4章（相談援助における援助関係）、第5章（相談援助の展開過程Ⅰ）、第6章（相談援助の展開過程Ⅱ）、第12章（相談援助のための面接技）、第13章（相談援助のための記録の技術）、つまり全14章のうち、7つの章について解説・説明する。パワーポイントや資料配布、ロールプレイ等も適宜取り入れる。			各自、前回の復習をしておくこと。	
3	・相談援助の構造と機能①						
4	・相談援助における援助関係①						
5	・相談援助における援助関係②						
6	・相談援助における援助関係③ ・相談援助の展開過程Ⅰ－①						
7	・相談援助の展開過程Ⅰ－②						
8	・相談援助の展開過程Ⅰ－③ ・相談援助の展開過程Ⅱ－①						
9	・相談援助の展開過程Ⅱ－②						
10	・相談援助の展開過程Ⅱ－③ ・相談援助のための面接技術①						
11	・相談援助のための面接技術②						
12	・相談援助のための面接技術③ ・相談援助に関する記録①						
13	・相談援助に関する記録②						
14	・まとめと振り返り・補足など						
15	・まとめの小問題と解説・質疑応答 (※指定された辞書のみ持ち込み可)						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎				
授業態度・授業への参加度			○				
実務経験を生かした授業	社会福祉士としての実務経験で得られた事例等について補足的に紹介する。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・中央法規「新 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法Ⅰ」（※最新版を使用予定） ・九州社会福祉研究会編、『21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社。 (※辞典は「老人福祉論」「介護福祉論」「相談援助演習A」でも使用予定) 						
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助の理論と方法Aを履修しておくことが望ましい。 ・全回数の1/3以上欠席した者には単位を与えない。 						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワーの時間帯に対応しますが、それ以外の時間も可能な限り対応します。					授業中の撮影	—

授業科目名	相談援助の理論と方法 C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	松岡佐智						
授業の概要	相談援助に必要とされる基礎的概念を学び、援助過程における①アウトリーチ、②契約、③アセスメント、④介入、⑤経過観察・再アセスメント・効果測定・評価、⑥交渉などの各技術を効果的に活用するための理論と方法について理解を深めていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	相談援助の基本的な援助過程を専門的知識に基づいて説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	相談援助の各技術（上記①から⑥）における意義や目的を述べることができる。 相談援助の各技術（上記①から⑥）における方法や留意点を述べることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> テキストを中心に講義を行う。 必要に応じて資料等の配布や視聴覚教材を用いる。 単元によりロールプレイやグループ討議などを取り入れていく。 			テキスト第3章を読むこと テキスト第7章を読むこと テキスト第7章を読むこと テキスト第8章を読むこと テキスト第9章を読むこと テキスト第9章を読むこと		
2	人と環境の交互作用						
3	相談援助のためのアウトリーチの技術①						
4	相談援助のためのアウトリーチの技術②						
5	相談援助のための契約の技術						
6	相談援助のためのアセスメントの技術①						
7	相談援助のためのアセスメントの技術②						
8	中間のまとめ：確認小テストと解説	2回から7回までのまとめと小テスト・解説					
9	相談援助のための介入の技術①	<ul style="list-style-type: none"> テキストを中心に講義を行う。 必要に応じて資料等の配布や視聴覚教材を用いる。 単元によりロールプレイやグループ討議などを取り入れていく。 			テキスト第10章を読むこと		
10	相談援助のための介入の技術②				テキスト第10章を読むこと		
11	相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術①				テキスト第11章を読むこと		
12	相談援助のための経過観察（モニタリング）、再アセスメント、効果測定、評価の技術②				テキスト第11章を読むこと		
13	相談援助のための交渉の技術①				テキスト第14章を読むこと		
14	相談援助のための交渉の技術②				テキスト第14章を読むこと		
15	全体のまとめ：確認小テストと解説	全体のまとめと確認小テスト・解説					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎			80	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	・社会福祉士養成講座編集委員会『新 社会福祉士養成講座 相談援助の理論と方法 I 第3版』、中央法規、2015年（2,600円税別）（※2019年3月までにテキストの改訂がされた場合、最新版を使用予定。）						
履修条件	相談援助の理論と方法A、Bを履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業終了時やオフィスアワーにて質問や相談を受け付ける。また、出席カードやメール等でも質問を随時受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	相談援助の理論と方法D		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	河野高志						
授業の概要	<p>社会福祉士国家試験の受験資格取得のための指定科目「相談援助の理論と方法」のなかでも、①グループワーク、②コーディネーションとネットワーキング、③社会資源の活用・調整・開発、④スーパービジョンとコンサルテーション、⑤ケースカンファレンス、⑥個人情報保護、⑦情報通信技術（ICT）の活用、について解説していく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	ソーシャルワークの方法（グループワーク、コーディネーション、ネットワーキング、社会資源の活用、スーパービジョン、コンサルテーション、ケースカンファレンス）の特徴を理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	相談援助の展開方法や実際の例を理解し、自分なりの意見を整理することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	グループを活用した相談援助①		講義		テキスト第3章を読むこと		
2	グループを活用した相談援助②		質疑応答、講義		テキスト第3章を読むこと		
3	コーディネーションとネットワーキング①		質疑応答、講義		テキスト第4章を読むこと		
4	コーディネーションとネットワーキング②		質疑応答、講義		テキスト第4章を読むこと		
5	社会資源の活用・調整・開発①		質疑応答、講義、小テスト		テキスト第5章を読むこと		
6	社会資源の活用・調整・開発②		質疑応答、講義		テキスト第5章を読むこと		
7	社会資源の活用・調整・開発③		質疑応答、講義		テキスト第5章を読むこと		
8	スーパービジョンとコンサルテーション①		質疑応答、講義		テキスト第9章を読むこと		
9	スーパービジョンとコンサルテーション②		質疑応答、講義		テキスト第9章を読むこと		
10	ケースカンファレンス①		質疑応答、講義、小テスト		テキスト第10章を読むこと		
11	ケースカンファレンス②		質疑応答、講義		テキスト第10章を読むこと		
12	ソーシャルワークにおける個人情報の保護①		質疑応答、講義		テキスト第11章を読むこと		
13	ソーシャルワークにおける個人情報の保護②		質疑応答、講義		テキスト第11章を読むこと		
14	ソーシャルワークにおける情報通信技術（ICT）の活用①		質疑応答、講義		テキスト第12章を読むこと		
15	ソーシャルワークにおける情報通信技術（ICT）の活用②		質疑応答、講義		テキスト第12章を読むこと		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			30	
受講者の発表（プレゼン）			◎			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】社会福祉士養成講座編集委員会編集『新・社会福祉士養成講座8 相談援助の理論と方法Ⅱ 第3版』中央法規 2015年（ただし、本書が改訂された場合は最新版を使用する）</p> <p>【その他】適宜、レジュメや資料を配付する</p>						
履修条件	「相談援助の理論と方法A」「相談援助の理論と方法B」「相談援助の理論と方法C」を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	1. 出席カードに質問や感想などを書いてください。 2. 研究室（1号館2階）で質問や相談を受けつけます。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	本郷 秀和		通年	演習	必修	2	3年
授業の概要	<p>本演習では、卒業論文につながるような各自の研究テーマの設定に当たり、まずテキストを参考に考えていく。その後、研究テーマに関する資料収集と整理、報告等を通じて現状の理解を深めていく。例えば、①様々な福祉職の活動領域と社会福祉士の専門性・業務に関する事柄（例：業務内容の詳細や求人・待遇問題等）、②高齢者福祉に関する現代的諸問題と地域における高齢者関連の社会資源の理解、③福祉活動に取り組む民間非営利組織（NPO 法人中心）の役割と介護事業（小規模通所介護等）等に関する事柄等を学んでいく。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3：論理的思考・判断力	与えられたレポート課題等について、論理的な文章構成を立案してまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	演習を通じて各自が卒論のテーマとする福祉課題を発見し、その現状・背景を探究できる。					
技能	DP10：専門分野のスキル	専門職として必要な福祉ニーズや問題の把握方法を説明・活用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	ゼミの進め方・オリエンテーション		<p>前半は、テキストを用いて基本知識と卒論の関心の所在を模索していく。後半は、卒論のテーマを決め、基本的文献を各自が収集・整理し、その結果を報告していく。その後、研究計画書を作成していく。</p> <p>授業終了時に指示する。レポート報告の場合には、課題に対する報告準備をしておく。</p>				
2-13	「コメディカルのための社会福祉概論」の解説						
15	まとめ						
16	卒業論文とは						
17-20	福祉関連の各種法人（NPO、医療法人、企業、社会福祉法人等）とソーシャルワーク職種研究						
21-25	卒論のテーマ決定、研究計画書作成						
26-28	卒論の先行研究収集とレポート報告						
29-30	春休みの宿題と卒論中間報告会への参加						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎	○	○	30	
宿題・授業外レポート			○	○		20	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○	◎	30	
実務経験を生かした授業	NPO 法人でのサービス管理運営の業務経験を企業研究等やサービス事業所等の研究に役立てたい。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト： ① 鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論』第4版、講説社、2018</p> <p>参考文献： ① 川村匡由ほか「福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方」中央法規、2005年他。 ② 学文社「21世の現代社会福祉用語辞典」九州社会福祉研究会編。</p>						
履修条件	特にありませんが、積極的な参加を期待します。						
学習相談・助言体制	基本的にオフィスアワーの時間帯に対応しますが、それ以外の時間帯についても、可能な限り対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	住友雄資		通年	演習	必修	2	3年
授業の概要	<p>本演習では、主にソーシャルワーク or 精神保健福祉を取り上げる。3段階で展開する予定である。第1段階は上記テーマに沿った基本文献の収集・講読・発表・討論等を行う。第2段階は上記テーマのなかで各自が関心を有する文献の収集・発表・討論等を行いながら、研究法や研究倫理等についても検討する。第3段階は、各自が研究テーマを決め、そのテーマをより深めるための発表・討論を中心とし、最終的には卒論執筆に向けて研究計画書を作成する。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	各種文献等を収集・講読し、個別発表・討論等を行うことを通して、自らの研究テーマを明確にできる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	卒業論文で取り組む研究計画書を作成・発表することで、卒業論文作成のための枠組みを明確にできる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	社会福祉関係の先行研究レビューから研究テーマを明確化することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1 オリエンテーション</p> <p>2～6 ソーシャルワーク or 精神保健福祉の基本文献等の講読・発表・討論等をおこなう。</p> <p>7～20 各自が関心のある文献を選び、文献の内容の理解を深め、研究法や研究倫理等について学ぶ。</p> <p>21～29 各自が決めた研究テーマに関する文献について発表し、討論することを通して、研究計画書(先行研究レビューにもとづく研究テーマの設定・対象の選定・研究テーマに相応しい方法の採用・研究倫理等)を作成する。</p> <p>30 研究計画書発表会</p> <p>※事前・事後学習: レジюме報告・研究計画書等の準備、復習</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習			○	○	◎	30	
研究計画書作成・発表			○	○	◎	70	
実務経験を生かした授業	ソーシャルワーク実践の実務経験を有する教員が、社会福祉で生じている文献の読解等に関する専門知識・技術の習得を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 参考文献:ゼミを進めながら適宜文献を紹介する。						
履修条件	ソーシャルワーク or 精神保健福祉領域で、質の高い卒業論文を執筆したいと考えている学生の履修を望む。						
学習相談・助言体制	ゼミの前後、随時空き時間(オフィスアワーを含め)、メール等に対応					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	村山 浩一郎		通年	演習	必修	2	3年
授業の概要	本演習では各学生が社会福祉分野のなかでとくに興味を持つテーマを明確にし、そのテーマを深めるための研究を行うとともに卒業論文作成の準備を進める。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会福祉およびそれに関連する問題の中から自分の問題意識に基づいて研究テーマを設定し、そのテーマを探究するための研究計画を立てることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	自分の研究テーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容					事前・事後学習(学習課題)	
1 5 7	【3年前期前半】 教員の専門分野である地域福祉を中心に、文献の輪読、ディスカッション等を行うほか、学外の地域福祉現場への見学やフィールドワークなどを行っていく。					指定された文献や関連文献を集め、読み込む。また、学外の地域福祉現場への見学やフィールドワークを行う際には、現場に関する情報を収集し、事前学習をしっかりと行う。	
8 5 15	【3年前期後半】 (1) 演習を選択したメンバーがそれぞれどのようなテーマに興味を抱いているか、各自プレゼンテーションを行う。 (2) 卒業論文を作成するための方法を講義 ①論文の基本的な作成方法 ②量的調査法(質問紙法など) ③質的調査法(インタビュー法) ④事例研究法 ⑤文献研究法					興味のあるテーマを見つけ、それに関する文献を収集し、その内容をまとめる。	
16 5 30	【3年後期】 論文テーマ、研究計画の発表と指導 ① 論文テーマの発表 ② 研究計画の発表 ③ 論文内容の発表 ④ 学科全体での中間発表(2月)に向け研究計画をまとめる					自分の研究テーマを確定する。そして、そのテーマに合う研究方法を検討し、研究計画を作成する。 文献やデータの収集・分析を進め、指導された内容を踏まえて論文を作成する。	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				○		25	
受講者の発表(プレゼン)			○	○	○	75	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	学習に関する相談は随時受け付ける。メールによる相談も可。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	奥村賢一		通年	演習	必修	2	3年
授業の概要	<p>本演習では、主に学校ソーシャルワーク、児童福祉、障害児・者福祉などの各分野から学生が関心をもつテーマについて持ち寄り、小集団における意見交換などを通して課題意識を高めていく。また、各々で情報収集や課題整理を行い、それらの研究から導き出されたものを具体的に表現していく方法を習得して、卒業論文へとつなげていくことをねらいとする。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	小集団での演習を通して関心ある内容を絞り、明確なテーマを選定することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	文献検索、資料収集方法、論文の書き方等を理解して意欲的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文テーマに関連する先行研究等の資料およびデータの収集を行い、適切な分析ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		<ul style="list-style-type: none"> 基本事項の確認 演習の進め方の説明 		<ul style="list-style-type: none"> 各自、関心のあるテーマを絞り、それをイメージ化しておくこと 		
2 ~ 10	【3年次前期・前半】 ①研究テーマの選定方法 ②研究課題の整理方法 ③文献検索及び資料収集の方法 ④プレゼンテーション方法		<ul style="list-style-type: none"> ①から④の解説 グループ討論 		<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマの選定に向けて、関心ある分野の先行研究の渉猟を行うこと 		
11 ~ 15	【3年次前期・後半】 ①各関心テーマの課題整理 ②各関心テーマの資料収集 ③各関心テーマの発表準備 ④各関心テーマの発表		<ul style="list-style-type: none"> ①から④の指導助言 グループ討論 		<ul style="list-style-type: none"> 渉猟した先行研究を資料としてまとめていくなかで、研究テーマを絞り込むこと 		
16 ~ 20	【3年次後期・前半】 ①研究テーマの絞り込み ②論文の作成方法 ③研究の視点及び研究(調査)方法 ④研究構想に関する検討		<ul style="list-style-type: none"> ①から④の指導助言 グループ討論 		<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の研究テーマと研究構想を固めていくこと 		
21 ~ 30	【3年次後期・後半】 ①卒業論文テーマの確定 ②卒業論文構成内容の確定と作成開始 ③卒業論文発表会への参加 ④中間発表会に向けた準備および発表		<ul style="list-style-type: none"> ①から④の指導助言 		<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の骨子を作り上げる 		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			○	○		40	
受講者の発表(プレゼン)				○	◎	60	
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 受講者の発表(中間発表を含む) ※評価基準 A60点 B40点 C20点 						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし。適宜紹介をしていく。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	廣田久美子		通年	演習	必修	2	3年
授業の概要	本演習では、社会福祉・社会保障の法制度および政策について、グループでのプレゼンテーション、ディスカッション等を行い、基本的な論点やそれぞれ関心のあるテーマの課題について明らかにしていく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	① 著書や文献、資料などを通して、課題整理ができるようになる。 ② 卒業論文に向けたテーマ選定と課題整理の考え方を習得する。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	文献調査等の準備および実施を通じて、社会福祉およびそれに関連する問題に関心をもち、それに取り組む意欲を示すことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	社会福祉に関する問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義・演習				
2~10	ゼミ共通テーマの設定と課題の提示、文献研究・発表		発表およびディスカッション		資料・文献の読み込み レジュメの作成		
11~15	文献調査等の準備及び実施、調査結果のまとめ		発表およびディスカッション		指示された資料や項目について事前に調べ、資料の読み込みとまとめを行う		
16~20	卒業論文のテーマの検討、参考資料の収集方法、論点整理の方法、研究計画		発表およびディスカッション		資料・文献の読み込み レジュメの作成		
21~30	卒業論文の検討・執筆準備		発表およびディスカッション		資料・文献の読み込み レジュメの作成		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎	○	40	
演習			○	◎		40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業中に適宜指示・配布する。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	演習時間の前後の他、随時相談を受け付ける(メールなどで確認を入れること)。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	河野高志						
授業の概要	<p>前期は、卒業論文で取り扱ってみたいテーマを探ることや卒業論文の書き方の習得から学習を始める。次に、各自が関心のある社会福祉のテーマについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。そして、そこでの議論や考察をもとに、卒業論文で取り上げるテーマの選定や関心の整理をしていく。それをふまえて後期は、卒業論文の仮テーマを決定し、論文の構成を検討しつつできるだけ執筆をすすめていく。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	関心のあるテーマについて文献や資料にもとづき現状や問題を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	①社会福祉に関するテーマを主体的かつ積極的に調べることができる。 ②自らが取り上げたテーマに関するプレゼンテーションができる。 ③他者が取り上げたテーマに関する議論へ積極的に参加できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	①関心のあるテーマやそれにかかわる内容を先行研究から整理できる。 ②文献や資料にもとづき卒業論文を執筆することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	前期オリエンテーション	授業内容の説明等					
2 ~ 13	①社会福祉について関心を持つテーマを探す ②関心のあるテーマに関するプレゼンテーションとディスカッション	①ゼミ生と協議のうえで授業方法を決定します ②基本的にはゼミ生が関心のある社会福祉のテーマについて発表し、学生同士で議論できるような授業展開を考えています	<事前学習> ①関心のあるテーマについて、文献や論文などを読み、調べること ②発表に必要な資料を作成すること <事後学習> ①各回の発表をふまえて、次回発表の内容や構成を検討すること ②卒業論文で取り上げたいテーマを考えること				
14	卒業論文の書き方の解説	講義・演習					
15	卒業論文のテーマ決定と論文構成	講義・演習	卒業論文で取り上げるテーマと論文構成について概要を整理しておく				
16	後期オリエンテーション	授業内容の説明等					
17	仮テーマの決定	ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う	テーマに沿って計画的に卒業論文を執筆すること				
18~ 20	テーマの精緻化と研究計画の作成						
21~ 25	卒業論文執筆の進捗状況の確認(前半部分:先行研究、理論の整理)						
26~ 28	卒論中間発表会の準備						
29 30	卒論中間発表会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート			◎	◎		30	
宿題・授業外レポート			◎	○	◎	30	
授業態度・授業への参加度			○	◎	◎	20	
受講者の発表(プレゼン)			○		◎	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし(テーマや関心に応じて各自が自由に選ぶこと)						
履修条件	グループディスカッションやプレゼンテーションが中心となるため、積極的な参加を期待する						
学習相談・助言体制	①必要に応じて適宜相談を受ける ②アポイントメントをとって研究室に来ること					授業中の撮影	

授業科目名		社会福祉学演習			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		寺島正博			通年	演習	必修	2	3年
授業の概要		本演習は社会福祉を中心に興味を持てる研究テーマを各学生が決め、グループ討議によりその研究テーマの課題を明らかとし卒業論文の作成につなげていく。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	研究テーマを設定し、その研究テーマに基づいた背景や目的を明確にすることができる。グループでの討議を通して共に悩み考えることができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	独自性を持ったテーマを設定する。集めたデータの分析や検討をするなどの研究を進めることができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	研究領域における専門性を身につける。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション(今後の授業の進め方)				講義				
2~10	【研究テーマと先行研究】 ・各自が興味を持てる研究テーマを発表する。 ・興味を持てる研究テーマに沿った文献の状況と内容を発表する。 ・文献からの課題を発表する。				発表・ディスカッション		・各自が興味を持てる研究テーマを考える。 ・興味を持てる研究テーマに沿って関連する文献を集める。 ・文献から課題を考える。		
11~15	【卒業論文の作成方法】 ・調査法の選定(質的調査や量的調査)を発表する。 ・卒業論文の全体像流れを発表する。				発表・ディスカッション		・先行研究から調査法を検討する。		
16~30	【卒業論文作成】 ・研究テーマを発表する。 ・卒業論文の全体構造の構想を発表する。 ・卒業論文の内容を発表する。				発表・ディスカッション		・論文作成。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
授業態度・授業への参加度				◎	◎	○	70		
受講者の発表(プレゼン)				◎	◎	○	30		
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、福祉の実践現場を踏まえて助言する。								
テキスト・参考文献等	各自の研究テーマに応じて紹介する。								
履修条件	特になし。								
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付ける。しかし、状況に応じてそれ以外の時間帯についても可能な限り対応する。							授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	松岡佐智						
授業の概要	本演習では、各学生が関心のある社会福祉分野のテーマについて、グループでのプレゼンテーション及びディスカッションを行うことにより、各テーマの課題等について明らかにしていく。さらに、それらの結果を踏まえて、卒業論文で取り組むテーマを確定し、執筆を行うための準備（章立て・資料収集・研究方法の確定等）をする。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自分の関心があるテーマについて、文献収集等を通して、課題を明らかにすることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	①自分の関心があるテーマについて、意欲的に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。②グループの他のメンバーのプレゼンテーションを踏まえ、ディスカッションに積極的に参加することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文テーマに関連する先行研究等の文献の収集及び整理を行い、分析を行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		授業方法の説明と確認				
2	各自が現在関心を持っている社会福祉に関するテーマについて、動向・法的根拠等を調べ、発表。		プレゼンテーション及びディスカッション		①プレゼンテーションができるように、先行研究の資料収集を行い、レジュメを作成する。		
3 ~ 12	文献収集の方法についての講義、文献リストの作成、先行研究のレビューを行い、発表		講義・個人ワーク・プレゼンテーション及びディスカッション		②ディスカッション結果を基に、作成したレジュメの修正や再整理を行う。		
13 ~ 15	卒業論文作成に向けた研究方法について講義を行う。 (論文執筆方法・調査方法・章立て等)		講義		各自の研究方法について検討をする。		
16 ~ 25	卒業論文で取り組むテーマを確定し、章立て(案)の作成、研究方法の確定、先行研究のレビュー結果等の発表を行う。						
26 ~ 29	中間報告会に向けたポスター作り・発表練習		プレゼンテーション及びディスカッション		①プレゼンテーションができるように、資料収集を行い、レジュメを作成する。		
30	中間報告会における発表				②ディスカッション結果を基に、作成したレジュメの修正や再整理を行う。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			○	○		50	
受講者の発表(プレゼン)			○	○	○	50	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし。適宜紹介をしていく。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名		社会福祉学演習			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		鬼塚 香			通年	演習	必修	2	3年	
授業の概要		本演習では、社会福祉(主にソーシャルワークまたは精神保健福祉分野)について各学生が関心を持つテーマを取り上げ、プレゼンテーションおよびグループディスカッションをおこなうなかで、卒業論文で取り上げるテーマの選定や関心を整理していく。また、卒業論文の執筆や調査の方法について学び、卒業論文執筆に向けた準備を行う。								
学生の到達目標										
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自分が関心ある社会福祉に関するテーマについて、文献等に基づき現状や課題を明らかにすることができる。								
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自分あるいは同じグループの学生が関心あるテーマについて、プレゼンテーションやグループディスカッションへ、主体的に取り組むことができる。								
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文で取り上げるテーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)					
1	オリエンテーション	演習								
2~6	論文の基本/論文の読み方、書き方について学び、基本文献を数点選定し、実際に読んで理解する	演習			事前学習:課題論文の読み込み 事後学習:講義及びディスカッションの内容を整理					
7~15	関心あるテーマの絞り込み/各学生による収集文献等のプレゼンテーションおよびグループディスカッションを通じて、卒業論文で取り上げたいテーマを絞り込む	演習			事前学習:文献等資料の収集とプレゼンテーション用レジュメの準備 事後学習:ディスカッションをもとに修正や再整理					
16~20	卒業論文の基本/テーマの決定・章立て・調査方法等について学び、研究計画を作成する	演習			事前学習:研究計画の作成と発表準備 事後学習:講義及びディスカッションをもとに修正や再整理					
21~30	卒業論文執筆準備/各学生による先行研究レビューおよび調査に向けた準備のプレゼンテーションおよびグループディスカッションを行い、卒業論文を執筆する準備を進める	演習			事前学習:卒業論文の準備およびプレゼンテーション用レジュメの準備 事後学習:ディスカッションをもとに修正や再整理					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)				
授業態度・授業への参加度			○	○		40				
受講者の発表(プレゼン)			○	○	○	60				
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等	各自の研究テーマに応じて紹介する。									
履修条件	特になし。									
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワーで対応するが、必要に応じてそれ以外でも可能な限り対応する。							授業中の撮影		

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	石崎 龍二						
授業の概要	<p>本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	社会の諸問題に深い関心を持ち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。					
	DP6: 社会貢献力	課題解決に向けて探求し続けることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	オリエンテーション(ゼミの進め方)	演習	次回の資料について予習				
2~7	社会福祉学演習に関する図書や参考資料の輪読	演習	各自、輪読する資料について予習・復習				
8	各自の(仮)研究テーマの設定	演習	研究テーマの設定				
9,10	各自の(仮)研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集				
11,12	各自の(仮)研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意				
13,14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集	演習	資料収集				
15	社会福祉学演習(前期)のまとめと社会福祉学演習(後期)に向けての計画	演習	資料・問題整理				
16	各自の研究テーマについて中間報告(後期はじめ)	演習	全員、報告資料を用意				
17~25	収集した文献、データ等の整理、 各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答	演習	報告者は報告資料を用意、資料収集				
26~30	報告書の作成	演習	報告書の作成				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	50	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		30	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	演習の中での話し合いで決定する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			通年	演習	必修	2	3年	
担当教員	柴田雅博							
授業の概要	本演習では、卒業研究に向けて、その基礎となる論理的思考能力の修得や情報科学的な基礎知識の学修を行う。前半では関連文献を読み解き輪読形式で発表を行う。後半以降は、各自研究テーマを定めて、資料整理、データ分析、プログラミング等を用いて、研究、発表を行う。							
学生の到達目標								
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	福祉の中で ICT がどう活用されているのか理解する。またそれを議論するに足るだけの情報科学の知識を身につけている。						
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会現象をモデル化し、小問題に切り分けながら解決することができる。						
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。						
	DP6: 社会貢献力	情報科学知識を社会問題の解決に活かすことができる。						
技能	DP10: 専門分野のスキル	必要な資料を収集し、他人の知見を自分の研究に活かすことができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みるることができる。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			
1	オリエンテーション	演 習				ゼミを円滑に進めるために、自分の関心あるものを考えておく。		
2, 3	輪読用の文献決め。分担							
4~12	関連文献の収集と文献の輪読。レジュメの作成、討議を含む。							
13, 14	後半に向けての研究テーマ決め					研究テーマについて、事前にある程度候補を挙げておくこと。		
15	中間のまとめ・後期の研究計画					後期からの研究を進めるにあたり、計画・スケジュールを練っておく。		
16	今後の研究方法を検討							
17~24	研究テーマに従って、資料収集、データ分析等の研究に取り組む。					各自のテーマについて、空いた時間を見つけて、関連資料の収集や PC での作業を進めておくこと。		
25~27	研究報告会。プレゼンテーションおよび討議					討議の内容について、回答を出す。		
28, 29	研究レポートの作成					各自テーマについて、研究レポートを作成する。		
30	後期のまとめ							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		30		
授業態度・授業への参加度				◎		20		
受講者の発表(プレゼン)			◎			30		
演習		○	◎	◎	◎	20		
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等	ゼミの中で協議の上決める。							
履 修 条 件	特になし							
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影		

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	本演習では卒業論文に取り組む際に必要となる基本的な研究方法の習得を目指す。前期は文献輪読やワークショップなどを行いながら、各自の問題意識と採用する研究方法について明確にしていく。後期は各自のテーマについて研究と研究報告を行うことが中心となる。先行研究・文献を収集し、関連するデータを集めて分析し、レポートを書くという一連の流れを体験し、卒業論文作成の基礎を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	研究に関する基本的な技法や自らの問題関心に関する基本的な知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自らの問題意識を持ち、自ら調べ、考えることができる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に提言することや働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会的事象に関する問題について、社会学の手法を使って調べ、分析することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	ガイダンス						各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
2	ゼミメンバー各自の問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。						
3	輪読する文献の決定。報告する分担を決める。						担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
4~12	文献輪読。基本は担当部分についてレジュメを準備・報告し、全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理やレジュメ作成の方法、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。各自の研究テーマについて、研究の準備を始める。						
13, 14	各自の研究テーマと研究方法について、研究計画や途中経過を報告し合い、アドバイスをを行う。						
15	前期のまとめ。夏休み中の研究の進め方や後期の計画について相談する。						
16	ガイダンス						前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。
17~22	各自の研究テーマについて、資料やデータの収集と分析を行い、口頭や文章で研究報告を行う。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でアドバイスをしあう。						後期は、データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
23~29	各自の研究テーマについて、アカデミックな論文の形式に従ったレポートを執筆する。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でコメントをしあい、レポートの完成度を高める。						
30	まとめ。4年生の卒論演習に向けて相談し計画を立てる。						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業外レポート		◎	◎	◎	◎	40	
演習			◎	◎		60	
補足事項	演習では積極的に議論や取り組みに参加・貢献している者を評価する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは授業内で相談の上決定する。参考文献は適宜指示する。						
履修条件	遅刻、欠席の場合は事前に連絡すること。統計の手法を使って社会的な分析を行いたい、あるいはジェンダーの観点から社会的な分析を行いたい人を念頭におくが、それ以外のテーマや手法でも相談してほしい。						
学習相談・助言体制	演習の時間での相談・助言を基本とするが、必要な場合は適宜個別に時間を決めて相談を行う。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。						授業中の撮影

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	本郷 秀和		後期～前期	演習	必修	2	3～4年
授業の概要	<p>本演習では、卒業論文につながるような各自の研究テーマの設定に当たり、まずテキストを参考に考えていく。その後、研究テーマに関する資料収集と整理、報告等を通じて現状の理解を深めていく。例えば、①様々な福祉職の活動領域と社会福祉士の専門性・業務に関する事柄（例：業務内容の詳細や求人・待遇問題等）、②高齢者福祉に関する現代的諸問題と地域における高齢者関連の社会資源の理解、③福祉活動に取り組む民間非営利組織（NPO 法人中心）の役割と介護事業（小規模通所介護等）等に関する事柄等を学んでいく。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	与えられたレポート課題等について、論理的な文章構成を立案してまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	演習を通じて各自が卒論のテーマとする福祉課題を発見し、その現状・背景を探求できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	専門職して必要な福祉ニーズや問題の把握方法を説明・活用できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	ゼミの進め方・オリエンテーション	前半は、テキストを用いて基本知識と卒論の関心の所在を模索していく。後半は、卒論のテーマを決め、基本的文献を各自が収集・整理し、その結果を報告していく。その後、研究計画書を作成していく。	授業終了時に指示する。レポート報告の場合には、課題に対する報告準備をしておく。				
2-13	「コメディカルのための社会福祉概論」の解説						
15	まとめ						
16	卒業論文とは						
17-20	企業研究（福祉領域）						
21-25	卒論のテーマ決定、研究計画書作成						
26-28	卒論の先行研究収集とレポート報告						
29-30	春休みの宿題と学内学会への参加						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート			◎	○	○	30	
宿題・授業外レポート			○	○		20	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	○	◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト： ① 鬼崎信好・本郷秀和編『コメディカルのための社会福祉概論』第3版、講説社、2016</p> <p>参考文献： ① 川村匡由ほか「福祉系学生のためのレポート&卒論の書き方」中央法規、2005年他。 ② 学文社「21世の現代社会福祉用語辞典」九州社会福祉研究会編。</p>						
履修条件	特にありませんが、積極的な参加を期待します。						
学習相談・助言体制	基本的にオフィスアワーの時間帯に対応しますが、それ以外の時間帯についても、可能な限り対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	住友雄資		後期～前期	演習	必修	2	3～4年
授業の概要	<p>本演習では、主にソーシャルワーク or 精神保健福祉を取り上げる。3段階で展開する予定である。第1段階は上記テーマに沿った基本文献の収集・講読・発表・討論等を行う。第2段階は上記テーマのなかで各自が関心を有する文献の収集・発表・討論等を行いながら、研究法や研究倫理等についても検討する。第3段階は、各自が研究テーマを決め、そのテーマをより深めるための発表・討論を中心とし、最終的には卒論執筆に向けて研究計画書を作成する。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	各種文献等を収集・講読し、個別発表・討論等を行うことを通して、自らの研究テーマを明確にできる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	卒業論文で取り組む研究計画書を作成・発表することで、卒業論文作成のための枠組みを明確にできる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	社会福祉関係の先行研究レビューから研究テーマを明確化することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1 オリエンテーション 2～6 ソーシャルワーク or 精神保健福祉の基本文献等の講読・発表・討論等をおこなう。 7～20 各自が関心のある文献を選び、文献の内容の理解を深め、研究法や研究倫理等について学ぶ。 21～29 各自が決めた研究テーマに関する文献について発表し、討論することを通して、研究計画書（先行研究レビューにもとづく研究テーマの設定・対象の選定・研究テーマに相応しい方法の採用・研究倫理等）を作成する。 30 研究計画書発表会</p> <p>※事前・事後学習：レジュメ報告・研究計画書等の準備、復習</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
レジュメ作成			◎	○		30	
討論への参加度			◎	○		20	
受講者の発表(プレゼン)			○	◎		20	
研究計画書作成			○	◎		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト： 参考文献：ゼミを進めながら適宜文献を紹介する。</p>						
履修条件	<p>ソーシャルワーク or 精神保健福祉領域で、質の高い卒業論文を執筆したいと考えている学生の履修を望む。</p>						
学習相談・助言体制	ゼミの前後、随時空き時間（オフィスアワーを含め）、メール等に対応						授業中の撮影

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	村山 浩一郎		後期～前期	演習	必修	2	3～4年
授業の概要	本演習では各学生が社会福祉分野のなかでとくに興味を持つテーマを明確にし、そのテーマを深めるための研究を行うとともに卒業論文作成の準備を進める。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会福祉およびそれに関連する問題の中から自分の問題意識に基づいて研究テーマを設定し、そのテーマを探究するための研究計画を立てることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	自分の研究テーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容					事前・事後学習(学習課題)	
1 ～ 10	【3年後期前半】 ①演習を選択したメンバーがそれぞれどのようなテーマに興味を抱いているか、各自プレゼンテーションを行う。 ②卒業論文で取りあげたいテーマを文献で調べ発表する。					興味のあるテーマを見つけ、それに関する文献を収集し、その内容をまとめる。	
11 ～ 15	【3年後期後半】 卒業論文を作成するための方法を講義 ①論文の基本的な作成方法 ②量的調査法(質問紙法など) ③質的調査法(インタビュー法) ④事例研究法 ⑤文献研究法					自分の研究テーマに合う研究方法を検討し、研究計画を作成する。	
16 ～ 30	【4年前期】 論文テーマ、作成方法の発表と指導 ①論文テーマの発表 ②作成方法の発表 ③論文内容の発表 以後、論文作成と指導にはいる					文献やデータの収集・分析を進め、指導された内容を踏まえて論文を作成する。	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				○		25	
受講者の発表(プレゼン)			○	○	○	75	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	学習に関する相談は随時受け付ける。メールによる相談も可。					授業中の撮影	

授業科目名		社会福祉学演習			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		奥村賢一			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
授業の概要		本演習では、主に学校ソーシャルワーク、児童福祉、障害児・者福祉などの各分野から学生が関心をもつテーマについて持ち寄り、小集団における意見交換などを通して課題意識を高めていく。また、各々で情報収集や課題整理を行い、それらの研究から導き出されたものを具体的に表現していく方法を習得して、卒業論文へとつなげていくことをねらいとする。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	小集団での演習を通して関心ある内容を絞り、明確なテーマを選定することができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	文献検索、資料収集方法、論文の書き方等を理解して意欲的に取り組むことができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文テーマに関連する先行研究等の資料およびデータの収集を行い、適切な分析ができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション			<ul style="list-style-type: none"> 基本事項の確認 演習の進め方の説明 グループ討議 			<ul style="list-style-type: none"> 各自、関心のあるテーマを絞り、それをイメージ化しておくこと 		
2 ～ 10	【3年次後期・前半】 ①プレゼンテーション方法 ②研究テーマの選定方法 ③研究課題の整理方法 ④文献検索の方法 ⑤資料収集の方法			<ul style="list-style-type: none"> ①から⑤の解説 グループ討議 			<ul style="list-style-type: none"> 各関心テーマについてレジュメを作成しておくこと 		
11 ～ 15	【3年次後期・後半】 ①各関心テーマの課題整理 ②各関心テーマの資料収集 ③各関心テーマの発表準備 ④各関心テーマの発表 ⑤卒業論文発表会への参加			<ul style="list-style-type: none"> ①から⑤の指導助言 グループ討議 			<ul style="list-style-type: none"> 各関心テーマの発表に向けた準備をすること 		
16 ～ 20	【4年次前期・前半】 ①研究テーマの絞込み ②論文の書き方 ③研究の視点 ④研究方法 ⑤論文の構成内容についての検討			<ul style="list-style-type: none"> ①から⑤の解説 グループ討議 			<ul style="list-style-type: none"> 各関心テーマを基に卒業論文研究テーマを明確にしておくこと 		
21 ～ 30	【4年次前期・後半】 ①卒業論文テーマの発表 ②卒業論文章立ての発表 ③卒業論文作成方法の発表 ④卒業論文要旨の発表 ⑤まとめ			<ul style="list-style-type: none"> ①から⑤の指導助言 			<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の骨子を作り上げる 		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
授業態度・授業への参加度				○	○		40		
受講者の発表(プレゼン)				◎	◎		60		
補足事項		・受講者の発表(プレゼン) ※評価基準 A60点 B40点 C20点							
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		特になし。適宜紹介をしていく。							
履修条件		特になし。							
学習相談・助言体制		基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。						授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	廣田久美子		後期～前期	演習	必修	2	3～4年
授業の概要	本演習では、社会福祉・社会保障の法制度および政策のうち、特に関心をもつ分野について、①基本的論点の把握②各種調査を通じた問題点の発見を学び、卒業論文につながる課題整理を行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	① 著書や文献、資料などを通して、課題整理ができるようになる。 ② 卒業論文に向けたテーマ選定と課題整理の考え方を習得する。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	文献調査等の準備および実施を通じて、社会福祉およびそれに関連する問題に関心を持ち、それに取り組む意欲を示すことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	社会福祉に関する問題について、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション	講義・演習					
2～10	ゼミ共通テーマの設定と文献研究・発表、課題の提示	発表およびディスカッション			資料・文献の読み込み (発表者はレジュメを準備)		
11～15	文献調査等の準備及び実施、調査結果のまとめ	発表およびディスカッション			指示された資料や項目について事前に調べ、資料の読み込みとまとめを行う。		
16～20	卒業論文のテーマの検討、参考資料の収集方法、論点整理の方法、研究計画	発表およびディスカッション			発表者は参考資料を添えたレジュメを準備する。		
21～29	卒業論文の検討	発表およびディスカッション					
30	中間報告	発表およびディスカッション			発表者はレジュメを準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎		30	
演習			○	◎		60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業中に適宜指示・配布する。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	演習時間の前後の他、随時相談を受け付ける(メールなどで確認を入れること)。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	河野高志						
授業の概要	3年後期では、各自が関心のある社会福祉のテーマについて、プレゼンテーションとディスカッションを行う。そして、そこでの議論や考察をもとに、卒業論文で取り上げるテーマの選定や関心の整理をしていく。それをふまえて4年前期では、卒業論文の仮テーマを決定し、執筆をすすめていく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	関心のあるテーマについて文献や資料にもとづき現状や問題を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	①自らが取り上げたテーマに関するプレゼンテーションができる。 ②他者が取り上げたテーマに関する議論へ積極的に参加できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	①関心のあるテーマやそれにかかわる内容を先行研究から整理できる。 ②文献や資料にもとづき卒業論文を執筆することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	授業内容の説明 等					
2～12	関心のあるテーマに関するプレゼンテーションとディスカッション	①ゼミ生と協議のうえで授業方法を決定します。 ②基本的にはゼミ生が関心のある社会福祉のテーマについて発表し、学生同士で議論できるような授業展開を考えています。	<事前学習> ①関心のあるテーマについて、文献や論文などを読み、調べること ②発表に必要な資料を作成すること <事後学習> ①各回の発表をふまえて、次回発表の内容や構成を検討すること ②卒業論文で取り上げたいテーマを考えること				
13	卒業論文の書き方の解説	講義					
14	卒業論文のテーマの発表①	学生による発表	卒業論文で取り上げるテーマについて検討し、説明できるようにすること				
15	卒業論文のテーマの発表②	同上	同上				
16	仮テーマの決定						
17～20	テーマの精緻化と研究計画の作成						
21～28	卒業論文執筆の進捗状況の確認(前半部分:先行研究、理論の整理)	ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う。	テーマに沿って計画的に卒業論文を執筆すること				
29～30	調査研究の準備						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート			◎	◎		30	
宿題・授業外レポート			◎	○	◎	30	
授業態度・授業への参加度			○	◎	◎	20	
受講者の発表(プレゼン)			○		◎	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし(テーマや関心に応じて各自が自由に選ぶこと)						
履修条件	グループディスカッションやプレゼンテーションが中心となるため、積極的な参加を期待する。						
学習相談・助言体制	①必要に応じて適宜相談を受ける ②アポイントメントをとって研究室に来ること					授業中の撮影	

授業科目名		社会福祉学演習			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		寺島正博			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
授業の概要		本演習は社会福祉を中心に興味を持てる研究テーマを各学生が決め、グループ討議によりその研究テーマの課題を明らかとし卒業論文の作成につなげていく。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	研究テーマを設定し、その研究テーマに基づいた背景や目的を明確にすることができる。グループでの討議を通して共に悩み考えることができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	独自性を持ったテーマを設定する。集めたデータの分析や検討をするなどの研究を進めることができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	研究領域における専門性を身につける。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション(今後の授業の進め方)			講義					
2～10	【研究テーマと先行研究】 ・各自が興味を持てる研究テーマを発表する。 ・興味を持てる研究テーマに沿った文献の状況と内容を発表する。 ・文献からの課題を発表する。			発表・ディスカッション			<ul style="list-style-type: none"> 各自が興味を持てる研究テーマを考える。 興味を持てる研究テーマに沿って関連する文献を集める。 文献から課題を考える。 		
11～15	【卒業論文の作成方法】 ・調査法の選定(質的調査や量的調査)を発表する。 ・卒業論文の全体像流れを発表する。			発表・ディスカッション			<ul style="list-style-type: none"> 先行研究から調査法を検討する。 		
16～30	【卒業論文作成】 ・研究テーマを発表する。 ・卒業論文の全体構造の構想を発表する。 ・卒業論文の内容を発表する。			発表・ディスカッション			<ul style="list-style-type: none"> 論文作成。 		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
授業態度・授業への参加度				◎	◎	○	70		
受講者の発表(プレゼン)				◎	◎	○	30		
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、福祉の実践現場を踏まえて助言する。								
テキスト・参考文献等	各自の研究テーマに応じて紹介する。								
履修条件	特になし。								
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付ける。しかし、状況に応じてそれ以外の時間帯についても可能な限り対応する。							授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉学演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期～前期	演習	必修	2	3～4年
担当教員	松岡佐智						
授業の概要	本演習では、各学生が関心のある社会福祉分野のテーマについて、グループでのプレゼンテーション及びディスカッションを行うことにより、各テーマの課題等について明らかにしていく。さらに、それらの結果を踏まえて、卒業論文で取り組むテーマを確定し、執筆を行うための準備（章立て・資料収集・研究方法の確定等）をする。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自分の関心があるテーマについて、文献収集等を通して、課題を明らかにすることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	①自分の関心があるテーマについて、意欲的に取り組み、プレゼンテーションを行うことができる。②グループの他のメンバーのプレゼンテーションを踏まえ、ディスカッションに積極的に参加することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文テーマに関連する先行研究等の文献の収集及び整理を行い、分析を行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		授業方法の説明と確認				
2 ～ 10	【3年次後期・前半】 各自が現在関心を持っている社会福祉に関するテーマについて、先行研究を基にまとめ、プレゼンテーションとグループディスカッションを行う。		プレゼンテーション及びディスカッション		①プレゼンテーションができるように、先行研究の資料収集を行い、レジュメを作成する。 ②ディスカッション結果を基に、作成したレジュメの修正や再整理を行う。		
11 ～ 15	【3年次後期・後半】 卒業論文作成に向けた研究方法について講義を行う。 (文献収集の方法・先行研究のレビュー・調査方法・章立て等)		講義		各自の研究方法について検討をする。		
16 ～ 20	【4年次前期・前半】 卒業論文で取り組むテーマを確定し、文献収集及び先行研究のレビュー結果をまとめ、発表する。		プレゼンテーション及びディスカッション		①プレゼンテーションができるように、資料収集を行い、レジュメを作成する。 ②ディスカッション結果を基に、作成したレジュメの修正や再整理を行う。		
21 ～ 30	【4年次前期・後半】 ・卒業論文の研究方法を確定し、実施に向けた準備を行う。 また、卒業論文の全体像を確認し、中間報告を行う。		プレゼンテーション及びディスカッション		各自で計画的に卒業論文の執筆を行う。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			○	○		50	
受講者の発表(プレゼン)			○	○	○	50	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし。適宜紹介をしていく。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名		社会福祉学演習			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		鬼塚 香			後期～前期	演習	必修	2	3～4年	
授業の概要		本演習では、社会福祉（主にソーシャルワークまたは精神保健福祉分野）について各学生が関心を持つテーマを取り上げ、プレゼンテーションおよびグループディスカッションをおこなうなかで、卒業論文で取り上げるテーマの選定や関心を整理していく。また、卒業論文の執筆や調査の方法について学び、卒業論文執筆に向けた準備を行う。								
学生の到達目標										
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自分が関心ある社会福祉に関するテーマについて、文献等に基づき現状や課題を明らかにすることができる。								
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自分あるいは同じグループの学生が関心あるテーマについて、プレゼンテーションやグループディスカッションへ、主体的に取り組むことができる。								
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文で取り上げるテーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容								事前・事後学習(学習課題)	
1	オリエンテーション									
2～6	論文の基本/論文の読み方、書き方について学び、基本文献を数点選定し、実際に読んで理解する。								事前学習：課題論文の読み込み 事後学習：講義及びディスカッションの内容を整理	
7～15	関心あるテーマの絞り込み/各学生による収集文献等のプレゼンテーションおよびグループディスカッションを通じて、卒業論文で取り上げたいテーマを絞り込む。								事前学習：文献等資料の収集とプレゼンテーション用レジュメの準備 事後学習：ディスカッションをもとに修正や再整理	
16～20	卒業論文の基本/テーマの決定・章立て・調査方法等について学び、研究計画を作成する。								事前学習：研究計画の作成と発表準備 事後学習：講義及びディスカッションをもとに修正や再整理	
21～30	卒業論文執筆準備/各学生による先行研究レビューおよび調査に向けた準備のプレゼンテーションおよびグループディスカッションを行い、卒業論文を執筆する準備を進める。								事前学習：卒業論文の準備およびプレゼンテーション用レジュメの準備 事後学習：ディスカッションをもとに修正や再整理	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
授業態度・授業への参加度				○	○		40			
受講者の発表(プレゼン)				○	○	○	60			
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等		各自の研究テーマに応じて紹介する。								
履修条件		特になし。								
学習相談・助言体制		基本的にはオフィスアワーで対応するが、必要に応じてそれ以外でも可能な限り対応する。							授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	「社会福祉学演習」(3年・通年)の内容をふまえ、卒業論文を完成させるための論文指導を行う。また、卒業論文提出後の報告会の準備と発表の指導も行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文の内容について分かりやすく要点をまとめてプレゼンテーションすることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	卒業論文のテーマに関連した文献や論文を収集し、また独自の調査を計画することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	先行研究や資料、調査等に基づいて卒業論文を完成させることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション						
卒業論文提出まで	論文執筆指導		ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う。		テーマにそって計画的に卒業論文を執筆すること		
卒業論文提出後	報告会の準備		ゼミ単位での報告会準備と並行して、個別に報告会準備を指導する。		卒業論文の内容(目的、方法、結果など)をわかりやすく整理すること		
15	卒業論文発表会		学生による発表		発表資料を作成すること		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文			○	◎	◎	80	
論文執筆指導			◎	◎	◎	10	
卒業論文発表会			◎	○	○	10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	論文執筆と添削・修正を繰り返すため、積極的な姿勢で臨むことを期待する。						
学習相談・助言体制	①必要に応じて相談を受ける ②アポイントメントをとって研究室に来ること					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文					開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 住友雄資					通年	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文は大学での専門教育の集大成である。「社会福祉学演習」で各々が設定した研究テーマを達成するための個別・集団指導を行うことで、卒業論文を完成させる。									
学生の到達目標										
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文執筆過程を通して、論理的で説得力のある表現法を身につけることができる。								
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	収集したデータを分析し、社会福祉の諸現象を主体的・意欲的に探求することができる。								
技能	DP10:専門分野のスキル	社会福祉の諸問題に対する研究方法を身につけることができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
<p>1 オリエンテーション</p> <p>第一段階 卒業論文指導(主としてデータ収集)</p> <p>第二段階 卒業論文指導(主としてデータ分析)</p> <p>第三段階 卒業論文指導(執筆)</p> <p>最終 卒業論文報告(発表)会</p>										
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)				
演習			○	○	◎	30				
卒論執筆・発表			○	○	◎	70				
実務経験を生かした授業	ソーシャルワーク実践の実務経験を有する教員が、社会福祉で生じている諸現象の分析・考察に関する専門知識・技術の習得を指導する。									
テキスト・参考文献等	テキスト:なし 参考文献は卒論指導のなかで適宜紹介する。									
履修条件	履修規則第20条の着手要件を満たしていること									
学習相談・助言体制	卒論指導の前後、随時空き時間(オフィスアワーを含め)、メール等に対応								授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	村山 浩一郎						
授業の概要	各学生は「社会福祉学演習」で明確にした研究テーマと研究計画に基づき、卒業論文を作成する。教員は、卒業論文の作成に向けて個別指導及び集団指導を行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	研究の成果を卒業論文にまとめ、卒論発表会で論理的に発表できる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	自分の研究テーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1~15	<ul style="list-style-type: none"> 3年後期までに確定した研究計画に基づいて、各自、作業を進めていく。 授業では、個別、およびグループによる論文作成指導を行う。授業の際に、学生は各自、研究の進捗状況を報告する。 調査を行う学生に対しては、調査対象の紹介、調査方法及び調査結果の分析方法の指導を行う。 						各自、研究計画に基づいて作業を進め、適宜、「研究の進捗状況」をまとめておく。
16~30	<ul style="list-style-type: none"> これまでに収集した文献やデータを整理・分析し、論文にまとめ、11月末に提出する。 授業では、個別、およびグループによる論文作成指導を行う。必要に応じて添削指導も行う。 卒業論文発表会(2月)で、各自、研究成果を報告する。 						指示したところまで論文を書き進めておく。
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文			○	○	○	70	
個別及び集団指導への参加度				○		15	
卒論発表会の発表(プレゼン)			○			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。						
履修条件	社会福祉学演習を履修していること。						
学習相談・助言体制	卒論に関する相談は随時受け付ける。メールでの学習支援も行う。						授業中の撮影

授業科目名		卒業論文			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		奥村賢一			通年	演習	必修	6	4年
授業の概要		これまでの大学における専門教育の集大成として卒業論文を位置づける。各々が設定したテーマに則して必要な個別指導を行い、計画的に調査・研究活動を進めて卒業論文を完成させていく。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文のテーマについて探求し、その研究成果を論理的に表現することができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	卒業論文のテーマおよび関連する問題に関心を持ち、論文作成に向けた意欲を示すことができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文のテーマに沿った具体的な研究手法を身につけて、それらを実践することができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション			<ul style="list-style-type: none"> 基本事項の確認。 今後の進め方についての話し合い。 具体的なスケジュールを計画する。 			卒業論文の題目を確定して各自執筆を本格的に開始する。		
2 ~ 15	【4年次前期】 ①卒業論文の作成 ②調査に向けた準備および実施 ③調査結果のまとめと分析 ④卒業論文作成スケジュールの確認			<ul style="list-style-type: none"> ①から④の個人及び集団指導助言 グループ討論 			指導内容を踏まえて卒業論文の作成を進めていくこと。		
16 ~ 29	【4年次後期】 ①卒業論文の推敲 ②卒業論文の完成 ③卒用論文の提出に向けた準備(要旨等の作成) ④卒業論文発表会に向けた発表準備			<ul style="list-style-type: none"> ①から④の個人及び集団指導助言 グループ討論 			指導内容を踏まえて卒業論文の完成に向けた最終的な作業を進めていくこと。		
30	卒業論文発表会								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
受講者の発表(プレゼン)			○			◎	15		
その他			○			◎	85		
補足事項		<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の内容(70%) 評価基準 S 70点 A 50点 B 30点 卒業論文の執筆過程における取り組み姿勢(15%) 評価基準 S 15点 A 10点 B 5点 卒業論文発表会(15%) 評価基準 S 15点 A 10点 B 5点 							
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		特になし。必要に応じて個別に紹介していく。 授業時に適宜プリントや資料等を配布する。							
履修条件		学部履修規程を各自が必ず確認しておくこと。							
学習相談・助言体制		基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。						授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	廣田久美子						
授業の概要	「社会福祉学演習」で学習したテーマを基礎として、論文テーマの決定、論文作成に向けた論点整理・文献や調査についての検討・個別指導を行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文のテーマに沿った具体的な研究方法および論文作成のルールを身につけ、論理的な文章を作成することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	先行研究や調査などを通じて社会福祉制度・政策について自ら課題を設定することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	自ら設定した課題に対し、社会福祉学上の知識および方法を用いて考察し、文書化することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	講義・演習					
2~9	論点整理 (①論文の目的・射程を明確にする②おおまかな項目の作成)	学生の報告	報告者はレジメを用意すること				
10~23	卒業論文の執筆(項目ごとに報告)	学生の報告 論文構成・書き方について個別指導	論文作成 報告者はレジメを用意すること				
24~29	卒論要旨・書式など確認、卒業論文発表会に向けたプレゼンテーションの準備	発表およびディスカッション	資料・文献の読み込み レジメの作成				
30	卒業論文発表会	学生の報告	発表原稿、配布資料の準備				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート				○	○	10	
受講者の発表(プレゼン)			◎			10	
演習			○			10	
その他(卒業論文)			◎	◎	◎	70	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テーマに応じて指定する						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	演習時間の前後の他、随時相談を受け付ける(メールなどで確認を入れること)。						授業中の撮影

授業科目名		卒業論文			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		河野高志			通年	演習	必修	6	4年
授業の概要		「社会福祉学演習」(3年・通年)の内容をふまえ、卒業論文を完成させるための論文指導を行う。また、卒業論文提出後の報告会の準備と発表の指導も行う。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文の内容について分かりやすく要点をまとめてプレゼンテーションすることができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	卒業論文のテーマに関連した文献や論文を収集し、また独自の調査を計画することができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	先行研究や資料、調査等に基づいて卒業論文を完成させることができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション								
卒業論文提出まで	論文執筆指導				ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う。		テーマにそって計画的に卒業論文を執筆すること		
卒業論文提出後	報告会の準備				ゼミ単位での報告会準備と並行して、個別に報告会準備を指導する。		卒業論文の内容(目的、方法、結果など)をわかりやすく整理すること		
15	卒業論文発表会				学生による発表		発表資料を作成すること		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
卒業論文			○	◎	◎	80			
論文執筆指導			◎	◎	◎	10			
卒業論文発表会			◎	○	○	10			
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等	特になし								
履修条件	論文執筆と添削・修正を繰り返すため、積極的な姿勢で臨むことを期待する。								
学習相談・助言体制	①必要に応じて相談を受ける ②アポイントメントをとって研究室に来ること							授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	寺島正博		通年	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文とはこれまで大学において研究してきた成果を形にするものである。そのため、丹念に研究手法や分析、さらには論文構成を検討し完成させなければならない。具体的には各自が設定した研究テーマに沿って、グループによる討議と個別指導を繰り返し完成させていく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	背景や目的を明確にすることができる。適正な論文構成をすることができる。調査結果を理論立てて考察することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	独自性のある研究テーマに着目することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	適正な研究手法・分析を用いることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1~15	論文作成指導		グループによる討議と個別指導を繰り返す。		研究領域の文献を読み込む。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			◎	○	◎	60	
受講者の発表(プレゼン)			◎	○	◎	40	
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、福祉の実践現場を踏まえて助言する。						
テキスト・参考文献等	特になし。必要に応じて個別に紹介していく。 授業時に適宜プリントや資料等を配布する。						
履修条件	「社会福祉学演習」の履修						
学習相談・助言体制	基本的には時間帯を設定し対応するが、それ以外の時間帯についても可能な限り対応していく。						授業中の撮影

授業科目名		卒業論文			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		松岡佐智			通年	演習	必修	6	4年
授業の概要		「社会福祉学演習」において、各学生が取り組んできたテーマを基に研究計画を立案し、卒業論文の作成を行う。指導は、個別及び集団で行い、卒業論文完成後は、卒業論文発表会に向けたプレゼンテーションの準備を行う。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文のテーマについて、論理的に論文をまとめ、報告会でわかりやすく発表することができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自らの関心があるテーマについて、先行研究や調査等を通して、福祉課題の探求に意欲的に取り組むことができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文のテーマについて、先行研究・資料の収集及び調査の実施、分析を行うことができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	オリエンテーション、各自の取り組み状況の報告					卒業論文のテーマを焦点化し、先行研究をまとめる。			
2 ～ 20	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の構成の確認 文献収集及び調査活動の実施 卒業論文の執筆(下書き) 			論文構成・書き方、文献・関係資料の収集方法等について、適宜資料を提示し説明を行う。また各自の進捗状況を確認し、研究方法等についてグループでディスカッションを行う。		各自で仮の章立てを完成させておく。また、関係資料を収集及び分析を行う。それらを基に、卒業論文の執筆(下書き)を進めていく。			
21 ～ 25	卒業論文の確認・修正と完成(下書きの修正指導)と提出			個別指導で、卒業論文の下書きを確認し、修正を行う。修正後は手続きに沿って提出する。		論文の作成と修正(要旨含む)に取り組む。			
26 ～ 28	卒業論文報告会に向けたパワーポイントの作成及びプレゼンテーション練習			①論文を要約して他者に説明できるようにスライドを作成する。②パワーポイントを用いたプレゼンテーション練習。		パワーポイントの作成及び報告準備を行う。			
29 ～ 30	卒業論文報告会への参加と報告			報告会への参加					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
授業態度・授業への参加度			○	○		20			
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎		20			
卒業論文			◎		◎	60			
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		別途指示する。							
履修条件		特になし							
学習相談・助言体制		授業中または終了直後、オフィスアワーや休み時間等に適宜対応する。						授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	鬼塚 香		通年	演習	必修	6	4年
授業の概要	「社会福祉学演習」で各自が設定した研究テーマについて、研究計画に基づき調査・研究を実施し、卒業論文を執筆するための個別および集団指導を実施する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	各自で設定した研究テーマについて、卒業論文として論理的に文章をまとめ、プレゼンテーションすることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	先行研究や調査等を通じて、社会福祉の諸課題のなかから自分の関心あるテーマを設定し、主体的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	各自で設定した研究テーマに対して適切な研究・分析方法を用いて、卒業論文を完成させることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション						
～卒業論文提出	論文作成指導	個別指導およびグループディスカッション	研究計画に基づき、先行研究、調査・分析を実施し、卒業論文を執筆する。				
卒業論文提出後～	卒業論文報告会の準備	個別指導およびグループディスカッション	卒業論文の内容を整理してプレゼンテーション資料を作成し、発表準備を行う。				
30	卒業論文報告会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎		20	
その他(卒業論文)			◎		○	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	各自の研究テーマに応じて紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワーで対応するが、必要に応じてそれ以外でも可能な限り対応する。					授業中の撮影	

授業科目名		卒業論文			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		石崎龍二			通年	演習	必修	6	4年	
授業の概要		<p>本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。</p>								
学生の到達目標										
思考・判断・表現	DP4:表現力	設定した問題に対して、資料に基づいた論理展開を説得的に表現できる。								
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	社会の諸問題に深い関心をもち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。								
技能	DP10:専門分野のスキル	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容			授業方法	事前・事後学習(学習課題)					
1	オリエンテーション(ゼミの進め方)			演習	次回の資料について予習					
2~7	演習に関する図書や参考資料の輪読			演習	各自、輪読する資料について予習・復習					
8	各自の(仮)研究テーマの設定			演習	研究テーマの設定					
9,10	各自の(仮)研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集			演習	資料収集					
11,12	各自の(仮)研究テーマについて経過報告、質疑応答			演習	報告者は報告資料を用意					
13,14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集			演習	資料収集					
15	演習(前期)のまとめと演習(後期)に向けての計画			演習	資料・問題整理					
16	各自の研究テーマについて中間報告(後期ははじめ)			演習	全員、報告資料を用意					
17~25	収集した文献、データ等の整理、 各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答			演習	報告者は報告資料を用意、資料収集					
26~30	報告書の作成			演習	報告書の作成					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
宿題・授業外レポート			◎	◎	◎	◎	50			
授業態度・授業への参加度			◎		◎		30			
受講者の発表(プレゼン)				◎		◎	20			
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等		演習の中での話し合いで決定する。								
履修条件		卒業論文の着手要件は、3年次までに卒業必要単位のうち80単位以上を修得していることとなっている。ただし、編入学生についてはこの限りではない(福岡県立大学学部履修規則第4章第20条)。								
学習相談・助言体制		演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。							授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	柴田雅博						
授業の概要	4年間の集大成として卒業研究の結果を卒業論文にまとめる。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会の中で ICT がどう活用されているのか理解する。また、それを議論するに足る学科専門知識および情報科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会的事象やその問題をモデル化し、資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。					
	DP4:表現力	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。					
	DP6:社会貢献力	情報科学知識を社会的問題の解決に活かすことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	先行研究や各種資料を適切に収集し、他人の知見を活かしながら的確に調査分析できる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		演習				
2~5	各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討		演習		各自問題意識と研究テーマを確認する。		
6~9	関連文献・データの整理。先行研究の検討		演習		必要な文献やデータを収集し、自分の研究との関連性を検討する。		
10~15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論		演習		各自の研究の進捗状況をまとめる。		
16	草稿の提出		演習		卒業論文全体の草稿を準備する。		
17~25	草稿の内容の改善、データや文献の補充		演習		草稿の修正、補充を進める。		
26~30	卒業論文の執筆と完成。卒業論文発表会で研究発表を行う。		演習		卒業論文を完成させる。卒業論文発表会のための資料作成、その他準備を行う。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文		◎	◎	◎	◎	75	
卒業論文要旨			◎	◎		15	
卒業論文発表会			◎	◎		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テーマに応じて適宜紹介する。						
履修条件	履修規則第4章第20条の着手要件を満たしていること。						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	人間と社会に関連する社会科学の専門知識を、社会学を中心として身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象やその問題を資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。					
	DP4: 表現力	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自ら問いを立て、研究に主体的に取り組むことができる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	先行研究や各種資料を適切に収集し、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション						
2-5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。						各自問題意識と研究テーマを確認する。
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。						必要な文献やデータを収集する。
10-15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。						各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出						卒業論文全体の草稿を準備する。
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。						草稿の修正、補充を進める。
25	ゼミでの発表会						卒業論文を完成させる。
26-27	完成原稿の最終確認、提出。						
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。						卒業論文の要旨をまとめる。
30	卒業論文発表会の準備。						発表会の準備をする。
	卒業論文発表会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文		◎	◎	◎	◎	75	
卒業論文要旨			◎	◎		15	
卒業論文発表会			◎	◎		10	
補足事項		学部および当該学科の卒業論文に関する規則や細則を必ず確認すること。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		テーマに応じて適宜紹介する。					
履修条件		履修の前に必ず担当教員と当該学科の教務担当教員に相談してから履修すること。					
学習相談・助言体制		オフィスアワー等で対応するが、状況に応じて適宜個別指導を行う。					授業中の撮影

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	各々が設定したテーマに関する研究を卒業研究（卒業論文）として深めていく。また、その執筆プロセスや結論の報告を通じて、各々の研究の課題・意義・方法等を共有したい。また、卒業論文作成後には、卒業論文の要旨作成と報告（プレゼンテーション）を行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4：表現力	適切な研究目的・対象・方法、プロセス、表現等を踏まえて卒業論文が作成できる能力を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5：挑戦力	福祉課題（卒論テーマ）を自ら発見し、仮説を基に課題解明に必要なアプローチを修得する。					
技能	DP10：専門分野のスキル	各自か考える研究テーマに対して、客観的データを用いて整理し、論理的な課題抽出やその解決案を指摘できるための基礎的能力を修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	オリエンテーション（卒業論文の概要）、各自のテーマと準備・進捗状況の報告		夏季休業期間に取り組むべき宿題を提出すること。				
2	卒業論文の下書きの執筆（調査活動含む）	論文構成・書き方、文献・関係資料の収集方法等の整理法について説明する。これに沿って各自は論文の下書きを作成していく。	関係資料を収集していく。研究動機・仮説を明確化した後に卒業論文の流れを整理し、下書きを進めていく。				
3							
4							
5							
6	卒業論文の確認・修正と完成（下書きの修正指導）と提出	卒業論文の下書きを確認し、修正を行う。修正後は手続きに沿って提出する	論文の作成と修正（要旨含む）に取り組む。				
7							
8							
9	卒業論文報告会に向けたパワーポイントの作成	論文を要約して他者に説明できるようにスライドを作成する。	パワーポイントの作成。				
10							
11	卒業論文報告会に向けたプレゼンテーション練習	パワーポイントを用いたプレゼンテーション練習。	報告準備を行う。				
12							
13	卒業論文報告会への参加と報告	報告会への参加					
14							
15	成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表（プレゼン）			◎	◎	◎	80	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業中または終了直後、オフィスアワーや休み時間等に適宜対応します。					授業中の撮影	—

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	住友雄資		後期	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文は大学での専門教育の集大成である。「社会福祉学演習」で各々が設定した研究テーマを達成するための個別・集団指導を行うことで、卒業論文を完成させる。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文執筆過程を通して、論理的で説得力のある表現法を身につけることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	収集したデータを分析し、社会福祉の諸現象を主体的・意欲的に探求することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	社会福祉の諸問題に対する研究方法を身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	<p>1 オリエンテーション</p> <p>第一段階 卒業論文指導 (主としてデータ収集)</p> <p>第二段階 卒業論文指導 (主としてデータ分析)</p> <p>第三段階 卒業論文指導 (執筆)</p> <p>最終 卒業論文報告 (発表) 会</p>						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
データ収集			○	◎		10	
データ分析			○	◎		20	
卒業論文執筆			○	○	◎	40	
卒業論文発表			○	○	◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：なし。 参考文献は卒論指導のなかで適宜紹介する。						
履修条件	履修規則第20条の着手要件を満たしていること。						
学習相談・助言体制	卒論指導の前後、随時空き時間（オフィスアワーを含め）、メール等で対応						授業中の撮影

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	村山 浩一郎		後期	演習	必修	6	4年
授業の概要	各学生は「社会福祉学演習」で明確にした研究テーマと研究計画に基づき、卒業論文を作成する。教員は、卒業論文の作成に向けて個別指導及び集団指導を行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	研究の成果を卒業論文にまとめ、卒論発表会で論理的に発表できる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自らが主体的に設定した研究テーマの探求に意欲的かつ計画的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	自分の研究テーマについて、先行研究や各種の資料を適切に収集し、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容					事前・事後学習(学習課題)	
1~15	個別、およびグループによる論文作成指導					指示したところまで論文を書き進めておく	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文			○	○	○	70	
個別及び集団指導への参加度				○		15	
卒論発表会の発表(プレゼン)			○			15	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	随時、各自の研究に必要な文献・資料を紹介する。						
履 修 条 件	社会福祉学演習を履修していること。						
学習相談・助言体制	卒論に関する相談は随時受け付ける。メールでの学習支援も行う。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	奥村賢一						
授業の概要	これまでの大学における専門教育の集大成として卒業論文を位置づける。各々が設定したテーマに則して必要な個別指導を行い、計画的に調査・研究活動を進めて卒業論文を完成させていく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文のテーマについて探求し、その研究成果を論理的に表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	卒業論文のテーマおよび関連する問題に関心を持ち、論文作成に向けた意欲を示すことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文のテーマに沿った具体的な研究手法を身につけて、それらを実践することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
初回	オリエンテーション	<ul style="list-style-type: none"> 基本事項の確認。 今後の進め方についての話し合い。 具体的なスケジュールを計画する。 			卒業論文のテーマについて事前に絞込みを行う。		
前半	卒業論文の作成に向けた準備 情報収集及び調査研究活動の実施	<ul style="list-style-type: none"> 文献検索や関係資料の収集方法等について説明。 卒業論文の作成に向けたグループ討議。 仮の章立てをつくる。 			<ul style="list-style-type: none"> 研究に必要な関係資料等を収集していく。 研究の動機や仮説について明確化しておく。 		
中盤	卒業論文の本格的な作成開始 卒業論文中間報告(発表)会	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の書き方に関する説明。 卒業論文の執筆内容に関する個別指導。 			<ul style="list-style-type: none"> 順次、卒業論文の作成に取り組む。 中間報告に向けた準備に取り組む。 		
後半	卒業論文の見直し、修正、仕上げ 卒業論文報告(発表)会に向けた準備	卒業論文、要旨の完成に向けた個別指導。			<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文と要旨を完成させる。 報告(発表)会に向けた準備に取り組む。 		
終盤	卒業論文報告(発表)会	卒業論文報告(発表)会。			<ul style="list-style-type: none"> 全体で卒業論文の報告を行う。 配布資料の用意。 		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講者の発表(プレゼン)				○	◎	15	
その他		○	◎			85	
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 中間報告 評価基準 A15点 B10点 C5点 卒業論文の内容(70%) 評価基準 A70点 B50点 C30点 D10点 卒業論文の執筆過程における取り組み姿勢(15%) 評価基準 A15点 B10点 C5点 						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし。必要に応じて個別に紹介していく。 授業時に適宜プリントや資料等を配布する。						
履修条件	学部履修規程を各自が必ず確認しておくこと。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワー時に受け付けるが、状況に応じてその以外の時間帯についても可能な限り対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	河野高志						
授業の概要	「社会福祉学演習」(3年後期～4年前期)の内容をふまえ、卒業論文を完成させるための論文指導を行う。また、卒業論文提出後の報告会の準備と発表の指導も行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文の内容について分かりやすく要点をまとめてプレゼンテーションすることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	卒業論文のテーマに関連した文献や論文を収集し、また独自の調査を計画することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	先行研究や資料、調査等に基づいて卒業論文を完成させることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション						
2	中間報告会		学生による発表		①できるだけ調査研究を実施しておく。 ②夏休み中の卒業論文への取り組みと進捗状況をまとめておく。 ③発表資料を作成する。		
卒業論文提出まで	論文指導		ゼミ単位での論文作成指導と並行して、個別の論文作成指導を行う。		テーマにそって計画的に卒業論文を執筆すること		
卒業論文提出後	報告会の準備		ゼミ単位での報告会準備と並行して、個別に報告会準備を指導する		卒業論文の内容(目的、方法、結果など)をわかりやすく整理すること		
15	卒業論文発表会		学生による発表		発表資料を作成すること		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文			○	◎	◎	80	
論文執筆指導			◎	◎	◎	10	
卒業論文発表会			◎	○	○	10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	論文執筆と添削・修正を繰り返すため、積極的な姿勢で臨むことを期待する。						
学習相談・助言体制	①必要に応じて相談を受ける ②アポイントメントをとって研究室に来ること					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	寺島正博		後期	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文とはこれまで大学において研究してきた成果を形にするものである。そのため、丹念に研究手法や分析、さらには論文構成を検討し完成させなければならない。具体的には各自が設定した研究テーマに沿って、グループによる討議と個別指導を繰り返し完成させていく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	背景や目的を明確にすることができる。適正な論文構成をすることができる。調査結果を理論立てて考察することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	独自性のある研究テーマに着目することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	適正な研究手法・分析を用いることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1~15	論文作成指導	グループによる討議と個別指導を繰り返す。	研究領域の文献を読み込む。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			◎	○	◎	60	
受講者の発表(プレゼン)			◎	○	◎	40	
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、福祉の実践現場を踏まえて助言する。						
テキスト・参考文献等	特になし。必要に応じて個別に紹介していく。 授業時に適宜プリントや資料等を配布する。						
履修条件	「社会福祉学演習」の履修						
学習相談・助言体制	基本的には時間帯を設定し対応するが、それ以外の時間帯についても可能な限り対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	松岡佐智						
授業の概要	「社会福祉学演習」において、各学生が取り組んできたテーマを基に研究計画を立案し、卒業論文の作成を行う。指導は、個別及び集団で行い、卒業論文完成後は、卒業論文発表会に向けたプレゼンテーションの準備を行う。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	卒業論文のテーマについて、論理的に論文をまとめ、報告会でわかりやすく発表することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自らの関心があるテーマについて、先行研究や調査等を通して、福祉課題の探求に意欲的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文のテーマについて、先行研究・資料の収集及び調査の実施、分析を行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション、各自の取組み状況の報告		卒業論文のテーマを焦点化し、先行研究をまとめる。				
2	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文の構成の確認 文献収集及び調査活動の実施 卒業論文の執筆(下書き) 	論文構成・書き方、文献・関係資料の収集方法等について、適宜資料を提示し説明を行う。また各自の進捗状況を確認し、研究方法等についてグループでディスカッションを行う。	各自で仮の章立てを完成させておく。また、関係資料を収集及び分析を行う。それらを基に、卒業論文の執筆(下書き)を進めていく。				
3							
4							
5							
6							
7							
8	卒業論文の確認・修正と完成(下書きの修正指導)と提出	個別指導で、卒業論文の下書きを確認し、修正を行う。修正後は手続きに沿って提出する。	論文の作成と修正(要旨含む)に取り組む。				
9							
10							
11	卒業論文報告会に向けたパワーポイントの作成	論文を要約して他者に説明できるようにスライドを作成する。	パワーポイントの作成。				
12							
13	卒業論文報告会に向けたプレゼンテーション練習	パワーポイントを用いたプレゼンテーション練習。	報告準備を行う。				
14							
15	卒業論文報告会への参加と報告	報告会への参加					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎		20	
卒業論文			◎		◎	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	別途指示する。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業中または終了直後、オフィスアワーや休み時間等に適宜対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	必修	6	4年
担当教員	鬼塚 香						
授業の概要	「社会福祉学演習」で各自が設定した研究テーマについて、研究計画に基づき調査・研究を実施し、卒業論文を執筆するための個別および集団指導を実施する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	各自で設定した研究テーマについて、卒業論文として論理的に文章をまとめ、プレゼンテーションすることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	先行研究や調査等を通じて、社会福祉の諸課題のなかから自分の関心あるテーマを設定し、主体的に取り組むことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	各自で設定した研究テーマに対して適切な研究・分析方法を用いて、卒業論文を完成させることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション						
～卒業論文提出	論文作成指導	個別指導およびグループディスカッション	研究計画に基づき、先行研究、調査・分析を実施し、卒業論文を執筆する。				
卒業論文提出後～	卒業論文報告会の準備	個別指導およびグループディスカッション	卒業論文の内容を整理してプレゼンテーション資料を作成し、発表準備を行う。				
15	卒業論文報告会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎		20	
その他(卒業論文)			◎		○	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	各自の研究テーマに応じて紹介する。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	基本的にはオフィスアワーで対応するが、必要に応じてそれ以外でも可能な限り対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	老人福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	本郷 秀和						
授業の概要	<p>本授業では、主に高齢者に対する福祉支援と介護保険制度等を学習する。具体的には、高齢期の特性とそこから生じやすい生活問題、高齢者福祉の関連制度、介護保険制度や高齢者支援の方法などを学習する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	高齢者に関する法制度(介護保険制度等)や各種の支援組織・サービス等について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	高齢者が抱える生活問題や権利擁護の必要性について、理由を挙げて説明できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			授業方法	事前・事後学習(学習課題)		
1	①オリエンテーション、②高齢者福祉を巡る諸問題1			<p>基本的に教科書の流れに沿って授業を展開する。また、必要に応じて、パワーポイント、配布プリント、ビデオ等を用いて教科書の補足説明や簡単なまとめ等を行う。</p>	<p>教科書の目次を読むこと</p> <p>前回の復習をしておくこと。</p>		
2	①高齢者福祉を巡る諸問題2(外国) ②高齢者の特性1						
3	①高齢期の特性2 ②高齢者保健福祉の発展						
4	高齢者支援の関係法規1						
5	①高齢者虐待について 2 ②介護保険制度の基本的枠組み1						
6	介護保険制度の基本的枠組み2						
7	介護保険制度の仕組み1						
8	介護保険制度の仕組み2						
9	介護保険サービスの体系1						
10	介護保険サービスの体系2						
11	高齢者を支援する組織と役割1						
12	①高齢者を支援する組織と役割2 ②高齢者支援の方法と実際1						
13	①高齢者支援の方法と実際2 ②高齢者を支援する専門職の役割と実際1						
14	①高齢者を支援する専門職の役割と実際2 ②全体に関する質疑応答						
15	まとめの小問題とその解説・質疑応答、国家試験問題の概観 (指定された辞典のみ持ち込み可、小問題は正答率60%以上を求めます)						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート			◎	◎			100
授業態度・授業への参加度				○			
実務経験を生かした授業							
<p>テキスト・参考文献等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士養成講座編集委員会編、『新・社会福祉士養成講座 13 高齢者に対する支援と介護保険制度』中央法規。(※最新版を使用する) ・九州社会福祉研究会編、『21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社(※「相談援助の理論と方法B」等でも使用予定) 							
履修条件 出席を毎回取るので、休まないようにすること。全回数の3分の2以上は必ず出席をすること。							
学習相談・助言体制 週1回オフィスアワーを設けるので、遠慮なく研究室に来て下さい(それ以外でも可能であれば対応します)。						授業中の撮影	—

授業科目名	介護福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	木村和宣						
授業の概要	本講義では、社会福祉士・精神保健福祉士の業務に関連しやすいと思われる介護福祉について広く学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	介護福祉を取り巻く情勢、生活支援技術等の基礎的な知識について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	介護過程展開、ケアマネジメントの課題分析、介護計画の立案を理解し説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	オリエンテーション	高齢者介護を取り巻く情勢	講義				
2	介護の概念や目的・対象、介護予防		講義	テキストを読んでおくこと			
3	介護と社会福祉、家政、看護、介護・医療との関係		講義	テキストを読んでおくこと			
4	障害の特性の理解・社会参加の意義と支援方法		講義	テキストを読んでおくこと			
5	援助関係の基本・介護関係維持のための技法		講義	テキストを読んでおくこと			
6	介護過程①(介護過程の意義・目的、介護過程の実際)		講義	テキストを読んでおくこと			
7	介護過程②(ケアマネジメント、チームアプローチ)		講義	テキストを読んでおくこと			
8	生活支援技術の基本①(介護と自立支援、住環境)		講義	テキストを読んでおくこと			
9	生活支援技術の基本②(食事・衣服の着脱・排泄・清潔の介護)		講義	テキストを読んでおくこと			
10	生活支援技術の基本③(体位変換・移動の介護)		講義	テキストを読んでおくこと			
11	生活支援技術の基本④(医療的対応が必要な利用者への介護)		講義	テキストを読んでおくこと			
12	生活支援技術の基本⑤(介護家族への支援、福祉用具の活用、終末期ケア)		講義	テキストを読んでおくこと			
13	障害の理解と対応①(視覚・聴覚・精神に障害のある人への理解と対応)		講義	テキストを読んでおくこと			
14	障害の理解と対応②(認知症ケア)		講義	テキストを読んでおくこと			
15	まとめ		講義	講義終了時に指示する			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	○	○	60	
小テスト・授業内レポート			○	○		15	
授業態度・授業への参加度		○	○	○	○	25	
実務経験を生かした授業	介護現場経験のある教員が介護福祉における理論と現場での実際と介護方法の展開と認知症介護について指導する。						
テキスト・参考文献等	・社会福祉学双書 2016『介護福祉論』全国社会福祉協議会 ※2018年度版ができれば、そちらを使用予定						
履修条件	「老人福祉論」と関連があるため、先に履修しておくことが望ましい。						
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。(講義終了後にも随時質問に対応します。)					授業中の撮影	

授業科目名	障害者福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	寺島正博						
授業の概要	<p>激しく移り変わる障害者福祉の制度や政策、さらには障害者の置かれている実情について講義を行う。また、本講義は国家試験の「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」に位置する科目であるため、それに対応した過去問題の分析と検討を行う。</p> <p>実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされていることから、毎回「福祉新聞」を用いて障害者福祉問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	障害者の生活実態、障害者福祉制度の発展過程、障害者自立支援制度の概要、障害者福祉に関連する法令の概要、相談支援事業所の役割と実際、障害者福祉の組織、機関の役割、障害者福祉の専門職の役割と実際等を主に説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義で学んだ専門領域の知識を活用することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義				
2	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態①		講義		教科書P.2-13を熟読。		
3	障害者を取り巻く社会情勢と生活実態②		講義		教科書P.14-28を熟読。		
4	障害者に関わる法体系①		講義		教科書P.30-43を熟読。		
5	障害者に関わる法体系②		講義		教科書P.44-56を熟読。		
6	障害者に関わる法体系③		講義		教科書P.57-68を熟読。		
7	障害者に関わる法体系④		講義		教科書P.69-89を熟読。		
8	障害者自立支援制度①		講義		教科書P.92-106を熟読。		
9	障害者自立支援制度②		講義		教科書P.107-119を熟読。		
10	障害者自立支援制度③		講義		教科書P.120-125を熟読。		
11	障害者自立支援制度④		講義		教科書P.126-130を熟読。		
12	組織・機関の役割		講義		教科書P.131-139を熟読。		
13	組織・機関の役割		講義		教科書P.140-145を熟読。		
14	まとめ(第27回国家試験)		講義		第27回の過去問題を解く。		
15	まとめ(第28回国家試験)		講義		第28回の過去問題を解く。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	◎			30	
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、実践現場を踏まえて障害福祉の現状等について説明する。						
テキスト・参考文献等	『新・社会福祉士養成講座14 障害者に対する支援と障害者自立支援制度 第6版』中央法規, 2019年。						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 					授業中の撮影	

授業科目名	児童福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
			前期	講義	選択	2	2年			
担当教員	奥村 賢一									
授業の概要	現代社会における児童を取り巻く諸問題とその背景について理解を深めたいうで、児童福祉の観点から児童・家庭福祉に関する法制度やサービス等の専門的知識を活用した児童や家庭に対する具体的な支援方法を考察していく。									
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	児童や家庭に対する支援および児童・家庭福祉制度の内容を専門的知識に基づいて説明することができる。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	児童や家庭に対する支援の目的や意義を論理的に思考することができるようになる。児童・家庭福祉制度を活用した具体的な支援方法を述べる事ができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)					
1	ガイダンス	・ 授業進行方法の説明 ・ 授業概要の説明と質疑応答			・ 講義終了時に指示					
2	現代社会と子ども家庭(少子高齢社会と次世代育成支援、子どもの育ち・子育てのニーズ 他)	・ テキストを中心に講義を行う。 ・ 講義では、パワーポイントを中心に解説や説明を行う。その他必要に応じて板書や資料等を配布していく。 ・ 単元によりロールプレイやグループ討議などを取り入れていく。 ・ 学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していく。			・ 講義内容の復習 ・ 第3回講義内容の予習					
3	子ども家庭福祉とは何か(子どものための福祉の原理、子ども家庭福祉の理念、子どもと家庭の権利保障 他)				・ 講義内容の復習 ・ 第4回講義内容の予習					
4	子ども家庭福祉にかかわる法制度①(子ども家庭福祉の法体系、子ども家庭福祉の実施体制)				・ 講義内容の復習 ・ 第5回講義内容の予習					
5	子ども家庭福祉にかかわる法制度②(子ども家庭福祉の財政、子ども家庭福祉の専門職、苦情解決と権利擁護)				・ 講義内容の復習 ・ 第6回講義内容の予習					
6	子ども家庭にかかわる福祉・保健①(母子保健、障害・難病のある子どもと家庭への支援、児童健全育成)				・ 講義内容の復習 ・ 第7回講義内容の予習					
7	子ども家庭にかかわる福祉・保健②(保育、子育て支援、ひとり親家庭の福祉)				・ 講義内容の復習 ・ 第8回講義内容の予習					
8	子ども家庭にかかわる福祉・保健③(児童の社会的養護サービス)				・ 講義内容の復習 ・ 第9回講義内容の予習					
9	子ども家庭にかかわる福祉・保健④(非行児童・情緒障害児への支援)				・ 講義内容の復習 ・ 第10回講義内容の予習					
10	子ども家庭にかかわる福祉・保健⑤(児童虐待対策)				・ 講義内容の復習 ・ 第11回講義内容の予習					
11	子ども家庭にかかわる福祉・保健⑥(子どもと家庭にかかわる女性福祉)				・ 講義内容の復習 ・ 第12回講義内容の予習					
12	子ども家庭への援助活動(施設ケアと子ども家庭福祉援助活動、地域援助活動とネットワーク 他)				・ 講義内容の復習 ・ 第13回講義内容の予習					
13	授業内容の振り返り(前半)				・ 第2回から第6回までの重要項目のおさらい。			・ 該当範囲の総復習		
14	授業内容の振り返り(後半)				・ 第7回から第12回までの重要項目のおさらい			・ 該当範囲の総復習		
15	まとめ	・ 講義内容のまとめとして小テストを実施。			・ 講義終了時に指示					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
小テスト・授業内レポート				◎			60			
授業態度・授業への参加度				○			40			
補足事項		①授業中のメール・中途退室等は原則禁止。 ②まとめの小テストの得点率が60%以上を単位認定とする。								
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーや児童指導員として勤務した経験のある教員が、子どもや家庭に対して行われる相談援助活動の支援事例等を用いて具体的な解説を行う。									
テキスト・参考文献等	・ 社会福祉士養成講座編集委員会『新 社会福祉士養成講座 児童や家庭に対する支援と児童・家庭福祉制度 第2版』、中央法規、2011年(2,200円税別)(※2019年3月までにテキストの改訂がされた場合、最新版を使用予定。)									
履修条件	特になし									
学習相談・助言体制	・ 授業内において、随時質問を受け付ける。 ・ その他、オフィスアワーの時間帯を利用して相談や質問を受け付ける。					授業中の撮影				

授業科目名	家族福祉論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	奥村 賢一						
授業の概要	現代社会における家族または家庭の役割や機能は複雑多様化しており、そのことに起因した社会問題が数多く存在する。本講義では、子どもを中心とした家族福祉の観点からソーシャルワークを基盤にした家族支援の重要性について理解を深めていく。さらに、家族支援の意義や目的を踏まえ、より実践的な方法論を学ぶとともに、支援体制作りに向けた効果的な専門機関との連携及び社会資源の活用方法などについても学んでいく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	家族福祉の概念や制度・施策について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	現代社会における家族問題の現状と課題について、家族福祉の観点から理解している。ソーシャルワークを基盤にした支援方法について理解している。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。 ・テキストは、プリントを中心に講義を進める。 ・単元により、グループ討議などを取り入れていく。 ・単元により、ミニレポートの提出を求める。 ・学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。 			講義終了時に指示する		
2	家族福祉の概念と歴史				授業内容(第2回)の復習		
3	家族福祉の現状と課題①(少子化と子育て環境)				授業内容(第3回)の復習		
4	家族福祉の現状と課題②(子どもの貧困)				授業内容(第4回)の復習		
5	家族福祉の現状と課題③(身体的虐待・性的虐待)				授業内容(第5回)の復習		
6	家族福祉の現状と課題④(ネグレクト・心理的虐待)				授業内容(第6回)の復習		
7	家族福祉の現状と課題⑤(親子の愛着形成)				授業内容(第7回)の復習		
8	家族福祉の現状と課題⑥(新型出生前診断)				授業内容(第8回)の復習		
9	家族福祉の現状と課題⑤(障害児サービス)				授業内容(第9回)の復習		
10	家族福祉の現状と課題⑥(終末期医療)				授業内容(第10回)の復習		
11	家族福祉の現状と課題⑦(終末期医療)				授業内容(第11回)の復習		
12	家族福祉の現状と課題⑧(超高齢社会における家族支援)				授業内容(第12回)の復習		
13	家族福祉の現状と課題⑨(家族システムズ・アプローチⅠ)				授業内容(第13回)の復習		
14	家族福祉の現状と課題⑩(家族システムズ・アプローチⅡ)				授業内容(第14回)の復習		
15	小テスト				・講義内容のまとめとして小テストを実施。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	○			30	
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> ○ 授業内レポート 20% ※評価基準 A20点 B15点 C10点 D5点 ○ 小テスト 50% ※講義回数の3分の2以上の出席で受験可 ○ メール・中途退室等は原則禁止 						
実務経験を生かした授業	児童福祉および障害福祉領域でソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、子どもや家庭を取り巻く生活諸課題を家族福祉の観点から支援事例等を用いて具体的な解説を行う。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは使用しない。 ・授業時に配布するプリント。 						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> ・授業時間内で質疑応答を随時受け付ける。 ・オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 					授業中の撮影	

授業科目名	公的扶助論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	廣田久美子		後期	講義	選択	2	2年
授業の概要	現代社会が生み出す貧困・低所得問題を理解するとともに、生活保護制度を中心とした公的扶助の基本的な枠組みとその方法について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	①援助を行うために不可欠な生活保護制度を理解し、他の人に説明できるようになる。②背景を異にする低所得者への援助の方法と課題を説明できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会福祉を必要とする人びとと貧困問題がどのように結びついているのか説明できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	ガイダンス	講義					
2	貧困・低所得者問題と社会的排除	講義	テキスト・配布プリントを予習(各回指示します)				
3	公的扶助制度の歴史	講義	テキスト・配布プリント				
4	生活保護の基本原則(1)	講義	テキスト・配布プリント				
5	生活保護の基本原則(2)	講義	テキスト・配布プリント				
6	生活保護の基本原則	講義	テキスト・配布プリント				
7	生活保護制度(1)生活扶助	講義	テキスト・配布プリント				
8	生活保護制度(2)医療扶助	講義	テキスト・配布プリント				
9	生活保護制度(3)その他の扶助	講義	テキスト・配布プリント				
10	生活保護における組織・団体と専門職、役割	講義	テキスト・配布プリント				
11	生活保護制度における相談援助	講義	テキスト・配布プリント				
12	生活保護制度における多職種連携	講義	テキスト・配布プリント				
13	生活保護の費用、動向	講義	テキスト・配布プリント				
14	低所得者施策	講義	テキスト・配布プリント				
15	確認とまとめ	講義	テキスト・配布プリント				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			80	
小テスト・授業内レポート		○	◎			10	
授業態度・授業への参加度		◎	○			10	
補足事項	成績評価方法については、別途講義時間内において告知を行う。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	増田雅暢・脇野幸太郎編『公的扶助論』法律文化社 2019年						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	出席カードへの記入による質問を受け付ける他、必要に応じて研究室で個別に対応をします。					授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉調査法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	吉 武 由 彩						
授業の概要	<p>本講義では、社会調査について学ぶ。具体的には、社会調査の歴史、意義、目的、種類、企画と設計、サンプリング、質問文の作成、データ整理、質的調査の諸技法などを学ぶ。 社会福祉士国家試験「社会調査の基礎」に該当する内容を学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会調査に関する基礎的知識を理解している。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	先行研究を批判的に読み解き、社会調査を企画、実施、分析、考察することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	授業概要説明	講義					
2	社会福祉と社会調査：社会調査の概要と歴史	講義 テキスト1章			社会調査、歴史		
3	社会調査の意義、目的、種類	講義 テキスト2章			社会調査の意義、目的、種類		
4	量的調査：企画と設計	講義 補足の資料より			企画、設計		
5	量的調査：全数調査と標本調査(1)	講義 テキスト3章1節			全数調査、標本調査		
6	量的調査：全数調査と標本調査(2)	講義 テキスト3章1節			全数調査、標本調査		
7	量的調査：質問文・調査票の作成	講義 テキスト3章2節			質問文、調査票		
8	量的調査：調査票の配布と回収	講義 テキスト3章3節			調査票の配布、回収		
9	量的調査：分析(1)	講義 テキスト3章4節			分析		
10	量的調査：分析(2)	講義 テキスト3章4節			分析		
11	質的調査：特徴と種類	講義 テキスト4章1節～4節			質的調査の特徴、種類		
12	質的調査：実施と分析	講義 テキスト4章5節～7節			質的調査の実施、分析		
13	質的調査：実際のプロセス	講義 補足の資料より			質的調査の実際のプロセス		
14	社会調査における倫理、個人情報保護、IT活用方法	講義 テキスト5章、6章			倫理、個人情報保護、IT活用		
15	まとめ	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			70	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：社会福祉士養成講座編集委員会編，2013，『新・社会福祉士養成講座5 社会調査の基礎』第3版。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業前後の時間およびオフィスアワーを利用して対応する。					授業中の撮影	

授業科目名		相談援助演習 A			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		本郷秀和・河野高志・松岡佐智・岡田和敏			通年	演習	選択	2	2年	
授業の概要		<p>本演習では、社会福祉士が相談援助を展開するうえで求められる4つの基礎的技能（①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）、②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）、③自己覚知、④コミュニケーションとグループワーク）について、4グループ（1グループ20名以下）での演習により体験的に学習していく。</p>								
学生の到達目標										
関心・意欲・態度	DP6：社会貢献力	相談援助の基本スキルを体験的に修得し、福祉利用者に貢献できる基礎能力を身につける。								
技能	DP10：専門分野のスキル	面接、コミュニケーション、観察・記録、グループワークと自己覚知に関する基礎的技能を修得する。								
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）										
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習（学習課題）			
1	全体オリエンテーション（全体）			授業スケジュールなど全体説明を行う。						
2	基礎的な面接技法Ⅰ・1			面接技法（基本的関わりから展開、終結までに必要な姿勢・技法等）の基礎を体験的に演習形式で学ぶ。 （担当者：岡田和敏）			・演習の進捗状況を見て適宜指示する。			
3	基礎的な面接技法Ⅰ・2									
4	基礎的な面接技法Ⅰ・3									
5	基礎的な面接技法Ⅰ・4									
6	基礎的な面接技法Ⅰ・5									
7	基礎的な面接技法Ⅰ・6									
8	基礎的な面接技法Ⅰ・7									
9	基本的な面接技法Ⅱ （インテーク面接記録の作成）									面接から派生する相談援助のための観察視点や関連記録の基本技法等を体験的に理解する。面接・観察記録等を基にプランニングを考え、各自報告を行う。 （担当者：本郷秀和）
10	基本的な面接技法Ⅱ （障がい者の環境的・物理的バリアの観察と記録等）									
11	基本的な面接技法Ⅱ （ジェノグラムとエコマップの基本）									
12	基本的な面接技法Ⅱ （各自のアセスメントとニーズ整理の記録）									
13	基本的な面接技法Ⅱ （各自のプランニング作業）									
14	基本的な面接技法Ⅱ（模擬ケースカンファレンスを通じたアセスメントと個別支援計画の作成）									
15	基本的な面接技法Ⅱ （各グループのプレゼンテーション）									
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（％）			
演習										
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等		次ページに記載。								
履修条件		次ページに記載。								
学習相談・助言体制		次ページに記載。						授業中の撮影	—	

授業科目名	相談援助演習 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	本郷秀和・河野高志・松岡佐智・岡田和敏						
授業の概要	本演習では、社会福祉士が相談援助を展開するうえで求められる4つの基礎的スキル（①基本的な面接技法Ⅰ（面接の姿勢・展開方法等）、②基本的な面接技法Ⅱ（観察と記録、ケアマネジメント展開の基礎）、③自己覚知、④コミュニケーションとグループワーク）について、4グループ（1グループ20名以下）での演習により体験的に学習していく。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	相談援助の基本スキルを体験的に修得し、福祉利用者に貢献できる基礎能力を身につける。					
技能	DP10:専門分野のスキル	面接、コミュニケーション、観察・記録、グループワークと自己覚知に関する基礎的スキルを修得する。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
16	自己覚知1		対話による自己理解、他者の考え方の理解を通じて自己覚知について体験的に学んでいく。具体的内容は、オリエンテーション時に説明する。 (担当者：松岡佐智)		演習の進捗状況を見て適宜指示する。		
17	自己覚知2						
18	自己覚知3						
19	自己覚知4						
20	自己覚知5						
21	自己覚知6						
22	自己覚知に関する演習のまとめ・補足等						
23	コミュニケーション技法・1		コミュニケーションを通じて援助者としての対話技能などを体験的に学ぶ。 (状況に応じた対話技能の方法、立場討論等)後半はグループワーク演習を行う。 (担当者：河野高志)		演習の進捗状況を見て適宜指示する。		
24	コミュニケーション技法・2						
25	コミュニケーション技法・3						
26	グループワークとコミュニケーション1						
27	グループワークとコミュニケーション2						
28	グループワークとコミュニケーション3						
29	コミュニケーション・グループワーク演習のまとめ・補足等						
30	演習全体のまとめ		演習全体の学びの整理。				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習				◎	◎	100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	・九州社会福祉研究会編、『21世紀の現代社会福祉用語辞典』学文社。（※他の科目でも使用予定）						
履修条件	4つの演習テーマ（1テーマにつき7回実施）ごとに4グループ（1グループ20名以下）での演習を展開していくため、各演習について、2回以上欠席した者には単位を与えないことがある。						
学習相談・助言体制	授業時間内及び終了後、オフィスアワーにて相談等に対応します。					授業中の撮影	—

授業科目名		相談援助演習 B			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		村山浩一郎・奥村賢一・寺島正博・今村浩司			通年	演習	選択	2	3年
授業の概要		相談援助演習 A の学びをふまえて、相談援助事例（虐待・家庭内暴力、低所得者・ホームレス、社会的排除・危機状態）や地域福祉の基盤整備と開発に関する事例を活用しながら包括的な援助技術について学ぶ。なお、授業は最初と最後の全体授業を除いて、4 グループに分かれて別の教室で行う。各グループは、各教員から 7 回ずつ授業を受ける。							
学生の到達目標									
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	相談援助に関する知識と技術を実践的に習得している。 専門的援助技術を概念化・理論化し、体系立てていくことができる。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	本授業のオリエンテーション（全体授業）				配布資料にもとづく説明（全教員）		各教員より、事前・事後学習の課題を提示する。		
2 ～ 8	虐待・家庭内暴力の相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。				配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（奥村賢一：7回×4グループ）		①オリエンテーションで示された課題の学習 ②児童福祉法、児童虐待防止法、DV防止法の学習		
9 ～ 15	低所得者・ホームレスの相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。				配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（今村浩司：7回×4グループ）		①オリエンテーションで示された課題の学習 ②生活保護法、生活困窮者自立支援法、ホームレス自立支援法の学習。		
16 ～ 22	社会的排除・危機状態にある相談援助事例を取り上げ、インテーク（アウトリーチを含む）、アセスメント、プランニング、支援の実施（チームアプローチ、ネットワーキング、社会資源活用を含む）、モニタリング・効果測定、終結とアフターケアなどについて実技指導を行う。				配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（寺島正博：7回×4グループ）		①オリエンテーションで示された課題の学習 ②「相談援助の理論と方法」で学んだ実践アプローチの学習		
23 ～ 29	地域福祉の基盤整備と開発に係る事例を取り上げ、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握、地域福祉の計画、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発、サービスの評価などについて実技指導を行う。				配布資料・レジュメにもとづく説明と演習（村山浩一郎：7回×4グループ）		①オリエンテーションで示された課題の学習 ②「地域福祉論」で学んだコミュニティワークの方法の学習		
30	全体のふりかえりとまとめ（全体授業）				各教員からのコメントなど（全教員）		各自、これまでの学びのふりかえりを行っておく		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）		
実技演習（提出物やプレゼンを含む）					○	◎	60		
授業態度・授業への参加度					○	○	40		
補足事項		各教員の評価の総計を成績評価とする。							
実務経験を生かした授業	学校、病院、福祉施設等でソーシャルワーカーとしての実務経験がある教員（3名）が、その経験を活かして、相談援助の実技指導を行う。								
テキスト・参考文献等	必要な資料・レジュメは各授業で配布する。								
履修条件	相談援助演習 A を履修していることが望ましい。								
学習相談・助言体制	4名の担当教員のうち、本学教員に関してはオフィスアワーや当該授業前後の時間、非常勤教員に関しては当該授業の前後の時間に相談に応じる。また、授業のコメントカードやメール等で随時質問を受け付ける。							授業中の撮影	

授業科目名	相談援助演習 C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	本郷・村山・奥村・寺島・河野・松岡・廣田						
授業の概要	本演習では、各自の相談援助実習体験の振り返りを通じ、実習体験の学びを深めると同時に、社会福祉士が取り組むべき支援ケースの作成及び検討能力、各福祉分野で期待される知識や技能等を習得する。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	実習体験の振り返りや事例検討等を通じて、福祉サービス利用者に対する支援力を修得する。					
技能	DP10:専門分野のスキル	福祉利用者に対する適切な状況把握の方法と支援計画・方法等について説明・提案できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	<p>本演習は、1回目に全体オリエンテーションを行う。2回目以降は、基本的には各担当教員が「相談援助実習指導」時に別途指示した課題を基に演習を進める。</p> <p>各自の実習体験を踏まえたグループ又は個人単位での振り返り、個別・集団スーパービジョン、実習体験を基にした相談援助に関する支援事例の作成と検討等を行う。</p> <p>具体的には[1]実習先の管理運営体制と関連法制度の理解・実習施設の役割、[2]関係職種との役割と機能・連携の必要性（連携機関と連携する専門職の役割）、[3]実習領域・施設における社会福祉士の役割と機能、[4]実習領域・施設のサービス利用者の特性、[5]実習体験に基づいたケース報告・検討、[6]事例作成と報告・グループ検討等、[7]その他（地域アセスメント方法、ケースカンファレンス・援助計画作成・契約技法等）などが考えられる。</p> <p>*詳細は領域別の担当教員が指示する。</p>	<p>相談援助実習の各領域（高齢者・障害者児・児童・社会福祉協議会・医療機関・行政機関）に分かれ、1グループ20名以下での演習を行う（個別に行うこともある）。</p>	<p>※担当教員は障害者児領域：寺島、児童・行政領域：奥村・廣田、医療機関：河野、社会福祉協議会：村山、高齢者領域：本郷・松岡で行う。そのため、事前・事後学習の詳細は各担当教員が別途指示する。</p>				
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習				◎	◎	100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	担当教員により別途支持する。						
履修条件	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。 相談援助実習の振り返りを含むため、相談援助実習の未履修者には単位を与えられない。 						
学習相談・助言体制	随時、相談を受ける。					授業中の撮影	

授業科目名	相談援助実習指導 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	本郷・村山・奥村・廣田・河野・寺島・松岡		通年	演習	選択	2	2年
授業の概要	<p>相談援助実習に関する基本的理解を図った上で、①学生各自の各種保健医療福祉施設等における経験型実習（見学及び体験実習）、②外部講師の講話による福祉現場の実情と現場で求められる知識・実習姿勢の修得・理解、③相談援助実習の意義・方法の理解に取り組む。なお、本授業は、原則として小グループ単位（1グループ20名以下）で行う。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	・相談援助実習の意義について説明できる。 ・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<ol style="list-style-type: none"> 1 オリエンテーション（相談援助実習・実習指導における個別・集団指導の意義、授業計画及び履修基準等の説明）と指定実習施設の概要、福祉ボランティアと実習の相違について 2 各種保健医療福祉施設の種類、現場見学及び体験学習（実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用経験を含めた経験型実習）先の探し方、施設でのマナー・姿勢と守秘義務、事前学習の方法等について 3 経験型実習（見学及び体験）の実習先決定までの流れと実習依頼の方法（電話のかけ方、留意点）について 4 経験型実習の個人票及び実習日誌、誓約書の書き方についてと説明と下書きの作成 5 ①社会福祉協議会職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 6 ①医療機関の職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 7 ①障害者支援施設職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 8 ①地域包括支援センター職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 9 経験型実習の個人票の添削指導（実習種別におけるグループ別指導） 10 ①介護老人保健施設職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 11 ①児童養護施設職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 12 ①療育センター職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 13 ①児童相談所職員の講話、②小グループでの事例検討（グループワーク） 14 経験型実習に向けた実習種別グループ事前学習内容発表（実習先の法制度的な規定や一般的な動向、施設・機関の概要※組織、サービス・事業、職員体制、利用者等） 15 経験型実習に向けた実習前オリエンテーション（実習中の注意事項・緊急時の対応等） 16～22 各種の保健医療福祉施設等における各自の経験型学習（相談援助実習に向けた現場体験学習及び見学実習、実際の介護サービスの理解や各種サービスの利用体験等を含む）の取組み [各自学生は、原則2年次の夏季休業期間終了までに1日6時間の5日間(30時間)にわたり、各種保健医療福祉施設（在宅福祉サービス事業所を含む同一施設）において見学及び体験実習に取り組む（この段階での実習先の開拓は原則的に自己開拓とする）。その主な目的は、①福祉サービス利用者や福祉従事者等との基本的なコミュニケーション力やマナーの修得、②体験・経験による理解を通じて自己覚知を図り、3年夏季の相談援助実習の目的意識の醸成、的確な実習計画書の作成（各自の実習目的や方法、達成課題等）につなげることなどである。] 23 オリエンテーション（今後の授業計画及び履修基準等の説明など）＜2年後期～＞ 24 経験型実習の報告会（1グループ7名程度のグループに分かれ、経験型実習の報告を行う） 25 3年次の相談援助実習の実習先選定に向けたオリエンテーション 26 3年生の実習報告会に参加①（実習経験者の報告聴講と質疑応答） 27 3年生の実習報告会に参加②（実習経験者の報告聴講と質疑応答） 28 相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明①（実習先種別に応じたグループ別指導） 29 相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明②（実習先種別に応じたグループ別指導） 30 相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明③（実習先種別に応じたグループ別指導） 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				○	○	70	
レポート等の提出物				○	○	30	
補足事項	3回以上欠席した場合は単位を与えないことがある。						
実務経験を生かした授業	高齢者施設職員、障害者支援事業所職員、スクールソーシャルワーカーの経験がある教員が、分野別指導において高齢者分野、障害分野、児童分野を担当し、スーパービジョンを行う。また、各種社会福祉機関・施設から職員を講師として招き、講話および演習（グループワーク）を行う。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・「福岡県立大学社会福祉学科 経験型実習の手引き」 ・必要に応じてプリントなどを配布する。 						
履修条件	社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。遅刻、欠席をしないこと。						
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	相談援助実習指導Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	1	3年
担当教員	本郷・村山・奥村・廣田・河野・寺島・松岡・大森・戸丸						
授業の概要	<p>相談援助実習に関する基本的理解を図った上で、①相談援助実習の意義・方法の理解、②相談援助実習に必要な事前学習(実習計画書作成方法、実習日誌の作成法、実習先概要の個別的理解の方法と資料整理、心構えやマナー、倫理等)の理解、③相談援助実習期間中における教員による個別巡回指導及び帰校日指導、④相談援助実習後の振り返り(個別スーパービジョン)と報告書作成及び実習報告会での報告(パワーポイントによるプレゼンテーション)に取り組む。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。 					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる。 					
<p>1 オリエンテーション(相談援助実習・実習指導における個別・集団指導の意義、授業計画及び履修基準等の説明)について</p> <p>2 ①実習計画書・個人票の書き方、②実習種別グループに分かれ、実習種別グループ指導にむけたオリエンテーション</p> <p>3-8 実習種別グループ別指導(①実際に実習を行う実習分野[利用者理解を含む]と施設・事業者・機関・団体・地域社会に関する基本的理解、②各実習先で行われる介護や保育等の関連業務に関する理解、③実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術に関する知識と技術に関する理解、④実習施設の概要理解(経緯・設置根拠・サービス内容・配置専門職と役割・財源等を整理し各自報告、⑤実習計画書等の記入方法等。)</p> <p>9 ①実習日誌の目的と書き方(「実習記録ノート」の目的・意義と記録内容・方法に関する理解)、②守秘義務(実習における個人(福祉サービス利用者等)のプライバシー保護と守秘義務等の理解)について</p> <p>10 ①相談援助実習直前オリエンテーション(学生・教員・実習担当者の協議(三者協議)を含めた実習計画作成と実習指導者とのオリエンテーション(学生各自は相談援助実習先に事前訪問し、事前に教員と協議し作成した実習計画を持参し、実習担当者の実習計画・諸注意を確認する。計画書修正の場合は、協議を踏まえて再度作成)、②巡回訪問指導、事前訪問に関する確認等</p> <p>11-12 各担当教員による実習巡回指導(1週間に1回の巡回指導及び帰校日指導) <3年夏季></p> <p>13 実習体験や実習記録を踏まえた実習総括会に向けた報告作成についてのオリエンテーション<3年後期～></p> <p>14 実習体験を踏まえた個別スーパービジョン(実習体験の振り返り)</p> <p>15 実習の評価全体の総括会(実習報告会:パワーポイントを使用したプレゼンテーション)</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート				○	○	70	
レポート等の提出物				○	○	30	
補足事項	3回以上欠席した場合は単位を与えないことがある。						
実務経験を生かした授業	高齢者施設職員、障害者支援事業所職員、スクールソーシャルワーカー、生活保護ケースワーカー等の経験がある教員が、分野別指導において高齢者分野、障害分野、児童分野を担当し、スーパービジョンを行う。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」 ・必要に応じてプリントなどを配布する。 						
履修条件	社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。遅刻、欠席をしないこと。						
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名		相談援助実習指導				
担当教員		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
		通年	演習	選択	3	2～3年
授業の概要		<p>相談援助実習に関する基本的理解を図った上で、①学生各自の各種保健医療福祉施設等における経験型実習（見学及び体験実習）、②外部講師の講話による福祉現場の実情と現場で求められる知識・実習姿勢の修得・理解、③相談援助実習の意義・方法の理解、④相談援助実習に必要な事前学習（実習計画書や実習日誌の作成方法、実習先の理解、心構えやマナー、倫理等）、⑤教員による相談援助実習期間中の個別巡回指導、⑥相談援助実習後の振り返りと報告書作成（実習報告会での報告）に取り組む。なお、本授業は、原則として小グループ単位（1グループ20名以下）で行う。</p>				
学生の到達目標						
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。 				
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助実習の意義について説明できる。 ・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ実際に理解し実践できる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。 ・具体的な体験や援助活動を、専門的援助技術として概念化・理論化し体系立てていくことができる。 				
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)						
<p>【2年次前期 1～15回】 全体でオリエンテーション(授業の計画の説明、及び相談援助実習・実習指導の意義についての説明)を行った後、①経験型実習(見学及び体験実習)の事前準備・事前学習、②外部講師の講話とグループワーク(実習先で必要とされる相談援助に係る知識と技術の理解や実習先で行われる関連業務の基本的理解のため)、③前期の学習のまとめと経験型実習の直前オリエンテーション、を行う。</p> <p>【2年次夏季休業期間 16～22回】 各学生は、原則として夏季休業期間終了時までに1日6時間の5日間(合計30時間)にわたり、各種保健医療福祉施設(在宅福祉サービス事業所を含む同一施設)において経験型実習(見学及び体験実習)に取り組む。</p> <p>【2年次後期 23回～30回】 全体でオリエンテーション(今後の授業計画に関する説明)を行った後、①経験型実習報告会での発表、②3年生の実習報告会への参加、③相談援助実習の内容や留意点等に関する分野別の説明、を通して、相談援助実習の意義を理解するとともに、各実習分野に関する基本的理解や実習で必要とされる相談援助の知識と技術、実習先で行われる関連業務等に関する理解を深める。そして、最後に、実習の希望配属先を決定し、実習配属先の調整を行う。</p> <p>【3年次前期 31～39回】 全体でオリエンテーション(今後の授業計画に関する説明)を行った後、実習配属先の分野別に小グループに分かれ、①実習の事前準備、②実際に実習を行う実習分野や実習施設に関する事前学習を行う。①では、実習及び実習指導(個別・集団)の意義、実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の重要性、実習記録ノートの目的と書き方などについて理解を深める。また、三者(実習生、教員、実習指導者)での協議を踏まえて、実習計画書を作成し、実習先への事前訪問を行う。②では、実習先に関するレポートの作成・発表等を行い、実際に実習を行う実習分野と施設・事業者・機関・団体・地域社会等に関する基本的な理解と、実習先で必要とされる相談援助の知識と技術や実習先で行われる関連業務等に関する理解を深める。</p> <p>【3年次夏季休業期間(相談援助実習期間)中 40～41回】 各担当教員による実習巡回指導(実習先毎に週1回以上)を行う。</p> <p>【3年次後期 42～45回】 実習体験の振り返りと課題の整理を行い、実習総括レポート等を作成する。そして、実習報告会(実習の評価全体総括会)において実習成果を発表する。</p>						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)						
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
授業態度・授業への参加度				○	○	70
レポート等の提出物				○	○	30
補足事項	3回以上欠席した場合は単位を与えないことがある。					
実務経験を生かした授業						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」 ・必要に応じてプリントなどを配布する。 					
履修条件	社会福祉士の国家試験受験資格取得を希望するもの。遅刻、欠席をしないこと。					
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。					授業中の撮影

授業科目名	相談援助実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択	4	3年
担当教員	本郷・村山・奥村・廣田・河野・寺島・松岡・大森・戸丸						
授業の概要	<p>実際の社会福祉機関・施設等における4～5週間の現場体験を通じて、</p> <p>①社会福祉士として求められる資質・技能・倫理・自己の課題把握など総合的な対応能力を学ぶ。</p> <p>②相談援助で必要とされる知識・援助技術を実践的に理解し、かつ関連分野の専門職との連携の在り方とその具体的内容を学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	<ul style="list-style-type: none"> ・ソーシャルワーカーとしての倫理に従って行動する意欲と態度を示すことができる。 ・ソーシャルワーカーとしての専門性を継続的に高めていく意欲と態度を示すことができる。 					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・相談援助に係る知識と技術について具体的かつ实际的に理解し実践できる。 ・社会福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得し実践できる。 ・関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的内容を理解し実践できる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>原則として、3年次の夏季休業期間中の4～5週間(180時間・23日以上)、本学の実習指定施設となっている各種の社会福祉施設・機関等において相談援助実習を行う。この場合、各学生は原則として同一施設・機関で実習を行う。</p> <p>本学の実習指定施設である社会福祉施設・機関における実習指導者の具体的な指導の下で、各学生は福祉サービス利用者等に対する具体的な支援方法を体験的・実践的に修得する。加えて、実習担当教員が各実習先に訪問し、実習指導者との実習内容に関する協議、学生に対する実習内容などの指導にあたる。</p> <p>相談援助実習における主な指導内容は、以下の点に関すること等である。</p> <ol style="list-style-type: none"> (1) 利用者やその関係者、施設・事業所等の職員、地域住民やボランティア等との円滑な人間関係の形成 (2) 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 (3) 利用者やその関係者(家族・友人等)との援助関係の形成、権利擁護及び支援(エンパワメントを含む)とその評価 (4) 多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実践 (5) 社会福祉士としての職業倫理、施設・事業所等の職員の就業規則などの理解及び組織の一員としての役割と責任の理解 (6) 施設・事業所等の経営やサービスの管理運営の実践 (7) (当該実習先の)地域社会の中の施設・事業所等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 <p>なお、実習中には、各学生はその日の実習内容・考察・質問事項・感想等を毎日実習記録に記載し、振り返りを行う。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
「実習評価票」に基づく実習先の評価内容				○	○	50	
授業(実習・実習指導)への参加度				○	○	25	
総括レポート・実習報告会でのプレゼン等				○	○	25	
実務経験を生かした授業	各種社会福祉機関・施設に勤務する相談援助実習指導者の資格をもつ職員が、実践を踏まえたスーパービジョンを行う。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・「福岡県立大学社会福祉学科 実習の手引き」 ・必要に応じてプリントなどを配布する。 						
履修条件	「相談援助実習指導」での出席やレポートの提出期限を守った者を履修可能とする。						
学習相談・助言体制	担当教員が、随時、相談を受ける。メール等でも、随時、相談・質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	福祉経営論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			後期集中	講義	選択	2	3年		
担当教員	鬼崎 信好								
授業の概要	<p>本講義では、社会福祉士国家試験科目である「福祉サービスの組織と経営」について学習する。21世紀における本格的な少子高齢社会の到来を背景に、福祉サービスの提供組織は多様化するようになった。すなわち、かつてのサービス提供組織は行政(市町村等の地方公共団体)と民間では社会福祉法人が主流であったが、今日においては、社会福祉法人を含む、営利法人(株式会社等)及び NPO 法人等の多様な民間組織に変化してきている。そのために、相談援助活動に専門的に従事する社会福祉士は福祉サービス提供施設・事業所やサービス提供に関する経営管理の基礎知識も身に付けることが求められるようになってきている。(特に社会福祉法人や NPO 法人等の組織構造や効率的なサービス供給と運営の実態等について理解する必要がある)。</p>								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	様々な福祉サービス提供組織(経営・提供主体)と運営の視点・方法(サービス管理・人事労務関係、リスクマネジメント、会計管理等)・組織構造等について理解する。							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会福祉事業の経営主体について理解し、これらのプラスとマイナスについて判断できる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)				
1	・オリエンテーション・福祉組織の事例紹介 ・社会福祉施設の使命と役割(プリント)		プリント・パワーポイントを用いる。教科書も使用する。		講義終了時に指示する。				
2	社会福祉施設・事業の種類と社会福祉法				上に同じ				
3	社会福祉施設の特性と権利擁護の必要性(老人福祉施設等での虐待問題・苦情対応を例に)				教科書第1章の予習				
4	・施設=地域コンフリクト(プリント・ビデオ) ・福祉サービスに係る組織と経営				教科書第1章の復習				
5	福祉サービス組織や団体①(社会福祉法人)				教科書第2章の復習				
6	福祉サービス組織や団体②(NPO・医療法人等)				教科書第2章の復習				
7	福祉 NPO の現状-介護系 NPO を例として-				NPO 法人に関する予習				
8	福祉サービス組織と経営の基礎理論①				教科書第3章の復習				
9	・福祉サービス組織と経営の基礎理論② ・福祉サービス管理運営①(サービス管理①)				教科書第4章の復習				
10	・福祉サービス管理運営②(サービス管理と人事・労務管理)				教科書第5章の復習				
11	・福祉サービス管理運営③(会計・財務管理)				教科書第6章の復習				
12	・福祉サービス管理運営④(情報管理とリスクマネジメント)				教科書第7章の復習				
13	・法人運営に関する書類の意味と見方(定款・事業計画書、組織図・財務諸表等の具体的理解) ・福祉施設・事業の設備・人員等に関する基準の理解と必要性(調べる事業種別は指定する)				実際の福祉事業の運営基準、宣伝方法、財務諸表、サービス評価や情報公表制度等を調べ、組織構造、運営上の義務、情報公開・発信の必要性・方法等について、教科書で内容確認しながら具体的に理解する。		※情報処理室を活用するが、各種ホームページを参考に具体的に教科書の内容を説明しながら講義を進めるため、教科書とノートは必ず持参すること。		
14	・福祉サービス事業所・施設の情報発信の実際(アピール方法・情報公開の必要性・工夫等) ・介護サービス情報公表・福祉サービス第三者評価の現状と意義 ※課題を提出する。								
15	・全体まとめ(国家試験を見据えた教科書のポイント解説(※資料配布)) ・レポートの提出						まとめと解説		レポート提出と講義全体の振り返り。
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
授業での課題提出		◎				20			
最終回の提出レポート		◎	◎			60			
授業態度			○			20			
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等	教科書:中央法規『新社会福祉士養成講座 福祉サービスの組織と経営 第4版』2015. 参考文献:①全国社会福祉協議会『社会福祉施設経営管理論』2015.								
履修条件	特になし								
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を設ける。視聴覚教材を活用し、社会福祉施設の広報活動、運営管理の実際についても理解を深める。					授業中の撮影			

人間社会学部
社会福祉学科
(専門教育科目)

授業科目名	保健医療論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	岡田和敏						
授業の概要	傷病により派生する生活課題に対応する保健医療サービスの基礎的理解に努める。また、社会福祉士として他職種との連携や協働についての意味を理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	健康な状態から傷病を患うことで生活上に起きる問題との関連から保健医療サービスの必要性が理解することができる。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	保健医療サービスを支える制度・施設、専門職の資格・役割などについて説明することができる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	専門職としての価値や倫理を基盤として、論理的思考と的確な判断力を持つことができる。					
	DP4:表現力	傷病者にとって最大かつ漏れの無い利益に向け解決・調整に取り組むことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション 保健医療領域における国家資格(社会福祉士)を持つ意味		講義				
2	保険医療サービスとその構成要素、戦後の保健医療サービスの整備・拡充		講義		参考文献指定箇所の通読		
3	医療法改正にみる保健医療サービスの今日的課題		講義		参考文献指定箇所の通読		
4	医療連携・チーム医療の推進と社会福祉士・精神保健福祉士		講義		参考文献指定箇所の通読		
5	医療法による医療施設の機能・類型		講義		参考文献指定箇所の通読		
6	保健医療政策による医療施設の機能・類型		講義		参考文献指定箇所の通読		
7	診療報酬における医療施設の機能・類型		講義		参考文献指定箇所の通読		
8	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み ミクロレベル		講義		参考文献指定箇所の通読		
9	医療ソーシャルワーカーの歴史と業務の枠組み メゾ・レベル		講義		参考文献指定箇所の通読		
10	保険医療サービスの専門職の役割		講義		参考文献指定箇所の通読		
11	保健医療サービスの提供と経済的保障		講義		参考文献指定箇所の通読		
12	保健医療の専門職との連携方法と基礎知識		講義		参考文献指定箇所の通読		
13	保健医療の専門職との連携と協働の実際		講義		参考文献指定箇所の通読		
14	保険医療サービスにおける地域の社会資源との連携と実践		講義		参考文献指定箇所の通読		
15	保健医療サービスの課題		講義		参考文献指定箇所の通読		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			○	○	○		70
授業態度・授業への参加度					○		30
実務経験を生かした授業	医療機関で医療ソーシャルワーカーとしての経験をもとに講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト:テキスト:社会福祉士養成講座編集委員会編『新・社会福祉士養成講座第 保健医療サービス 第4版』中央法規出版 参考文献、資料等は講義時に情報提供する。						
履修条件	傷病により起きる生活課題を日頃から意識する						
学習相談・助言体制	講義時に質問を受ける					授業中の撮影	

授業科目名		就 労 支 援			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		黒 田 小夜子			後期集中	講義	選択	1	2年
授業の概要		社会福祉士養成カリキュラムにおける「就労支援サービス」の教育内容に盛り込まれている ①雇用・就労の動向と労働施策の概要 ②低所得者、障害者等に対する就労支援制度の概要 ③就労支援にかかる組織、団体の役割と実際 ④就労支援にかかる専門職の役割と実際 ⑤就労支援分野と教育・医療・福祉等関係機関との連携、またその実際について学ぶ。							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	障害者をはじめ生活保護受給者や母子家庭、ホームレスなど低所得者の職業的自立における、現状と課題、また具体的施策について理解することができる。							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	就労支援サービスにおける相談援助活動に必要なとされる専門的知識を習得し、また支援の実際を知ることにより、社会福祉の現場で実践・活用できる応用力を身につけることができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション 雇用・就労の動向・労働法規の概要				講義				
2	低所得者の就労の現状 生活保護制度における就労支援と専門職の役割				講義				
3	障害者雇用の現状 障害者福祉施策における就労支援と専門職の役割				講義				
4	障害者雇用施策の概要①(障害者の雇用の促進等に関する法律を中心に)				講義				
5	障害者雇用施策の概要②(民間企業における障害者雇用の取り組み等について)				講義				
6	就労支援における専門職の役割				講義				
7	就労支援の実際について(就労支援センターの取り組み等について)				講義				
8	就労支援分野と教育・医療・福祉等関係機関の連携と実際				講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
宿題・授業外レポート		◎	◎			80			
授業態度・授業への参加度			○	○		20			
補足事項		2/3以上講義に出席しても、レポートの提出がない場合は評価の対象としないため注意すること。 レポートの課題は、最終講義の時間にお知らせします。							
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		テキスト：新・社会福祉士養成講座 18〔編集〕社会福祉士養成講座編集委員会 「就労支援サービス」第4版 中央法規出版 2016年発行							
履修条件		事前学習として、テキストを予習しておくこと。							
学習相談・助言体制		講義後の時間、あるいはメールで受け付け回答します。						授業中の撮影	

授業科目名	権利擁護と成年後見制度		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	廣田久美子						
授業の概要	相談援助活動と法とのかかわりを理解し、福祉サービス利用者のもつ基本的人権をはじめとした諸権利を擁護する仕組みについて、制度と実践の両面から理解できるよう講義する。前半では、相談援助活動の上で必要となる法制度への理解を深める。後半では、福祉現場での具体的な適用について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	相談援助活動に関わる法（日本国憲法の基本原理、民法、行政法の理解を含む。）の仕組みと、それらが典型的な場面でどのように用いられるか説明できるようになる。②日常生活上の支援が必要な者に対する権利擁護制度・成年後見制度を説明できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的排除や虐待などの権利侵害や認知症を有する人への支援について、具体的事例で争点を見つけ、法的な解決方法を説明できるようになる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	ガイダンス		講義				
2	相談援助の活動と法（1）憲法		講義		テキスト・配布プリントを予習（各回指示します）		
3	相談援助の活動と法（2）民法その1		講義		テキスト・配布プリント		
4	相談援助の活動と法（3）民法その2		講義		テキスト・配布プリント		
5	相談援助の活動と法（4）民法その3		講義		テキスト・配布プリント		
6	相談援助の活動と法（5）民法その4		講義		テキスト・配布プリント		
7	相談援助の活動と法（6）行政法		講義		テキスト・配布プリント		
8	成年後見制度（1）		講義		テキスト・配布プリント		
9	成年後見制度（2）		講義		テキスト・配布プリント		
10	成年後見制度（3）		講義		テキスト・配布プリント		
11	日常生活自立支援事業、権利擁護にかかわる組織と専門職		講義		テキスト・配布プリント		
12	成年後見活動の実際（1）障害者支援・市町村申し立てなど		講義		テキスト・配布プリント		
13	成年後見活動の実際（2）被虐待児・高齢者虐待支援		講義		テキスト・配布プリント		
14	権利擁護活動の実際（被虐待児・高齢者・障害者虐待支援）		講義		テキスト・配布プリント		
15	成年後見、権利擁護活動の課題		講義		テキスト・配布プリント		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
成績評価方法							
定期試験		◎	◎			80	
小テスト・授業内レポート		○	◎			10	
授業態度・授業への参加度		◎	○			10	
補足事項		成績評価方法については、別途講義時間内において告知を行う。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等		福祉臨床シリーズ編集委員会編『権利擁護と成年後見制度 <第4版> (社会福祉士シリーズ)』弘文堂、2018年					
履修条件		特になし					
学習相談・助言体制						授業中の撮影	
出席カードへの記入による質問を受け付ける他、必要に応じて研究室で個別に対応をします。							

授業科目名		更生保護			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		今村浩司			後期	講義	選択	2	3年	
授業の概要		更生保護制度の対象者の歴史的背景や現状を正しく理解し、その概念と構成を学ぶ。また、更生保護制度の概要や基本的用語も理解をしていく。その中での現状、課題、対策などを検討していくとともに、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割について考えていく。								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	1、更生保護制度を説明することができる。 2、医療観察法を説明することができる。 3、更生保護におけるソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）の役割の説明ができる。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	1、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護制度における関係機関、団体及びその専門職との連携について説明する事ができる。 2、ソーシャルワーカー（社会福祉士・精神保健福祉士）として、更生保護の実践と今後の課題、展望について自らの意見を述べる事ができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	更生保護と社会福祉 刑事司法の現況、更生保護法制				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
2	更生保護制度の概要(1) 仮釈放と生活環境の調整、保護観察、				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
3	更生保護制度の概要(2) 更生緊急保護、恩赦				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
4	更生保護制度の概要(3) 犯罪予防、被害者支援				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
5	更生保護の担い手 地方更生保護委員会、保護観察所、民間協力者、更生保護施設				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
6	関係機関・団体との連携(1) 裁判所、検察庁、矯正施設				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
7	関係機関・団体との連携(2) 福祉事務所や公共職業安定所				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
8	矯正施設と処遇(1) 矯正施設と更生保護制度				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
9	矯正施設と処遇(2) 刑事収容施設				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
10	矯正施設と処遇(3) 社会復帰援助の現状と展望				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
11	医療観察制度の概要(1) 医療観察法について				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
12	医療観察制度の概要(2) 指定入院医療機関、指定通院医療機関				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
13	医療観察制度の概要(3) 社会復帰調整官、地域処遇				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
14	更生保護における動向と課題(1) 少年司法について				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
15	更生保護における動向と課題(2) 更生保護の総まとめ				講義		教科書該当部分の通読 配布資料の確認			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)				
定期試験		◎	○			70				
宿題・授業外レポート		◎	○			10				
授業態度・授業への参加度			○			10				
演習			○			10				
実務経験を活かした授業	刑事施設においてで触法障害者や高齢者支援を行った経験のある社会福祉士・精神保健福祉士の有資格の教員が、更生保護領域の実践場面での役割や、他機関他職種等との連携の在り方等を解説する									
テキスト・参考文献等	『更生保護制度』社会福祉士シリーズ 20、弘文堂（最新版） 参考文献については、随時講義内で紹介していく。資料を配布して説明を行う場合がある。									
履修条件	事例をもとにグループワークを行う場合があるので、受講生の積極的な参画を望む。									
学習相談・助言体制	講義の前後の時間随時可。またEメールも可。(imamura_k@seinan-jo.ac.jp)							授業中の撮影		

授業科目名	医療ソーシャルワーク論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次			
			前期	講義	選択	2	3年			
担当教員	畑 香 理									
授業の概要	本講義では、医療現場で起こり得る様々な問題について、事例を通して理解を深めていく。さらに、医療ソーシャルワーカーの役割や機能、多職種連携等について考察し、必要な知識・専門性を習得するとともに、社会資源の活用方法等についても学んでいく。									
学生の到達目標										
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	医療現場におけるソーシャルワーク実践について理解し、具体的な医療ソーシャルワーカーの活動内容について説明できる。								
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	対象者が抱える諸問題を把握し、援助の視点や多職種とのチームワークについて自分なりの意見を述べるができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容		授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション 保健医療を取り巻く情勢と医療ソーシャルワーカー					講義終了時に指示する。				
2	わが国の医療ソーシャルワークの歴史							指示された文献及びプリントを熟読すること。		
3	医療ソーシャルワーカーの主な業務と業務指針									
4	医療ソーシャルワーカーの主な業務と業務指針									
5	医療ソーシャルワーカーの役割と機能①									
6	医療ソーシャルワーカーの役割と機能②									
7	医療ソーシャルワークの実際例①(患者への個別支援)									
8	医療ソーシャルワークの実際例②(患者への個別支援)									
9	医療ソーシャルワークの実際例③(患者への個別支援)									
10	医療福祉分野における多職種連携①									
11	医療福祉分野における多職種連携②									
12	医療ソーシャルワークの実際例④(社会資源の活用)									
13	医療ソーシャルワークの実際例⑤(社会資源の活用)									
14	医療ソーシャルワーカーへのスーパービジョン									
15	まとめ									
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)				
定期試験		◎	○			60				
小テスト・授業内レポート		○				10				
授業態度・授業への参加度			◎			30				
実務経験を生かした授業	医療福祉領域において実務経験のある教員が、医療機関で必要とされる相談援助の知識・技術等を講義する。									
テキスト・参考文献等	テキスト:日本医療ソーシャルワーカー学会編『地域包括ケア時代の医療ソーシャルワーク実践テキスト』日総研 参考文献:NPO法人日本医療ソーシャルワーク研究会編『医療福祉総合ガイドブック 2019年度版』医学書院									
履修条件	「保健医療論」を履修していることが望ましい。									
学習相談・助言体制	授業終了時に相談に応じる。また、メールで質問を随時受け付ける。					授業中の撮影				

授業科目名	福祉住環境論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	木村和宣						
授業の概要	<p>本講義では、今日のわが国における社会構造の変化に伴い高齢者や障害者の日常生活をとりまく家族構造や住環境は変化してきている。障害を持ったり、高齢になっても自分らしい快適な生活が維持する住環境の整備について学ぶ機会とする。本科目では、福祉住環境に必要な高齢者や障害者の身体的な特性や医療・保険・福祉用具などの福祉と建築に関する幅広い知識を習得できる事を目的とする。また福祉住環境コーディネーターの受験や福祉用具専門相談員の資格取得に効果が上がるよう講義を行う。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	障害者や高齢者など社会的弱者の特性等及び福祉機器の基礎的な知識を習得できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	ライフスタイルを考慮した住環境の提案に必要な基礎的的判断思考力を習得出来る。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション 福祉住環境の意義		講義		テキスト予習・事後学習		
2	福祉住環境の基本的視点 ICFとノーマライゼーション		講義		テキスト予習・事後学習		
3	高齢者・障がい者の特性		講義		テキスト予習・事後学習		
4	高齢者に多い症状別特性別と住環境整備①		講義		テキスト予習・事後学習		
5	高齢者に多い症状別特性別と住環境整備②		講義		テキスト予習・事後学習		
6	障がい者に多い症状別特性と住環境整備①		講義		テキスト予習・事後学習		
7	障がい者に多い症状別特性と住環境整備②		講義		テキスト予習・事後学習		
8	福祉制度とサービス、福祉住環境に関連する法規と知識		講義		テキスト予習・事後学習		
9	高齢者・障がい者の住環境と福祉住環境整備の基礎知識		講義		テキスト予習・事後学習		
10	理解すべき建築知識と住環境整備の基本的配慮		講義		テキスト予習・事後学習		
11	住宅改修と住環境整備の手法①		演習		テキスト予習・事後学習		
12	住宅改修と住環境整備の手法②		演習		テキスト予習・事後学習		
13	住宅改修と住環境整備の手法③		演習		課題提出		
14	福祉用具と住環境整備		講義		テキスト予習・事後学習		
15	福祉のまちづくりと地域包括ケアシステム		講義		テキスト予習・事後学習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			10	
小テスト・授業内レポート		○	◎			20	
宿題・授業外レポート		◎	◎			50	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
実務経験を生かした授業	介護現場の経験のある教員が高齢者施設等や公共施設などの見学を取り入れ実際の建造物等から住環境について指導を行う。						
テキスト・参考文献等	<p>テキストは使用せず、毎回レジメを用意したものを使用します。 参考文献「OT・PTのための住環境整備論」野村 歡(著)、橋本 美芽(著) 三輪書店 第2版</p>						
履修条件	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。(講義終了後にも随時質問に対応します。)						
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。(講義終了後にも随時質問に対応します。)					授業中の撮影	

授業科目名	介護技術演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	木村和宣						
授業の概要	<p>①演習中心で様々な介護技法を通じて個々の個性や能力に応じた基本的な介護技術や介護方法の選択、福祉用具の使用用途について体験する学習機会にする。②対象者が自らが持っている能力を引き出す介護方法について考え、選択し、自立に向けた援助方法を提案できる。③今日提唱されている抱えない介護等の基本的な技術が習得できる。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	障害等の特性に応じた介護の技法に挑戦、対応方法を学ぶことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	身体の状態に応じた介護の技法と福祉機器等の活用について身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション(援助者の態度・介護の原則について、評価方法提示)		講義、演習		テキスト予習		
2	コミュニケーション技法、ボディメカニクス		講義、演習		テキスト予習		
3	生活環境の整備(ベッドメイキング)・抱えない介護技術①		講義、演習		テキスト予習		
4	基本的な姿勢と体位・移動・抱えない介護技術②		講義、演習		テキスト予習		
5	車イスの操作(屋内外での移動介助)		講義、演習		テキスト予習		
6	用途に応じた衣類の選択、寝衣・衣服交換の援助		講義、演習		テキスト予習		
7	清潔の意義・目的、清潔の援助(清拭)		講義、演習		テキスト予習		
8	清潔の意義・目的、清潔の援助(部分洗浄)		講義、演習		テキスト予習		
9	排泄の意義、排泄のメカニズム、自立へむけた援助法		講義、演習		テキスト予習		
10	トイレ誘導、ポータブルトイレ、オムツ交換		講義、演習		テキスト予習		
11	食事の意義・嚥下障害、栄養マネジメント		講義、演習		テキスト予習		
12	介護技術総合演習		講義、演習		テキスト予習		
13	介護技術総合演習		講義、演習		テキスト予習		
14	介護計画立案作成		講義、演習		レポート提出		
15	介護マネジメントと評価		講義、演習		レポート提出		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験					○	5	
小テスト・授業内レポート				○		5	
宿題・授業外レポート				○	◎	60	
授業態度・授業への参加度					○	15	
受講者の発表(プレゼン)				○	◎	15	
演習					○		
実務経験を生かした授業	介護現場の経験のある教員が福祉機器使用方法や抱えない介護方法などの基本的な知識及び介護技術が身につけられるようにおこないます。						
テキスト・参考文献等	【参考文献】介護福祉士養成講座編集委員会『新・介護福祉士養成講座 生活支援技術Ⅲ』、中央法規						
履修条件	演習の服装・靴は動きやすいものにしてください。(ジャージなど動き易い服装が好ましい)						
学習相談・助言体制	各講義の終了間際に質問の時間を取りたいと思います。(講義終了後にも随時質問に対応します。)					授業中の撮影	

授業科目名	医学概論				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 光本 いづみ				後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	<p>医学の入門として、現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防およびその背景に関する理解を深め、ヒトの健康とは何かを、各人の生活の中で考える。</p> <p>人体構造と心身機能のしくみを、成長・発達や日常生活との関連を踏まえ、基礎的知識として理解し身につける。</p> <p>疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、および連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割を習得する。</p>								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<p>1. 心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。</p> <p>2. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。</p> <p>3. リハビリテーションの概要について理解する。</p>							
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<p>1. 医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対しての態度、およびチーム包括ケアの中で果たすべき役割を適切に理解できる。</p>							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容							事前・事後学習（学習課題）	
1	人の成長・発達と老化 健康のとらえ方							テキスト 2-22 ページ テキスト 206-236 ページ	
2	身体構造と心身の機能							テキスト 26-50 ページ	
3	疾病の概要：生活習慣病と未病、悪性新生物、脳血管障害、心疾患、高血圧							テキスト 54-71 ページ	
4	疾病の概要：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患							テキスト 72-82 ページ	
5	疾病の概要：血液疾患と膠原病、腎臓疾患と泌尿器系疾患							テキスト 84-93 ページ	
6	疾病の概要：骨・関節疾患と目・耳の疾患と感染症							テキスト 95-106 ページ	
7	疾病の概要：神経疾患と難病と先天性疾患							テキスト 107-114 ページ	
8	老年症候群と終末期医療							テキスト 117-127 ページ	
9	障害の概要：視覚、聴覚、平衡機能、肢体不自由							テキスト 130-144 ページ	
10	障害の概要：内部、知的							テキスト 146-150 ページ	
11	障害の概要：発達、認知症							テキスト 152-160 ページ	
12	障害の概要：高次脳機能、精神							テキスト 162-170 ページ	
13	国際生活機能分類（ICF）の基本的考えと概要 リハビリテーションの概要							テキスト 174-202 ページ	
14	介護保険特定疾病							資料	
15	高齢者総合機能評価							資料	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
定期試験		◎	○			50			
小テスト・授業内レポート		◎	○			20			
宿題・授業外レポート		◎	◎			10			
授業態度・授業への参加度		○				10			
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			10			
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：「人体の構造と機能及び疾病」新・社会福祉士養成講座 1 中央法規（2200 円）</p> <p>参考書：「医学一般」コンパクト福祉系講義金芳堂（2200 円）</p> <p>「病気がみえる Vol. 1～11」メディックメディア</p>								
履修条件	なし								
学習相談・助言体制	<p>1. 毎時間、前時間の主な質問について解説します。</p> <p>2. メール（mitsumoto@iken.ac.jp）にて個別に受け付けます。</p>							授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	寺島正博						
授業の概要	<p>目まぐるしく変わる精神障害者福祉の制度や政策、さらには精神障害者の置かれている実情について講義を行う。また本講義は国家試験の「精神保健福祉に関する制度とサービス」に位置する科目であるため、それに対応した内容も行う。</p> <p>実践現場ではソーシャルワーカーの多面的な視点が必要とされることから、毎回「福祉新聞」を用いて精神障害者福祉の問題のみならず老人・貧困等と、さまざまな課題を取り上げ共に考えていく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	精神障害者の生活実態、精神障害者の地域生活支援システム、精神障害者の居住支援、精神障害者の雇用と就労支援の状況等を主に説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義で学んだ専門領域の知識を活用することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション	講義					
2	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス①	講義			テキスト第1章を熟読。		
3	社会保障全体からみた精神保健福祉に関する制度とサービス②	講義					
4	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化①	講義			テキスト第2章を熟読。		
5	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化②	講義					
6	精神保健福祉法の成立までの経緯と意義、その後の変化③	講義					
7	精神保健福祉法の概要①	講義			テキスト第3章を熟読。		
8	精神保健福祉法の概要②	講義					
9	精神保健福祉法の概要③	講義					
10	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス①	講義			テキスト第4章を熟読。		
11	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス②	講義					
12	精神障害者等の福祉制度の概要と福祉サービス③	講義					
13	精神障害者に関連する社会保障制度の概要①	講義			テキスト第5章熟読。		
14	精神障害者に関連する社会保障制度の概要②	講義					
15	まとめ	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	◎			30	
実務経験を生かした授業	障害福祉サービス等事業での勤務経験を有する教員が、実践現場を踏まえて精神保健福祉の現状等について説明する。						
テキスト・参考文献等	『6精神保健福祉に関する制度とサービス<第6版>』中央法規、2018年、2,700円(税別)						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> 授業終了後に質疑応答を随時受け付ける。 オフィスアワーの時間帯に相談や質問を受け付ける。 					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	今村浩司						
授業の概要	<p>本講では、「精神保健福祉論Ⅰ」での学びを踏まえた上で、相談援助に関わる組織や団体、関係機関および専門職や地域の支援者について学びを深める。そして、更生保護制度と医療観察法についての理解をするために、法制度および関係機関との連携、精神保健福祉士の役割について学ぶ。さらには社会資源の調整・開発に関わる社会調査の概要及び活用についても理解を図る。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	1. 精神障害者の支援において関わる施設や団体、関連機関等について説明することができる。 2. 更生保護制度のシステムと医療観察法について説明することができる。 3. 社会資源の調整・開発に関わる社会調査の概要とその活用について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	1. 精神保健福祉士として、更生保護制度、医療観察法、社会調査法等を、根拠に基づいて考察することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーションおよび「精神保健福祉論Ⅰ」の振り返り						「精神保健福祉論Ⅰ」の想起を行う。
2	相談援助に関わる行政組織と民間組織						テキスト第6章の通読
3	フォーマル・インフォーマルな社会資源の役割						テキスト第6章の通読
4	専門職や地域住民の役割と実際						テキスト第6章の通読
5	刑事司法と更生保護						テキスト第7章通読
6	保護観察所と更生保護の担い手						テキスト第7章の通読
7	司法・医療・福祉の連携の必要性和実際						テキスト第7章の通読
8	医療観察法の意義と内容						テキスト第7章の通読
9	医療観察法の審判と精神保健参与員						テキスト第8章の通読
10	医療観察法における入院医療と地域処遇						テキスト第8章の通読
11	社会復帰調整官の役割と実際						テキスト第8章の通読
12	社会調査の意義・目的・対象・倫理						テキスト第9章の通読
13	量的調査法と質的調査法						テキスト第9章の通読
14	情報通信技術（ICT）の活用方法および事例研究						テキスト第9章の通読
15	まとめ及び最重要点の確認						テキスト第6章から第9章までを通読
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			70	
宿題・授業外レポート		◎	○			10	
授業態度・授業への参加度			○			10	
演習			○			10	
実務経験を活かした授業	臨床実践の経験のある精神保健福祉士が、相談援助の実践場面での他機関他職種等との連携の在り方を解説する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：『精神保健福祉に関する制度とサービス』中央法規、[第5版] 参考文献：わが国の精神保健福祉 最新年度版、その他講義中に紹介する						
履修条件	「精神保健福祉論Ⅰ」を既習していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	随時受付。Eメールも可 (imamura_k@seinan-jo.ac.jp)						授業中の撮影

授業科目名	精神保健福祉論Ⅲ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	鬼塚 香						
授業の概要	精神障害者の生活支援の意義と特徴を理解し、精神障害者の生活実態、居住支援、就労支援、行政機関における精神保健福祉士の相談援助活動について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	精神障害者の生活実態と生活支援システムについて説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	精神障害者の居住支援、就労支援、行政における相談援助活動を理解し、生活支援システムのあり方をさまざまな観点から思考・判断することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義(適宜、視聴覚教材)				
2	精神障害者の概念		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
3	精神障害者の生活の実際① 精神障害者の現状		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
4	精神障害者の生活の実際② 海外における地域生活支援モデルの動向		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
5	精神障害者の生活と人権		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
6	精神障害者の居住支援① 居住支援制度の歴史的展開		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
7	精神障害者の居住支援② 居住支援の実際と精神保健福祉士の役割		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
8	精神障害者の就労支援① 雇用・就業支援制度の歴史的展開		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
9	精神障害者の就労支援② 雇用・就業支援の実際		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
10	精神障害者の就労支援③ 福祉的就労における支援の実際		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
11	精神障害者の生活支援システム① 精神障害者の自立と社会参加のための地域生活支援システム		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
12	精神障害者の生活支援システム② 余暇活動・ソーシャルサポートネットワーク・クライシスケアシステム等		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
13	行政における相談援助① 市町村における相談援助システム		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
14	行政における相談援助② 都道府県における相談援助システム		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
15	まとめ		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			70	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉士としての実務経験を有する教員が、精神障害者の地域生活支援について実体験を紹介しつつ、制度・サービスについて講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第7巻 精神障害者の生活支援システム第3版』中央法規出版、2018年、2916円(税込) 参考文献: 必要に応じて随時紹介する						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎授業終了時に課すリアクションペーパーに書かれた意見や質問に対しては、次回の授業でコメントする。また、授業終了時やオフィスアワーに質問や相談を受け付け、必要な場合には次回の授業時に対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉相談援助の基盤（専門）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	住友雄資		前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	わが国の精神保健福祉の現状を踏まえ、精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、相談援助に係る専門職の概念と範囲、相談援助における権利擁護の意義と範囲、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容を学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	精神保健福祉士が行う相談援助の対象と相談援助の概要、相談援助に係る専門職の概念と範囲、相談援助における権利擁護の意義と範囲、精神保健福祉活動における総合的かつ包括的な援助と多職種連携の意義と内容について理解することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	精神保健福祉分野における相談援助の基盤を学ぶことによって、相談援助についてさまざまな観点から思考・判断することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	オリエンテーション	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
2	精神保健福祉士の役割と意義	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
3	現代社会と精神保健福祉士の職域	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
4	精神保健福祉分野における相談援助の定義と構成要素	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
5	精神保健福祉分野における相談援助の価値・理念	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
6	欧米における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
7	日本における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史①	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
8	日本における精神保健福祉分野のソーシャルワーク史②	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
9	精神保健福祉分野における相談援助の体系	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
10	精神保健福祉分野における専門職の概念	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
11	精神保健福祉分野における専門職の業務範囲	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
12	精神障害者の権利擁護と精神保健福祉士の役割	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
13	専門職倫理と倫理的ジレンマ	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
14	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携①	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
15	精神保健福祉活動における総合的・包括的な援助と多職種連携②とまとめ	講義（適宜、視聴覚教材）	テキスト指定箇所通読（事前） ／授業内容のふりかえり（事後）				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
宿題・授業外レポート		◎	○			100	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神科領域のソーシャルワークを解説することにより、ソーシャルワークの専門知識・技術の習得を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第3巻 精神保健福祉相談援助の基盤（基礎・専門）』中央法規出版、2015、2,700円（税別） なお、必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロードし、授業に持参すること						
履修条件	精神保健福祉に関する身近な問題に関心をもちながら講義を受講すること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次回の授業時で対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉援助技術各論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	鬼塚 香						
授業の概要	わが国の精神保健福祉の歴史や精神障害者に対する支援の基本的な考えを理解し、精神障害者を対象とした相談援助技術の展開について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	精神保健医療福祉の歴史と動向、精神障害者に対する支援の基本的な考え方について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	精神障害者に対する相談援助の過程および相談援助活動に必要な面接技術を理解し、相談援助のあり方をさまざまな観点から思考・判断することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	講義(適宜、視聴覚教材)					
2	精神保健医療福祉の歴史と動向① わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
3	精神保健医療福祉の歴史と動向② わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
4	精神保健医療福祉の歴史と動向③ わが国の精神保健医療福祉の歴史と動向	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
5	精神保健医療福祉の歴史と動向④ 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
6	精神保健医療福祉の歴史と動向⑤ 諸外国の精神保健医療福祉制度の変遷	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
7	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と知識① 精神保健福祉士における活動の歴史	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
8	精神障害者に対する支援の基本的な考え方と知識② 精神障害者支援の理念と精神保健医療福祉における支援対象 精神障害者の人権	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
9	精神障害者支援の実践モデル 精神障害者支援の実践モデルの意味と内容 代表的な精神障害者支援の実践モデル	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
10	相談援助の過程および対象者との援助関係① ケース発見・受理面接と契約、課題分析と支援計画	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
11	相談所の過程および対象者との援助関係② 支援の実施と経過の観察、効果測定と支援の評価、終結とアフターケア	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
12	相談援助活動のための面接技術① 面接を効果的に行う方法	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
13	相談援助活動のための面接技術② 面接技法	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
14	スーパービジョンとコンサルテーション	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
15	まとめ	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所の通読・再読				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			70	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉士としての実務経験を有する教員が、精神保健医療福祉関連法令や精神保健医療福祉援助活動について講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開 I 第2版』中央法規出版、2014年、2916円(税込) 参考文献: 必要に応じて随時紹介する						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎授業終了時に課すリアクションペーパーに書かれた意見や質問に対しては、次回の授業でコメントする。また、授業終了時やオフィスアワーに質問や相談を受け付け、必要な場合には次回の授業時に対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉援助技術各論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	精神障害者の地域移行支援及び医療機関と地域の連携に関する基本的な考え方と支援体制の実際、精神障害者の地域生活の実態とこれらを取り巻く社会情勢及び地域相談援助における基本的な考え方、地域生活を支援する保健・医療・福祉等の包括的支援の意義と展開などについて学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	地域移行・地域定着支援場面におけるソーシャルワーク等について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	家族相談、地域移行支援や地域定着支援等におけるソーシャルワークの展開過程、地域生活支援における保健・医療・福祉等の包括的支援等について、さまざまな観点から思考・判断することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション/相談援助活動の展開① 内容と方法/個別支援の実際		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
2	相談援助の展開② 集団を活用した支援の実際		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
3	相談援助の展開③ 事例による相談援助の展開の検討		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
4	家族相談① 家族の現状と相談の方法		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
5	家族相談② 事例による家族相談の検討		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
6	地域移行支援① 対象と体制/精神保健福祉士を含む多職種連携		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
7	地域移行支援② 地域移行支援・地域定着支援事業におけるソーシャルワーク		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
8	地域移行支援③ 地域移行にかかわる機関と組織		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
9	地域移行支援④ 事例による地域移行支援の検討		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
10	地域相談援助① 主体・対象・体制		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
11	地域相談援助② 事例による地域相談援助の検討		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
12	地域を基盤とする支援とネットワーキング① 具体的場面における支援展開		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
13	地域を基盤とする支援とネットワーキング② 事例による地域を基盤とする支援		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
14	地域生活支援における包括的支援① 包括的支援の意義と展開		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
15	地域生活支援における包括的支援② 事例による包括的支援の検討/まとめ		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所通読(事前)/授業内容のふりかえり(事後)		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	○			100	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術を解説することにより、ソーシャルワークの知識・技術の習得を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』中央法規出版、2014、2,700円(税別) なお、必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロードし、授業に持参すること						
履修条件	「精神保健福祉援助技術各論Ⅰ」を履修済みであること。精神保健福祉に関する身近な問題に関心をもちながら講義を受講すること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次の授業時で対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	精神科リハビリテーション学Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	鬼塚 香						
授業の概要	精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセス、医療機関における精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	精神科リハビリテーションの概念と構成、プロセスについて説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	精神科リハビリテーションの展開とチーム医療における精神保健福祉士の役割、他職種連携・協働の方法について、さまざまな観点から思考・判断することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義(適宜、視聴覚教材)				
2	精神科リハビリテーションの概念と構成① 精神科リハビリテーションの概念		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
3	精神科リハビリテーションの概念と構成② 精神科リハビリテーションの理念、意義と基本原則		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
4	精神科リハビリテーションの概念と構成③ 精神科リハビリテーションの構成と展開		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
5	精神科リハビリテーションのプロセス① リハビリテーション計画・評価		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
6	精神科リハビリテーションのプロセス② アプローチの方法		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
7	精神科リハビリテーションのプロセス③ 疾病の経過、ライフサイクルと精神科リハビリテーション		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
8	医療機関における精神科リハビリテーションの展開① 精神専門療法		講義(適宜、視聴覚教材) 演習		テキスト指定箇所の通読・再読		
9	医療機関における精神科リハビリテーションの展開② 精神専門療法		講義(適宜、視聴覚教材) 演習		テキスト指定箇所の通読・再読		
10	医療機関における精神科リハビリテーションの展開③ 家族教育プログラム		講義(適宜、視聴覚教材) 演習		テキスト指定箇所の通読・再読		
11	医療機関における精神科リハビリテーションの展開④ 家族教育プログラム		講義(適宜、視聴覚教材) 演習		テキスト指定箇所の通読・再読		
12	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑤ 精神科デイケア・医療機関のアウトリーチ		講義(適宜、視聴覚教材) 演習		テキスト指定箇所の通読・再読		
13	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑥ 精神科デイケア・医療機関のアウトリーチ		講義(適宜、視聴覚教材) 演習		テキスト指定箇所の通読・再読		
14	医療機関における精神科リハビリテーションの展開⑦ チーム医療 医療機関における他職種との協働・連携		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
15	まとめ		講義(適宜、視聴覚教材)		テキスト指定箇所の通読・再読		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			70	
小テスト・授業内レポート		○	◎			10	
演習		○		◎		20	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉士としての実務経験を有する教員が、医療機関における精神科リハビリテーションにおける精神保健福祉士に必要な知識と技術について、経験談を交えながら講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第4巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅰ 第2版』中央法規出版、2014年、2916円(税込) 参考文献: 必要に応じて随時紹介する						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	毎授業終了時に課すリアクションペーパーに書かれた意見や質問に対しては、次回の授業でコメントする。また、授業終了時やオフィスアワーに質問や相談を受け付け、必要な場合には次回の授業時に対応する。					授業中の撮影	○

授業科目名	精神科リハビリテーション学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	住友雄資	後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	精神保健福祉士がおこなう地域を基盤にしたリハビリテーションなどについて学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	地域を基盤とした精神科リハビリテーションについて説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	地域におけるリハビリテーションの展開と精神保健福祉士の役割、多職種連携・協働の方法について、さまざまな観点から思考・判断することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション/地域ネットワーク① 必要性と目的と定義	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
2	地域ネットワーク② 種類と構造、形成のプロセスと精神保健福祉士の役割	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
3	地域ネットワーク③ インフォーマルネットワークとフォーマルネットワークの有機的活用	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
4	地域ネットワーク④ 地域ネットワークの課題と留意点	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
5	アウトリーチ① ニーズ把握・介入・モニタリング/訪問型サービス	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
6	アウトリーチ② 海外のアウトリーチとわが国の課題	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
7	ケアマネジメント① モデル(仲介モデル・ACT・ストレングスモデルなど)	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
8	ケアマネジメント② 原則と方法	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
9	ケアマネジメント③ 展開過程とチーム活動	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
10	ケアマネジメント④ 事例から学ぶ(ACTモデル)	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
11	ケアマネジメント⑤ 事例から学ぶ(ストレングスモデル)	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
12	地域生活支援事業(地域活動支援センターと相談支援事業を中心に)	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
13	セルフヘルプグループとその支援	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
14	精神保健福祉ボランティアの育成	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
15	まとめ	講義(適宜、視聴覚教材)	テキスト指定箇所通読(事前) / 授業内容のふりかえり(事後)				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	○			100	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神科リハビリテーション学を解説することにより、リハビリテーションの知識・技術の習得を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 日本精神保健福祉士養成校協会編『新・精神保健福祉士養成講座第5巻 精神保健福祉の理論と相談援助の展開Ⅱ』中央法規出版、2014、2,700円(税別) なお、必要な資料等を事前配布するので、授業開始前にeラーニングからダウンロードし、授業に持参すること						
履修条件	「精神科リハビリテーション学Ⅰ」を履修済みであること。精神保健福祉に関する身近な問題に関心を持ちながら講義を受講すること。						
学習相談・助言体制	メールで受け付け、回答することを原則とし、必要に応じて次の授業時で対応する。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年前期	演習	選択	1	3年
担当教員	住友雄資・鬼塚 香						
授業の概要	精神保健福祉士に求められる基礎的な知識と技術について、実践的に習得するとともに、専門的援助技術として概念化し理論化し体系立てていくことが能力を涵養する。その際、相談援助に係る基礎的な技術に関する具体的な実技と、地域福祉の基盤整備と開発に係る具体的な相談援助事例を用いることとし、個別指導ならびに集団指導・グループ学習などによる演習形式で習得することとする。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	精神保健福祉の問題解決に関わる基礎的な知識と技術を修得することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	精神保健福祉の諸問題に対応するための基礎的なスキルを身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーションおよび自己覚知に関する演習	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
2	基本的なコミュニケーション技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
3	基本的な面接技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
4	集団力動(グループダイナミクス)活用技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
5	情報の収集・整理・伝達の技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
6	課題の発見・分析・解決の技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
7	記録の技術の習得に関する演習	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
8	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域住民に対するアウトリーチとニーズ把握に関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
9	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域アセスメントに関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
10	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、地域福祉計画に関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
11	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、ネットワーキングに関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
12	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、社会資源の活用・調整に関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
13	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、社会資源の開発に関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
14	地域福祉の基盤整備に係る事例を活用した、サービス評価に関する実技指導	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
15	1～14までの内容のまとめ	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習				◎	○	100	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術の基礎を解説することにより、基礎的な専門知識・技術の習得を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト:日本精神保健福祉士養成校協会編(2016)『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版[第2版].						
履修条件	「精神保健福祉援助演習」「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」を履修中(予定含む)の者						
学習相談・助言体制	授業の前後またはオフィスアワー等で対応。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉援助演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期～ 4年後期年	演習	選択	2	3～4年
担当教員	住友雄資・鬼塚 香						
授業の概要	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値を基盤にして、援助・支援の方法・技術について、具体的な実践事例を通して、演習形式で習得することが中心である。また、演習課題に応じてグループ学習を行う。全30回のうち、3年生は前半の15回を行う。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	精神保健福祉の問題解決に関わる専門的スキルを修得することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	精神保健福祉の諸問題に対応するための専門的スキルを身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	オリエンテーション	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
2	支援課題に関する事例演習「社会的排除」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
3	支援課題に関する事例演習「地域移行支援」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
4	支援課題に関する事例演習「地域定着支援」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
5	支援課題に関する事例演習「ピアサポート」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
6	支援課題に関する事例演習「自殺(予防)」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
7	支援課題に関する事例演習「ひきこもり」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
8	支援課題に関する事例演習「虐待」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
9	支援課題に関する事例演習「薬物・アルコール依存」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
10	支援課題に関する事例演習「就労(雇用)」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
11	支援課題に関する事例演習「貧困(低所得)」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
12	支援課題に関する事例演習「ホームレス」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
13	支援課題に関する事例演習「SST」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
14	支援課題に関する事例演習「権利擁護」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
15	支援課題に関する事例演習「施設コンフリクト」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習				◎	○	100	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術を解説することにより、専門知識・技術の習得を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：日本精神保健福祉士養成校協会編(2016)『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版[第2版]。						
履修条件	「精神保健援助演習」を履修済、および「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」を履修中(予定含む)の者						
学習相談・助言体制	授業の前後またはオフィスアワー等で対応。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉援助演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期～ 4年後期年	演習	選択	2	3～4年
担当教員	住友雄資・鬼塚 香						
授業の概要	精神保健福祉領域におけるソーシャルワーク実践に必要な倫理や価値を基盤にして、援助・支援の方法・技術について、具体的な実践事例を通して、演習形式で習得することが中心である。また、演習課題に応じてグループ学習を行う。全30回のうち、4年生は後半の15回を行う。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	精神保健福祉の問題解決に関わる専門的スキルを修得することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	精神保健福祉の諸問題に対応するための専門的スキルを身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	支援モデルに関する事例演習「危機介入」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
2	支援モデルに関する事例演習「ストレングスモデル」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
3	支援モデルに関する事例演習「セルフヘルプグループ」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
4	支援モデルに関する事例演習「アウトリーチ」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
5	支援モデルに関する事例演習「チームアプローチ」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
6	支援モデルに関する事例演習「ケアマネジメント」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
7	支援モデルに関する事例演習「ネットワーキング」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
8	支援モデルに関する事例演習「社会資源活用・開発法」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
9	ソーシャルワーク過程に関する事例演習「インテーク」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
10	ソーシャルワーク過程に関する事例演習「アセスメント」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
11	ソーシャルワーク過程に関する事例演習「プランニング」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
12	ソーシャルワーク過程に関する事例演習「実施・モニタリング・評価」	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
13	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の実践課題に関する演習①	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
14	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の実践課題に関する演習②	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
15	実習を通して明らかになった精神保健福祉士の実践課題に関する演習③	演習	事例等の通読等(事前/演習事例のふりかえり学習(事後))				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習				◎	○	100	
実務経験を生かした授業	精神保健福祉領域で実務経験を有する教員が、精神保健福祉援助技術の解説することにより、専門知識・技術の習得を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト：日本精神保健福祉士養成校協会編(2016)『精神保健福祉援助演習(基礎・専門)』中央法規出版[第2版]。						
履修条件	「精神保健援助演習」を履修済、および「精神保健福祉援助実習指導」「精神保健福祉援助実習」を履修中(予定含む)の者						
学習相談・助言体制	授業の前後またはオフィスアワー等で対応。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉援助実習指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	3	3～4年
担当教員	住友雄資・鬼塚 香・畑 香理・平川明美						
授業の概要	<p>精神保健福祉援助実習指導は精神保健福祉士資格取得をめざす学生を対象としたものであり、4年次に開講する「精神保健福祉援助実習」に必要な事前学習（1～37回）・巡回指導・事後学習（38～45回）をおこなう。事前学習は、見学実習・プレ実習、講義（外部講師を含む）やグループ学習などをおこなう。巡回指導は、「精神保健福祉援助実習」において担当教員による指導をおこなう。事後学習は、「精神保健福祉援助実習」後に実習報告会やスーパービジョンなどを通じて、実習全体をふりかえり、実習で体験した学びを深める。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	精神保健福祉士としての法的責任や職業倫理を理解し、専門知識及び技術を継続的に高めていく意欲がある。					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> 精神保健福祉に関する問題について、各種の資料を適切に収集し、分析できる。 具体的な体験を言語化・概念化し、それを基にして専門知識及び技術を体系立てていくことができる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	見学実習学内オリエンテーション	授業の全体像および見学実習の概要の提示	精神科病院に関する予習				
2	見学実習（精神科病院）	グループによる見学実習	精神科病院に関する予習				
3	見学実習報告会	グループ別発表	プレゼンテーション資料の作成				
4	実習事前面接（受講動機、心構え、選択理由等の確認）	個別指導	受講動機の明確化				
5	実習報告会への参加	4年生の実習報告会参加	発表内容の予習・復習				
6	プレ実習学内オリエンテーション	プレ実習の概要の提示	プレ実習先に関する予習				
7	プレ実習 実習計画書作成指導①	個別指導	プレ実習計画書案の作成と指導後の修正				
8	プレ実習 実習計画書作成指導②	個別指導	プレ実習計画書案の作成と指導後の修正				
9	プレ実習 実習計画書作成指導③	個別指導	プレ実習計画書案の作成と指導後の修正				
10	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）①	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加				
11	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）②	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加				
12	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）③	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加				
13	プレ実習（障害福祉サービス事業所など）④	グループによるプレ実習	プレ実習計画書に基づいて積極的・主体的に参加				
14	プレ実習報告会	グループ発表	プレゼンテーション資料の準備				
15	外部講師による講義（PSW）	講義	講義内容の予習・復習				
16	実習計画書作成に関するオリエンテーション+実習計画書作成指導	実習概要の提示及び個別指導	実習計画書案の作成と指導後の修正				
17	実習計画書作成指導	個別指導	実習計画書案の作成と指導後の修正				
18	事前訪問、実習記録等書類提出、実習での留意点	個別及びグループ指導	授業後に学んだ内容を確実に復習する				
19	実習記録の書き方①	個別及びグループ指導	授業後に学んだ内容を確実に復習する				
20	実習記録の書き方②	個別及びグループ指導	授業後に学んだ内容を確実に復習する				
21	事前学習① グループ発表（障害者基本法、障害者虐待防止法、障害者差別解消法、障害者優先調達推進法+政省令・告示）	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備				
22	事前学習② グループ発表（精神保健福祉士法+政省令・告示）	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備				
23	事前学習③ グループ発表（精神保健福祉法+政省令・告示）	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備				

24	事前学習④ グループ発表(障害者総合支援法:障害福祉サービス・地域生活支援事業+政省令・告示)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
25	事前学習⑤ グループ発表(生活保護法/生活困窮者自立支援法+政省令・告示)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
26	事前学習⑥ グループ発表(医療保険・年金保険)	グループ発表・グループ討論	プレゼンテーション資料の準備
27	外部講師による講義① 当事者	講義	講義内容の予習・復習
28	外部講師による講義② P S W	講義	講義内容の予習・復習
29	事前学習⑦ 実習記録の書き方③	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
30	事前学習⑧ 実習記録の書き方④	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
31	事前学習⑨ 実習記録の書き方⑤	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
32	事前学習⑩ 実習記録の書き方⑥	視聴及びグループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
33	事前学習⑪ 面接以外の場面における実習	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
34	事前学習⑫ 病院実習	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
35	事前学習⑬ 帰校日・巡回指導	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
36	事前学習⑭ 日誌	グループ討論	授業後に学んだ内容を確実に復習する
37	事後学習① 感想発表	個別及びグループ討論	実習施設ごとに現状を整理して参加する
38	事後学習② 個別指導①	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
39	事後学習③ 個別指導②	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
40	事後学習④ 個別指導③	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
41	事後学習⑤ 個別指導④	自己評価票等を用いた指導	自己評価票等の振り返り
42	事後学習⑥ プレゼン作成・発表指導①	個別及びグループ指導	実習報告会の発表準備
43	事後学習⑦ プレゼン作成・発表指導②	個別及びグループ指導	実習報告会の発表準備
44	事後学習⑧ プレゼン作成・発表指導③	個別及びグループ指導	実習報告会の発表準備
45	事後学習⑨ 実習報告会①	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
46	事後学習⑩ 実習報告会②	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
47	事後学習⑪ 実習報告会③	個別発表	実習施設ごとに発表資料を準備
48	事後学習⑫ 実習評価全体総括会	個別及びグループ発表	実習全体の振り返り

成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)

成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート				◎	○	15
宿題・授業外レポート				◎	○	15
授業態度・授業への参加度				◎	○	40
受講者の発表(プレゼン)				◎	○	30
実務経験を生かした授業	・精神保健福祉領域で実務経験を有する教員と現役の精神保健福祉士(ゲストスピーカー)とが共同して、精神保健福祉領域の現状や課題、援助技術を解説することにより、実践的な専門知識・技術の習得を指導する。					
テキスト・参考文献等	「精神保健福祉援助実習の手引き」、必要資料はeラーニングまたは授業時に配布する。					
履修条件	・1~15回の課題を全て達成していることが16回以降の履修条件である(3年次分)。 ・16~36回の課題を全て達成していることが「精神保健福祉援助実習」履修の条件である。					
学習相談・助言体制	実習指導は学生と教員との密接な協力体制が必要になるため、柔軟な相談体制をとる。具体的にはオリエンテーション時に説明する。				授業中の撮影	

授業科目名	精神保健福祉援助実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択	5	4年
担当教員	住友雄資・鬼塚 香・畑 香理・平川明美						
授業の概要	精神保健福祉援助実習は、精神保健福祉士資格取得をめざす学生を対象としたものであり、実習では、精神保健福祉士の実務・援助方法を学習する。4年次の6月～9月の間に、医療機関で15日間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で12日間以上の配属実習を行う。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理及び、自己に求められる課題把握等について、総合的に対応できる意欲と態度を身につけることができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	精神保健福祉士として求められる退院支援および地域生活支援等と、関連分野の専門職との連携のあり方およびその具体的内容について理解し、実践することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>本学では、6月～9月の間に精神科病院等の医療機関で15日間以上、地域の障害福祉サービス事業を行う施設等で12日間以上の配属実習（210時間）を、4年次に実施する。</p> <p>本学の実習指定施設である医療機関及び地域の障害福祉サービス事業を行う施設等において、実習指導者の指導の下、精神保健福祉援助並びに、障害者等の相談援助に係る専門的知識と技術について、具体的かつ実践的に理解しその技術等を体得する。また、精神障害者の置かれている現状を理解し、その生活実態や生活上の課題について把握する。</p> <p>具体的な内容については、以下に示す。</p> <ol style="list-style-type: none"> 精神科病院等の病院における実習では、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 <ol style="list-style-type: none"> 入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 退院又は地域移行・地域支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 多職種や病院外の関係機関との連携を通じた援助 地域の障害福祉サービス事業を行う施設等や精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受ける。 <ol style="list-style-type: none"> 利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 利用者理解とその需要の把握及び支援計画の作成 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）との支援関係の形成 利用者やその関係者（家族・親族・友人等）への権利擁護及び支援（エンパワメントを含む）とその評価 精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする支援におけるチームアプローチの実際 精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務への理解 施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定への理解と組織の一員としての役割と責任への理解 施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の実際 当該実習先が地域社会の中の施設・機関・事業者・団体等であることへの理解と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワークキング、社会資源の活用・調整・開発に関する理解 <p>なお配属実習では、精神保健福祉援助実習指導担当教員が、巡回指導等を通して、実習事項について学生及び実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導にあたる。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
実習態度・実習への参加度				○	◎	100	
実務経験を生かした授業	精神科病院・地域の障害福祉サービス事業所等において、精神保健福祉領域での実務経験を有する実習指導教員及び現任の精神保健福祉士（実習指導者）の指導の下、精神保健福祉援助に係る専門的知識と技術を習得する実習を行う。						
テキスト・参考文献等	「精神保健福祉援助実習の手引き」、必要資料はeラーニングまたは授業時に配布する。						
履修条件	3年次実施の次の課題を全て達成していること：①見学実習、②見学実習報告会、③4年生の実習報告会への出席、④個別面談、⑤プレ実習、⑥プレ実習報告会、⑦外部講師講話への出席。						
学習相談・助言体制	本実習は、学生と教員との密接な協働体制が必要になるため、柔軟な相談体制をとる。具体的には、「精神保健福祉援助実習指導」において説明する。					授業中の撮影	

授業科目名	精神保健学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	小 嶋 秀 幹		前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	公認心理師、精神保健福祉士、保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)	
1	精神保健とは(1)		講義			e-learning を利用	
2	精神保健とは(2)		講義			e-learning を利用	
3	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-1)		講義			e-learning を利用	
4	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-2)		講義			e-learning を利用	
5	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-1)		講義			e-learning を利用	
6	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-2)		講義			e-learning を利用	
7	精神保健活動の実際(家庭)		講義			e-learning を利用	
8	ライフサイクルにおける精神保健(思春期)		講義			e-learning を利用	
9	ライフサイクルにおける精神保健(青年期)		講義			e-learning を利用	
10	精神保健活動の実際(学校)		講義			e-learning を利用	
11	ライフサイクルにおける精神保健(成人期)		講義			e-learning を利用	
12	精神保健活動の実際(職場)		講義			e-learning を利用	
13	精神障害の基礎知識(うつ病)		講義			e-learning を利用	
14	ライフサイクルにおける精神保健(老年期)		講義			e-learning を利用	
15	精神保健活動の実際(地域)		講義			e-learning を利用	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			80	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が精神保健学の基本的知識を講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト:精神保健福祉士養成セミナー第2巻「精神保健学-精神保健の課題と支援」(第6版)(へるす出版、2017年、3200円)						
履修条件	引き続き「精神保健学II」を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。					授業中の撮影	

授業科目名		精神保健学Ⅱ			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		小嶋秀幹			後期	講義	選択	2	2年	
授業の概要		精神保健学Ⅰに引き続き、精神保健における個別課題への取り組みについて講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。								
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)			
1	精神障害対策			講義			e-learning を利用			
2	認知症対策			講義			e-learning を利用			
3	アルコール関連問題対策(1)			講義			e-learning を利用			
4	アルコール関連問題対策(2)			講義			e-learning を利用			
5	薬物乱用防止対策(1)			講義			e-learning を利用			
6	薬物乱用防止対策(2)			講義			e-learning を利用			
7	思春期精神保健対策			講義			e-learning を利用			
8	地域精神保健対策			講義			e-learning を利用			
9	司法精神保健対策			講義			e-learning を利用			
10	緩和ケアと精神保健			講義			e-learning を利用			
11	地域精神保健施策			講義			e-learning を利用			
12	精神保健福祉に関する調査研究			講義			e-learning を利用			
13	メンタルヘルスと精神保健福祉士の役割			講義			e-learning を利用			
14	精神保健に関わる専門職種の役割と連携			講義			e-learning を利用			
15	世界の精神保健			講義			e-learning を利用			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
定期試験			◎	○			80			
宿題・授業外レポート			○	◎			20			
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が精神保健学の基本的知識を講義する。									
テキスト・参考文献等	テキスト:精神保健福祉士養成セミナー第2巻「精神保健学—精神保健の課題と支援」(第6版)(へるす出版、2017年、3200円)									
履修条件	「精神保健学Ⅰ」を履修していること。									
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。							授業中の撮影		

授業科目名	学校ソーシャルワーク論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	奥村 賢一						
授業の概要	本講義では、①今日の学校教育現場にスクール（学校）ソーシャルワーカーを導入する意義とその必要性、②学校ソーシャルワークの発展過程、③海外のスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割と活動、④学校ソーシャルワークの実践モデル、⑤スクール（学校）ソーシャルワーカーのスーパービジョンの必要性、以上5点について重点的に理解を深めていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	学校ソーシャルワークを実践するうえで求められる学校教育および社会福祉等の専門的知識を体系的に理解している。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	学校教育現場における学校ソーシャルワーク実践の必要性ならびにスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割・機能を具体的な活動内容に照らし合わせて説明することができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	児童生徒を取り巻く学校・家庭・地域の情勢	<ul style="list-style-type: none"> ・講義は、パワーポイントや視聴覚教材を中心に解説や説明を行う。 ・テキストとプリントを中心に講義を進める。 ・単元により、グループ討議などを取り入れていく。 ・単元により、ミニレポートの提出を求める。 ・学生の理解状況に合わせて、授業の進度を調整していきたい。 			講義終了時に指示する		
2	学校ソーシャルワークの価値・倫理				授業内容（第2回）の復習		
3	アメリカでのスクール（学校）ソーシャルワーカーの発展史				授業内容（第3回）の復習		
4	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動				授業内容（第4回）の復習		
5	諸外国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動				授業内容（第5回）の復習		
6	わが国での学校ソーシャルワークの発展史				授業内容（第6回）の復習		
7	わが国のスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動				授業内容（第7回）の復習		
8	学校ソーシャルワークの実践モデルの概要				授業内容（第8回）の復習		
9	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実際例				授業内容（第9回）の復習		
10	学校ソーシャルワークの個別及び集団支援の実際例				授業内容（第10回）の復習		
11	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例その1				授業内容（第11回）の復習		
12	学校ソーシャルワークの学校・家庭・地域共同支援の実際例その2				授業内容（第12回）の復習		
13	学校ソーシャルワークの教育行政への支援				授業内容（第13回）の復習		
14	スクール（学校）ソーシャルワーカーへのスーパービジョン				授業内容（第14回）の復習		
15	まとめ				第14回の授業終了時に指示する		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎				60	
授業態度・授業への参加度			◎			40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト ・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規出版、2008年（3,240円） 参考文献 ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』、中央法規、2009年（2,592円） ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円）						
履修条件	・「学校ソーシャルワーク実習」の履修希望者 ・「家族福祉論」を履修することが望ましい						
学習相談・助言体制	授業の中で随時、対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名	学校ソーシャルワーク演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期 ～ 4年前期	演習	選択	2	3～4年
担当教員	寺田 千栄子						
授業の概要	<p>本演習では、スクールソーシャルワーカーが学校ソーシャルワーク実践を行ううえで身につけておくべき①価値・倫理、②子どもを取り巻く学校・地域の状況理解、③ケースマネジメント、④面接技法、⑤アウトリーチ、⑥チームアプローチ、⑦ネットワークキング、⑧コンサルテーション、⑨記録、⑩スーパービジョンに関する体験的学びから理解を深めていく。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	事例検討やプレゼンを通して、自己の考えや支援内容を他者に伝えることができる					
技能	DP10:専門分野のスキル	学校ソーシャルワークの視点から、社会福祉に関する問題を考えることができる					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. スクールソーシャルワーカーに求められる価値・倫理 3. 子どもを取り巻く学校・地域の状況理解①(教育アセスメント) 4. 子どもを取り巻く学校・地域の状況理解 8. ケースマネジメント②(アセスメント)②(教育アセスメント) 5. 子どもを取り巻く学校・地域の状況理解③(地域アセスメント) 6. 子どもを取り巻く学校・地域の状況理解④(地域アセスメント) 7. ケースマネジメント①(アセスメント) 9. ケースマネジメント③(プランニング) 10. ケースマネジメント④(プランニング) 11. ケースマネジメント⑤(モニタリング) 12. ケースマネジメント⑥(モニタリング) 13. 面接技法① 14. 面接技法② 15. 面接技法② 16. アウトリーチ① 17. アウトリーチ② 18. ケース会議を中心としたチームアプローチ① 19. ケース会議を中心としたチームアプローチ② 20. 学校(教職員)と連携したチームアプローチ① 21. 他機関(専門職種)・地域(住民等)と連携したチームアプローチ② 22. ネットワークキング① 23. ネットワークキング② 24. コンサルテーション① 25. コンサルテーション② 26. 記録法① 27. 記録法② 28. スーパービジョン①(機能と方法) 29. スーパービジョン②(体制づくり) 30. まとめ 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表(プレゼン)				◎		40	
演習					◎	40	
補足事項	演習を通して学生は主体的に学び積極的に授業へ参加すること。遅刻・無断欠席は厳禁とする。						
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、実践力向上に向けて身に付けておくべき学校ソーシャルワークの専門的知識、技術、価値・倫理をワークショップ形式などの演習を用いて実践的な指導を行う。						
テキスト・参考文献等	<p>参考文献</p> <ul style="list-style-type: none"> ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』中央法規 2009年(2,592円) ・門田光司・鈴木庸裕編『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房 2010年(3,024円) ・その他、授業時に適宜プリントや資料等を配布する。 						
履修条件	「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者						
学習相談・助言体制	授業の中で随時、対応していく					授業中の撮影	

授業科目名	学校ソーシャルワーク演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	4年
担当教員	寺田 千栄子						
授業の概要	演習では、①子どもの抱える問題（課題）を把握するための情報収集及び状況分析（アセスメント）方法、②アセスメントから個別教育支援計画の立案（プランニング）及び評価・査定（モニタリング）方法、③学校内での支援ケース会議の方法、④事例を通して学校ソーシャルワーク実践の展開方法、以上①から④を中心に学びを深めていく。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	事例検討やプレゼンを通して、自己の考えや支援内容を他者に伝えることができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	学校ソーシャルワークの視点から、社会福祉に関する問題を考えることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション						
2	学校ソーシャルワーク実践の導入(エントリー)①						
3	学校ソーシャルワーク実践の導入(エントリー)②						
4	アセスメントの展開(ミクロプラクティス)①						
5	アセスメントの展開(ミクロプラクティス)②						
6	教育支援のプランニング(ミクロプラクティス)①						
7	教育支援のプランニング(ミクロプラクティス)②						
8	支援ケース会議(メゾプラクティス)①						前回の授業内容を復習のうえ、授業に参加すること。
9	支援ケース会議(メゾプラクティス)②						
10	支援ケース会議(メゾプラクティス)③						
11	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開(ミクロ・メゾ・マクロプラクティス)①						
12	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開(ミクロ・メゾ・マクロプラクティス)②						
13	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開(ミクロ・メゾ・マクロプラクティス)③						
14	事例を通じた学校ソーシャルワーク実践の展開(ミクロ・メゾ・マクロプラクティス)④						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート					○	10	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表(プレゼン)				◎		40	
演習					◎	40	
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、実践力向上に向けて身に付けておくべき学校ソーシャルワークの専門的知識、技術、価値・倫理をワークショップ形式などの演習を用いて実践的な指導を行う。						
テキスト・参考文献等	参考文献 ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』中央法規 2009年(2,592円) ・門田光司・鈴木庸裕編『学校ソーシャルワーク演習』ミネルヴァ書房 2010年(3,024円) ・その他、授業時に適宜プリントや資料等を配布する。						
履修条件	「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者。						
学習相談・助言体制	授業の中で随時、対応していく。						授業中の撮影

授業科目名	学校ソーシャルワーク実習指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			3年後期 ～ 4年前期	演習	選択	2	3～4年
担当教員	奥村賢一						
授業の概要	実習指導では、①学校教育現場におけるスクール(学校)ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する。②実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する。③学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	スクール(学校)ソーシャルワーカーとしての価値・倫理を理解したうえで、学校ソーシャルワーク実習に臨む意欲と態度を示すことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	学校ソーシャルワークの専門的知識や技術、さらには価値・倫理を基盤にして、子どもの人権と教育および発達を保障していくための実践に取り組むことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション(学校ソーシャルワーク実習の意義)						
2～4	学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ	・毎回テーマに即したグループワークを中心に演習を行う。	・テキストおよび参考文献を熟読しておくこと				
5～7	実習先の学校状況やスクール(学校)ソーシャルワーカーの活動状況について知る	・各回授業内容の詳細については前回の授業終了時に伝える。	・毎回授業終了時に事前・事後学習の課題を伝える				
8～10	実習先における子ども家庭支援体制を理解する						
11～16	現場体験実習(児童福祉施設、要保護児童対策地域協議会他)	現地での見学および体験実習を行う。					
17～19	実習計画書作成	・計画書や記録(日誌)の作成方法に関するグループワークを行った後、個人指導を実施する。	・実習の手引きを熟読しておくこと				
20～22	実習記録の作成方法						
23	プライバシー保護と守秘義務	・グループワークを中心とした演習を行う。					
24	実習に向けた三者(実習生、担当教員、実習指導者)協議	・実習計画書に基づいた打ち合わせ等を行う。					
25	配属先校区の下見と地域の社会資源等に関する事前学習	・フィールドワークを実施する					
26	実習巡回指導	・実習内容に関するスーパービジョンを一人60分程度行う。	・授業時に学習課題の説明を行う。				
27	実習のふりかえり①	・実習計画に基づいて個人スーパービジョンを実施する。					
28	実習のふりかえり②	・実習評価に基づいてグループスーパービジョンを実施する。					
29	実習報告会	・実習内容及び成果・課題に関するプレゼンテーション	・実習終了後に説明を行う。				
30	まとめ	・実習全体のふりかえり					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート					○	30	
授業態度・授業への参加度			◎			40	
受講者の発表(プレゼン)					○	30	
補足事項	演習を通して学生は主体的に学び積極的に授業へ参加すること。遅刻・無断欠席は厳禁とする。						
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、実習に向けて身に付けておくべき学校ソーシャルワークの専門的知識、技術、価値・倫理を演習や体験実習などの方法を用いて実践的な指導を行う。						
テキスト・参考文献等	テキスト ・金澤ますみ・奥村賢一・郭理恵・野尻紀恵編『スクールソーシャルワーカー実務テキスト』、学事出版、2016年(2,800円) ・授業時に適宜プリントや資料等を配布する。 参考文献 ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年(2,592円) ・「学校ソーシャルワーク実習指導・実習の手引き」※開講期間中に受講者へ配布する。						
履修条件	「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者。						
学習相談・助言体制	授業の中で随時、対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名	学校ソーシャルワーク実習指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	4年
担当教員	奥村賢一						
授業の概要	実習指導では、①学校教育現場におけるスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する。②実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する。③学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る。						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての価値・倫理を理解したうえで、学校ソーシャルワーク実習に臨む意欲と態度を示すことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	学校ソーシャルワークの専門的知識や技術、さらには価値・倫理を基盤にして、子どもの人権と教育および発達を保障していくための実践に取り組むことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容						事前・事後学習（学習課題）
1	オリエンテーション 学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ①						<ul style="list-style-type: none"> ・テキストを購読しておくこと ・「学校ソーシャルワーク実習指導・実習の手引き」を熟読しておくこと ・前回の授業内容を復習のうえ、授業に参加すること
2	学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ②						
3	学校現場での実習にあたっての基本的な心構えを学ぶ③						
4	実習目標及び実習計画を明確化する①						
5	実習目標及び実習計画を明確化する②						
6	実習先の学校状況やスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動状況について知る①						
7	実習先の学校状況やスクール（学校）ソーシャルワーカーの活動状況について知る②						
8	学校教育現場におけるスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する①						
9	学校教育現場におけるスクール（学校）ソーシャルワーカーの役割や資質、技能、倫理等を理解する②						
10	実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する①						
11	実習先である学校の組織体制や学校が抱える状況、教職員の生徒への支援体制等を理解する②						
12	学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る①						
13	学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る②						
14	学校と地域の社会資源である関係機関の連携について知る③						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート					○	30	
授業態度・授業への参加度			◎			40	
受講者の発表（プレゼン）					○	30	
補足事項	・授業内レポートおよび受講者の発表 60% ※評価基準 A 60点 B 40点 C 20点						
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、実習に向けて身に付けておくべき学校ソーシャルワークの専門的知識、技術、価値・倫理を演習や体験実習などの方法を用いて実践的な指導を行う。						
テキスト・参考文献等	テキスト ・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規出版、2008年（3,240円） ・門田光司・奥村賢一監修『スクールソーシャルワーカー実践事例集』、中央法規、2014年（2,592円） ・「学校ソーシャルワーク実習指導・実習の手引き」※開講期間中に受講者へ配布する ・授業時に適宜プリントや資料等を配布する。 参考文献 ・門田光司・奥村賢一『スクールソーシャルワーカーのしごと』、中央法規、2009年（2,592円）						
履修条件	「学校ソーシャルワーク実習」履修希望者。						
学習相談・助言体制	授業の中で随時、対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名	学校ソーシャルワーク実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	奥村賢一		通年	実習	選択	2	4年
授業の概要	<p>学校教育現場における児童生徒の抱える問題（課題）を理解し、その支援方法としての学校・家庭・関係機関の協働を展開する学校ソーシャルワークについて学ぶため、スクール（学校）ソーシャルワーカーが配置されている小・中学校及び教育委員会での実習を行う。また、不登校等の児童生徒に対して直接的・間接的支援に関わる。</p>						
学生の到達目標							
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	スクール（学校）ソーシャルワーカーとしての価値・倫理に従い、学校ソーシャルワーク実践を展開していくための意欲と態度を能動的に示すことができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	学校ソーシャルワーク実習を通してスクール（学校）ソーシャルワーカーの専門的役割や支援活動について学び、基礎的な実践力を習得している。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
<p>学校ソーシャルワーク実習では「スクール（学校）ソーシャルワーク教育課程」の規定に則り、学校現場を中心に合計 80 時間以上の実習を行う。その内容は、以下の通りである。</p> <p>(1) スクール（学校）ソーシャルワーカーが配置されている小・中学校および教育委員会での実習を 80 時間以上行う。実習指導については、スクール（学校）ソーシャルワーカーが中心に行う。</p> <p>(2) 本学「不登校・ひきこもりサポートセンター」にて「県子どもサポーター」の登録を行い、対象となる子どもたちへの直接的支援（学習・余暇活動等）を中心とした実習を行う。</p> <p>(3) 実習報告会を学内で実施する。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート				○	○	15	
授業態度・授業への参加度				◎	◎	70	
受講者の発表(プレゼン)				○	○	15	
実務経験を生かした授業	スクールソーシャルワーカーとして勤務した経験のある教員が、実習指導者（スクールソーシャルワーカー）と共に学校現場で行う実習を通して実践力を養うための指導を行う。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本学校ソーシャルワーク学会編『スクールソーシャルワーカー養成テキスト』、中央法規出版、2008年（3,240円） 参考文献 ・『学校ソーシャルワーク実習指導・実習の手引き』 						
履修条件	「学校ソーシャルワーク論」「学校ソーシャルワーク演習」を履修済みであり、かつ「学校ソーシャルワーク実習指導」を履修している者。						
学習相談・助言体制	・相談には適宜対応していく。					授業中の撮影	

授業科目名	教育学概論 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	<p>教育の基本的概念、理念を学ぶことを通して、人間形成における教育の意義と役割、家庭・学校・社会における教育の特徴と役割、学校制度の目的と内容等、教育に関わる基礎的な知識、歴史、思想を講義するとともに、その変遷を理解する。さらに、幼稚園・保育所・認定こども園における幼児教育・保育、教育及び保育の現状と課題について理解する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	教育の意義、社会における教育の機能・役割について説明することができる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	学校・家庭・地域における教育の特徴・機能を説明することができる。					
	DP4:表現力	乳幼児の心身の発達の諸側面と保育との関係、幼稚園・保育所の目的・目標、両者の違い、子育て支援について説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	人間と教育 1		講義		授業内の配布資料を熟読しておくとともに、毎回の講義内容を復習すること。		
2	人間と教育 2		講義				
3	教育の目的・目標 1		講義				
4	教育の目的・目標 2		講義				
5	子どもの社会化と家庭教育		講義				
6	学校の成立と現代の学校制度		講義				
7	学校教育の目的と内容・方法		講義				
8	乳幼児の教育と保育		講義				
9	発達の諸側面と保育の基本		講義				
10	幼稚園の目的・目標		講義				
11	保育所の目的・目標		講義				
12	認定こども園の目的・目標		講義				
13	幼稚園・保育所・認定こども園の子育て支援		講義				
14	認定こども園の流れと幼保一体化の動向		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			80	
小テスト・授業内レポート		○	○			20	
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、教育の基本的概念、理念を指導するとともに、教育・保育現場との具体的なつながりについても指導をする。						
履 修 条 件	<p>大学での主体的な「学びの力」を身につけるため、板書に頼らず、自分の力で授業ノートやメモをとること。また、ノートの整理をしながら毎回必ず復習をすること。</p> <p>なお、この科目は保育士資格・幼稚園教諭免許取得希望者は必修となります。</p>						
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答によるが、質問・疑問等はメールで随時受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	教育学概論 B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	藤澤 健一		前期	講義	必修・選択	2	1年
授業の概要	<p>教育に関する概念、教育の理念、歴史と思想にかかわる基礎的事項を修得する。教育学は、乳幼児から成人にいたるまでの人間の成長と変化の過程を科学的、経験的に考察する。教育学の課題は、学校教育にとどまらず多様な側面をもつ。本講義では、教育学の基礎的概念を修得し、受講者による事前の調査、討論を通じて、知識の実践的な活用を体験する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	教育学における基礎的概念を理解できるようになる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	教育にかかわる事象を教育的に分析できるようになる。					
	DP4: 表現力	自己の意見を明晰に表現し、他者と協議できるようになる。					
技能	DP7: コミュニケーション力	グループワークを通じ自らの思考を論理的に伝達できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション(教育の概念・本質・目標)	講義	シラバスの精読				
2	教育政策の歴史と現代的な課題	講義とグループワーク	レポート準備				
3	教育の理念・思想(家庭教育と近代教育)	講義とグループワーク	レポート準備				
4	「教育」の理念とは何かーこれまでの体験から	講義とグループワーク	レポート準備				
5	教育の本質と目標(陶冶論、科学としての教育学)	講義とグループワーク	レポート準備				
6	教育の本質と目標(家庭教育、人間形成の概念)	講義とグループワーク	レポート準備				
7	教育の本質と目標(学校教育、現代の学校)	講義とグループワーク	レポート準備				
8	近代の教育制度(義務制・無償制・中立性)	講義とグループワーク	レポート準備				
9	現代日本の家庭教育と学校教育の歴史的展開	講義とグループワーク	レポート準備				
10	教育課題の歴史と現状	講義とグループワーク	レポート準備				
11	子どもと家庭教育(発達段階)	講義とグループワーク	レポート準備				
12	子どもと家庭教育(経験主義と体験学習)	講義とグループワーク	レポート準備				
13	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	レポート準備				
14	学校と学習の教育思想	講義とグループワーク	レポート準備				
15	講義全体の振り返り	講義とグループワーク	レポート準備				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)		○			○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	ボウルヴィ『母と子のアタッチメント』医歯薬出版、比較家族史学会『子どもと教育 近代家族というアリーナ』日本経済評論社、大田堯『ひとなる』藤原書店、学習指導要領(2017年度改訂)						
履修条件	人間形成学科必修、中・社、高・公、ならびに養護各免許必修。受講生の状況に応じて進行、および内容に変更をくわえる場合がある。						
学習相談・助言体制	メールで受付のうえ、来談。					授業中の撮影	

授業科目名	生涯教育論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	太田華奈		前期	講義	選択 形成学科必修	2	2年
授業の概要	生涯教育／学習の歴史、理念及び、日本型生涯教育／学習の政策、課題、社会教育と生涯学習との関係を学習するとともに、現代的課題を生涯教育／学習のまなざしで考えていきます。また、生涯学習を実践する形態の授業も行います。これらの学習を通して、自らの教育・学習観を見つめ、問い直し、暮らしや社会を生涯教育／学習の観点から考えていきます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	生涯教育／学習の基礎的な知識について理解することができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション(授業の進め方、グループ決め、文献を読んでグループでディスカッション)	講義、グループディスカッション	自分の考えを書く、相手に伝えることについて考えてきてください。				
2	生涯教育／学習を考える(1)共同学習、グループディスカッションってなんだろう？	講義、グループディスカッション	嫌だったディスカッションって？考えてきてください。				
3	生涯教育／学習を考える(2)映画(前)	映像視聴	学ぶとは？について考えてきてください。				
4	生涯教育／学習を考える(3)映画(後)、グループディスカッション	映像視聴、グループディスカッション	学ぶとは？について考えてきてください。				
5	生涯学習を実践する(1)あなたの想いを短歌に乗せて	講義、個人作業、グループワーク、グループ発表	日々の暮らしを見つめて過ごしてみよう。				
6	生涯学習を実践する(2)小国綾子『？が！に変るとき』(汐文社、2014年)についてグループディスカッション	講義、グループディスカッション、グループ発表	テキストを読み、感想、批判・疑問・話し合いたいことをまとめてきてください。				
7	生涯教育／学習を考える(4)歴史、理念、学習権宣言	講義	学習の主体であるとは？考えてきてください。				
8	生涯教育／学習を考える(5)法律、政策、課題	講義	学びが保障されるための課題とは？考えてきてください。				
9	生涯教育／学習と現代的課題(1)ボランティア	講義、グループディスカッション	課題論文を読み、要約、考察等をまとめてきてください。				
10	生涯教育／学習と現代的課題(2)公民館	映像、講義、グループディスカッション	地元の公民館に足を運んでみましょう。				
11	生涯教育／学習と現代的課題(3)夜間中学	映像、講義、グループディスカッション	「生きるための学び」とは？考えてきてください。				
12	生涯教育／学習と現代的課題(4)文化、芸術活動	講義、グループディスカッション	文化・芸術活動と学習の関係は？考えてきてください。				
13	生涯学習を実践する(3)あなたが好きな新書をおすすめしよう！	講義、グループワーク、発表	好きな新書を選び、感想と紹介を書いてきてください。				
14	私たちの学習権宣言を作ろう(1)グループワーク	講義、グループワーク	これまでの授業の振り返りと、学習権宣言の再読を行ってください。				
15	私たちの学習権宣言を作ろう(2)発表	グループ発表、批判的検討会	作成した学習権宣言を吟味しておいてください。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				70	
補足事項	授業参加度も評価の対象とします(30%)。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	◆テキスト：小国綾子『？(疑問符)が！(感嘆符)に変るとき—新聞記者、ワクワクする』(汐文社、2014年)1512円、ISBN-10: 4811321359 ◆参考文献：①社会教育推進全国協議会編『社会教育・生涯学習ハンドブック 第9版』(エイデル研究所、2017年)、②小林繁ほか『生涯学習概論』(エイデル研究所、2014年)、③長澤成次編『社会教育』(学文社、2010年)。						
履修条件	特にありません。						
学習相談・助言体制	相談等は授業の前後に行います。また、メールでも連絡を受け付けます。 ※この授業では、自分の考えを話すこと、書くこと、他者に伝えることを大事にしています。話し方、伝え方のハウツーから解放され、あなたが自分の声、ひいては声以前の声に耳を澄ませてあげてください。まずはスマートフォンから顔をあげてみませんか。そして一回、大きく深呼吸をしてみましょうよ。 またこの授業では、グループディスカッションを積極的に取り入れます。あなたのディスカッションへの参加を楽しみにしています。					授業中の撮影	

授業科目名		教育史			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		藤澤健一			前期	講義	必修・選択	2	2年	
授業の概要		<p>教育の歴史に関する基礎的知識、家庭教育と学校教育、社会環境の関係を実践的に修得する。家庭教育と学校教育、社会環境の関係を理解する。「教育史」とは、(学校教育に限定されない)広義の「教育」についての歴史的研究を指す。この講義では、現代日本の教育史や自分史を基本的な素材とする。断片的な知識を集積するのではなく、かけがえのない自己を通じて「教育」について深く考えることをねらいとしている。</p>								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	近現代日本の教育史にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。								
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会事象、自己にかかわる事象を歴史的に分析できるようになる。								
技能	DP7:コミュニケーション力	自らの考えを論理的に他者に伝えられるようになる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)			
1	オリエンテーション			講義			シラバスの精読			
2	教育の基礎的概念(代表的な教育思想)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
3	日本の学校教育の理念と歴史(近代教育の成立)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
4	現代日本の教育と家族・社会(歴史的前提)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
5	現代日本の教育と家族・社会(高度経済成長期)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
6	現代日本の教育と家族・社会(低成長期から現在)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
7	日本の教育政策の課題と現在の動向			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
8	日本の入試制度改革の歴史と現在の動向			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
9	日本の子どもの貧困の歴史と現在の動向			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
10	学習指導要領・教育課程(1960年代まで)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
11	学習指導要領・教育課程(1970年代から90年代)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
12	学習指導要領・教育課程の歴史(2000年代以後)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
13	現代日本の社会と教育課題(いじめの歴史)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
14	現代日本の社会と教育課題(不登校の歴史)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
15	現代日本の社会と教育課題(校内暴力の歴史)			講義とグループワーク			レポートなどの準備			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
小テスト・授業内レポート			○	◎			30			
宿題・授業外レポート			○	◎			30			
授業態度・授業への参加度					○		20			
受講者の発表(プレゼン)			○			○	20			
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等		鈴木晶子 山名淳『教育思想・教育史』協同出版、学習指導要領(2017年度改訂)								
履修条件		人間形成学科は必修、その他(教職課程など)は選択必修。受講生の状況に応じて進行、および内容に変更をくわえる場合がある。								
学習相談・助言体制		メールで受付ののち、対応。						授業中の撮影		

授業科目名	発達心理学 I - A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択必修	2	1年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	<p>人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのか、発達段階に沿って学んでいく。発達上の心身の障がいや問題についても取り上げ、将来、教育現場で必要となる発達心理学の専門知識を概説していく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	乳児期から青年期にかけての人の心身の発達及び障がいについて、概略が理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4: 表現力	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	発達心理学の誕生と歴史		<p>テキストに沿って講義していく。テキストの他にも適宜資料等を配布する。</p> <p>テキストで得た知識を具体的に理解するため、視聴覚学習を行う。</p>		<p>事前学習 次回のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p>事後学習 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認小クイズに参加して知識を身につける。</p>		
2	乳児の知的世界：選好注視、共同注視、社会的参照						
3	言葉の認識による世界の構築と代表的学習理論①：命名の爆発、学習と記憶、動機づけ理論①（古典的条件づけ・オペラント条件づけ）						
4	言葉の認識による世界の構築と代表的学習理論②：ピアジェの発達理論、素朴理論と科学理論、心の理論、観察学習、学習の認知説など						
5	人の中への誕生と成長：インプリンティング、愛着理論						
6	情動の発生と自己の成長、主体的学習活動を支える集団作り						
7	学校への移行 — 主体的学習活動を支える学習理論と学習評価の在り方 — 学習理論②（外発的動機づけと内発的動機づけ）、学習と知能、学習指導法						
8	科学性の成長と世界の拡大						
9	発達の障がいと学習支援総論						
10	発達の障がい各論（自閉スペクトラム①）～視聴覚教材～						
11	発達の障がい各論（自閉スペクトラム②）～視聴覚教材～						
12	フロイトの発達理論						
13	性的成熟とアイデンティティの模索（エリクソンの発達理論）						
14	思春期・青年期のこころの発達・学習と親子関係						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	○		60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		40	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎			
補足事項	「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認小クイズの最終結果によって評価されます。						
実務経験を生かした授業	発達臨床で実務経験のある教員が担当しています。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：『発達心理学』武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店</p> <p>参考文献：『教職ベーシック 発達・学習の心理学【改訂版】』（柏崎秀子編著、北樹出版社）</p> <p>『親と子の生涯発達心理学』（小野寺敦子著、勁草書房）</p>						
履修条件	後期『発達心理学Ⅱ』へと続く科目です。『発達心理学Ⅱ』を履修予定の学生は、前期で『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。						
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。					授業中の撮影	

授業科目名	発達心理学 I - B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	池 志保・林 ムツミ	前期	講義	選択必修	2	1年
授業の概要	人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達の中でも主に乳児期から青年期にかけて、人の心身がどのように発達していくのかを学ぶ。また、各年齢段階の子どもの DVD を視聴し、保育場面における子どもの行動を発達心理学的視点から理解し、対応を考える。幼児教育や保育場面に役立つ理論及び実践的な知識を学ぶ。						
学生の到達目標							
理解・知識	DP2: 専門・隣接領域の知識	幼児、児童および生徒の心身の発達並びに特徴、学習に関する基礎知識を身につける。発達を踏まえた学習支援について基礎的な考え方を理解する。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4: 表現力	心理学的視点から幼児、児童および生徒の行動を説明し、具体的な対応を述べるができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	発達心理学とは? : 発達段階、臨界期と最適期、遺伝と環境		講義(担当: 池・林)				
2	運動と認知発達理論: ピアジェとヴィゴツキーの発達理論		講義 (担当: 池)		事前学習 今回のテキストを読み、分からない箇所は自身でも調べておく。 事後学習 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。		
3	様々な学習の形態や概念の過程を説明する代表的学習理論と発達: 動機づけ理論、学習の認知説、記憶の発達						
4	主体的学習活動を支える指導の基礎となる学習理論や集団作り: 外発的動機づけと内発的動機づけ、観察学習、創造性、学習指導法						
5	情動と親子関係の発達						
6	性格・人格の発達						
7	遊びの発達と集団づくり						
8	子どもの発達障がいと学習支援						
9	0歳児の発達理解と対応実践(主に運動、愛着、認知)						
10	1歳児の発達・学習理解と対応実践(主に言語、認知)						
11	2歳児の発達・学習理解と対応実践(主に社会性、自律)						
12	3歳児の発達・学習理解と対応実践(主に人間関係、保護者対応)						
13	4歳児の発達・学習理解と対応実践(主に集団づくり、安全配慮)						
14	5歳児の発達・学習理解と対応実践(主に主体的学習指導の実践)						
15	主体的な学習活動を促す支援と学習評価の在り方の実践						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			40	
授業態度・授業への参加度		◎	◎				
実務経験を生かした授業	発達臨床や園で実務経験のある教員(池・林)が担当しています。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 『発達心理学 保育・教育に活かす子どもの理解』(本郷一夫著、建泉社) 参考文献等: 『教職ベーシック 発達・学習の心理学【改訂版】』(柏崎秀子編著、北樹出版社) その他、授業中に適宜資料を配布します。						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。					授業中の撮影	

授業科目名	発達心理学Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	必修 選択	2	1年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	<p>人のこころも身体と同様に発達していく。また、人の心は生涯に渡って発達や変化をしていくと考えられている。生涯発達を通して人の心身がどのように発達していくのか、ライフサイクルに沿って学んでいく。講義では、親子関係、きょうだい関係、夫婦関係などに関する発達心理学の知見を取り上げ、思春期から老年期に関する発達心理学上の問題と心理的援助についても概説していく。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	思春期から老年期にかけての人の心身の発達及び障害について、概略が理解できる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	理解した概略について、自ら考え、結論を見出すことができる。					
	DP4:表現力	理解した概略及び導き出された考察や結論を論理的に説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	生涯発達心理学(心身の発達、認知機能、発達障がい)		講義(配付資料)		<p style="text-align: center;">事前学習 次回のテキストを読み、分からない箇所は自分でも調べておく。</p> <p style="text-align: center;">事後学習 興味を抱いた箇所は自分でも調べ、考え、学びを深める。e-learningによる確認クイズに参加して知識を身につける。</p>		
2	人格の発達		講義(配付資料)				
3	視聴学習ーカイン・コンプレックス①		講義とDVD視聴				
4	視聴学習ーカイン・コンプレックス②		講義とDVD視聴				
5	青年期の発達理論ーピーター・ブロス他		講義(配付資料)				
6	青年期の親子関係		講義(配付資料)				
7	「学校から就職へ」		講義(テキスト)				
8	「恋愛関係の発達」		講義(テキスト)				
9	「結婚生活とその推移」		講義(テキスト)				
10	「親になること・親であること」①		講義(テキスト)				
11	「親になること・親であること」②		講義(テキスト)				
12	中年期の発達心理①(知的能力・記憶・創造性)		講義(テキスト)				
13	中年期の発達心理②(人格・社会性)		講義(テキスト)				
14	高齢者に関する発達理論(認知機能・感情・人格・社会性)		講義(テキスト)				
15	「発達心理学は何をするのか」及び発達に関する心理的援助		講義(配付資料)				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	○		60	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		40	
補足事項	「小テスト・授業内レポート」は、毎回の感想及び確認クイズへの参加提出によって評価されます。						
実務経験を生かした授業	発達臨床で実務経験のある教員が担当しています。						
テキスト・参考文献等	テキスト:『発達心理学』、武藤隆・久保ゆかり・遠藤利彦著、岩波書店 参考文献:『親と子の生涯発達心理学』小野寺敦子著、勁草書房						
履修条件	前期から続く科目です。前期科目『発達心理学Ⅰ-A』または『発達心理学Ⅰ-B』を先に履修しておくことをお勧めします。						
学習相談・助言体制	基本的には毎回感想シートにて感想や質問を書いてもらい、教員が次回の冒頭でコメントします。個人的な指導を希望される場合は、日時の予約をするため、授業終了時に教員に申し出てください。					授業中の撮影	

授業科目名	教育心理学概論（教育・学校心理学）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	福田 恭介						
授業の概要	<p>教育現場においては、子どもと教師だけでなく、親も関わりながら学校を動かしている。そこでは、発達、学習、算数・文章理解、動機づけをどのように支援していくか、知能・学力の評価、子ども社会、発達障害児への対応、不登校への対応などの問題について考えていく必要がある。教育心理学とは、教育現場で起こるさまざまな問題について心理学的知見に基づいて考えていく学問である。このような問題について考えることは、人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、教育と心理との関係について体験的に理解を深めることを目指す。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	図表や用語を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	指定された論文の内容を要約し、コメントを記述できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	授業内容について、質問やコメントを記述できる。					
	DP6: 社会貢献力	授業内容と自らの教育経験を結びつけ、課題を導き出すことができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習（学 習 課 題）				
1	心理学における教育心理学の位置づけの紹介	スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。その内容は、eラーニングに保存している。前もって、それらの資料を印刷しておくこと。	<p>授業に関連する指定された文献の指定された章を読んで、所定の書式のレポートに要約し、最後に200～300字程度のコメントを書く。</p> <p>レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> 文献①について要約 文献②1章 25-44 を2頁以内に要約 文献③「2. ペアレントトレーニングの実際」17-63 を2頁以内に要約 文献④を2頁以内に要約 不登校について2頁以内に要約 <p>詳しくは、授業中に紹介</p>				
2	「21世紀の教育心理学が目ざすもの（森敏明）」の紹介						
3	ピアジェの「認知発達理論」						
4							
5	発達障害(ASD: Autism Spectrum Disorder, AD/HD: Attention Deficit Hyperactivity Disorder, LD: Learning Disorder)についての紹介。						
6							
7	発達障害児のためのペアレントトレーニングから教師のトレーニングへ						
8							
9	子どもの数量理解						
10							
11	学習のしくみ						
12							
13	子どもの動機づけ						
14	知的能力と学力						
15	不登校						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート				◎		10	
宿題・授業外レポート			◎			30	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>①森敏昭（著）「21世紀の教育心理学が目ざすもの」有斐閣（書齋の窓） eラーニングに保存</p> <p>②R・キャンベル（編）「認知障害者の心の風景」福村出版</p> <p>③福田恭介（編）「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版</p> <p>④市川伸一（著）「学ぶ意欲の心理学」PHP新書</p> <p>⑤大村彰道（編）「教育心理学Ⅰ－発達と学習指導の心理学」東京大学出版会（参考文献）</p>						
履 修 条 件	人間形成学科の学生にとっては、この科目と幼児教育心理学のいずれかが必修 教職（中学社会、高校公民）を目指す学生にとっては、この科目と発達心理学Ⅰ-Aのいずれかが必修						
学習相談・助言体制	授業中のコメント・質問は、スマートフォンを利用してeラーニングに入力する。 スマートフォンを利用できない場合は、紙に書いて提出する。 その他の質問に対しては、時間が空いていれば受け付ける。					授業中の撮影	○

授業科目名	幼児教育心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択必修	2	2年
担当教員	福田恭介・中藤広美						
授業の概要	<p>保育の現場においては、保育者と子どもだけでなく、子ども同士で関わり、さらには親も関わりながら、子どもは育っていく。そのためには、子どもが育っていく環境や過程を理解した上で、子どもの発達を援助していくことが保育者には求められている。幼児教育心理学では、保育現場で起こるさまざまな問題について教育心理学の立場から考えていく。このような問題について考えることは、人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、さまざまなグループワークを通して幼児教育と心理との関係について体験的に理解を深めることを目指す。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	図表や用語を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	指定された論文の内容を要約し、コメントを記述できる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	授業内容について、質問やコメントを記述できる。					
	DP6:社会貢献力	授業内容と自らの教育経験を結びつけ、課題を導き出すことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	幼児教育・保育における心理学・教育心理学の位置づけの紹介	スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。その内容は、eラーニングに保存している。前もって、それらの資料を印刷しておくこと。	<p>授業に関連する本の指定された章を読んで、所定の書式のレポートに要約し、最後に200～300字程度のコメントを書く。</p> <p>レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> 文献②第1章「教会で叫びたかった少女」25-44を所定の書式2頁以内に要約 文献①1部2「ペアレントトレーニングの実際」17-58を所定の書式2頁以内に要約 文献①の事例73-177の中から1つ選んで所定の書式1頁以内に要約 図書館にある、ペアレントトレーニングあるいは発達障害に関する文献を1冊選んで、その推薦文を所定の書式1頁以内に要約 				
2	子どもの認知の発達と保育者の関わりI:講義						
3	子どもの認知の発達と保育者の関わりII:グループワーク(GW)						
4	子どものコミュニケーションの発達と保育者の関わりI:講義						
5	子どものコミュニケーションの発達と保育者の関わりII:講義						
6	子どものコミュニケーションの発達と保育者の関わりIII:GW						
7	子どもの学びと保育者による援助I:講義						
8	子どもの学びと保育者による援助II:GW						
9	子どもの知的能力の保育者による評価と援助I:講義						
10	子どもの知的能力の保育者による評価と援助II:GW						
11	子どもの発達障害I:Autism Spectrum Disorder(ASD):講義						
12	子どもの発達障害II:Attention Deficit Hyperactivity Disorder(AD/HD), Learning Disorder(LD):講義						
13	ペアレントトレーニングの考えに基づいた保育者による子どもの発達援助I:行動の観察と記録、環境の整え方:講義+GW						
14	ペアレントトレーニングの考えに基づいた保育者による子どもの発達援助II:困った行動を減らし、望ましい行動を増やすには、できないときの手助けの仕方:講義+GW						
15	ペアレントトレーニングの考えに基づいた保育者による子どもの発達援助III:ペアレントトレーニングの保育現場への応用:講義+GW						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート				◎		10	
宿題・授業外レポート			◎	◎		30	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
実務経験を生かした授業	中藤広美は、保育園・幼稚園で保育士・教諭の実績を持っている。その実績を踏まえて現場での子どもたちの活動や保育者としてのかかわりについてグループワークを行う。						
テキスト・参考文献等	①福田恭介(編著)「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版 ②R・キャンベル(編)「認知障害者の心の風景」福村出版						
履修条件	保育士・幼稚園教諭を目指す学生には必修						
学習相談・助言体制	授業中のコメント・質問は、スマートフォンを利用してeラーニングに入力する。その他の質問に対しては、eメールを利用し、時間が空いていれば受け付ける。					授業中の撮影	○

授業科目名		臨床心理学			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		岩橋宗哉			前期	講義	選択	2	3年
授業の概要		臨床心理学の成り立ちについて学ぶ。 クライアントへの基本的なかかわり方、理解のし方について事例を通して学習する。 現代の代表的な臨床心理学の理論である、精神分析、体験過程療法、認知行動療法についての基本的な考え方について学習する。							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	クライアントへのかかわり方の基本を説明することができる。 代表的な心理療法の基本的考え方について説明することができる。 神経症性障害、パーソナリティ障害、うつ病などの精神病理について説明することができる。							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	事例を読み、それを理解し、自らの考えを述べるができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)				
1	臨床心理学の成り立ち	講義			配付された資料をもとによく理解できるように復習してください。				
2	心理面接における共感	講義							
3	プレゼンスの重要性ー認知症の事例を通してー	事例を活用した講義							
4	フォーカシングと体験過程療法	講義							
5	精神分析の基本的な枠組み理解の枠組み（力動論）	講義							
6	精神分析の基本的な枠組み理解の枠組み（治療関係）	事例を活用した講義							
7	遊戯療法の事例を通してみる心の世界	事例を活用した講義							
8	認知行動療法の基本的枠組み	講義							
9	認知行動療法の実際	事例を活用した講義							
10	神経症性障害	講義							
11	ナルシズムとパーソナリティ障害	講義							
12	事例を通して学ぶーひきこもりー	事例を活用した講義							
13	うつ病について	講義							
14	事例を通して学ぶーうつ病ー	事例を活用した講義							
15	まとめ	講義							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
小テスト・授業内レポート		○	○			40			
宿題・授業外レポート		○	○			40			
授業態度・授業への参加度		○	○			20			
実務経験を生かした授業	臨床心理士で病院臨床の経験がある者が、事例等を用いて臨床心理学の概念を説明する。								
テキスト・参考文献等	参考文献：成田義弘・氏原寛「共感と解釈」人文書院（1999）マラン「心理療法の臨床と科学」誠信書房（1992）、ミルトン「精神分析入門講座」岩崎学術出版社（2006）、北山修「精神分析理論と臨床」誠信書房（2001）、松木邦裕「対象関係論を学ぶ」岩崎学術出版社（1996）、アン・ワイザー・コーネル「フォーカシング・ニューマニュアル」コスモス・ライブラリー（2005）、福盛英明多編「マンガで学ぶフォーカシング入門」誠信書房（2005）、山上敏子「行動療法」岩崎学術出版社（1990）、内山喜久雄他編「＜ケーススタディ＞認知行動カウンセリング」至文堂（2004）								
履修条件	特になし								
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を用紙に書いてもらい、次回に、答えていきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメール等で予約してください。							授業中の撮影	

授業科目名	子どもの保健		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	中原 雄 一						
授業の概要	子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義について理解を図るため、子どもの身体の発育や生理機能、運動機能、精神機能の発育について学習する。さらに、心身の健康状態とその把握方法や、子どもの疾病に対する予防や対応についても学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	① 子どもの発育・発達について、様々な面から特徴を理解する。 ② 健康にまつわる子ども特有の問題（環境や疾病など）について理解する。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	① 子どもの心身の健康を保持・増進するために、子どもに対する保健的支援のあり方について考えることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション/子どもの健康と保健の意義		授業の概要説明		シラバスの確認		
2	健康の概念と健康指標		基本的にはパワーポイントを使用して講義を行い、資料（プリント）を配布する。また、13回目の授業では、グループ発表を予定している（詳細は授業内で連絡）。 なお、授業の進捗によっては、授業内容の若干の変更や組み換えを行うこともある。		e-learning を利用して講義内容の復習を行う。		
3	子どもを取り巻く環境①（少子化、社会環境など）						
4	子どもを取り巻く環境②（家庭環境、虐待など）						
5	子どもの発育・発達①（身体の発育）						
6	子どもの発育・発達②（生理機能の発達）						
7	子どもの発育・発達③（運動機能の発達）						
8	子どもの発育・発達④（精神機能の発達）						
9	子どもの発育・発達⑤（①～④のまとめ）						
10	発育・発達の評価と診断基準						
11	子どもの健康状態の把握						
12	子どもの疾病の予防と適切な対応①（主な疾病の特徴）						
13	子どもの疾病の予防と適切な対応②（グループ発表）						
14	子どもの疾病の予防と適切な対応③（疾病の予防と対応）						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	○			50	
受講者の発表(プレゼン)		◎	○			25	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		25	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：特になし（プリントを随時配布） 参考文献：新カリキュラムのため出揃っていないので、授業内で適宜紹介する。						
履 修 条 件	保育士資格必修科目であることから、資格取得希望学生は必ず履修すること。 なお、資格取得を希望しない学生でも履修は可能。						
学習相談・助言体制	研究室への来室、もしくは必要に応じて随時対応する。					授業中の撮影	

授業科目名		教育相談			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		岩橋宗哉			前期	講義	選択	2	人社4年 看護3年
授業の概要		<p>この講義は、公認心理師、中学教諭、高校教諭、養護教諭を目指す学生を対象とした教育相談の講義である。</p> <p>1. 小学校から高校までの教育現場において、児童、生徒によくみられる問題やその背景について、発達課題も踏まえた理解やそれへの支援について事例を通して学ぶ。またそれにより、教育現場におけるカウンセリングの基礎的なかわり方について理解する。</p> <p>2. 子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者、教師集団、スクールカウンセラーなどが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について理解する。</p> <p>授業内容や順序については、若干変更することもある。</p>							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<p>1. 教育現場において児童や生徒に生じる問題やその背景、及びその支援について説明できる。</p> <p>2. 子どもや保護者に対して関わっていくときに必要なカウンセリング的な視点について説明できる。</p> <p>3. 子どもを中心に、保護者や他の教員等さらに学校外の機関との連携について説明できる。</p>							
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	発表を担当したテーマについて主体的に調べ、自らの意見を発表することができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス(授業の説明とカウンセリングの意義と理論について)			講義					
2	小学校における事例(1) 発達障害			<p>発表者が事前に担当する事例をまとめて発表する。受講者は、自分自身が児童・生徒やその保護者になったつもりで、追体験しながらその事例を理解していく。それぞれの受講者が自分の意見を持ち、またそれを発表することで相互にいつそう理解を深めていきたい。また、適宜こちらからも事例について質問を出し理解を深めていく。</p> <p>具体的な事例を通して各自が事例の登場人物に追体験しながら理解を深める方法は今までと同じである。それに加えて、不登校への対応や連携などに必要な具体的な方法について理解を深める。</p>					
3	小学校における事例(2) 虐待、心身症								
4	中学校における事例(1) 非行、いじめ								
5	中学校における事例(2) いじめ、不登校								
6	高校における事例(1) 対人関係が不安定な生徒など								
7	高校における事例(2) 摂食障害								
8	高校における事例(3) かかわりを拒否する生徒								
9	不登校をめぐる(1) 家庭訪問のしかた								
10	不登校をめぐる(2) 別室登校・適応指導教室の利用								
11	不登校をめぐる(3) ボランティア学生などの活用								
12	教員と保護者及び校内における連携								
13	外部機関との連携								
14	学校の緊急支援・危機支援								
15	まとめ								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
小テスト・授業内レポート			○		○		40		
授業態度・授業への参加度			○		○		20		
受講者の発表(プレゼン)			○		○		40		
実務経験を生かした授業	臨床心理士でスクールカウンセラー経験がある者が担当し、学生とともに事例の検討等を行う。								
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】参考文献は授業の中で指示、また、資料は必要に応じて配布する。</p> <p>【参考文献】「チーム援助入門」(石隈利紀・村田節子著、図書文化)、「子どものこころの不思議」(村田豊久、慶応義塾大学出版社)、「現実に介入しつつ心に関わる」(田嶋誠一、金剛出版)など</p>								
履修条件	特になし								
学習相談・助言体制	基本的には、授業の最後に質問等を書く用紙に記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、質問時間をメールを使って予約してください。						授業中の撮影		

授業科目名	教育相談（幼児教育）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	4年
担当教員	吉岡和子						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児期によくみられる臨床的な問題の理解や対応について事例を通して学ぶ。さらにカウンセリングマインドの必要性を理解する。 ・カウンセリングの基礎的な姿勢（受容・共感的理解等）や傾聴技法を理解する。 ・子どもたちの臨床的な問題に対してより効果的に取り組み、子どもたちによりよい援助を提供するためには、保護者・教員・専門家などが連携しあうことが不可欠である。連携の重要性とその方法について学ぶ。 						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> ・援助を必要としている子どもや保護者に対して、教育相談を通して関わっていくときに必要な視点がどのようなものであるのかについて説明できる。 ・教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。 					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを中心に、どのように連携をしていくのかについて意見が述べられる。 					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	保育園・幼稚園等における教育相談の意義と課題		講義		講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。		
2	乳児期の不適応①反応性愛着障害—特徴の理解及び対応（カウンセリング）		発表者が事前に担当する箇所をまとめて発表する。 ビデオで実際の様子を見てもらい理解を深める。 適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりしながら、理解を深めていく。 アサーションについて解説し、その後、グループワークをし、グループごとに活動内容を発表してもらう。 講義		発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。 発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。 具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。 参考資料を読んでおく。 ロールプレイに利用するシナリオを準備する。 講義内容を復習しておく。		
3	乳児期の不適応②ことばの遅れ—特徴の理解及び対応（カウンセリング）						
4	幼児期の不適応①分離不安障害、かんしゃく—特徴の理解及び対応（カウンセリング）						
5	幼児期の不適応②吃音（どもり）、チック症／チック障害—特徴の理解及び対応（カウンセリング）						
6	幼児期の不適応③夜尿（おねしょ）、夜驚—特徴の理解及び対応（カウンセリング）						
7	幼児期の不適応④指しゃぶり、性器いじり—特徴の理解及び対応（カウンセリング）						
8	発達障がい理解及び対応（カウンセリング）①LD、ADHD						
9	発達障がい理解及び対応（カウンセリング）②自閉症スペクトラム						
10	保護者への支援①観察と記録						
11	保護者への支援②望ましい行動を増やすには・困った行動を減らすには						
12	保護者への支援③できない時の手助けの仕方・環境の整え方						
13	効果的な連携のために①よりよいコミュニケーションを学ぶ～アサーション～						
14	効果的な連携のために②アサーション：シナリオロールプレイ						
15	カウンセリングの基礎的な姿勢や技法 まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		○	◎			30	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎			40	
その他		◎	○			30	
補足事項	発表とその他（最終レポートの提出）の両方が必要です。 授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。						
実務経験を生かした授業	保健センター等での保護者の相談に従事した経験及び幼稚園教諭への研修経験を生かして授業を行う。						
テキスト・参考文献等	【テキスト】 ①教育相談とカウンセリング—子ども発達理解を基盤として（金子智栄子編著、樹村房）②ペアレントトレーニング実践ガイドブック—さっとうまくいく。子どもの発達支援（福田恭介編、あいり出版） 【参考書・参考資料等】 ①子どもの発達理解とカウンセリング（金子智栄子編著、樹村房）②お母さんの学習室（山上敏子監修、二瓶社）③完璧な親なんていない！（ジャニス・ウッド・キャタノ著、三沢直子監訳、幾島幸子翻訳、ひとなる書房）④教育相談支援 子どもとかかわる人のためのカウンセリング入門（西見奈子・黒山竜太・松尾伸一・下田芳幸、萌文書林）⑤アサーションの心 自分も相手も大切にコミュニケーション（平木典子、朝日選書）その他は講義中に紹介						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。					授業中の撮影	

授業科目名	教育制度論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	坂 卷 文 彩		後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	現代公教育制度の意義・原理・構造と、学校教育をめぐる政策的な動向と課題について理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	基本的な学校教育制度に関して理解できる。					
	DP2:専門・隣接領域の知識	教育制度に関する基本的な概念（専門用語）を説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	教育制度に関する専門知識をもとにして、現代の教育の政策的な課題について検討できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	この授業の狙いと進め方、成績評価の方法等	講義形式（毎回、配布する新聞記事を用いて、授業時間内で、ミニレポートを作成する。）			授業前後に、各自で関連箇所に関して学習して臨むこと		
2	公教育制度の原理・理念						
3	公教育制度に関連する教育関係法規						
4	教育体系と教育制度の歴史 1						
5	教育体系と教育制度の歴史 2						
6	教育体系と教育制度の歴史 3						
7	教育体系と教育制度の歴史 4						
8	学校教育をめぐる政策的な動向と課題 1						
9	学校教育をめぐる政策的な動向と課題 2						
10	生涯学習						
11	教員制度						
12	教育制度を支える行政の仕組み						
13	学校教育を支える地域との連携						
14	学校安全への対応						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業外レポート		◎	◎	◎	◎	70	
授業内レポート		◎	◎	◎		20	
授業態度等				○		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト、参考文献等は、適宜、紹介する。						
履 修 条 件	特になし						
学習相談・助言体制	レポートの作成方法、定期試験等について授業時間内に指導・助言を行うほか、授業終了後の質問・相談にも、メールにて応じる。					授業中の撮影	

授業科目名	保 育 学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	董 秋 艶						
授業の概要	この講義は、教育・保育の意義、幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育・保育の基本、保育の内容と方法について理解することを目的とする。また、保育の思想と歴史の変遷を概説する。その後、近年の保育の現状と課題について、教育・保育行政の動向を踏まえて説明する。尚、保育現場の現状や実習生の実習体験も紹介しながら講義を進める場合もある。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	教育・保育の意義、幼稚園、保育所、幼保連携型認定こども園の目的、目標、内容、計画、方法について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	幼稚園・保育所・幼保連携型認定こども園の違いと共通点について、その根拠を挙げて説明することができる。					
	DP4:表現力	近年の保育・子育てなどの保育行政に関する動向を自ら調べ、意見を述べるすることができる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	オリエンテーション、 1. 保育の意義 (1)保育の理念と概念		講義		テキストの該当箇所を読み、予習・復習をすること。 ※事後学習として、講義内容と関連のある論文を適宜紹介するので、それらを読み視野を広げる		
2	(2)児童の最善の利益を考慮した保育 (3)保護者との協働		講義				
3	(4)保育の社会的意義 (5)保育所保育と家庭的保育		講義				
4	(6)保育所保育指針の制度的位置づけ		講義				
5	2. 保育所保育指針における保育の基本 (1)養護と教育の一体性		講義				
6	(2)環境を通して行う保育 (3)発達過程に応じた保育		講義・演習				
7	(4)保護者との緊密な連携 (5)倫理観に裏付けられた保育士の専門性		講義・演習				
8	3. 保育の目標と方法		講義・演習				
9	(1)生きる力		講義・演習				
10	(2)生活と遊びを通して総合的に行う保育		講義・演習				
11	(3)保育における個と集団への配慮		講義・演習				
12	(4)計画・実践・記録・評価・改善		講義・演習				
13	4. 保育の思想と歴史の変遷:諸外国や日本の保育の思想と歴史		講義				
14	5. 保育の現状と課題:諸外国や日本の保育の現状と課題		講義				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート		◎				20	
授業態度・授業への参加度		◎				10	
実務経験を生かした授業	教員としての経験を踏まえ、様々な事例を紹介し、理論と実践が結びつくようにします。						
テキスト・参考文献等	テキスト:「幼稚園教育要領解説」文部科学省 フレーバル館 (改定版) 「保育所保育指針解説書」厚生労働省 フレーバル館 (改定版) 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」内閣府 フレーバル館 (改定版) 参考文献:資料等は授業中に適宜紹介または配布する。						
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭1種免許の取得希望学生は、2年次に(保育実習Ⅰ、幼稚園教育実習Ⅰの履修前に)履修すること(入学時に既修得単位として本学から認定を受けた者を除く)。						
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスマナーを活用してください。					授業中の撮影	

授業科目名	保育課程論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	伊勢 慎						
授業の概要	幼稚園での教育と保育所での養護・保育の2つの視点から、全体的な計画・教育課程、そして指導計画の意義や編成の方法を理解するとともに、各園の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントと計画の作成を行うことの意義を理解する。加えて、子ども理解に基づいた保育内容の充実と質の向上に資するための保育・教育課程、保育の計画におけるそれぞれの評価の視点についても理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	保育所、幼稚園における全体的な計画・教育課程と指導計画の役割、意義がわかる。指導計画の種類と、それぞれの特性がわかる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	乳幼児の発達にそった、保育目標を達成するための指導計画を作成することができる。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	計画と実践との関係がわかり、計画を実践につなげることができる。実践にともなう乳幼児の成長をもとに全体的な計画・教育課程と指導計画の省察と評価、改善ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	全体的な計画・教育課程、指導計画の役割と意義		プリントを用い講義		テキストを読み、概略を理解する		
2	全体的な計画・教育課程と指導計画の関連性						
3	全体的な計画・教育課程モデルの検証		グループに分かれ検証、講義		全体的な計画・教育課程の作成		
4	検証にもとづいた全体的な計画・教育課程の作成						
5	指導計画の種類とそれぞれの役割ー長期と短期の指導計画ー		プリントを用い講義		各自作成した全体的な計画・教育課程の再考		
6	指導計画モデルの検証と改善点の理解						
7	指導計画作成の基礎①指導計画を構成するもの						
8	指導計画作成の基礎②指導計画作成の手がかり						
9	指導計画の作成ー長期的指導計画		グループに分かれ事前に作成した指導計画を基に発表、演習、講義		指導計画の作成、再考		
10	作成した長期的指導計画の改善						
11	指導計画の作成ー短期的指導計画						
12	作成した短期的指導計画の改善						
13	計画を実践に結びつける						
14	実践にもとづく全体的な計画・教育課程と指導計画の振り返り						
15	全体的な計画・教育課程、指導計画、保育実践の評価						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
宿題・授業外レポート			◎	◎			70
受講者の発表(プレゼン)					◎		30
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、全体的な計画・教育課程と指導計画について、現場の経験、実践を交え講義をする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領 参考文献：適宜指示する						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。					授業中の撮影	

授業科目名	保育方法論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	大久保 淳子						
授業の概要	<p>「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された乳幼児期の発達特性を踏まえた教育・保育の基本と方法について概説し、その後、現在の保育現場で実施されている様々な保育の現状を考察し、理論を踏まえた適切な指導（援助）方法について理解を深める。さらに、就学前の教育と小学校教育の円滑な接続のための接続期のカリキュラムについて理解する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	「幼稚園教育要領」・「保育所保育指針」・「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」に示された幼児期の発達特性を踏まえた教育・保育のねらいを達成するために指導する基本的事項と方法を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	多様な保育を理解し、理論を踏まえた適切な指導（援助）方法を説明できる。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	就学前の教育と小学校教育の円滑な接続のための方法を系統立てることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション・平成30年施行の幼稚園教育要領について		講義		配布資料などで復習する。		
2	「育みたい資質・能力」と幼児理解に基づいた評価について（1）		講義				
3	「育みたい資質・能力」と幼児理解に基づいた評価について（2）		講義				
4	教育・保育計画案の作成・発表		講義				
5	教育・保育計画案の作成・発表		講義・演習 ①受講生はグループで課題について発表する。 ②発表後、グループで討論する。 ③その後、全体で質疑・応答をする。 ④教員の解説				
6	保育実践の現状と課題 1 主体的・対話的で深い学びの実現について・グループワーク						
7	保育実践の現状と課題 2 環境を通して行う教育・グループワーク						
8	保育実践の現状と課題 3 幼児期にふさわしい生活の展開・グループワーク						
9	保育実践の現状と課題 4 遊びを通しての総合的な指導・グループワーク						
10	保育実践の現状と課題 5 一人一人の発達の特性に応じた指導・グループワーク						
11	保育実践の現状と課題 6 保育における個と集団の関係と学級経営・グループワーク						
12	保育実践の現状と課題 7 行事を生かした保育の展開・ICTの活用・グループワーク		講義・演習				
13	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について（アプローチカリキュラム）		講義・演習				
14	幼児期の教育と小学校教育の円滑な接続について（スタートカリキュラム）		講義・演習				
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	○			40	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)				◎		40	
実務経験を生かした授業	教員としての経験を踏まえ、様々な事例を紹介し、理論と実践が結びつくようにします。						
テキスト・参考文献等	幼稚園教育要領解説（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針解説（平成29年3月告示 厚生労働省）、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説（平成29年3月告示 内閣府文部科学省 厚生労働省）						
履修条件	幼稚園免許取得者は必修となります。						
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。					授業中の撮影	

授業科目名		保育者論			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		大久保 淳子			後期	講義	選択	2	1年
授業の概要		この講義では、保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけ、専門性、保育者の協働について理解し、さらに、保育者の専門職の成長について学ぶ。各講義のテーマの解説後、グループ内で討論をする場合もある。また、幼稚園教諭・保育士養成課程の仕組みと履修方法を体系的に理解する。適宜、保育現場のエピソードや実習生の体験なども紹介していく。							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	幼稚園教諭・保育士養成課程の履修方法・履修条件等を体系的に説明することができる。							
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	保育者の役割と倫理、保育者の制度的な位置づけを説明することができる。							
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	保育者の専門性について理解し、保育者の協働・専門職の成長について示すことができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	保育・教職の意義				講義		『学生便覧』を持参		
2	保育・教職の役割と倫理				講義		事後学習として、講義内容と関連のある論文を適宜紹介するので、それらを読み視野を広げる。		
3	幼稚園教諭・保育士・保育教諭の制度的位置づけ(免許・資格、責務)				講義				
4	保育士の専門性(養護と教育・資質・能力・知識・技術及び判断)				講義				
5	幼稚園教諭の専門性(教育・資質・能力・知識・技術及び判断)				講義・演習				
6	保育教諭の専門性(養護と教育・資質・能力・知識・技術及び判断)				講義・演習				
7	幼稚園教諭の専門性(保育の省察、保育の展開と自己評価)				講義・演習				
8	保育士・保育教諭の専門性(保育の省察、保育の展開と自己評価)				講義・演習				
9	保育の計画による保育の展開と自己評価				講義・演習				
10	教育課程による教育の展開と自己評価				講義・演習				
11	保育と保護者支援にかかわる協働・専門職間及び専門機関との連携				講義				
12	保護者及び地域社会との協働・家庭的保育者等との連携				講義				
13	保育・教職の専門職的成長・生涯発達とキャリア形成(1) 専門性の発達				講義				
14	保育・教職の専門職的成長・生涯発達とキャリア形成(2) 生涯発達とキャリア形成				講義				
15	まとめ				講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験			◎	◎	○		70		
小テスト・授業内レポート			◎				20		
授業態度・授業への参加度			◎				10		
実務経験を生かした授業	教員経験を踏まえて、様々な事例を紹介し、理論と実践が結びつくようにします。								
テキスト・参考文献等	幼稚園教育要領解説(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針解説(平成29年3月告示 厚生労働省)、幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説(平成29年3月告示 内閣府文部科学省 厚生労働省)								
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭1種免許状の取得希望学生は、1年次に(保育実習Ⅰ、幼稚園教育実習Ⅰの履修前)に履修すること(入学時に既修得単位として本学から認定を受けた者を除く)。								
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。							授業中の撮影	

授業科目名	保育内容総論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	2	2年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	<p>保育・幼児教育において、育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を理解すると共に、保育所保育指針・幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について、背景となる専門領域、指針・要領の各章と関連させて理解を深める。また、乳児から幼児の発達や生活に即して、養護を含めつつ、主体的・対話的で深い学びが実現する過程（計画・実践・観察・記録・評価・改善）を踏まえて具体的、且つ多様な展開を想定して保育を構想し、実践的に学ぶ。その際、子どもの発達や生活を取り巻く社会的背景及び保育内容の歴史の変遷についても学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	幼稚園教育要領と保育所保育指針を中心に、保育内容について理解し、乳幼児に沿った保育内容の知識を取捨選択できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	保育内容の歴史、意義をマクロな視点とミクロな視点から分析し、現代の保育現場で求められる育みたい資質・能力、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた保育内容を考察できる。					
	DP4: 表現力	各年齢の保育内容を理解した上で、年齢・発達にあった保育実践の発表を行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	保育内容の基本的な視点について		プリントを用い講義・演習		・幼稚園教育要領、保育所保育指針を事前に熟読 ・疑問点をまとめる		
2	保育内容とは何か・保育内容と遊び・保育内容と発達						
3	保育内容の歴史・変遷						
4	幼稚園・保育所の1日						
5	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較1						
6	幼稚園教育要領と保育所保育指針における保育内容の比較2						
7	領域と保育内容1						
8	領域と保育内容2						
9	0歳児の保育内容と演習		保育内容を実践するための講義とグループに分かれ演習(保育実践映像資料視聴)		・実践する内容の準備		
10	1歳児の保育内容と演習						
11	2歳児の保育内容と演習						
12	3歳児の保育内容と演習						
13	4歳児の保育内容と演習						
14	5歳児の保育内容と演習						
15	児童文化からのアプローチ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎				40	
宿題・授業外レポート		◎				40	
受講者の発表(プレゼン)			◎			20	
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼稚園教育要領、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、保育内容について、現場の経験、実践を交え演習をする。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。					授業中の撮影	

授業科目名	保育内容演習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	4年
担当教員	櫻井国芳・鷺野彰子・大久保淳子						
授業の概要	<p>幼児が様々な体験を積み重ねながら総合的に発達することに鑑み、保育内容各論で学習した内容の総合化を試みる。具体的には、実習等で得た体験や観察をもとに子どもの活動の総合性を確認し、誕生会や運動会、生活発表会などで催される総合的な活動を体験する。とりわけ各種表現手法とその総合化については、パネルシアターや手遊び、劇、器楽演奏など、子どもの前で役立つような実技を発表会として構成し、近隣の保育園児の前で発表する。</p> <p>以上の実践を踏まえて、幼児教育の基本である「遊びを通しての総合的な指導」について理解を深める。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	実践の場面を想定しながら、保育内容5領域を総合化すること(必要性等)について理解し説明できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	保育題材の様々な提示方法のあり方をふまえ、実践につなげるための工夫について意見が述べられる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	パネルシアター、劇、器楽演奏など総合的な保育の題材を企画・実践することにより必要なスキルを身に付け、活用することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション(担当:櫻井)	本授業の意義や目的、そして発表会に向けての取り組み方について説明する。					
2	発表会へ向けての準備1(担当:櫻井)	役割分担などを決め、脚本・大道具・小道具作り、器楽演奏の練習を進める。			グループや全体で話し合う。 グループで時間を調整し、授業時間以外でも練習すること。		
3	発表会へ向けての準備2(担当:鷺野)						
4	発表会へ向けての準備3(担当:鷺野)						
5	発表会へ向けての準備4(担当:櫻井)						
6	発表会へ向けての準備5(担当:櫻井)						
7	発表会へ向けての準備6(担当:鷺野)						
8	発表会へ向けての準備7(担当:鷺野)						
9	発表会のリハーサル(1回目)を行う(担当:鷺野)						
10	発表会のリハーサル(2回目)を行う(担当:櫻井)						
11	発表会を行う(担当:櫻井、鷺野)	近隣の保育園の子どもたちを招いて発表会を行う。					
12	保育の全体構造と保育内容について(担当:大久保)	幼児教育の基本である「遊びを通しての総合的な指導」について理解を深める。					
13	保育内容の展開について1(担当:大久保)	5領域に示された「ねらい」と「内容」について、実践を通して理解する。					
14	保育内容の展開について2(担当:大久保)						
15	まとめ(担当:大久保)	理論と実践の往還をはかる。					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験				◎			
受講者の発表(プレゼン)		◎			◎		
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、その経験を活かして、実践を想定した保育内容の展開等について指導する。						
テキスト・参考文献等	①保育所保育指針 ②幼稚園教育要領 ③その他必要な楽譜や楽器及びCD・VTR等は大学で準備する。						
履修条件	原則として、保育内容・表現Ⅰ、同Ⅱの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可、できればメールで予約してください。					授業中の撮影	○

授業科目名	子どもの食と栄養		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	3年
担当教員	青木 哲美						
授業の概要	子どもの心身の発達に食と栄養は重要な役割を果たしている。胎児期から思春期の各段階に応じた栄養と食生活について学ぶ。また、食生活環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を挙げ、小児期からの「食育」の重要性についても理解をする。保育者も自らの食生活を振り返り食改善していくことも視野に入れ、子どもとともに食を楽しみながら、子どもの食への関心を育み“食を営む力”を培う「食育」を実践し、活動展開する重要性についてもさらに理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	小児の発育発達における意義や基礎的な栄養に関する知識について理解できる。 地域社会における食文化との関わりのなかで食生活体験の重要性を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	特別な配慮を要する子どもの食の意義と栄養に関する知識を持ち判断力をつけ対応できる。 自らも食生活を振り返りながら、健全な食習慣の確立を図り食育していくことの重要性を理解できる。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	家庭で、また児童福祉施設での子どもの食生活の現状を把握し、健全な食習慣の確立を図り食育指導していくことの重要性についても理解できる。					
技能	DP9: 健康スキル	自らも食生活を振り返りながら常に支援者であることに意識を持ち心身の健康に心がける。					
	DP10: 専門分野のスキル	保育者として食育活動に関する方法について展開できる基礎的能力を身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	授業概要、子どもの健康と食生活の意義	オリエンテーション・講義・演習	テキスト 第1講				
2	子どもの食生活の現状と課題	演習・講義	第1講、食の安全の記事				
3	・栄養の基本・「食べ物のゆくえ」理解のための絵と説明	講義・演習	第2講、食品成分表、参考書				
4	・「適切な栄養」とは ・人のエネルギーの蓄え方、使い方	演習・講義	第2講 食品成分表				
5	五大栄養素の種類と働き 水分代謝	講義	第3講 Step1 食品成分表				
6	ビタミン、ミネラルの生理作用、欠乏症・ファイトケミカル	演習・講義	第3講 Step2 3 食品成分表				
7	「日本人の食事摂取基準」「食事バランスガイド」「食生活指針」	講義	第4講 Step1 食品成分表				
8	食事バランスガイドで自分の食生活を点検	演習・講義	第4講 Step2 3 食品成分表				
9	献立作成・調理の基本	講義	第5講 Step1 食品成分表				
10	1日の献立作成 日本人の食生活の課題を把握する	演習・講義	第5講 Step2 3 郷土料理資料				
11	乳児期の授乳の意義と食生活	講義	第6講 Step1 食品成分表				
12	混合栄養や母乳育児の留意点について理解を深める	演習・講義	第6講 Step2 3 食品成分表				
13	乳児期の離乳の意義と食生活	講義	第7講 Step1				
14	手づかみ食べの意義・支援について理解を深める	演習・講義	第7講 Step2 3				
15	幼児期の心身の発達と食生活	講義・演習	第8講				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	◎	○	50	
小テスト・授業内レポート		○	○	○	○	10	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	○	10	
授業態度・授業への参加度		◎		◎	◎	10	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎	○	◎	10	
演習						10	
実務経験を生かした授業	総合病院管理栄養士として食物アレルギーに対応した経験を持つ教員が、具体例を提示し、厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を参考にしながら緊急時個別対応票、経過記録票に実際に記入し対応、日常生活への配慮について考える。(28、29回目)						
テキスト・参考文献等	【テキスト】「子どもの食と栄養」堤ちはる・藤澤由美子(編集)中央法規、[副教材]「646食品成分表」646食品成分表編集委員会(編集)東京法令出版株式会社 【参考図書】「子どもがかがやく-乳幼児の食育実践へのアプローチ」保育所における食育研究会(編)児童育成協会児童給食事業部、「平成28年度版-食育白書」農林水産省(編)、「元気な脳が君たちの未来をひらく」川島隆太著 くもん出版、「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子(編著)萌文書林						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	口頭でも質問票でも可。授業終了後、もしくは毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次の授業時に質問に答える。					授業中の撮影	

授業科目名	子どもの食と栄養		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	3年
担当教員	青木 哲美						
授業の概要	<p>子どもの心身の発達に食と栄養は重要な役割を果たしている。胎児期から思春期の各段階に応じた栄養と食生活について学ぶ。また、食生活環境の変化にともなう子どもの食生活の現状と課題を挙げ、小児期からの「食育」の重要性についても理解をする。保育者も自らの食生活を振り返り食改善していくことも視野に入れ、子どもとともに食を楽しみながら、子どもの食への関心を育み“食を営む力”を培う「食育」を実践し、活動展開する重要性についてもさらに理解を深める。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	小児の発育発達における意義や基礎的な栄養に関する知識について理解できる。地域社会における食文化との関わりのなかで食生活体験の重要性を理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	特別な配慮を要する子どもの食の意義と栄養に関する知識を持ち判断力をつけ対応できる。自らも食生活を振り返りながら、健全な食習慣の確立を図り食育していくことの重要性を理解できる。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	家庭で、また児童福祉施設での子どもの食生活の現状を把握し、健全な食習慣の確立を図り食育指導していくことの重要性についても理解できる。					
技能	DP9: 健康スキル	自らも食生活を振り返りながら常に支援者であることに意識を持ち心身の健康に心がける。					
	DP10: 専門分野のスキル	保育者として食育活動に関する方法について展開できる基礎的能力を身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)				
16	学童期・思春期の心身の発達と食生活、生涯発達と食生活	講義・演習	テキスト 第9講 Step1				
17	学校給食の特徴を知る・栄養教諭制度や母性保護を理解する	演習・講義	テキスト 第9講 Step2 3				
18	食育基本法や保育所保育指針について学ぶ	講義・演習	テキスト 第10講 Step1				
19	「食を営む力」を学ぶ。保育での「養護」と「教育」の関係を知る	演習・講義	テキスト 第10講 Step2 3				
20	食育の基本と内容を学ぶ	講義	テキスト 第11講 Step1				
21	保育所における食育の年間計画を作成	演習・講義	テキスト 第11講 Step2 3				
22	地域や家庭と連携した食育の展開について学ぶ	講義	テキスト 第12講 Step1				
23	「食育だより」をつくってみよう	演習・講義	第12講 S2,3 既存の食育計画				
24	献立作成・調理の基本	講義	テキスト 第13講 Step1				
25	1日の献立作成 日本人の食生活の課題を把握する	演習・講義	第13講 S2,3				
26	子供の疾病及び体調不良の特徴と対応について理解する	講義	テキスト 第14講 Step1				
27	経口補液をつくって経口補液療法を実践してみよう	演習・講義	第14講 S2,3				
28	食物アレルギー、摂食障害について学ぶ	講義	テキスト 第15講 Step1				
29	食物アレルギーの緊急対応、日常生活への配慮について学ぶ	演習・講義	第15講 S2,3				
30	食育指導、保育士の役割、楽しい食事の演出と工夫(まとめ)	演習・発表	自己資料				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	◎	○	50	
小テスト・授業内レポート		○	○	○	○	10	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	○	10	
授業態度・授業への参加度		◎	○	◎	◎	10	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎	◎	◎	10	
演習		○	○	○		10	
実務経験を生かした授業	総合病院管理栄養士として食物アレルギーに対応した経験を持つ教員が、具体例を提示し、厚生労働省「保育所におけるアレルギー対応ガイドライン」を参考にしながら緊急時個別対応票、経過記録票に実際に記入し対応、日常生活への配慮について考える。(28、29回目)						
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】「子どもの食と栄養」堤ちはる・藤澤由美子(編集)中央法規、[副教材]「646食品成分表」646食品成分表編集委員会(編集)東京法令出版株式会社</p> <p>【参考図書】「子どもがかがやく-乳幼児の食育実践へのアプローチ」保育所における食育研究会(編)児童育成協会児童給食事業部、「平成28年度版-食育白書」農林水産省(編)、「元気な脳が君たちの未来をひらく」川島隆太著 くもん出版、「子育て・子育てを支援する子どもの食と栄養」堤ちはる・土井正子(編著)萌文書林</p>						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	口頭でも質問票でも可。授業終了後、もしくは毎回の授業終了時に書いてもらう「出席カード」にて質問し、次の授業時に質問に答える。					授業中の撮影	

授業科目名	子どもの保健Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員	田中美樹・吉川未桜		前期	演習	選択	1	2年	
授業の概要	子どもの保健Ⅰで修得した学習を基礎にして、保育所・福祉現場で保健活動が実践できるよう、知識と技術を学習する。また、学習した内容を実践する。							
学生の到達目標								
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	保育所、福祉現場で行われているさまざまな保健活動の実践について知識を学習し説明することができる。						
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	安全面に配慮し、子どもの発達に応じた適切な保健技術を主に人形を使って体験し、学習したことを論理的に表現できる。						
技能	DP10: 専門分野のスキル	子どもの体調不良や発育の変化に気づくために必要な保健スキルおよび養護のスキルを身に付ける。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)					
1	オリエンテーション 保育における保健衛生 (担当: 田中)	・講義: 保育所・福祉現場における保健衛生の動向について概説する。 ・演習: 講義内容に関する事例をもとにグループディスカッションする。	事前: ニュース・新聞等で保育所、福祉現場での保健衛生に関する最近の動向について見ておく。					
2	保育者の自己管理(手洗い) (担当: 吉川)	衛生的手洗いの実践および効果の確認を行う。	事後: 日々の生活の中で衛生的手洗いを実践する。					
3	乳幼児の養護 (担当: 吉川)	・第3回目: 小テスト(1、2回目の講義・演習内容) ・乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助(抱っこ、オムツ交換、更衣など)の講義およびモデル人形を使用し実践する。	事前: 乳幼児の成長・発達に応じた日常生活援助について学習する。					
4			・第6回目: 小テスト(3、4、5回目の講義・演習内容) ・子どもの身体発育と生理機能の測定と評価方法の講義およびモデル人形を使用し測定し、事例をもとに評価する。	事前: 身体・生理機能測定方法について学習する。				
5				・第9回目: 小テスト(6、7、8回目の講義・演習内容) ・子どもの事故の特徴と予防・対処方法の講義および事例検討を行い、予防方法や再発防止に等についてグループディスカッションを通して、子どもの命を守るための対策を探る。 ・事故発生時の早期対応のため、事例をもとに、誤嚥・窒息時の処置と心肺蘇生法についてモデル人形を使用し実践する。	事前: 乳幼児に起こりやすい事故の事例(第8回目の講義時に提示)についてグループで検討しまとめる。			
6	乳幼児の身体発育と観察 子どもの身体計測と評価 子どもの生理機能の発達と測定方法 (担当: 田中)	事後: 心肺蘇生法について復習する。						
7		・第13回目: 小テスト(9、10、11、12回目の講義・演習内容) ・第15回目: 小テスト(主に13、14回目の講義・演習内容および1~12回目の復習) ・子どもが罹患しやすい疾患とその症状や食物アレルギー・感染対策について、講義および事例をもとにグループディスカッションする。	事前: 乳幼児が罹患しやすい疾患について子どもの保健Ⅰの資料で復習する。					
8								
9	乳幼児に起こりやすい事故と予防 心肺蘇生法 (担当: 田中)	・第13回目: 小テスト(9、10、11、12回目の講義・演習内容) ・第15回目: 小テスト(主に13、14回目の講義・演習内容および1~12回目の復習) ・子どもが罹患しやすい疾患とその症状や食物アレルギー・感染対策について、講義および事例をもとにグループディスカッションする。						
10								
11								
12								
13	乳幼児が罹りやすい病気と看護 (担当: 田中)	・第13回目: 小テスト(9、10、11、12回目の講義・演習内容) ・第15回目: 小テスト(主に13、14回目の講義・演習内容および1~12回目の復習) ・子どもが罹患しやすい疾患とその症状や食物アレルギー・感染対策について、講義および事例をもとにグループディスカッションする。						
14								
15								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
小テスト・授業内レポート		◎	◎			50		
授業態度・授業への参加度		◎	○			10		
受講者の発表(プレゼン)		◎	○			20		
演習		◎	◎		◎	20		
実務経験を生かした授業	小児看護・保健の実務経験がある教員が子どもの発達段階に応じた保健活動について指導する。							
テキスト・参考文献等	参考文献: 講義・演習に必要な資料は毎回配布します。							
履修条件	子どもの保健Ⅰ-1、Ⅰ-2を履修している。							
学習相談・助言体制	質問などはレスポンスカードで受け付け、次回授業時に回答する。					授業中の撮影		

授業科目名	保育内容・健康 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	池田孝博						
授業の概要	乳幼児の発達の原則、身体発達と健康、運動の発達と健康、精神機能の発達と健康、生活習慣の発達、基本的生活習慣の形成、運動遊びなどの基礎的事項を、講義を通して学習し、幼稚園・保育所・子ども園において、「健康な心と体を育て、自ら健康で安全な生活を作りだす力を養う」には、どのような内容やかわりが大切になってくるかを、実践・事例を通して理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	①領域「健康」のねらいと内容について理解し説明することが出来る。 ②乳幼児の発達をふまえ、遊びについて理解を深め、乳幼児期にふさわしい運動遊びについての考察が出来る。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	乳幼児期の体や子どもを取り巻く環境に関心を持ち、その問題点・改善の方策を考察し、意見として述べる事が出来る。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	「健康」のねらいや内容・乳幼児の発達をふまえ、指導案の構成をきちんと理解し具体的な保育を想定した指導案を作成することが出来る。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	①保育における『健康』の理解 健康の捉えかたと目指すもの ①幼児にとって健康とは ②幼児の健康を取り巻く諸問題		講義(テキスト・資料)		幼教育要領・保育指針 事前必読		
2	①保育における『健康』の理解 健康の捉えかたと目指すもの ①幼稚園教育要領における健康 ②保育所指針における健康		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
3	①保育における『健康』の理解 健康の捉えかたと目指すもの ①健康における内容の取扱いについて②新しい時代に向けた幼児期の健康		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
4	①保育における『健康』の理解 健康の捉えかたと目指すもの ・他領域と「健康」のつながり		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
5	②保育における『健康』の理解 幼児の発育・発達 ①発育・発達とは ②体の発育・発達と健康		講義(テキスト・資料)				
6	②保育における『健康』の理解 幼児の発育・発達 ①心の発達と健康 ②社会性の発達と健康 ③脳の発育・発達と健康		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
7	③保育における『健康』の理解 幼児の健康維持・増進の為の身体活動 ・幼児の身体活動の現状と課題		グループ討議と発表				
8	③保育における『健康』の理解 幼児の健康維持・増進の為の身体活動 ①幼児期運動指針 ②幼児期の運動遊びの効果		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
9	④幼児の遊びとは(保育における運動指導と留意点) ①幼児期に身につけたい基本動作 ②運動指導の保育プログラム		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
10	④幼児の遊びとは(保育における運動指導と留意点) ・ルールのある遊び・道具遊び・固定遊具・様々な遊び等の指導上の留意点		講義(テキスト・資料)				
11	④幼児の遊びとは(保育における運動指導と留意点) ①運動遊びの指導上の留意点 ②指導計画の立て方		演習(指導計画作成の手順)の説明		指導計画作成		
12	実践 運動遊びの指導計画作成と発表		演習 個人発表				
13	実践 運動遊びの指導計画作成と発表		演習 個人発表				
14	実践 運動遊びの指導計画作成と発表予備日 ④幼児の遊びとは ・特別支援児に対する健康教育と運動指導 ①幼稚園・保育所における特別支援 ②健康教育指導上の配慮		講義				
15	保育内容「健康 I」全般についてのまとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート			◎	◎	◎		30
授業態度・授業への参加度			◎		◎		20
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎			30
演習			○	○			20
補足事項		評価は総合的に行うが、授業内レポート及び遊び指導計画作成における評価を重視する。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト 春日晃章『新時代の保育双書 保育内容健康』 株式会社みらい 2,000(税別)円 毎回資料配布						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	レスポンスカード・授業中で受付 授業の中で又は授業終了時に時間調整し回答。						授業中の撮影

授業科目名	保育内容・健康Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	池田孝博						
授業の概要	子どもの健康と遊び・子どもの健康と環境構成・生活習慣の形成・安全教育・食育について、沢山の事例を読み解き、子どもたちの心と体を培っていくにはどのような園生活を大事にしていけばよいか、保育環境や援助としては何を大切にしていけるかをグループ討議や実践を通して理解する。また、保育者間の連携や保護者との連携、地域の専門家との連携をどう進めていけるかなどについて理解を深める。安全教育においては、子ども理解を元に実際に教材を作る活動を通して、援助の方法を考えていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	①体力や運動能力などの「体」の問題・乳幼児の遊びと生活の関係性について説明することができる。 ②安全や衛生の習慣、食育の問題点について自分なりの意見を述べる事が出来る。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	乳幼児の発達の特徴や今日的課題の知識を生かし、将来の保育者として学んでおくべきことを明確にした上で、実習や乳幼児に関わる活動に積極的に参加することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	安全教育の教材を作成し、それを使っての模擬保育を実施する。その保育と振り返りを通じて、保育を改善する視点を身に付けることが出来るようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	①健康と遊び 実践ちょっとした工夫で広がる運動遊び ①遊びの展開と演出 ②鬼遊びを例にした遊び方の工夫		講義(テキスト・資料)		健康1で作成した遊び指導計画の問題点をまとめておく		
2	①健康と遊び 運動遊びにかかわる実践のアイデア		演習(事例資料)		授業内レポート		
3	①健康と遊び 環境構成と保育の工夫		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
4	②保育における領域「健康」の理解 幼児の生活習慣と健康について ・子どもの生活習慣の現状と課題		講義(テキスト・資料)				
5	②保育における領域「健康」の理解 幼児の生活習慣と健康について ・健康な生活リズムの理解と形成		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
6	②保育における領域「健康」の理解 幼児の生活習慣と健康について ①基本的な生活習慣の理解と形成 ②健全な生活習慣形成のための手法		演習(教育保育相談の実践)		授業内レポート		
7	②保育における領域「健康」の理解 幼児の生活習慣と健康について ・食育について		講義(テキスト・資料)				
8	③保育における領域「健康」の理解 健全な発育・発達の測定と評価方法 ・体格測定・体力・運動能力の測定評価		講義(テキスト・資料)		授業内レポート		
9	③保育における領域「健康」の理解 健全な発育・発達の測定と評価方法 ①幼児の心理のとらえ方 ②幼児の社会性のとらえ方		講義(テキスト・資料)				
10	④保育における領域「健康」の理解 安全管理と安全教育 ①乳幼児のけがや事故の現状②安全管理と安全教育の必要性和効果的な方策		講義(テキスト・資料)				
11	④保育における領域「健康」の理解 安全管理と安全教育 ・計画的指導による安全の意識・事故が起きた時の対応		講義(テキスト・資料)		安全教育指導案作成		
12	安全教育指導の実践(自分で製作した視聴覚教材を使っての発表)		演習(各自発表)		教材製作		
13	安全教育指導の実践(自分で製作した視聴覚教材を使っての発表)		演習(グループで発表)		教材製作		
14	④保育における領域「健康」の理解 安全管理と安全教育 ・応急処置法		講義(テキスト・資料)		今日的課題をまとめておく		
15	⑤今日的課題と領域「健康」 ・アレルギー対策・学校、教育施設との連携		討議(問題点の方策)				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎		◎		30	
授業態度・授業への参加度			○	◎		20	
受講者の発表(プレゼン)		◎	○		◎	30	
演習		○		○		20	
補足事項	評価は、安全指導視聴覚教材・指導計画の作成及び発表を重視する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト 春日晃章『新時代の保育双書 保育内容健康』株式会社みらい 2,000(税別)円 毎回資料配布						
履修条件	前期作成したあそび指導案の修正および反省をまとめておくこと。						
学習相談・助言体制	レスポンスカード・授業中で受付 授業中又は授業終了時に時間調整し回答。					授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・人間関係Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	飯田大輔		前期	演習	選択	1	3年
授業の概要	領域「人間関係」のねらい・保育内容と活動の展開・援助の方法を学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	幼稚園・保育園における人的環境としての保育者の役割について記述できる。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	乳幼児期における人とのかかわりの発達について記述できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	保育現場に対して理解を深める。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション	講義			幼稚園教育要領、保育所保育指針		
2	私たちにとっての人間関係とは	講義					
3	子どもをとりまく様々な環境	講義					
4	乳児の人とのかかわりと保育Ⅰ	講義					
5	乳児の人とのかかわりと保育Ⅱ	講義・演習					
6	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅰ	講義・演習					
7	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅱ	講義・演習					
8	1歳以上3歳未満児の人とのかかわりと保育Ⅲ	講義・演習					
9	3歳以上児の遊びと人間関係Ⅰ	講義・演習					
10	3歳以上児の遊びと人間関係Ⅱ	講義・演習					
11	3歳以上児の遊びと人間関係Ⅲ	講義・演習					
12	園生活の中での人間関係の育ち—気にかかる子どもへの援助	講義・演習					
13	園生活の中での人間関係の育ち—特別な支援を必要とする子どもへの援助	講義・演習					
14	人間関係の育ちをはぐくむ環境	講義・演習					
15	まとめ	講義・演習					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		○				40	
小テスト・授業内レポート		◎				20	
授業態度・授業への参加度					○	15	
受講者の発表(プレゼン)			◎			15	
演習			○			10	
実務経験を生かした授業	保育現場における保育経験がある者が、その経験を生かして今日的な課題(ネグレクト、社会格差、多様性社会)への対応を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト田代和美・榎本眞実編著「演習 保育内容人間関係 —基礎的事項の理解と指導法—」建邦社 20019年						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	レスポンスカードまたは、授業後に受け付け、回答する。					授業中の撮影	○

授業科目名	保育内容・人間関係Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	上村真生		後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	保育者としての子どもや保護者に対する援助のあり方を修得する						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	子どもたちの人とのかかわる力をどのように育てていくか、発達に即して記述できる。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	乳幼児期における人とのかかわりの発達について記述できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	人とのかかわりを育てる遊びを保育者として実践をふまえて修得する					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)	
1	オリエンテーション			講義			
2	異年齢混合保育、統合保育-人間関係の発達から見て気がかりな行動とその援助Ⅰ			講義・演習		実践につながる資料	
3	異年齢混合保育、統合保育-人間関係の発達から見て気がかりな行動とその援助Ⅱ			講義・演習			
4	3歳未満児との関係作り1			講義・演習		子どもとの関係づくりのための実技練習	
5	3歳未満児との関係作り2			演習			
6	3歳未満児との関係作り3			演習			
7	3歳以上児との関係作り1			講義・演習		子どもとの関係づくりのための実技練習	
8	3歳以上児との関係作り2			演習			
9	3歳以上児との関係作り3			演習			
10	育ちを支える保育者同士の人間関係1			講義・演習			
11	育ちを支える保育者同士の人間関係2			講義・演習			
12	育ちを支える保育者同士の人間関係3			講義・演習			
13	育ちを支える保護者と保育者の人間関係			講義・演習			
14	育ちを支える保育者と他職種との人間関係			講義・演習			
15	子どもと共に育っていける保育者になるために			講義・演習			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○				5	
宿題・授業外レポート		◎				65	
授業態度・授業への参加度					○	10	
受講者の発表(プレゼン)			◎			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等							
履修条件	保育内容・人間関係Ⅰを履修していること						
学習相談・助言体制	レスポンスカードで受け付け					授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・環境 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	中 藤 広 美						
授業の概要	本講義では、領域「環境」の目的やねらいを理解することを求める。そのうえで、乳幼児を取り巻くさまざまな環境を把握し、子ども自らが主体的に環境にかかわる力を育成していくための方法論や実践例を紹介していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	最近の子どもたちの現状とそれを取り巻く環境の実態を理解し、説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	子どもが身近な環境に主体的にかかわろうとする力の育成について考え、発達にそった保育内容を考え表現できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	子どもたちの生きる力を培うための保育、自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと身近な環境とのかかわりを深める実践的な保育を自ら考えることができる					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション 保育内容と領域「環境」		講義		テキスト第1章を読む		
2	子どもを取り巻く環境の変化と現状		講義、演習：個別ワーク				
3	身近な環境 I 調査		講義、演習：グループワーク		・授業外レポート①：「MAP 身近な環境 I」を作成して今後予想される保育の展開や子どもの姿、援助、留意点、環境構成を A4 版用紙 1 枚にまとめて提出		
4 5	身近な環境 I 身近な環境の MAP 作成、報告会		演習：グループワーク、報告会				
6 7	領域「環境」のねらいと内容の検討		講義演習：グループワーク				
8	環境とかかわる力の発達 「生活のなか」「遊びのなか」「関係のなか」		講義				
9 10 11 12	環境とかかわる力の発達 環境と関わる遊び：実践、まとめ、報告会		演習：グループワーク、報告会 *9回、10回は2コマ連続授業 日程については授業内でお知らせします。		・授業外レポート②：「環境と関わる遊び」作成詳細は授業外レポート①に準拠する。		
13 14	身近な環境 II 調査：自然の変化に着目して 報告会：MAP I との比較		講義、演習：グループワーク、報告会				
15	保育環境のあり方		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		◎				10	
宿題・授業外レポート		◎	◎		○	20	
授業態度・授業への参加度		○			○	10	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	5	
演習			◎		○	5	
実務経験を生かした授業	保育士、幼稚園教諭の経験を踏まえて、保育者として質の高い専門的分野を学ぶことができるように事例などを紹介します。						
テキスト・参考文献等	テキスト：柴崎正行・若月芳浩(編)『保育内容「環境」』、ミネルヴァ書房						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問は授業中・授業終了後、またはコメントカード等にて受け付けます。また、メールやオフィスアワーでも対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・環境Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	中 藤 広 美						
授業の概要	子どもが好奇心や探求心を持ちやすい身近な環境について検討し、子どもが環境にかかわる力を育成していくための方法論や実践方法を学ぶ。演習内容では野外活動も取り入れ、身近な環境とのかかわりを重視した自然体験を通して、子どもが身近な環境への興味関心を深める保育展開に必要な基礎知識を学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	身近な植物、生き物、自然現象の基礎的事柄（種名や特徴など）について関心を深め説明することができる。 数量、図形に関する認知の発達を知り、発達にそった遊びの提案ができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	子どもの身近な環境について、その内容や現状・問題点について把握し、発達にそった環境との関わり方について自分の意見を表現・主張できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	自然体験・社会体験などの具体的生活体験を重視した保育、特に子どもと自然とのかかわりを深める保育を自ら設定して実践的に行うことができる。自然の基礎知識を活用した実践的野外保育を計画することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	授業ガイダンス 環境と子どもの好奇心や探求心		講義				
2	領域「環境」と保育の実際と実践上の留意点		講義				
3 4 5 6 7 8	子どもの遊び場環境の調査 事前指導、調査、まとめ、報告、事後指導		講義、学外授業、演習 *4回、5回は2コマ連続授業 日程については授業内でお知らせします。		授業外レポート①：報告内容を基に今後予想される保育の展開や子どもの姿、援助、留意点、環境構成をA4版用紙 1枚にまとめて提出		
9 10	子どもと身近な自然と生き物		講義、演習				
11 12	子どもと文字・記号・数量・形		講義、演習		レポート②：与えられたテーマを基に今後予想される保育の展開や子どもの姿、援助、留意点、環境構成をA4版用紙 1枚にまとめて提出		
13 14	子どもと身近な物		講義、演習：グループワーク				
15	主体的に環境にかかわる子ども まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート		◎				10	
宿題・授業外レポート		◎	◎		○	20	
授業態度・授業への参加度		○			○	10	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	5	
演習			◎		○	5	
実務経験を生かした授業	保育士、幼稚園教諭の経験を踏まえて、保育者として質の高い専門的分野を学ぶことができるように事例などを紹介します。						
テキスト・参考文献等	テキスト：柴崎正行・若月芳浩(編)『保育内容「環境」』、ミネルヴァ書房						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問は授業中・授業終了後、またはコメントカード等にて受け付けます。また、メールやオフィスアワーでも対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・言葉Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	2年
担当教員	世良君江						
授業の概要	子どもは自らの活動の場において絶え間なく言葉を獲得している。保育者として受容と応答の重要性を認識し、言葉の成長を促していく。子どもの言葉が豊かに育つ為に必要な援助を考える。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	新生児から就学前の子どもの言葉の獲得のプロセスを知る。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	言葉の発達を促す為、保育者としての子どもの言葉とどう向き合うか考える。					
技能	DP10:専門分野のスキル	言葉の受容と応答の大切さを事例で考える。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	オリエンテーション（講義内容・評価方法・シラバスの説明）		講義		研究発表グループ分け		
2	保育所保育指針・幼稚園教育要領領域「言葉」について		講義		事前熟読		
3	赤ちゃんの言葉の世界「胎児の生活より」		講義・DVD				
4	言葉の進化「発達年齢別」		講義				
5	言葉の獲得「発達年齢別」		講義				
6	新生児から3歳未満児の子どもの言葉		講義・演習				
7	3歳から就学前の子どもの言葉		講義・演習				
8	言葉（発語）による情緒・感情の育み		講義・演習				
9	言葉（発語）による受容と応答		講義・演習				
10	お話作り3歳から就学前対象		演習				
11	言葉を育てる児童文化		講義		地域文化の研究（グループ）		
12	言葉を育てる地域文化		講義・演習		発表		
13	伝承あそび①		演習		グループ発表		
14	伝承あそび②		演習		グループ発表		
15	前期まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
宿題・授業外レポート		◎				40	
授業態度・授業への参加度		◎				20	
受講者の発表(プレゼン)			○		◎	20	
演習		◎	◎		○	20	
補足事項	グループ研究・個人研究発表・絵本読み・素話の実践も演習成績に含む。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	犬越和孝編「言葉とふれあい言葉で育つ」・保育所保育指針・幼稚園教育要領冊子						
履修条件							
学習相談・助言体制	メール・講義後質問受付回答。					授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・言葉Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	世良君江						
授業の概要	豊かな言葉を培う為に幼児期に体験させたい「お話の世界」を様々な素材を利用し、研究発表を行うことで保育の場で実践すべき内容として学習し身につける。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	幼児期の言葉の発達を理解し、声にならない「心の声」の捉え方の重要性を知る。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	言葉の発達に不可欠な文化財の存在を知ると共に、実践・演習を試みる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	保育者として言葉の発達を促す為の様々な文化財を自ら制作し、演じる技法を習得する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション(講義内容・評価方法、シラバスの説明)	講義					
2	保育者の言語表現(自身を振り返る)	講義					
3	児童文化財の利用方法について知る、絵本の特徴を理解する	講義					
4	絵本の見方、保育士としての絵本に対する「視点」の向け方について	講義	事前に指定絵本を読む				
5	絵本の絵を読む①	講義・演習	グループ研究・発表				
6	絵本づくり	演習	個人発表				
7	絵本から劇あそびに発展させ言語表現を楽しむ	演習	小道具・セリフ・表現を研究発表				
8	様々な表現方法による言葉の世界を知り実践	演習	グループ研究・発表				
9	児童文化財(パネルシアター)から、言語表現を学ぶ	講義・演習	グループ発表の準備				
10	パネルシアターの実践	演習					
11	紙芝居の特徴・演じ方を知る	講義					
12	紙芝居実践①	演習	個人				
13	紙芝居実践②	演習	個人				
14	回転絵話しの表現方法を知り制作	講義・演習	個人制作				
15	回転絵話しの実演発表(全講義のまとめ)	演習	個人				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎				40	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		20	
受講者の発表(プレゼン)				◎	◎	20	
演習					◎	20	
補足事項	グループ討議の中での意見交換や、個人の制作に対する意欲等授業の中で観察し評価に関連させる。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	犬越和孝編「言葉とふれあい言葉で育つ」 絵本「ぐりとぐら」 紙芝居「おおきなあれ」						
履修条件							
学習相談・助言体制	メール・授業後の質問を受け付け回答。					授業中の撮影	

授業科目名	保育内容・表現 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	3年
担当教員	鷲野彰子・櫻井国芳						
授業の概要	保育所保育指針および幼稚園教育要領に記される、領域「表現」について理解する。音楽や造形等による表現を中心に、音楽 I・II や造形 I・II で身につけた知識や技術をもとに、保育の場での実践を想定しながら子どもの表現のありかたについて学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	子どもの表現について、心身の発達と関連させながら理解し、保育の題材に活用することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	「表現」を実際に実技として表現するだけでなく、その表現の意味合いや方法を論理的に考え、人に伝えることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	領域「表現」のねらいや内容をふまえて、保育を構想・展開する基礎的な力を身に付け、意見を述べるることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション (担当: 鷲野)	説明					
2	音楽による表現について 歌唱指導方法の検討 (担当: 鷲野)	<ul style="list-style-type: none"> 音楽による表現にはどのようなものがあるかを学ぶ(プリントを使用する)。 保育所実習を視野に入れ、子どもたちに歌唱指導する際にどのようなことに気をつけなくてはいけないかを、実際に教える/教えられる経験を行うことで考える。 			教えた歌を準備し、その方法を考えてくること(第1回の授業で課題については説明します)。		
3	簡易楽器の使い方・合奏1 (担当: 鷲野)	<ul style="list-style-type: none"> 簡易楽器の使い方、子どもに合奏を指導する際の注意点を学ぶ。 合奏曲の演奏を体験する。 			必要に応じて、授業時間以外にも練習すること。		
4	簡易楽器の使い方・合奏2 (担当: 鷲野)						
5	簡易楽器の使い方・合奏3 (担当: 鷲野)						
6	造形による表現について 造形遊びの種類と内容1 ペープサート1 (担当: 櫻井)	<ul style="list-style-type: none"> プリントを使用しながら授業を進める。 実習で行うことを想定しながら、ペープサートを製作する。 			<ul style="list-style-type: none"> 学習した内容について整理しておく。 学習した保育教材をレパートリーとして蓄積する。 		
7	造形遊びの種類と内容2 ペープサート2 (担当: 櫻井)	<ul style="list-style-type: none"> 同上 ペープサートの製作と発表会に向け練習する。 					
8	保育の題材と導入について ペープサート3 (担当: 櫻井)	<ul style="list-style-type: none"> グループ活動。保育実践における導入のあり方について考える。 保育者としての子どもに対する援助の仕方などについても考える。 同上 					
9	ペープサート4 (担当: 櫻井)	ペープサートの発表会を行う。					
10	「七夕まつり」の企画と実施1 (担当: 鷲野)	保育実習 I (保育園) での体験をふまえ、乳幼児のためのお楽しみ会を企画・実施する。			グループで時間を調整し、授業時間以外でも練習すること。		
11	「七夕まつり」の企画と実施2 (担当: 鷲野)						
12	「七夕まつり」の企画と実施3 (担当: 鷲野)						
13	乳幼児に対する様々な提示方法 (担当: 櫻井)	乳幼児向けの提示方法を紹介し、作り方や遊び方について学ぶ。			学習した保育教材をレパートリーとして蓄積する。		
14	動くおもちゃをつくって遊ぶ1 (担当: 櫻井)	折り紙や身近な材料を用いて、動くおもちゃをつくって遊ぶ。					
15	動くおもちゃをつくって遊ぶ2 (担当: 櫻井)						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
授業態度・授業への参加度				◎			
受講者の発表(プレゼン)						◎	
課題の内容			◎				
補足事項		評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。					
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、子どもの心身の発達を見据えた保育教材のあり方等について指導する。						
テキスト・参考文献等	①保育所保育指針②幼稚園教育要領③その他必要な楽譜や楽器及び CD・VTR 等は大学で準備する。						
履修条件	原則として保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。音楽 I と造形 I の単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可、できればメールで予約してください。					授業中の撮影	○

授業科目名	保育内容・表現Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	櫻井国芳・鷲野彰子						
授業の概要	音楽Ⅰ・Ⅱや造形Ⅰ・Ⅱ、表現Ⅰで学習した知識や技術をもとに、保育の場での実践を想定しながら学習を進める。 音による表現の可能性やリトミックについて学習し、保育における「表現」の可能性について考える。 子どもの発達段階を踏まえながら、児童画について学習する。特に表出的要素と構成的要素が顕著に現れる時期について、それぞれの特徴に注目しながら学習する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	児童画の3つの画期における特徴的な様式について、子どもの発達と関連させながら理解し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	保育の題材を体験することを通して、子どもの表現の可能性を広げるための保育者の配慮や工夫について、意見を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	表現方法を自ら考えだすことができ、考えたものを実際に表現できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション リトミック(担当:鷲野)	身体を使った身体表現を音楽表現にいかにつなげていくか、保育の場におけるリトミックの在り方について考える。	学習した内容を応用し、状況に応じた展開を考える。				
2							
3							
4	つくったものを用いて遊ぶ(担当:櫻井)	つくったものを身に付けてゲームをする。	学習した保育教材をレポートリとして蓄積する。				
5	絵の具で遊ぶ(担当:櫻井)	絵の具をじかに触りながら、造形遊びを展開する。					
6	遊びと表現1(担当:櫻井)	・シャボン玉をつくって遊び、その様子を絵で表現する。 ・子どもの表現が豊かに展開されるための方法について理解を深める。					
7	3つの課題を「表現」する1(担当:鷲野)	グループに分かれて、次の3つの課題を創作・表現する。 ・絵本を朗読や効果音などを使って、音のみで表現 ・第1～3回のリトミックの学習内容を取り入れた創作表現 ・課題曲(授業で指定)の振付	グループで時間を調整し、練習する。				
8	3つの課題を「表現」する2(担当:鷲野)						
9	3つの課題を「表現」する3(担当:鷲野)						
10	発表会(担当:鷲野)	第7～9回で創作・練習したパフォーマンスの発表会を行う。	舞台配置やマイクの使用方法について検討する。				
11	遊びと表現2(担当:櫻井)	・小麦粉粘土をつくって、子どもの発達に応じた遊び方を考える。 ・子どもの表現が豊かに展開されるための方法について理解を深める。	学習した保育教材をレポートリとして蓄積する。				
12	児童画1(担当:櫻井)	穴埋め式プリントを用いながら、表出期・構成期に見られる特徴的な表現様式について学習する。	学習した内容について整理しておく。				
13	児童画2(担当:櫻井)						
14	児童画3(担当:櫻井)						
15	児童画4(担当:櫻井)						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎					
授業態度・授業への参加度				◎			
受講者の発表(プレゼン)			◎				
課題の内容			◎				
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、子どもの心身の発達を見据えた保育教材のあり方等について指導する。						
テキスト・参考文献等	①保育所保育指針②幼稚園教育要領③その他必要な楽譜や楽器及びCD・VTR等は大学で準備する。						
履修条件	原則として保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。音楽Ⅰと造形Ⅰ、保育内容・表現Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可、できればメールで予約してください。					授業中の撮影	○

授業科目名	乳児保育		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	伊勢 慎						
授業の概要	<p>保育士として必要な乳児保育の理論や知識・技術の基本を具体的な事例を通して理解する。保育園は乳児が一日の大半を過ごす場となり、子育ての支援機関としての役割について学ぶ。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について学ぶ。 2. 保育所、乳児院等における乳児保育の現状と課題について理解する。 3. 3歳未満児の発育・発達について学び、健やかな成長を支える3歳未満児の生活と遊びについて理解する。 4. 乳児保育の計画を作成し、保育の内容や方法、環境構成や観察・記録等について学ぶ。 5. 乳児保育における保護者や関係機関との連携について学ぶ。 						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	0～2歳児の発育・発達を理解し、そのための援助の仕方について理解を深める。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	乳児向けの保育実践の展開ができる。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	乳児保育における保育者の専門性、役割について述べるができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	乳幼児の生活に必要なものをイメージし、具体的に準備できる力を養う。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	乳児保育の理念と役割	講義	乳児保育の実際の理解と共に、配布した資料を熟読する。				
2	乳児保育の理念と歴史の変遷	講義					
3	乳児保育の役割と機能	講義					
4	乳児や家庭を取り巻く環境と子育て支援の場	講義					
5	乳児保育における基本的な知識・技術に基づく援助や関わり	講義					
6	6か月未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践	保育の実践の準備、練習、振り返りを行う。				
7	6か月から1歳3か月未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践					
8	1歳3か月から2歳未満児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践					
9	2歳児の発達と保育内容・保育の実践	講義・実践					
10	指導計画の作成と観察・記録及び自己評価・保育の実践	講義・実践					
11	個々の発達を促す生活と遊びの環境・保育の実践	講義・実践					
12	保護者、保健・医療機関、家庭的保育、地域子育て支援等との連携	講義・実践					
13	発表1	発表	発表の準備、練習、振り返りを行う。				
14	発表2	発表					
15	まとめ・発表3	発表					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎		◎		40	
宿題・授業外レポート			○		○	10	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	50	
補足事項	実践、発表は、乳児向けのシアター系の作成を課します。						
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育所保育指針、幼保連携認定こども園教育・保育要領に基づき、乳児保育について、現場の経験、実践を交え講義をする。						
テキスト・参考文献等	テキスト：なし。 参考文献：『見る・考える・創りだす 乳児保育』CHS 子育て文化研究所、萌文書林、2002						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。					授業中の撮影	

授業科目名	障害児保育		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	二見 妙子						
授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・障害児と健常児が共に育つ「インクルーシブ」保育（教育）の意味をとらえる。 ・インクルーシブ保育（教育）に関する制度の変遷を把握する。 ・インクルーシブ保育（教育）を推進するための実践の方法を具体的に知る。 						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> ・インペアメントに関する理解を深める。 ・インクルーシブ保育を推進するための視点と基本的な支援方法を理解する。 ・地域連携の意味と仕組みを理解する。 					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の考えを適切に他者に伝えるための有効な方法を工夫することができる。 					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	<ul style="list-style-type: none"> ・授業にて得た知識を基に、さらに興味関心を広げることができる。 					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>授業計画</p> <p>第1回：障害のとらえ方</p> <p>第2回：テキスト序章「インクルーシブ保育の理論と実践」</p> <p>第3回：テキスト第1章「障害の概念ととらえ方」：分担発表</p> <p>第4回：テキスト第1章「障害の概念ととらえ方」：分担発表</p> <p>第5回：テキスト第2章「障害の特性理解と配慮」（知的障害）：分担発表</p> <p>第6回：テキスト第2章「障害の特性理解と配慮」（発達障害・自閉症スペクトラム）：分担発表</p> <p>第7回：テキスト第2章「障害の特性理解と配慮」（発達障害・ADHD）：分担発表</p> <p>第8回：テキスト第2章「障害の特性理解と配慮」（身体障害）：分担発表</p> <p>第9回：テキスト第2章「障害の特性理解と配慮」（身体障害）：分担発表</p> <p>第10回：テキスト第3章「障害児の生活理解に求められる視点」（障害児保育の現状）：分担発表</p> <p>第11回：テキスト第4章「障害児の生活理解に求められる視点」（保育者の視点と支援の実際）：分担発表</p> <p>第12回：テキスト第4章「障害児保育に関する理念と動向」（基本理念と今日的意義）：分担発表</p> <p>第13回：テキスト第4章「障害児保育に関する理念と動向」（権利宣言と条約）：分担発表</p> <p>第14回：テキスト第4章「障害児保育に関する理念と動向」（我が国における理念の動向）：分担発表</p> <p>第15回：障害児保育の現場見学①</p> <p>第16回：障害児保育の現場見学②</p> <p>第17回：テキスト第5章「障害児保育に関する法制度」（歴史）分担発表</p> <p>第18回：テキスト第5章「障害児保育に関する法制度」（関連法規の動向）分担発表</p> <p>第19回：テキスト第5章「障害児保育に関する法制度」（保育所保育指針、幼稚園教育要領）分担発表</p> <p>第20回：テキスト第5章「障害児保育に関する法制度」（諸機関、施設）：分担発表</p> <p>第21回：テキスト第5章「障害児保育に関する法制度」（支援制度母子保健サービス）：分担発表</p> <p>第22回：テキスト第6章「障害児保育の実際」（保育所の実践）：分担発表</p> <p>第23回：テキスト第6章「障害児保育の実際」「記録・計画・評価」：分担発表</p> <p>第22回：テキスト第6章「障害児保育の実際」（合理的配慮）：分担発表</p> <p>第23回：テキスト第6章及び8章「障害児保育の実際」（連携）：分担発表</p> <p>第24回：テキスト第6章「障害児保育の実際」（クラスづくり）：分担発表</p> <p>第25回：テキスト第7章「保護者との連携」（基本姿勢、実践例）：分担発表</p> <p>第26回：テキスト第9章「障害児・その保護者への支援機関」（障害児施設）：分担発表</p> <p>第27回：テキスト第9章「障害児・その保護者への支援機関」（児童相談所、児童家庭支援センター、相談支援事業所）分担発表</p> <p>第28回：授業のまとめ：「ビデオ；みんなの学校」を見る</p> <p>第29回：授業のまとめ：「ビデオ；みんなよっといで」を見る</p> <p>第30回：小テスト</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	◎	◎		40	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		40	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
受講者の発表（プレゼン）		◎	◎	◎		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト『ソーシャルインクルージョンのための障害児保育』（堀智晴ら：2014 ミネルバ書房） 参考文献『人権保育カリキュラム』（鈴木祥蔵・堀正嗣）						
履修条件	特になし。						
学習相談・助言体制	随時。					授業中の撮影	

授業科目名	幼児理解の理論と方法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次		
			後期	講義	選択	2	3年		
担当教員	上村 眞生								
授業の概要	保育者が保育を計画・実施する際、子どもの発達を含む現状をより正確に把握することは必要不可欠である。そこで本講義では、子ども理解のための基礎的な理論及びアセスメントのあり方を概説する。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	複数の発達理論・教育論・教育思想を基盤に、自身の幼児観を持つ。							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	先行研究の概観を踏まえて、自身の考えを他者に説明できる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	客観的手法によって幼児の記録をとることができる。 観察記録を基に幼児の行動の意味や幼児の思考について分析できる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)						
1	オリエンテーション・子ども観についての概説	講義	自身の子ども観を意識する。						
2	幼児理解の必要性について	講義	実習の振り返り						
3	アセスメントの意義と目的	講義	授業で解説する各アセスメント手法について課題を出すので、記録を提出する。						
4	アセスメントの方法1－記録方法1－	講義							
5	アセスメントの方法2－記録方法2－	講義							
6	アセスメントの方法3－記録方法3－	講義・発表							
7	アセスメントの方法4－発達検査1－	講義							
8	アセスメントの方法5－発達検査2－	講義・発表							
9	発達についての基礎理論1	講義・発表						グループで発表準備をする。	
10	発達についての基礎理論2	講義・発表							
11	幼児の発達の実際1－行動観察－	講義	観察記録を作成しそれについて発表するための準備をする。						
12	幼児の発達の実際2－観察記録の検討－	講義							
13	幼児の発達の実際3－幼児の行動・思考の分析－	講義							
14	幼児の発達の実際まとめ	講義・発表							
15	まとめ	講義	課題レポートの作成						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
小テスト・授業内レポート			○			10			
宿題・授業外レポート					◎	20			
授業態度・授業への参加度			○			10			
受講者の発表(プレゼン)		○	○		◎	60			
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等	必要に応じて資料を配布する								
履修条件	特になし								
学習相談・助言体制	メールにて受付					授業中の撮影			

授業科目名	保育相談支援		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	4年
担当教員	杉野 寿子						
授業の概要	保育相談支援の意義と原則など基本を理解し、保育相談支援の実際を学びその内容や方法を習得する。さまざまな事例をもとに、グループディスカッションやロールプレイを行いながら、スキルを身につけていく。相談援助などこれまで関連科目で学んだことを応用していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	保育相談支援の意義と原則および保護者支援の基本について説明できる。さらに、保育相談支援の方法と技術について述べるができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	保護者支援の実践例より、支援の内容と方法について考察し、自分の意見を述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	児童福祉施設における保護者支援の実践例より、支援の内容と方法について考察し、自分の意見を述べるができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション、保育相談支援とは		講義、ディスカッション				
2	保育現場の事例から考える(1)		グループワーク		これまでの実習等を振り返る		
3	保育現場の事例から考える(2)		グループワーク		〃		
4	保育相談支援のねらい、家庭の変容と保育相談支援		講義、グループワーク		子どもの権利について復習しておく		
5	保育所保育指針と保育士倫理綱領からみる保護者支援		講義、グループワーク		保育所保育指針と倫理綱領を復習しておく		
6	保育者としての価値と倫理、個人の価値観、自己覚知		講義、グループワーク		〃		
7	対人援助の基本、受容的かわり		講義、グループワーク		バイステックの原則を復習しておく		
8	保育相談支援の進め方: より効果的な保育相談をするために		講義、演習		配布資料を読む		
9	保育相談支援の技術: 面接技術、電話相談		ロールプレイ、グループディスカッション		〃		
10	保育所の保育相談支援の事例①		ロールプレイ、グループディスカッション		〃		
11	保育所の保育相談支援の事例①		ロールプレイ、グループディスカッション		〃		
12	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例①		ロールプレイ、グループディスカッション		〃		
13	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例②		ロールプレイ、グループディスカッション		〃		
14	保育所以外の児童福祉施設の相談支援事例③		ロールプレイ、グループディスカッション		〃		
15	まとめ				これまでの授業内容を復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート			◎	◎	○		10
宿題・授業外レポート			◎	◎	○		60
授業態度・授業への参加度			○	○	○		10
演習			○	◎	◎		20
補足事項		毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。					
実務経験を生かした授業	児童福祉施設で保護者への相談援助を行った経験を生かして、相談支援の現場を想定した演習を行う。						
テキスト・参考文献等	テキストは特に指定しない。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						授業中の撮影

授業科目名	音 楽 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	鷲野彰子・綾部資子・柏村晶子・馬渡英子		通年	演習	選択	2	1年
授業の概要	基本的な楽譜の読譜技能を身につけ、リズム練習や初見練習を継続的に行うことで、旋律部分のピアノ初見演奏技能を向上させる。また、弾き歌い課題 20 曲 (No.1～No.20、前奏付き、暗譜、歌詞は 1 番のみ) を習得すると共に、各自のピアノ演奏技能を向上させる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	楽譜の読み方や音名等の基礎的な音楽理論を身につけている。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	保育の場での活動を意識した演奏表現を行うことができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	保育の場で活用できる演奏技能を身につけている。					
授業計画 (授業内容 / 方法 / 事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習 (学習課題)				
1	保育・幼児教育における領域「表現」とは	説明	ピアノ実技や弾き歌いには事前・事後学習が必ず必要です。各回の授業の間に、ピアノ実技や弾き歌い課題の練習を各自で行うこと。				
2	楽譜の読譜 (音高、拍子、リズム)	講義・集団レッスン					
3	リズム練習、ピアノ基礎練習	集団・個人レッスン					
4	リズム練習、弾き歌い課題 No.1&2	集団・個人レッスン					
5	リズム練習、弾き歌い課題 No.3	集団・個人レッスン					
6	リズム練習、弾き歌い課題 No.4	集団・個人レッスン					
7	リズム練習、弾き歌い課題 No.5	集団・個人レッスン					
8	弾き歌い課題 (No.1-5) の復習	集団レッスン					
9	初見練習 (ハ長調作品の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.6	集団・個人レッスン					
10	初見練習 (ハ長調作品の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.7	集団・個人レッスン					
11	初見練習 (ハ長調作品の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.8	集団・個人レッスン					
12	初見練習 (ハ長調作品の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.9	集団・個人レッスン					
13	初見練習 (ハ長調作品の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.10	集団・個人レッスン					
14	弾き歌い課題 10 曲 (No.1-10) の復習	集団レッスン					
15	弾き歌い発表会 (第 1 回)	発表					
16	音楽理論 (長調の構造)	講義・集団レッスン					
17	初見練習 (ト長調曲の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.11-12	集団・個人レッスン					
18	初見練習 (ヘ長調曲の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.13	集団・個人レッスン					
19	初見練習 (ニ長調曲の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.14-15	集団・個人レッスン					
20	初見練習 (変ロ長調曲の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.16	集団・個人レッスン					
21	初見練習 (様々な長調曲の旋律部分のみ)、弾き歌い課題 No.17	集団・個人レッスン					
22	弾き歌い課題 (No.11-17) の復習	集団レッスン					
23	弾き歌い課題 No.18、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン					
24	弾き歌い課題 No.19、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン					
25	弾き歌い課題 No.20、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン					
26	弾き歌い課題 (No.18-20) の復習、ピアノ・ソロ曲	集団・個人レッスン					
27	弾き歌い課題 (No.11-20) の復習	集団レッスン					
28	弾き歌い発表会 (第 2 回)	発表					
29	ピアノ・ソロ曲発表会のリハーサル	集団・個人レッスン					
30	ピアノ・ソロ曲発表会	発表					
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
授業態度・授業への参加度				◎		40	
受講者の発表 (プレゼン)					◎	60	
補足事項	評価は授業態度と発表内容から総合的に評価する。ただし、前期と後期それぞれに課する弾き歌いの試験に合格できない場合は、成績は「不可」となる。ピアノ実技や弾き歌いの課題は、授業時間外にも各自で練習すること。						
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、現場で活用できるような音楽的知識及び技術を指導する。						
テキスト・参考文献等	幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育 (神原雅之、鈴木恵津子監修・編著、教育芸術社)。その他、弾き歌い課題等は別途配布する。						
履 修 条 件	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。						
学習相談・助言体制	原則として授業の前後に対応する。					授業中の撮影	○

授業科目名	音 楽 II		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	鷲野彰子・綾部資子・柏村晶子・馬渡英子						
授業の概要	「音楽Ⅰ」を発展させ、音楽に関する知識や技術の向上を図るとともに、音楽に関する保育教材やその指導法等について学習する。保育の場における音楽活動を意識し、共演者と共に演奏する経験を通じて、3年次に設定される保育内容「表現Ⅰ」を展開するために必要な知識や技術を身につける。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	保育の場における音楽活動に必要な、基本的な音楽理論の知識を身につける。					
思考・判断・表現	DP4:表現力	保育の場における音楽活動を意識した弾き歌いや共演者を意識した連弾演奏ができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	各自にとってより高度な演奏技能を身につけ、共演者を意識して演奏することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション(授業の内容と方法)		説明		ピアノ実技や弾き歌いには事前・事後学習が必ず必要です。各回の授業の間に、ピアノ実技や弾き歌い課題の練習を各自で行うこと。連弾曲の練習は連弾のパートナーと時間を合わせて練習すること。		
2	弾き歌い		講義・集団レッスン				
3	ピアノ個人指導1		個人レッスン				
4	ピアノ個人指導2		個人レッスン				
5	ピアノ個人指導3		個人レッスン				
6	ピアノ個人指導4		個人レッスン				
7	ピアノ個人指導5		個人レッスン				
8	弾き歌い		講義・集団レッスン				
9	ピアノ個人指導6		個人レッスン				
10	ピアノ個人指導7		個人レッスン				
11	弾き歌い		講義・集団レッスン				
12	ピアノ個人指導8		個人レッスン				
13	ピアノ実技発表会		発表				
14	弾き歌い		講義・集団レッスン				
15	弾き歌いの発表		発表				
16	4手連弾(1局目)練習・弾き歌い		講義				
17	ピアノ個人指導9		個人レッスン				
18	4手連弾(1局目)発表・弾き歌い		集団レッスン				
19	4手連弾(2局目)練習・弾き歌い		講義				
20	ピアノ個人指導10(4手連弾)		個人レッスン				
21	4手連弾(2局目)発表・弾き歌い		集団レッスン				
22	6手連弾練習・弾き歌い		講義				
23	ピアノ個人指導11(6手連弾)		個人レッスン				
24	6手連弾発表・弾き歌い		集団レッスン				
25	4手連弾(3局目)練習・弾き歌い		講義				
26	ピアノ個人指導12(4手連弾)		個人レッスン				
27	弾き歌い(10曲)の確認		集団レッスン				
28	弾き歌いの発表		発表				
29	ピアノ個人指導13(4手連弾)		個人レッスン				
30	ピアノ実技発表会		発表				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				◎		40	
受講者の発表(プレゼン)					◎	60	
補足事項		評価は授業態度と発表内容から総合的に評価する。ただし、前期と後期それぞれに課する弾き歌いの試験に合格できない場合は、成績は「不可」となる。ピアノ実技や弾き歌いの課題は、授業時間外にも各自で練習すること。					
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、現場で活用できるような音楽的知識及び技術を指導する。						
テキスト・参考文献等	幼稚園教諭・保育士養成課程幼児のための音楽教育(神原雅之、鈴木恵津子監修・編著、教育芸術社)。その他、弾き歌い課題等は別途配布する。						
履修条件	音楽Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	原則として授業の前後に対応する。					授業中の撮影	○

授業科目名	造 形 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	1	1年
担当教員	櫻井国芳						
授業の概要	<p>保育者には、子どもの表現を援助できるような知識・技能を持ち合わせていることが望まれる。また、つくりに親しみをもち喜びや楽しさを感じていく体験の積み重ねが、子どもの感性や表現への援助につながっていくことと思われる。授業ではいくつかの題材を取り上げながら、素材に対する柔軟な考えとそれに応じた技能を身に付けることを目指す。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	幼稚園教育要領及び保育所保育指針に示されている領域「表現」のねらい及び内容について理解する。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	喜びや楽しさを感じながら描いたり、つくったりする体験を積み重ねることが、子どもの表現に対する援助につながることを認識する。					
技能	DP10:専門分野のスキル	身近な材料を用いて、形や色・手触りなどの特性を感じ、それらをもとにイメージを広げながら描いたりつくったりできる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	子どもと大人の様々な表現方法について、子どもの絵の見方について						
2	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」1 紙遊び(1)		紙の特性に着目し、それを用いて簡単な製作をし、つくったもので遊ぶ。		学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。		
3	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」2 紙遊び(2)		紙の特性に着目し、それを用いて製作をし、つくったもので遊ぶ。		学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。		
4	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」3 布おもちゃ		布を用いておもちゃをつくり、それを使った子どもの遊びについて理解する。		学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。		
5	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」4 身近なものを遊びに取り入れる		身近にあるものを用いて遊べるものをつくり、様々な遊び方を体験する。		学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。		
6	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」1 紙版画による表現(1)		下絵づくり		授業外でも、制作を進める。		
7	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」2 紙版画による表現(2)		制作過程におけるポイントを理解しながら、版づくりを進める。		同上		
8	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」3 紙版画による表現(3)		他の作品における効果的な表現を認識しながら、版づくりを進める。		同上		
9	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」4 紙版画による表現(4)		版づくりを進める、版の完成		同上		
10	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」5 紙版画による表現(5)		刷り				
11	「美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」1 回転ジャバラの製作(1)		展開図を基に形をつくる。		授業外でも、制作を進める。		
12	「美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」2 回転ジャバラの製作(2)		生活の中から発想したものをイメージし、デザインする。		同上		
13	「美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」3 回転ジャバラの製作(3)		折り紙、色紙等を利用して製作を進める。		同上		
14	「美しいものや心を動かす出来事に触れ、イメージを豊かにする」4 回転ジャバラの製作(4)		作品の完成と、子どもの遊びへの利用法について考える。		学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。		
15	「様々な音、形、手触りなどに気付いたり、感じたりして楽しむ」		音から得たイメージを、粘土で形に表す。		学習した保育教材をレパトリーとして蓄積する。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				◎			
課題の内容		◎			◎		
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、子どもの心身の発達を見据えた保育教材のあり方等について指導する。						
テキスト・参考文献等	幼稚園教育要領(平成29年3月告示 文部科学省)、保育所保育指針(平成29年3月告示 厚生労働省)他、授業中に適宜資料を配布する。						
履修条件	保育士資格、幼稚園免許の取得希望者に限ります。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可。					授業中の撮影	無

授業科目名	造形Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	1年
担当教員	櫻井国芳						
授業の概要	<p>子どもの想像力、感受性等を自由に発揮させるためには、様々な材料や道具に対する体験を積んだ保育者の感性を高めることが必須と考えられる。造形Ⅱでは造形Ⅰで培った技能を基に、材料（紙材、木材、廃材等）の多様な使い方を体験し、それに関わる技能を習得する。さらに、造形の視点から、保育の場面において考えられる題材について体験しながら学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	素材や材料の様々な特性を利用することについて、保育の題材と結びつけてとらえ、説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	喜びや楽しさを感じながら描いたり、つくったりする体験を積み重ねることが、子どもの表現に対する援助につながるということを認識する。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	材料の多様な使い方を体験し、それに関わる技能を駆使して表現できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	人間の五感と造形的な表現の関わりについて						
2	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」1 砂絵による表現（1）	下絵づくり	授業外でも、制作を進める。				
3	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」2 砂絵による表現（2）	砂絵の制作	同上				
4	「感じたこと、考えたことを自由にかいたりつくったりする」3 砂絵による表現（3）	砂絵の制作と作品の完成	学習した保育教材をレポートリとして蓄積する。				
5	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」1 廃材を利用した表現（1）	紙すきの方法を理解する。					
6	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」2 廃材を利用した表現（2）	準備した牛乳パックを用いて紙すきを行う。	授業外でも、制作を進める。				
7	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」3 廃材を利用した表現（3）	できあがった紙にマーブリングをする。	同上				
8	「伝え合う楽しさを味わう」1 カードづくり（1）	行事、誕生日、お知らせ等様々なカードがあることを理解する。					
9	「伝え合う楽しさを味わう」2 カードづくり（2）	テーマを決めて、カードづくりをする。	学習した保育教材をレポートリとして蓄積する。				
10	「つくったりすることを楽しみ、飾ったりなどする」1 壁面構成（1）	保育室にある壁面構成について理解する					
11	「つくったりすることを楽しみ、飾ったりなどする」2 壁面構成（2）	保育の場面を意識しながら用途を決めて、壁面づくりをする①	授業外でも、制作を進める。				
12	「つくったりすることを楽しみ、飾ったりなどする」2 壁面構成（3）	保育の場面を意識しながら用途を決めて、壁面づくりをする② 完成した壁面を展示し、教育・保育における効果について話し合う	学習した保育教材をレポートリとして蓄積する。				
13	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」4 パズルづくり（1）	様々なパズル（形、色、素材等）があることを理解する。	同上				
14	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」5 パズルづくり（2）	木材を使って、パズルづくりをする①	授業外でも、制作を進める。				
15	「いろいろな素材に親しみ、工夫して遊ぶ」6 パズルづくり（3）	木材を使って、パズルづくりをする②塗装し、完成させる	学習した保育教材をレポートリとして蓄積する。				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度				◎			
課題の内容		◎			◎		
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、子どもの心身の発達を見据えた保育教材のあり方等について指導する。						
テキスト・参考文献等	幼稚園教育要領（平成29年3月告示 文部科学省）、保育所保育指針（平成29年3月告示 厚生労働省） 他、授業中に適宜資料を配布する。						
履修条件	造形Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可。					授業中の撮影	無

授業科目名	造形Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	櫻井国芳						
授業の概要	こどもの直観力や想像力、感受性などを自由に発揮させるためには、様々な材料や道具に対する経験を積んだ指導者の感性を高めることが必須と考えられる。造形Ⅱでは、造形Ⅰで培った技能を基に材料（紙材、木材、廃材など）の多様な使い方を体験し、それに関わる技能を習得する。さらに、造形（的表現）の視点から、保育の場面において考えられる題材について体験しながら学び、身につけていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	素材や材料の様々な特性を利用することについて、保育の題材と結びつけてとらえ、説明できる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	喜びや楽しさを感じながら描いたり、つくったりする体験を積み重ねることが、子どもの表現に対する援助につながるということを認識する。					
技能	DP10:専門分野のスキル	材料の多様な使い方を体験し、それに関わる技能を駆使して表現できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1回 オリエンテーション・五感と造形表現の関わり方/ゲーム等取り入れながら、視覚と他の感覚との関連性を考えていく。</p> <p>2回 多色刷りによる版画制作1/多色刷りの効果を用いた版画制作の手順説明。下描きを考える。</p> <p>3～4回 多色刷りによる版画制作2・3/制作を進める。/授業時間内で間に合わない場合は、各自で制作を進めておく。</p> <p>5回 多色刷りによる版画制作4/刷り。作品提出。</p> <p>6回 パズル製作1/木材を使ったパズル製作の手順を説明。下絵を転写する。</p> <p>7～9回 パズル製作2・3・4/糸鋸を使って、木材を切り取る。やすりがけをする。/授業時間内で間に合わない場合は、空き時間を利用して製作を進めておく。</p> <p>10回 パズル製作5/塗装し、作品を提出する。</p> <p>11回 粘土による表現/水粘土や液状粘土を用いて形を表現する。/学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>12回 壁面構成1/保育室などに飾られている壁面構成を紹介し、製作の手順を説明する。/作品の完成までに授業時間内で間に合わない場合は、各自で製作を進めておく。</p> <p>13～14回 壁面構成2・3/構想を練り、様々な材料を使いながら壁面を構成する。/同上</p> <p>15回 壁面構成4/作品の完成と提出。</p> <p>16～17回 布おもちゃ1・2/布を用いておもちゃをつくり、それを使った子どもの遊びについて理解する。/学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>18～19回 紙遊び1・2/乳幼児向きと考えられる、紙の特性を利用した題材について製作しながら、遊びに利用できることを理解する。/同上</p> <p>20～21回 絵画制作1・2/色砂を用いて、簡単な絵画制作を行う。/同上</p> <p>22回 絵画制作3/作品の完成と提出。</p> <p>23回 廃材を利用した製作1/製作手順の説明をする。/各自で牛乳パックを細かくちぎり、数日水に浸しておく。</p> <p>24～27回 廃材を利用した製作2・3・4・5/牛乳パックから紙作りを行い(紙すき)、マーブリングによって彩色する。さらに出来上がったものを箱に貼り付け製作していく。/授業時間で間に合わない場合は、各自で製作を進めておく。</p> <p>28回 廃材を利用した製作6/作品の完成と提出。</p> <p>29回 身近なものを利用して遊ぶ/洗濯バサミ、ストロー、糸など身近にあるものを用いて遊べるものをつくり、いろいろな遊びを体験する。/学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p> <p>30回 子どもとおもちゃ/子どもとおもちゃの関わりについて理解し、それをもとにおもちゃをつくる。/学習教材をレポートリーとして蓄積する。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
課題の内容		◎			◎		
授業態度・授業への参加度				◎			
補足事項	評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	資料などはこちらで用意します。						
履修条件	造形Ⅰの単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可					授業中の撮影	

授業科目名	体 育 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	選択	2	2年
担当教員	池 田 孝 博						
授業の概要	<p>幼児期における身体活動の意義や運動能力の発達について学習する。また、運動指導や遊びの支援の場面で必要となる実技および安全配慮について体験する。さらに、保育現場における運動会について理解し、そのために必要な準備・練習などを学ぶ。なお、この科目は、保育士資格の必修科目、幼稚園教諭一種免許状の教科に関する科目である。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児期における身体および運動能力の発育発達の特徴を理解している。 ・ 運動遊びに関する運動技能の構造やコツ、練習方法について説明できる。 					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 運動会およびその練習の実践場で積極的に子どもの支援に関わることができる。 ・ 与えられた学習課題に積極的に取り組む姿勢を示すことができる。 					
技能	DP10: 専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ マット、縄（長短）、鉄棒等を用いた運動遊びや水遊びに関する基本的なスキルを修得している。 					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>1 回：オリエンテーション：授業概要、単位認定、出席欠席の取扱いについて説明する 2～4 回：マット運動遊びの実技と指導法①（支持運動）※実技テストを含む 5～7 回：マット運動遊びの実技と指導法②（回転運動）※実技テストを含む 8 回：幼児期における身体の発育の理解（講義） 9 回：幼児期における運動能力の発達の理解（講義） 10～13 回：水遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む 14～15 回：水遊びに関わる安全教育 16～18 回：運動会の準備・練習の実際（体験学習） 19～20 回：運動会の実際（体験学習） 21～23 回：鉄棒遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む 24～26 回：長縄遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む 27～29 回：短縄遊びの実技と指導法 ※実技テストを含む 30 回：まとめ</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○		○		10	
宿題・授業外レポート		○		○		10	
授業態度・授業への参加度				○		50	
実技テスト					○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考図書：青柳領『子どもの発育発達と健康』ナカニシヤ出版、2006年、¥3200						
履修条件	保育士資格、幼稚園教諭免許状を修得する意思がある学生						
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。						授業中の撮影

授業科目名	体 育 II		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	池 田 孝 博		通年	演習	選択	2	3年
授業の概要	<p>幼児の運動指導や運動遊びの支援の計画を作成し、それを実践して検証する。また、幼児を対象とした運動能力テストの意義や具体的内容を理解し、その測定方法およびデータの集計分析方法について学習する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の運動能力測定の意義およびその発達を目的とした運動指導や遊びの支援に関する知識を有している。 					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作成された計画に基づいて幼児に適切に関わる態度を有している。 ・ 与えられた学習課題に積極的に取り組む姿勢を示すことができる。 					
技能	DP10: 専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼児の対象とした運動能力測定を計画し、実施できる。 ・ 運動指導や運動遊び支援の計画を作成し、実践できる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1回：オリエンテーション 2～6回：幼児期の運動能力測定の意義・内容、実施方法の理解、実施準備（講義・演習） 7～10回：運動能力測定の実施（実習） 11～15回：運動指導の理論と指導案の作成（講義・演習） 16～20回：運動指導の実践およびその検証（実習） 21～23回：運動遊びの支援計画の作成（講義・演習） 24～29回：運動遊び支援の実践と検証（実習） 30回：まとめ</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内の課題		○				25	
宿題・授業外レポート		○		○		25	
授業態度・授業への参加度				○		25	
保育現場での演習				○	○	25	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	体育 I の単位を修得している学生、または履修実績があり 30 回中 20 回以上の出席実績がある学生						
学習相談・助言体制	授業時間外の相談・助言については、メールアドレスを公開し、メールで対応する。						授業中の撮影

授業科目名	児童文学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	2	3年
担当教員	大久保 淳子						
授業の概要	児童文学の定義や歴史について概説する。乳幼児期は絵本や物語の世界を楽しみ、想像してイメージを豊かに広げていく時期であることを踏まえて、発達に応じた絵本・紙芝居について考える。また、児童文学を素話やパネルシアター・ペープサートなどで表現することを学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	子どもの生活と児童文学とのかかわりについての専門的知識を体系的に説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	乳幼児の発達に応じた児童文学財について自ら調べ、考え、判断することができる。					
	DP4: 表現力	児童文学について考え、自ら意見を述べることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	児童文化財（パネルシアター、ペープサート等）を用いて、児童文学を表現することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容			授業方法	事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション			講義	発表者は事前に予習をしておく。 授業後は、配布資料で復習をする。		
2	児童文学の定義・児童文学の歴史			講義			
3	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領と児童文学との関連	1	講義・演習				
4	幼稚園教育要領、保育所保育指針、認定こども園教育・保育要領と児童文学との関連	2	講義・演習				
5	海外の児童文学 1（イギリス・フランス・ドイツ・ロシア・ギリシャ・北欧）		講義・演習				
6	海外の児童文学 2（アメリカ・中国）		講義・演習				
7	日本の児童文学 1（明治・大正時代）		講義・演習				
8	日本の児童文学 2（昭和時代以降）		講義・演習				
9	発達の視点からみる絵本・紙芝居 1（0歳児～2歳児）		講義・演習				
10	発達の視点からみる絵本・紙芝居 2（3歳児）		講義・演習				
11	発達の視点からみる絵本・紙芝居 3（4歳児）		講義・演習				
12	発達の視点からみる絵本・紙芝居 4（5歳児）		講義・演習				
13	様々な視点からみる絵本・紙芝居（行事）		講義・演習				
14	素話・様々な児童文化財（パネルシアター・ペープサートなど）		講義・演習				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度				○		30	
受講者の発表（プレゼン）				◎	○	40	
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での児童文学の読み聞かせの現状・課題等をご紹介します。						
テキスト・参考文献等	テキスト：「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館（改定版） 「保育所保育指針解説」 厚生労働省 フレーベル館（改定版） 「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 内閣府 フレーベル館（改定版） 参考文献：「児童文学論」 岩波現代文庫 リリアン・H.スミス（著）、石井 桃子（翻訳）						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。					授業中の撮影	

授業科目名	子どもと遊び		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	<p>幼児期の発達の特徴性に配慮し、5領域を踏まえた「遊びを通しての総合的な指導」、幼児期の終わりまでに育ってほしい姿に留意し、子どもの遊びを豊かに展開するための保育技術について検討する。さらに、指導計画案を作成後、模擬保育を体験し適切な遊びの指導(援助)や教材研究(教材製作・その活用)についても学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	子どもの自発的な遊びと発達を踏まえて、様々な遊びに関して適切な指導(援助)を具体的に説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	5領域のねらい・内容を理解し、子どもの遊びを豊かに展開する理論や保育技術を説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	様々な遊びに関心を持ち、自ら調べ、指導計画案を作成し実践することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			授業方法	事前・事後学習(学習課題)		
1	遊びとは何か。			講義			
2	幼児教育における遊びについて			講義・演習			
3	遊びを通しての総合的な指導について			講義・演習			
4	幼児期の終わりまでに育ってほしい姿について			講義・演習			
5	遊びを豊かにする環境のあり方			1. 模擬保育をする。(15~20分前後) 2. 模擬保育終了後、教員が解説をする。 3. 各自、評価・省察をする。	担当者は、事前に指導計画案を作成し、配布できるように準備しておく。発表後は、評価・省察をする。		
6	発達段階において経験したい遊び						
7	3歳児のDVD視聴・指導計画案の作成・グループでの検討						
8	4歳児のDVD視聴・指導計画案の作成・グループでの検討						
9	5歳児のDVD視聴・指導計画案の作成・グループでの検討						
10	5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(健康な心と体)						
11	5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(自立心・協同性)						
12	5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(道徳性・社会生活)						
13	5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(思考力・自然・生命尊重)						
14	5領域と幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿(数量・図形、文字・言葉他)						
15	まとめ			講義			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	○	◎		30	
宿題・授業外レポート				◎		20	
授業態度・授業への参加度				◎		20	
受講者の発表(プレゼン)					◎	30	
実務経験を生かした授業	教員としての経験を生かして、保育・教育現場での子どもの遊びの現状・課題等をご紹介します。						
テキスト・参考文献等	テキスト:「指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省 フレーベル館、「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館 (改定版)、「保育所保育指針解説書」 厚生労働省 フレーベル館 (改定版)、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 内閣府 フレーベル館 (改定版)、参考文献:必要に応じて資料を配布する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスアワーを活用してください。					授業中の撮影	

授業科目名	家庭支援論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	多様性が増す現代社会において変化し続ける家庭のあり方について理解し、保育者の役割を学ぶ。高度経済成長の頃の日本と現代の日本を比較しながら、社会や子育ての変化を理解し、現代の子育て家庭のニーズを探る。身近な子育て経験者に話を聞く機会をもつなどして理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	家庭の意義とその機能について理解し、子育て家庭を取り巻く社会状況について述べることができる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	家庭支援に関する保育者の役割を理解し、事例に関する自分の意見を述べるができる。					
	DP4:表現力	子育て家庭のニーズに応じた多様な支援の展開と関係機関との連携とはどうあるべきかについてまとめることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	家族とは・家庭とは ※事例発表とレポート課題について説明		講義、ディスカッション		第1章を読む		
2	家族の意義と機能、家庭支援の必要性		講義		第1, 2章を読む		
3	保育者が行う家庭支援の原理 現代の家庭における人間関係		講義		第3, 4章を読む		
4	地域社会の変容と家庭支援		講義、DVD視聴		第5章を読み、昭和30～40年代の日本の状況を調べる		
5	男女共同参画社会とワークライフバランス		講義		第6章を読む		
6	子育て家庭の福祉を図るための社会資源		講義、ディスカッション		第7章を読む		
7	子育て支援施策・子育て支援サービス		グループ内発表		子育て支援サービス調査		
8	子ども子育て支援新制度によるサービス		講義、DVD視聴		第8, 9章を読む		
9	子ども子育て支援新制度における取組み例		講義、DVD視聴		第8, 9章を読む		
10	保育所入所児童の家庭への支援		講義、演習		第10章を読む		
11	要保護児童及びその家庭に対する支援		講義、演習		第12章を読む		
12	事例発表(1)		発表		発表準備		
13	事例発表(2)		発表		発表準備		
14	保護者支援の実際		演習		配布資料を読む		
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			◎	◎			60
小テスト・授業内レポート			○	○			10
宿題・授業外レポート			◎	◎			20
授業態度・授業への参加度			○	◎			10
補足事項		毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。					
実務経験を生かした授業	児童福祉施設での子育て支援の実務経験を生かして、家族支援の理解や対応について講義・演習を行う。						
テキスト・参考文献等	【テキスト】井村圭壮・相澤譲治編「保育と家庭支援論」、学文社、2015年、2,000円(税別)						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						授業中の撮影

授業科目名	社会的養護		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	現代社会における社会的養護の意義と歴史の変遷、社会的養護の制度や実施体系等について学ぶ。また、社会的養護における児童の人権擁護および自立支援について理解し、社会的養護の現状と課題について支援例を参考に検討していく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会的養護と児童福祉の関連を理解し、社会的養護の概念、歴史の変遷、制度を述べることができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的養護における保育者の子どもとその家族に対する生活支援について、事例より考察し、考えを述べるができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	社会的養護と家庭の養護の課題を抽出し、探求することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション、社会的養護とは		講義		第1章を読む		
2	社会的養護のあゆみ		講義		第2章を読む		
3	子どもの権利と養育		講義		第3章を読む		
4	社会的養護の理念と基本原則		講義		第4章を読む		
5	社会的養護の制度と実施体系(1)		講義		第5章を読む		
6	社会的養護の制度と実施体系(2)		講義		第5章を読む		
7	家庭養護：里親制度(1)		講義		里親制度について調べる		
8	家庭養護：里親制度(2)		外部講師による講義		里親制度について調べる		
9	家庭養護：ファミリーホーム		講義、DVD視聴		里親制度について調べる		
10	社会的養護についての発表(1)		発表		発表準備		
11	社会的養護についての発表(2)		発表		発表準備		
12	子どもの権利擁護：子どもの最善の利益を考える(1)		講義、グループ討議		子どもの権利条約の復習		
13	子どもの権利擁護：子どもの最善の利益を考える(2)		講義、グループ討議		子どもの権利条約の復習		
14	社会的養護の課題～事例児童養護施設退所後の人生から考える		DVD視聴、小レポート				
15	まとめ		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		50	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎		30	
授業態度・授業への参加度		○	○	○		10	
受講者の発表(プレゼン)				◎		10	
実務経験を生かした授業	入所型児童福祉施設での実務経験から、入所施設の特徴や児童へのケアの基本について講義する。						
テキスト・参考文献等	【テキスト】中野菜穂子ほか編「社会的養護の理念と実践、みらい、2,000円(税別)」						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						授業中の撮影

授業科目名	社会的養護内容 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3年
担当教員	牛島豊広						
授業の概要	社会的養護の理念を基盤に据えた支援の実践展開について理解をする。その内容として、社会的養護を必要とする子どもを生活者の主体と捉え、その基本的人権、生まれながらにしてつ権利を保障するという視点をもった支援について学ぶ。そして、日常生活支援や治療的支援、子どもへの個別的なケアにとどまらず家族支援、地域支援等支援の視点も含めて考察していく。さらに保育士は社会福祉の専門職であるという認識を深め、保育士の倫理とともにソーシャルワークの方法と技術も合わせて理解する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	子どもの安心、安全な暮らしのために求められる支援について説明することができる。地域を基盤とした支援について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	子どもの個別のニーズを反映した自立支援計画の立案ができる。家庭支援、地域支援への支援について説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	社会的養護の取り組みにおける課題について整理をし、今後の支援のあり方について考察し説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	社会的養護の実践と保育士の支援		オリエンテーション 演習		社会的養護の支援の基盤をして事例について個人、グループ別で展開する。支援に関する記録及び評価をはじめ自立支援計画、家庭支援を立案する。また、社会的養護実践における保育士の資質や倫理、専門性について整理をする。		
2	家庭的養護の理念と法制度の仕組み		演習				
3	社会的養護を必要とする子どもの権利		演習				
4	社会的養護施設で暮らす子どもの生活環境への支援		演習				
5	社会的養護施設における支援プロセス		演習				
6	社会的養護施設の社会化		演習				
7	社会資源としての社会的養護施設と地域連携		演習				
8	社会的養護実践における記録および評価		演習				
9	社会的養護施設における個別支援計画の意義と役割		演習				
10	社会的養護施設における自立支援の取り組み		演習				
11	保育ソーシャルワークの視点を用いた家庭支援		演習				
12	施設養護から家庭養護への生活環境の移行支援		演習				
13	社会的養護施設における保育士の資質と倫理		演習				
14	社会的養護施設で求められる保育士の専門性		演習				
15	社会的養護における今後の実践的支援の課題		演習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○	○		60	
レポート		○	◎	○		30	
授業態度・授業への参加度			○	◎		10	
補足事項	演習授業のため事例等の検討課題に関して積極的な発言を求めます						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	【テキスト】橋本好市・原田旬哉編「演習・保育と社会的養護内容」(株)みらい 【参考文献】倉石哲也監修 伊藤嘉余子・小池由佳編「社会的養護内容」(株)ミネルヴァ書房 福岡県児童養護施設協議会「児童養護施設の子どもたちへの支援に関する調査報告書」						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業終了後、メール等において個別相談に応じます。					授業中の撮影	

授業科目名	社会的養護内容Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	3・4年
担当教員	杉野寿子・川原富紀枝						
授業の概要	社会的養護の歴史の変遷や現状を理解し、施設養護における課題をもとに今後の施設養護の支援について検討する。また、学生自身が関心のある領域における施設養護について理解を深め、プレゼンテーションを行う。施設現場への見学も行う（日程については授業開始後に案内）。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会的養護の歴史の変遷、さまざまな社会的養護の状況、施設利用者の人権擁護、施設養護における支援について述べるができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自らの課題を見つけ、それについて調べ、論理的にまとめることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	講義					
2	社会的養護についての理解	講義	社会的養護の復習				
3	施設養護の歴史	講義、DVD視聴	配布資料を読む				
4	施設養護におけるソーシャルワーク①	講義、ディスカッション	配布資料を読む				
5	施設養護におけるソーシャルワーク②	講義、ディスカッション	配布資料を読む				
6	施設訪問を通して学ぶ養護の実際①	学外授業	訪問施設研究				
7	施設訪問を通して学ぶ養護の実際②	学外授業	訪問施設研究				
8	事例検討①	グループ討議	配布資料を読む				
9	事例検討②	グループ討議	配布資料を読む				
10	事例検討③	グループ討議	配布資料を読む				
11	海外の施設養護の例	講義、ディスカッション	配布資料を読む				
12	施設訪問を通して学ぶ養護の実際③	学外授業	訪問施設研究				
13	施設訪問を通して学ぶ養護の実際④	学外授業	訪問施設研究				
14	施設養護に関するプレゼンテーション②	発表	発表準備				
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎			50	
実務経験を生かした授業	児童福祉施設および里親の実務経験を生かして、社会的養護における具体的支援の実際について演習形式で授業展開する。						
テキスト・参考文献等	授業時に紹介します						
履修条件	「社会的養護」「社会的養護内容Ⅰ」を受講済み、又は受講中のこと。						
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。					授業中の撮影	

授業科目名		社会福祉 I			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		杉野 寿子			後期	講義	選択	2	1年
授業の概要		現代社会における社会福祉の意義、動向、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性について学ぶ。また、社会福祉の制度や実施体系、ソーシャルワーク、利用者の保護にかかわる仕組みや社会福祉の課題について取り上げる。講義形式だけでなく、学生自ら社会の問題に主体的に考えることができるよう、ディスカッションやグループ発表などの授業展開を行う。							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	現代社会における社会福祉の意義、動向、社会福祉と児童福祉及び児童の人権や家庭支援との関連性、ソーシャルワークについて理解し説明することができる。							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題を専門的知識に基づいて論理的に思考することができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	オリエンテーション：社会福祉とは、人のライフサイクルと福祉			ディスカッション		社会福祉とは何か考える			
2	社会福祉を考える：現代社会と私たちの生活			講義、ディスカッション		社会の変化と少子高齢化について調べる			
3	子ども家庭支援：子どもの貧困			講義、ディスカッション		子どもの貧困について調べる			
4	子どもの権利と児童権利条約			講義・ディスカッション		児童権利条約を調べる			
5	児童家庭福祉に関わる行政機関と法制度			講義		福祉行政について調べる			
6	社会福祉サービス利用のしくみ、社会的養護、児童福祉施設			講義		児童福祉施設について調べる			
7	社会保障制度のしくみ、低所得者の福祉（生活保護制度）			講義		生活保護制度を調べる			
8	障がいのある人（子ども）の福祉、障がいのとらえ方			講義・DVD視聴		ノーマライゼーション、インクルージョンを調べる			
9	高齢者の福祉、在宅福祉			講義		介護保険制度を調べる			
10	ソーシャルワークの意義と機能、保育とソーシャルワーク			講義		配布資料を読む			
11	ソーシャルワークの理念、原則			講義、演習		配布資料を読む			
12	ソーシャルワークの技術（1）			講義、演習		配布資料を読む			
13	ソーシャルワークの技術（2）			講義、演習		配布資料を読む			
14	保育ソーシャルワークの実際			講義、演習		配布資料を読む			
15	世界の福祉：同じ地球人として福祉を考える			講義・ディスカッション					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験			◎	◎			60		
小テスト・授業内レポート				○			10		
宿題・授業外レポート			◎	◎			20		
授業態度・授業への参加度			○	◎			10		
補足事項		毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。							
実務経験を生かした授業		児童福祉施設、障害者施設、高齢者施設での実務経験を生かし、社会福祉の理念、制度、相談援助等の基礎について、事例を挙げながら講義する。							
テキスト・参考文献等		(参考書) 直島正樹・原田俊加奈編「図解で学ぶ保育 社会福祉」萌文書林、2017年、2,100円(税抜) 倉石哲也・鶴宏史「保育ソーシャルワーク」ミネルヴァ書房、2019年、2,200円(税抜) 日本保育ソーシャルワーク学会編「改訂版保育ソーシャルワークの世界」2018年、2,000円(税抜) 小林徹・栗山宣夫編「ライフステージを見通した障害児の保育・教育」みらい、2016年、2300円							
履修条件									
学習相談・助言体制		質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						授業中の撮影	

授業科目名	社会福祉Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	4年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	国内外の社会福祉の動向、社会福祉と保育の関連、社会的養護の動向などを題材に挙げ、講義とディスカッションを中心に授業展開する。また、学生自身が関心のある領域における社会福祉について理解を深め、プレゼンテーションを行う。施設現場への見学も行う（日程については授業開始後に案内）。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会福祉の意義、国内外の社会福祉の動向、さまざまな社会的養護の状況、生活に困難をかかえる人への支援について理解し、述べることができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自らの課題を見つけ、それについて調べ、論理的にまとめることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義		社会福祉Ⅰの復習		
2	社会福祉の意義		講義		社会福祉Ⅰの復習		
3	基本的人権の尊重を考える：ハンセン病の歴史から考える		講義、DVD視聴		ハンセン病について調べる		
4	社会福祉と権利擁護		講義		権利擁護について調べる		
5	持続可能な開発目標(SDGs)：地球上の誰一人として取り残さない		講義		SDGsを調べる		
6	SDGsと海外の子どもたち		講義、討論		海外の子ども事情を調べる		
7	SDGsと日本の子どもたち		講義、討論		子どもの権利を復習		
8	社会的養護と保育ソーシャルワーク①		講義、演習		配布資料を読む		
9	社会的養護と保育ソーシャルワーク②		講義、演習		配布資料を読む		
10	福祉施設への見学と交流①		学外授業		訪問先について調べる		
11	福祉施設への見学と交流②		学外授業		訪問先について調べる		
12	福祉課題について考える(学生によるテーマ)①		学外授業		訪問施設研究		
13	福祉課題について考える(学生によるテーマ)②		学外授業		訪問施設研究		
14	学生による発表		発表		発表準備		
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎			30	
授業態度・授業への参加度		○	○			20	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎			50	
実務経験を生かした授業	国内外の福祉現場における実務経験を生かして、人々の多様な生活や価値観、共生社会について講義・演習を行う。						
テキスト・参考文献等	授業時に紹介します。						
履修条件	「社会福祉Ⅰ」「社会的養護」を受講済みのこと。						
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。						授業中の撮影

授業科目名	相談援助				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	杉野寿子				後期	演習	選択	1	2年
授業の概要	授業の前半では、相談援助の意義・機能、対象、視点、原則などを講義形式にて説明する。後半では、相談援助の展開で必要とされる知識・技術、態度等の演習を行う。また、相談援助の事例を用いて社会資源の活用・調整、多職種間の連携、援助の具体的展開など、ディスカッションを交えながら演習を行う。								
学生の到達目標									
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	相談援助に必要な基礎的知識を修得し、説明できる。							
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	相談援助の対象とそのニーズを理解し、適切な支援を検討できる。							
技能	DP10: 専門分野のスキル	相談援助の展開に必要なスキルを修得し、活用できる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容							事前・事後学習(学習課題)	
1	オリエンテーション、相談援助の意味、視点、ソーシャルワーク							テキスト第1章	
2	相談援助の基本・意義、保育とソーシャルワーク、社会資源							テキスト第2, 3章を読む	
3	相談援助の機能・役割・対象、保育ニーズの変化、エコマップ、ジェノグラム							テキスト第4, 5章を読む	
4	相談援助の過程							テキスト第6章を読む	
5	相談援助の技術とアプローチ、ストレングス視点、エンパワメント							テキスト第7章を読む	
6	相談援助の原則(バイステックの原則)							テキスト第2章第2節を読む	
7	バイステックの7原則を事例を通して考える、価値観の多様性・・・事例検討							テキスト第9, 10章を読む	
8	対人援助における基礎① 価値観と自己覚知・・・グループワーク							レポート作成(後日提出)	
9	対人援助における基礎② コミュニケーション・・・ペアワーク								
10	相談援助における面接技法①・・・グループに分かれて演習							配布資料を読む	
11	相談援助における面接技法②・・・グループに分かれて演習							配布資料を読む	
12	相談援助における保護者支援・・・グループに分かれて演習							配布資料を読む	
13	相談援助の事例①・・・ディスカッション							テキスト第11章を読む	
14	相談援助の事例②・・・ディスカッション							配布資料を読む	
15	まとめ								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験			◎	◎			60		
小テスト・授業内レポート			○	○		○	10		
宿題・授業外レポート			◎	◎			20		
授業態度・授業への参加度				○		◎	10		
補足事項			毎回授業の終わりに「振り返りシート」を記入し提出。						
実務経験を生かした授業	児童の入所および通所施設での保育ソーシャルワークの実務経験を生かして、実際の類似事例を題材に子どもや家族との関わり、関係機関との連携などについて講義・演習を行う。								
テキスト・参考文献等	テキスト: 相澤譲治ほか編『児童家庭福祉の相談援助』、建帛社、2014年、1,900円								
履修条件									
学習相談・助言体制	質問等については、毎回の振り返りシートで受け付けるほか、授業後の時間、オフィスアワー、メールでも対応します。次回授業時に回答します。							授業中の撮影	

授業科目名		児童家庭福祉			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		西原尚之			前期	講義	選択	2	2年
授業の概要		<p>本授業は児童福祉領域において専門職、とくに保育士になろうとする学生にたいして児童家庭福祉の基本的な知識を学習してもらうことを目的としています。また保育所以外の児童養護施設や障害児施設における課題も積極的に取りあげます。</p>							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> 児童家庭福祉の理念と法制度について説明できる。 現代社会における子どもの権利について説明できる。 							
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> 専門職として児童家庭福祉の理念にもとづきどのような支援が必要かを論理的に述べるができる。 現代社会の児童家庭福祉的課題がどのような背景から起るかを理解し、支援ネットワークのなかで保育士として果たすべき役割を述べるができる。 							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション			講義					
2	現代社会における児童家庭福祉の位置づけ			講義			自分の家族と地域の関係を吟味しておく		
3	多様化する家族と児童家庭福祉			講義			家族の形の変化を調べておく		
4	子どもの権利の歴史の変遷：子ども権利条約の意義			講義			子どもの権利条約を一読しておく		
5	児童家庭福祉の法制度			講義			児童福祉法について調べておく		
6	児童家庭福祉の実施体制と専門職			講義			児童福祉領域の専門機関と施設について調べておく		
7	児童家庭福祉の現状と課題(1)：社会的養護の概要			講義			里親について調べておく		
8	児童家庭福祉の現状と課題(2)：児童虐待の概要			講義			児童虐待の現状を調べておく		
9	児童家庭福祉の現状と課題(3)：被虐待児の理解と支援			講義			トラウマと愛着障害について調べておく		
10	児童家庭福祉の現状と課題(4)：障がい児とその家族の理解			講義			障害受容について調べておく		
11	児童家庭福祉の現状と課題(5)：障がい児領域の法制度			講義			障がい児施設について調べておく		
12	児童家庭福祉の現状と課題(6)：子どもの貧困			講義			子どもの貧困関連の書籍を読んでおく		
13	児童家庭福祉の現状と課題(7)：ひとり親家庭			講義			ひとり親家庭の困難について調べておく		
14	児童家庭福祉の支援の実際(事例)			講義			事例の感想をまとめておく		
15	まとめ			講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験			◎	◎					
授業態度・授業への参加度			○	○					
補足事項		<ul style="list-style-type: none"> 授業回数2/3(10回)以上で定期試験の受験資格 毎回受講カードに「質問・感想」を記入する。適切な質問・感想の記入があった場合毎回2点を与える 定期試験は持ち込み不可 							
実務経験を生かした授業	児童相談所の児童心理司経験者(担当教員)が経験事例などをもとに児童家庭福祉支援の方法を解説する。								
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> テキストは使用しません。レジュメや必要な資料は授業で配布します。 参考文献は授業で適宜紹介します。 								
履修条件	特にありません								
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> 質問や意見は「受講カード」で対応します。 授業後の質問、意見も歓迎します。質問や意見は「受講カード」で対応します。 授業後の質問、意見も歓迎します。 							授業中の撮影	

授業科目名	音楽理論とソルフェージュ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	1	2年
担当教員	鷲野 彰子						
授業の概要	旋律や和声の構造を中心とした、保育の場で必要となる音楽の基礎的な理論を論理的に理解し、それを実践的に演奏する練習を行うことで、保育の場における様々な状況に応じた環境で音楽活動を行える基本的な力を身につける。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	音楽の基本的な知識を身につけ、曲の仕組みを理論的に理解できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	理論的に理解した音楽的内容を、実際の演奏に結びつけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション	説明			授業の復習をしておくこと。		
2	基本的な和声構造(カデンツ)とコード記号	講義					
3	基本的なコード記号の造りを理解する①	講義					
4	基本的なコード記号の造りを理解する②	実践					
5	「旋律+コード記号」の曲をピアノで弾いてみる	実践					
6	楽譜の伴奏部分をコード記号に変換してみる	実践					
7	楽譜の伴奏部分を簡易伴奏に変換してピアノで弾いてみる	実践					
8	コード記号 まとめ	実践					
9	リズム打ちと新曲視唱	実践					
10	初見演奏①	実践					
11	初見演奏②	実践					
12	初見演奏③	実践					
13	移調①	実践					
14	移調②	実践					
15	全体のまとめ	実践					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎				40	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	40	
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、現場で活用できるような音楽的知識及び技術を指導する。						
テキスト・参考文献等	テキスト①神原雅之・鈴木恵津子(監修)『幼稚園教諭・保育士養成課程 幼児のための音楽教育』教育芸術社(2010)						
履修条件	基礎的な楽譜を読む能力やピアノを弾く能力を身につけていること。						
学習相談・助言体制	原則として授業の前後に対応する。					授業中の撮影	

授業科目名		保育・教職実践演習（幼稚園）			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		大久保淳子・池田孝博・伊勢 慎・櫻井国芳・中藤広美・鷲野彰子・董 秋艶			後期	演習	選択	2	4年
授業の概要		<p>この授業は、将来、保育者になるために自己の課題を自覚し、専門的な知識・技能等を習得し、その定着を図り、保育者として円滑に歩むことを目指すものである。内容としては、以下の事項である。</p> <p>1. 保育者に必要な社会的視野を広げるために、保育に関する現代的課題について分析及び検討する。</p> <p>2. 事例検討や模擬保育等を通して、様々な視点に基づいた適切な指導計画（指導案）について検討する。</p> <p>3. 保育者に必要な専門性と役割、職員間・保護者との信頼関係の構築、子ども理解と指導、学級経営の方法等について、これまでの学修を振り返りながら、事例を考察したり、グループや全体で討議したりする。</p>							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	それぞれのテーマについて現状とその問題点を調査・検討後、自分の意見を発表し、討議を進めることができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	現在、求められている保育者像を探求し、実践場面における事例検討の際、他者の意見も参考にしつつグループ討議を進めることにより、保育者としての役割や子ども理解等についての認識を示すことができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	保育の実践を多面的な視点から検討し、その視点を踏まえて適切な活動に基づく指導計画案を作成することができる。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（授業の意義と進め方、履修カルテの活用の仕方等）			・授業の意義、ねらい、進め方等を説明する。			・実習日誌の省察、内容を整理・復習する。		
2	保育者の専門性と役割、職務内容、責任等について			・保育者の専門性と役割、職務内容と遵守事項・責任等についてグループ討議をする			・グループごとに事前準備を行う。		
3	保育者に求められる対人関係能力について								
4	保育に関する現代的な課題について 1			<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとにテーマを選択し、選択したテーマについて調査・検討、全体の場での報告と討議を行う。 ・グループごとに事例検討や模擬保育等を実施し、5領域・10の姿を踏まえた活動に基づく指導案の検討をする。 ・5領域・10の姿の視点から、就学前に必要な様々な活動について考察する。 			<ul style="list-style-type: none"> ・グループごとに事例検討・模擬保育等を実施する場合は、各グループで事前に準備を行う。 		
5	保育に関する現代的な課題について 2								
6	保育に関する現代的な課題について 3								
7	保育に関する現代的な課題について 4								
8	教科・保育内容等の指導力に関する事項 1								
9	教科・保育内容等の指導力に関する事項 2			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な論文や事例等をグループで考察する 			<ul style="list-style-type: none"> ・他グループの討議内容も整理する。 		
10	教科・保育内容等の指導力に関する事項 3								
11	教科・保育内容等の指導力に関する事項 4								
12	教科・保育内容等の指導力に関する事項 5								
13	子ども理解と学級経営について 1			<ul style="list-style-type: none"> ・様々な論文や事例等をグループで考察する 			<ul style="list-style-type: none"> ・他グループの討議内容も整理する。 		
14	子ども理解と学級経営について 2								
15	これまでの学習のまとめ			講義					
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）			
小テスト・授業内レポート			◎			40			
授業態度・授業への参加度				◎		20			
受講者の発表（プレゼン）			◎		◎	40			
実務経験を生かした授業	教員経験を踏まえて、保育者として質の高い専門的分野を学ぶことができますようにします。								
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館（改定版）、「保育所保育指針解説書」 厚生労働省 フレーベル館（改定版）、「幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説」 内閣府 フレーベル館（改定版）</p> <p>参考文献：授業中に適宜紹介または配布するが、テーマに関わる文献や資料をグループごとに調査し収集することもこの演習の課題の一つです。</p>								
履修条件									
学習相談・助言体制	授業中の質疑応答やメールで対応します。この授業は、2クラスで実施します。授業内容により、教室が異なる場合もあります。クラス分け、教室については、第1回授業で説明します。							授業中の撮影	

授業科目名	幼稚園教育実習事前事後指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択	1	3～4年
担当教員	大久保淳子・董 秋艶						
授業の概要	<p>この講義は幼稚園教諭1種免許状の取得希望者を対象に「幼稚園教育実習Ⅰ」および「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前・事後指導として、3年次後期から4年次前期にかけて実施するものである。</p> <p>なお、「幼稚園教育実習Ⅰ」の実習先幼稚園の選択、実習依頼の手続きは、2年次後期に行う必要があることから、この講義とは別に2年次後期(追って連絡する)で説明するので、履修希望者は必ず出席すること。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	教育実習の意義・目的を理解し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	実習の計画、実践、観察、記録、評価の方法や内容について説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	実習の事後指導を通して、実習の省察を行い、新たな課題や学習目標を明確に示すことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)				
1	<p>「幼稚園教育実習Ⅰ」の事前及び事後指導(3年次)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習オリエンテーション・教育実習の意義(講義) ・実習の目的・実習の概要(実習の内容と方法、実習の時期と手続き、必要書類等) 2. 実習の内容と課題の明確化(講義) 3. 実習に際しての留意事項(講義) (1)子どもの人権・個人情報の保護と守秘義務 (2)実習生としての心構え 4. 実習の計画と記録(演習) (1)実習における計画と実践 (2)実習における観察、記録及び評価(実習日誌の作成について・記録の取り方) 5. 教材研究と模擬保育(演習) 6～7事後指導における実習の総括と課題の明確化(講義)・実習反省会 <p>「幼稚園教育実習Ⅱ」の事前及び事後の指導(4年次)</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 教育実習オリエンテーション(講義) ・幼稚園教育実習Ⅱの意義・実習の内容と方法 2. 観察記録の取り方、実習日誌の作成について(講義) 3. 指導計画(指導案)の作成と教材研究(演習) 4. 指導計画(指導案)の作成と模擬保育(演習) 5. 指導計画(指導案)の作成と実習に対する指導・助言(講義) 6. 事後指導における実習の総括・実習反省会 7. 今後の自己課題、学習課題の明確化(講義) 		<p>多くの実習日誌をできるだけ参照し、実習の実際を理解しておくこと。</p> <p>指導計画(指導案)を作成し、模擬保育をする。その際に、全体で討議・検討するので、事前に指導内容・方法を十分に検討し、質問・疑問に答えられるように準備しておくこと。</p> <p>事前に配布プリントや過去の実習生の指導計画案(指導案)を参考にして作成する。</p> <p>模擬保育を行う場合は、事前に準備をし、十分に練習しておくこと。</p>				
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎				30	
宿題・授業外レポート			○	◎		30	
授業態度・授業への参加度					○	10	
受講者の発表(プレゼン)					◎	30	
実務経験を生かした授業	教員としての経験を踏まえ、様々な事例を紹介し、理論と実践が結びつくようにします。						
テキスト・参考文献等	<p>テキスト:「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーバル館 (改定版)</p> <p>「指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省 (平成25年7月改定)</p>						
履修条件	<ol style="list-style-type: none"> ① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。 ② この授業を履修しないと「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅱ」は履修できないので、3年次後期の履修科目登録の際には特に注意すること。 ③ 幼稚園教諭1種免許状の取得には、この授業1単位と「幼稚園教育実習Ⅰ」「幼稚園教育実習Ⅱ」各2単位、計5単位が必要となるので、注意すること。 						
学習相談・助言体制	授業中または授業終了後の質疑応答によるが、メールでも受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	幼稚園教育実習 I				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 大久保 淳子				後期	実習	選択	2	3年
授業の概要	<p>この実習は、幼稚園教諭1種免許状の取得希望者を対象に実施するものであり、原則として学生の希望する幼稚園で3年次後期（10月下旬）に期間を定めて2週間実施する。実習を通して、幼稚園の役割や機能を具体的に理解し、観察や子どものかかわりを通して子どもへの理解を深めるとともに既習の教科の内容を踏まえ、子どもの保育及び保護者への支援について総合的に学ぶ。</p> <p>また、保育の計画、観察、記録及び自己評価や幼稚園教諭の業務・職業倫理について具体的に学ぶ。実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であるが、この実習では原則として②までを体験する。</p>								
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	幼児の心身の発達に応じた指導(援助)、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。							
	DP4:表現力	保育の理論を実践的に再確認し、保育の進め方について自分の考えを適切に表現することができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら示すことができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)						
1	<p>以下は、本学の「幼稚園教育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「幼稚園教育実習事前事後指導」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…保育に参加し、幼児の実態、担任と幼児の関わり、指導・援助の実際、保育の進め方などを学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 幼稚園教育実習 I では、原則として②までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数 実習協力幼稚園への実習生の配属（依頼）は、原則として一園3名以下とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導 実習生は職員に準じて勤務実習する。 指導には、園長および園長が指名する実習指導担当教員に指導をいただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習指導担当教員に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は園長及び実習指導担当教員に「実習評価表」に記入・報告していただく。</p>		実習後、実習指導教員の助言をもとに実習について省察する。						
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
	誠実性、明朗性、協調性、積極性			◎		20			
	子どもの理解、子どもとの関係		◎			10			
	保育の観察力・分析力	○	◎			10			
	実習態度・保育補助への参加度		◎			20			
	環境設定・整備		◎			10			
	指導能力・技術				◎	10			
	実習日誌・記録	○	◎			20			
実務経験を生かした授業	教員としての経験を踏まえ、実習中の質問などに対応します。								
テキスト・参考文献等	<p>テキスト:「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館 (改定版)</p> <p>「指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省 (平成25年7月改定)</p>								
履 修 条 件	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」を履修中か履修済みでない履修できない。また、履修していても他の免許関係科目の単位修得状況、その成績によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 幼稚園教諭1種免許状の取得には、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」1単位、この実習2単位、「幼稚園教育実習Ⅱ」2単位、合わせて5単位が必要なので注意すること。</p> <p>④ 実習の説明会を実施する場合がある。</p>								
学習相談・助言体制	実習期間中の質問などについてメールで対応します。 複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をします。							授業中の撮影	

授業科目名		幼稚園教育実習Ⅱ			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		大久保 淳子			前期	実習	選択	2	4年
授業の概要		この実習は、幼稚園教諭1種免許状取得希望者で「幼稚園教育実習Ⅰ」の単位を修得済みの者を対象に実施する実習であり、原則として学生の希望する幼稚園で4年次前期（5月中旬）に期間を定めて2週間実施する。実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であり、この実習では原則として③までを体験する。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	幼児の心身の発達に応じた指導（援助）、環境設定など、理論を踏まえて実践的な検討ができる。							
	DP4:表現力	保育の理論を実践的に再確認し、保育の進め方について自分の考えを適切に表現することができる。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保育に積極的に参加し、その課題を分析して自ら示すことができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	保育場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践することができる。							
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）									
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)				
1	<p>以下は、本学の「幼稚園教育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「幼稚園教育実習事前事後指導」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…保育に参加し、幼児の実態、担任と幼児の関わり、指導・援助の実際、保育の進め方などを学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任の指導を受け1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 幼稚園教育実習Ⅱでは、原則として③までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数 実習協力幼稚園への実習生の配属（依頼）は、原則として一園3名以下とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導 実習生は職員に準じて勤務実習する。 指導には、園長および園長が指名する実習指導担当教員の指導をいただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当の先生に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は園長及び実習指導担当教員に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>				実習後、実習指導教員の助言をもとに実習について省察する。				
2									
3									
4									
5									
6									
7									
8									
9									
10									
11									
12									
13									
14									
15									
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）									
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
誠実性、明朗性、協調性、積極性				◎		20			
子どもの理解、子どもとの関係			◎			10			
保育の観察力・分析力	○		◎			10			
実習態度・保育補助への参加度			◎			20			
環境設定・整備			◎			10			
指導能力・技術					◎	10			
実習日誌・記録	○		◎			20			
実務経験を生かした授業	教員としての経験を踏まえ、実習中の質問などに対応します。								
テキスト・参考文献等	テキスト：「幼稚園教育要領解説」 文部科学省 フレーベル館（改定版） 「指導計画の作成と保育の展開」 文部科学省（平成25年7月改定）								
履修条件	① この実習は「幼稚園教育実習Ⅰ」の単位を修得済みでない履修できない。また、修得済みであってもその成績および他の免許関係科目の単位修得状況、成績によっては履修を許可できない場合がある。 ② 幼稚園教諭1種免許状の取得には、授業「幼稚園教育実習事前事後指導」1単位、「幼稚園教育実習Ⅰ」2単位、そしてこの実習の2単位、合わせて5単位が必要なので注意すること。 ③ 実習の説明会を実施する場合がある。								
学習相談・助言体制	実習期間中の質問などについてメールで対応します。複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をします。							授業中の撮影	

授業科目名	保育実習指導 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	伊勢 慎・杉野寿子		通年	演習	選択	2	2～3年
授業の概要	この授業は、人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習 I」の事前事後指導として2年次後期から3年次前期にかけて実施するものである。実習先の選択の仕方、実習依頼の手続きと必要書類等についても説明し、実際の実習手続きを行うので、保育士資格の取得希望者は必ず出席すること。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	実習の意義、目的、内容、方法、留意事項を具体的に理解し、説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	保育参加・補助の方法、子ども理解の方法、実習日誌の記録の仕方、子どもの年齢に応じた指導計画の作成方法等を検討することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	実習を自己点検・反省・評価し、自分の課題を抽出し、探究することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)	
<ol style="list-style-type: none"> オリエンテーション(講義) <ul style="list-style-type: none"> 保育実習の意義と目的、実習の内容と方法、実習の手続きと必要書類等 保育所実習のポイントと実習日誌の書き方(講義) <ul style="list-style-type: none"> 乳幼児の園生活と保育環境、乳幼児の活動と保育者の関わり、園行事等 実習日誌の書き方の実際と注意事項 施設実習における基礎的理解と実習日誌の書き方(講義) <ul style="list-style-type: none"> 施設での生活と保育者・養育者・支援員等、障害児者の介護・援助、学習指導、家族支援等の理解 実習日誌の書き方の実際と注意事項 指導案および実習計画書の作成と模擬保育(演習) <ul style="list-style-type: none"> 指導案・実習計画書の作成・発表と討議 絵本、紙芝居、折り紙、指人形、手遊び・指遊び等の実技を含む模擬保育の実施 実習反省会と今後の学習の進め方(演習、講義) 						<p>授業内容を整理・復習すること。</p> <p>過去の実習日誌をできるだけ多く参照し、実習の実際を理解すること。</p> <p>グループごとに指導案を作成・発表し、これを全体で討議・検討するので、事前に指導内容・方法を十分に検討し、質問・疑問に答えられるようにしておくこと。</p> <p>その際、過去の実習生の指導案や幼児教育・保育雑誌等を参考にすること。</p> <p>自らの実習課題を明確にしていくために施設実習に関する事前レポートや実習計画書を作成するので準備すること。</p> <p>基礎的保育実技を含む模擬保育は基本的に一人ずつ行うので、事前に準備をし、十分に練習しておくこと。</p>	
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
指導案の作成・発表、模擬保育		◎	◎			50	
宿題・授業外レポート				◎		50	
補足事項	授業での報告・発表、討議への参加、模擬保育などにより評価する。 なお、出席回数が規定の条件に達しない場合、実習生として必要な姿勢や態度、基礎的技能が著しく欠けていると判断される場合などは「保育実習 I」の履修を許可できないことがある。						
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育実習(保育所・施設)の実際について、現場の経験、実践を交え演習をする。						
テキスト・参考文献等	テキスト:特になし。 参考文献:東京家政大学「教育・保育実習のデザイン」研究会 編『教育・保育実習のデザイン』萌文書林 愛知県保育実習連絡協議会編『保育士をめざす人の福祉施設実習』みらい						
履修条件	① 履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。 ② この授業を履修しないと「保育実習 I」は履修できないので、履修科目の登録の際には特に注意すること。 ③ 実習手続きについては、必要に応じてメールによる個別の連絡や報告を求められることがある。						
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答によるが、実習に関する質問・疑問・不安等はいつでも電子メールで受け付け、回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	保育実習 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	実習	選択	4	3年
担当教員	伊勢 慎・杉野寿子						
授業の概要	<p>この実習は、人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に実施するものであり、3年次の6月に保育所（園）で10日間の実習を行い、9月に原則として入所（生活）型の児童福祉施設で10日間の実習を行う。</p> <p>実習の主な内容（段階）は、①参加実習（観察参加実習）、②部分実習（部分指導実習）、③全日実習（全日指導実習）であるが、この実習では原則として②までを体験する。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	児童の状況と場面に応じた環境設定、必要な発達支援や援助等について実践的な検討ができる。					
	DP4:表現力	保育・養護等の理論を再確認し、その進め方について自分の考えを適切に表現することができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保育・養護等に積極的に参加し、その課題を分析して自ら探究することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	状況と場面に応じて、必要な知識・技能を総合的に実践する能力を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 「保育実習 I」では原則として②までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数</p> <p>実習生の配属（依頼）は、原則として保育所は3名以下、施設はおおむね2～4名とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導</p> <p>実習生は職員に準じて勤務実習する。</p> <p>指導には、施設長および施設長が任命する実習指導担当者に当たっていただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当者に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は施設長及び実習指導担当者に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
誠実性、明朗性、協調性、積極性				◎		20	
子どもの理解、子どもとの関係			◎			10	
保育の観察力・分析力			◎			10	
実習態度・保育補助への参加度			◎			20	
環境設定・整備			◎			10	
指導能力・技術					◎	10	
実習日誌・記録			◎			20	
補足事項	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習園からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。						
実務経験を生かした授業	保育現場での実習・授業であるため、実務経験者が指導に当たる。						
テキスト・参考文献等	特になし。ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。						
履修条件	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② この実習は、授業「保育実習指導 I」を履修中か履修済みでなければ履修できない。また履修していても、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、成績状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 必要に応じてメールによる個別指導や報告を求めることがある。</p>						
学習相談・助言体制	実習中の質問・疑問・不安等はメールで随時受け付け、回答する。また複数の教員が分担してそれぞれの実習園を訪問し、指導・助言を行う。						授業中の撮影

授業科目名	保育実習指導Ⅱ-A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	伊 勢 慎		後期	演習	選択	1	3年
授業の概要	<p>「保育実習Ⅱ-A」における意義と目的を理解し、「保育実習Ⅰ」や諸教科の内容及びその関連性をふまえながら、保育についての総合的な視点を身につけると共に、自身の課題をより明確にして「保育実習Ⅱ-A」に向けての意識を高める。また、未満児を対象とした「クリスマス会」を企画・実施することで、子どもへの働きかけとその反応を実体験から学ぶ。</p> <p>この授業は人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習Ⅱ-A」の事前事後指導として実施するものである。実習に関する手続き等にもふれるので、保育士資格の取得希望者（「保育実習指導Ⅱ-B」受講者を除く）は必ず出席すること。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	保育士の業務内容や役割について、また適切な児童とのかかわり合い方について理解している。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	よりよい保育や援助の方法について考えることができ、また実習の場において臨機応変に適切な判断ができる力を身につけている。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保育実習Ⅰでの経験等をもとに自己の課題を明確にし、高い意識をもって実習に取り組むことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容					事前・事後学習(学習課題)	
1	オリエンテーション(説明)						
2	これまでの実習の反省点や課題点についての討議 (実習体験をもとに課題を明確化する)					これまでの実習における自身の日誌や指導案、実習中のメモ等から、注意点や課題を確認しておくこと。	
3	「保育実習Ⅱ-A」の意義と目的						
4~5	実習日誌の書き方についての討議					これまでの実習における自身の日誌から注意点や課題を確認しておくこと。	
6~11	未満児を対象にした「クリスマス会」の企画と準備					必要に応じて、時間外にも各自あるいはグループで練習や準備を進めること。	
12	「クリスマス会」の実施						
13~14	指導案の書き方についての討議					これまでの実習における自身の指導案から注意点や課題を確認しておくこと。	
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		○		◎		50	
受講者の発表(プレゼン)		○	◎	◎		50	
補足事項	授業計画に記した内容に加えて、各学生に実践的課題を課す。評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
実務経験を生かした授業	保育現場経験者が、保育実習(保育所)の実際について、現場の経験、実践を交え演習をする。						
テキスト・参考文献等	特になし。必要な資料については適宜、配布する。						
履修条件	① 履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。 ② この授業を履修しなければ「保育実習Ⅱ-A」は履修できません。履修科目の登録の際には特に注意すること。 ③ この授業以外にも必要に応じて説明会等を行うことがあるので、必ず出席すること。						
学習相談・助言体制	基本的には授業中または授業終了後の質疑応答で対応するが、質問等は随時メールでも受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	保育実習Ⅱ-A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	実習	選択	2	3年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	<p>この実習は、人間形成学科の学生で「保育実習Ⅰ」の単位修得済みの者を対象に実施する、保育所（園）での10日間の実習であり、原則として出身地の保育所（園）で3年次の後期（2月下旬）に行う。そのねらいは、「保育実習Ⅰ」での保育所実習の経験を基に、自ら実習先施設を選択して実習することにより、保育所の目的と機能、社会的背景、児童の生活状況・課題等をより深く理解するとともに、保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術等を習得することである。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	児童の状況と場面に応じて適切な判断、実践的な検討を行うことができる。さらに、現場での実践者の立場に立ち、適切な保育を判断、検討を行うことができる。					
	DP4:表現力	保育・養護の理論を実践に活用しつつ、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。					
関心・意欲 ・態度	DP6:社会貢献力	保育士を目指す者として、必要な姿勢や態度及び職業倫理を身に付け、望ましい行動ができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	児童の現状を鑑み、保育、援助のあり方について検討し、指導の計画、実践を工夫し、実践できる技術を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導Ⅲ」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを観察して学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>2. 実習勤務及び指導</p> <p>実習生は職員に準じて勤務実習する。 指導には、施設長および施設長が任命する実習指導担当者に当たっていただく。</p> <p>3. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当者に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は施設長及び実習指導担当者に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
実習に対する姿勢・態度				◎		50	
実習に対する取り組み方			◎		◎	50	
補足事項	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習施設からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。詳しくは「保育実習指導Ⅱ-A」で説明する。						
実務経験を生かした授業	保育現場での実習・授業であるため、実務経験者が指導に当たる。						
テキスト・参考文献等	特になし。ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。						
履修条件	<p>①履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>②この実習は「保育実習Ⅰ」の単位を修得していないと履修できない。また修得済みであっても、その成績、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、履修状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③必要に応じて説明会等を行うので、必ず出席すること。</p>						
学習相談・助言体制	実習期間中の質問・不安等はメールで随時受け付ける。 複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をする。					授業中の撮影	

授業科目名		保育実習指導Ⅱ-B			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		杉野 寿子			後期	演習	選択	1	3年	
授業の概要		<p>「保育実習Ⅱ-B」における意義と目的を理解し、「保育実習Ⅰ」や諸教科の内容及びその関連性をふまえながら、保育・養護についての総合的な視点を身につける。また、保育所以外の施設における保育や養護について、実践事例等を通して理解を深める。さらに、以前の実習経験等をもとに自己の課題を明確化し、「保育実習Ⅱ-B」に臨む意識を高める。</p> <p>この授業は人間形成学科の学生で保育士資格の取得希望者を対象に、「保育実習Ⅱ-B」の事前事後指導として実施するものである。実習に関する手続き等の説明や提出等があるので、保育士資格の取得希望者（「保育実習指導Ⅱ-A」受講者を除く）は必ず出席すること。</p>								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	他専門職や他機関との関わり方も含め、施設保育士の業務内容や役割について理解し、説明できる。								
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、意見を述べることができる。								
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保育実習Ⅰでの経験等をもとに自己の課題を明確にし、保育実習Ⅱ-Bに臨む意識について述べるができる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	オリエンテーション(授業の進め方、成績評価の方法等)				演習					
2	これまでの実習の反省・課題について 実習体験等による課題の明確化				演習		先の実習で指導を受けた日誌等から、注意すべき点や改善点等を確認しておくこと。			
3	「保育実習Ⅱ-B」の意義・目的				演習		実習目標を考える。			
4~7	施設の機能と役割について ・施設を取り巻く環境 ・子ども、利用者を取り巻く生活環境				資料を用いて説明、施設等に関するビデオの活用		授業内容と関連するトピックについて、事前に資料等を読んでおく。			
8	実習を行う施設についての発表				学生による発表		一人一人が課題を設定して取り組み、その結果を発表する機会を設ける。そのため、資料収集等の活動が事前事後の学習において必要となる。			
9~11	子ども、利用者とのかかわり方と援助方法について ・発達からみた子どもとのかかわり ・保護者や家庭への支援のあり方				資料を用いて説明、施設等に関するビデオの活用		授業内容と関連するトピックについて、事前に資料等を読んでおく。			
12~13	施設保育士の役割と資質について ・施設内外の他専門職や他機関とのかかわり				演習		配布資料を読む。			
14~15	「保育実習Ⅱ-B」に向けた準備や心構えについて ・実習におけるマナーや態度 ・実習日誌について				資料を用いて説明		配布資料を読む。			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
小テスト・授業内レポート					◎		20			
授業態度・授業への参加度					◎		20			
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎			60			
実務経験を生かした授業	児童の入所および通所施設での実務経験を生かして、施設実習の意義、実習生としての心構えや留意点などについて講義・演習を行う。									
テキスト・参考文献等	特になし。必要な資料については適宜、配布する。									
履修条件	<p>① 履修には一定の条件がある。『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② 15回すべての授業に出席のこと。</p> <p>③ この授業を履修しなければ「保育実習Ⅱ-B」は履修できません。履修科目の登録の際には特に注意すること。</p> <p>④ この授業以外にも必要に応じて説明会等を行うことがあるので、必ず出席すること。</p>									
学習相談・助言体制	授業以外においては、質問等は随時メールでも受け付ける。							授業中の撮影		

授業科目名	保育実習Ⅱ-B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	杉野寿子		後期	実習	選択	2	3年
授業の概要	<p>この実習は、人間形成学科の学生で「保育実習Ⅰ」の単位修得済みの者を対象に実施する、保育所以外の施設での実習であり、3年次の後期（2月下旬）に行う。</p> <p>そのねらいは、「保育実習Ⅰ」での施設実習の経験を基に、自ら実習先施設を選択して実習することにより、その施設の目的と機能、社会的背景、利用者の生活状況・課題等をより深く理解し、施設保育士として必要な姿勢や態度、援助の方法・技術等を習得することである。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	保育・養護の理論と実践の関係を具体的に理解し、それを基に状況に応じた適切な判断を行い、そのことについて理論的に説明することができる。					
	DP4:表現力	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	保育士として必要な姿勢や態度及び職業倫理を身に付け、望ましい行動ができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	施設利用者の背景や生活環境をふまえた上で、よりよい保育や援助のあり方について検討し、工夫して実践できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>以下は本学の「保育実習実施要領」の一部抜粋であり、詳しくは授業「保育実習指導Ⅱ-B」で説明する。</p> <p>1. 実習の段階と内容</p> <p>① 参加実習（観察参加実習）…児童の保育又は養護に参加し、児童の実態、担任と児童の関わり、保育又は養護の進め方などを観察して学ぶ。</p> <p>② 部分実習（部分指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動のうち一部を指導・援助する。</p> <p>③ 担任実習（全日指導実習）…担任に代わって1日の生活や活動の指導・援助を担当する。</p> <p>※ 「保育実習Ⅱ-B」では原則として③までを体験して指導を受けるものとする。</p> <p>2. 実習配属人数</p> <p>実習生の配属（依頼）は、原則として施設はおおむね2～4名とする。</p> <p>3. 実習勤務及び指導</p> <p>実習生は職員に準じて勤務実習する。</p> <p>指導には、施設長および施設長が任命する実習指導担当者に当たっていただく。</p> <p>4. 実習状況の報告及び実習日誌</p> <p>① 実習生は、毎日の実習出勤時に「実習生出勤簿」に押印する。</p> <p>② 実習生は毎日「実習日誌」を実習担当者に提出して指導を受ける。</p> <p>③ 実習状況・成績は施設長及び実習指導担当者に「実習評価表」に記入して報告していただく。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
実習に対する姿勢・態度			◎				
実習に対する取り組み方		◎		◎			
補足事項	実習勤務状況（「実習生出勤簿」）、実習施設からの「実習評価表」、「実習日誌」等をもとに総合的に評価する。詳しくは「保育実習指導Ⅱ-B」で説明する。						
実務経験を生かした授業	実習中は、保育現場での実務経験のある教員も含め指導にあたる。						
テキスト・参考文献等	特に指定はない。ただし、実習先で参考図書、資料等（の購入）が指定されることがあるので、その場合は指示に従うこと。						
履修条件	<p>① 履修には一定の条件がある。詳しくは『学生便覧』の「資格・免許の取得」の該当箇所を参照すること。</p> <p>② 「保育実習Ⅰ」の単位を修得済みであること。また修得済みであっても、その成績、他の保育士資格関係科目の単位修得状況、履修状況によっては履修を許可できない場合がある。</p> <p>③ 必要に応じて説明会等を行うので、必ず出席すること。</p>						
学習相談・助言体制	実習期間中の質問・不安等はメールで随時受け付ける。また複数の教員が分担して実習先を訪問し、指導・助言をする。						授業中の撮影

授業科目名	学習心理学及び言語の習得（学習・言語心理学）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	古橋啓介						
授業の概要	<p>人間形成学科・心理コースの専門教育科目として、人の行動が変化する過程に関する学習理論と言語習得の機序に関する理論について講義する。人間は環境の変化に適応するため、絶えず自身の行動を変える。この行動の変化、行動傾向の変化を学習という。また、言語を習得し活用することによって、人間はより適応的に柔軟に環境に対応できるようになる。学習過程の理論と言葉の習得に関する理論について述べる。行動理論、認知理論、発達理論の中での位置づけについて講義する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	経験を通しての人の行動の変化について説明できる。 言語習得における機序の説明ができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	学習に関する実験結果や観察による資料を考察し、学習過程を検討できる。 言語習得の理論に基づき、習得の遅れなどの現実的問題を検討できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習（学習課題）			
1	行動の変化に関する学習理論		講義	事後に「学習理論」の整理			
2	行動の測定と実験の検討		講義				
3	生得的な行動		講義	事後に日常的事例の確認			
4	レスポナント(古典的)条件付け		講義	事後に日常的事例の確認			
5	オペラント(道具的)条件付け		講義	事後に日常的事例の確認			
6	両条件付けの異動と認知的要因		講義	事後に「異同」の整理			
7	社会的学習(模倣学習から観察学習)		講義	事後に日常的事例の確認			
8	社会的学習の過程		講義				
9	自己強化		講義	事後に日常的事例の確認			
10	行動理論と認知理論		講義	事後に両理論の立場の整理			
11	言語の習得に関する理論		講義	事後に「言語習得理論」の整理			
12	概念の学習と語彙の発達		講義	事後に「概念学習理論」の整理			
13	文法と語用論的知識の発達		講義	事後に「言語習得過程」の整理			
14	ことばの習得と障碍		講義				
15	行動理論と認知理論		講義	事後に全体的整理			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			80	
宿題・授業外レポート		○	○			10	
授業態度・授業への参加度		○	○			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは使用しない。						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業内容に関する質問は授業中に行うことが望ましい。発展的学習や個人的興味に関する質問は授業前後に行うか、メール(アドレスは授業中に伝える)により行う。					授業中の撮影	

授業科目名	心身科学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	心理学ではこころを身体の働きとして捉えるのが基本的な前提である。この授業では、まず、こころを生み出す神経系および内分泌系を知るため、神経科学 (neuroscience) の知見と理論を解説する。さらに、ストレス学説と行動理論について解説し、ストレス関連障害・発達障害の心身相関について考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	こころが身体の働きの上で成立していることを理解する。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	神経科学の見方を通じて科学的思考を身につける。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	卒業後に各分野で活躍する際の土台となる知識と思考を身につける。					
授業計画 (授業内容 / 方法 / 事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習 (学習課題)		
1	こころとからだの関係	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄 (解剖学的配置など) の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書の知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>			<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>		
2	神経細胞の構造と機能 (1) 平衡電位						
3	神経細胞の構造と機能 (2) 活動電位						
4	神経細胞の構造と機能 (3) 伝導・シナプス						
5	神経細胞の構造と機能 (4) 神経伝達物質 1						
6	神経細胞の構造と機能 (5) 神経伝達物質 2						
7	神経細胞の構造と機能 (6) 神経伝達物質 3						
8	脳の構造と機能 (1) 概要						
9	脳の構造と機能 (2) 脳幹						
10	脳の構造と機能 (3) 間脳						
11	脳の構造と機能 (4) 小脳・大脳基底核						
12	脳の構造と機能 (5) 後頭葉・側頭葉						
13	脳の構造と機能 (6) 頭頂葉						
14	脳の構造と機能 (7) 前頭葉						
15	ストレス関連障害・発達障害への応用						
成績評価方法および成績評価基準 (到達目標との関連: ◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合 (%)	
定期試験		◎	◎	○		80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。						
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。					授業中の撮影	

授業科目名		比較心理学			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		和田 由美子			前期集中	講義	選択	2	2年	
授業の概要		人間と人間以外の動物には様々な相違点と類似点が見られる。比較心理学は、人間を含む様々な動物種の行動とその背景に存在する心的過程（感情、知覚、学習、認知等）を観察・比較することによって、各動物種における心と行動の独自性と共通性が「なぜ」生まれたのかを解明しようとする学問である。本講義では、進化論と遺伝学の基礎について概説した後、様々な動物種の心と行動を比較し、主に進化的観点からの解説を試みる。								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	進化、遺伝、動物行動に関する理論と用語を正しく理解し、説明できる。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	進化的観点に基づき、特定の行動がなぜ生じるのかについて根拠や具体例を挙げながら説明できる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	比較心理学とは：動物行動学、モーガンの公準、ティンバーゲンの4つのなぜ				<ul style="list-style-type: none"> ●講義を中心に進めるが、理解を深めるために動画の視聴を随時取り入れる。 ●講義中に講義内容に関する質問やコメントを求める。これらは評価対象となるので、積極的に発言すること。 ●理解度の確認のために、5回目、10回目、15回目に小テストを行う(評価対象)。 ●授業進度および受講者の理解度により、シラバスに提示した授業内容を若干変更する場合がある。 		<p>【事前学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容に記載してある用語の定義や具体例について調べ、簡単にまとめておく。 <p>【事後学習】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業内容を復習し、授業で指定された課題を提出する。 			
2	進化の概念：自然選択、性選択、血縁選択									
3	遺伝と行動(1)：メンデルの法則、行動変異体									
4	遺伝と行動(2)：量的形質、近交系、選択交配									
5	捕食者と被食者：最適採餌理論、対捕食者行動									
6	求愛・配偶・生殖(1)：オスとメス、求愛行動、配偶者選択									
7	求愛・配偶・生殖(2)：オス間闘争、配偶システム									
8	求愛・配偶・生殖(3)：養育行動、親子の対立									
9	社会的組織：攻撃、なわばり、順位、仲なおり									
10	コミュニケーション：フェロモン、音声、ディスプレイ									
11	動物の学習(1)：学習の比較分析									
12	動物の学習(2)：学習の生物学的制約、プログラムされた学習									
13	動物の認知(1)：感覚と知覚、概念形成、記憶									
14	動物の認知(2)：言語、道具使用									
15	動物の認知(3)：社会的認知、社会的知性									
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
小テスト・授業内レポート			◎	○			60			
宿題・授業外レポート			◎	◎			30			
授業態度・授業への参加度			○	○			10			
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等		テキスト： 使用しない 参考文献： M.R. バビーニ著・比較心理学研究会訳(2005) バビーニの比較心理学 行動の進化と発達 北大路書房 藤田和生著(1998) 比較認知科学への招待―「こころ」の進化学 ナカニシヤ出版 長谷川真理子著(2002) 生き物をめぐる4つの「なぜ」 集英社新書								
履修条件		特になし								
学習相談・助言体制		授業中に随時質問時間を設けます。授業の最後にも書いてもらった質問には、次回の授業で回答します。						授業中の撮影		
		メールでの質問も受け付けます。								

授業科目名	生理心理学および神経心理学（神経・生理心理学）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	この授業では、心身科学で履修した神経科学（neuroscience）についての理解を踏まえ、心理学的諸理論とその生物学的基盤について紹介する。なぜ外界を知覚できるのか、感覚はなぜ生じるのか、なぜ睡眠と覚醒を繰り返すのか、なぜ学習や記憶が可能なのか、なぜ幻覚や妄想が生じるのか。これらは生理心理学的に議論され、現在も、より本質的な答えが求めつづけられている問いかけである。これらを体系的に解説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	それぞれの心理学的事象がどのような神経系の機能に関連するかを理解する。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	複雑な脳が合理性に基づいて機能していることを理解する。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	伝統的な文系・理系の枠組みを超えた総合知に挑む。					
	DP6: 社会貢献力	神経科学の用語と理論を用いて心理学的諸事象を説明できる力を身につける。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	神経科学の用語と理論を用いて心理学的諸事象を説明できる力を身につける。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習（学習課題）		
1	生理心理学と精神生理学	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書の知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>			<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>		
2	神経細胞の構造と機能（「心身科学」要点復習）						
3	脳の構造と機能1（「心身科学」要点復習）						
4	脳の構造と機能2（「心身科学」要点復習）						
5	感覚・知覚						
6	脳波						
7	意識・覚醒・睡眠						
8	学習・記憶(1) 学習理論・記憶の理論						
9	学習・記憶(2) 記憶障害						
10	学習・記憶(3) 記憶の神経回路						
11	情動・動機づけ・依存						
12	こころの不調(1) 統合失調症・不安・うつの神経基盤						
13	こころの不調(2) 神経心理学的症状						
14	こころの不調(3) 発達障害の神経基盤						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	○		80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。						
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件	「心身科学」を履修済みであることが強く望まれる。未履修者は1～4回の講義出席が必須。						
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。					授業中の撮影	

授業科目名	加齢基礎論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	<p>社会の高齢化が急速に進行しつつある現在、加齢の諸問題にいかに対処していくかが問われている。加齢は基本的には生物学的プロセスであるいっぽう、社会的問題とも密接に関連している。加齢自体が一つの社会問題ともいえる。このような背景に基づき、老年学（gerontology）という学際的分野が成立した。この授業では、老年学における議論に沿って、加齢の生物学的側面と社会的側面の双方を解説する。双方の理解は、実りある加齢（サクセスフル・エイジング）とは何かを考察することにつながる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理学・生物学・社会諸科学等を土台とした老年学の知見・考え方・課題を理解する。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	加齢に関する様々な社会現象・自然現象が繋がっていることを理解する。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	古典的な文系・理系の枠を超えた総合知に挑む。					
技能	DP6: 社会貢献力	高齢化社会を牽引するために土台となる知見と考え方を身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	老年学における考え方	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。 ◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄（解剖学的配置など）の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書の知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>			<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決すべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>		
2	寿命学 1						
3	寿命学 2						
4	高齢化社会と経済						
5	高齢者社会における就労 1						
6	高齢者社会における就労 2						
7	プロダクティビティ						
8	高齢者 QOL						
9	生物学的老化学説						
10	生物の進化と個体死						
11	テロメア (1) DNA 複製						
12	テロメア (2) テロメア短縮						
13	老化遺伝子をめぐる近年の動向						
14	エラー破局説とアポトーシス						
15	寿命の生命科学をめぐる近年の動向						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	○		80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。						
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考のできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。					授業中の撮影	

授業科目名	知覚心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	原 口 雅 浩						
授業の概要	知覚の中の視覚の機能と役割について学ぶ。簡単な実験やデモンストレーションを通じて、われわれ（の眼と脳）がどのようにこの世界を創造しているのかを理解する。なお、受講生の人数によって実験内容を変更する可能性があります。また、ポートフォリオ評価をします。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	知覚心理学についての専門知識を理解できる。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	知覚心理学に関連する現象がなぜ起きているかを説明できる。					
	DP4: 表現力	知覚機能について自分の考えを適切に表現できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	知覚心理学に関する科学的手法（スキル）について説明できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習（学習課題）		
1	講義の概要（感覚・知覚・認知）		講義		視覚経路図の作成		
2	眼の構造		盲点の位置の測定		盲点の位置の計算		
3	脳の構造		講義		脳地図の作成		
4	心理物理学		マグニチュード推定法		散布図の作成		
5	視覚1（形態視）		錯視の実験		錯視量の計算		
6	視覚2（色）		マッカロー効果の実験		ベンハムのコマ作成		
7	視覚3（立体視）		両眼立体視の実験		エームズの部屋作成		
8	視覚4（運動視）		エームズの窓のデモ		パークスのらくだ作成		
9	聴覚		講義・閾値デモ		触覚刺激作成		
10	その他の感覚（味覚・嗅覚・体性感覚）		講義・点字デモ		高次脳機能障害調べ1		
11	幻肢		VTR・講義		幻肢のメカニズム		
12	盲視		講義		高次脳機能障害調べ2		
13	半側空間無視		VTR・講義		高次脳機能障害調べ3		
14	先天盲		VTR・講義		ポートフォリオ提出		
15	まとめ		講義		立体折り紙作成		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				25	
宿題・授業外レポート		◎	◎		◎	50	
その他（ポートフォリオ）		○	○		○	25	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献は、講義の時間中に紹介する。						
履 修 条 件	心理学実験演習I・IIを履修している方が望ましい。						
学習相談・助言体制	授業中における質問はメールを利用する。					授業中 の撮影	

授業科目名	認知心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	松本 亜紀		後期	講義	選択	2	3年
授業の概要	われわれが生きていくためには、外界から情報を取り入れる必要がある。われわれは、外界からの情報を脳内でいったんバラバラにして統合した後、いつでも取り出せるように手がかりを用意して保存し、必要な情報だけを取り出して、目の前の問題を解決している。こういった一連の情報処理過程を認知過程と言う。認知心理学では、まず情報の処理に関わる基礎領域として「注意」や「記憶」について話していく。その上で、より高次の認知過程である「感情」「知識」「問題解決」「推論」について解説する。さらに「認知・思考の障害」についても解説する。このようなことを通して、われわれがどのように情報を処理しているのかについて体験的に理解を深めることを目指す。認知過程に関する不思議なメカニズムが自分の中で精巧に働いていることに感動するであろう。このように認知機能という側面からヒトの心の機能に迫ることは、人間のさまざまな側面からの理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となると予想される。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	認知心理学についての専門知識を理解できる。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	認知心理学に関連する現象がなぜ起きているかを説明できる。					
	DP4: 表現力	認知過程について自分の考えを適切に表現できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	認知心理学に関する科学的手法（スキル）について説明できる。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	認知心理学とは何か	スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。投影した内容は印刷資料として配付するが、すべての内容が記載されているわけではないので、教員の解説を聞いて自分で書き込みをすることが求められる。	授業内容に記載された事項について、参考文献①や②、その他の文献を事前に読んで予習しておくこと。 授業中にわからなかった点については、授業中のコメントカードに記載するだけでなく自分で調べ直したり、教員に直接質問したりして理解を深めること。				
2	認知心理学の歴史						
3	注意の仕組み						
4	注意についての理論						
5	視覚的注意						
6	注意の反応抑制						
7	パターン認知						
8	記憶(ワーキングメモリ)						
9	記憶(長期記憶)						
10	記憶(日常記憶)						
11	認知と感情						
12	知識の表象と構造						
13	問題解決						
14	推論						
15	認知・思考の障害						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
小テスト・授業内レポート			◎		◎	15	
宿題・授業外レポート			◎		◎	10	
授業態度・授業への参加度						5	
実務経験を生かした授業	臨床心理士としての実務経験を有する教員が、認知心理学の理論を日常生活で活用する方法を解説する。						
テキスト・参考文献等	参考文献①: 箱田裕司・都築誉史・川畑秀明・萩原滋(編)『認知心理学』有斐閣, 2010 参考文献②: 松尾太加志(編)『認知と思考の心理学』サイエンス社, 2018						
履修条件	心理学実験演習Ⅰ・Ⅱ、知覚心理学を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	授業中におけるコメントカードを利用して質問を受け付ける。また、授業時間前後の時間にも質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	対人心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	上野行良						
授業の概要	福祉社会を支える人材として対人関係に関わる心理を知っていることは有利になります。この講義では対人コミュニケーションに困らないための初歩を説明します。人に好感をもたれること、人を理解すること、人に説明すること、対人葛藤を解決すること、コミュニケーションを通して心理や行動が操作されやすいこと等を取り上げます。なお授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	対人コミュニケーションで失敗しないための初歩の知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	積極的に他者より良いコミュニケーションをとろうとすることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>【授業内容】</p> <ol style="list-style-type: none"> 人間関係を振り返る 「話を聴く1」&「対人魅力1」 「話を聴く2」&「対人魅力2」 「話を聴く3」&「対人魅力3」 「話を聴く4」&「対人魅力4」 「説明する1」 復習課題Ⅰ(1～7) 「説明する2」&「対人魅力5」 「説明する3」&「対人操作1」 「聴いて、説明する1」&「対人操作2」 「聴いて、説明する2」&「対人操作3」 「解決するⅠ」&「対人操作4」 「解決するⅡ」&「対人操作5」 「解決するⅢ」&「対人操作6」 復習課題Ⅱ(1～14) <p>【授業方法と事前・事後学習】</p> <p>授業は毎回異なる人とのペアを組んで行われます。通常は毎回スライドを使つての講義と、自分の人間関係をチェックするための課題をペアで行います。また受講者からの質問に回答する時間があります。授業の提示資料をe-learningシステムでダウンロードして復習をしてください。復習課題のときは、事前に課題を説明しますので、準備をして来てください。また、当日はダウンロードした提示資料を持参してください。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
提出課題		◎		◎		100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。						授業中の撮影

授業科目名	社会心理学（社会・集団・家族心理学）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	上野行良						
授業の概要	<p>社会心理学とは、自己と他者に対する意識と対人行動に関する心理学である。この講義では社会心理学の主要なテーマを紹介する。本講義は、テキストを読むことを中心とした授業を行う。社会心理学のテキストを共に読み、内容をまとめ、わからないところを質問する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	他者及び自己に対する意識と対人行動についての知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	対人意識や対人行動の問題について主体的に考えることができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
<p>【授業内容】</p> <p>1～5. ステレオタイプ 6. 基本的な帰属の誤り 7. 中心ルート・周辺ルート 8. 復習課題Ⅰ 9. 社会的抑制と社会的促進 10. 傍観者効果 11. 少数の影響 12. 制度規範 13. 集団極性化現象 14. 集団思考 15. 復習課題Ⅱ</p> <p>【授業方法と事前・事後学習】</p> <p>毎回異なるメンバーとグループを作る。</p> <p>①前回までの内容に関するチェックテストと採点（事前・事後学習としてテストの準備をすること） ②グループでテキストの輪読をしたあと、各自でテキストをまとめる ④内容の概説 ⑤前回の質問に対する回答 ⑥各自でまとめたものを、グループで見せ合い評価する ⑦与えられたテーマでコメントを書く ⑧グループでコメントを共有する ⑨授業内容についてのコメントと質問を書く</p> <p>毎回、前回までのテキストを持って来ること。 復習課題のときは、事前に課題を説明するので、準備をして来ること。これは事後学習となる。また、ダウンロードした提示資料を持参すること。</p>							
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
提出課題		◎		◎		100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	集団心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	松尾和代						
授業の概要	<p>自分自身の日常生活における思考や情緒、認知、行動について振り返り、集団心理学的な観点から理解できる力を身につけることを目標とする。我々の社会的行動を支えている心理的機能について、基礎的な概念および理論を、教育現場や企業組織における具体的な話題と関連づけながら解説していく。</p> <p>授業中、必要に応じてワークシートを用いたグループワークを行う予定である。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	講義で紹介した集団心理学に関わる知識を理解し、獲得する。					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	獲得した知識を現実の社会場面に応用する思考能力を養い、実践するスキルを身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション、集団心理学とは	<p>講義は、配布プリントおよびパワーポイントを用いて行う。</p> <p>適宜、最新の研究動向や、時事問題を取り上げながら、授業内容の理解を深めていく。</p>	<p><事前課題> 随時、講義内容と関連したワークシートを配布する。講義中の指示をよく聞き、課題を作成した上で、次回の授業に臨むこと。</p> <p><事後課題> 毎講義後に、コメント用紙を配布する。その提出をもって、授業への出席とみなす。</p>				
2	「やる気」はどこからくるのか?						
3	社会的認知						
4	集団意思決定(1)						
5	集団意思決定(2)						
6	集団による問題解決(1)						
7	集団による問題解決(2)						
8	集団規範と社会的影響						
9	職場におけるストレスと対人関係(1)						
10	職場におけるストレスと対人関係(2)						
11	ソーシャルスキルとシャイネス(1)						
12	ソーシャルスキルとシャイネス(2)						
13	キャリア形成(1): 視野を広げる、振り返る						
14	キャリア形成(2): 主体性の発揮、目標設定						
15	キャリア形成(3): 選択の科学						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎		○		15	
宿題・授業外レポート		◎		○		40	
授業態度・授業への参加度				◎		15	
受講者の発表(プレゼン)		○		◎	◎	10	
演習		○		◎	◎	20	
補足事項	定期試験に代わる期末レポート(授業外レポート)を実施し、成績評価を行う。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト: 配布資料により授業を行うため、教科書は特に用いない。</p> <p>参考文献: 必要に応じて授業中に適宜紹介する。</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業中に適宜質問を募る。また、コメント用紙にて質問を受け付け、講義時に回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	司法・犯罪心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	日高みちえ		後期集中	講義	選択	2	2年
授業の概要	犯罪・非行、犯罪被害者及び家事事件についての基本的知識を学ぶ。また、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的な支援についての理解を深める。さらに、犯罪及び非行を抑止するための方策について検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	犯罪・非行、犯罪被害者及び家事事件について基本的なことが説明できる。また、司法・犯罪分野における問題に対して必要な心理的な支援について説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	犯罪・非行、犯罪被害者及び家事事件について、その概要を理解し、犯罪や非行を抑止するために何が必要かを考えることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス 犯罪・非行とは何か		講義		配布されたプリントなどを通して復習し、分からないところがあれば質問してください。		
2	犯罪・非行理論		講義				
3	犯罪・非行の背景にある問題		講義				
4	非行少年に対する手続きの流れ		講義				
5	刑事司法における手続きの流れ		講義・小テスト				
6	犯罪者・非行少年のアセスメント		講義				
7	非行少年の処遇と必要とされる心理的な支援		講義				
8	犯罪者の処遇と必要とされる心理的な支援		講義				
9	医療観察制度と必要とされる心理的な支援		講義				
10	犯罪被害者支援の歴史と必要とされる心理的な支援		講義・小テスト				
11	家事事件と必要とされる心理的な支援		講義				
12	裁判員裁判と必要とされる心理的な支援		講義				
13	海外の犯罪者処遇		講義				
14	犯罪・非行を抑止するための方策		講義				
15	まとめ		まとめ・レポート作成				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	◎			40	
受講生の発表(プレゼン)		○	○	○		30	
授業態度・授業への参加度			○	○		20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献: 原田孝之「入門 犯罪心理学」ちくま新書						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業中に随時質問を受けて回答していきます。					授業中の撮影	

授業科目名	老年心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	<p>社会の急速な高齢化に伴い、高齢者に関する科学的な理解の重要性がますます高まりつつある。老年期の心理学的側面について科学的に理解する分野が老年心理学である。近年、老年心理学の研究が進むにつれ、従来の素朴な老人観の不確かさが次々と明らかにされてきた。この授業では、感覚知覚、記憶、知能、人格などが加齢に伴ってどのように変化するのか(しないのか)を中心に、生涯発達心理学の視点より解説する。また、実りある老年期を過ごすための心理学的研究についても紹介する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	高齢期に関する心理学的諸現象と諸理論を理科視する。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	高齢期に関する心理学を支える論理的統一性と多様な観点を理解する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	老年心理学とは	<p>◎毎回、板書を、詳細に行い、体系的知識を教授する。ノート作りによって受講者に体系的知識を構築させる。</p> <p>◎板書と並行して、印刷資料を配布する。これらは、板書では伝えにくい事柄(解剖学的配置など)の理解に役立つ。</p> <p>◎また、音声や動画などで示したほうが良い事柄については、板書等を介した知識構築の助けになるよう、視聴覚メディアを活用する。</p> <p>◎さらに、たんに教科書の知識を羅列するだけに終わらず、関連する社会現象や自然現象を的確に紹介し、「大学でしか学べない知識体系」つまり、「資格試験予備校や専門学校では学べない知識体系」を教授する。</p> <p>◎いっぽうで、パターン化された公務員試験などの受験希望者のために、知識整理型の授業を行なう。</p>			<p>事後学習として、各自が作成したノートを復習し、「理解が曖昧な事柄は何か」を理解する。これができれば、ゴールは近い。曖昧な点を解決するべく図書館を利用し、授業後や空き時間に担当教員に質問しよう。</p>		
2	老年心理学の研究法(1)						
3	老年心理学の研究法(2)						
4	記憶と加齢(1) 記憶のメカニズム						
5	記憶と加齢(2) 実験室場面での研究						
6	記憶と加齢(3) 日常的場面での研究						
7	知能と加齢(1) 知能の基本的知識						
8	知能と加齢(2) 年をとると頭が鈍るのか?						
9	人格と加齢(1) 人格の基本的知識						
10	人格と加齢(2) 年をとると人柄が変わるのか?						
11	老年期の環境適応						
12	主観的幸福感・死にゆく過程の研究						
13	老年期のこころの不調 認知症						
14	老年期のこころの不調 その他						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	○		80	
授業態度・授業への参加度				○		20	
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。						
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考にできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。					授業中の撮影	

授業科目名		家族心理学			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		吉岡和子			前期	講義	選択	2	4年
授業の概要		1. 家族の問題に心理学的見地から取り組むことの必要性が、ますます高まってきています。現代家族が直面している心理的な諸問題に対する理解を深めるために、家族心理学の基本的枠組みや家族にかかわる心理的諸問題について取り上げます。 2. 家族への心理臨床的介入に関するアプローチを学ぶと共に、臨床事例のなかで家族についての思いに触れることで、各自が家族についての体験を再考し、家族についての考えを深める機会になればと思います。							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	・ 家族に関わっていくときに必要な視点がどのようなものであるかを説明できる。							
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	・ 実際の事例の中で、その視点をいかに生かすのかについて意見が述べられる。							
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	・ 受講者がそれぞれ自分の家族体験を振り返り、改めて、自分にとって家族とは何か、家族には何が必要なのかを考え、現時点での自分なりの家族観について意見を述べるができる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)						
1	ガイダンス	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。							
2	家族とは何か	①発表者が事前に担当する箇所をまとめて発表する。 ②発表者が事前に担当する章からキーワードを3つ選んで調べて発表。 ③参加者と共有したいテーマを提出する。 ④各自が感想や疑問を発表し、発表者からのテーマについての考えを述べる。 適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりDVDを視聴したりしながら、理解を深めていく。	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。また、発表者以外の受講者も、その場ではじめて聞くのではなく、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておく、より理解が深まるのでそのように予習してください。以上のような予習に加えて、具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。また、疑問がある場合は適宜質問してください。						
3	恋愛の心理								
4	結婚の心理								
5	日本における離婚の現状								
6	恋愛・結婚に関するまとめ								
7	再婚家庭と子ども								
8	子どもの発達と家族								
9	中年期・老年期の家族								
10	人間発達の可能性								
11	少年・家事事件の現状								
12	子ども虐待と被虐待児(者)の心理								
13	家族療法の基礎								
14	家族の変化に役立つ臨床的援助技法								
15	家族への臨床的アプローチの実践								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
授業態度・授業への参加度			○	○	○		30		
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎			40		
その他					◎		30		
補足事項		発表とその他(最終レポートの提出)の両方が必要です。 授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。							
実務経験を生かした授業	医療機関、心理教育相談室等での家族臨床に従事した経験を生かして授業を行う。								
テキスト・参考文献等	【テキスト】 ①家族の心理－変わる家族の新しいかたち(小田切紀子・野口康彦・青木聡編 金剛出版) 【参考書・参考資料等】 ①家族の心理－家族への理解を深めるために(平木典子・中釜洋子編 サイエンス社) ②家族心理学入門(岡堂哲雄編 培風館) その他は講義中に紹介								
履修条件									
学習相談・助言体制	基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール(yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp)で質問時間を予約してください。							授業中の撮影	

授業科目名	感情・人格心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	上野行良		後期	講義	選択	2	1年
授業の概要	福祉社会を支えるためにひとりひとりの人間に対して深い理解をもつことは不可欠です。他者を「嫌な性格」ですまし、自己の問題を「性格を直す」ですますような浅く無意味な対処は知識のなさや誤ったスキーマ処理に起因する態度です。本授業では個人を理解するために必要な心理学的な知識を説明します。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	人格と概念と形成について心理学的な知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	自己や他者のパーソナリティについて客観的に考えようとする事ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	人格心理学・感情心理学とは何か	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
2	感情と行動と思考	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
3	人格とは何か	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
4	人格の形成	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
5	環境1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
6	環境2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
7	行動療法	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
8	復習	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
9	行動を変える1	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
10	行動を変える2	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
11	行動を変える3	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
12	行動を変える4	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
13	環境と遺伝と進化	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
14	現代社会と人格	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
15	復習	スライドを使つての講義と課題			e-learningの資料の利用		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
提出課題		◎		◎		100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	メールでの質問を受け付けます。また課題提出用紙にてされた質問について6問程度を選んで授業中に回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	障害者・障害児心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	小山 憲一郎	前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	近年、障害児・者に対して教育現場では特別支援教育がはじまり、福祉領域においても「発達障害者支援法」も成立し、障害児・者を取り巻く支援環境は大きく変わり始めているものの、ここ最近の事件報道に被害者として取り上げられる等のさまざまな問題を抱えている。この講義では、さまざまな『障害』の特性について学習し、さらに当事者の声を聞きながら、障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について理解を深めていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	さまざまな『障害』の特性について理解できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	障害児・者とその家族の生活を主体とした支援について考察を深められる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	障害とは何かー障害者・障害児の心理社会的課題ー	講義 各回において、授業に対する質問、感想などのリアクションペーパーを配布します。その中から、次回講義の際に主なものをいくつか扱って行きます。			参考文献の該当部の予習・復習		
2	知的障害に関する心理と支援						
3							
4	自閉性スペクトラム障害の心理と支援						
5							
6							
7	ADHDに関する心理と支援						
8	学習障害に関する心理と支援						
9	特別支援教育と発達障害者支援法に関して						
10	精神障害に関する心理と支援(統合失調症・うつ病・不安障害)						
11	運動障害に関する心理と支援						
12	中途障害・進行性疾患に関する心理と支援						
13	障害児・者の家族の心理と支援						
14	早期発見・早期療育(乳幼児期の支援)						
15	まとめ						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	○				
宿題・授業外レポート		◎	◎				
授業態度・授業への参加度			○				
実務経験を生かした授業	心理実践の実務経験のある教員が発達障害や中途障害を持つ人への心理的理解と支援の方法について講義する。						
テキスト・参考文献等	田中新正 古賀清治 編著 新訂『障害児・障害者心理学特論』NHK出版 2013年(2,500円)						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業終わりのリアクションペーパーで受け付けます。主なものは次回の授業の中で扱いますが、個別に回答を要する場合はメールでアポイントを取ってください。メールでの回答、もしくはオフィスアワーにて対応いたします。					授業中の撮影	

授業科目名	健康・医療心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	小山 憲一郎						
授業の概要	<p>こころとからだは密接に影響しあっているものであり、日常生活におけるストレスは、その双方に影響を与える。こころの問題や身体症状に取り組む時には、その密接な関連を視野に入れ理解しておくことが必要である。そこで、この講義では具体的には以下のことを学習し、理解を深める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 心身医学的、また、心理臨床的な臨床実践の中で、こころとからだの関係はどのように理解され、どのように身体症状に取り組まれてきたかを学習する。 心身医学領域においては認知行動療法が心理療法の主流となりつつあり、疾患ごとの技法パッケージが作られている。しかしながら技法に目を奪われると認知行動療法はうまくいかないことが多々ある。そのため、伝統的な心理療法との共通部分である技法以前のクライアントーセラピスト関係の重要性を理解した上で、専門的な技法の知識と共にそれらの導入について学習する。 						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	伝統的心理臨床の流派と認知行動療法について共通部分と相違点について説明することができる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	からだに対するこころの影響やそれを踏まえた心理臨床的な実践について説明することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	ガイダンス	からだへのこころの影響(心理社会的ストレスモデル・臨床に活かす基礎心理学)	講義			配布されたプリントなどを通して復習し、わからないところがあれば質問してください。	
2	医療現場における心理社会的課題及び必要な支援		講義				
3	保健活動の現場における心理社会的課題及び必要な支援		講義				
4	行動療法(応用行動分析)		講義				
5	認知療法ー精神分析と行動療法をつなぐー		講義				
6	認知行動療法の発展(行動療法と認知療法の出会いとストレスマネジメント)		講義				
7	リラクゼーション(呼吸法・自律訓練法・漸進性弛緩法)		講義と体験的学習				
8	第二世代の認知行動療法の導入ーカウンセリングの基礎とケースフォーミュレーションー		講義				
9	第三世代の認知行動療法の導入(マインドフルネスとアクセプタンス&コミットメント:カウンセリングの基礎とケースフォーミュレーション)		講義				
10	第三世代の認知行動療法2(マインドフルネスとアクセプタンス&コミットメントを活かした介入技法)		講義と体験的学習				
11	うつ病に対する認知行動療法(心理教育/セルフモニタリング/行動活性/認知再構成/マインドフルネスエクササイズ等)		講義				
12	不安症および災害関連のPTSDに対する認知行動療法(心理教育/セルフモニタリング/リラクゼーション/エクスポージャー/マインドフルネス)		講義				
13	ストレス関連疾患(心身症)に対する認知行動療法(心理教育/セルフモニタリング/不安管理訓練)		講義				
14	認知行動療法を用いた医療現場での多職種連携		講義				
15	まとめ		まとめ				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎				
授業態度・授業への参加度			○				
実務経験を生かした授業	医療現場での心理実践に関する実務経験のある教員が講義する。						
テキスト・参考文献等	<p>参考文献:坂本真士「臨床に活かす基礎心理学」東京大学出版 2010、熊野宏明「新世代の認知行動療法」日本評論社 2012</p> <p>山上敏子「方法としての行動療法」金剛出版 2007 ヘルツォーク「心身医学の最前線 医療と心理療法の新たな展開」創元社 2015</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業終わりのリアクションペーパーで受け付けます。主なものは次回の授業の中で扱いますが、個別に回答を要する場合はメールでアポイントを取ってください。メールでの回答、もしくはオフィスアワーにて対応いたします。					授業中の撮影	

授業科目名	心理学的支援法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	岩橋宗哉・吉岡和子						
授業の概要	<p>下記についての知識及び技能を修得する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な心理療法並びにカウンセリングの歴史、概念、意義、適応及び限界（#1～7） プライバシーへの配慮（#8,9） 訪問による支援や地域支援の意義（#8,9） 心理に関する支援を要する者の関係者に対する支援（#8,9） 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法（#10～14） 心の健康教育（#15） 						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> 代表的な心理療法やカウンセリングについて説明できる。 訪問による支援や地域支援の意義を理解できる。 プライバシーへの配慮について説明できる。 					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	<ul style="list-style-type: none"> 体験的学習を通して得たことを、心理に関する支援を要する者の関係者への支援や心の健康教育に活かすことができる。 					
技能	DP10: 専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を活用できる。 					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	代表的な心理療法及びカウンセリング 1	<p>資料やDVD等を通して基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>心理学的支援法について体験的に学ぶ。</p> <p>演習内容の説明を行った後、様々なワークを行う。</p> <p>適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりしながら、理解を深めていく。</p>	<p>参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。</p> <p>以上のような予習に加えて、具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。</p> <p>また、疑問がある場合は適宜質問してください。</p>				
2	代表的な心理療法及びカウンセリング 2						
3	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 1 体験を表現すること①：コラージュ作成を通して						
4	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 2 体験を表現すること②：コラージュ作成を通して						
5	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 3 相互作用の中で表現すること：スクイグルを通して						
6	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 4 体験を味わい表現する：フォーカシングを通して						
7	カウンセリングの意義を体験的に学ぶ 5 ワーク体験の共有						
8	心理学的支援の進め方 1						
9	心理学的支援の進め方 2						
10	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 1 ラポールの確立①：（傾聴を支える技術）						
11	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 2 ラポールの確立②：（面接環境や面接者の態度の重要性）						
12	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 3 質問技法の検討を通して						
13	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 4 傾聴法①：ロールプレイを通して						
14	心理学的支援の進め方を体験的に学ぶ 5 傾聴法②：ロールプレイを通して						
15	心の健康教育：リラックス法を中心に						
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
授業態度・授業への参加度		◎		◎	◎	60	
その他		◎		◎		40	
補足事項	<p>その他：レポート提出</p> <p>授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。</p>						
実務経験を生かした授業	医療機関、心理教育相談室等での心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。						
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】なし</p> <p>【参考書・参考資料等】</p> <p>①川瀬正裕・松本英夫・松本真理子「心とかわる臨床心理-基礎・実際・方法-」ナカニシヤ出版、2006年</p> <p>②杉浦京子「臨床心理学講義」朱鷺書房、2002年</p> <p>③川瀬正裕・松本真理子・川瀬三弥子「これからの心の援助-役に立つカウンセリングの基礎と技法-」ナカニシヤ出版、2001年</p> <p>④河合隼雄「カウンセリングの実際問題」誠信書房、1970年</p> <p>⑤高橋紀子・吉岡和子「心理臨床、現場入門-初心者から半歩だけ先の風景」ナカニシヤ出版、2010年</p> <p>その他は講義中に紹介</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール（yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp）で質問時間を予約してください。					授業中の撮影	

人間社会学部
専門教育科目

授業科目名	心理面接演習					開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
						後期	演習	選択	2	3年
担当教員	岩橋宗哉・吉岡和子									
授業の概要	<p>知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次の(ア)から(オ)までに掲げる事項について、具体的な場面を想定した役割演技(ロールプレイング)を行い、かつ、事例検討で取り上げる。</p> <p>(ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得</p> <p>(1) コミュニケーション</p> <p>(2) 心理検査</p> <p>(3) 心理面接</p> <p>(4) 地域支援 等</p> <p>(イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成</p> <p>(ウ) 心理に関する支援を要する者の現実生活を視野に入れたチームアプローチ</p> <p>(エ) 多職種連携及び地域連携</p> <p>(オ) 公認心理師としての職業倫理及び法的義務への理解</p>									
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	・ 心理的援助のあり方を理解している。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	・ 関連する諸問題に対して心理的援助の適切な対応を検討できる。								
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	・ 心理的援助のスキルを用いて社会に活かすことができる。								
技能	DP10: 専門分野のスキル	・ 様々な立場にある人々に対する心理的援助のスキルを修得している。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)							
1	子ども及び大人の事例の紹介	講義	講義全体を概観した上で、各自興味のある領域や事例を選び担当する。							
2	子どもの事例検討：虐待により入所施設で生活する小学生の事例	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する	発表者は、その他の受講者に内容がよく伝わるように発表準備をしてください。							
3		グループごとに支援計画を発表し、支援計画作成のための理解を深めるためにディスカッションを行う								
4										
5	大人の事例検討：うつ病による休職を繰り返す事例	小グループに分かれ、事例の理解を深め、支援計画を作成する	発表者以外の受講者も、前もってテキストや資料を熟読し、自分なりの理解や疑問点について考えておいてください。							
6		グループごとに支援計画を発表し、支援計画作成のための理解を深めるためにディスカッションを行う								
7										
8	心理職の実践上の課題	グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。	具体的ななかかわり方も取り上げるのでそれについては適宜復習してください。							
9		グループごとに発表し、コミュニケーションや心理検査、地域支援及び職業倫理を含む心理職の技能について理解を深めるためにディスカッションを行う。								
10										
11	心理面接：表現(芸術)療法	コラージュを作成することで体験的学習を行い、その後、作品を味わい共有する。	作品紹介を準備しておく。							
12		グループに分かれ、模擬事例を使用して、ロールプレイを行い、心理面接での基本的なかかわり方を学ぶ。								
13										
14	心理面接：ロールプレイ	グループに分かれ、模擬事例を使用して、ロールプレイを行い、心理面接での基本的なかかわり方を学ぶ。	講義内容を復習しておく。							
15										
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)										
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)				
授業態度・授業への参加度		○	○	○		30				
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎	◎	◎	70				
実務経験を生かした授業	医療機関等での心理臨床経験を生かして授業を行う。									
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】なし</p> <p>【参考書・参考資料等】</p> <p>臨床心理学 第16巻第3号 特集 臨床的判断力(金剛出版)</p> <p>臨床心理学 第17巻第1号 特集 「こんなときどうする？」にこたえる20のヒント—心理職の仕事術(金剛出版)</p> <p>その他は講義中に紹介</p>									
履修条件										
学習相談・助言体制	基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメール(yoshioka@fukuoka-pu.ac.jp)で質問時間を予約してください。								授業中の撮影	

授業科目名	心理アセスメント		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	3年
担当教員	池 志保・吉岡和子						
授業の概要	<p>この授業では、下記4点について学ぶ。</p> <p>1. 心理的アセスメントの目的及び倫理（＃1）</p> <p>2. 心理的アセスメントの観点及び展開（＃2～15）</p> <p>3. 心理的アセスメントの方法（観察、面接および心理検査）（＃2～15）</p> <p>4. 適切な記録及び報告（＃2～15）</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理的アセスメントの目的及び倫理、方法について説明できる。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	心理的アセスメントの適応について検討できる。					
	DP4: 表現力	心理的アセスメントを用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	様々な立場にある人々に対する心理的アセスメントのスキルを修得している。					
授業計画(授業内容／方法／事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	心理的アセスメントの目的及び倫理	<p>#1: 池、吉岡</p> <p>#2～8: 池</p> <p>#9～15: 吉岡</p> <p>資料やDVD等を通して基本的な考え方を学ぶ。</p> <p>心理アセスメントについて体験的に学ぶ。</p> <p>演習内容の説明を行った後、様々なワークを行う。</p> <p>適宜解説を加えたり、参考資料を紹介したりしながら、理解を深めていく。</p> <p>レポート課題は授業中に指示します。</p>	<p>事前： 参考文献を調べ、読んでおく。</p> <p>事後： 参考文献を調べ、体験した心理検査の分析や解釈を深める。</p>				
2	面接法（インテーク：生育歴や家族の状況等の把握）						
3	質問紙法① TEG						
4	質問紙法② YG						
5	発達・知能検査① ウェクスラー式（1）実施						
6	発達・知能検査② ウェクスラー式（2）分析・解釈						
7	発達・知能検査③ ビネー式						
8	描画法 バウムテスト						
9	観察法						
10	家族のアセスメント						
11	投映法① PFスタディ（1）						
12	投映法② PFスタディ（2）						
13	投映法③ SCT						
14	投映法④ ロールシャッハ						
15	報告書の書き方						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	70	
授業態度・授業への参加度		○	○	○	○	30	
補足事項	授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。						
実務経験を生かした授業	医療機関等で心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。						
テキスト・参考文献等	【テキスト】なし（講義中に紹介）						
履修条件	心理コースの学生であること						
学習相談・助言体制	基本的には、授業中に助言をしていきます。また、最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後や、メールを使って質問時間を予約してください。						授業中の撮影

(人間社会学部
専門教育科目)

授業科目名	精神保健学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	1年
担当教員	小嶋秀幹						
授業の概要	公認心理師、精神保健福祉士、保健師、養護教諭等、将来、精神保健福祉に従事する学生に必要な精神保健学の基礎知識を講義する。最近の精神保健のトピックスについても随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	精神保健とは(1)	講義			e-learning を利用		
2	精神保健とは(2)	講義			e-learning を利用		
3	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-1)	講義			e-learning を利用		
4	ライフサイクルにおける精神保健(乳児期-2)	講義			e-learning を利用		
5	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-1)	講義			e-learning を利用		
6	ライフサイクルにおける精神保健(学童期-2)	講義			e-learning を利用		
7	精神保健活動の実際(家庭)	講義			e-learning を利用		
8	ライフサイクルにおける精神保健(思春期)	講義			e-learning を利用		
9	ライフサイクルにおける精神保健(青年期)	講義			e-learning を利用		
10	精神保健活動の実際(学校)	講義			e-learning を利用		
11	ライフサイクルにおける精神保健(成人期)	講義			e-learning を利用		
12	精神保健活動の実際(職場)	講義			e-learning を利用		
13	精神障害の基礎知識(うつ病)	講義			e-learning を利用		
14	ライフサイクルにおける精神保健(老年期)	講義			e-learning を利用		
15	精神保健活動の実際(地域)	講義			e-learning を利用		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			80	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
実務経験を生かした授業	精神保健の実務経験をもつ精神科医の教員が精神保健学の基本的知識を講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 精神保健福祉士養成セミナー第2巻「精神保健学-精神保健の課題と支援」(第6版)(へるす出版、2017年、3200円)						
履修条件	引き続き「精神保健学II」を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	福祉心理学		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	西原尚之						
授業の概要	この授業では①福祉現場における心理職の役割、②心理臨床における社会福祉・ソーシャルワークの意義を学習します。私たちが生活する環境、つまり個人・家族・地域とその関係性のなかで起こる諸課題について、心理的支援、社会福祉の支援がどのように行われているのか理解してもらうことを目的に講義をします。とくに子ども虐待問題については現代の代表的な心理福祉学的課題と位置づけ詳しく講義します。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> 福祉現場において生じる問題及びその背景について説明できる。 福祉現場における心理社会的課題及び必要な支援方法について説明できる。 虐待、認知症に関する支援方法について説明できる。 					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> 社会福祉領域において心理職が担う役割を考察し、述べることができる。 福祉心理学的アセスメントと支援の有効性を考察し、述べるができる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション	講義					
2	家族ライフサイクルと福祉的課題(1)	講義	自分の生育歴を整理しておく				
3	家族ライフサイクルと福祉的課題(2)	講義	家族歴を整理しておく				
4	子ども虐待・暴力問題の概要	講義	子ども虐待の文献を読んでおく				
5	子ども虐待(1) 発見・保護・社会的養護	講義	社会的養護の概要を調べておく				
6	子ども虐待(2) トラウマへの対応・自立支援	講義	虐待とトラウマの関連を調べておく				
7	ドメスティック・バイオレンスの概要	講義	DV防止法について調べておく				
8	貧困問題(1) 概要	講義	貧困に関する文献を読んでおく				
9	貧困問題(2) 貧困と不登校	講義	戦後の筑豊の歴史を調べておく				
10	貧困問題(3) 福祉心理学的支援の実際	講義	アウトリーチについて調べておく				
11	高齢者(認知症)領域における福祉心理学	講義	認知症の概要を調べておく				
12	障がい者領域における福祉心理学	講義	障害者基本法を読んでおく				
13	福祉心理の支援ツール(1) ジェノグラム	講義	ジェノグラムの宿題をする				
14	福祉心理の支援ツール(2) ソーシャルワークとエコマップ	講義	エコマップの宿題をする				
15	まとめ	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			70	
授業態度・授業への参加度		○	○			30	
補足事項	<ul style="list-style-type: none"> 授業回数2/3(10回)以上で定期試験の受験資格 毎回受講カードに「質問・感想」を記入する。適切な質問・感想の記入があった場合毎回2点を与える 定期試験は持ち込み不可 						
実務経験を生かした授業	児童相談所の児童心理司経験者(担当教員)が経験事例などをもとに福祉心理学的支援方法を解説する。						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> テキストは使用しません。レジュメや必要な資料は授業で配布します。 参考文献は授業で適宜紹介します。 						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	<ul style="list-style-type: none"> 質問や意見は「受講カード」で対応します。 授業後の質問、意見も歓迎します。 					授業中の撮影	

授業科目名	医学概論（人体の構造と機能及び疾病）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	光本 いづみ						
授業の概要	<p>医学の入門として、現代のさまざまな疾病や障害の概要と治療・予防およびその背景に関する理解を深め、ヒトの健康とは何かを、各人の生活の中で考える。</p> <p>人体構造と心身機能のしくみを、成長・発達や日常生活との関連を踏まえ、基礎的知識として理解し身につける。</p> <p>疾病や障害を持つ人に対して、医療・保健・福祉・教育の専門職としての態度、および連携協働するチーム包括ケアの中で果たすべき役割を習得する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	1. 心身機能と身体構造および様々な疾病や障害の概要について、人の成長・発達や日常生活との関係を踏まえて理解する。 2. 国際生活機能分類（ICF）の基本的考え方と概要について理解する。 3. リハビリテーションの概要について理解する。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	1. 医療・保健・福祉・教育の専門職として、疾病や障害を持つ人に対する態度、およびチーム包括ケアの中で果たすべき役割を適切に理解できる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授 業 内 容						事前・事後学習（学習課題）
1	人の成長・発達と老化 健康のとらえ方						テキスト 2-22 ページ テキスト 206-236 ページ
2	身体構造と心身の機能						テキスト 26-50 ページ
3	疾病の概要：生活習慣病と未病、悪性新生物、脳血管障害、心疾患、高血圧						テキスト 54-71 ページ
4	疾病の概要：糖尿病と内分泌疾患、呼吸器疾患、消化器疾患						テキスト 72-82 ページ
5	疾病の概要：血液疾患と膠原病、腎臓疾患と泌尿器系疾患						テキスト 84-93 ページ
6	疾病の概要：骨・関節疾患と目・耳の疾患と感染症						テキスト 95-106 ページ
7	疾病の概要：神経疾患と難病と先天性疾患						テキスト 107-114 ページ
8	老年症候群と終末期医療						テキスト 117-127 ページ
9	障害の概要：視覚、聴覚、平衡機能、肢体不自由						テキスト 130-144 ページ
10	障害の概要：内部、知的						テキスト 146-150 ページ
11	障害の概要：発達、認知症						テキスト 152-160 ページ
12	障害の概要：高次脳機能、精神						テキスト 162-170 ページ
13	国際生活機能分類（ICF）の基本的考えと概要 リハビリテーションの概要						テキスト 174-202 ページ
14	介護保険特定疾病						資料
15	高齢者総合機能評価						資料
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
定期試験		◎	○			50	
小テスト・授業内レポート		◎	○			20	
宿題・授業外レポート		◎	◎			10	
授業態度・授業への参加度		○				10	
受講者の発表（プレゼン）		○	◎			10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：「人体の構造と機能及び疾病」新・社会福祉士養成講座 1 中央法規（2200 円） 参考書：「医学一般」コンパクト福祉系講義金芳堂（2200 円） 「病気がみえる Vol. 1～11」メディックメディア						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	1. 毎時間、前時間の主な質問について解説します。 2. メール（mitsumoto@iken.ac.jp）にて個別に受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名		老年期医学			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		小 嶋 秀 幹			前期	講義	選択	2	3年	
授業の概要		老年期医学の基礎知識と、老年期に起こりやすい精神疾患・身体疾患について講義する。 最近の老年期医学のトピックスについても随時紹介する。								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)			
1	老年期医学とは				講義		e-learning を利用			
2	高齢者の健康問題のとらえ方				講義					
3	高齢者の健康評価				講義					
4	健康評価の実際				講義					
5	高齢者の脆弱化				講義					
6	老年期に起こりやすい精神疾患(認知症)				講義					
7	老年期に起こりやすい精神疾患(うつ病)				講義					
8	老年期に起こりやすい精神疾患(睡眠障害)				講義					
9	老年期に起こりやすい身体疾患(骨粗鬆症、転倒・骨折)				講義					
10	老年期に起こりやすい身体疾患(失禁・便秘、白内障、難聴)				講義					
11	老年期に起こりやすい身体疾患(呼吸器疾患)				講義					
12	老年期に起こりやすい身体疾患(循環器疾患)				講義					
13	老年期に起こりやすい身体疾患(低栄養状態、褥創)				講義					
14	老年期に起こりやすい身体疾患(悪性腫瘍、緩和ケア)				講義					
15	長寿の秘訣				講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
定期試験			◎	○			80			
宿題・授業外レポート			○	◎			20			
実務経験を生かした授業	医師の教員が老年期医学の基本的知識を講義する。									
テキスト・参考文献等	参考図書：道場信孝著、日野原重明監修 「臨床老年医学入門 第2版」 (医学書院、2013年、3,200円)									
履修条件	なし。									
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。							授業中の撮影		

授業科目名	精神医学 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	小嶋 秀 幹						
授業の概要	公認心理師、精神保健福祉士等、将来、精神医療に従事する学生に必要な精神医学の基礎知識を講義する。進歩の著しい精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	精神疾患総論① (精神医療の歴史)		講義		e-learning を利用		
2	精神疾患総論② (脳および神経の解剖生理)		講義				
3	精神疾患総論③ (精神医学の概念)		講義				
4	精神疾患総論④ (精神疾患の診断)		講義				
5	精神疾患総論⑤ (精神症状と状態像)		講義				
6	精神疾患総論⑥ (身体的検査と心理検査)		講義				
7	症状性・器質性精神障害		講義				
8	物質使用による精神障害①		講義				
9	物質使用による精神障害②		講義				
10	統合失調症①		講義				
11	統合失調症②		講義				
12	気分障害①		講義				
13	気分障害②		講義				
14	神経症性障害①		講義				
15	神経症性障害②		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	○			80	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
実務経験を生かした授業	精神科医の教員が精神医学の基本的知識を講義する。						
テキスト・参考文献等	テキスト: 精神保健士養成セミナー編集委員会第1巻「精神医学—精神疾患とその治療」(第6版)(へるす出版、2017年、3,200円)						
履修条件	引き続き「精神医学Ⅱ」を履修することが望ましい。						
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。					授業中の撮影	

授業科目名		精神医学Ⅱ			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		小嶋 秀 幹			後期	講義	選択	2	3年	
授業の概要		精神医学Ⅰに引き続き、精神障害の各論と治療法等について講義する。 精神医学のトピックスや臨床精神医学の現状についても、随時紹介する。								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	講義テーマの内容を正しく説明できる。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	講義テーマの内容を正しく説明できる。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)			
1	摂食障害・睡眠障害				講義		e-learning を利用			
2	パーソナリティ障害				講義					
3	知的障害				講義					
4	心理的発達の障害				講義					
5	小児期・青年期の精神障害				講義					
6	神経系の疾患(てんかん含む)				講義					
7	精神科的治療法(向精神薬による心身の変化)				講義					
8	精神科的治療法(精神療法①)				講義					
9	精神科的治療法(精神療法②)				講義					
10	精神科的治療法(精神科リハビリテーション)				講義					
11	病院精神科医療(医療機関との連携)				講義					
12	精神科救急医療				講義					
13	地域精神医療				講義					
14	精神科医療における人権擁護				講義					
15	司法精神医学				講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
定期試験			◎	○			80			
宿題・授業外レポート			○	◎			20			
実務経験を生かした授業	精神科医の教員が精神医学の基本的知識を講義する。									
テキスト・参考文献等	テキスト: 精神保健士養成セミナー編集委員会第1巻「精神医学—精神疾患とその治療」(第6版)(へるす出版、2017年、3,200円)									
履修条件	精神医学Ⅰ(精神疾患とその治療Ⅰ)を履修していること。									
学習相談・助言体制	質問は、レスポンスカードで受け付け、講義時間内に回答する。							授業中の撮影		

授業科目名	心理学実験 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	4年 は実験測定法 I に読み替え可 3年 は心理学実験演習 I に読み替え可		前期	演習	選択	2	2年
担当教員	麦島 剛・福田恭介						
授業の概要	われわれの心を科学的に調べるには、心理学実験の手法は欠かすことができない。このような経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、心理学実験を体験的に学習することで、統計や心理学実験計画に関する基礎的知識を増やし、基礎的技能を養成することを旨とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理学実験についての専門知識を身につけることができる。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	いくつかの実験を通して、心理学実験レポートが書けるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	実験を実施し、実験データ処理のための統計処理 (χ^2 検定、t 検定、分散分析) ができるようになる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	データを処理したり、レポートを書いたりするためにワープロ・表計算・プレゼンテーションソフトが使えるようになる。 実験装置を操作し、実験手法のスキルを身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	心理学研究法と心理学実験実施に関する説明。	実験に際しての注意事項とレポート提出に際する解説	参考文献①の要約				
2	レポート・発表のためのワード、エクセル、パワーポイントの操作法		(レポート1)				
3	心理学実験における統計検定の意味	統計検定の意味とやり方に関する解説	「心理学」に関してパワーポイント 10~20 スライド程度にまとめる (レポート2)				
4	χ^2 検定の意味と実践 (1)		小テストの準備				
5	χ^2 検定の意味と実践 (2)						
6	t 検定の意味と実践 (1)						
7	t 検定の意味と実践 (2)						
8	Key Press ソフトによる反応時間測定 (実験 1)	実験と統計検定の実施	「単純反応時間と選択反応時間」(レポート3)				
9	1 要因分散分析の意味と実践		小テストの準備				
10	鏡映描写 (実験 2)		「鏡映描写の学習効果」(レポート4)				
11	2 要因分散分析の意味と実践		小テストの準備				
12	心理学実験における統計検定の意味		「ミューラーリエル錯視に及ぼす矢羽の長さ と角度の効果」(レポート5)				
13	ミューラーリエル (実験 3) (1)						
14	ミューラーリエル (実験 3) (2)						
15	プレテスト (1 回目) と解説	グラフ作成・統計検定、心理学研究の考え方	テストの準備				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート					◎	15	
宿題・授業外レポート		◎				25	
授業態度・授業への参加度				◎		5	
受講者の発表(プレゼン)				◎		5	
補足事項	受講者数によっては、実験内容及び日程を変更する場合があります。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	① 板口典弘・山本健太郎 (2017) 心理学レポート・論文の書き方—演習課題から卒論まで— 講談社 ② 中野博幸・田中敏 (2012) フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社 ③ 三浦麻子 (2017) なるほど! 心理学研究法(心理学ベーシック 第1巻) 北大路書房						
履修条件	演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めません。						
学習相談・助言体制	授業にたいする質問は、スマートフォンを通して E ラーニングに入力してもらいます。その他の質問については、時間が空いていれば受け付けます。時間が無いときは、メールで約束の時間を設けます。						授業中の撮影

授業科目名	心理学実験Ⅱ 4年は実験測定法Ⅱに読み替え可 3年は心理学実験演習Ⅱに読み替え可		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 麦島 剛・福田恭介		後期	演習	選択	2	2年
授業の概要	われわれの心を科学的に調べるには、心理学実験の手法は欠かすことができない。これらの経験は、実証的なデータに基づいた人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、心理学実験Ⅰで得た心理学実験に関する基礎的知識・技能を元にさらに具体的な実験計画、実験実施、データ解析を行い、実験レポートの提出を求める。最終的には、自ら実験を計画し、その実験結果を発表する会を設ける。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理学実験についての専門知識を身につけることができる。					
思考・判断・表現	DP4: 表現力	自ら計画を立てて行った実験内容について。レポート執筆と口頭発表ができるようになる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	実験で得られたデータを処理するための統計処理（ χ^2 検定、t 検定、分散分析）に習熟できるようにする。 自ら実験を実施し、データ処理や結果の記述について議論ができるようになる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	心理学実験Ⅰからさらに発展し、自ら実験を計画し、刺激を作成し、実験装置を操作し、実験データを採るといった実験手法のスキルを身につけることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	心理学実験実施とレポート執筆に関する説明		手引書の配布と、実験概要の説明				
2	2つの知能検査の相関を調べる実験(実験1) ビネー検査とウェクスラー検査を同一人に実施。これまで得られた結果と合わせて、2つの知能検査結果を相関係数にまとめる(レポート1)。		手引書を読みながら、各グループによる実験実施				
3							
4	二重課題法による大脳半球左右差を調べる実験(実験2) 右手および左手によるタッピングと暗算の二重課題を用いて大脳半球左右差を調べる(レポート2)。						
5							
6	血液型と性格検査の関連がはたしてあるのかをYG検査で調べる実験(実験3) これまで集められた約500人のYG性格検査のデータに自分たちの班のデータを付け加えて血液型と性格特性との間の関連を調べる(レポート3)。						
7							
8	オドボール課題に従事しているときの瞬目から認知過程を調べる実験(実験4) 標的刺激と非標的刺激を区別しているときの瞬目をビデオカメラで記録し、瞬目発生タイミングを調べる(レポート4)。						
9							
10	計算課題による認知過程を反応時間で調べる実験(実験5) 4種類の1桁数字加算(例: 0+7, 7+0, 5+2, 5+7)に要する反応時間を調べる(レポート5)。						
11							
12	お好み実験(実験6)		教員の助言を受けながら、各グループ(3、4人)による自主的な実験計画と実験実施。				
13	1. 実験計画						
14	2. 実験実施 3. 発表の準備と配布資料の準備						
15	お好み実験発表会(レポート6)。		各グループで研究成果を口頭発表し、質問者と議論を行い、他人の発表の評価を行う				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート					◎	15	
宿題・授業外レポート		◎				25	
授業態度・授業への参加度				◎		5	
受講者の発表(プレゼン)				◎		5	
補足事項	受講者数によっては、実験内容及び日程を変更する場合があります。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	① 板口典弘・山本健太郎(2017)心理学レポート・論文の書き方—演習課題から卒論まで— 講談社 ② 中野博幸・田中敏(2012)フリーソフト js-STAR でかんたん統計データ分析 技術評論社 ③ 三浦麻子(2017)なるほど!心理学研究法 北大路書房						
履修条件	演習科目なので2回以上の欠席は原則として認めません。						
学習相談・助言体制	時間が空いていれば基本的に受け付けます。時間がないときは、メールを利用し、約束の時間を設けます。					授業中の撮影	

授業科目名	心理学研究法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	上野行良・小山憲一郎・麦島 剛・福田恭介						
授業の概要	<p>心理学の基本的な研究方法を学びます。心理学は実証を重視することによって発展してきました。多くの心理学的な知見を学ぶ際も、その実証性を確かめながら理解することが必要です。また受講されるみなさんのほとんどが卒業論文では実証的な研究を行うこととなります。心理をどのように実証的に研究するかを知り、身につけましょう。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理学の研究方法を知る。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	心理学研究の技法や計画を行ってみる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	実証研究を行うための基礎的なスキルを身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>【授業内容】</p> <p>I 実証研究の基礎 (担当: 上野)</p> <p>1. 仮説検証</p> <p>2. 研究デザイン</p> <p>3. 統計的検定</p> <p>II 研究測定 of 技法</p> <p>4-6. 質問紙 (担当: 上野)</p> <p>7-8. 認知心理学実験 (担当: 福田)</p> <p>9-11. 生理と行動 (担当: 麦島)</p> <p>12-13. 観察 (担当: 小山)</p> <p>14-15. 面接と心理検査 (担当: 小山)</p> <p>【授業方法と事前・事後学習】</p> <p>講義形式の他、グループワーク、発表、パソコンの使用、技法の体験など、アクティブラーニングが含まれます。単元もしくは講義毎に、内容に添った課題を行います。課題は授業中に行われる場合や授業後にレポート等で提出になるものなどがあります。また課題は事前・事後学習にあたることもあります。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
単元または講義ごとの課題		◎		◎	○	100	
実務経験を生かした授業	14・15回では公認心理師及び臨床心理士の資格をもち臨床経験のある教員が面接と心理検査について教授する。						
テキスト・参考文献等	なし						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	講義中及びメールでの質問を受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	心理学統計法		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	原口雅浩		前期	講義	選択	2	2年
授業の概要	教育・心理の分野で使用される統計について、表計算ソフト（EXCEL）および統計ソフト（HAD）を用いて実習を中心に行う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理統計における基本用語について理解できる。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力 DP4: 表現力	統計の論理について考えることができる。 統計の結果について、適切な図・表を描くことができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	心理統計の必要性について理解し、データを適切に処理することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	尺度・基礎統計量		PP・配布資料で説明		課題1 (基礎統計量)		
2	不偏推定値		PP・配布資料で説明		課題2 (不偏推定値)		
3	区間推定		EXCELで例題を解く		課題3 (区間推定)		
4	変数変換(標準化, 角変換)		EXCELで例題を解く		課題4 (区間推定)		
5	平均の差の検定(t検定)		EXCE・HADで例題を解く		課題5 (t検定)		
6	関連性の検定(相関)		EXCE・HADで例題を解く		課題6 (相関係数)		
7	まとめ①		PP・配布資料で説明		レポート1 (課題は講義で発表する)		
8	質的データ分析(名義尺度のデータ分析)		EXCE・HADで例題を解く		課題7 (χ^2 検定等)		
9	質的データ分析(順序尺度のデータ分析)		EXCE・HADで例題を解く		課題8 (マンホイットニー検定等)		
10	まとめ②		PP・配布資料で説明		レポート2 (課題は講義で発表する)		
11	分散分析(1要因分散分析)		HADで例題を解く		課題9 (ANOVA1)		
12	分散分析(多重比較)		HADで例題を解く		課題10 (Holm, LSD, HSD)		
13	分散分析(2要因分散分析)		HADで例題を解く		課題11 (ANOVA2)		
14	分散分析(交互作用)		HADで例題を解く		課題12 (単純主効果)		
15	まとめ③		PP・配布資料で説明		レポート3 (課題は講義で発表する)		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	◎		◎	40	
宿題・授業外レポート		○	◎		○	30	
受講者の発表(プレゼン)			○			15	
授業態度・授業への参加度		○				15	
補足事項	USBメモリーを持ってくること。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	教科書: Excelで今すぐはじめる心理統計 簡単ツール HADで基本を身につける 小宮 あすか・布井 雅人 講談社						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	基本的に質問についてはメールを利用。					授業中の撮影	

授業科目名	心理実習Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	実習	選択	1	2年
担当教員	小山・小嶋・池・岩橋・吉岡						
授業の概要	<p>教育分野における30時間の現場体験を通じて、</p> <p>① 公認心理師としてのマナー、倫理、法的義務および、職務と多職種連携について理解。</p> <p>② 子どもたちへの学習支援や集団活動体験（グループワーク活動やイベント等の体験活動）などへの参加を通して心理実践・援助が必要とされる知識・援助技術の体験的学習。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	公認心理師としてのマナー、倫理、法的義務などを体験的に理解できる。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	公認心理師としてのマナー、倫理、法的義務などを実践できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	基本的なコミュニケーションスキルと教育領域の心理実践に必要なスキルの基礎を身に付けられる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション:実習の目的・意義の理解。実習先に関する事前学習。実習の注意事項や日誌の書き方、スケジュールの組み方について。		講義(小山・小嶋)		各自実習スケジュールを組み、提出すること。		
2-6	不登校・ひきこもりサポートセンターにおける実習(学習支援・グループワークへの参加。実習記録の作成)2.5時間×5回(うち日誌の作成:各回1時間)		原則として、通年で10回の実習を行う。実習中は、実習担当者に指導を仰ぐが、実習5回ごとに、実習担当教員による実習指導を行う。		一コマ分の不登校引きこもりサポートセンターでの実習後、一時間かけて日誌を作成し、自らの子どもたちへの関わりについて振り返りをする。		
7	実習指導		5回分の実習に関する総括および質疑応答(小山・小嶋)1時間		5回分の実習指導を受け、自らの知識やスキルの不足点について後半実習に向けて学習しておくこと。		
8-13	不登校・ひきこもりサポートセンターにおける実習(学習支援・グループワークへの参加。実習記録の作成)2.5時間×5回(うち日誌の作成:各回1時間)				一コマ分の不登校引きこもりサポートセンターでの実習後、一時間かけて日誌を作成し、自らの子どもたちへの関わりについて振り返りをする。		
14	実習指導		5回分の実習に関する総括および質疑応答(小山・小嶋)				
15	実習報告会		実習指導を踏まえ、各自が自らの実習についてプレゼンテーションを行う。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート				○	○	25	
授業態度・授業への参加度				◎	◎	50	
受講者の発表(プレゼン)				○	○	25	
実務経験を生かした授業	実習指導者と連携し、実習担当教員が心理実践に従事した経験をもとにオリエンテーション及び実習総括を行う。						
テキスト・参考文献等							
履修条件	心理コースの学生であることが履修の条件である。1回の実習につき15名まで参加可能。履修希望者が多い場合は、グループを分け時期をずらして実習を行えるように対応する。						
学習相談・助言体制	実習指導者、実習担当教員が随時相談を受ける。メール等でも、随時相談、質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	公認心理師の職責		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	吉岡和子・岩橋宗哉・小嶋秀幹・小山憲一郎・池志保						
授業の概要	<p>具体的な学習内容は、以下の8点である。</p> <p>①公認心理師の役割②公認心理師の法的義務及び倫理③心理に関する支援を要する者等の安全の確保④情報の適切な取扱い⑤保健医療、福祉、教育その他の分野における公認心理師の具体的な業務⑥自己課題発見・解決能力⑦生涯学習への準備⑧多職種連携及び地域連携</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師の業務と役割について概説できる。 公認心理師の法的義務や倫理について概説できる。 公認心理師が活動する諸分野と多職種連携について説明できる。 					
関心・意欲・態度	DP6: 社会貢献力	<ul style="list-style-type: none"> 公認心理師としての判断、自己解決能力、研究、生涯学習についての考えを持てる。 					
技能	DP10: 専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> 良好な人間関係を築くためのコミュニケーションの方法を活用できる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	公認心理師の役割 情報の適切な取り扱いについて	講義(吉岡)	<p>テキスト、参考文献等を読み、自分なりの理解や疑問点について考えておくと、より理解が深まるのでそのように予習してください。</p> <p>以上のような予習に加えて、適宜復習してください。</p> <p>また、疑問がある場合は適宜質問してください。</p>				
2							
3	保健医療分野における具体的な業務 支援者としての自己課題発見・解決能力	講義(岩橋)					
4							
5							
6	産業・労働分野における具体的な業務 多職種連携と地域連携	講義(小嶋)					
7							
8							
9	福祉分野における具体的な業務 クライアント/患者らの安全の確保のために	講義(小山)					
10							
11							
12	教育分野における具体的な業務 公認心理師としての法的義務・倫理	講義(池)					
13							
14	司法・犯罪分野における具体的な業務 生涯学習への準備	講義(吉岡)					
15	公認心理師の今後の展開						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		45	
その他		◎		◎		55	
補足事項	<p>その他:レポート提出</p> <p>授業への参加度は、授業の最後に質問等を書く出席レポート内容で評価します。</p>						
実務経験を生かした授業	心理支援に従事した経験を生かして授業を行う。						
テキスト・参考文献等	<p>【テキスト】</p> <p>野島一彦編『公認心理師の基礎と実践シリーズ①公認心理師の職責』遠見書房</p> <p>【参考書・参考資料等】</p> <p>一般財団法人日本心理研修センター監修『公認心理師現任者講習会テキスト [2018年版]』金剛出版</p> <p>その他は講義中に紹介</p>						
履修条件							
学習相談・助言体制	基本的に、授業の最後に質問等を書く出席レポートに記入してもらい、授業中に回答していきます。さらに詳細な質問が必要な場合は、授業の前後やメールで質問時間を予約してください。					授業中の撮影	

授業科目名	保健医療福祉行政論Ⅰ（関係行政論）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 四戸智昭・小出昭太郎		後期	講義	選択	1	2年
授業の概要	<p>保健・医療・福祉の臨床現場で働く際に求められる必要な制度や政策について学ぶ科目である。少子・高齢の時代を迎えた現代社会においては、従来の保健や福祉の制度や政策が大きな転換点を迎えている。また従来の仕組みが新しい人々の生活に対応できなくなったり、従来の保健・医療・福祉の枠組みの変換だけでは、人々の幸せを維持できなくなりつつある。保健・医療・福祉の専門職が、相互に連携を取りながら、この新しい局面に対応していくことが求められる。この科目では、保健・医療・福祉の制度や政策について、特に専門職種との連携という視点から理解を深めるとともに、人々の生活上の問題や健康問題を取り上げながら、人々を支える行政システムについて深い理解をすることが目的である。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	わが国の保健医療福祉行政の基礎知識を得ること					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	保健医療福祉に関する現代の諸課題について関心を持ち、自ら学ぼうとする意欲があること					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			担当		
1	保健医療福祉行政について	講義			四戸		
2	生活保護福祉制度について	講義			四戸		
3	高齢者福祉と介護保険制度	講義			四戸		
4	子ども福祉と児童虐待問題	講義			四戸		
5	医療保障	講義			小出		
6	医療法	講義			小出		
7	所得保障、公的扶助	講義			小出		
8	保健医療福祉の財政	講義			小出		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				90	
宿題・授業外レポート				○		5	
授業態度・授業への参加度				○		5	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：特に指定しない。 参考文献：授業時に指示する。</p>						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	メールによる質問を受け付ける。					授業中の撮影	

授業科目名	人的資源管理論（関係行政論）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次				
	担当教員 井上 奈美子		後期	講義	選択	2	2年				
授業の概要	<p>人的資源管理論とは労働関係の法体系を遵守しつつ、良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すための学問である。この領域は、社会的影響を受けつつも、私達の働き方や生活様式の変化に影響を与える。講義では、人的資源管理が誕生する以前の人事管理と比較しながら米国で誕生し発展した人的資源管理の特徴、そして日本への影響などを概説する。続いて、日本企業における具体的な人的資源管理の内容について議論する。グローバル競争が激しくなる経営環境を受け、企業の人材開発は重要なファクターであり、近年様々な変革が実践されている。こうした変革の動向を概観するとともに、変革の背景や変革が社会におよぼす影響についても検討していく。更に、企業や団体が取り組む人の採用と育成について実際のケースを扱い理論と実践について展望する。</p>										
学生の到達目標											
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	人的資源管理論の領域を多面的に捉え、企業や団体が取り組む人的管理から自己の進路選択の判断力を高める									
技能	DP10:専門分野のスキル	良質な労務管理を実現するための技術及び人的資源の最適な活用とその継続的な能力開発を促すためのスキルを身に付ける									
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）											
回	授業内容	授業方法		事前・事後学習（学習課題）							
1	ガイダンス（グループづくり、学習到達目標の確認）										
2	人的資源論（HRM）とは	講義・アクティブラーニング		専門的な労働に関する知識を学ぶため、アクティブラーニング（学生同士の相互学習）を行い、理解を促進する手立てとします。							
3	HRMと経営戦略	講義・アクティブラーニング									
4	労務管理	講義・アクティブラーニング									
5	採用マネジメントと倫理憲章問題	講義・アクティブラーニング									
6	ダイバーシティ推進	講義・アクティブラーニング									
7	人的資源管理としての女性活躍推進	講義・アクティブラーニング									
8	リーダーシップ	講義・アクティブラーニング									
9	主体的能動的自己啓発	講義・アクティブラーニング									
10	組織の発展、学習する組織	講義・アクティブラーニング									
11	企業における人事部の役割	講義・アクティブラーニング									
12	HRMとグローバル化	講義・アクティブラーニング									
13	企業の人的資源管理ケース①	講義・アクティブラーニング									
14	企業の人的資源管理ケース②	講義・アクティブラーニング									
15	プレゼンテーション学習発表会	実技・プレゼンテーション						課題パワーポイント作成			
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）											
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）					
定期試験					○	20					
小テスト・授業内レポート			○		○	30					
授業態度・授業への参加度			◎			50					
実務経験を生かした授業	大学就職課課長として、職員のマネジメント経験、雇用と人材育成のコンサルタント、学生への就職指導を行ってきた教員が、諸経験を活かし、企業や団体が取り組む人の採用と育成について実際のケースを扱い、理論と実践について指導する。										
テキスト・参考文献等	資料は教員が作成したものを提供します。その他の人的資源に関する親書を購入する必要があります。「優しい労務管理の手引き」厚生労働省労働基準局監督課(各自ダウンロードし持参) http://www.mhlw.go.jp/new-info/kobetu/roudou/gyousei/dl/roumukanri.pdf										
履修条件	事前に資料印刷して各自持参、アクティブラーニングのディスカッションのためにグループワークに積極的に参加することが望まれ、欠席4回以上は単位が認められませんので注意してください。										
学習相談・助言体制	講義の前後またはメールで応じる。					授業中の撮影	○				

授業科目名	社会教育論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	太田華奈						
授業の概要	<p>社会教育は学校教育と家庭教育以外の領域における、人々の組織的な(組織化しつつある)教育活動を指します。社会教育のいとなみにおいては、自己教育と相互教育を本質としています。自己教育とは、自己そのものが教育対象となることを示しています。また相互教育においては、他者との関係はもちろん、組織や社会との間においても教育が行われることを意味しています。</p> <p>こうした社会教育の概念や本質を踏まえて、この授業では市民のボランティア活動を取り上げます。ボランティア活動を社会教育の観点から吟味し、考察、みんなで議論し、問いや社会的課題の束を作っていきます。この学習を通して次の3点を探求します。①ボランティア活動が喚起する自己の変容とは？②人と人との関わり、組織化しつつ学ぶことの意味とは？③人々のふるまいやスタイル、学びが社会とどのように関わり、いかに社会を変えていくことにつながっていくのか？</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会教育の概念、本質、法、実践についての基本的な知識を獲得できる。社会教育のまなざしを獲得できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会教育の観点から市民活動を吟味、考察し、自分なりの考えを持つことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容					事前・事後学習(学習課題)	
1	オリエンテーション(授業の進め方、発表順決め、自己紹介など)						
2	社会教育の概念、本質、法、実践について。ディスカッションについて。						
3	障害者の自立生活に関する映画(前)						
4	障害者の自立生活に関する映画(後)、グループディスカッション						
5	渡辺一史『こんな夜更けにバナナかよ(以下、テキスト)』『プロローグ』一発表、ディスカッション					『テキスト』のプロローグを読みこんでください。	
6	『テキスト』「第1章」一発表、ディスカッション					『テキスト』の1章を読みこんでください。	
7	『テキスト』「第2章」一発表、ディスカッション					『テキスト』の2章を読みこんでください。	
8	『テキスト』「第3章」一発表、ディスカッション					『テキスト』の3章を読みこんでください。	
9	『テキスト』「第4章」一発表、ディスカッション					『テキスト』の4章を読みこんでください。	
10	『テキスト』「第5章」一発表、ディスカッション					『テキスト』の5章を読みこんでください。	
11	『テキスト』「第6章」一発表、ディスカッション					『テキスト』の6章を読みこんでください。	
12	『テキスト』「第7章」一発表、ディスカッション					『テキスト』の7章を読みこんでください。	
13	『テキスト』「エピローグ」一発表、ディスカッション					『テキスト』のエピローグを読みこんでください。	
14	『テキスト』「あとがき、解説、ボランティアの人々の後日譚」					『テキスト』の該当箇所を読みこんでください。	
15	まとめ					話し合いたいことを考えてきてください。	
到達目標							
成績評価方法	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
定期試験	◎	◎			50		
補足事項	授業参加度(30%)と、レジメの作成・発表(20%)も評価の対象とします。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：渡辺一史『こんな夜更けにバナナかよ一筋ジス・鹿野靖明とボランティアたち』(文春文庫、2013年950円)ISBN-13: 978-4167838706						
履修条件	前期「生涯教育論」と続けて受講されることもお勧めしています。						
学習相談・助言体制	授業の前後に行います。また、メールでの連絡も受け付けています。 ※「なぜ？」と問いかけることを大事にしていきます。「どうしたら」の前に、「なぜ」という問いをはさみ、考えていくことを意識してみましょう。そうして、物事を批判的に考えていきましょう。「なぜ」を持ったあなたが、ディスカッションに参加されることを楽しみにしています！					授業中の撮影	

授業科目名		社会教育特講 A			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		農中茂徳			後期	講義	選択	2	2年	
授業の概要		<p>人権教育・啓発のとりくみは、平成12年に成立の法律によって転機を迎え、とりくむべき内容を、国は「課題」として、福岡県は「分野」として示した。この授業では、日常の暮らしのなかの事象に着目し、そこに存在する普遍的な諸課題について学んでいく。その柱として、「法・制度」「障害」「同和問題」「炭鉱」「性」「平和」等を設定する。</p>								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	身近な暮らしのなかに存在する人権の諸課題に気づき、差別と人権の関係性を理解する。								
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	個別の具体的な事例から普遍的なものを導き出し、「差別をしない」という認識から「差別をなくす」という認識に到達する。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)				
1	人権と社会教育			映画の視聴、自由討議		参考図書・参考資料				
2	同和教育から人権教育・啓発へ			講義		国の『基本計画』および福岡県の『基本指針』				
3	原点としての同和教育			講義		社用紙と統一応募用紙				
4	映画『菜の花』『水平社宣言』			16ミリ映画の視聴		16ミリフィルム、16ミリ映写機				
5	「障害」の理解			講義		用語および制度の確認				
6	「障害」観を問い直す			講義、ワークショップ		神話と『障害者の権利条約』				
7	「地域所属」のとりくみ			講義		拙稿「戦略としての地域所属」				
8	人生のつまずきと「性」			ワークショップ、講義		一枚の絵、一つの物語				
9	「性」と学びの再構成			講義		拙稿「人生を分岐する性の学び」				
10	旧産炭地の諸問題			講義		福岡県内の炭鉱分布図				
11	筑豊、三池、沖縄			講義		炭鉱労働と自己、人命と教育				
12	炭鉱(ヤマ)からの伝言			講義、ワークショップ		炭鉱絵、復権の塔、エコ・ミュージゼ				
13	平和を絵にする			ワークショップ、講義		版画「たねをこなにするな」				
14	ケーテ・コルヴィッツと鲁迅			講義、ビデオ視聴		拙稿「平和の絵を描く」				
15	「差別をしない」から「差別をなくす」へ			フィールドワークと討議		参考図書・資料の確認				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
定期試験			◎	○			30			
小テスト・授業内レポート			○	◎			30			
宿題・授業外レポート			○	◎			30			
授業態度・授業への参加度				○			10			
実務経験を生かした授業										
テキスト・参考文献等		授業ごとに資料を配布する。参考文献については一覧表にして提示する。								
履修条件		特になし								
学習相談・助言体制		随時、相談に応じる。小レポート等の内容を参考に助言・応答を行う。							授業中の撮影	

授業科目名	社会教育特講B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	3年
担当教員	野依智子						
授業の概要	<p>貧困や非正規雇用問題など、女性をはじめとする若者、子ども、高齢者が生きにくい社会である。そうした生きづらさ・働きづらさを抱える社会のシステムをジェンダー・男女共同参画に焦点をあてて明らかにする。また、教育と福祉の関連としての社会教育という視点から、困難を抱えた人々のエンパワメントのための支援と学習について学ぶ。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	女性問題と社会教育に関する専門的知識を身につける。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	男女格差に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	講義のねらいと対象						
2	男女共同参画社会の現状を知る1～データから読み解く・グループワーク～						
3	男女共同参画社会への歴史						
4	非正規労働と女性～貧困・孤立～						
5	女性の貧困のメカニズム						
6	労働法・労働政策の変遷						
7	貧困女性への就労支援と学習						
8	グループ・レポート作成のための話し合い：テーマ設定						
9	グループ・レポート作成のための資料収集						
10	グループ・レポート作成のための章立てと分担						
11	グループ・レポート執筆①						
12	グループ・レポート執筆②						
13	グループ・レポート中間報告						
14	グループ・レポート修正・完成						
15	グループ発表と講評						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
課題レポート		◎	◎			80	
授業態度・授業への参加度		○				20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>参考文献：鹿野政直『現代日本女性史－フェミニズムを軸として』有斐閣、2004年。 小杉礼子/鈴木晶子/野依智子/(公財)横浜市男女共同参画推進協会『シングル女性の貧困』明石書店、2017年。</p>						
履修条件	「社会教育論」の履修が望ましい。						
学習相談・助言体制	毎回の講義終了後。					授業中の撮影	

授業科目名	社会教育特講 C		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	山田 明						
授業の概要	主体的な社会参加としてのボランティアの促進は時代のニーズである。そこで、本授業ではボランティアの概念やその意義を理論的に理解したうえで、ボランティアを活用した現代社会における諸課題の発見や認識及びその解決への見通しについて具体的手法（近年注目されているサービス・ラーニングやコミュニティ・デザイン等を含む）を検討していく。また、受講生の積極的な参加と議論をもとに、それぞれが共生協働の意識を涵養し、さらなるボランティア実践へのきっかけとなること目的とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	学生が「主体的な社会参加」（ボランティア）に関して、教育学的及び社会学的知見を獲得することができる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	学生が「主体的な社会参加」（ボランティア）に関して、根拠資料及びデータを基に論理的に考察し、判断することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習（学習課題）				
1	オリエンテーション ～ボランティアの概念と意義：主体的な社会参加とは～	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	ボランティアの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
2	ボランティアと市民性（シティズンシップ）の涵養	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	市民性の概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
3	ボランティアの現状と課題	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	現代ボランティア事情を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
4	地域社会（コミュニティ）の日米比較	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	日米における地域社会の推移を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
5	ボランティア（サービス）の日米比較	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	日米におけるボランティアの現状を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
6	ボランティアの諸事例①（機関ボランティア・病院ボランティア・地域ボランティア・環境ボランティア）	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	日本におけるボランティアの事例を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
7	ボランティアの諸事例②（学校ボランティア・災害ボランティア・国際ボランティア）	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	日本におけるボランティアの事例を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
8	ボランティアマネジメント	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	日本におけるボランティアの事例を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
9	NPO（非営利組織）によるボランティア	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	NPOの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
10	NGO（非政府組織）によるボランティア	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	NGOの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
11	サービス・ラーニング（社会貢献学習）	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	サービス・ラーニングの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
12	コミュニティ・デザイン	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	コミュニティ・デザインの概念を調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
13	これからの時代におけるボランティアの構想	講義、授業課題プリント（配布）を基にした意見交換及び討論	これからのボランティアのあり方について検討し、講義後にノートに整理し、深める。				
14	プレゼンテーションと討議	課題（事前配布）を基にしたプレゼンテーション及び討論	プレゼンテーションの準備（事前）と振り返り（事後）により深める。				
15	総括	講義、総括討議、レポート課題の説明	本講義についてノート等を活用して振り返り（事前）、まとめの講義、総括討議を基に深める（事後）。				
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		20	
宿題・授業外レポート（期末レポート）		○	◎		◎	50	
授業態度・授業への参加度				◎	○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考書： 内海成治、中村安秀編『新ボランティア学のすすめ』昭和堂、2014年。 桜井政成『ボランティアマネジメント』ミネルヴァ書房、2010年。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業の前後に質問に応じる。またメール（勤務先の九州共立大学研究室宛）でも受け付け、回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	社会教育特講 D		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	田中喜久						
授業の概要	<p>現代社会において「マスコミュニケーション」の与える影響は大きい。この授業では、マスコミュニケーションの歴史と新聞、雑誌、テレビ、ラジオの4媒体及びインターネット等の特性について述べ、その受け手である大衆の心の動きについて考察を行う。</p> <p>さらに、マスメディア及び広告コミュニケーションについて解説を行い、受け手である生活者が適切な判断と行動を行うためのポイントについて考察を行う。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	マスメディア及びインターネットの歴史と特性について理解を深め、自ら正しい情報を選択する手法を身に付けることができる。授業で学んだことを実際の消費行動の中で生かしていく。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	コミュニケーションとは何かを自ら考え、主体的な感性を磨くことができる。マスメディアについて関心を持ち、講義終了後は、当該メディアについて新しい目で観察、評価していく。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			授業方法			
1	講義概要①コミュニケーションとメディア ②日本型マスコミュニケーションの特性 ③広告コミュニケーション			VTR使用と講義			
2	コミュニケーションとは その基本的な「仕組み」とメディアのもつ特性について			以下、同じ			
3	マスコミュニケーションの存在意義 現代における大衆(マス)とメディアの相互関係について						
4	言語と映像①ー意味とイメージ 情報構成の核となる「言葉」(意味)と「映像」(イメージ)について考察						
5	言語と映像②ー映像の影響力 手塚治虫のアニメーション映像に見る「イメージとコミュニケーション」						
6	マスメディアの歴史と特性 マスメディアの歴史は、社会のコミュニケーション範囲の拡大の歴史						
7	日本型マスメディアの形成(戦前)						
8	日本型マスメディアの形成(戦後)						
9	日本型マスメディアの形成(まとめ)						
10	4大メディアの広告料金と主な特徴						
11	テレビ的コミュニケーションについて						
12	広告の存在意義と広告が創り出す価値とは						
13	情報の「受け手」についての考察～「ターゲットプロフィール」						
14	広告「クリエイティブ」は何を創造するのか						
15	戦後を特徴づけたキーワードと三つの商品/質疑応答						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内レポート		○	◎			30	
期末レポート		◎	○			50	
授業態度・授業への参加度		◎	○			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件							
学習相談・助言体制	授業内容についての質問は直接口頭または文書により回答する。 その他の質問等については、授業終了後に対応する					授業中の撮影	

授業科目名	社会教育特講 E		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	2年
担当教員	大森 万理子						
授業の概要	本講義ではまず、日本の子育てや子ども観、子どもの学びや遊びの歴史の変容に、社会教育がどのように関係してきたのかについて学ぶことから始める。その上で、現代日本が抱えている子ども、家族、地域社会をめぐる課題を解説し、社会教育や児童福祉等による連携のもと、どのような取り組みが行われているのか、これから行っていくべきかを考察する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	日本における子どもの養育・教育の歴史の変容とその意味を理解し、説明できる。社会教育とともに児童福祉やジェンダーに関する基礎的知識を連続的に理解し、活用できる。					
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	子どもや家族、地域社会に関する現代的課題を理解し、考察することができる。史資料を読み解き、自分の考えをもって議論に参加することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション「学校教育」と学校外の教育ってどこが違うの?～近世日本の子育て文化と子どもの学び～		講義				
2	近代化による子育ての変容① ～近世の「いへの教育」から近代の「家庭教育」へ～		講義				
3	近代化による子育ての変容② ～明治から大正～		講義				
4	近代学校制度の導入とその<外>の子どもたち		講義				
5	<家族の戦後体制>の成立① ～戦後日本の女性の役割と子どもの価値～		講義				
6	<家族の戦後体制>の成立② ～1960年代から1970年代の展開～		講義				
7	<家族の戦後体制>の成立③ ～親はだめになったか(1980年代)～		講義		レポート課題配布、事前準備		
8	小括、授業中レポート提出		講義				
9	家庭教育支援・子育て支援と社会教育		講義				
10	子どもの社会教育		講義				
11	子どもの学校外教育		講義				
12	現代の貧困と成人基礎教育		講義				
13	ボランティア活動・NPO市民活動と社会教育		講義				
14	学校を卒業したら学ばなくてもよいのか?		講義		レポート課題配布、事前準備		
15	総括、授業内レポート提出		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
小テスト・授業内レポート			◎	◎			80
授業態度・授業への参加度			◎	◎			20
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは指定しない。参考文献は小川利夫・高橋正教編著『教育福祉論入門』光生館,2001年 / 佐藤一子『子どもが育つ地域社会-学校五日制と大人・子どもの共同』東京大学出版会,2002年 / 田中治彦編著『子ども・若者の居場所の構想』学陽書房,2001年など。その他、授業中に参考文献を紹介したり、適宜プリントを配布して補足を行う。						
履修条件	「社会教育論」「児童家庭福祉」を履修していることが望ましい。						
学習相談・助言体制	随時相談に応じる。毎回授業の最後に記入するコメントシートなどでも相談可。						授業中の撮影

授業科目名	キャリア教育論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	井上 奈美子	前期	講義	選択	2	3年
授業の概要	<p>進路選択は、個人が将来の進路を選択・計画し、その後の生活によりよく適応し、能力を伸長することを目指す過程であり、長期的展望に立った人間形成を目指す活動でもある。それを包含するキャリア教育は、教育機関で学ぶことと社会との接続を意識し、一人一人の社会的・職業的自立に向けて必要な基盤となる資質・能力を育むことを目的としている。本講義では、まずキャリア教育の歴史的背景と現代社会における意義の理解を深める。そのうえで個人が自己実現を果たす進路選択についてキャリアに関する様々な理論をもとに議論する。これによって、将来教員を目指す者にとってはキャリア教育の実践力が身に付き、民間企業や公的機関への就職を目指す者にとっては就職活動に有意義な知識を獲得することができる。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP4:表現力	社会的・職業的自立に向けて基盤となる資質・能力について自らの思考を形成し、キャリア教育の視点を提示することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	進路選択、キャリア教育に関する専門知識を獲得し実践することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容						事前・事後学習(学習課題)
1	オリエンテーション(講義の進め方、課題、成績評価の説明など)						
2	キャリア教育の歴史、職業指導から進路指導そしてキャリア教育へ 第1回講義						<p>教職課程履修生には、講義に加えて文部科学省発行の資料などを読み込む課題が別途あります。予習復習として自己学習が必要になります。</p> <p>民間企業や公的機関への就職を希望する履修生には資料課題はありませんが、講義で学んだことを就職活動やその後の社会活動に活用できる知識の獲得を目指します。</p> <p>本講義は学生主体で学びあうアクティブラーニングを取り入れます。その中で進路指導の模擬事業を行っていただきます。</p>
3	教育振興基本計画、中央教育審議会答申の職業教育 第2回						
4	キャリア教育推進施策の展開 第3回						
5	キャリア発達支援 第4回						
6	主体的進路選択 第5回 資料なし						
7	キャリア教育の意義と原理、自己実現過程 第6回						
8	キャリア教育における地域・産業界との連携、インターンシップ 第7回資料なし						
9	キャリア意思決定(文部科学省提言)第8回 資料なし						
10	キャリア自己効力感-社会認知的キャリア理論						
11	現実的探索・試行と社会的移行準備						
12	職業観・勤労観の確立						
13	キャリアと協働、キャリア自己概念						
14	生涯にわたる主体的キャリア形成						
15	学習の振り返り、プレゼンテーション						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎				50	
授業態度・授業への参加度			◎	○		30	
受講者の発表(プレゼン)					◎	20	
実務経験を生かした授業	<p>大学就職課課長として、キャリアカウンセラーとして、進路指導やキャリアガイダンスの指導を行ってきた教員が諸経験を活かし、職業選択とキャリアの理論や文部科学省の進路指導の目的などについて講義する。将来、教員を目指す人には実践的な進路指導方法について指導する。</p>						
テキスト・参考文献等	<ul style="list-style-type: none"> ・教育振興基本計画 ・中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」(答申) 						
履修条件	特になし(出席重視の講義です)						
学習相談・助言体制	講義の前後またはメールにて可。					授業中の撮影	○

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	池 志 保						
授業の概要	卒業論文の作成に向けて、基本知識と技能を習得する。演習では、各々が関心のある文献を調べて順番に発表していく。ディスカッションを通して問題意識を明確にし、テーマや目的、方法を絞っていく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	研究論文に関する専門的知識について理解している。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自らの研究テーマについて探求し、論理的に発表やグループ・ディスカッションができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	心身に関する諸問題を卒業論文としてまとめるための科学的手法を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1 ~5	＜発表と検討＞卒業論文について、テーマを検討する。 卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。		受講生が順番にレジュメを作成して発表していく。学生及び教員とのディスカッションを通して、自身の卒業論文を修正し、進めていく。		事前学習： 文献の検索及び熟読後、レジュメにまとめる。その時々々の課題に取り組む。 事後学習： ディスカッションで得た検討点について更に探求し、修正をしていく。		
6~ 10	＜発表と検討＞卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。先行研究を調べ、レビューする。卒業論文について、テーマ及び問題と目的を検討する。						
11~ 15	＜発表と検討＞卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。先行研究を調べ、レビューする。卒業論文について、問題と目的および研究方法を検討する。						
16~ 20	＜発表と検討＞卒業論文の作成に向けて、基本知識となる文献を抄読する。先行研究を調べ、レビューする。卒業論文について、問題と目的、研究方法をまとめる。						
21~ 30	＜発表と検討＞卒業論文について、仮題目を決める。卒業論文について、問題と目的、研究方法をまとめる。						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		○		◎	◎	50	
授業態度・授業への参加度		○		○	○	*	
受講者の発表(プレゼン)		○		○	○	40	
演習		○		◎	◎	*	
補足事項	「授業態度・授業への参加度」と「演習」を合わせた成績が、評価割合(10%)です。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	適宜紹介していきます。						
履 修 条 件	心理統計を用いるため、「実験測定法Ⅰ」または「実験測定法Ⅱ」の単位を取得していることが望ましいです。						
学習相談・助言体制	個人指導を希望される場合は、事前にメール等で連絡してください。日時を考えます。					授業中の撮影	

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	池 田 孝 博						
授業の概要	人間の健康、身体活動とそれら関わる測定評価をキーワードに、学生自身が興味あるテーマに関する卒業論文を作成するための知識や技能を身につける。具体的には、テーマに則した文献を収集するための方法を学んで、収集した文献の論点を整理し、テーマに関する問題を抽出する。抽出された問題から研究目的を設定し、その解決のための方法論を選択する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> 研究テーマに関する20編程度の文献を講読し、その論点を整理できる。 データを分析するための適切な統計手法を理解している。 					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活やこれまでの授業での学びの中から、興味ある内容をテーマとして抽出できる。 自ら設定した課題を解決するために妥当な研究方法を選択できる。 					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> テーマに関する文献を検索して収集することができる。 収集された文献に基づいて、研究課題を設定できる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1回：オリエンテーション</p> <p>2回：研究における論文作成の手順の理解</p> <p>3～4回：文献検索方法の理解と実践</p> <p>5～10回：文献購読とリストの作成</p> <p>11～15回：先行研究の講読と整理（前期終了）</p> <p>16～18回：研究課題の抽出</p> <p>19～21回：研究目的の設定</p> <p>22～27回：研究方法の選択</p> <p>28～29回：研究計画の作成</p> <p>30回：研究計画発表会（4年生との合同ゼミ）</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連回:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習課題		○		○	○	100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	メールおよび授業時間外に相談・助言のための時間を設定する。						授業中の撮影

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	伊 勢 慎						
授業の概要	<p>卒業論文の作成に向けて必要な知識や技能を修得することを目的とする。</p> <p>1. 図書、文献、資料等の検索方法と、読み込み方、まとめ方を修得する。</p> <p>2. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、これらに応用する能力を身につける。</p> <p>3. 調査・研究に必要な知識、方法を修得する。</p> <p>4. 問題意識を明確にして、卒業論文のテーマ、目的、方法、構成を明確にする。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	<ul style="list-style-type: none"> ・自らが研究しようとするテーマについての基礎的な概念、専門的知識を理解する。 ・研究テーマに関連する図書、文献等を熟読して、その概要を整理できる。 					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	<ul style="list-style-type: none"> ・卒論テーマに関する問題、問題背景、目的、方法、構成を抽出して、研究テーマを設定できる。 ・問題を解決するために適切な研究方法を選択できる。 					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・必要な図書、文献等を検索して収集することができる。 ・研究方法に基づき、適切に実施してデータ収集、分析ができる。 ・調査研究、あるいは実験などに必要な知識や技能を修得する。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
授 業 内 容							
<p>1回：オリエンテーション：文献検索方法の理解と実践</p> <p>5～7回：文献リストの作成</p> <p>8～10回：先行研究の講読と整理</p> <p>11・12回：研究課題の抽出</p> <p>13回：研究目的の設定</p> <p>14回：研究方法の選択</p> <p>15回：研究計画の作成</p> <p>16～19回：研究方法の実践</p> <p>20～23回：データの収集</p> <p>24～27回：データの入力と集計</p> <p>28～30回：研究方法の再検討と分析</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習		○		○	○	100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業の中で随時指示します。						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。						授業中の撮影

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	岩 橋 宗 哉						
授業の概要	<p>卒業論文の作成に向けて必要な、以下にあげる知識や技能を修得することを目的とする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得すること。 2. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深め、これらを応用する能力を身につけること。 3. 調査研究、あるいは実験などに必要な知識を修得すること。 4. 受講者各自の問題意識を明確にし、卒論のテーマ、目的、方法、構成を明確にすること。 						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	自らが研究しようとするテーマについての基礎的な概念、専門的知識を理解する。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	受講者各自の問題意識を明確にし、卒論のテーマ、目的、方法、構成を明確にできる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。調査研究、あるいは実験などに必要な知識や技能を修得する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>授業の方法としては、受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。以下に概ねのスケジュールを示す。</p> <p>1～5 各自が問題意識を明確化していく。また、そのための基本的な概論書や論文を読む。</p> <p>6～10 ある程度テーマが明確になると、そのテーマにかかわる研究論文を検索し、まとめ、発表し、他の受講者とディスカッションする。</p> <p>11～15 今までの研究を概観し、具体的に研究課題を明確にし、研究方法の検討も行う。</p> <p>16～20 研究計画を立て、研究方法を明確にしていく。</p> <p>21～30 各自が研究の問題・目的・研究方法についての概要を作成する。</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習		○		○	○	100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業の中で各自に指示						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。						授業中の撮影

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	上 野 行 良		通年	演習	必修	2	3年
授業の概要	実際の研究を各自で行いながら、心理学に関する研究を行うために必要な知識と技能を修得する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理学の研究方法に関する知識をもっている。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	心理学的な問題について仮説を立て、実証する方法を考えることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	心理学の実証研究を行うことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>【授業方法と事前・事後学習】 受講生ごとに自分の研究に取り組む。 授業では</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の研究について報告し、アドバイスを受ける 2. 進捗状況に合わせ、研究に必要な知識を説明する <p>【授業内容】 以下の手順で指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. テーマを決める 2. 仮説を立てる 3. 文献を収集する 4. 文献をまとめる 5. 仮説を見直す 6. 方法を考える 7. 調査・実験・観察等の準備と実施 8. 統計的検定 9. 解析案を立てる 10. 統計ソフトの使い方 11. 統計結果の見方 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業において指導を受け、実施した回数		◎		◎	◎	100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	自分で探す						
履 修 条 件	人間形成学科の決定によって担当教員が指導教員となった者						
学習相談・助言体制	相談・質問は指導中に行うこと。急な連絡はメールで行うこと。						授業中の撮影

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	大久保 淳 子						
授業の概要	<p>卒業論文の執筆方法と手順を理解するために、各自、興味・関心のあるテーマの先行研究を検索し、その概要を発表する。</p> <p>その発表を通して、文献検索方法・研究法（文献研究・質問紙研究・インタビュー研究・観察研究など）を知り、データの分析などを具体的に理解する。その後、研究テーマを決め、卒業論文の執筆の準備をすすめる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	・卒業論文の執筆方法と手順を説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	・研究法に基づき、データを収集し、示すことができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	・興味、関心をもったテーマを設定し、研究法、データを収集・分析などを説明できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)		
	<p>1回：オリエンテーション・学会誌論文の紹介</p> <p>2回：文献検索方法について</p> <p>3～10回：興味・関心のあるテーマの先行研究の発表</p> <p>11～12回：研究テーマの設定</p> <p>13～15回：文献リストの作成</p> <p>16～18回：研究計画の作成</p> <p>19～20回：研究目的の設定・研究方法の選択</p> <p>21～23回：データ収集・分析</p> <p>24回：中間報告</p> <p>25～27回：研究をすすめる</p> <p>28～30回：研究方法の再検討</p>	<p>・各回の研究について、質疑・応答をする。</p>			<p>・進捗状況を踏まえて、学習課題を提示します。</p>		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習		○	○	◎	○	100	
実務経験を生かした授業	教員経験を踏まえて、保育・教育現場の現状と課題などを適宜紹介します。						
テキスト・参考文献等	授業の中で、提示します。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスマナーを活用してください。					授業中 の撮影	

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	小 嶋 秀 幹						
授業の概要	心理学に関する研究を行う上で必要な知識と技能を修得し、自分の関心のある心理学研究を計画する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	心理学に関する研究方法の知識を身につける。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自分の関心に沿った心理学に関する研究を計画できる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	自分の関心に沿った心理学に関する研究を計画できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		演習				
2 ～ 15	各学生が関心のある文献を広く読む。心理学研究方法の知識を身につける。		発表と討論。心理学に関する研究方法の講義。		自分の関心のある文献を選ぶ。その内容について要約し、レポートを提出する。		
16 ～ 29	テーマを絞り込んで文献を読む。心理学研究計画の構想する。						
30	自分の関心に沿った心理学研究計画を発表		演習				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		○			◎	30	
受講者の発表(プレゼン)				◎	○	20	
演習		◎			○	50	
実務経験を生かした授業	心理学研究を実施した経験を持つ教員が実施する。						
テキスト・参考文献等	特になし。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	質問・相談は、演習時間内に回答する。					授業中 の撮影	

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	小山 憲一郎						
授業の概要	1. 卒業論文の作成に向けて、受講者各自の興味関心に基づいて問題意識を明確にする。 2. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 3. プログラム評価研究を見据えながら、個々人の関心領域に関する基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。 4. プログラム評価の計画と実施について理解を深める。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	関心領域に関する基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	問題意識を明確にし、プログラムを作成し、それを評価するための実験的手法を考える。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 プログラム評価研究に関する実験手法などに必要な知識と技能を修得する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	ガイダンス						
2-15	<ul style="list-style-type: none"> 研究方法、統計についての概要を講義 学生の興味、希望に基づき教員が選択した論文について全員で講読し、論文講読の方法を学ぶ。 個々人が興味関心のある領域に関する基本的な概論書や論文を読む。 テーマにかかわる研究論文を検索し、まとめ、発表し、他の受講者とディスカッションする。 今までの研究を概観し、具体的に研究課題を明確にし、研究方法の検討も行う。 		個々人の興味関心とペースに合わせ、それぞれの課題を発表し、教員、他受講生と支持的にディスカッションしながら研究を進めていく。		授業の中で行われたディスカッションの中から具体的な課題を明確にするようにしますので、翌回の授業までにその課題について文献を調べたり、興味のある課題についてのプログラム評価研究の実験方法について思案したりして来てください。		
16-30	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画を立て、研究方法を明確にしていく。 各自が研究の問題・目的・研究方法についての概要を作成する。 準備が整い次第、実際の研究に着手する。 						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講者の発表(プレゼン)			○	○		40	
演習		◎		◎		60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考文献はその都度紹介する。						
履修条件	ストレスマネジメントや認知行動療法、心身医学・行動医学に興味があること。						
学習相談・助言体制	質問、相談は適宜、口頭もしくはメールで事前のアポイントを取っていただいた上で応じます。					授業中の撮影	

授業科目名		演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		櫻井国芳		通年	演習	必修	2	3年
授業の概要		教育・文化領域において、特に造形や美術に関わる卒業論文を作成するための演習である。造形や美術に関する基礎学習を通じて自己の問題意識を明確にし、各自の研究課題をうちたてる。さらに研究計画をつくり、研究の進め方や方法について検討し、卒業論文完成に向けた知識や技能を習得する。						
学生の到達目標								
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	文献・資料を読み進める中で基礎的な知識を習得し、自己の問題意識と関連させながら説明できる。						
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	ある問題に対しての自分なりの見解を様々な資料を基にうちたてていくことを通じて、主体的に学習する能力や論理的思考・判断力を身に付ける。						
技能	DP10: 専門分野のスキル	レポートや論文を作成する際に、見通しを立てながら、資料の適切な活用の仕方を身に付ける。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容			授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション			資料をもとに、論文とはどういうものか学習する。		資料(授業時に配布)を読んでおく。		
2~6	基礎学習の中から、興味関心のある題材に焦点を絞り込む。			美術・造形に関する基礎的な資料を探し、読み進める。		必要な資料を読み、レポートを作成する。		
7~11	各自の研究課題について先行資料を学習しながら、何が問題となっているのかを確認する。			先行研究を探し、読み進める。				
12~13	各自の研究課題について、焦点をさらに絞り込み明確にする。			討論なども取り入れ、研究課題の絞り込みを行う。				
14~16	研究の進め方やまとめ方を考えながら、具体的な研究計画を立てる。			研究計画を立て、調査方法について検討する。		事前に研究計画を立てておく。		
17~22	資料の収集について。論文の構成を考えながら執筆する。			各自のレポートをもとに討論、検討する。		必要な資料を読み、レポートを作成する。		
23~24	論文作成状況の確認と今後の計画についての検討。			発表会				
25~30	資料収集と資料のまとめ、論文の構成を考えながら執筆する。			各自のレポートをもとに討論、検討する。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
小テスト・授業内レポート		◎			◎			
宿題・授業外レポート		◎			◎			
授業態度・授業への参加度				◎				
受講者の発表(プレゼン)				◎				
補足事項		評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。						
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等		論文の書き方などの資料はこちらで用意します。						
履修条件		意欲的に資料収集できる行動力を求めます。また、毎時間レポート提出を課します。						
学習相談・助言体制		時間が合えばいつでも可					授業中の撮影	

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	社会福祉、保育ソーシャルワーク、海外の福祉に関連する卒業論文を作成するための演習。グループワークや各自のテーマに基づいた個人研究・発表を中心に演習を進めていく。また、社会福祉分野における視野を広げるためフィールドワークも取り入れ、様々な体験を通して福祉問題について考える機会とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	研究テーマに関連する文献を読み、論理的に考えまとめることができる。					
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	研究テーマを設定し、適切な研究方法にて調査することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> 必要な図書、文献等を検索して収集することができる。 研究方法に基づき、調査・分析ができる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション						
2 ～ 8	受講生各自の関心事や問題意識を持っていることについて発表・討議 論文作成についての基礎理解		講義・討議				
9 ～ 14	保育、福祉を中心とする社会的問題について、各自で題材(新聞記事や文献等)を持ち寄り討議		報告・討議		<ul style="list-style-type: none"> 常にニュースや新聞記事に注目し、社会の動向をとらえる。 関連文献等を読む。 授業での発表準備とふりかえりを行う。 		
15 ～ 20	福祉・保育等の現場理解 関連分野の理解を深める 卒論テーマの仮設定		フィールド訪問、DVD 視聴 報告・討議				
21 ～ 30	先行文献の収集 研究方法の検討 先行研究についての発表と討論		報告・討議				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		○		◎	○	30	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		40	
受講者の発表(プレゼン)		◎		◎	○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	適宜紹介します。						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制	訪問、メール等、随時対応します。					授業中 の撮影	

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	麦 島 剛						
授業の概要	生理心理学は、神経科学 (neuroscience) や生命科学 (life science) の一角を占めるのと同時に、人文・社会科学との強い関連をもっている。この演習では、実験実習、文献講読・論文読解、プレゼンテーションを通して、生理心理学研究の前線を知り、その理論を議論し、卒業論文作成の礎とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	生理心理学についての具体的な知識と理論を身につける。					
関心・意欲 ・態度	DP5: 挑戦力	主体的・積極的に取り組み、知の体系に触れ、拓く。					
	DP6: 社会貢献力	実験に必要な手技を実習し、研究に必要な文献講読方法を習得する。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	実験に必要な手技を実習し、研究に必要な文献講読方法を習得する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)	
1	1～15回 ① 行動に関する理論、その神経基盤に関する理論を議論する。その材料として、講読文献(最新の洋書が基本)を定め、各自がレジュメを作成して発表する。 ② 卒業論文テーマを明確化する。 ③ 卒業論文における研究に必要な技術を身につけるため、そのテーマに応じて実習(動物の扱い方や行動薬理学実験など)を行う。 16～30回 ① 卒業論文の土台となるデータ整理・実験計画法の基本を身につける。 ② 各自が国内外の論文を読み、まとめ、発表する。 ③ 各自が卒業論文の研究計画を立てる。		◎講読文献や論文の発表については、発表者が必ずレジュメを作成し、分かりやすくプレゼンテーションを行なう。担当教員は、理解の手助けとなる理論や知識を紹介し、受講者間の議論を喚起する。 ◎卒論テーマの明確化については、個別指導またはゼミ内での集団討論の形式で行い、各自の希望テーマの実現可能性を考え、仮説を検討し、練り上げる。 ◎実習については、担当教員が実例を示しながら、ラット等を用いた行動薬理学実験や電気生理学実験を実施し、実践的な技能を身につけさせる。 ◎データ整理・実験計画法については、理論の教授と並行して、パソコン上のソフトウェアを用いて例題を解かせながら、実践的に習得させる。			講読文献や論文についての発表者は、事前に、辞書や専門書を用いながら計画的に読みこなし、読みやすいレジュメを作成するように。発表者以外も、事前に講読文献を読むように。実習については、実際に手を動かして身につけることが重要である。3年次には、4年生が取り組んでいる卒論実験やデータ処理を積極的に見学し、手伝うことを通じて、理解や技能を深めると良い。	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				○		20	
演習		◎		○	◎	80	
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。						
テキスト・参考文献等	講読文献を定める。詳細は、事前に受講者と相談の上、決定する。参考にできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。					授業中の撮影	

人間社会学部
専門教育科目

授業科目名		演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		吉岡和子		通年	演習	必修	2	3年	
授業の概要		1. 卒業論文の作成に向けて、受講者各自の問題意識を明確にする。 2. 文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 3. 基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。 4. 調査研究、あるいは実験などに必要な知識と技能を修得する。							
学生の到達目標									
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	・基礎的な概念、専門的知識の理解を深める。							
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	・受講者各自の問題意識を明確にする。							
技能	DP10:専門分野のスキル	・文献、資料等の検索方法とその読み方、まとめ方、引用の仕方を修得する。 ・調査研究、あるいは実験などに必要な知識と技能を修得する。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)			
1	ガイダンス								
2 ～ 15	<ul style="list-style-type: none"> 各自が問題意識を明確化していくための基本的な概論書や論文を読む。 テーマにかかわる研究論文を検索し、まとめ、発表し、他の受講者とディスカッションする。 今までの研究を概観し、具体的に研究課題を明確にし、研究方法の検討も行う。 			受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。		授業では、ディスカッションを通して、各自の問題意識を大事にしながら、研究の進行状況に応じて、そのときどきの各自の学習課題を、明確にしていきます。各自、その次までに、その課題について取り組み、授業の中で発表し、ディスカッションしていくので、事前に十分にそのときの課題に取り組んでおいて下さい。			
16 ～ 30	<ul style="list-style-type: none"> 研究計画を立て、研究方法を明確にしていく。 各自が研究の問題・目的・研究方法についての概要を作成する。 			受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
演習			◎		◎	◎	100		
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		授業の中で各自に指示							
履修条件		人間形成学科の3年生で、ゼミ選択した者							
学習相談・助言体制		授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。						授業中の撮影	

授業科目名		演 習			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
担当教員		鷲野 彰子			通年	演習	必修	2	3年	
授業の概要		音楽に関連する卒業論文を作成するための演習。保育の場での音楽の用いられ方や、音楽教材及びその歴史について、あるいはより広義の音楽教育及び音楽そのものについての研究方法を学ぶ。そこから、既成の方法にとらわれない創造的な音楽教育を行う姿勢を育む。								
学生の到達目標										
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	課題に対して論理的に考え、解決するための手法についての知識を身につけている。								
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	課題に対して問題点を独自に追求し、解決方法を探求する姿勢を身につけている。								
技能	DP10: 専門分野のスキル	課題を検討するための科学的手法を身につけている。								
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)										
回	授 業 内 容			授 業 方 法			事前・事後学習(学習課題)			
1	オリエンテーション			説明						
2-9	文献紹介と発表方法			各回につき2名程度の学生が文献の要約を発表し、それに対して討論を行う			発表者は各自で文献を探し、その要約を用意する			
10-15	ひとつのトピックについて複数の文献(各種資料を含む)を用いてまとめる			各回につき2名程度の学生が発表し、それに対して討論を行う			発表できるよう、各自で発表資料などを事前に用意する			
16-29	研究テーマを決めて、先行研究を読む			各回につき2名程度の学生がそれぞれの各自の研究の先行研究について発表し、それに対して討論を行う			発表できるよう、各自で発表資料などを事前に用意する			
30	文献の整理			説明			事前: 今後の論文執筆に必要な文献を事前に収集する 事後: 文献表を作成する			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)										
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
授業態度・授業への参加度					◎					
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	◎				
補足事項		毎時の報告・発表の内容及び討議への参加状況により、総合的に判断する。								
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、現場における課題について検討する方法を指導する。									
テキスト・参考文献等	必要に応じて配布する。その他は、各自で用意する。									
履修条件	原則として、保育士資格及び幼稚園教諭免許取得希望者とする。									
学習相談・助言体制	必要に応じて個別相談時間を設ける。							授業中の撮影		

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	石 崎 龍 二						
授業の概要	<p>本演習の目的は、研究テーマを設定し、テーマに関する文献やデータ収集、分析、報告書の作成までを実践することにより、基本的な研究方法を身につけることである。また、ゼミの中での質疑応答を重ねる中で、自身の考えを論理的に討論相手に伝える能力や討論者の意見を吸収し研究内容を発展させる力を養う。本演習で調べた結果を、4年次での卒業論文の作成へとつなげる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会科学及び統計学の専門知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	社会の諸問題に深い関心をもち、研究テーマを自ら設定し、設定した研究テーマに主体的に取り組むことができる。					
	DP6: 社会貢献力	課題解決に向けて探求し続けることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			
1	オリエンテーション (ゼミの進め方)		演習	次回の資料について予習			
2~7	演習に関する図書や参考資料の輪読		演習	各自、輪読する資料について予習・復習			
8	各自の(仮)研究テーマの設定		演習	研究テーマの設定			
9,10	各自の(仮)研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集		演習	資料収集			
11,12	各自の(仮)研究テーマについて経過報告、質疑応答		演習	報告者は報告資料を用意			
13,14	研究テーマの確定 研究テーマに沿った文献、データ等の資料収集		演習	資料収集			
15	演習(前期)のまとめと演習(後期)に向けての計画		演習	資料・問題整理			
16	各自の研究テーマについて中間報告(後期はじめ)		演習	全員、報告資料を用意			
17~25	収集した文献、データ等の整理、 各自の研究テーマについて経過報告、質疑応答		演習	報告者は報告資料を用意、資料収集			
26~30	報告書の作成		演習	報告書の作成			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート		◎	◎	◎	◎	50	
授業態度・授業への参加度		◎		◎		30	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	演習の中での話し合いで決定する。						
履 修 条 件	特になし。						
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。						授業中の撮影

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	2	3年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	本演習では卒業論文に取り組む際に必要となる基本的な研究方法の習得を目指す。前期は文献輪読やワークショップなどを行いながら、各自の問題意識と採用する研究方法について明確にしていく。後期は各自のテーマについて研究と研究報告を行うことが中心となる。先行研究・文献を収集し、関連するデータをまとめて分析し、レポートを書くという一連の流れを体験し、卒業論文作成の基礎を養う。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	研究に関する基本的な技法や自らの問題関心に関する基本的な知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的事象に関する問題を公共性の観点から整理できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自らの問題意識を持ち、自ら調べ、考えることができる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に提言することや働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	社会的事象に関する問題について、社会学の手法を使って調べ、分析することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	ガイダンス						各自の関心や問題意識について考え、話せるように準備しておく。
2	ゼミメンバー各自の問題意識を報告し合い、共有する。この時点ではテーマが絞れていなくてもよい。						
3	輪読する文献の決定。報告する分担を決める。						担当部分について文献を精読し、他の文献も参照しながらレジュメを作成する。
4~12	文献輪読。基本は担当部分についてレジュメを準備・報告し、全員で議論する。必要に応じて資料の探し方、資料整理やレジュメ作成の方法、プレゼンテーションや議論の仕方等について講義する。各自の研究テーマについて、研究の準備を始める。						
13, 14	各自の研究テーマと研究方法について、研究計画や途中経過を報告し合い、アドバイスをを行う。						前期終わりから夏休み中は、各自のテーマに基づいて先行研究・文献を読み、データ収集に取り組む。 後期は、データ収集と分析を行って、研究報告とレポートの執筆を行う。
15	前期のまとめ。夏休み中の研究の進め方や後期の計画について相談する。						
16	ガイダンス						
17~22	各自の研究テーマについて、資料やデータの収集と分析を行い、口頭や文章で研究報告を行う。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でアドバイスをしあう。						
23~29	各自の研究テーマについて、アカデミックな論文の形式に従ったレポートを執筆する。教員の指導に加えて、ゼミメンバー同士でコメントをしあい、レポートの完成度を高める。						
30	まとめ。4年生の卒論演習に向けて相談し計画を立てる。						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業外レポート		◎	◎	◎	◎	40	
演習			◎	◎		60	
補足事項		演習では積極的に議論や取り組みに参加・貢献している者を評価する。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキストは授業内で相談の上決定する。参考文献は適宜指示する。						
履修条件	遅刻、欠席の場合は事前に連絡すること。統計の手法を使って社会的な分析を行いたい、あるいはジェンダーの観点から社会的な分析を行いたい人を念頭におくが、それ以外のテーマや手法でも相談してほしい。						
学習相談・助言体制	演習の時間での相談・助言を基本とするが、必要な場合は適宜個別に時間を決めて相談を行う。また、受講生の状況に応じて授業内容に変更を加える場合がある。						授業中の撮影

授業科目名	演 習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次	
			通年	演習	必修	2	3年	
担当教員	柴 田 雅 博							
授業の概要	本演習では、卒業研究に向けて、その基礎となる論理的思考能力の修得や情報科学的な基礎知識の学修を行う。前半では関連文献を読み解き輪読形式で発表を行う。後半以降は、各自研究テーマを定めて、資料整理、データ分析、プログラミング等を用いて、研究、発表を行う。							
学生の到達目標								
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	社会の中で ICT がどう活用されているのか理解する。またそれを議論するに足るだけの情報科学の知識を身につけている。						
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	社会現象をモデル化し、小問題に切り分けながら解決することができる。						
関心・意欲・態度	DP5:挑戦力	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。						
	DP6:社会貢献力	情報科学知識を社会問題の解決に活かすことができる。						
技能	DP10:専門分野のスキル	必要な資料を収集し、他人の知見を自分の研究に活かすことができる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みる可以尝试。						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)								
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)			
1	オリエンテーション	演習				ゼミを円滑に進めるために、自分の関心あるものをお考えしておく。		
2, 3	輪読用の文献決め。分担					担当部分について、レジュメを作成、討議できるよう準備しておく。また、討議で出てきた話題について、自分なりの回答を出す。		
4~12	関連文献の収集と文献の輪読。レジュメの作成、討議を含む。					研究テーマについて、事前にある程度候補を挙げておくこと。		
13, 14	後半に向けての研究テーマ決め					後期からの研究を進めるにあたり、計画・スケジュールを練っておく。		
15	中間のまとめ・後期の研究計画					各自のテーマについて、空いた時間を見つけて、関連資料の収集や PC での作業を進めておくこと。		
16	今後の研究方法を検討					討議の内容について、回答を出す。		
17~24	研究テーマに従って、資料収集、データ分析等の研究に取り組む。					各自テーマについて、研究レポートを作成する。		
25~27	研究報告会。プレゼンテーションおよび討議							
28, 29	研究レポートの作成							
30	後期のまとめ							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)								
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
宿題・授業外レポート		◎	◎	○		30		
授業態度・授業への参加度				◎		20		
受講者の発表(プレゼン)			◎			30		
演習		○	◎	◎	◎	20		
実務経験を生かした授業								
テキスト・参考文献等	ゼミの中で協議の上決める。							
履 修 条 件	特になし							
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影		

授業科目名		卒業論文			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		池 志 保			通年	演習	必修	6	4年
授業の概要		心理学に関わる卒業論文をまとめ、完成させる。3年「演習」の授業で各々が関心のある文献を調べて発表していたものを、引き続きゼミナールでのディスカッションを通して、調査、分析及び考察まで行う。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自らの研究テーマに関する先行研究を調べた上で、学術的な問題意識を持ち、適切な方法で分析や考察ができる。							
	DP4:表現力	自らの研究テーマについて探求し、卒業論文としてまとめ、発表できる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	心理学に関する諸問題を卒業論文としてまとめ、発表するための心理学的手法を身につけている。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授 業 内 容				授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1 ~ 30	1) 卒業論文について、調査や実験を行い、データを収集する。 2) 卒業論文について、データを分析し、考察を進める。 3) 卒業論文を完成し、卒業論文発表会で発表を行う。				受講生が順番にレジュメを作成して発表していく。学生及び教員とのディスカッションを通して、自身の卒業論文を修正し、進めていく。		事前学習： 文献の検索及び熟読後、レジュメにまとめる。その時々 の課題に取り組む。 事後学習： ディスカッションで得た 検討点について更に探求し、 修正をしていく。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
授業態度・授業への参加度				◎		○	20		
受講者の発表(プレゼン)				◎		○	20		
その他(卒業論文)				◎		◎	60		
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		適宜紹介していきます。							
履 修 条 件		「演習」の単位を取得していること。							
学習相談・助言体制		個人指導を希望される場合は、事前にメール等で連絡してください。日時を考えます。						授業中 の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	池田孝博						
授業の概要	<p>人間の健康、身体活動とそれらに関わる測定評価をキーワードに、学生自身が興味あるテーマに関する卒業論文を作成し、発表する。具体的には、「演習」において策定された研究計画に基づいて、研究目的に合致した方法を選択するとともに、それによって得られたデータの分析結果と、収集・整理された文献の論点に基づいて、テーマに関する考察を深める。さらに執筆規程や提出期限を守って論文を完成させ、提出する。最後に、研究成果を指定された方法で発表する。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 先行研究や分析結果に基づいた論理的な思考が行える。 					
	DP4:表現力	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指定された体裁で卒業論文を作成できる。 ・ 研究過程および成果についてプレゼンテーションができる。 ・ 研究の概要を整理して、要旨を作成することができる。 					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・ 選択された研究方法に基づいてそれを実施し、データ収集ができる。 ・ 選択された分析手法によってデータを分析できる。 ・ 研究課題解決のための科学的手法を身につけている。 ・ 指定されたツールを用いて研究成果を発表することができる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1～3回：研究計画（目的・方法）の修正または見直し 4～6回：研究方法の実践（1）測定・調査の準備 7～11回：研究方法の実践（2）データの配布と回収 12～15回：研究方法の実践（3）データの入力と集計（前期終了）</p> <p>16回：研究過程の整理 17～18回：研究方法の実践（4）データ分析 19回：中間発表の準備 20回：プレゼンテーションの実施（1）中間発表 21～23回：分析結果の整理 24～26回：結果に関する考察または再分析 27回：論文作成（期限内の提出） 28回：論文要旨およびプレゼン資料の作成 29回：卒論発表会の準備（3年生との合同ゼミ） 30回：プレゼンテーションの実施（2）卒論発表会</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連回:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
プレゼンテーション			○		○	30	
演習課題			○		○	70	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし						
履修条件	演習を履修し、単位を修得していること。卒業論文の着手に必要な単位数を修得していること。						
学習相談・助言体制	メールおよび授業時間外に相談・助言のための時間を設定する。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	伊勢 慎		通年	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文の作成と発表を行なう。演習で積み上げた課題、目的、方法、データの分析、その結果を明らかにするとともに、課題解決に向けての考察を行なう。その際、演習時に収集した図書、文献との差異を強調するとともに、卒業論文の限界、今後の課題も明らかにする。このことは、卒業後も引き続き研究的視点を持ち、自己課題解決力を高めることを目指すものである。また、論文執筆の規定や提出期限を守って論文を完成・提出する。研究成果を指定された方法で公表する。						
学生の到達目標							
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	<ul style="list-style-type: none"> 先行研究や分析結果に基づいて適切な考察が行える。 各自の問題意識に基づき、先行研究を調べ、調査研究、実験測定などを実施して、得られたデータについて、結果を整理し、それに基づいて考察を進めることができる。 					
	DP4:表現力	<ul style="list-style-type: none"> 指定された体裁で卒業論文を作成できる。 研究過程および成果についてプレゼンテーションができる。 研究の概要を整理して、抄録を作成することができる。 卒業論文を執筆し、発表会でその内容を説明することができる。 					
技能	DP10:専門分野のスキル	<ul style="list-style-type: none"> 卒業論文を作成するための科学的手法を身につけている。 作成された論文を要約できる。 得られた研究成果を発表するためのツールを用いることができる。 					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1～2回：研究過程の整理</p> <p>3～9回：論文作成のための調査、分析</p> <p>10～14回：中間発表のレジュメ作成</p> <p>15回：プレゼンテーションの実施（1） 中間発表</p> <p>16～27回：分析結果の考察と再分析の実施、論文作成（期限内の提出）</p> <p>28回：論文抄録の作成</p> <p>29回：発表用パワーポイントの作成</p> <p>30回：プレゼンテーションの実施（2） 卒論発表会</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	30	
演習			◎		◎	70	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業の中で随時指示します。						
履修条件	演習を履修して、単位を修得していること。						
学習相談・助言体制	授業時間外での対応、メール等による相談、助言をします。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	岩橋宗哉						
授業の概要	<p>心理学に関する卒業論文の作成を支援・指導する。 「演習」に引き続き以下の作業を進めていく。 1. 先行研究を調査・報告するとともに、討議し、研究課題と目的を明確にしていく。 2. 調査研究、実験測定などの方法を学び、実施する。 3. 得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。 4. 得られた結果について、討議し、考察を進める。 5. 卒業論文の目次構成を考え、その見通しを立てて執筆していく。</p>						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	各自の問題意識に基づき、調査し、それに基づいて考察を進めることができる。					
	DP4:表現力	論理的に導いた自分の考えを文章にし、その内容を説明することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	心理学に基づいて、問題を検討し、論文を執筆することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>授業の方法としては、受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれその時点での課題を発表し、他の受講者や教員との討論によって、研究を進めていく。 それらの討論を踏まえて各自が以下の三点を行なう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習で検討した研究方法に基づいてデータを収集する。 ・得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究課題について考察する。 ・卒業論文の執筆を仕上げる。 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			○		○	20	
受講者の発表(プレゼン)			○		○	20	
その他(卒業論文の評価)			○		○	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業の中で各自に指示						
履修条件	なし						
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	上野行良						
授業の概要	心理学に関する卒業論文の作成を支援・指導する。①調査研究や実験測定を行って得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。②卒業論文を執筆し、添削を受ける。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	収集したデータについて考察できる。					
	DP4:表現力	論理実証的な文章が書ける。					
技能	DP10:専門分野のスキル	心理学論文の執筆ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>【授業方法と事前・事後学習】 作成してきた論文に対し、添削を中心とした指導を行う。</p> <p>【授業内容】 以下の手順で指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 結果の整理 2. 結果の執筆 3. 考察の構成 4. 考察の執筆 5. 問題の構成 6. 問題の執筆 7. 論文全体の統一 8. 卒業発表論文集の作成 							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
論文の添削を受け承認されること			◎		◎	100	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	自分で探す。						
履修条件	担当教員のゼミ生であること。						
学習相談・助言体制	相談・質問は指導中に行うこと。急な連絡はメールで行うこと。						授業中の撮影

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	大久保 淳子						
授業の概要	保育・教育に関する研究テーマを決め、研究目的・方法、データ収集・分析をし、研究の進め方について学ぶ。また、研究結果から、保育・教育現場の現状・今後の課題を考察する。その後、中間発表会・卒論発表会で発表し、プレゼンテーションのスキルを身につける。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	文献調査・データ収集に基づき、分析・考察をすることができる。					
	DP4:表現力	データの分析を踏まえて、プレゼンテーションすることができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	保育・教育に関する論文を執筆し、研究結果から今後の課題を考察することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	・オリエンテーション ・ 各自、研究の再検討をする。		講義				
2~10	・各自、研究計画に沿って研究を進め、進捗状況を報告する。 ・選択したテーマについて、目的、方法などを各自、発表する。						
11~15	・データ分析をし、結果をまとめる。 ・中間発表会に向けて、各自プレゼンテーションの準備をする。		・各自のプレゼンテーション後に質疑・応答をする。		・進捗状況を踏まえて、学習課題を提示します。		
16~29	・卒業論文執筆 ・卒論発表会に向けて、各自プレゼンテーションの練習をする。						
30	・卒論発表会		プレゼンテーション				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講者の発表(プレゼン)					◎	30	
演習					◎	70	
実務経験を生かした授業	教員経験を踏まえて、保育・教育現場の現状と課題などを適宜紹介します。						
テキスト・参考文献等	授業の中で、提示します。						
履修条件	「演習」の単位を取得していること。						
学習相談・助言体制	質問は、授業中・授業終了後に対応します。またはメールやオフィスパワーを活用してください。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	小嶋秀幹		通年	演習	必修	6	4年
授業の概要	演習に引き続き、卒業論文を作成する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	心理学の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。					
	DP4:表現力	科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	心理学に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1 ~ 14	研究計画の作成と調査の実施	ディスカッション	学習課題については、毎回口頭および資料に基づき指示する。				
15	中間発表	プレゼンテーション					
16 ~ 29	結果の整理、解析、考察、論文の執筆	ディスカッション	学習課題については、毎回口頭および資料に基づき指示する。				
30	卒論発表会	プレゼンテーション					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講者の発表(プレゼン)			◎		○	30	
演習			◎		○	20	
卒業論文			◎		○	50	
実務経験を生かした授業	心理学研究を実施した経験を持つ教員が実施する。						
テキスト・参考文献等	特になし。						
履修条件							
学習相談・助言体制	質問・相談は、演習時間内に回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次					
			通年	演習	必修	6	4年					
担当教員	小山 憲一郎											
授業の概要	<p>卒業論文の作成を以下の手順で支援・指導する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各自の問題意識に基づき、基礎的文献や資料、先行研究について調査・報告をし、討議をしながら研究課題と目的を明確にしていく。 2. 心理学研究法を学び、自らの興味関心に適した方法を選択、実施する。 3. 調査研究や実験測定、または事例研究を行い、得られたデータについて心理学的に解析し、結果を整理する。 4. 得られた結果について、考察を進める。 5. 卒業論文の目次構成を考え、執筆していく。 											
学生の到達目標												
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	問題意識に基づき、自ら調べ、論考することができる。										
	DP4:表現力	学術論文として適切な文章表現、図表の作成ができる。										
技能	DP10:専門分野のスキル	心理学に依拠した卒業論文を作成、執筆し、発表会で自らの意見をプレゼンテーションすることができる。										
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)												
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)							
1												
2												
3												
4												
5												
6					<p>授業では、ディスカッションを通して、各自の問題意識を大事にしながら、研究の進行状況に応じて、そのときどきの各自の学習課題を、明確にしていきます。</p> <p>各自、その次までに、その課題について取り組み、授業の中で発表し、ディスカッションしていくので、事前に十分にそのときの課題に取り組んでおいて下さい。</p>							
7	・演習で検討した研究方法に基づいてデータを収集する。		<p>受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。</p>									
8	・得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究課題について考察する。											
9	・卒業論文の執筆を仕上げる。											
10												
11												
12												
13												
14												
15												
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)												
成績評価方法	到達目標	知識・理解						思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験(卒業論文)										◎	60	
授業態度・授業への参加度									◎		10	
受講者の発表(プレゼン)								◎			30	
実務経験を生かした授業												
テキスト・参考文献等	受講者の興味関心に応じて適宜提供する。											
履修条件												
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。					授業中の撮影						

授業科目名		卒業論文			開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員		櫻井国芳			通年	演習	必修	6	4年
授業の概要		造形や美術に関わる卒業論文を作成する。「演習」で学んだ知識・技能を活用して、卒業論文の執筆やまとめ、年度末に行われる発表会の準備に取り組む。							
学生の到達目標									
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自身の主張について、筋道を立てて展開し、それを説明することができる。							
	DP4:表現力	発表会で、自身の研究成果をわかりやすく伝えることができる。							
技能	DP10:専門分野のスキル	見通しを立てながら、適切に資料を活用しながら卒業論文を作成できる。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容			授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション			卒業論文のまとめや発表会までの流れを知る。			資料(授業時に配布)を読むしておく。		
2	論文作成状況と今後の作業計画の確認			各自の進行状況を確認する。			現在の進行状況とこれからの計画についての確認		
3~25	論文の構成を考え、資料を活用しながら執筆する。			レポートとして提出された内容を検討する。			論文の執筆		
26~29	論文のまとめと研究概要の作成			研究概要の書き方を説明しながら、発表の仕方についても考える。			研究概要の作成と発表会に向けての準備		
30	発表会								
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)		
小テスト・授業内レポート				◎					
宿題・授業外レポート				◎					
受講者の発表(プレゼン)						◎			
補足事項		評価については上記評価項目を基に総合的に行うため、各項目の評価割合は記載しない。ただし、「授業態度・授業への参加度」における評価を最重視する。							
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、子どもの心身の発達を見据えた保育(造形・表現)のあり方等について指導する。								
テキスト・参考文献等	論文の書き方などの資料はこちらで用意します。								
履修条件	「演習」の単位を修得していること								
学習相談・助言体制	時間が合えばいつでも可							授業中の撮影	×

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	杉野寿子						
授業の概要	演習で各自が設定したテーマについて論文作成に向け準備し、グループでの討議や個別指導を通じて卒業論文を完成し発表する。卒業論文を作成することで、4年間の学びの集大成とする。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	自ら設定したテーマに沿って、先行研究や調査結果の考察によって結論を見出すことができる。					
	DP4:表現力	指定された様式に沿って論文を作成し、発表できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	卒業論文を作成するための科学的手法を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	各自のテーマと進捗状況の報告		報告・討議				
2~10	研究計画の検討、修正 文献・資料の収集、調査研究、整理、分析		報告・討議				
11~25	研究結果の検討、考察、論文執筆		報告・討議		・報告資料の準備 ・論文作成、修正 ・発表準備		
26~28	論文修正、発表準備		報告・討議				
29・30	論文の完成、報告会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度			○	○		10	
受講者の発表(プレゼン)			◎	◎	○	30	
卒業論文			◎		◎	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	必要に応じて紹介。						
履修条件	「演習」履修済みのこと。						
学習相談・助言体制	訪問、メール等、随時対応します。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	麦島 剛						
授業の概要	生理心理学、およびその周辺領域で各自が卒業論文を執筆できるように、文献研究の仕方・実験の実施・実験データ処理の実践・結果の考察・論文の練り上げについて個別指導と集団指導を行なう。演習で立てた研究計画を実行すべく、演習で習得した具体的な技術や理論を活用する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	演習で得た知識体系を基に科学論文を作成する。					
	DP4:表現力	論理的で矛盾のない文章構成を身につける					
技能	DP10:専門分野のスキル	実験心理学および神経科学の知識体系および専門的技術を応用する。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
授業内容			授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
<p>30回分の授業を概ね次の順で進める。必要に応じて適宜個別指導をする。</p> <p>① 演習で立てた卒論研究計画に従って、実験を実施する。実験は、夏休みから始めることを目指す。</p> <p>② 卒論中間発表会の要旨をまとめ、発表する。</p> <p>③ 採取したロー・データから、検討すべき変数を取り出し、それを統計学的に処理する。</p> <p>④ 結果から仮説を検証する。</p> <p>⑤ 各自の研究が先駆けて明らかにしたことを、文献研究の内容と照らし合わせて考察する。</p> <p>⑥ 卒業論文としてまとめ上げる。</p> <p>⑦ 卒論発表会の要旨をまとめ、発表する。</p>			<p>個別に実験を指導すると同時に、受講者全員が進捗状況を報告しあう。仮説検証に必要な理論についての勉強会を行なう。データ処理の実践(統計学的検定の方法など)についても、個別指導と全員参加の集団指導を並立させよう。他にも増して実験研究は、ゼミ内のチームワークと、学生と教員との緻密な連携が必要となる。従ってこの授業ではきめ細かい指導を行なう。</p>		<p>実験期間中は手順よく実験を実施していく。実験と並行して、国内外の論文を読んで理解する。ロー・データ採取後は、適切に変数を抽出し、適切に統計学的検定を行なう。「泥縄」にならないよう、普段から統計学の勉強を行なっておくことが推奨される。</p>		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				○		20	
演習		◎		○	◎	80	
実務経験を生かした授業	この授業は、根本の学理と真理を扱うため、実務経験は一義的には無関係である。ただし、実務は体系的真理に基づかなければ、個人的経験則の範囲にとどまってしまう。その意味では、この授業は実務と大きく関係する。						
テキスト・参考文献等	テキストはとくに定めない。参考にできる文献は、授業の中で適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	平素の質問を歓迎する。訪問者に対しては、オフィスアワー以外でも、都合がつけば必ず応じる。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	吉岡和子		通年	演習	必修	6	4年
授業の概要	卒業論文の作成を以下の手順で支援・指導する。 1. 各自の問題意識に基づき、基礎的文献や資料、先行研究について調査・報告をし、討議をしながら研究課題と目的を明確にしていく。 2. フィールドワーク、調査研究、実験測定などの方法を学び、実施する。 3. 調査研究や実験測定を行い、得られたデータについて統計学の知識をもとに解析し、結果を整理する。 4. 得られた結果について、考察を進める。 5. 卒業論文の目次構成を考え、執筆していく。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	・問題意識に基づき、自ら調べ、考えることができる。					
	DP4:表現力	・心理系の卒業論文を作成し、発表会で自らの意見を述べるができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル						
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1回 ～ 10回	演習で検討した研究方法に基づいてデータを収集する。						
11回 ～ 20回	得られたデータを分析し、その結果に基づいて研究課題について考察する。	受講者各自が、研究の進行状況によって、それぞれそのときの課題を発表し、教員との討論によって、研究を進めていく。	授業では、ディスカッションを通して、各自の問題意識を大事にしながら、研究の進行状況に応じて、そのときどきの各自の学習課題を、明確にしていきます。 各自、その次までに、その課題について取り組み、授業の中で発表し、ディスカッションしていくので、事前に十分にそのときの課題に取り組んでおいて下さい。				
20回 ～ 30回	卒業論文の執筆を仕上げる。						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	40	
その他			◎		◎	60	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	授業の中で各自に指示						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業だけでは十分でない場合は、事前にメール等で連絡してください。相談する日時を決めます。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	鷲野彰子						
授業の概要	音楽に関連する卒業論文作成のための指導を受ける。「演習」で習得した研究方法を応用して自身でテーマを展開し、論文を執筆し、その添削を受ける。適宜、必要に応じて研究の中間発表を行い、進捗状況や方向性、問題点を確認する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	課題や問題点の解決方法について、論理的に考察することができる。					
	DP4:表現力	科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1-15	研究課題に対する仮説をたて、データや資料分析を行う		各回につき2名程度の学生がそれぞれの研究の一部あるいは関連項目について発表し、それに対して討論を行う		発表できるよう、各自で発表資料などを事前に用意する		
16-29	論文作成指導		グループ指導及び個別指導 グループ： 進捗状況を報告し、それに対して疑問点・問題点を議論する 個別： 添削を中心とした論文作成指導		各自で論文を書き進める		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業態度・授業への参加度				◎		50	
受講者の発表(プレゼン)			◎		◎	50	
実務経験を生かした授業	教員経験のある者が、現場における課題について検討する方法を指導する。						
テキスト・参考文献等	特になし。各自で用意する。						
履修条件	担当教員の「演習」を履修していること。						
学習相談・助言体制	必要に応じて、個別相談時間を設ける。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	石崎龍二						
授業の概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	収集した資料に基づき論理的に分析し、問題点を整理できる。					
	DP4:表現力	設定した問題に対して、資料に基づいた論理展開を説得的に表現できる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	研究テーマに沿って各種の資料を適切に収集し、問題の分析に必要な統計解析や情報処理ができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法	事前・事後学習(学習課題)			
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション		演習	次回の資料について予習			
2~5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。		演習	各自問題意識と研究テーマを確認する。			
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。		演習	必要な文献やデータを収集する。			
10-15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。		演習	各自の研究の進捗状況をまとめる。			
16	草稿の提出		演習	卒業論文全体の草稿を準備する。			
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。		演習	草稿の修正、補充を進める。			
25	ゼミでの発表会		演習	卒業論文を完成させる。			
26-27	完成原稿の最終確認、提出。		演習				
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。		演習	卒業論文の要旨をまとめる。			
30	卒業論文発表会の準備。		演習	発表会の準備をする。			
	卒業論文発表会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文		◎	◎	◎	◎	75	
卒業論文要旨			◎	◎		15	
卒業論文発表会			◎	◎		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テーマに応じて適宜紹介する。						
履修条件	卒業論文の着手要件は、3年次までに卒業必要単位のうち80単位以上を修得していることとなっている。ただし、編入学生についてはこの限りではない(福岡県立大学学部履修規則第4章第20条)。						
学習相談・助言体制	演習時間以外の質問は、オフィス・アワーで回答します。また、メールでも受け付けて回答します。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	坂 無 淳						
授業の概要	卒業論文はこれまでの勉学の集大成である。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	人間と社会に関連する社会科学の専門知識を、社会学を中心として身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的な事象やその問題を資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。					
	DP4: 表現力	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	自ら問いを立て、研究に主体的に取り組むことができる。					
	DP6: 社会貢献力	公共性に根ざした問題解決能力を高め、社会に働きかけることができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	先行研究や各種資料を適切に収集し、社会科学的に的確に観察、調査、分析できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容						事前・事後学習(学習課題)
1	卒業論文作成についてのオリエンテーション						
2-5	受講生各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討。						各自問題意識と研究テーマを確認する。
6-9	文献・データの整理。先行研究の検討。						必要な文献やデータを収集する。
10-15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論。						各自の研究の進捗状況をまとめる。
16	草稿の提出						卒業論文全体の草稿を準備する。
17-24	草稿の内容の改善、データや文献の補充。						草稿の修正、補充を進める。
25	ゼミでの発表会						卒業論文を完成させる。
26-27	完成原稿の最終確認、提出。						
28-29	卒業論文要旨集の原稿作成。						卒業論文の要旨をまとめる。
30	卒業論文発表会の準備。						発表会の準備をする。
	卒業論文発表会						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文		◎	◎	◎	◎	75	
卒業論文要旨			◎	◎		15	
卒業論文発表会			◎	◎		10	
補足事項	学部および当該学科の卒業論文に関する規則や細則を必ず確認すること。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テーマに応じて適宜紹介する。						
履修条件	履修の前に必ず担当教員と当該学科の教務担当教員に相談してから履修すること。						
学習相談・助言体制	オフィスアワー等に対応するが、状況に応じて適宜個別指導を行う。						授業中の撮影

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			通年	演習	必修	6	4年
担当教員	柴田雅博						
授業の概要	4年間の集大成として卒業研究の結果を卒業論文にまとめる。自ら問いをたて、その研究テーマに沿って適切な文献やデータを収集・分析し、各自の分析能力と記述力を高めること、さらに発表と討論を通してプレゼンテーション能力を高めることが目標である。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会の中で ICT がどう活用されているのか理解する。また、それを議論するに足る学科専門知識および情報科学の知識を身につけている。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	社会的現象やその問題をモデル化し、資料の収集や論理的分析を通して解明し、結論を見出すことができる。					
	DP4: 表現力	自らの研究のテーマや内容、分析手法、結論について他者に説明することができる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	日常的関心の中から問題を発見し、それを解決するための研究計画を立て、実行することができる。					
	DP6: 社会貢献力	情報科学知識を社会的問題の解決に活かすことができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	先行研究や各種資料を適切に収集し、他人の知見を活かしながら的確に調査分析できる。統計処理や情報処理を用いて問題の解決を試みることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		演習				
2~5	各自のテーマの設定。研究方法の確認。論文の枠組の検討		演習		各自問題意識と研究テーマを確認する。		
6~9	関連文献・データの整理。先行研究の検討		演習		必要な文献やデータを収集し、自分の研究との関連性を検討する		
10~15	卒業論文題目提出。各自の研究報告と討論		演習		各自の研究の進捗状況をまとめる。		
16	草稿の提出		演習		卒業論文全体の草稿を準備する。		
17~25	草稿の内容の改善、データや文献の補充		演習		草稿の修正、補充を進める。		
26~30	卒業論文の執筆と完成。卒業論文発表会で研究発表を行う。		演習		卒業論文を完成させる。卒業論文発表会のための資料作成、その他準備を行う		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
卒業論文		◎	◎	◎	◎	75	
卒業論文要旨			◎	◎		15	
卒業論文発表会			◎	◎		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テーマに応じて適宜紹介する。						
履修条件	履修規則第4章第20条の着手要件を満たしていること。						
学習相談・助言体制	授業時間外の質問は研究室に来てください。ほか、メールでの質問も受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	卒業論文		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	小嶋秀幹		後期	演習	必修	6	4年
授業の概要	演習に引き続き、卒業論文を作成する。						
学生の到達目標							
思考・判断・表現	DP3:論理的思考・判断力	人間・社会の諸問題に関する資料の収集とその考察によって、結論を見いだすことができる。					
	DP4:表現力	科学的手法を用いて導かれた自分の考えを適切に表現することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	心身に関する諸問題を検討するための科学的手法を身につけている。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1							
2							
3	実験・調査の実施		ディスカッション		学習課題については、毎回口頭および資料に基づき指示する。		
4							
5							
6	中間発表		プレゼンテーション				
7							
8							
9							
10	結果の整理、解析、考察、論文の執筆		ディスカッション		学習課題については、毎回口頭および資料に基づき指示する。		
11							
12							
13							
14							
15	卒論発表会		プレゼンテーション				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
受講者の発表(プレゼン)			◎		○	20	
卒業論文			◎		○	80	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	特になし。						
履修条件	演習を履修していること。						
学習相談・助言体制	質問は、オフィスアワーやメール等を利用する。					授業中の撮影	

授業科目名	教育と社会・地域		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	1年
担当教員	松浦賢長・原田直樹・梶原由紀子						
授業の概要	本講義では、教育に関する社会的事項に焦点を当て、教員として必要な基礎知識の理解を深める。また、学校と地域との連携や学校安全への対応についても実情を踏まえ、その具体的な取組についても学んでいく。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	教育に関する社会的事項や学校地域との連携について理解し述べることができる。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	学校安全に関する資料やデータに基づいて教育の役割や課題を考えることができる。					
	DP4:表現力	上記のDP2、DP3を適切な語彙で表現することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	社会背景と学校教育		講義・グループワーク		憲法・学校教育法・教育基本法について調べ、自分なりに要点を整理しておく。		
2	子供の生活の変化とその課題		講義・グループワーク		文部科学省のホームページを参照し、子供の生活の変化について調べておく。		
3	日本における教育政策の動向		講義・グループワーク		文部科学省のホームページにある、第3期教育振興基本計画(概要)を読んでおく。		
4	諸外国の教育事情		講義・グループワーク		OECD生徒の学習到達度調査を読み、海外と日本の比較についてまとめておく。		
5	学校・地域と連携①(連携の意義とその方法)		講義・グループワーク		「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」の概要を読み自分なりに要点を整理する。		
6	学校・地域と連携②(現状と取組事例)		講義・グループワーク		「チームとしての学校の在り方と今後の改善方策について(答申)」の概要を読み、課題についてまとめておく。		
7	学校安全への対応①(学校保健安全法と危機管理)		講義・グループワーク		学校保健安全法について調べ、自分なりに要点を整理しておく。		
8	学校安全への対応②(安全上の課題と取組事例)		講義・グループワーク		文部科学省のホームページにある、「第2次学校安全の推進に関する計画の概要」を読み、要点を整理しておく。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				100	
実務経験を生かした授業	現役の養護教諭を特別講師として招聘し、学校安全に関する事例等において安全上の課題とその取組事例について講義する。						
テキスト・参考文献等	参考資料:適宜紹介する。						
履修条件							
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に相談助言を行う。また、メールによる相談も受け付ける。					授業中の撮影	○

授業科目名	教育内容論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	看護2年
担当教員	樋口善之						
授業の概要	教育及び学校の歴史の変遷や法制度を含め、学習指導要領を基準とした各学校における教育課程とカリキュラム・マネジメントについて学ぶ。あわせて授業研究の方法、授業実践の在り方について解説する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	○学習指導要領を基準として各学校において編成される教育課程について、その意義や編成の方法を理解している。 ○各学校の実情に合わせてカリキュラム・マネジメントを行うことの意義を理解している。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	○資料やデータに基づいて教育の役割や課題を考えることができる。					
	DP4:表現力	○上記のDP2、DP3を適切な語彙で表現することができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義		適宜指示する		
2	制度としての学校の成立		講義		適宜指示する		
3	近代国家における公教育制度と教育課程		講義		適宜指示する		
4	教育実践とその理論①		講義		適宜指示する		
5	教育実践とその理論②		講義		適宜指示する		
6	中間まとめ		講義		適宜指示する		
7	日本における学校教育制度		講義		適宜指示する		
8	教育基本法と教育理念		講義		適宜指示する		
9	学制、義務教育制度、カリキュラム・マネジメント		講義		適宜指示する		
10	学習指導要領①		講義		適宜指示する		
11	学習指導要領②		講義		適宜指示する		
12	授業研究と教育実践①		講義		適宜指示する		
13	授業研究と教育実践②		講義		適宜指示する		
14	教育現場の問題と教育改革		講義		適宜指示する		
15	まとめ		講義		1～14回目までの配付資料		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
授業態度・授業への参加度		○	○			30	
受講者の発表(プレゼン)		○	◎			20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：特に指定しない。授業時に講義レジュメを配付する。						
履修条件	教職を希望する者。						
学習相談・助言体制	質問・相談は授業前後に受け付ける。また、メール(yhiguchi@fukuoka-edu.ac.jp)でも可。					授業中の撮影	

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	道徳教育		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期集中	講義	選択	2	看護2年 人社3年
担当教員	堀 正之						
授業の概要	<p>中学校教諭・養護教諭免許の取得にかかわる教職科目である。「教育課程及び指導法に関する科目」として「道徳の指導法」と「特別活動の指導法」の事項を含む。本授業科目では、道徳教育を支える基礎理論を学び、学校における道徳教育の目標と内容、生徒の道徳性を育成するための指導計画、道徳の時間の指導方法について理解を深めるとともに、特別活動の今日的な意義、目標、内容と指導例について解説する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	道徳教育に関する歴史的、社会的、心理学的アプローチを理解し、その基本的な考え方や概念について説明することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	学校における道徳および特別活動の目標・内容論、計画論、授業論、実践指導論を理解し、指導案の作成に生かすことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事前・事後学習(学習課題)		
1	今日における道徳教育、特別活動の課題		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
2	道徳の本質と道徳教育		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
3	日本における道徳教育の歴史		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
4	子どもの発達と道徳教育Ⅰ－社会化論－		テキストを使用して解説する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
5	子どもの発達と道徳教育Ⅱ－道徳性発達理論－		テキスト、プリント、ビデオを使用する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
6	学校における道徳教育Ⅰ－道徳教育の目標－		テキスト、学習指導要領解説を使用する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
7	学校における道徳教育Ⅱ－道徳教育の内容－		テキスト、学習指導要領解説を使用する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
8	道徳の時間の指導とその実際－道徳の時間の指導過程と指導方法－		テキスト、ビデオを使用して解説する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
9	指導案の作成Ⅰ－資料の提示、資料分析－		プリントを使用して解説する。		テキストの該当箇所を読んでおく。		
10	特別活動の目標・内容		学習指導要領解説を使用して解説する。		学習指導要領解説の該当箇所を読んでおく。		
11	特別活動の実践事例Ⅰ－学級活動－		プリントを使用して解説する。		配付プリントの該当箇所を読んでおく。		
12	特別活動の実践事例Ⅱ－生徒会活動、学校行事－		プリントを使用して解説する。		配付プリントの該当箇所を読んでおく。		
13	体験的活動の意義－総合的な学習の時間等との関連－		プリントを使用して解説する。		配付プリントの該当箇所を読んでおく。		
14	指導案の作成Ⅱ－指導案の作成作業－		指導案中の用語、表現について解説する。		指導過程を構想し概略を記述してくる。		
15	指導案の作成Ⅲ－完成と提出－		個別指導を行う。		補助資料等があれば、あわせて提出する。		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
授業内レポート・指導案作成		○			◎	40	
宿題・授業外レポート		◎			○	40	
授業態度・授業への参加度		○			○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>テキスト：上地完治編『道徳教育』（アクティベート教育学9）、ミネルヴァ書房、2019年（刊行予定）</p> <p>テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説－特別の教科 道徳編－』教育出版、20018年、156円</p> <p>テキスト：文部科学省『中学校学習指導要領解説－特別活動編－』東山書房、2018年、256円</p>						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	集中講義のため、質問等は講義期間中、授業の前後に受け付けます。					授業中の撮影	

授業科目名	教育方法論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員		後期	講義	選択	2	人社3年 看護2年
授業の概要	教育とは何か、教師とは何か。根本的な問いに取り組みつつ、教えること、学ぶことに関する方法を議論する。現在のわが国の学校における授業方法について具体例とそれぞれの経験をもとに検討する。教材の活用方法についても検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP1:教養・健康に関する知識	講義で取り上げる教育方法に関する基本事項について理解し述べることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	教育とは何か、カリキュラムとは何か	講義、グループディスカッション	「教育」「カリキュラム」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
2	教師と教員の違いはどこにある	講義、グループディスカッション	「教師」「教員」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
3	教えることと学ぶこと	講義、グループディスカッション	「教える」「学ぶ」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
4	アクティブラーニング	講義、グループディスカッション	「アクティブラーニング」について調べ、自分なりにまとめておく。				
5	少人数単位の授業方法	講義、グループディスカッション	「少人数単位の授業」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
6	ICT活用	講義、演習	「ICT」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。 (事後)講義終了後に提出課題を提示する。				
7	教材研究とは何か	講義、グループディスカッション	「教材研究」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
8	教育方法実践見学(伊田小学校)	学外演習、ディスカッション	事前課題(見学の観点)を提示する。				
9	個別教育計画	講義、グループディスカッション	「個別教育計画」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
10	子どもの発達段階に合わせた授業	講義、グループディスカッション	文部科学省「子どもの発達段階ごとの特徴と重視すべき課題」をよみ要点をまとめておく。				
11	学習意欲を引き出す工夫	講義、グループディスカッション	「学習意欲」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
12	授業が成り立たない要因と対処	講義、グループディスカッション	文部科学省「児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸問題に関する調査」結果について参照し、要点をまとめておく。				
13	わかるとは何か	講義、グループディスカッション	「評価」のキーワードについて調べ、自分なりにまとめておく。				
14	反転授業「教師との対話による授業」	講義、グループワーク	事前にビデオ視聴しておき、ポイントを反転授業のポイントをまとめておく。				
15	まとめ	講義、グループディスカッション	今までの講義内容を振り返り、質問や疑問を整理しておく。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎				100	
実務経験を生かした授業	国語の小学校教諭として授業の研究に取り組み、また指導主事として現場の教員に対して指導的立場で関わられた経験のある現役の教員を特別講師として招聘し、学生に教育方法の指導において具体的かつ的確な視点を解説していただく。 長年小学校教諭として知的能力を生かしてスポーツ活動に取り組むことができる児童の育成をし、指導内容の定着をはかるための評価活動の工夫の研究を行ってきた教員を特別講師として招聘し、学生に対して教材研究とは何かということを実践的な視点で解説していただく。						
テキスト・参考文献等	参考文献:授業の中で適宜紹介する						
履修条件	教員養成課程・コースにあるものが望ましい。						
学習相談・助言体制	各担当教員のオフィスアワー時に受け付ける。また、メールによる相談も受け付ける。					授業中の撮影	○

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	生徒指導論（人間社会学部）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	4年
担当教員	大津修郎						
授業の概要	生徒指導の意義や役割について理解するとともに、グループ討議等により、専門性を生かした生徒指導の対策解決が図れる内容とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	生徒指導の関わりについて理解し、知識を活用することができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	生徒指導の中で指導方法や場面を学び、実践することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習（学習課題）		
1	オリエンテーション（目的、概要等） 生徒指導を学ぶ前に		講義		自分の性格、長所、短所		
2	教育について（学校教育・社会教育・家庭教育）		講義		各教育の役割		
3	教師の役割、教育の役割		講義		教師を目指すのは？		
4	生徒指導とは（意義と役割）		講義		生活指導で大切なこと		
5	生徒指導の歴史 ・ 中、高校の生徒指導の現状		講義		在籍した学校の生徒指導		
6	問題行動 ① いじめ、自殺、不登校等		講義		問題行動 ー 体験		
7	問題行動 ② 校内・家庭内暴力、非行、薬物乱用		講義		問題行動 ー 対応		
8	問題行動 ③ 遅刻、私語、居眠り、非行		講義		言葉のかけ方		
9	体罰と懲戒		講義		体罰による影響		
10	特別活動		講義		特別活動の内容		
11	道徳教育		講義		道徳教育の必要性		
12	学級活動 ー 中、高校の進路指導		講義		就職、進学		
13	教師の校内任務と役割		講義		仕事内容の把握		
14	いのちの教育		講義		生と死		
15	まとめ		講義		概要のまとめ		
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				50	
宿題・授業外レポート		○				20	
授業態度・授業への参加度					◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	生徒指導概要（文部科学省）						
履修条件	大学の規定による						
学習相談・助言体制	授業の前後に実施					授業中の撮影	

授業科目名	生徒指導論（看護学部）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	大津修郎		後期	講義	選択	2	4年
授業の概要	生徒指導の意義や役割について理解するとともに、グループ討議等により、専門性を生かした生徒指導の対策、解決が図れる内容とする。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	生徒指導と養護教諭の関わりについて理解し、知識を活用することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	生徒指導の中で指導方法や場面を学び、実践することができる。					
授業計画（授業内容／方法／事前・事後学習等）							
回	授業内容			授業方法		事前・事後学習（学習課題）	
1	オリエンテーション（目的、概要等） 生徒指導を学ぶ前に			講義		自分の性格、長所、短所	
2	教育について（学校教育、社会教育、家庭教育）			講義		各教育の役割	
3	教師の役割、教育の役割			講義		養護を目指したのは？	
4	生徒指導とは（意義と役割）			講義		生活指導で大切なこと	
5	生徒指導の歴史 ・ 小、中、高校の生徒指導の現状			講義		在籍した学校の生徒指導	
6	問題行動 ① いじめ、自殺、不登校等			講義		問題行動 一 体験	
7	問題行動 ② 校内・家庭内暴力、非行、薬物乱用			講義		問題行動 一 対応	
8	問題行動 ③ 遅刻、私語、居眠り、非行			講義		言葉のかけ方	
9	体罰と懲罰			講義		体罰による影響	
10	特別活動			講義		特別活動の内容	
11	道徳教育			講義		道徳教育の必要性	
12	カウンセリング			講義		小、中、高校の現状把握	
13	教育相談（悩み、トラブル、学習等）			講義		相談室の活用方法	
14	生活習慣（家庭、食、安全）			講義		自分の食生活	
15	まとめ			講義		概要のまとめ	
成績評価方法および成績評価基準（到達目標との関連：◎強く関連 ○関連）							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合（%）	
小テスト・授業内レポート		◎				50	
宿題・授業外レポート		○				20	
授業態度・授業への参加度					◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	生徒指導提要（文部科学省）						
履修条件	大学の規定による						
学習相談・助言体制	授業の前後に実施					授業中の撮影	

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	教師論 (人間社会学部)		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	1年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	<p>教職の意義を理解し、授業づくりや生徒指導など学校教育において教員に求められる資質と能力を修得する。教職への意欲を高め、自己の特性と適性を判断する。本講義では、教師のあり方を実践的、反省的に学ぶ。くわえて現在の教師が置かれている社会的な環境について、事例に即して学ぶ。教師の職務について、身近な内容に即して考察することで、教師の卵としての自覚と素養、使命感を身につける。くわえて授業技術の向上をめざし、人前で話す体験を重ねる。本講義は、教職課程の導入的な講義の一環であり、受講者には主体的な参画がたつよく求められる。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	教師にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。					
関心・意欲・態度	DP6:社会貢献力	教師としての使命感を身につける。					
技能	DP7:コミュニケーション力	授業展開の力を身につける。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション(教師とは、社会的意義)	講義			シラバスの精読		
2	教員養成制度	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
3	採用制度(採用試験の仕組み)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
4	研修制度(免許更新制度、職能成長)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
5	服務義務、身分上の保障	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
6	学校組織(職位と校務分掌)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
7	学校組織(チーム学校)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
8	教師としての役割と資質能力(生徒指導、不登校、いじめ)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
9	教師としての役割と資質能力(話し方、対人関係のつくりかた)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
10	教師としての役割と資質能力(道徳教育、総合的な学習の時間)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
11	教師としての役割と資質能力(専門職との連携)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
12	教師としての役割と資質能力(地域社会との連携)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
13	教師の技法(授業における導入の方法)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
14	教師の技法(授業における展開の事例)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
15	教師の技法(主体的で対話的な深い学び)	講義とグループワーク			レポートなどの準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
		○	◎			30	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		○	◎			20	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)		○			○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	文部科学省『魅力ある教員を求めて』、学習指導要領(2017年度改訂)古川治・今西幸蔵『教師のための教育法規・教育行政入門』ミネルヴァ書房						
履修条件	中・社・高・公は必修。必要条件は「教育学概論B」の単位を修得済みであること。教員免許状取得への意志と計画性をもつこと。受講生の状況に応じて進行、および内容に変更をくわえる場合がある。						
学習相談・助言体制	メールで受付ののち、対応。					授業中の撮影	

授業科目名	教育課程論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	山田 明						
授業の概要	教育課程を理解するうえで必要な概念、例えば、学習指導要領、教育評価、授業研究、カリキュラム・マネジメント等を整理しつつ、新学習指導要領の理念や学力問題などの今日的な課題を踏まえ、学生のプレゼンテーションや討論も活用しながら生きた授業を展開する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	学生が教育課程の内容や実践的活用に関する専門的な知識やスキルを修得することができる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	学生が教育課程を適切に構成するスキルを修得できる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)				
1	オリエンテーション～学校教育における教育課程の意義～	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「教育課程とは何か」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
2	教育課程とカリキュラム	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「カリキュラムとは何か」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
3	教育課程の編成方法(概論)	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「教育課程の編成」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
4	学習指導要領の変遷と教育課程の編成	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「学習指導要領の変遷」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
5	学力調査(国内外)と教育課程の編成	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「学力調査(国内外)の事例」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
6	学力論の変遷と教育課程の編成	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「学力論の変遷」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
7	授業研究と教育課程の編成	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「授業研究とは何か」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
8	地域の実態を踏まえた教育課程の編成の在り方	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「地域の実態と教育課程」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
9	学校の特色づくりと教育課程編成の在り方	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「学校の特色づくりと教育課程」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
10	総合的な学習の時間と教育課程の編成の在り方	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「総合的な学習の時間とは何か」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
11	教材開発と教育課程の編成の原理	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「教材開発と教育課程」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
12	教育評価とカリキュラム評価	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「教育評価、カリキュラム評価」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
13	授業実践(授業研究を含む)を支えるカリキュラム・マネジメント	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「カリキュラム・マネジメント」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
14	諸外国のカリキュラム	講義、授業課題プリント(配布)を基にした意見交換及び討論	「諸外国のカリキュラム」について調べ、講義後にノートに整理し、深める。				
15	総括	講義、総括討議、レポート課題の説明	本講義についてノート等を活用して振り返り(事前)、まとめの講義、総括討議を基に深める(事後)。				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		◎	○	○		20	
宿題・授業外レポート(期末レポート)		○	◎		◎	50	
授業態度・授業への参加度				◎	○	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	参考書： 中学校学習指導要領(平成29年3月告示、文部科学省)、高等学校学習指導要領(平成30年3月告示、文部科学省) 鈴木敏正、降旗信一(編著)『教育の課程と方法～持続的で包括的な未来のために』学文社、2017年。 田中耕治編『よくわかる教育課程』ミネルヴァ書房、2009。						
履修条件	特になし						
学習相談・助言体制	授業の前後に質問に応じる。またメール(勤務先の九州共立大学研究室宛)でも受け付け、回答する。					授業中の撮影	

授業科目名	社会科教育法Ⅰ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	久保山 力也						
授業の概要	学習指導要領に沿いながら、社会科教育の全体像を把握する。具体的な授業を構成するための内容ならびに方法論について学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	社会科教育のあゆみならびに地理・歴史・公民的分野それぞれにおいて必要となる背景事情を学ぶことで、単独で授業を実施できるようになる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	教科内容にあわせた授業方法やアイデアを学ぶことで、豊かな授業づくりが構成できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	社会科教育の全体像の理解：地理・歴史・公民的分野の目標		講義				
2	社会科教育の歴史的あゆみ		講義				
3	社会科教育の手法		講義				
4	地理的分野の内容と方法① 世界と日本の地域構成		講義				
5	地理的分野の内容と方法② 世界の様々な地域		講義				
6	地理的分野の内容と方法③ 日本の地域的特色と地域区分		講義				
7	歴史的分野の内容と方法① 歴史との対話		講義				
8	歴史的分野の内容と方法② 近世までの日本とアジア		講義				
9	歴史的分野の内容と方法③ 近現代の日本と世界① 効果的な発問を活かした指導案作成		講義				
10	歴史的分野の内容と方法④ 近現代の日本と世界② 映像資料と効果的な発問を活かした指導案作成		講義				
11	歴史的分野の内容と方法⑤ 近現代の日本と世界③ 扱いにくい内容と討論型の授業モデルを考える		講義				
12	公民的分野の内容と方法① 私たちと現代社会		講義				
13	公民的分野の内容と方法② 私たちと政治・経済		講義				
14	公民的分野の内容と方法③ 私たちと国際社会の諸課題		講義				
15	社会調査取り入れた授業の方法と実践		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法		到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)
定期試験			◎			◎	100
実務経験を生かした授業	社会科教育の現場にそくした課題について、最新の情報・状況とともに、実務経験豊富な講師が担当する。なお、毎回の講義では、積極的な参加を心がけること。						
テキスト・参考文献等	テキスト：毎回の講義においてレジュメ等を配布する。 参考文献等：中学校学習指導要領（平成29年3月） 中学校学習指導要領解説（平成29年6月）						
履修条件							
学習相談・助言体制						授業中の撮影	

授業科目名	社会科教育法Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	久保山 力 也						
授業の概要	模擬授業の作成にあたり、グループワークやケーススタディに取り組む。アクティブラーニングなど方法論を用いつつ、模擬授業を実践する。あわせて、社会科教育の実践に必要な教科用図書や評価、指導者の資質についても学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	授業内容に関する知識はもちろんのこと、背景事情や周辺知識を積極的に獲得し教材へそれらを反映することができるようになる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	中学校社会科の授業実践力を身につける。地理・歴史・公民の各領域において模擬授業を行うことで指導技術の向上をはかることができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	中学校社会科における授業の構成・指導上の工夫・方法論の検討		講義				
2	教科用図書と社会科教育の評価、模擬授業のグループ分けと内容の選定、指導案の作成		講義				
3	模擬授業① 地理的分野Ⅰ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
4	模擬授業② 地理的分野Ⅱ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
5	模擬授業③ 地理的分野Ⅲ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
6	模擬授業④ 地理的分野Ⅳ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
7	模擬授業⑤ 歴史的分野Ⅰ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
8	模擬授業⑥ 歴史的分野Ⅱ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
9	模擬授業⑦ 歴史的分野Ⅲ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
10	模擬授業⑧ 歴史的分野Ⅳ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
11	模擬授業⑨ 公民的分野Ⅰ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
12	模擬授業⑩ 公民的分野Ⅱ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
13	模擬授業⑪ 公民的分野Ⅲ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
14	模擬授業⑫ 公民的分野Ⅳ：担当グループによる模擬授業		模擬授業(実践参加)				
15	模擬授業からの示唆、授業改善、指導者の資質の検討		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎			◎	50	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎	◎	◎	50	
実務経験を生かした授業	社会科教育の現場にそくした課題について、模擬授業を通じて理解を深める。実務経験豊富な講師がテーマの選定、教材の取り扱い、授業の方法等につき指南する。毎回の講義では、積極的な参加を心がけること。また、実践者のフィードバックのため、模擬授業の撮影を行う。						
テキスト・参考文献等	テキスト：毎回の講義においてレジュメ等を配布する。 参考文献等：中学校学習指導要領(平成29年3月) 中学校学習指導要領解説(平成29年6月)						
履修条件							
学習相談・助言体制						授業中の撮影	○

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	公民教育法 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	3年
担当教員	久保山 力 也						
授業の概要	学習指導要領に沿いながら、高等学校公民科教育の全体像を把握する。具体的な授業を構成するための内容ならびに方法論について学ぶ。特に、新教科公共に着目して、その理念と教育方法について考究し、実践力の向上をはかる。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	公共、倫理、政治・経済分野それぞれにおいて必要となる背景事情を学ぶことで、単独で授業を実施できるようになる。					
思考・判断 ・表現	DP3: 論理的思考・判断力	授業づくりのための工夫を学ぶことで、ゆたかな授業を構成できるようになる。					
	DP4: 表現力	授業課題にそくした内容とスキルを教材に反映させることができるようになる。					
関心・意欲 ・態度	DP5: 挑戦力	先進的な取り組みや ITなどを積極的に取り入れた授業が展開できるようになる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	現実の社会問題を取捨選択し、そのエッセンスを適切に教授できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法			事 前・事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	公民科教育の全体像の理解	講義					
2	公民科教育の歴史的あゆみ	講義					
3	公民科教育の手法	講義					
4	公共の目標と内容① 公共の扉	講義					
5	公共の目標と内容② 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち I	講義					
6	公共の目標と内容③ 自立した主体としてよりよい社会の形成に参画する私たち II	講義					
7	公共の目標と内容④ 持続可能な社会づくりの主体となる私たち I	講義					
8	公共の目標と内容⑤ 持続可能な社会づくりの主体となる私たち II	講義					
9	公共の目標と内容⑥ 持続可能な社会づくりの主体となる私たち III	講義					
10	公共の目標と内容⑦ 持続可能な社会づくりの主体となる私たち IV	講義					
11	政治・経済の目標と内容① 主権者教育の内容と方法の検討	講義					
12	政治・経済の目標と内容② 経済・金融教育の内容と方法の検討	講義					
13	政治・経済の目標と内容③ グローバル化する国際社会の諸課題	講義					
14	倫理の目標と内容①	講義					
15	公民科教育の課題：社会調査、プレゼンテーション、消費者教育	講義					
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連：◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎	◎	◎	100	
実務経験を生かした授業	公民科教育の現場にそくした課題について、最新の情報・状況とともに、実務経験豊富な講師が担当する。なお、毎回の講義では、積極的な参加を心がけること。						
テキスト・参考文献等	テキスト：毎回の講義においてレジュメ等を配布する。 参考文献等：中学校学習指導要領（平成 29 年 3 月） 中学校学習指導要領解説（平成 29 年 6 月） 高等学校学習指導要領解説公民編（平成 30 年 7 月）						
履 修 条 件							
学習相談・助言体制						授業中の撮影	○

授業科目名	公民教育法Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	2	3年
担当教員	久保山 力 也						
授業の概要	模擬授業の作成にあたり、グループワークやケーススタディに取り組む。アクティブラーニングなど方法論を用いつつ、模擬授業を実践する。あわせて、公民科教育の実践に必要な教科用図書や評価、指導者の資質についても学ぶ。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	公共、倫理、政治・経済の各分野において、授業を成立させることのできる知識を身につける。					
思考・判断 ・表現	DP3:論理的思考・判断力	授業計画にそって、教材を活用しながら教科内容についての確に伝えることができる。					
	DP4:表現力	教育者としての心構えをもち、堂々とした授業を行うことができる。					
関心・意欲 ・態度	DP5:挑戦力	アクティブラーニングなど先端的な教育方法を用いた授業を展開することができる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	公民科教育の授業実践力を身につける。模擬授業を行うことで指導技術の向上をはかる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容		授 業 方 法		事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)		
1	公民科における授業の構成・指導上の工夫・方法論の検討		講義				
2	教科用図書と公民科教育の評価、模擬授業のグループ分けと内容の選定、指導案の作成		講義				
3	模擬授業① 公共Ⅰ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
4	模擬授業② 公共Ⅱ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
5	模擬授業③ 公共Ⅲ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
6	模擬授業④ 公共Ⅳ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
7	模擬授業⑤ 公共Ⅴ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
8	模擬授業⑥ 公共Ⅵ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
9	模擬授業⑦ 倫理Ⅰ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
10	模擬授業⑧ 倫理Ⅱ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
11	模擬授業⑨ 政治・経済Ⅰ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
12	模擬授業⑩ 政治・経済Ⅱ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
13	模擬授業⑪ 政治・経済Ⅲ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
14	模擬授業⑫ 政治・経済Ⅳ：担当グループによる模擬授業		模擬授業（実践参加）				
15	模擬授業からの示唆、授業改善、指導者の資質の検討		講義				
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎			◎	50	
受講者の発表(プレゼン)		◎	◎	◎	◎	50	
実務経験を生かした授業	公民科教育の現場にそくした課題について、模擬授業を通じて理解を深める。実務経験豊富な講師がテーマの選定、教材の取り扱い、授業の方法等につき指南する。毎回の講義では、積極的な参加を心がけること。また、実践者のフィードバックのため、模擬授業の撮影を行う。						
テキスト・参考文献等	テキスト：毎回の講義においてレジュメ等を配布する。 参考文献等：中学校学習指導要領（平成29年3月） 中学校学習指導要領解説（平成29年6月）高等学校学習指導要領解説公民編（平成30年7月）						
履修条件							
学習相談・助言体制						授業中の撮影	○

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	教育心理学概論		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択必修	2	2年
担当教員	福田 恭介						
授業の概要	<p>教育現場においては、子どもと教師だけでなく、親も関わりながら学校を動かしている。そこでは、発達、学習、算数・文章理解、動機づけをどのように支援していくか、知能・学力の評価、子ども社会、発達障害児への対応、不登校への対応などの問題について考えていく必要がある。教育心理学とは、教育現場で起こるさまざまな問題について心理学的知見に基づいて考えていく学問である。このような問題について考えることは、人間の多面的な理解につながり、将来の実践的な仕事に就いたときも役立つ資質となる。この授業では、教育と心理との関係について体験的に理解を深めることを目指す。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	図表や用語を説明できる。					
思考・判断・表現	DP3: 論理的思考・判断力	指定された論文の内容を要約し、コメントを記述できる。					
関心・意欲・態度	DP5: 挑戦力	授業内容について、質問やコメントを記述できる。					
	DP6: 社会貢献力	授業内容と自らの教育経験を結びつけ、課題を導き出すことができる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事 前 ・ 事 後 学 習 (学 習 課 題)				
1	心理学における教育心理学の位置づけの紹介	スクリーンに授業内容を投影して授業を行う。その内容は、eラーニングに保存している。前もって、それらの資料を印刷しておくこと。	<p>授業に関連する指定された文献の指定された章を読んで、所定の書式のレポートに要約し、最後に200～300字程度のコメントを書く。</p> <p>レポート</p> <ol style="list-style-type: none"> 文献①について要約 文献②1章 25-44 を2頁以内に要約 文献③「2. ペアレントトレーニングの実践」17-63 を2頁以内に要約 文献④を2頁以内に要約 不登校について2頁以内に要約 <p>詳しくは、授業中に紹介</p>				
2	「21世紀の教育心理学が目ざすもの(森敏明)」の紹介						
3	ピアジェの「認知発達理論」						
4							
5	発達障害(ASD: Autism Spectrum Disorder, AD/HD: Attention Deficit Hyperactivity Disorder, LD: Learning Disorder)についての紹介。						
6							
7	発達障害児のためのペアレントトレーニングから教師のトレーニングへ						
8							
9	子どもの数量理解						
10							
11	学習のしくみ						
12							
13	子どもの動機づけ						
14	知的能力と学力						
15	不登校						
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
定期試験		◎	◎			50	
小テスト・授業内レポート				◎		10	
宿題・授業外レポート			◎			30	
授業態度・授業への参加度				◎		10	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	<p>①森敏昭(著)「21世紀の教育心理学が目ざすもの」有斐閣(書齋の窓) eラーニングに保存</p> <p>②R・キャンベル(編)「認知障害者の心の風景」福村出版</p> <p>③福田恭介(編)「ペアレントトレーニング実践ガイドブック」あいり出版</p> <p>④市川伸一(著)「学ぶ意欲の心理学」PHP新書</p> <p>⑤大村彰道(編)「教育心理学Ⅰー発達と学習指導の心理学」東京大学出版会(参考文献)</p>						
履修条件	人間形成学科の学生にとっては、この科目と幼児教育心理学のいずれかが必修 教職(中学社会、高校公民)を目指す学生にとっては、この科目と発達心理学Ⅰ-Aのいずれかが必修						
学習相談・助言体制	授業中のコメント・質問は、スマートフォンを利用してeラーニングに入力する。 スマートフォンを利用できない場合は、紙に書いて提出する。 その他の質問に対しては、時間が空いていれば受け付ける。					授業中の撮影	○

授業科目名	中学校教育実習事前事後指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	藤澤健一		後期 前期	演習	選択	1	3～4年
授業の概要	<p>教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。教育実習を実施するための総合的な支援を目的とする。教育実習の意義と内容などについて実践的に修得する。模擬授業やプレゼンテーションを取り入れることで、教育実習に向けた準備を行う。くわえて、教育実習全体の振り返りを通じて、そこで得られた知識と技能、課題を共有化するための事後的支援を行う。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	学校教育実践にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	授業づくりに必要なコミュニケーション力を実践できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義		シラバスの精読		
2	教育実習への抱負(授業づくり)		演習		レジュメなどの準備		
3～ 11	教育実習への抱負(授業づくり 教科指導、総合的学習、NIE、特別活動、生徒指導)		演習		レジュメなどの準備		
12～ 15	実習校の調査研究(生徒、学校経営、校務分掌、特色ある教育活動)		演習		レジュメなどの準備		
16～ 22	教育実習の成果と反省		演習		レジュメなどの準備		
23～ 29	教育実習報告会の準備		演習		レジュメなどの準備		
30	教育実習報告会		発表		報告準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)		○			○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	高見茂『教育実習教職実践演習フィールドワーク』協同出版						
履修条件	「教育学概論B」など教職課程の主要な必修科目を履修済みであること(別途、委細)。受講生の状況に応じて進行、および内容に変更をくわえる場合がある。						
学習相談・助言体制	メールで受付ののち、対応。					授業中の撮影	

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	中学校教育実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	藤澤健一		前期	実習	選択	4	4年
授業の概要	<p>教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。教育の実際を教師として体験することにより、学校教育に関する理解を実践的に深める。教職課程において修得した知識と技能を総合的に実践する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	学校教育における実践知を理解できるようになる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	教員として必要な総合的スキルを実践できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	原則として3週間、各教育実習校で実施。		実習			実習校で実施されるオリエンテーションへの出席。	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習		◎				60	
その他				○	◎	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『教育実習手帳』を配布する。藤村裕一『授業改善のための学習指導案』ジャムハウス						
履修条件							
学習相談・助言体制	メールで受付ののち、対応。					授業中の撮影	

授業科目名	高校教育実習事前事後指導		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	藤澤 健一		後期 前期	演習	選択	1	3～4年
授業の概要	<p>教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。教育実習を実施するための総合的な支援を目的とする。教育実習の意義と内容などについて実践的に修得する。模擬授業やプレゼンテーションを取り入れることで、教育実習に向けた準備を行う。くわえて、教育実習全体の振り返りを通じて、そこで得られた知識と技能、課題を共有化するための事後的支援を行う。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	学校教育実践にかかわる基礎的知識が理解できるようになる。					
技能	DP7:コミュニケーション力	授業づくりに必要なコミュニケーション力を実践できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法			事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション	講義			シラバスの精読		
2	教育実習への抱負(授業づくり)	演習			レジュメなどの準備		
3～ 11	教育実習への抱負(授業づくり 教科指導、総合的学習、NIE、特別活動、生徒指導)	演習			レジュメなどの準備		
12～ 15	実習校の調査研究(生徒、学校経営、校務分掌、特色ある教育活動)	演習			レジュメなどの準備		
16～ 22	教育実習の成果と反省	演習			レジュメなどの準備		
23～ 29	教育実習報告会の準備	演習			レジュメなどの準備		
30	教育実習報告会	発表			報告準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート		○	◎			30	
宿題・授業外レポート		○	◎			30	
授業態度・授業への参加度				○		20	
受講者の発表(プレゼン)		○			○	20	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	高見茂『教育実習教職実践演習フィールドワーク』協同出版						
履修条件	「教育学概論B」など教職課程の主要な必修科目を履修済みであること(別途、委細)。受講生の状況に応じて進行、および内容に変更をくわえる場合がある。						
学習相談・助言体制	メールで受付のうえ、来談。					授業中 の撮影	

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	教職実践演習（中高）		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	2	4年
担当教員	藤澤健一						
授業の概要	本演習では、これまでの教職課程、ならびに教育実習の体験を踏まえつつ、教員として求められる資質を実践的に検討する。教職課程の総仕上げとして位置づけられる。具体的には、教育実習の反省、振り返りにくわえ、現在の学校教育、教職員にかかわる問題について、理論的、実践的に検討する。						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2:専門・隣接領域の知識	学校教育、教職員にかかわる知識と現状が理解できるようになる。					
技能	DP10:専門分野のスキル	教員としての総合的なスキルを実践できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		講義		シラバスの精読		
2~6	生徒指導場面での戸惑い、発見などを中心に教育実習での体験を実践的に振り返る		講義と討議、ロールプレイ		報告の準備		
7~15	学校教育のかかえる問題（いじめ、不登校、校内暴力など）をテーマとして、国や都道府県レベル、市町村教育委員会、学校レベル、さらに学級レベルでの取り組みを総合的、実践的に考察する。		講義と討議		報告の準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
小テスト・授業内レポート			◎			30	
宿題・授業外レポート			◎			30	
授業態度・授業への参加度				○		10	
受講者の発表(プレゼン)					◎	30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	国立教育政策研究所『生徒指導上の諸問題の推移とこれからの生徒指導』ぎょうせい、中井久夫『いじめの政治学』みすず書房、末富芳編『子どもの貧困対策と教育支援』明石書店						
履修条件	教育実習をはじめ、必要な教職課程科目を既修得であること。受講生の状況に応じて進行、および内容に変更をくわえる場合がある。						
学習相談・助言体制	メールで受付ののち、対応。					授業中の撮影	

授業科目名	高校教育実習		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	藤澤健一		前期	実習	選択	2	4年
授業の概要	<p>教育者としての使命感と技法を身につける。教員になるうえでの能力および適性、遵守すべき義務を実践的に修得する。学校教育の実際を教師として体験することにより、中学校教育に関する理解を実践的に深める。教職課程において修得した知識と技能を総合的に実践する。</p>						
学生の到達目標							
知識・理解	DP2: 専門・隣接領域の知識	学校教育における実践知を理解できるようになる。					
技能	DP10: 専門分野のスキル	教員として必要な総合的スキルを実践できるようになる。					
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法			事前・事後学習(学習課題)	
1	原則として2週間、各教育実習校で実施。		実習			実習校で実施されるオリエンテーションへの出席。	
2							
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
演習		◎				60	
その他				○	◎	40	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	『教育実習手帳』を配布する。藤村裕一『授業改善のための学習指導案』ジャムハウス						
履修条件							
学習相談・助言体制	メールで受付ののち、対応。					授業中の撮影	

教職独自の
専門教育科目

授業科目名	日本語中級A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業では中級レベルの基礎を固めるための文型や表現を習得します。また、400字～600字程度の文章を読むことで「読む力」をつけます。各課のトピックについてディスカッションし、意見を短い作文にする練習を通して「アウトプット能力」を養います。						
学生の到達目標							
1. 基本的な中級文法や表現を習得して、会話やレポートで使えるようになる。 2. 日本語能力試験 N2 合格を目指す。 3. 日常生活に必要な中級漢字を習得する。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1～30	中級文法 1 おぼえずにはいられない 2 やればやるほどおぼえられる 3 おぼえないわけにはいかない 4 おぼえざるをえない 5 おぼえてみようではないか 文法テスト 中級読解 1課～4課		文型説明 練習問題		予習 復習		
31～45	中級漢字 1課～15課 漢字テスト		漢字説明 漢字練習 語彙説明 語彙練習		予習 復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
テスト・宿題						60	
授業の態度・出席						40	
補足事項	授業の3分の2以上は出席すること。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 文法』アスク出版 2010 安藤栄里子『耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニング N2』アルク 2011 参考文献：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 読解』アスク出版 2010 水谷信子『わかる！話せる！日本語会話 基本文型 88』Jリサーチ出版 2014						
履修条件	留学生（日本語上級Aを履修する学生は履修不可）						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。					授業中の撮影	

授業科目名	日本語中級B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	伊藤晴美		後期	演習	選択	3	留学生
授業の概要	この授業では中級レベルのやや難しい文型や表現を習得します。また、1000字～1200字程度の文章を読むことで「読む力」をさらに伸ばします。トピックに関する要約文や意見文の練習や発表も併せて行い、「アウトプット能力」を養います。						
学生の到達目標							
1. やや難しい中級分法や表現を習得して、体系的に使えるようになる。 2. 日本語能力試験 N2 合格を目指す。 3. 様々な分野の知識背景を増やしつつ、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を高める。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1～30	文法 6 やるからにはおぼえよう 7 がんばればおぼえられるというものだ 8 むずかしい。それでもおぼえよう 実践問題 文法テスト 中級読解 5課～8課		文型説明 練習問題 復習		予習 復習		
31～45	中級漢字 16課～30課 漢字テスト		漢字説明 漢字練習 語彙説明 語彙練習		予習 復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
テスト・宿題						60	
授業の態度・出席						40	
補足事項	授業の3分の2以上は出席すること。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 文法』アスク出版 2010 安藤栄里子『耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニング N2』アルク 2011 参考文献：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N2 読解』アスク出版 2010 水谷信子『わかる！話せる！日本語会話 基本文型 88』Jリサーチ出版 2014						
履修条件	留学生（日本語上級Bを履修する学生は履修不可）						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。					授業中の撮影	

授業科目名	日本語上級 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業では上級レベルの日本語を適切に産出するための日本語文法、中日翻訳のスキル、上級語彙を学習します。						
学生の到達目標							
上級文法：場面や人間関係を判断し、話し手の気持ちや判断を表すモダリティ・終助詞が使い分けられるようになる。 日本語能力試験N1レベルの上級文法を習得する。 上級語彙：高度な語彙を理解し、使えるようになる。 中日翻訳：実践翻訳スキルを学ぶ。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1~15	上級文法 1 「モダリティ」 (断定を避ける/否定/様子を述べる/意思/義務・必要/可能・不可能) 2 「終助詞」 (一般的な終助詞の意味と機能/周辺の終助詞の意味と機能) 3 N1文法 文法テスト		文型説明 練習問題 復習		予習 復習		
16~30	中日翻訳 1 補って訳す 2 日本語表現 3 訳す順序 翻訳実践練習 (新聞・雑誌・文芸作品 他)		翻訳のポイント解説 練習問題 実践練習		予習 復習		
31~45	上級語彙 1 語彙練習 2 小テスト		説明 練習		予習 復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
テスト・宿題						60	
授業の態度・出席						40	
補足事項	授業の3分の2以上は出席すること。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：三枝令子、中西久実子『日本語文法演習 話し手の気持ちを表す表現 -モダリティ・終助詞-』スリーエーネットワーク 2003 高田裕子、毛燕『日中・中日翻訳トレーニングブック』大修館書店 2009 安藤栄里子『耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニング N1』アルク 2012 参考文献：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N1 文法』アスク出版 2010 福田尚弘『10才までに覚えておきたいちょっと難しい1000のことば』アーバン 2006						
履修条件	留学生（日本語中級Aを履修する学生は履修不可）						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。					授業中の撮影	

授業科目名	日本語上級B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業では上級レベルの日本語を適切に産出するための日本語文法、中日翻訳のスキル、上級語彙を学習します。						
学生の到達目標							
上級分法：テンス・アスペクトについてルールを発見しながら、日本語の微妙な使い分けができるようになる。 日本語能力試験N1レベルの上級文法を習得する。 上級語彙：高度な語彙を理解し、使えるようになる。 中日翻訳：実践翻訳スキルを学ぶ。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1~15	上級文法 1 「～する、～した、～してしまう」 (主節の「～する、～した」/従属節の「～する、～した」/名詞修飾節の中の「～する、～した」 ほか) 2 「～している、～し続ける、～してある、～しつつある、～したいことがある」 (～している/「～している」とその他の形の使い分け ほか) 3 「時間を表すその他の表現」 (「に」がつく場合、「に」がつかない場合/「～ところだ」「～ばかりだ」/開始、終了を表す表現 ほか) 4 N1文法 文法テスト		文型説明 練習問題 復習		予習 復習		
16~30	中日翻訳 1 同形語に注意する 2 難訳中国語 3 省略する例 4 文章記号と表記ルール 5 適訳を採用する 四字成語翻訳レポート		翻訳のポイント解説 練習問題		予習 復習		
31~45	上級語彙 1 語彙練習 小テスト		説明 練習		予習 復習		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法	テスト・宿題					60	
授業の態度・出席						40	
補足事項	授業の3分の2以上は出席すること。						
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：三枝令子、中西久実子『日本語文法演習 話し手の気持を表す表現 ―モダリティ・終助詞―』スリーエーネットワーク 2003 高田裕子、毛燕『日中・中日翻訳トレーニングブック』大修館書店 2009 安藤栄里子『耳から覚える日本語能力試験語彙トレーニングN1』アルク 2012 参考文献：佐々木仁子、松本紀子『日本語総まとめ N1 文法』アスク出版 2010 福田尚弘『10才までに覚えておきたいちょっと難しい1000のことば』アーバン 2006						
履修条件	留学生(日本語中級Bを履修する学生は履修不可)						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。					授業中の撮影	

授業科目名	日本語会話 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	演習	選択	3	留学生
担当教員	伊藤晴美						
授業の概要	この授業の目的は、学習者が持つ「時間をかけて考えれば話したり、書いたりできるのに、なかなかうまく使いこなせない」「自然な会話ができない」という悩みを解消するために、日本語運用能力、特に「話す力」を習得することです。一般的な話題に関する会話練習も行い、コミュニケーションストラテジーを養います。また、様々な映像教材や日本文化体験を通して日本文化への理解を深めます。						
学生の到達目標							
1. 大学生生活や日常生活における日本語での一般的なコミュニケーションが適切にとれるようになる。 2. 一般的なトピックに関して自分の意見を日本語で伝えることができるようになる。 3. 日本文化への理解を深める。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容		授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション		ブレースメントテスト				
2 ～ 30	第1部 ともかく話す 第1課 おしゃべりの引き出し 第2課 個性的な自己紹介 第3課 私の自慢 第4課 雑談力をみがく 第5課 チームで協力！ 第2部 聞き手を意識 第1課 ウソを見破れ！ 第2課 話し方とキャラクター 第3課 偶然について話す 第4課 コメント力をきたえる 第5課 上手な意見の伝え方 トピック会話 会話テスト プレゼンテーション		語彙説明 会話練習 ディクテーション 文法練習 ロールプレイ 発表		会話練習 発表の準備		
31 ～ 45	聴解練習 日本文化 (1) 伝統行事 (2) 日本料理		聞き取り 意見交換・発表 日本文化体験		発表の準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
成績評価方法							
テスト・宿題						60	
授業の態度・出席						40	
補足事項		授業の3分の2以上は出席すること。					
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	テキスト：石黒圭『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク 2011 参考文献：東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中級』スリーエーネットワーク 2013 東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』スリーエーネットワーク 2014						
履修条件	留学生						
学習相談・助言体制	授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。						
授業改善特記事項	日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。					授業中の撮影	

授業科目名	日本語会話B				開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員 伊藤晴美				後期	演習	選択	3	留学生
授業の概要	この授業の目的は、単語や文法等の知識を有機的に結び付け、聞かれたことに対する応答や伝えたいことを、正確に、流暢に、内容豊かに話すといった「話す力」を伸ばすことです。また、様々なトピックに関する会話練習や発表も行い、状況に応じた日本語運用能力を学習します。映像教材や日本文化体験を通して日本文化への理解も深めます。								
学生の到達目標									
1. 大学生生活や日常生活で日本語での様々なコミュニケーションが流暢にとれるようになる。 2. 学習した言葉や表現が適切に会話や作文で使えるようになる。 3. 日本文化への理解を深める。									
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)									
回	授業内容				授業方法		事前・事後学習(学習課題)		
1	オリエンテーション				プレースメントテスト				
2 ~ 30	第3部 内容を整理 第1課 説明のコツ 第2課 これは誰の意見? 第3課 フィラーにトライ! 第4課 依頼のテクニク 第5課 説得の技術 第4部 聞き手に配慮 第1課 私ならあなたなら 第2課 あなたも私も幸せに 第3課 いらっしゃいませ 第4課 とっさの一言 第5課 ユーモアを交えて トピック会話 会話テスト プレゼンテーション				語彙説明 会話練習 ディクテーション 文法練習 ロールプレイ 発表		会話練習 発表の準備		
31 ~ 45	聴解練習 日本文化 (1) 伝統行事 (2) 日本料理				聞き取り 意見交換・発表 日本文化体験		発表の準備		
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)									
到達目標		知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)			
成績評価方法									
テスト・宿題						60			
授業の態度・出席						40			
補足事項		授業の3分の2以上は出席すること。							
実務経験を生かした授業									
テキスト・参考文献等		テキスト:石黒圭『会話の授業を楽しくするコミュニケーションのためのクラス活動40』スリーエーネットワーク 2011 参考文献:東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中級』スリーエーネットワーク 2013 東京外国語大学留学生日本語教育センター『留学生のためのアカデミック・ジャパニーズ 聴解 中上級』スリーエーネットワーク 2014							
履修条件		留学生							
学習相談・助言体制		授業中、または授業の前後に質問してください。また、メールでも受け付けます。							
授業改善特記事項		日本語が上手になるように、授業に積極的に参加しましょう。						授業中の撮影	

外国人留学生
特別科目

授業科目名	日本事情 A		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
	担当教員	森脇敦史（代表）他	後期	講義	選択	2	留学生
授業の概要	<p>本科目の目的は、日本のさまざまな領域に関する一般的知識を、それぞれの領域を専門とする本学専任教員が教授することにより、本学で学ぶ留学生の日本の社会や文化に関する理解を深めることです。それを通して留学生の日本人との相互理解を促進し、本学での学習や本学学生や地域住民との交流をより実り豊かなものとするを目標としています。後期開講の日本事情Bと合わせて受講することにより、通年で日本の全体像が理解できるように設計されています。</p>						
学生の到達目標							
<p>日本の各領域についての一般的知識を獲得し、かつ、各領域の知識を総合することで、日本社会・日本人・日本文化についての包括的な理解ができるようになることを目標とします。しかし、同じ留学生であっても日本語能力や日本理解の程度に違いがあるので、到達目標は代表者が個々の学生ごとに設定します。</p>							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授 業 内 容	授 業 方 法	事前・事後学習(学習課題)	(担当)			
1	福岡・九州	<p>各回、担当教員が各領域の一般的知識を与えるために必要な資料を受講生に提供し、講義を行います。また、受講生の日本語能力や日本理解の違いにも配慮します。</p>	<p>基本的に講義は予習・復習を必要とせず、講義の時間内で終了することを原則とします。しかし、講義の時間内に最低限必要な日本事情について教授することができない場合には、必要に応じ資料を配布したり、時間割外の講義を行なうこともあります。</p>	吉武由彩			
2	日本国憲法			森脇敦史			
3	司法制度			廣田久美子			
4	政治制度			岡本雅享			
5	地方自治			美谷 薫			
6	天皇制			藤澤健一			
7	日本経済 I			許 棟翰			
8	日本経済 II			許 棟翰			
9	医療制度			四戸智昭			
10	教育制度			藤澤健一			
11	保育・幼児教育			大久保淳子			
12	福祉制度 I			河野高志			
13	福祉制度 II			寺島正博			
14	科学研究 I			芋川 浩			
15	科学研究 II			芋川 浩			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
補足事項							
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	各担当者が必要に応じて配布します。						
履 修 条 件	外国人留学生						
成績評価時方法・基準	各担当者の提出した評価に基づき、代表者が行ないます。						
学習相談・助言体制	各担当者は自分の専門領域について授業外でも、オフィスアワーなどで対応します。また、それ以外の問題等については代表者が適切なアドバイザーに助言などを依頼します。						授業中の撮影

授業科目名	日本事情B		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			前期	講義	選択	2	留学生
担当教員	森脇敦史（代表）他						
授業の概要	<p>本科目の目的は、日本のさまざまな領域に関する一般的知識を、それぞれの領域を専門とする本学専任教員が教授することにより、本学で学ぶ留学生の日本の社会や文化に関する理解を深めることです。それを通して留学生の日本人との相互理解を促進し、本学での学習や本学学生や地域住民との交流をより実り豊かなものとする 것을 目指しています。後期開講の日本事情Aと合わせて受講することにより、通年で日本の全体像が理解できるように設計されています。</p>						
学生の到達目標							
<p>日本の各領域についての一般的知識を獲得し、かつ、各領域の知識を総合することで、日本社会・日本人・日本文化についての包括的な理解ができるようになることを目標とします。しかし、同じ留学生であっても日本語能力や日本理解の程度に違いがあるので、到達目標は代表者が個々の学生ごとに設定します。</p>							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容	授業方法	事前・事後学習(学習課題)	(担当)			
1	人権論	<p>各回、担当教員が各領域の一般的知識を与えるために必要な資料を受講生に提供し、講義を行います。また、受講生の日本語能力や日本理解の違いにも配慮します。</p>	<p>基本的に講義は予習・復習を必要とせず、講義の時間内で終了することを原則とします。しかし、講義の時間内に最低限必要な日本事情について教授することができない場合には、必要に応じ資料を配布したり、時間割外の講義を行なうこともあります。</p>	堤圭史郎			
2	都市/地方			美谷 薫			
3	家族			阪井裕一郎			
4	社会病理			堤圭史郎			
5	女性問題			井上奈美子			
6	世代論			中村晋介			
7	現代社会と嗜癖			四戸智昭			
8	宗教			中村晋介			
9	現代日本人のストレス			小山憲一郎			
10	労働問題			森脇敦史			
11	情報社会			石崎龍二			
12	少子高齢化			細井 勇			
13	企業と地域			佐野麻由子			
14	医療問題			小出昭太郎			
15	現代の重要課題			森脇敦史			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
補足事項							
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	各担当者が必要に応じて配布します。						
履修条件	外国人留学生						
成績評価時方法・基準	各担当者の提出した評価に基づき、代表者が行ないます。						
学習相談・助言体制	各担当者は自分の専門領域について授業外でも、オフィスアワーなどで対応します。また、それ以外の問題等については代表者が適切なアドバイザーに助言などを依頼します。						授業中の撮影

授業科目名	日本語表現論 I		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	西岡健治		後期	演習	選択	1	留学生
授業の概要	日本近代文学作品研究。学生が事前に提出したレポートをもとにディベートする						
学生の到達目標							
作品のテーマを絞り込む能力とともに全体が論じられる能力を身につける							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			事前・事後学習(学習課題)			
1	ガイダンス						
2~14	各自が発表するレポート(作品論)をもとに討議する。			発表者は、レポートを事前に提出する。 参加者は全員テキストを読んで来ること			
15	まとめと今後の課題			修正補強したレポートを提出			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
小テスト・授業内レポート			◎				
宿題・授業外レポート			◎				
補足事項			出席、レポート、授業態度(積極性)などを総合的に判断。				
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等			テキストは、各自が研究する作家の作品を原則として対象とする。 参考文献:『近代文学 現代文学 論文・レポート作成必携』學燈社、1998年。 児玉実英、他編『二〇世紀女性文学を学ぶ人のために』世界思想社、2007年。				
履修条件			留学生で日本語での論文作成を目指すもの、または日本語能力試験1級相当の能力があるもの。				
学習相談・助言体制			講義の終了後、または随時メールで受け付けています。				授業中の撮影

授業科目名	日本語表現論Ⅱ		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
担当教員	西岡健治		前期	演習	選択	1	留学生
授業の概要	文学テキスト研究方法について学習する。そのため、「文学テキストとは?」「研究とは?」「研究方法にはどんなものがあるか?」について学習する。						
学生の到達目標							
文学研究とは何かを理解し、多様な研究方法について学ぶ。							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
回	授業内容			事前・事後学習(学習課題)			
1	ガイダンス						
2 ~ 14	文学テキスト研究方法について、所定テキストを読み込みながら学ぶ			学習するテキストについてレポートする。 (参加者は全員テキストを読んで来ること)			
15	前期のまとめと今後の課題			修正補強したレポートを提出			
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
小テスト・授業内レポート			◎				
宿題・授業外レポート			◎				
補足事項			出席、レポート、授業態度(積極性)などを総合的に判断。				
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等			テキストは石原千秋『読者はどこにいるのか』河出ブックス、2009年。 参考文献:『知の教科書 批評理論』講談社、2003年。				
履修条件			留学生で日本語での論文作成を目指すもの、または日本語能力試験1級相当の能力があるもの。				
学習相談・助言体制			納得のいかない部分があれば、授業終了後質問してください。または、メールで連絡して下さい。				授業中の撮影

授業科目名	Japanese Language		開講時期	授業方法	必修選択	単位数	標準履修年次
			後期	講義	選択	1	留学生
担当教員	Yuko Koike						
授業の概要	<p>This course will introduce the students to the major characteristics of the Japanese language. The students will examine various linguistic aspects observed in Japanese and discover some of the organizing principles of the language. There will be frequent homework assignments over the course of the semester. In addition, the students will select one scholarly article concerning some aspect of the Japanese language and write a critical review paper.</p>						
学生の到達目標							
<p>Students will understand the major characteristics of the Japanese language. Specifically, students will gain knowledge about how the Japanese language is organized and how it is used.</p>							
授業計画(授業内容/方法/事前・事後学習等)							
<p>1. Introduction 2. Genetic affiliation (Homework 1) 3. Phonological structure (Homework 2) 4. Morphology structure (Homework 3) 5. Syntactic structure (Homework 4) 6. Writing system (Homework 5) 7. Honorifics (Homework 6) 8. Particles Wa & Ga</p>							
成績評価方法および成績評価基準(到達目標との関連:◎強く関連 ○関連)							
成績評価方法	到達目標	知識・理解	思考・判断・表現	関心・意欲・態度	技能	評価割合(%)	
宿題・授業外レポート						70	
授業態度・授業への参加度						30	
実務経験を生かした授業							
テキスト・参考文献等	Handouts will be provided.						
履修条件							
学習相談・助言体制	After class or by appointment					授業中の撮影	